

八年更迭せられ、後任巡撫は省城を臺北に移せしめ、該省城建設の工事は完成を見ずして止む。明治二十八年帝國領臺後、時に臺に廳を設けられ、又その管轄區域にも伸縮ありて一定せざりしも、大正九年十月現行制度に改められたり。

【臺中市】臺灣省中州二十市十一郡中の一。中部に於ける政治・教育・産業其他文化の中心をなし、州廳の所在地。臺中平野の中央部に在り、大屯郡に依りて圍繞せらる。地勢平坦、東に遙かに中央山脈連互して自然の障壁をなし、西は八卦山脈(海岸丘陵)を控へて潮風を遮り、土地高燥、氣候適順、加ふるに、鞍川・柳川の二清流は南北に貫流し、臺灣京都の稱あり。此の地方は往昔平埔蕃族の岸裡社分布し、康熙五十五年(一七一六年)同社の一頭目が番需探の野を開墾したるを以て開發の嚆矢とし、それより雍正年間(一七三〇年代)に買り漢族の渡來する者多く、ついに大墩と稱する部落を形成し、本市の基礎をなせり。大墩街はその名、乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)に見ゆれば、その時代に於て既に街肆の作られしを知る。雍正年間には附近一帯の主要地として益々發達し、四十一年番需探汛を臺頭街(今の大屯郡南屯庄南屯)に遷設するや、此の地に分防の兵員(千總)を駐劄し、砲墩を築設す。大墩の地名之より出づ。其後林爽文・戴萬生の兩度の亂及び同・粵人の争亂に依り屠戮全

滅の厄に遭遇せり。光緒十一年(明治十九年)臺灣が一省として獨立するや、新任巡撫劉銘傳は大に臺政の刷新に着手し、全島を三府に劃し、中部を臺灣府と稱し、全島の首府に定め、同十五年二十一萬五千兩(或は曰く十九萬兩)の巨費を投じて省城の建設に着手し、同十七年十二月城門・城壕・城壁、其他の建築物大半成りしが、時に巡撫の更迭あり、後任巡撫邵友濂は省城を臺北府に移せしむる爲め、築城の工事を中止のむむなきに至れり。此の築城の地を當時東大墩と稱し、爾來臺灣府城の地たりしも、本城の建築概ね克復に歸し、城内には新庄仔及び下街仔の二箇所は僅かに屋宇の形づくりに見るのみなりしが、我が領臺後此の地を以て中部臺灣に於ける政治の中心地と定め、舊臺灣府を改めて臺灣縣(後に臺中縣)となし、舊府城の城外なる大墩街を合して臺中街と改稱す。夫れ以て明治三十三年大規模の市區改正に着手せしが、翌年十一月廢縣置廳に及び事業中止となり、越えて明治四十一年に鐵道貫道(現在の臺中線)竣工し、臺四十二年地方廳の廢合ありて管轄區域の擴大に伴ひ、人口急進に増加し商業の發達を促せし爲め、更に市區計畫實施の議起り、同四十四年既設の市區を基礎とし、大正元年より市内官有地の持下及び貸下收入を財源として工を進め、市區面に似たる井然たる區劃を完成し、街路整頓、都子・新街・神・風呂本等街

路上醫務たる近代都市に一變せり。大正九年地方制度改正と共に市制を實施し、大正十五年三月中部臺灣大共進會開催に當り町名を改正し、更に昭和七年滿洲地たるもと大屯郡北屯庄管内の邱厝子・厝厝那二つの各一部を市内に編入す。市街は鐵道線路に依りて二分せられ、西半即ち柳川に至る間は本市の中核地域にして、幸町を中心と州廳・市役所・大屯郡役所・地方法院・圖書館・調候所・行啓記念館(内に教育博物館・物産陳列館を設く)等あり。榮町・大正町・寶町等は最も繁華なる商業街をなし、干城橋附近は本市發祥の地にして本島人の商店多く市の東北端には臺中公園あり、其の北に農事試験場・水道水源地あり。東半は土地廣く將來工業地帯として發展すべく、專賣支局・果實検査所・帝國製糖株式會社等が所在す。市の産業は商工業及び農業を主たるものとす。本市はその發達の沿革並びに地勢上の關係に支配せられ、その商取引自らの地方的なるを免れざるも、年産百九十餘萬石、移出百六十萬石、價格千五百四十餘萬圓に達する中部米及び移出七百八十餘萬石、價格四百八十五萬圓を算する芭蕉の取引中心地なると、砂糖・柑橘其他豊富なる農産物を産出する中部臺灣の中核に在り、都府を連絡する交通機關の進歩發達と共に、中部に於ける商業都市として年々發達を加へつゝあり。工業は帝國製糖會社の分業

糖と酒精大部分を占め、臺灣煉瓦會社の磚瓦類及び其他製米・製粉精米・製材・菓子製造・織工業・味噌醬油麵類製造・木竹製品の製造業等にして總計二百七十の製造工場を有するも、製糖・製米・製材・製材の工場を除く外は規模概ね小にして、方法亦幼稚の域を脱せず。工藝特產品として漆器あり、素材は州下八個山の紅檜・樟等を用ひ、盆・菓子器・箕入等を製し、模様は奢侈・風流等熱帯趣味を加味し、土產品として好評を博す。市街地を除けば四面に耕地開け、地味肥沃、灌溉至便、且つ土質優良にして、農産物は米・甘蔗・蔬菜類を主要なるものとす、農業に依る年産額百十九萬餘圓なり。畜産は市街の發展に伴ひ、漸次其の飼育區域を限定せられつゝあり、牛・豚・鶏其他の家畜あるも、乳牛以外は農家に於て副業的に飼養せられ、生産額多からず。本市は亦中部地方に於ける交通の一中樞をなし、鐵道道路を始め、指定道路並に主要道路は近隣各郡部に四通八達し、乗合自動車よく發達す。市内專門のバスあり。官設鐵道臺中線は市の東寄り南に在り、北は新竹州下竹南鎮、南は追分及び彰化驛に於て鐵道線に連絡するも、苗栗・後里間は昭和十年四月二十一日に於ける臺中・新竹兩州下大震災の爲め、鐵道及び橋梁其他崩潰して故障を生じ運行不能に陥り、三箇年餘の間本市に一大苦痛を與へたるも、昭和十三年六月復舊

工事完成し、再び開通するに至れり。臺中(明治三十八年設置)・老松町(明治三十九年設置)のみ停車)を設けず。私設線は帝國製糖の中南線を有し、大屯郡下を経て南投街に至る。尙頭洋坑(大平庄)・大里(大里庄)・大坑(北屯庄)との間に夫夫軌道を通す。(臺中神社)臺中公園内に在り、大國魂命・大己貴命・少彦名命の三神並に北白川宮能久親王を奉祀す。官幣大社臺灣神社の御分靈を勧請せるもの。本殿其他悉く古法に則り、結構典雅にして神苑幽邃、神威境内に滿つ。(臺中公園)市の東北にあり。明治三十六年の開設に係り、面積約八ヘクタール。

【臺中線】臺灣總督府鐵道の一。新竹州竹南郡竹南庄の鐵道總局より臺中州に入り臺中市を経て彰化市の鐵道總局彰化驛に至る八九・三軒、更にこの臺中州大屯郡烏日庄の玉田驛より同大庄の鐵道總局分驛に至る二・一軒の支線を分つ。

【臺中鐵道】社線。臺灣省中州豊原郡豊原街の總督府鐵道臺中線の豊原驛より東勢郡石岡庄の貯木場驛に至る一三・一軒。

【退潮】朝鮮咸鏡南道咸州郡の洞。郡の東邊洪原郡界に近く、狭長なる洞にして永興洞と新浦間の最良の遊泊地たり。洞口は約二軒、洞入り約四軒。洞口を東南に開き、東北より小基洞、西南より校本洞が突出し洞口を扼す。水深は洞口二〇米、洞頭に於ては五米に達す。洞の

洞の尾に遺蹟あり。光緒十一年(明治十九年)臺灣が一省として獨立するや、新任巡撫劉銘傳は大に臺政の刷新に着手し、全島を三府に劃し、中部を臺灣府と稱し、全島の首府に定め、同十五年二十一萬五千兩(或は曰く十九萬兩)の巨費を投じて省城の建設に着手し、同十七年十二月城門・城壕・城壁、其他の建築物大半成りしが、時に巡撫の更迭あり、後任巡撫邵友濂は省城を臺北府に移せしむる爲め、築城の工事を中止のむむなきに至れり。此の築城の地を當時東大墩と稱し、爾來臺灣府城の地たりしも、本城の建築概ね克復に歸し、城内には新庄仔及び下街仔の二箇所は僅かに屋宇の形づくりに見るのみなりしが、我が領臺後此の地を以て中部臺灣に於ける政治の中心地と定め、舊臺灣府を改めて臺灣縣(後に臺中縣)となし、舊府城の城外なる大墩街を合して臺中街と改稱す。夫れ以て明治三十三年大規模の市區改正に着手せしが、翌年十一月廢縣置廳に及び事業中止となり、越えて明治四十一年に鐵道貫道(現在の臺中線)竣工し、臺四十二年地方廳の廢合ありて管轄區域の擴大に伴ひ、人口急進に増加し商業の發達を促せし爲め、更に市區計畫實施の議起り、同四十四年既設の市區を基礎とし、大正元年より市内官有地の持下及び貸下收入を財源として工を進め、市區面に似たる井然たる區劃を完成し、街路整頓、都子・新街・神・風呂本等街

兩岸は山脚の沈降によりて岩石海岸をなし、左岸には輪船(七九六米)・東後華(八三九米)ほか幾多の崖が露に露み、右岸もまた大口上(六二九米)その他の諸崖あり。洞頭には下川・上川の二流が注ぎ相々廣く低地をなし、ここに港町なる退潮(西退潮)あり。

【退潮】朝鮮總督府鐵道本線の驛(大正十二年設置)。朝鮮咸鏡南道咸州郡西退潮面にあり。

【大長山島】大長山島(大長山島) 關東州靑島市高民政署管下の一島。長山列島の最大島たる大長山島をその主要部とし、その西南海上約五軒に横ばる哈仙島を含む。大長山島は東西に細長く、長さ一六軒を超え、巾廣き處二軒餘あり、高さ四〇―五〇米の丘陵性山地起伏し、その島の海に迫りて岬角をなすもの北岸に四、南岸中部に一を數ふ。丘陵間の所々に小低地ありて農業行はる。南岸中部岬角の東岸に西塊石の洞地あり。

【大田】朝鮮平安北道定州郡の東南端。郡邑定州を距る東南東一六軒、東南端は清川江口に臨む。東北境に七嶺山(三六五米)聳え、山腹西方に延びて低夷する外は頗る低平なる平野にして田畑廣く拓く。河川は西隣古徳面との境を劃して清川江に注ぐものを主たるものとし、又江岸は屈曲少き低沙濱をなす。産物に

米・麥・大豆・鳩(玄米種)・繭・紙等あり。總督府鐵道京義本線(中央を東西に貫走して雲田驛(明治四十一年設置)あり交通・運輸ともに便なり。何日里浦は清川江に臨む泊津にして、明治三十七年三月我國陸軍の上陸地點たり。

【大田府】朝鮮忠清南道の主都。道の東南部に在り、京城を距る一六七軒、釜山を距る二八三軒。東は食源山(五九八米)、南は琵琶嶺・寶文山・大田富士の諸嶺、北は民城山・萬見山・鷹臺山・古風山の連峰を以て圍まれ、西北部に沃野を拓き、全道北邊界の始封地に發する大田川は市街の中央を東南より西北に貫流し大田郡に入り龍淵川・甲川と合して錦江に注ぐ。氣候は比較的溫和にして、平均気温は最高八月二六・八度、最低十二月零下二・四度、降水量八一七mmにして七月を最多雨期とす。面積一六・三五方軒。總督府鐵道京釜本線の東部を貫通し、大田驛(明治三十八年設置)あり、同驛より分岐する嶺南線は府の西北境を走り、西大田驛(昭和十一年設置)を経て西走し、龍淵川・甲川・木浦に通ず。大田驛は旅客貨物の發着甚だ多く、道路は京釜街道を通ずるほか、道路網發達して各地にバスを道し、交通頗る便利なり。また内鮮連絡の定期航空路に當り、航空標識の設けあり。産業は工業最も盛にしてその生産額は昭和十年二九五萬圓に上る。主な工業品は麻布・生絲・製糖・酒精等を

米・麥・大豆・鳩(玄米種)・繭・紙等あり。總督府鐵道京義本線(中央を東西に貫走して雲田驛(明治四十一年設置)あり交通・運輸ともに便なり。何日里浦は清川江に臨む泊津にして、明治三十七年三月我國陸軍の上陸地點たり。

米・麥・大豆・鳩(玄米種)・繭・紙等あり。總督府鐵道京義本線(中央を東西に貫走して雲田驛(明治四十一年設置)あり交通・運輸ともに便なり。何日里浦は清川江に臨む泊津にして、明治三十七年三月我國陸軍の上陸地點たり。

組合聯合會等、其他東拓支店・朝鮮電力會社・日本鐵道買辦所等あり。また電話・電燈・運動場・上下水道等の都市施設もよく備はる。(沿革)大田府はもと百濟の懷德縣に屬し、景德王の時比叢郡に屬し領縣と稱す。のち公州府に屬せしが、李朝世宗に至り懷德郡と名づけ、公州都護府の管轄となる。明治二十六年始めて郡守を置き、大正三年府郡廢合に際し懷德・鎮寧の兩郡及び公州郡の一部を以て大田郡を建て、その外南面の中央部たる市街地を劃し大田面と稱し、大正六年に指定面となり、昭和六年四月大田邑と改む。翌七年十月外南面及柳川面の一部を編入して今日の境域となる。大田市街はもと一寒村に過ぎざりしが、明治三十七年鐵道京釜線の敷設に際し内地人始めて移住し、當時の在住内地人八百八十餘名なりしが、大正三年湖南線の開通により群山・木浦の二港に通じ、交通の要衝、經濟の中心となりて人口漸増し、昭和七年十月道廳ここに移轉するや急進的發展を遂げ内地式都市としての特色を發揮するに至る。昭和十年十月府制實施。(大田神社)大興町に鎮座。祭神、天照大神。明治天皇・昭憲皇太后。明治四十年、大田富士の北方、道廳との間に位する倚山に奉祀し、もと大田大神宮と稱せり。例祭十月九日・十日。(名勝古蹟)市街の南西實文山の裾に大田富士あり、その形容恰も富士山に彷彿し、全山松樹繁り山

嶺の民衆絶佳なり。實文山麓一帶は海馬の地にして、溪流を利用してプールを設け四時訪るる者多し。附近名勝としては西北八軒の窟城温泉あり、西北の鶴龍山は忠雨の一名山にして山麓に古刹多く、また北一五軒には錦江水泳場あり、其他扶餘八景・恩津彌勒・麻谷寺等に近く、何れも自動車の便あり。
【大田(郡)】朝鮮忠清南道にありし郡。昭和十年その大田邑が府となるや大田郡を廢し大田府を除く區域を以て新たに大田郡を建つ。
【大田面】朝鮮全羅南道潭陽郡の西端。郡邑潭陽の西一〇軒。北境には蘆嶺山脈に屬する屏風山(八二二米)・佛臺山(七三三米)等聳えて北半部は一帶に山地を成せども、漸次南に向つて低下し、南半部は所謂光州平野の一部を成し梁山江に屬する幾多の支流を灌溉し、地味肥沃にして各種の農産に適し、道内屈指の農業地の名あり。産物は米・大豆・苧麻・棉花・麻布・絹布を始め藤・柳・笠類・扇子等の竹細工の特産ありて朝鮮地方に於ける一地域性をなす。潭陽・長城を結ぶ道路は面の略中央を横斷し平坦にして乗合自動車を通ずるも北部は交通未だ便ならず。

タイト 大肚

【大肚庄】 臺灣臺中州大甲郡の西南端。大肚溪北流域に位す。地勢は東北部に大肚山地の丘陵を經へ、漸次西南方、大肚五米に過ぎず、南端近く廣大なるゴルフリンクの設けあり。この臺地帯は洪積世の砂礫層より成り、最近の隆起に基づく傾動地塊にして、西斜面の急なるに反し、東斜面は頗る緩慢なり。近來開發せられて柑橘・パイナップル等の果樹園及び其他の園藝地となれる所多し。
【大肚溪】 臺灣西海岸臺中州の一大河。最上流は北港溪・眉溪・南港溪の三大支流に分る。北港溪は分水嶺山合歡山の西腹に發源し、西流して埔里街(能高郡)の西北隅の國姓庄(同郡)に入り、眉溪は霧社(東山郡)より出で、西流して埔里街に入り、南港溪は合流す。南港溪は日月潭北方山地(魚池庄)より發し、北隅埔里街に入り、北港溪と合一し、烏溪となりて大尖山の南麓を迂回し、是より山地を離れて大屯・南投兩郡界をなし、西北に轉する邊より幾多の大小流に分枝す。これらの大小流は縱貫線・臺中線鐵路の少しく上流に於て再び合一し、更に日月潭西方の集々大山(新高・南投兩郡界に發す)西腹より發源し、西北流して南投郡下を通過し、彰化郡・彰化市の東境に出づる隘溪を合し、大肚溪なる一大巨流となりて臺灣海峡に注ぐ。河口に檳榔塢(大甲郡龍井庄に屬す)あり。流路延長約一二二軒、その内烏溪は景観優れ、國姓庄の西端なる魚子頭附近には大石鼓と稱する奇跡あり。之が流域に沿ひ臺中

方面より埔里に至る道路開發せられ、自動車を通ず。此の溪は平時水量少く、砂礫の河原を露出せし難し、一朝豪雨の際には激流奔騰して水害を及ぼすこと少からざる爲め、多大なる經費と日子を費やして治水工事を講じ來り、要所々々には防水堤防設けらる。一面灌溉の便大にして流域には水稻・甘蔗・甘藷等農作物の産出多し。
【太東村】 千禧鎮上總國長生郡の東南端。太平洋に臨み、西は萬壽郡長者町に隣す。北隅東邊見村までは九十九里濱の一部をなすも、村内に入りてより北境及東部海岸附近に丘陵地あり。海岸はこのため斷崖をなし南部に太東岬あり。岩礁ありて東海第一の險所と云はる。中部より南部にかけては南境を東南に流るゝ、馬淵川流域の低地にて水田多し。米を主産し他に蕎麥を産し養蠶も行はる。縣道は村の西部を縱走し、北は一宮町(約六軒)南は長者町に通じ、また省線房總東線これに沿ひ村内に太東驛(明治三十二年設置)を設く。この地はもと萬壽郡に屬し、のち本郡に入り一ノ莊荖原郷と呼べりといふ。(飯繩寺)大字和泉にあり。天台宗。明玉山無動院と號す。俗に飯繩明王と稱し靈驗甚だ高し。本尊は文武天皇の朝役小角の信濃飯繩嶽にて感得せし尊像といふ。(太東村海濱植物群落地)指定天然記念物。太東岬の附近には海濱樹叢あり

は北隅龍井庄より來り、東北より西南に庄の中央部を貫通し、大肚溪の縱溝を流りて彰化市に入り、管内に大肚・道分・南玉田の三驛を設置す。臺中線は東隅島日庄より來り東南隅を掠め、大肚溪畔南玉田驛附近にて海岸線と並行して大肚溪を渡り、同じく彰化市に入り大字玉田に玉田驛を設置す。なほ道分・玉田兩驛間には別に海岸・臺中兩線を結ぶ鐵道あり。重要道路は海岸線に沿ひ、大肚溪畔にて臺中方面より來れる縱貫道路と會し、共に局管バスを運轉す。其他産業道路保甲道路ありて内外の主要地を結び、民營バスの通ずるありて交通は比較的便利なり。最初開拓の緒に就きしは康熙四十年代にして、福建の漳州人は鹿港(彰化郡鹿港街)より上陸して今の大字大肚附近に至り、平地蕃族より土地を購得して之を開き、以て根據となし、これより近接各地に開墾の手を延ばせり。北方に向ひたるものは龍井・龍目井(共に龍井庄)一帶を、東方に向ひたるものは大字玉田附近を開き(乾隆初年頃)、重鎮となるもの玉田街を開墾して灌溉の策を講じ、東方一帯に亘りて田園をなせり。西流し、東方に向ひたるものは同年間大字汴子頭を開きたるを始めとし、乾隆二十年以後河口附近龍崎・福頭(共に龍井庄)等を開けり。然れども嘉慶年間には漳泉人の分類械闘及び趙・陳二姓の紛争あり、加ふるに道光年間には大風雨の襲來ありて、既

り、鹿港・梧・トモラ・ヤブコウキ・マルバグミなどより成り、また砂上にはハマヒルガホ・ハマゲルマ・ハマエンドウ・ハマバクフウ・ハマハエゾオ・ラモイタサウ・コウバクムギ・ケカモノハシ其他固有の草木發生し群落を形成す。これらは砂粒を結束し、移動砂丘の固定をなして防砂に役立つ。
【太東岬】 ↓太東村
【臺東廳】 臺灣五州三廳の一。臺灣本島の東南部及び火燒島・紅頭嶼の二島を含み、東は太平洋に面し、北は花蓮港廳に、西及び南は高雄州に境す。地形は全く花蓮港廳と類似し、總面積の八五〇は山岳地帯をなす。西部には臺灣中央分水嶺山地が南北に連貫し、關山・卑南主山・知本主山・霧頭山・大武山・大樹林山等の三〇〇米内外の峻峯が聳え、東北には低き海岸山脈が南北に走る。この兩者間は所謂臺東地溝帯の南部にて、卑南大溪がシアンプロ溪・バダカワ溪等の支流を集めて南下し、臺東街の北にて海に注ぎ、廳の南半部にては大南・知本・太麻里・野子崙・大竹高・大武の諸溪が分水嶺山地より流下し、何れも急流にて夏の雨季には氾濫し、各々河口に小三角洲を形成す。火燒島及び江頭嶼は共に火山岩を主要部とする小島なり。管内は北回線以南に位するも、海風にて暑熱は著しく緩和され夏季も三五度に達する事稀なり。

風向は冬季は北東風、夏季は南東風卓越するも、一年を通じて夜間は北西乃至北北西に變換するが常例とす。年平均降水量は一八四八に達し、十月より翌年四月までは雨季に入る。當地域の雨季は北部臺灣の如き豪雨性のものに非ず特に七月九月は颱風に伴ふ豪雨若しくは電雷性驟雨多し、ために農耕地の被害・交通機關の支障を來すこと殊らからず。平地の乏しきこと、文化未だ進まず河川の多くは自由氾濫に任せること等により、耕地面積は極めて少し。耕作法は概して幼稚にて、産額も大ならず。近時特殊の農作物、例へばコーヒの類・藥草の類・その他熱帯産にしてその輸入に仰ぎつゝあるものをこゝに移植し、收益をあげつゝあり。また甘蔗の作付は急進に増加しつゝあり。従つて河川堤防の整備、埤圳工事の普及、交通機關の發達、農事思想の啓蒙と共に農業の將來は大いに期待せる。森林原野は廣大にて、杉・松・紅檜・扁柏等の針葉樹、楠仔・檜・茄苳・椎・柳・苦苣・烏心石等の闊葉樹あり、交通不便の山岳地にあるため伐採輸出に困難なり沿海には暖流魚類が豊富にして、就中眞鱈・鰹・鰯・鰱・鰱魚・鰻等最も多し。漁獲高は未だ大ならず。沿岸波浪高く、漁船の出入碇泊に便なる港灣を缺くことは不貲の主因にて、新港漁港の完成により積荷目を一新す。既知の有用産物

物は砂金・砂鐵・銅鐵・硫化鐵礦等あるも、新港部の結子律にて砂金の採取が豫業さるるに過ぎず。工場には既記の製糖工場以外に製糖・製材・精米等若干あるもいづれも小規模なり。交通は未だ頗る不便にて、鐵道は總督府鐵道臺東線により僅に花蓮港に通ずるのみ。道路は橋梁を缺くことも珍らしからざりしも、近來架橋事業の進行と共に雨季洪水による交通杜絶も僅少となる。高峯方面よりの交通は關山越道路・内本鹿線道路・臺東屏東道路・徒水營道路・大武恒春線道路の五線を有するが、大武恒春線の他は山岳道路にて、徒歩又は騾によるのみ、大武恒春線は一部の徒歩連絡の外は自動車道路開通し高雄屏東市に至る。海上は大阪商船の臺灣沿岸航線が月六回往復するも港灣の設備整はざるため、貨客の上下不可能の場合屢々あり。人口密度は西部臺灣の十分の一に過ぎず、住民の七〇％は華人、二〇％は本島人、七％は内地人とし、從つて高山部として著地に生活するよりも、平地部として普通行政區域に本島人及び内地人と混居する者却つて多し。パイワン族最も多くして北中部を占め、南中部はアマタ族の地に於て、臺東街附近は兩者の接觸地帯にして、その他西南部の山地にはアマタ族・紅頭嶼にはヤマタ族居住す。内地農業移民は成功せざるも、鹿野・鹿寮・月野・旭等の集團部落あり。行政上は臺東郡・關山郡・新港郡に分れ

臺東郡臺東街に臺東廳を設く。(臺東平野) 臺東廳の東南海岸平野。廣義の臺東平野は臺東縱谷平野を指すも、狹義のものはその最南部、即ち卑南大溪・大南溪・知本溪等の形成せし複合三角洲の平野。主としてパイワン族の占居地なりしも臺東開拓會社が臺東郡臺東街大字旭村及び關山郡池上庄・鹿野庄等に内地移民を招來し耕地を開き甘蔗・米・野菜等を栽培し、製糖工場も設けらる。將來卑南埠・知本埠・呂家棚等の擴張成れば水田化は大いに期待され、臺東街はこの平野の中心地たり。臺東縱谷平野

發達の緒に向はんとしつゝあり、特に此地方は熱帯國なる爲に、熱帯産のパナナ・パイナップル・コーヒ等の栽培に於て、其の外米・蔬菜・甘蔗・甘藷・黄麻等あり。總督府鐵道臺東線は北部の臺東街まで通ずるのみ。街道は海岸に沿うて走り高雄屏東市にバスを通ず。海上は臺東港に東海岸航路寄港するも港灣の設備充分利用するに至らず。當郡内の住民は、大鹿川庄および大武庄の管内は高砂族中のパイワン族に屬し、卑南庄は高砂族中の八社蕃(パナパヤン族)住し、臺東街・火燒島は大部分漢族系本島人なり。本郡はもと臺東支廳及び大武支廳なりしも昭和十二年十月郡制の實施に際し合併し現名となる。

陸路は南の方、大武を経て恒春に至り、北上して高雄州潮州郡に出づる自動車道路によるのみ。古く史乘を尋ねるに光緒元年清政府は卑南廳を置き南路理番同知を移し、光緒十三年臺東一帶の地を臺東直隸州と改め州廳をこの地に設く。明治二十八年我臺灣領有と共に臺南民政支部臺東出張所を置き、翌二十九年臺南廳臺東支廳を設く、三十年臺南廳より分離して臺東廳を置くに及び、卑南理番署の下に第一區街庄を設く、これ當街の民政事務に携りたる始なりと。明治三十八年七月卑南廳と改稱、同四十二年の官制改正にて、臺東廳は花蓮港・臺東の二廳に分離し、當街は臺東廳直轄に屬したるが區名に變化なく、大正八年一月卑南廳を臺東區と改稱せられ、大正九年地方制度改正によりて臺東街となる。その區域は、臺東・馬蘭・旭・上原・石山・富原村・加路蘭なり。

つて耕地は僅少の部分に限られ、道路・橋梁の發達は著しく阻害されこの平野を縱貫する總督府鐵道臺東線は屢々線路の變更を餘儀なくされ特に夏秋の颱風襲來時に被害少からず。北部にはアマタ族、中南部にはパイワン族多く占居す。本島人の入移住は近年の事に屬し數に於ても遙に華人に劣る。内地人は比較的多く特に北部の花蓮港花蓮郡吉野庄及び壽庄大字豐田村・風林郡風林庄大字林田村、南部の臺東廳關山郡鹿野庄大字鹿野村及び池上庄大字池上村・臺東街大字旭村の農業村落は西部臺灣にては見られざる現象なり。かくて甘蔗・水稻・落花生・檳榔・甘藷等の産額が漸増しつゝあり。

この礦山は筑豊炭田の所謂本層群に屬し、附近の地質は第三紀夾煤層にして砂岩・頁岩(時に礫岩を伴ふ)の互層より成り其間に炭層を介在す。而して石炭の種類は塊炭・粉炭・切炭・粗炭等各種のものを生じ殊に本坑よりは礫石をも産す。大峰炭坑は五礦區に分れ、その何れもが本邦重要礦山或は準重要礦山に屬し、全體の年産價額凡そ二百四十一萬圓、使用礦夫一千七百八人とす。礦區五十六萬及び五十六萬四千餘坪の分(大任村・池田町・川崎村に跨る)、これを大峰本坑といひ石炭年額二十二萬一千餘噸を出す。礦區十四萬四千坪のもの(大任村と池田町に跨る)之を大峰分坑といひ石炭年額二萬二千餘噸を出す。また礦區十五萬五千餘坪及び八十一萬一千餘坪のもの(何れも大任村の内)ありて之を大峰三坑といひ石炭年額二十七萬餘噸を出す(以上の數字は何れも昭和十年のもの)。なほ本礦山名は大任村の字なる大峰に因るもの、而して經營は大體、臺内礦業會社とす。

北平は高き三〇〇米餘、南平は一七〇〇米の山地あり。兩山地の間は低平な沃野をなして栗伊川の上支を西流し灌溉の便よし、従つて耕地よく拓け農作物を多産す。米作を第一とし發達は縣下屈指の産地をなし又名高き島根牛の中心産地をなす。山地よりは用材及び薪炭材等多くの林産物を出だし町の産業逐年榮え今市町・大社町との繁榮を益々に至る。市街は川の左岸に開け各物貨の集散地をなす。社線鐵道上鐵道の臺東町驛は西方一新移民村にあり、それにバス通す。古くは和名抄、大原郡大原郷の内にして、那家のありし處。大東とは大原郷の東莊の意にして中世の庄名なり。明治三十六年町制を布く。(加多神社) 大字大東に築座す。神社、祭神、大己貴命・少彥名命・神阿多津命。式内社。例祭、十月十五日。(四利太神社) 大字清田に鎮座。神社、祭神、金山比古命。式内社。例祭、十月十五日。(長安寺) 大字清田にあり。曹洞宗。源溪山と號す。大同年中の開創に係り貞和二年再建、文祿年中毛利輝久堂宇を改修す。爾來堀尾・京極兩氏代々修造の地札あり。本尊釋迦如來は聖德太子の作と傳ふ。

東島(単に大東島といふ)、その北方に近き北大東島、遙か南方にある沖大東島(ラサ島)を含む。いづれも低平なる陸起珊瑚礁にて全面積四五・九六方軒。南大東島は砂糖、沖大東島・北大東島は燐礦の産地として著る。沖大東島・北大東島・沖大東島

【大東島】 沖繩縣島尻郡に属する大東諸島の總稱。単に大東諸島中の南大東島を指す場合もあり。沖大東諸島

【大東島】 朝鮮東海道の西岸にある島。長湍郡と豊津郡との郡境をなす一大淡水湖にして、湖口は西に開き、東經約一二五度に於て北に陸島(船筒島)より南に麻姑島(一に島麻姑)まで約一五軒。湖内は南北の二支湖に岐れ、北湖は勢入約三〇軒、南湖は勢入・深度ともに小なり。北湖の湖頭は廣津川(大東河)の注入によりて頗る浅く、且つ干満の差大なるため、良泊の發達を見ず。河口を隔ること数軒に苦澗ありて米穀を移出し、また湖頭より七軒の南岸に湖浦の鎮地、湖口北岸に近く九美浦の良泊あり。湖浦・九美浦の兩港は共に沿岸航路船の來往ありて、穀類・水産物等を移出す。湖内及附近には網・鳥賊・鮫・太刀魚等の漁獲多く、また海苔の養殖行はる。大東島及び其附近の地方に於ては雨量概して少く、四・五月頃は霞多く、また六月より八月月上旬までの間は霧多し。

タイト——大同

【大同村】 茨城縣常陸國鹿島郡の中部。北浦の東岸にて東は鹿島灘に臨む。全村四〇米程度の藪地をなして畑地多く林を交ふ。北浦沿岸及び海岸附近には狭き低地ありて水田をなす。農業行はれて米・麥・甘藷を産す。海岸は鹿島浦の一部にて單調なる砂濱をなし漁業行はれて蟹を産す。北浦沿岸を縣道南北に通じ、北は鉾田町(約一二軒)、南は鹿島町(約九軒)に至る。バスの便あり。寒落もこれに沿ひて發達しその他海岸を南北に走る村道沿ひにも寒落あり。對岸大和村との間には渡船の便あり。古くは和名抄、鹿島郡高家郷の地にして、大字武井並蓋し其轉訛なりと。高家郷の名風土記に見えざれば和名以後白鳥郷の中より分れしものならん。大字和はもと春秋村と稱し中世大塚氏の藩この地に住して春秋氏を稱す。(玫瑰自生南限地帯) 指定天然記念物。本村及び高家郷の海岸の松林中には玫瑰群生す。またこの附近にはむしりんだう多く生じ、藍紫色の花をつけ、ぼたんばうふう・ばまよもぎ其他の海濱植物も生育す。

は河邊侵入蛇曲をなし、价川郡泉附附近に至れば土地漸く平夷となり、成川郡の四境に於て東より来る湯波江を併せて水最豊々大となり、大同郡東端に於て、中央香葉山脈中に發する大支流南江を容れ、それより流路を西南に轉じ平壤附近に於て荻橋江・普通江・合井江・支津江等の諸支流を併せ、次で昆陽江を容れ、河幅愈々大に水最豊々増大し、のち黄海道との道境を流下し東より来る黄州川、南より来る載寧江の諸支流を併せのち黄海に注ぐ。流路四三九軒。朝鮮半島第五位の長流にして、流域面積一六、六七三平方軒、幹川に於ける可航距離二六〇軒なり。流域面積の廣大と可航距離の大なること洛東江に次ぎ第四位なり。大同江の航運は江口の鎮南浦港上流六〇軒、傑山浦まで四〇〇〇噸の大形汽船が通航し得るも、更に上流二〇軒の平壤までは現在僅に六〇噸内外の船を通航し得るに過ぎず。日下河川改修施行中にして工事竣工の時は平壤まで汽船が航行し交通運輸を更に増大するに至るべし。但し本江は十二月より結氷し始め、入馬は氷上を往來し、三月中旬後に至りて解氷するためその間は舟楫全く杜絶す。江の中流以下は沃野開け農産物に富み、その物産の豊富なること北鮮第一にて、寒落密度も亦大なり。沿岸中最も大なる郡邑は古郡平壤府、新興の開港都市鎮南浦府及び製鐵所を以て著るる釜二浦等なり。沿岸に豊

勝の地頗る多く、特に平壤附近には牡丹臺・浮碧樓・鏡光亭・綾羅島・船橋里等幾多の名勝史蹟あり、下流地方は往古栗浪郡治を置かれたる土城里を中心として千三百餘基の古墳散在し、貴重出土品多く、近世に至りては文祿の役、日清戦役の戦場として著る。また平壤を中心し無煙炭の埋蔵頗る多く、現在、寺洞炭礦を始め諸炭礦より年々百萬噸を採掘す。

【大同江】 朝鮮平安南道の河。古くは浪水と稱す。道の東北境、狼林山の東方東白山(二〇九六米)及び小白山(二一八四米)の山腹に發源しはじめ南流、寧遠郡永樂面に於て、北方の狼林山麓より来る成龍江を併せ徳川郡に入り、東南五山郡より来る馬灘江を容れ、徳川邑に至る間

【大同江】 大同江の各要地を経て鎮南浦に及ぶを以て交通・運輸ともに極めて便利なり。郡内は行政上十七箇面に分ち郡廳は便宜上、平壤府仁興里に置く。郡邑は平壤府の分割の爲に大なるものなきも、寺洞の炭礦町はやや著る。大同江の北端部、大同江に面して平壤牡丹臺の對岸に陸軍飛行第六隊あり、日滿連絡の旅客機はこの飛行場を着陸場として毎日發着す。郡内は古郡平壤を擁し、又大同江に臨めるを以て頗る名勝史蹟に富み、樂浪古墳は最も名高し。沿革、本郡は古く樂浪郡の地。當時の郡治は今の大同江面土城里に置かれしといふ。大正三年まで平壤府と稱せしが、府郡廢合に際し平壤市街地を分割して本郡を建て、昭和四年四月、大同江面の一部船橋里及び龍山面の一部等を平壤府に移し、今日に至る。

小低地ありて耕地との間に最も多く分布す。住民は農を主業とし傍ら養蠶を成す者逐年増加の傾向にあり。産物は米・大豆・大豆・小豆・明軸・棉花等を主とし蠶産には陶土あり。道路は咸平・靈光間三等道路は西部を南北に貫貫し、其他等外路線は溪谷に沿ひ南北に貫貫し何れも改修を見、交通便なり。

【大同江】 大同江の北西岸に於て大同江口の成す湖。西方に開口し、湖口の幅は北の平安南道龍岡郡南西角より南の葛島附近まで約十二軒、勢入約四〇軒。湖岸は頗る屈曲出入に富み、北岸西部には南に開口する支湖廣靈湖あり大規模の官營天日鹽田あるを以て著る。中央北岸に鎮南浦の開港あり。水深大にして、湖

【大同江】 長水院(約六〇〇ヘクタール)の二大水利組合は大同江の水利と相俟つて灌溉に最も便に、農産物は米・大豆を初め、小麥・大麥・粟・小豆の主要作物、棉花・棉・烟草・大麻・杞柳等の特用作物の産多く、また白菜・馬鈴薯・蘿蔔・甜瓜・甜菜も少からず。牛・豚の飼養並に養蠶盛にして、牛の取引多く、その賣買頭數一・五萬頭、價格一四七萬圓に達し、牛皮・牛肉・牛骨・蜂蜜等の畜産額少からず。近年羊の飼養も行はれて大同郡農會に牧羊場を設け指導獎勵に力む。蠶業は甚だ盛にして、石炭・石灰石・陶土・砂金・黒鉛等を産し、特に大同江流域には無煙炭の埋蔵さるもの八位處と推算せられ、現在年産百萬噸に達す。炭礦は大平・大寶(以上大寶面)・平壤・貞柏(以上大同江面)・大文山(南串面)・三神(林原面)等あり、何れも盛に採掘せられ、特に平壤(寺洞)炭礦は海軍燃料廠の經營に屬し、規模最も大にして、採炭は主に徳山海軍燃料廠に移送せられ、昭和十年産額約一五萬噸、その一部を以て煉炭を製造し、全鮮各地に供給す。其他、金山よりは金・銀・鉛等を出すこと多し。工業の主要なるものは煉炭を第一とし、織機及び編織・陶磁器・瓦・燧・燃料・隊等あり。交通、鐵道京義本線は郡内を南北に貫貫し、平壤よりは西南の鎮南浦に至る平南線を駛ち、東方へは大同江線

【大同江】 大同江の北西岸に於て大同江口の成す湖。西方に開口し、湖口の幅は北の平安南道龍岡郡南西角より南の葛島附近まで約十二軒、勢入約四〇軒。湖岸は頗る屈曲出入に富み、北岸西部には南に開口する支湖廣靈湖あり大規模の官營天日鹽田あるを以て著る。中央北岸に鎮南浦の開港あり。水深大にして、湖

【大同江】 大同江の北西岸に於て大同江口の成す湖。西方に開口し、湖口の幅は北の平安南道龍岡郡南西角より南の葛島附近まで約十二軒、勢入約四〇軒。湖岸は頗る屈曲出入に富み、北岸西部には南に開口する支湖廣靈湖あり大規模の官營天日鹽田あるを以て著る。中央北岸に鎮南浦の開港あり。水深大にして、湖

【大同江】 大同江の北西岸に於て大同江口の成す湖。西方に開口し、湖口の幅は北の平安南道龍岡郡南西角より南の葛島附近まで約十二軒、勢入約四〇軒。湖岸は頗る屈曲出入に富み、北岸西部には南に開口する支湖廣靈湖あり大規模の官營天日鹽田あるを以て著る。中央北岸に鎮南浦の開港あり。水深大にして、湖

日に葛島・上吹島・下吹島・葛島など、中央に葛島其他大小數十の島嶼分布するも洞奥まで大船の航行に支障なし。洞奥の礫石時に於て大同江は南方に屈折し、葛島西側に於て、載寧江口に達し、これより北して釜二浦港に至る。大同江は毎年十二月下旬より翌年三月中旬頃までは葛島の上流約四〇軒の萬景峯より上流結水する爲め、下流は多数の流水浮流し、洞内の水路全く杜絶し、運輸交通は陸路に頼るを例とす。而して概ね三月中旬に至り融解するを常とす。

【大同江】 朝鮮平安南道大同郡のほぼ中央。大同江の流路に隨ひて狐状をなす主要部と、その中央より東南に栗里西・龍洞の間に突入する狭長部とより成り、江岸の船橋里西南部と東南端の三ヶ所々界とを結ぶ線の東北と西南とに對象的な地形を形成す。全城は大同江流域平野に屬し、東北境寺洞(秋乙美面)に接する部分に高度八三米の丘陵、東南境に五〇米の低丘あるを著しきものとす。中央を成辰川流し、格野里附近にて大同江に合し、これと大同江岸とを中心と田畑廣く連なる。農産は米・麥(小麥・大麥)・大豆・棉花等を主とし、副業の叭製造・養蠶・牧牛いづれも盛なり。城内に無煙炭産床廣く分布し、平壤炭礦(赤寺洞)・貞柏炭礦は特に著名なり。工業に穀粉・煉瓦・材木等あり。總督府鐵道京義本線は江中央を横斷し、大同江江門(大正十五年設)

あり、平壤驛(平壤府)へは江を渡りて僅に二・六軒、ここより東北方に平壤炭礦線を岐ちて、寺洞驛(秋乙美面)に七・五軒にて達し、これに沿うて平壤・寺洞間電車線を通ずる外、京城・義州間一等道路平壤・義州間二等道路、平壤・三登間三等道路等を通じ、大同江には舟楫の便ありて、交通至便なり。龍洞島の對岸黨村里には飛行第六隊隊・航空支隊あり、飛行隊は大正九年の設置にして、此處の約百ヘクタールの飛行場を利用して日本航空會社旅客機發着す。飛行隊入口に平壤師範學校・鼓馬場等、東北境の江岸衣岩里に平壤ゴルフリンクあり、リンクは面積二六ヘクタール餘、平壤より寺洞行電車にて約十五分にて達す。船橋里の南西に續く江岸は工場地帯にして昔林廠製材所・煉瓦工場等あり。その西に續く土城里に樂浪郡治の遺址あり今城址の一部を残存し、附近の貞柏里・石巖里・將進里・格野里・助王里等一帯及び南隣せる南平・龍洞の各面に互りて大小多数の古墳あり。本面の一部船橋里は昭和四年四月平壤府に合併せらる。※樂浪・船橋

【大徳】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年、本村を廢して起町・朝日村に分入す。

タイトー

【大徳】 朝鮮平安北道清原郡の東部。郡邑清原を距る東南約三〇軒の僻處にあり。蓋馬高臺西麓の山間盆地にして周縁山地を以て圍繞す。東北境には中枝峰(二四一米)を始め一千餘米の峻嶺西南に連走して西北境を劃し、東境には嶺峻峰(二三六米)、東南には洞徳山(一七九〇米)、西南境に笠峰(一五四六米)等相連りて山岳重疊し、中央に小平地を見る。周縁山地に發源せる諸流は盆地床に集りて清原江となり西北境の山壁を破り峡谷を成して和昌面に入り漢江と合し西流す。氣候は山間盆地にして海に遠く、且つ海拔は盆地床に於て四三〇米以上なるを以て較差大にして殊に寒氣激烈なり。耕地は山脚の緩斜面を利用し畑地卓越するを以て米産乏しく、大豆・麥・粟等の産多く就中大豆は郡中第一位にあり。道路は郡邑清原より來る二等道路は中央を横斷して東北方江界邑に達し、一は面の中央にて安州路を岐ち此兩街道は近年自動車を通ずるも坂路及び視程多し道路險惡なり。

タイトー

【大徳】 朝鮮全羅南道長興郡の南端。郡邑長興の正南一五軒、東南に得浪洞の南口に臨む。北部に小白山脈の餘脈延びて陽岩峰・天冠山(七三三米)聳え、陽岩峰の南麓は西の康津郡界に近く縱走して富谷山・五聖山等を起し、天冠山より同じく支脈南に延びて何れも海岸に達す。海岸は極めて屈曲多く、東の得浪洞口に東徳島・竹島の二大島を始め岩嶼森布するも、泥地干出する處多くして泊津に乏しく、ただ西南方古令島・助島島に面する部分は水深大にして航行に便なり。耕地は中央の面邑新月里を中心とする平地及び海岸等に拓け、米・麥・棉・大豆等の産多く、沿海に魚鹽の利あり、また海苔の養殖も盛なり。海岸沿ひに長興・馬

タイトー

良里(康津郡大口面)間三等道路通ずる外面邑を中心に道路四通し交通不便ならず。東徳島の對岸、會領里に會寧嶺の址あり、往昔萬戸を號す水軍を統べし處にして城壁等今なほ舊蹟を留む。

タイトー

【大徳】 朝鮮全羅南道潭陽郡の東南端。西南境に國守峰(五五八米)聳え、其餘勢域内に及びて南部は稍々山地を成せども北部は稍低平にして地味肥沃なるも灌溉利に乏しく従つて畑作農業卓越す。産物は米・大麥・大豆・棉花等の農産物を始め麻布・蠶・桐・扇子等の工藝品あり。西方光州より來る三等道路は昌平邑を経て、面内を横斷東方玉果・谷城に通じ交通便なり。

タイトー

【大徳】 臺灣臺中州中市十一郡の一。臺中市の西を圍繞す。東部に山嶽連互し東北境に頭科山(一五八米)、東南境に大横屏山(一九七米)、火炎山(七三九米)ある外、坤頂山・后壁山・大古山等何れも四百米前後の山、平野近く迫り郡下最高地帯を爲し、西方高臺地帯なる大肚山脈との間に臺中平野を擁す。本島屈指の大河たる烏溪は東南境の火炎山南麓を迂迴して南隣南投郡との境を爲し、やがて幾多の大小流に分岐して郡の西南を流ひ、終に再び合一して大肚溪となり海に注ぐ。此外に猪寮溪・乾溪及び草湖溪・頭洋坑溪・鹿子溪・大里溪・旱溪・筏子溪等の諸川あり。何れも大肚溪に合流

タイトー

し、河底の勾配急にして、平時は灌溉の便あるも、一朝豪雨に際會せば怒る激流氾濫して水害を及ぼすこと紛からず。就中烏溪の水害最も甚大を認めし爲め、昭和六年度より八箇年編成事業として、霧峰庄萬斗六にある中南線鐵橋附近の山峯より總延長一〇八三〇米に亘る護岸堤防を完成せり。氣象は地勢に影響あることと多く、東西に山地を接へ居る爲め風力強からず。夏季は西北風多く、時々驟雨を催して暑氣を緩和し、冬季は降雨稀にして本島北部の如く陰鬱なる天候を現出することなく、気温の低下著しからず。南北臺灣の漸移帯に當り、氣候範圍にて健康地として知らる。臺中平野の南中部を占むる爲め、耕地面積廣く、農産物は年價格八百十三萬餘圓の米を大宗とし、甘蔗百二十八萬餘圓、甘藷二十六萬圓、糖草二十萬圓、落花生の約三萬圓を生産し、他に果物類・蔬菜類の産額亦尠からず。農業に依る年生産額一千二百九十二萬一千餘圓に上る。畜産として牛六千八百餘頭は農耕及び運搬に使役せられ、豚二萬六千二百餘頭、山羊二百餘頭、家禽二十一萬一千五百餘羽は農家に於て副業的に飼育せらる。山林は往時の濫伐濫墾に與されて森林の見るべきなく、昭和八年頃より積極的に官行及び民行の造林事業に着手し、稍々成果を認めつつあり。林産物は僅かに薪・木炭・竹材・楠等年に二十八萬餘圓を生産するのみなり。工業は

草の栽培盛に、副業の養蠶及び畜牛は郡内到處盛に行はる。工業は大田府を中心に製絲・織綿・製陶・製革・酒造及び金屬工業等何れも盛なるが、地方に於ては機械・製紙・叭製造等の家内工業行はれ、殊に苧布は有名なり。總督府鐵道京釜本線は郡内を南北に貫貫し、更に郡の中央大田驛より湖南線を分ちて郡の南部を通ずるほか、道路には京釜街道の幹線を始め大田を中心に公州・論山・沃川・嶺山等の諸邑に通ずる改修道路ありて運輸交通ともに頗る便なり。郡内を行政上十一面に分ち、郡廳は之を大田府春日町三丁目に置く。粟落は備城・新津津(北面)・懷徳・鎮考等や若はる。備城はラゲウムを豊富に含有する温泉湧出し、遠近の浴客頗る多く股脈を癒め、また古くは「一備城、二敬天、三利仁、四維鳩」と傳へ公州のうちに最も居るべき地とせられたる處。新津津は甲川に臨める農業の中心地、懷徳・鎮考はもと郡衙を設かれし地なり。本郡は古く懷徳縣(又は郡)と稱せし地にして、明治二十六年始めて郡守を置き、大正三年三月府郡廢合に際し懷徳・鎮考の兩郡及び公州郡の一部を併せて大田郡と改稱す。次で郡邑大田が急激の發達を遂げ昭和十年十月府に昇格するや同府の區域を除く地域を以て新たに大徳郡を建て今日に至る。

【大徳】 朝鮮平安北道清原郡の東部。郡邑清原を距る東南約三〇軒の僻處にあり。蓋馬高臺西麓の山間盆地にして周縁山地を以て圍繞す。東北境には中枝峰(二四一米)を始め一千餘米の峻嶺西南に連走して西北境を劃し、東境には嶺峻峰(二三六米)、東南には洞徳山(一七九〇米)、西南境に笠峰(一五四六米)等相連りて山岳重疊し、中央に小平地を見る。周縁山地に發源せる諸流は盆地床に集りて清原江となり西北境の山壁を破り峡谷を成して和昌面に入り漢江と合し西流す。氣候は山間盆地にして海に遠く、且つ海拔は盆地床に於て四三〇米以上なるを以て較差大にして殊に寒氣激烈なり。耕地は山脚の緩斜面を利用し畑地卓越するを以て米産乏しく、大豆・麥・粟等の産多く就中大豆は郡中第一位にあり。道路は郡邑清原より來る二等道路は中央を横斷して東北方江界邑に達し、一は面の中央にて安州路を岐ち此兩街道は近年自動車を通ずるも坂路及び視程多し道路險惡なり。

【大徳】 朝鮮全羅南道潭陽郡の東南端。西南境に國守峰(五五八米)聳え、其餘勢域内に及びて南部は稍々山地を成せども北部は稍低平にして地味肥沃なるも灌溉利に乏しく従つて畑作農業卓越す。産物は米・大麥・大豆・棉花等の農産物を始め麻布・蠶・桐・扇子等の工藝品あり。西方光州より來る三等道路は昌平邑を経て、面内を横斷東方玉果・谷城に通じ交通便なり。

【大徳】 臺灣臺中州中市十一郡の一。臺中市の西を圍繞す。東部に山嶽連互し東北境に頭科山(一五八米)、東南境に大横屏山(一九七米)、火炎山(七三九米)ある外、坤頂山・后壁山・大古山等何れも四百米前後の山、平野近く迫り郡下最高地帯を爲し、西方高臺地帯なる大肚山脈との間に臺中平野を擁す。本島屈指の大河たる烏溪は東南境の火炎山南麓を迂迴して南隣南投郡との境を爲し、やがて幾多の大小流に分岐して郡の西南を流ひ、終に再び合一して大肚溪となり海に注ぐ。此外に猪寮溪・乾溪及び草湖溪・頭洋坑溪・鹿子溪・大里溪・旱溪・筏子溪等の諸川あり。何れも大肚溪に合流

大日本製糖株式會社島日製糖所を除き、根柢・精米・落花生油等の小工場を多く有するも、規模小にして著しき消長なし。昭和十一年度に於ける産額二百二十六萬餘圓なり。交通は臺中市を中心とし、各種の交通機關概ね整備すと雖も、橋梁の不完備なる河川多き爲め、夏季豪雨の際に交通杜絶する所あり。鐵道は官設の臺中線、及び帝國製糖の私設線たる中南線、東興線を有し、交通運輸の大動脈をなす。臺中線は島日庄に島日驛を設け、東部山地方面に於ては私設の營業軌道（手押臺車）七線あるも、乗合自動車發達に伴ひ、漸次形勢を迫りつゝあり。道路は鐵道道路を始め、指定道路、保甲道路網完成し、局營バスの他、民營バスの發達と共に交通運輸・産業開發に貢獻する所多からず。

【大屯山】 臺灣臺北州淡水郡の山。臺灣の北端にあり、海拔一〇八一米、小觀音山（一〇七二米）、七星山（一九九米）等と聳立す。大屯山系は面天山（九七七米）、二子山（八九〇米）、菜公坑山（八八二米）、竹子山（一〇三米）等、淡水河以北の山系一帯を含み火山による山嶽とす。當火山系は第四紀の始め頃の噴出と推定されその地形の特徴には、主軸が北東南西に走り、北側は著しき急斜面をなし、南及び東斜面は緩と立る。また段階狀の平坦面が火山の周囲に發見さる。地質的に見れば、安山岩及びその系統岩即ち安山岩

質塊岩よりなり、第四紀の噴出とされるは前述の通りなり。（大屯國立公園） 大屯山系及び淡水河を距てその西南方、觀音山を含む地域にて昭和十二年十二月二十七日臺灣國立公園に指定さる。總面積八、二六五ヘクタールにして日本に於ける國立公園中最小のものたり。區域内に草山・北投の兩温泉場を有し遊覽に便にして山麓の淡水河、西及び北に接する海の景観と相俟つて天下の勝たるを失はず、特に島郡臺北に近く、その中心まで臺北より自動車にて一時間餘にて達するを得るは利用價値の大なるものとす。公園内には目下自動車道路の開鑿が行はれつゝあり、全通の上は一巡を試み得らる。管内には前述の草山・北投の兩温泉の外未だ遊覽施設はなきも竹子湖には竹子山莊及び蓬萊茶屋原田事務所あり、大屯山には高山氣象觀測所、觀音山には觀音亭あり。

タイト 大屯山

【大屯山】 朝鮮全羅北道之山嶽。小白山脈に屬し、道の北端、錦山・完州の兩郡及び忠清南道鎭山郡に跨る。標高八〇〇米級の諸峰より成り、最高點八七八米。奇岩林立、山中に發露の自然逸品が隨處に生ずるを以て近來頗る有名となる。山中には四景・遊龍・萬興の三瀑布あり、また龍心安心寺・太古寺・孤雲寺の名刹あり。登山には大田府より南二〇餘軒の砂山（錦山郡）に至り、墨山里を経て太古寺

に詣て登高するを便とす。

【大屯島】 朝鮮全羅南道之西端。本島を距る西方約八〇軒の海上にあり。務安郡黒山面に屬す。大黒山群島の北方諸島中に於ける最大島にして、大黒山島とほ狭水道を距て相對す。島岸は曲折出入著しく従つて碇泊地に富み、またその西側は多勿島・曾嶼・松島等の屬島と相抱擁して四周遮蔽の大屯島を形成す。耕地少く、島民は専ら漁業に従事す。兼落は北岸の灣入内に橋あり。

タイナ 臺灣

【臺灣州】 臺灣五州三廳の一。本島西斜面の南部を占め、東方新高山を頂點とし、西方海岸線を底邊とする不正三角狀の地形をなす。即ち北は新高山系の連山及び濁水溪を以て臺中州に境し、東及び南は新高山に發源する楠梓仙溪（下淡水溪の上流）及び二層行溪を以て高雄州に接し、西は臺灣海峡に面し、澎湖列島を隔て、支那大陸に對す。（地勢）日本第一の高峰、新高山は本州の東端に在り、之より分派せる山嶽東南に重疊して連互し、急傾斜を以て西方に迫り、遂に臺灣第一の大平野を展開し、縱貫鐵道以西は殆んど丘陵を見ず、一段坦々たる萬坪の沃野をなす。地理上山地帯・丘陵帶・平地帶の三帯に分けることを得。山地帯は更に高山性の新高山地と中山性の阿里山地との二帯となり、前者は東隅に位し、漸次低下し延びて高雄州に入り、後者は北に

延びて大塔山（二六七六米）の隆嶺となりて州の東北境を爲し、その西に之と並行する大尖山の連嶺となりて曾文溪下流に通じ、西方の丘陵帶より巔然聳立す。阿里山一帯を中心とし、新高山系の諸山を包含して阿里山國立公園設立せらる。丘陵帶は濁水溪の一支流清水溪より八掌（雙溪の上流河口（嘉義郡番路庄）・凍子脚（嘉義郡中埔庄）・新營郡の關子嶺・曾文郡の南勢坑を結ぶ一線を以て山地帯と境し、最高海拔六〇〇米内外、漸次波狀を呈して西方に低下す。その西に連る平地帯は東西約四十軒、南北百軒に近き大平野にして臺灣農業の中心地をなす。大尖山に源を發し、北端に向ふ北港溪（虎尾溪）・尖崙山に發源し嘉義市の北方を過ぎて東石港に注ぐ朴子溪（牛稠溪）及び同市の南方を過ぎて鮑港に注ぐ八掌溪（急水溪）・新高山の支山たる兒玉山・霞山より流下し、諸所に峽谷を造り、玉井・善化等の北邊を流つて西流する曾文溪、大同山の北を流れ、永寧庄に於て海に入る二層行溪及び北城の濁水溪等は州下の主要河川なり。而して曾文溪を除き多くは流程短く、且つ急傾斜の爲に急流をなし、河心定まらず、舟運の便に至りては僅かに曾文溪・二層行溪の各一部ありのみなり。以前にありては平時は概れ水量乏しきも一雨出水を見んか、濁水酒々として氾濫し、其の都度阿身を變じ、人畜田畑に及ぼせし被害夥しきものあり

しを以て昭和四年具米河川法を實施し、既設治水事業に努め、堤防及び護岸の施設は略々完成の域に達し、今や全く面目一新せり。かくて平地帯は此等諸河川に依りて形成せられたる複合扇狀地と見るべきなり。沿岸は彎曲少く而かも一帯遠淺にして、且秋冬の候風浪高く船舶の碇泊に適せず、其所々に三角洲を現し、其處に小港を形成し、僅かに數十噸の帆船を容るゝに足るのみ。（氣象）北回歸線は本州の中央部嘉義市の南を横斷し、温熱兩帯に跨るため、気温は冬季と雖も比較的高く温暖にして最低の二月と雖も華氏五十度以下に降ること稀なり。夏季に於て気温の最も高きは七月八月頃に於て九〇度以上に昇る日多きも、最高気温に至りては必ずしも内地に比して高からず、唯一日中の高温時間長きのみなり。雨量は夏冬兩季に於て著しき差あり。即ち五月より九月に至る五箇月は南部地方の雨期にして、一年間の雨量の約八割を占め、時々豪雨沛然として到り、短時間に驚くべき多量を降らすことあり。然れども十月より翌年三月に至る間は北部地方の天候陰鬱なるに反し、晴天續き數十日間雨を見ざること多からず。従つて乾燥甚だしく、殊に此の間季節風強し、海岸地帯に於ては砂塵深々として實塵萬丈の觀を呈す。風向は夏季にありては南又は南東、冬季にありては北又は北々東多し、八月九月頃は比律賓群島呂宋の北東

若しくは東部海上に低氣壓の發生する時期にして、之が爲め暴風雨襲來し人畜田畑等に及ぼす被害夥からず。（産業）農業を第一とし、製糖業・水産業・製鹽業等之に次ぐ。（農業）全島第一の廣大なる南部平野を擁し、州下耕地の特異性として雨期作田少く、旱期作田多きは注目し、要するに降雨と河川の狀態とにより大部分は水利に乏しく、所謂看天田なるもの大半を占むる爲めにして、従つて米の如きも面積にして收穫量薄し。然し一般に農産物は種類豊富にして産額亦莫大なり。其の主要なるものを甘蔗・米・甘藷・豆類・麵類・落花生・玉蜀黍・木藍・胡椒・檳榔・黃麻・芋類・果物類・蔬菜類等とす。農業に依る年生産額八千五百六十一萬餘圓に上り、就中甘蔗は産額全島の首位を占め、州下に就きて見るも遙かに米産額を凌駕するの特性を現出す。果物は熱帯特有のものに富み、種類・産額共に全島に冠たり。尙特筆すべきは氣候上寬廣の栽培に好適する爲め、國家線上に沿ひ農業報國の一端として盛に栽培せらる。（製糖業）甘蔗生産額の大なるに從ひ、製糖業の盛なること、全島にて本州の右に出づるものなし。昭和十年度に於て作業せる新式の工場十九を算するの狀態なり。その生産額七千七百七十三萬餘圓。（畜産）畜牛に勞役用の水牛・黄牛合計十萬一千餘頭を主たるものとし、豚六十六萬四千八百餘頭・山羊四

萬四百餘頭・鴨百四十萬一千二百餘頭其他の家畜二十五萬九千八百餘頭を有し、農家副業の首位として飼養せらるゝのみならず、改良地肥豚舎の普及と共に一面採肥上の利益と相俟つて農家經濟に重きをなす。（水産業）長き海岸線を有し、漁船を容るゝに足る小港灣多く、沿海また魚族に富むるを以て漁業は相當に發展すべき可能性あるもなほ改良すべき點多々あるため、未だ充分面目を發揮するに至らず。之に反し養殖業は州下水産業の大宗にして淡水・鹹水兩方面あり。州下養殖場面積は全島養殖場の約三分の二を占む。生産物は鹹水の虱目魚・牡蠣大部分を占め、殘餘は淡水の草魚・鱸魚・虱目魚・鯉等なり。水産製造業は漸次隆盛に向ひつゝあり、鱸子・魚翅・蒲鮮を主たる製品とす。（製鹽業）古へより海岸地方に於て行はれ、全島産額の大部分を生産す。東石郡の布袋庄、北門郡の北門庄、臺南市の鹽埕・安平、新營郡の安順庄・永寧庄に於ては天日製鹽行はれ、別に臺灣製鹽株式會社安平工場に於て廠製鹽の製造行はる。尙國家上工業鹽の重大性に鑑み、當局に於ては大量生産を企圖し、東石・北門兩郡下の製鹽地たる養殖場を圍く買収し、鹽田開發に着手せり。（林業）阿里山森林帯に既に人口に飽みし長幹美材を以て著するも、その生産量は州下の消費量に匹敵するも、阿里山村の大部分を移輸出する關係及び其他の

事情に依り、毎年百五、六十萬圓を移輸入し、又薪炭の移入は二十五萬餘圓の五割に達し、之によりて州下林業の不均衡なる狀態を察知し得べし。尙副産物として竹材・竹節の產出注目し、後に龍眼・檳榔・檳榔等の果實あり。乾燥して移輸出するもの多し。造林事業としては民行造林盛にして海岸地帯に於ける保健衛生の見地より宅地及び部落造林行はれ、逐次造林面積を増大し、官營造林は阿里山の外、海岸地方の耕地保護を目的とする海岸防砂防止保安林にして、此等の外、各街庄に於て基本財産造成を目的とする記念造林あり。（漁業）石油鹽のみにして二三の漁區を除けば悉く米海手の狀態なり。（貿易）安平・東石の二商港を有し、前者稍見るべきものあるも、後者は一年を通じての輸移入額合計一萬餘圓に過ぎず。輸移出品は殆んど食鹽のみにして、藥材・木材の外日用食料品・雜貨類を輸移入し、昭和十年中の貿易總額一六六七萬餘圓を算す。（交通）陸上交通比較的整備し、道路は鐵道道路一一九軒餘、中央道路一〇六軒餘、海岸道路一一三軒餘の三路線を大動脈となし、三者並行して州下西部の平野を南北に貫く。其他大小無數の産業道路網完成し、郡部を間はず乗合自動車よく發達し、交通上劃期的貢獻をなす。尙山地開發道路開鑿中なり。官設鐵道實額は鐵道道路と相並行し、總延長一一九軒餘、州下交通上の主

動脈をなす。他に阿里山鐵道(管林所經營)あり、嘉義驛に連絡す。私設鐵道はすべて製糖會社の經營にして平地帯を縱横に走り、總延長二六八軒、其の線路網の發達せることは其の比を見ず。軌道(手押臺車)は山地方面にのみ存し、各方面に於ける重要交通機關なり。水上交通として港灣の主たるものは開港場として安平港、特別開港場たる東石港及び鹽港港もある。沿海航路は遠淺にして風浪高く良港ならず。〔沿革〕臺灣本島に於て最も古く拓殖の緒に就けるは州下就中臺南市附近にして西曆一六二四年に於ける和蘭人の臺灣占據以前既に支那人の來住する者ありき。蘭人はバタビヤに在る和蘭東印度會社の管轄の下に新一の殖民地を開かんことを企て、西曆一六三〇年今の安平の地(當時は臺江門戸の一島にして一銀嶺と稱せり)にセーランヤ(Neatania)城を築き以て外海の防備となし廿年後には更にプロビデントヤ(Providence)城を今の臺南市内に築き以て政廳となし、商館を設け、長官(領事)を置き、其地を稱してサッカム(Saccharum)といへり。これより先き蘭人據臺の翌年、明の海寇鄭恩齊等は部下を率ゐて臺灣に移住し、當時支那海上を往來して足跡を臺灣に留めつゝありし日本人と結託し、自ら日本甲船と稱す。恩齊の死するや、其の徒黨芝意之に代り、和蘭人と共に臺灣を

保有して之と貿易し、且つ時に海上を剽掠し、倚りて以て巢窟となせり。明の黃宗義の賜姓始末に、開大早に值ふ。鄭芝龍乃ち農民數萬人を招き、人ごとに銀三兩を給し、三人に牛一頭を給し、海船を用ひ、載せて臺灣に到り、其をして藍土を開墾せしむ。秋成に獲る所、中土に倍し、其人衣食の餘を以て租を鄭氏に納るといへるもの、當時の消息を傳ふるものにして、清初の諸羅知縣李戴光の臺灣文稿に、「臺灣に中國の民あるは恩齊より始まる」といへるは此の漢族の定住拓地をなせるを指せるものなるべし。かくして對岸なる福建人の來投移住する者益々多く、和蘭人と任意貿易に従ひ、延きて漁患を醸すの導火となる虞ありしこと、明の給事中何喬の奏疏に、「初め窮民其の處に至り、漁獵の利を視するのみに過ぎざりしが、後内兵威の及ばざるを見て、業りて盜を爲し、近頃は紅夷其の中に築城し、奸民と私に相互市し、屹然として大寨落を成せり」といへるに徴して知るべく、依りて政略上より明朝は芝龍を招撫し、授けりて太師平國公を以てし、在臺四年の後、去りて本土に歸せり、爾來臺灣は和蘭人の專有に歸するの態を爲せり。蘭人の此地に於ける事業の主なるものは、日本及支那との貿易にして、又一方に於ては學校・教會を設け、土蕃の教化啓蒙に努力すると共に、支那の移民を獎勵し、益々内地の殖産興業に促せし

結果、和蘭人の統治下にあること三十有八年、其間の治績大に事り、支那人の移住するもの愈々多きを加へたり。されば支那人は其の力を恃みて自強敢へて下らず、動もすれば和蘭人と調和を缺くの傾向あり。彼の郭懷一が名を蘭人の苛政に藉り、城市内外の支那人を煽動し、尙に叛亂を企て、以て之を島外に驅逐せん事を計り、プロビデントヤ城を襲撃し、殘餘なる屠殺を蘭人に加へたるも、失敗に終りし事件を惹起したるが如きは之が好例の例證なり。やがて明の永曆十四年(西曆一六六〇年)明末の遺臣鄭芝龍の長子、鄭成功は明朝の恢復を圖り、新興の清朝に反旗を翻したるも清軍のために敗れ、一時廈門の孤城を守りしが、一支那人のセーランヤ城より運れて密告するあり鮮を轉じて臺灣を攻め、和蘭人を驅逐して臺灣を占領せり。こゝに於て臺灣を東都と稱し、セーランヤ城を安平鎮、プロビデントヤ城を承天府と改稱し、北部一帯を天興縣、南部一帯を萬年縣(州下之に屬す)となし、成功、自ら附近各地を踏勘し、青霞の地を以て開拓するに足るべきを見、即ち侍衛二旅の兵を以て承天府及び安平鎮二府を守り、其他領營の兵を各地に分駐せしめ、所謂兵を農に寓するの主義に則り屯田の制を創設せり。これより西部一帯の地は開拓の緒に就き、治績の見るべきものありし、遂に清政府は臺灣に鄭氏討伐の軍を向けられ

ば鄭氏は父子三代二十三年にして滅亡せり。その頃臺南地方に移住せし支那人の数は實に戸數三萬、人口十萬餘と稱せられ、現臺南市の地は既に一市街の形づくりをなせしといふ。清領後は初め臺灣を福建省に隸屬せしめ、統治の中心を今の臺南に置き、臺灣府と稱し、その下に諸羅・臺南・鳳山の三縣を置き、州下一帯は臺灣・諸羅の二縣に分屬せり。其後光緒十一年に至り臺灣を改めて一省となし、北部に臺北府、中部に臺南府、南部に臺南府の三府を置き、州下は臺南府に屬せり。明治二十八年帝國領臺後、時に縣、時に廳を置き、之が管轄地域亦時に依りて廣狭の差ありし、大正九年現行制度の實施を見、臺南州となりて現今に至る。【臺南市】臺灣臺南州の首邑。州下二十郡中の一。州の西隅、本島南部平野の西邊に位し、西は安平港を控へて臺灣海峡に臨む。北回歸線の南方五〇軒の熱帶圈内に屬する故、冬季も溫暖にして夏季と雖も暑日四雨の涼風多く、且つ殆んど毎日驟雨驟來して暑熱を緩和す。臺灣第二の大都市にして、州廳・市役所の所在地たると同時に、南部臺灣政治・産業・文化の中樞を爲し、縱貫鐵道に依りて南北に策應す。西には安平港、南には高雄の兩港を控へて海運・水産業の發達を加へ、商工業益々進展し、一面縱貫鐵路其他附近農村に通ずる産業道路の擴張連絡に依りて、州下各種物産の集散地となり、漸

大各種施設の整備と相俟つて、振興の實績著す。人口十一萬餘。臺灣歩兵第二聯隊・衛戍病院・地方法院等あり。近年各種事業の勃興に伴ひ、人口増加し益々發展膨脹の趨勢を示す。商工業・水産業・農業・畜産業を主要なる産業とし、市内には各種の商店銀行會社比し、南部臺灣第一の都會として、又州下農産物の集散地をなす。貿易に於ては西方約四軒に安平港を有するも、港勢振はざるため、該港を通じて行はるるものは僅かに一部分に過ぎず、主として南隣高雄州の高雄港に依る。輸移出品は食鹽を第一とし、外に陸海産物あり。輸入品は藥品・木材・セメント・織其他の日用雜貨及び食料品なり。工業は製糖を始め、製米・織維工業・紙捐精米・織工業・菓子製造・味噌醬油製造其の他にして、工業に依る年生産額七百七十二萬餘圓に上る。安平には臺灣製糖株式會社の工場あり、天日鹽及び煎製鹽を製し、鹽埕には天日製鹽行はる。水産業は養殖業及び海洋漁業に分れ、前者は古來より發達し、一千數百甲の廣大なる魚塭を擁し、牡蠣・虱目魚其他の魚類あり、年生産額百三十九萬餘圓に達す。後者も亦比較的盛なるも、魚具・漁撈法等に尙幾多改良すべき點あり、未だその眞面目を發揮するに至らず、漁獲物は鱈・旗魚・鰻・鮪・鰯魚・鰱等を主要なるものとし、年生産額十四萬餘圓に達す。農業は市街の外縁に於て行はれ、

田少く畑多し。蔬菜(年産十八萬圓)・米(十二萬圓)・甘蔗(十一萬圓)・甘藷(九萬圓)・落花生其他の農産物あり。畜産は牛・豚・鶏其他の家畜を主要なるものとし、農家に於て副業的に飼養せらる。本市は亦南部臺灣に於ける交通の中樞にして、道路は縱貫鐵路を始め、中央道路・海岸道路・開闢・旗山道路を分岐し、兼合自動車の發達目覺ましく、市内専門のバスを運轉す。水運は安平港との間に運河の開鑿せらるるあり、小型船舶の往來頻繁なり。官設鐵道縱貫線は市の東寄り、南北に貫通し、臺南驛(明治三十三年設置)を設けず。本市は臺灣の歴史の都と稱せられ、開發は明の萬曆年間漢族の來住に始まり、其後天啓四年(一六二四年)和蘭人占據し、安平にセーランヤ城(赤崁城)・臺南にプロビデントヤ城(赤崁城)を築き、政廳となすに及んで市街を形成し、蘭人の移民獎勵と當時南方支那に李白成の亂ありしため、本島に來住する者急増し、城外にまで延びて附近の開墾漸次進歩せり。永曆十五年(一六六一年)鄭成功の和蘭人を驅逐するや、セーランヤ城を安平鎮、プロビデントヤ城を承天府と改め、爾來鄭氏三代の居城となす。その子、經は十字街を設け、市街を東安・西安・寧南・北甯の四坊に分ち最初の市區改正を行へり。康熙二十二年清領に歸するや、全島の首府となり、六十一年朱一貴の亂後、最初の築城を行

ひ、更に乾隆五十年には福康安に依り、有名なる半月城(後の臺南城)を築かれたり。かくて二百餘年の間、首府として臺灣の政治・文教等の中心となり、繁榮を極めしが、光緒十一年臺灣は一省として獨立し、臺北府、臺中府、臺南府、臺南に臺南府を設く。臺南の地名この時に始まり、省城を新に臺中に建設し、次いで臺北に移さるるに及び、本市は首府たるの地位を失ひ、政治の中心亦臺北に移る。我が領臺後には臺南縣を設かれ、明治三十四年臺南廳に改まり、市區改正行はれ、大正九年地方自治制の實施と共に安平街及び隣接地を併合して市制を布く。本市都市計畫の特色は散置所の廣場を中心とする放射道路の開設にあり。即ち兒玉大將の銅像の立てる廣場を中心とし、その周圍には州廳・市役所・博物館・調検所・郵便局等點在し、街路は八方に分派して東に清水町、東南に開山町、南に幸町、西南に末廣町を分ち、東北に連る大正町は臺南驛に通じて北門町となり、北に向ふ花園町は老松町となりて臺南公園・福隆に達し、西に走る錦町は更に港町となり安平に達す。錦町は市を中央に於て南北に横斷し、大宮町の北端には錦町に平行する本町あり。此等は市の盛區にして主要商店街集し、臺町は本市發祥の地として知られ、開山町は鄭氏據臺當時市中心市街たりし、現在共に寂れ、陋巷を残すのみ。舊城壁は改築當時の兵

災と其後の市區改正に依り大部が損壞せられ、三城門を遺すに過ぎざるも、本島最古の都市たるより名勝・舊蹟の多きこと他に類例を見ず。住時に於ける本市西部の地形は現今と大に異り、海は深く赤崁橋附近迄灣入し、一の内港を形成せり。安平は此の内港に對する外港にて一島嶼をなし、之を一銀嶺と稱し、之より南方二層行溪の河口に至る間の海中を遊び、七箇の小嶋聯珠の如くに點在し、一銀嶺より順次南に數へて七銀嶺に至れり。銀嶺は大魚にして島嶼の狀、これの海面に浮游するに似たるより名づく。又一銀嶺より北方北門嶼(北門郡北門庄)の方向に延き、數箇の小島・沙洲斷續せり。即ち一銀嶺と一水道を隔つるを北線尾(一に北線尾に作る)とし、鹿耳門の沙洲は北に接して連り、更に加老灣を控へ、尙鹿耳門と加老灣との中間に陸仔の沙洲を存し、海峯線の沙洲其の北邊に横はれり。此等諸洲嶼に依りて抱擁せられし内港は即ち臺江にして、和蘭人の所謂 Water Bay なり。今の臺南市街の大部分はこの内港の埠頭にあり、臺灣府志に、其の位置を記して、「臺江在臺南治西門外こといひ、臺灣縣志にその港勢を記して、「臺江、汪洋清濶、可泊千艘」といひ、當時實に臺灣三大港口の一として、一府(即ち臺灣府の臺江)・二廳(彰化の鹿港)・三縣(淡水内港の板寮)の稱ありき。即ち西曆一六五〇年和蘭人の據りてプロビ

アンチャ城を築きしは、實に此海岸に於てし、次いで清の雍正十一年...

一艦船と稱せり。本島歴史の發祥地にして、蘭人セーラシヤ城を築き、鄭氏安平...

割を新設し、警防の浸淫を施せりと雖も、工費の關係上充分なる施設を得るに至らず...

一室なるが、この抽屋は其後層々模様を爲せしため、今其の舊状を窺知することを得ず...

説書社の保管となし、職員を居住せしむ。其後臺南神社を創建し、御遺跡所尙現存す...

後等行はれたるも、我が領事長官市岡政正に伴ひ、城壁は取除かれ、前記三城門を遺すのみ...

城は初めマランゴと稱へしが、寛永五年に(一六二八年)セーラシヤ城と改稱せり...

し、武廟とも稱す。鄭氏時代の創建に傳り、蘭人の忠烈を追慕して之を祀り...

清朝の征軍追り、寧靖王自盡せんとし五妃に訣別す。五妃曰く、王死なば俱に死なん」とて王より一日先きに中堂にて縊死し果てたり。後節婦として祀らる。乾隆十一年葛道碑を建て同十六年重修す。(水仙宮) 水菓町にあり、主神は大禹王にして、伍員・屈原・三勃・李白を合祀す。康熙五十四年商人の建立に係る。廟内結構壯麗を極め、彫刻の妙なる、全島一の稱あり。(龜の碑) 大南門内にあり。乾隆五十一年十一月林爽文亂を爲すや、全臺都らにして賊手に歸せり。五十二年十月陝甘總督福康安大軍して來り討ち十一月爽文を擒にし、亂平ぐ。乾隆帝其の功を嘉し、御筆の碑を建つ。碑合せて九基、幅凡そ三尺、高さ丈餘、礎石龜を刻するが故に龜の碑と稱す。碑は漢漢兩文より成る。

タイナン 大南

【大南溪】 臺灣東臺東郡にある川、中央分水山脈に屬する知本山(二三八九米)の山腹カカリ山の山中に發し東南に流れ、下流は分流をなして臺東街の南部にて太平洋に注ぐ。下流には小デルタを發達し農耕盛なり。

一五米)中央に轉る外、概れ低平なり。河川は禮成江の一支九龍川の支流、西北部大蓋山に發して北流し、爾後諸水は集りて沙尾川となり、東南流して臨江津に合す。此等の流域にはや、廣き平地ありて田畑拓く。耕地は其他到る處の丘陵斜面に發達す。産物に米・麥・大豆・棉・大麻等あり。道路は何れも等外路線にして交通不便なり。

タイナンオー 大南澳溪

臺灣臺北州蘇澳郡蘇澳庄にある川。郡の西北境の分水嶺をなす十六分山(二四二七米)・ヤブブライ山(一九九〇米)等に發源する二源流が合して大南澳溪となり、大字大南澳にて太平洋に注ぐ。兩期には屢に溢れ、交通を杜絶することあり。近年沿岸僅少の沖積地を開墾進む。

タイニ 大尼面

朝鮮平安南道安州郡の南部。安州邑及び新安州面に南接す。東境に馬頭山・上山など五百米臺の山脈連なり西方に傾斜し、處々に百一五十米臺の丘陵を起伏せしむるも、西北部及び南西部にはやや廣き平地開く。河川は上山西稜のつくる高度二一三百米の分水嶺によりて、北又は西に流るる清川江支流となり、南又は南隣の平原郡に入るものと分たる。耕地は東境山地を除く外、到る處に發達し、概して地味肥沃なり。産物に米・粟・大豆・棉(在來棉)等あり。中部西偏を總督府道道官本線と一等道官路官道並走し、前者に萬城驛

(明治四十一年設置)あり、後者は同驛附近に於て東北折して安州邑に通じ、交通やや便なり。

タイニオート 第二大臣

省線田川線の一驛(明治三十九年設置)。福岡縣田川郡大任村にあり。

タイニチ 大日

【大日岳】 越後山系飯豊山塊の最高峯。主峯飯豊山(二〇五米)の南約五軒に峙つ。新潟縣北蒲原郡赤谷村と、東蒲原郡豊實村との境上に在り。標高二二八米。北斜面は西流する加治川の水源地たり。

【大日岳】 日本北アルプス立山群峯の一。富山縣中新川郡白萩村と立山村との境上に峙つ。高さ二四九八米。東麓は奥大日岳(二六〇六米)、北西麓は早乙女岳(二〇二五米)に連る。山體輝石安山岩より形成せらる。

【大日岳】 岐阜縣大野郡註川村、郡上郡高鷲村・北濃村及び福井縣大野郡石徹白村の三四四村境上に跨り聳ゆ。標高一七〇九米。

【大日岳】 大華山脈の一峯。奈良縣吉野郡津川村と下山村との境上に跨り聳ゆ。標高一五九三米。山體石英斑岩より形成せられ、突凡たる岩峯にして岩石露出す。山頂は大日如來の坐像あり。

【大日ヶ岳】 九州英彦山の一峯。主峯英彦山の西方約七軒。福岡縣朝倉郡寶珠山村・小石川村と田川郡志村に跨り峙す。山の北に清見川發源し東南に流れて廣河川に入る。東北に接して三峰炭田あり、無煙炭を多く出す。また南麓の一峯登華山の中に大白山史庫(善春閣)及び春陽の古邑あり。

タイハク 太伯村

久那の南部。吉井川の左岸に沿ふ。東北境は一八五米の丘陵ありて、概して北部は丘陵地をなすも、沿岸及び南部には低地ありて耕地拓く。主産業は農にして米・蕎麥を出し、また梨・薄荷の特産あり。縣道村の南部を東西に走り上道郡西大寺町方面にバスの便あり。古くは和名抄、邑久那邑久那の地なり。往時は秀家の祖宇喜多家の領有せし處。乙子城址あり、天文十三年浦上宗景の築城せる所にして宇喜多家を以て守らしむ。天文十八年直家紙石城を攻めて其の城を屠るや、宗景賞して直家の封を増し轉じて奈良部の城に遷らしむ。而してこの城は直家の弟忠家を以て居らしむといふ。直家の岡山に轉するやこの城を發つ。(成願寺) 神階にあり。天台宗。新時山と號す。承和年中慈覺大師の草創に係り、後醍醐天皇、四王山天樂寺の號を賜ふ。本尊藥師如來は大師の作にして脇侍不動・愛染明王は弘法大師作と傳ふ。

タイハク 大野尖山

臺灣次高山地に屬する一峯。次高山の北東約五軒の距離に當り、高度三五七三米。第三紀水成岩層より構成せられ、山腹は大霧

つ。標高八二〇米。

タイニホン 大日本製糖會社線

社線。臺灣臺南・臺中二州に通ず。總督府鐵道縱貫線の斗南驛(臺南州斗六郡斗南庄)より北港郡北港街の北港驛に至る三四・三軒、また虎尾郡虎尾街の虎尾驛より同西螺街の西螺驛に至る一五・八軒、同虎尾街の大老驛より同海口庄の五塊寮驛に至る一八・四軒、同二崙庄の田尾驛より同崙背庄の三崙驛に至る一六・八軒、崙背庄の五塊厝驛より同大字寮寮にある妻寮驛に至る七・八軒、臺中州豊原郡内埔庄の總督府鐵道臺中線后里驛より同大甲郡大安庄の大安港驛に至る二七・四軒、大甲街の南門驛より同街の中庄驛に至る三・五軒、大甲街の福興驛より臺南州斗六郡古坑庄の崑崙厝驛に至る二・二軒、嘉義市の鐵道縱貫線嘉義驛より臺南州北港郡口湖庄の烏麻園驛に至る三一・七軒の各線を含む。

タイネ 大寧江

朝鮮平安北道の西部にある河。朔州郡の東境與舞臺(九九七米)の北麓に發源、郡内を東南流して泰川郡に入り、北方より來る昌城江、西方より來る支連川坊江を併せて南流し、博川郡の中央を貫き、江口は東北より來る清川江と合して西朝鮮海に朝す。江口は幅三軒に達す。流域一五〇軒、流域大ならざるも沿岸には大なる沖積地ありて農産物の産出少からず。殊に本江の支流川坊江流域の沖積地に大正四、五年の

交東洋拓殖會社の開墾により水田一九〇〇ヘクタールを得、本道に於ける優良米産地をなす。本江は冬季十二月より三月末まで結氷するも、その他は江口より上流五四軒まで小舟の通航可能なり。沿岸に於ける主なる繫船場は博川邑に近き南淵洞(智利洞)、江口に近き黒鴨(内島)等にて、沿岸平野の中心に博川・泰川等の諸邑あり。

タイノセ 田井ノ瀬

省線和歌山線の驛(明治三十一年設置)。和歌山縣海草郡西和佐村岩橋にあり。

タイバ 大馬面

朝鮮全羅南道靈光郡の北東隅。郡邑靈光の東方五軒。東境には靈嶺山脈に屬する古城山(五四六米)・大清山(五九三米)等ありて東部は高く西方に向つて漸次低夷し、西部は平地を成す。耕地は西半部に分布し、地味肥沃にして農産豊かなり。産物には米・大豆・麥・棉花・煙草・薪炭・陶器等あり。郡邑靈光に近接せるも道路何れも等外路線にして交通便ならず。

タイハク 大白

【大白山脈】 朝鮮半島の東側を南北に縱走する脊稜山脈。その北端を元山府の南に發し、江原道に於ては走向を北北西より南南東に日本海に沿うて走り、慶尙北道の境界に近き大白山附近より方向を南に轉じ、南端は慶尙南道の釜山府附近に及び、全長約六〇〇軒に達する半島最大の山脈なり。その核心は主として始原代

割として運用せられしが、大正九年十月地方制度の根本的改正の爲されし時、他里霧下の四庄(現大字)、打掃北陸下の三庄(現大字)は、一括統合せられて、大坪庄なる臺南州六郡下の一庄となりて現在に至る。

タイヒ 大悲山 花背村(京都府)

タイヒカン 大悲観 省報松浦郡の驛(昭和六年設置)。長崎縣北松浦郡小佐々村にあり。

タイヒヨ 大坪 朝鮮海運安都の東南部。

大坪 朝鮮海運安都の東南部。遼安の東南に隣り、東と南とは新溪郡に接す。北部は北境に長山など五百米臺の山脈連なりて密に緩斜し百—二百米のやや廣き平坦面積は、南境に島岩山、五峰山等五—六百米の山地あり漸次北に低直し中部に至りて特に地勢緩かとなる。河川は浦成江南流して東境を劃し、その支流梧桐川・位羅川北部平地帯を灌溉して南流又は東南流し、南部山地を大坪川東南流して、何れも浦成江に注ぐ。而して住民は此等の流域と、山間傾斜地と共に主として農業を営む。産物は豆類・棉・繭・大麻等の農産を主とし、肉類製造も行はれ、東北部の泉谷面との境には金元鎭山あつて金・銀を出す。議政府(京城道)・平壤間二等道路北部平地を横ざりて自動車を通ずるも、交通未だ便ならず。【大坪面】 朝鮮海運安都郡の西南部。香州邑の西方に位し、南は泗川郡と

鴨川江を隔て、北西は山清郡丹城面と界す。面積約四一方軒。東西兩端上に高さ二〇〇米臺の山地ありて共に南北に連り、その中間は南東流する南江の洪源原にて狭長の平地をなす。また南境には支流鴨川江東流してその左岸に狭長の平地をつくる。黍・大豆・棉等の農産あり。香州邑に近きも交通未だ便利ならず。

タイフ 大阜

朝鮮京畿道富川郡の一画。江界内東部に位置する大阜島を始め仙甘島・全島・九峰里島・炭島及びその西南海上の豊島・六島等より成る。主島は大阜島にして最も大きく、東は幅約四軒の馬山水道を隔てて南陽半島と相對し其間に仙甘島あり、西は豊興水道を隔てて仙才島・豊興島と相對す。南北八軒餘、島形不規則にして扇形極めて多く、されど多くは泥堆り出するを以て碇泊の便に乏し。島の北部中央に黄金山(雙溪山、約一六〇米)屹立するも、南部は低平にして耕地拓く。住民は半農半漁にして、牛の飼育盛に、沿海には鮑・牡蠣・淺網等の漁獲多し。東岸地帯より對岸水原郡水山面、及び西方靈興島との間に定期連絡の便船あり。乗客は北部の北里、東岸海首の上洞等を主要なるものとし、北里に面事務所を置く。雙溪山中には雙溪寺の名刹あり。豊島は大阜島の西南一八軒にあり、明治二十七八年戦役の日清間の海戦ありしを以て著る。

【大阜島】 ↓大阜面

タイフ 大分村 福岡縣筑前國嘉穂郡の西部。飯塚市の西南にあり間に穂波村を挟む。西境に三郡山脈南北に連り西南隅に三郡山(九三七米)其北に砥石山(八二六米)等あり。此山脈は東方へ傾斜して東南部は山麓臺地をなし東北部に僅かに低地開けて嘉穂川支流東北流し穂波村・飯塚市を過ぎて二瀬村にて本流に合す。低地及臺地は田畑よく拓げ米・黍を産し村内石炭の産あり。山地は薪炭を出す。村道周囲町村に通じ東方には省線筑豊線南北に走り其長尾驛は桂川村(東方約二軒)にあり。古くは和名抄、穂浪郡三坂郷の内に屬せしものによ。その後の沿革は詳ならず。(八幡宮)大字大分にあり。郡社。祭神品院和氣命外二神。聖武天皇神龜三年の創建といふ。日本五所別宮の一。神佛混淆の歴史を擁し、別當を妙見山長樂寺と稱せり。別稱大分八幡宮。例祭三月二十一日。

タイフ 大武

【大武庄】 臺灣臺東廳臺東郡の南部。東に太平洋に臨み、西は高雄州に隣接す。西境に中央山脈の南端部南北に連り、大樹林山(一九〇五米)聳立し、山脚は東に延び大武溪・大竹高溪は山地を開折しほぼ並行して東に流れ太平洋に注ぐ。河川の沿岸及び海岸に僅に沖積地あり、産業は未だ盛ならずも近年治水の整備・交通の便等に伴ひ稍々見る可きものあり。

就中熱帯性農作物の栽培に力を盡す。街並は海岸沿ひ及び高雄州東市に至る後水邊街道あり淡水感街道はバスを通ず。此地には番薯多くその大部分はパイワン族中バカロロ系統に屬する高砂族とす。もと此地は大武支廳大武區に屬せしも昭和十二年十月の郡制改革に際し庄となり臺東郡の管下となり、大竹(前名大竹高)・初毛(後子洞)・加奈美(甘奈美)・加津林(後子洞)・彩泉(後子洞)・大島(大島萬)の大字に分る。

タイフ 大房崎

臺灣中央山脈の最南部に聳立す。標高三三二米。臺東廳に屬する大武支廳と高嶺との境上に峙つ。大麻里溪東斜面より源流して東流す。南境は南大武山に接し次第に低直して、臺灣南端部に至る。

タイフ 大舞衣島

朝鮮京畿道

タイフク 大福

【大福村】 奈良縣大和國磯城郡の西部。三輪町の西に隣る。地は即ち奈良盆地の南縁を占めて土地低平、寺川の支流村の中部を西流して灌溉に便し耕地ひろく拓く。主産業は農にして米を多産し黍・蕎の産また少なからず、綿織物を特産す。社線大阪電氣軌道南郡を東西に走りて大福驛(昭和四年設置)を置き、驛道またこれに沿ひ附近町村にバスの便あり。(大念寺)大字大福にあり。融通念佛堂。元

四年の建立に傳り本寺阿闍梨如來を安置す。寺内に池子の池、地藏尊あり。

【大福村】 福岡縣筑前國朝倉郡の中央南部。筑後川を挟んで筑後國浮羽郡田主丸町の東北に接し西は遠城村に隣り北東部は遠城村の北に接し三奈木村と東の宮野村との間に細長く突入し東は朝倉村に界し南は浮羽郡船越村に接す。筑紫平野東北部の一部を占むる爲地形平坦にして筑後川南部を西流す。灌溉の便よく米・黍を産し又養蠶行はる。社線朝倉軌道線北部を西北より東南に通じ宮野村(東方約一軒)に比良松驛を置く。古くは和名抄、上座郡長岡郷の地にして大字長岡は其遺稱とす。明治四十二年福成村・大庭村を廢し其地域を以て新たに大福村を置く。

タイフツ 大佛岳 那須火山帯に屬する一峰。秋田縣仙北郡楡木内村と北秋田郡大阿仁村との境上に位す。標高一六七米。山麓火山岩より成る。

タイフン 乃文面 朝鮮江原道鐵原郡の北西部。郡邑鐵原を距る西北約一〇軒。地形は南北九軒、東西七軒のほぼ規則的な方形をなす。竹駕嶺地溝帯中にオーヴァフローせる玄武岩より成る熔岩臺地にして、低地も標高二百米臺あり。熔岩流は東部に曉星山(五九六米)を起すほか、城内に數條あり、羅谷川(羅非江一支)南境に浸蝕谷をつくり、北より來る小支を合せて西流す。耕地は臺地上の

平田面及び山麓傾斜地とに拓げ主として農業行はる。産物に黍・大豆・米・棉・牛等あり。等外道路を通ずるのみにして交通は不便なり。

タイヘー 大平面 朝鮮平安北道豊徳郡の西北部。郡邑豊徳の北東五軒。北は鴨綠江を隔てて滿洲國通化省に相對す。東南境に慈雲山(九二二米)及び在堂山、西南境に東主峰(六二二五米)聳立し餘勢域内に及んで一般に山岳地帯を成し平地極めて乏しく耕地は山脚の緩斜面を開拓し、燕麥・大豆・小豆・馬鈴薯等を栽培するに過ぎず。産物に上記農産物の外薯蕷・山人蔘等あり。二等道路は西方界隈より東に中央を横斷して東方楚山に通じ本線には乗合自動車の便ありて交通甚だしく不便ならざるも其他の路線は何れも例外にして改修未だ行はれず板路多く交通甚だ困難なり。

タイヘー 大坪面 朝鮮慶尙南道陞川郡の西南部。面積約六四方軒。西境には小白山脈の支脈連り、北に月女山(八六三米)、南には黃梅山(一一〇四米)時ち東方に急斜し、西の中部東偏にも嶺嶺山(六八二米)・錦城山(六〇五米)・岳堅山(四九一米)を南北に並立して山地多し。洛東江の支流黃江は北部を曲流して西部及び南部より來る小流を容れて東隅の龍州面に出づ。これら小流に沿ひ平坦部に耕地ありて米・黍・豆類等の農産あり。道路は改修されず爲めに交通未だ

不便なり。

タイヘー 太平 秋田縣羽後國南秋田郡の東南部。秋田市の東北約三軒。東及び南は河邊郡に界す。北には出羽丘陵に屬す太平山(二七一米)・前嶽・中嶽連り全村到處に亘る丘陵起伏す。堆積物の一支太平川は太平山に發し村の中央を西に向つて貫流す。米(約二十萬圓)・蕎(約千圓)を産し其の他木炭・木材・山菜等あり。最近にては太平山麓に牧場を設けて放牛し、酪農業を営む。秋田市より太平川に沿うて縣道通じ、自動車の便あり。この地は和名抄、秋田郡湯川郷の内なるべく、永慶軍記によれば秋田城介の臣、永井八郎五郎大江廣治、太平城を賜はり、居城せりといふ。而して村内の太平山三古神社は永井氏の領守なりしと。大字柳田の古城跡は城主いまだ詳かならず、永井氏の城址か。(太平山三古神社)大字山谷に鎮座。祭神、大名持命・少彦名命・三古靈神。俗に三古權現と稱す。當社創立は社傳に據るに白鳳二年役行者小角の勧誘するところ、延暦年間、坂上田村麿東夷征伐のため此國に下向せし時に當社を再興すと傳ふ。また當社は高山にして登路困難の故を以て赤沼に太平山遙拜殿を設く。例祭五月八日。

【太平山】 秋田市の北東境に聳え、秋田縣南秋田郡太平村と河邊郡岩見三内村と

北秋田郡小阿仁村との境上に對る。標高一七一米。古くは三本ヶ原又曰三峰と稱す。この山を中心とする太平山脈の成因は褶曲山脈と考へられ、第三紀に屬する凝灰質泥板岩より形成せらる。山脈は南房・中岳・前嶽・奥岳より成り、東西に長き山にして、昔より信仰登山は盛なり。

【太平山】 臺灣臺北州鳳東郡の善地にあり。濁水溪の上流に聳立す。本島北部の大森林地帯をなし阿里山・八仙山と共に本島三大林産地たり。特に大檜林を以て著はれ森林は東の三星山に對る。近年この大檜林の開発が始められ伐り出されし木材は山麓の土場に集められ、森林鐵道により羅東街の羅東貯木場に搬出せらる。

【太平】 平南線の驛(明治四十三年設置)。朝鮮平安南道大邱郡古平面にあり。

タイヘー 泰平面 朝鮮平安北道寧邊郡の東北端。妙香山脈の東界に聳え、其支脈域内に及び西境に雲臺山(八三八米)、西南境に元通山(四六二米)、東境に紫水驛嶺(四一九米)、東北境に白石山(四八六米)等聳え中央を清川江の支流泰平川貫流し南部に積廣き低地を見る。水田乏しく従つて米は需要を満すに足らざるも大豆は郡内勿論道内屈指の産地を成す。其他小豆・粟・玉蜀黍・棉花の産出多く養蠶も亦郡中に冠絶し、明神の産物多く又色質を以て知らる。又東北境の造

タイホー——タイホ

山洞には亞鉛を産す。道路は邊邊・照川を結ぶ二等道路中央を横断し平坦にて車を通ずるも其他は等外路線にて交通不便なるもの上流より内上洞・内中洞・造山洞・野上洞・新興洞・泰平(内上洞)・曾下洞等あり。泰平は交通の要衝に位置し、商事事務所・警察官駐在所及び陸軍三・八の日に開く市場ありて穀類・織物・薪炭類の取引行はれ年取引額二萬餘圓に達す。泰平の東方一〇軒の妙香山は太古神人檀君の山に降生せりと傳へらる。中腹の普賢寺は今を去る千餘年前高僧探密師の開基にあり、堂塔の莊大なる朝鮮五大寺の一と稱せらる。

タイホ 大埔 臺灣總督府鐵道臺東線の一驛(大正十二年設置)。臺灣臺東廳關山郡鹿野庄大埔にあり。
タイホ 太保庄 臺灣臺南州東石郡の東北郡。嘉義市に西隣す。管内は所謂嘉南大平野の一部にして、肥沃なる平地開け、山地なし。主なる河川は、庄の北境を流る、朴子溪にして、嘉南大川の流水路と共に管内灌溉に重要な役割を有す。管内は純然たる農業地にして、其耕地面積は、總面積の過半を占む。農業の主なるは、米にして近年嘉南大川灌漑路の完成と共に、従来の看天田も、優良なる水田と化し、爲に米産額著しく増加せり。米に亞ぐは甘蔗にして、其甘蔗汁・落花生・胡椒・鳳梨・蔬菜等を出す。甘蔗

の實物米産額大一對は露臺時代の作と傳へ共に國寶に指定する。(字和宮神社) 大字鐘屋に鎮座。村社。祭神倉稻魂。本殿は圓寶。例祭五月十五日。(永久寺) 大字鐘屋にあり。眞宗大谷派。天平四年一寺を創して鐘谷寺と稱ふ。大水元年火災に罹り、永久年中再建して現寺に改む。

【大寶嶺山】 ↓小田村(鳥取縣)
【大寶山】朝鮮平安南道大同郡の西南端。平壤府の西方一五軒。東境に大寶山、東南境に白揚山等聳え餘勢は西北方に延びて漸次低夷し北部は低平なり。産物には米・大麥・大豆、其他の雑穀及び特用農産物の煙草・棉花・楮皮・梓露蓆・生牛等あり。また大寶嶺あり朝鮮無煙炭株式会社の經營に係り昭和十年産額約四〇萬圓に達せり。鐵道平南線は面の東境近く南北に通じ太平洋(東隣古平海)ありて平壤・鎮南浦間一等道路により管内に聯合自動車連絡し、更に支線を面の重要地に岐ち交通便なり。

タイホー 帶方(郡) 朝鮮鮮北部の古地名。後漢建安年中に帶方郡を置く(我が神功皇后の頃)。いま境域を詳にせずと雖も、凡そ平壤以南、漢江以北、即ち黃海・京畿二道の地に當る。帶方の名は樂浪郡の中の一縣名にして、後漢の本郡、その帶方縣附近一帯——樂浪郡の南部數縣に韓族及び濊族によりて侵略せられしが、遼東方面に獨立勢力を樹立せ

諸は、重要農産物の一にして、一般の食料・家畜飼料として用ひらるゝのみならず、その切干は酒精の原料として管外に搬出せらる。畜産は、豚・牛・山羊・家禽等にして、殊に養豚は、最も盛なり。牛は水牛・黄牛にして、主として勞役に使用せらる。本庄は、東に嘉義市、西に朴子街の都市に接まれ、東石港より嘉義に到る要路に當りしを以て早くより開け、現在も尚、交通に甚だ便利にして、社線明治製糖會社の營業線は、庄の北部より六脚庄頭に通じ、また州指定道路は朴子街より東りて大字後潭に達し、是より分岐して、一は嘉義に、一は水上に通ず。其のほか大小道路は四通八達、何れも自動車の運行自由なり。本庄の地、其開拓の沿革は古く、鄭氏時代には、其開拓の地たり。大字後潭は、漳州の人間郷窮により、茹夢阿は泉州人陳水源なる者の手によつて拓かれ、崙子頂・頂港子等附近一帶の地は漳泉の人によりて開かれたり。大字太保・太勢寮・新埤・田尾附近は、清領當時建てられし大棟西堡に屬し、雍正末年より乾隆初年にかけて、個人により開拓せられたり。又大字水廣厝・過溝の地は、清の道光年間建てられたる嘉義西堡に屬する地にして、乾隆初年葉五群により拓かる。我朝臺灣後明治二十九年民政部からりや臺南縣に屬せしが、大正九年十月地方制度の根本的改正に當りて、大埔郡西堡中の五庄(現大字)・大棧

嘉南下堡下の四庄(現大字)・嘉義西堡中の二庄(現大字)・榮進港堡中の三庄(現大字)は割かれて太保庄として一括せられ、臺南州東石郡の管轄下に入れり。
タイホ 大埔庄 臺灣臺南州嘉義郡の東南隅。管内は山嶽重疊して、平地は僅に庄の東部より入りて中央を流れ、西南に流出する曾文溪の上流たる大埔溪の兩岸に見出すのみ。隨つて郡下他庄に比すれば、其生産額も甚だ少にして庄總生産額僅々八萬餘圓に過ぎず。僅に摘記すれば、若干の米・甘蔗・甘藷の外、果實を産し、畜産に於て、水牛・黄牛・豚・家禽の飼養行はる。又山林地帯よりは、少量の木材・薪炭材を出す。交通は、甚不便にして、道路は僅に、大字大埔より出で、西北隅中埔庄を通り嘉義市に出づるもの一條あるに過ぎず。本庄はもと清領當時嘉義東堡に屬せし後大埔庄の地にして、久しく番人オオロの一族族たる阿里山番の住地に屬し、簡仔崙(カナアグー社)の在りし處なり。のち竹崎庄方面より入り來れる廣東人によりて開拓せられしが、地は都會地を距る事遠きを以て、我朝臺灣後に至るまで匪類として目せられ居り、文明の恩澤に浴する事、今に至るも少し。大正九年十月地方制度改正に際し、嘉義東堡下の地を割きて、大埔庄なる一庄を建て、臺南州嘉義郡の管下に設く。

タイホ 大棧村 ↓大棧村(嘉義縣)
の地に來りて下妻氏を稱し子孫累世の居城とす。新舊宮廟同志に城戸氏の祖を祖平次郎範遠といひ此人始めて下妻庄に住す。其子左衛門忠範、其子範光始めて城戸庄司と稱す。その子左衛門忠範、範光とす。康正中に至りて多賀谷氏家これに代りて下妻に居す。俗説に範光を城戸道光に作る。其説に多賀谷氏を竊ひて道光を殺し其財寶を奪ひ終に下妻に住すといふ。(大寶城址) 指定史蹟。大字大寶にあり。東西北の三面斷崖、もと大寶沼たりし水田に臨める要害の地にあり。世々下妻氏の居城たり。興國二年十一月春日中將北畠顯時、興良親王を奉じ小田城よりこゝに移り圍城に呼應して賊軍に對抗せしが、高麗冬來り攻め同四年十二月に關・大寶の兩城陥るに及び城主下妻政奉節に死す。此處を制す。同五年三月春日顯國富城を攻取せしが、即日、結城直先來り攻め翌日城を復す。是より坂東悉く賊軍に歸す。大寶城は南を大手とし北を本丸とす、南方に土壘なる存七塚は埋められて藪道となる。北方また殘壘塚を存す。舊本丸址と稱せらるる地點に縣社八幡宮の祠宇あり、その宮寺址土壘及び井戸址等を存し舊規の見るべきものあり。大寶沼は大寶・關兩城々濠に掘せられたるものにして防禦上重要な使命を有せしものなり、明治大正の間に持水耕池整理しいま水田となるもなほ舊形依稀

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大茅島 青森縣朝鮮全羅南道安島郡
タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー——タイホ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー——タイホ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホー 大寶村 茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の西岸にて下妻全村平地にて畑地多く西部を南流する小貝川の小支流附近及び東境附近は水田をなす。農業主にて米・大麥・小麥・蕎麥を産す。鐵道下妻町より東りて二分し、一は北方に通じて下館町(約一軒)に至り社線常陸鐵道これに沿ひ、村内中央に大寶驛(大正二年設置)あり。他の一は東北に走りて眞壁町(約一四軒)に通ず。和名抄に新治郡下館郷あり。蓋し下妻町と共に其地とす。中世、小山朝政の子朝長こ

タイホ——タイホ

せるを以て、水系また錯雑し、地形頗る複雑なり。臺灣の脊梁山脈は本州の南端に於て南湖大山(三七九七米)を起し、本州に入りて漸次高度を低下し、ムルロア山(二二〇米)、三星山、大元山を起し、宜蘭平野を覆むに當りて更に蘭茨山、大白山、東澳山等を出し、蘇澳海岸に到りて太平洋に入る。又分水嶺は南湖大山より西折し、名高きヒアナン鞍部を現出するも、本州と新竹州・臺中州との交界に到りて桃山(三三九〇米)となり、是れより本州と新竹州の境界を北上して、ハイタル山・棲蘭山を起し、高度を低下して阿玉山・三角崙山に達し、宜蘭郡下に入りて湖底嶺・草嶺の鞍をなして海に盡く。又ハイタル山より西北に一支脈を出し、マン山・ラライ山・ルヘエ山、仰天山に達し、是れより分岐して、一は新竹州界を西走し、他は北走してタカイ山・ロッヘイ山を形成し、更に北に延ぶ。其西に臺北盆地の南縁をなす低山性の一支脈あり。大屯火山は州の西北部一帯に蟠居する一帯の山脈にして、七星山を中心とし、東には積善山、東南方には沙帽山、西方には大屯山・雨天山ありて臺北盆地の北縁をなす。是等諸山は秀麗なる圓錐狀を呈す。昭和十二年は大屯火山第一帯の地は臺灣國立公園に指定せらる。河川の主なものは大雨溪・大濁水溪・宜蘭濁水溪・淡水河等にして、大雨溪は花蓮港との境界を東流して太平洋に

注入し、宜蘭濁水溪はヒアナン鞍部北部に源を發して宜蘭平野に出で、細狀に流れて太平洋に入る。淡水河は臺灣屈指の巨流にして、上流は大崙坑溪と稱し、源を大崙尖山の東麓に發し、臺北盆地に入り、臺北市の西を流れ新店溪・基隆河を合流し、淡水より海に出づ。淡水池は其河口池なり。淡水より約十軒、臺北市までは水深く舟運の便あり。臺北盆地は、淡水河及び其支流に沿ひて發達せる臺灣屈指の盆地平野にて新店・大崙坑兩溪の合流點臺北市附近を中心とし、北は大屯火山の裾野に達し、東より東南にかけては善界山脈に抱かれ、南は大崙坑溪の流域を廻りて新竹州桃園郡下に延び、西は淡水郡八里庄臺地の裾に達す。東北部は大屯・觀音兩山の間に海に出で、海に開く陥没平野にして、曾ては湖なりしと云ふ。平坦廣闊にして水利に富み、土地肥え、田園廣く開く。海岸線は概して變化に乏しく基隆・蘇澳の二港及び、淡水の河口港を造るのみ。本州下の地層は山地に於て、概し第三系著しく發達し、臺北平野・八里庄臺地に第四系の發達せるを見る。大屯火山の基成地質は第三系の中新世に屬し、火山噴出物にして安山岩よりなり、金・硫黄・硫酸鹽土等の礦物を産出し、處々に硫黄氣を穿つ。臺北盆地は沖積層にして、淡水河沿岸は砂土厚く上部を被へども概して第三系頁岩の分解せる粘土又は粘板岩より成れる粘土を以て形

成さる。北部地方山地の層中には、多量の石灰を埋藏し、所謂臺灣北部炭層層を構成す。(氣象)概して雨期と乾燥期の二期に分ち得られ、十月より翌年三月迄を雨期とし、四月より九月迄を乾燥期とす。乾燥期中六月八月は南國特有の酷暑にて、室内華氏百度に登る事珍らしからざるも、屢々襲來する驟雨により特有の涼味を滿喫し得らる。されど初秋の候には、時に猛烈なる颱風に襲はれ、豫期せざる被害を受ける事尠からず。(農業)農産物中主要なるは米作にして、若干の單期作田を除けば、他は全部兩期作田にして、近年は蓬萊米種の栽培盛にして、内地に移出さるゝもの多し。米産總額は三二〇〇萬圓に達し、州下農産總額の約七割を占む。米に次ぎて主要なるは茶にして、茶は本島輸出品の第一位を占むるものなり。近年紅茶の製造行はるゝも、文山郡下より産出する茶は風に文山種茶の名高し。粗製茶年産二百萬圓に達し、烏龍茶・包種茶・紅茶等を合すれば、其總額一千萬圓に上る。甘蔗は主要食糧の一にして、酒・酒精等の原料たるの他、澱粉・甘蔗糖の原料となるを以て其産額又著し。甘蔗栽培は本島南部を以て、土地氣候等の條件に於て若干劣るを以て、南部に比して其栽培盛ならざれども、臺北市の臺灣製糖、宜蘭街に昭和製糖會社の新式工場を有するを以て、他に食用として栽培せらるゝ食品甘蔗を合すれば

其收穫年三億斤に達す。臺北市、基隆市等の大消費地を控ゆる本州は、蔬菜栽培又盛にして、淡水河西部の海山郡・新莊郡は、其主要栽培地をなし年産三百萬圓の多し。其他新莊・文山・宜蘭郡下には甘藷・柑桔・金柑等の柑桔類の生産年五十餘萬圓を有す。また茉莉・胡麻・秀英等は特種栽培物にして、諸種類の茶に芳香を興ふるに用ひられ、新莊・海山・七星郡は其特産地なり。(畜産業)州下の畜産業は主として農家に於て副業として行はれ、是を専業とする者少し。豚・水牛・黄牛は其主なる飼畜にして、其他山羊・家畜等を飼育す。水牛・黄牛は概ね勞作用として使役せらる。昭和十年米に於て、牛は三萬餘頭・豚二萬二千餘頭・山羊二千七百餘頭を算せるも、州内の需要に満たず、豚は島内より、牛は青島・内地より莫大なる供給を受く。(林業)林野面積は管内面積の三分二を占め、諸種の産出あり。其大部分は宜蘭濁水溪上流一帯より出づ。此の區域は、營林所の伐採區域に屬し、扁柏・紅檜・杉・松・杉・松等の小松等の木材を出す。然して此の區域のみにて年産百十餘萬圓あり。行政區域内、又は平地に近き山地より竹材・薪炭材を出す。其他善地の三星山・棲蘭山等には千古茶鏡の入りたる大檜林を擁す。林産總額二百六十萬圓餘に達す。(水産業)臺灣に於て最長の海岸線を擁し、基

隆・蘇澳の二港の外、淡水・石門に船渠を有する州下の水産業は、全局第一にして、沿海は暖・寒二流に洗はれ各種魚族に富む漁場を有す。殊に基隆港は沿海・近海漁業の根據地をなし、舊式漁船の外、新式機關を有する漁船輻輳す。主なる漁獲物は、旗魚・鮪・鰹・鰯・鰱・鰪・鰻・鱈等にして、其他珊瑚は大正十三年彭佳嶼附近に發見せられし以來水産界の寵兒となり、基隆・臺北兩市には、是が加工業發達せし、置獲の結果漸次不況を呈し近年は年産十萬圓程度に過ぎず。水産製造物に於ては、乾乾鰹、惣節節の製造あり、近年は其品質改良せられて其産額著しく増加す。水産總額昭和十年中に於て八百餘萬圓に達す。(鑛業)鑛産の主なるものは、石炭・金・銀・硫黄にして、其他砂鐵・硫化鐵鑛もあるも其産出額大ならず。石炭は主として善界山地に其産額を有する他、基隆・七星兩郡下にも是を有し、年額六百二十萬圓を採掘し、州下鑛産總額の五割弱を占む。金の發見は清領當時、基隆河に粗狀砂金を認めたるを契機として、瑞芳金山發見せられ、續いて金瓜石鑛山を得、我領臺灣新式鑛法を以て、銳意産金に努力したるを以て、一時本島鑛産の首位を占めたるも、其後漸次衰退し、近年稍増加せり。其産金額年十一萬グラム餘なり。硫黄は、専ら舊式の方法に依りて採集せられ、採取地は大屯火山群一帯の地にして、年額

三萬餘圓なり。(工業)本州は臺灣第一の工業地帯にして、諸種工業は、殆ど本州に集中し、工場甚だ多し。製糖・製茶・製紙・麻織・漆工・爆竹・爆竹・製材・製氷・造船・煉瓦・肥料・製革・石油・窯業・製糖・酸素瓦斯・香料・錫鋼・硝葯・炭化石灰・活版印刷・橡膠・瓦斯・織工・ヨム等多岐にして、工業總額は實に六千萬圓に達す。殊に製糖(再製糖)三井物産會社の近代工場、各地に設けられ、包種茶・烏龍茶・紅茶を再製す。これ等は包種茶・中央アウ・南支・北支・滿洲等に輸出せらる。(交通)陸上交通機關は、官設鐵道に於て縱貫線四九三軒、淡水線二一・二軒、宜蘭線九三・五軒、平溪線一・九軒あり、私設鐵道は萬華・新店間一四・五軒ありて、乗合自動車・手押鐵道と共に重要な補助交通機關をなす。道路は領臺以來鋭意新設改修に努められたる結果、最近大に整頓せられ、現在指定道路は總延長六三〇軒に達し、アスファルト・混泥土等によりて近代化的舗装なされし部分少からず。海上交通は、専ら基隆港を起點とし、本島に於ける大宗にして、本島沿岸航路、内地・滿洲・南北支・南洋に定期航路を有する他、歐洲航路も寄港す。又昭和十一年よりは臺北市を起點とする、内臺間、島内の定期航路も開設せられ、近年その機材・設備等に於て充實し、州下交通は其利便を加ふる事となれり。

(沿革)臺北州下はもとケタヤランと稱する平埔蕃族の占居せし地なりしも、皇紀二二八四年(西紀一六二四)、和蘭人、南部臺灣を占居するや、當時すでに比律賓諸島に進出し居りし西班牙は、更に支那及び日本・呂宋間に於ける貿易を保護する爲との名を以て、進みて北臺灣の占有を企てたり。事は皇紀二二八六(西紀一六二六)年に於て、即ち和蘭人の據臺後二年ありき。是に於て西班牙人は、此の年五月、アントニオ・カレンニオを司令官とするガレオン船二隻を以て臺灣に向はしめたり。カレンニオは即呂宋ガレオン港を發して臺灣に渡り東海岸を探險しつゝ北上し、ついに基隆に入港し、サンチャゴ・トニゲード(Santiago de Chilo)と命名し、社寮島西南角の地を以てサン・サルバドル(San Salvador)の築城に着手し、次で背後の山上に一ヶ所、八尺門水道の汀に一ヶ所の堡壘を築けり。皇紀二二八八(一六二八)年には淡水の地を占領し、サント・ドミンゴ城を築きて其守備に當たり。兩城附近並にその中間なる基隆河、淡水河に接したる諸蕃族は、西班牙の宣教師の教化により降服し、教化は遠く宜蘭地方にまで達せりと云ふ。然るに基隆在住者は、風土病に罹り、他方、支那商船の基隆に入港する者は時期せしより甚だしく、皇紀二二九五(西紀一六三五)年には、日本船の海外渡航禁せられしを以て、貿易港

として基隆港の價値、著しく減少せしめ、基隆は、比島政廳當局の疎す所となるの現象を呈するに到れり。此處に於て、かれて西班牙人の北部臺灣依據地、著しく弱衰せられ居りし和蘭は、此の機を利用し、皇紀二九〇二(西紀一六四二)年、船七隻を以て、基隆を攻撃し、攻城五日にして、西班牙人を臺灣より驅逐するに至りたり。こゝに於て西班牙人は、北部臺灣に據ること十六年に於て、離臺するの止むなきに至れり。かくて和蘭人は、西班牙人に代りて、北部臺灣をも併せ統治する事となりしが、サン・サルバドル城は、これをフリード・ホルランドと改名し、山上の堡壘をピットロイヤ、八尺門の堡壘をエルトンアルフと命名して、基隆港の守とし、北部臺灣の經營に乗り出す事となりたり。されど、和蘭人の本據は南部臺灣にして、北部臺灣に於ては、其經營見るべきものなく、諸種記録に於て、和蘭人教化の及びし州下の蕃族名等を發見し得るも、奥地の開發、特に臺北盆地の開發等に於ては、其手延びざりしもの、如し。皇紀二三二一(西紀一六六一)年、明の遣臣鄭成功によりて、和蘭人の臺灣に於ける歴史を閉づり、鄭氏は直に全臺灣の植民に着手し、銳意臺灣の開發に努めたるも、是また其重點は南部臺灣に注がれしを以て、その勢ひは北部に疎ならざるを得ざりき。従つて既に當時より和蘭人の北部臺灣に來航し、蕃

タイホ——タイホ

人に伍して地を耕し、貿易に従事せし者ありしも、其開拓の業成りしは、全く清領後でありと云はざるべからず。臺北盆地に漢人の來住増加せしは、漸く康熙初年の事に屬すと云へども、其本年には盆地の縁邊に、漢人部落形成せられたり。此處に於て、さきに臺北盆地に隣接せし平埔族は、其勢力を失し、是に代りて漢人大に威を振ひ、盆地の中心に向ひて進出し來るに至り。康熙五十七年、淡水に北路營部司設けられ、雍正九年には淡水廳設置せられて、文武の機關、始めて北部臺灣に出現するに至りしも、臺北盆地の人口益々増加し、商勢盛なりと共に、乾隆二十四年、營部司は延平に、三十二年巡檢を新庄に移轉さるゝに到り、遂に文武政治機關は臺北の中央部に出現し、盆地一帯は名實共に北部臺灣の中心地たるの姿を具現せり。同治十三年には臺北府分立し、光緒十一年には臺灣を一省とし、同十八年に省城を設けしより、現臺北市の地は、全く臺灣の首都たるの實績を備ふるに到りたり。我が領臺の翌明治二十九年に民政部が、舊制に準じ、臺灣は三縣に分たれしが、州下の地は臺灣縣として、臺北府は臺灣の首都となりしも、同三十年、臺北縣、宜蘭及び新竹廳の一部に分たれ、歸來後度が區域變更せられたり。されど大正九年十月には、根本的地方制度の改正を行はれ、現在の臺北州となり、その下に二市九郡

を管轄する事となり。【臺北市】臺灣臺北州二市九郡の一。州の東北部、臺北盆地の略中央部に位置し、臺灣の首都なり。地勢概ね平坦にして市街地に適す。市は概して西部市街地と、東部農耕地とに分せられ、市街地は淡水河の東岸に建設せられたる近代的明瞭なる都會なり。大略、舊城内・大稻埕・紅橋(萬華とも書く)の三市街の集合せしものにして、現在もなほ各々の特色を發揮す。舊城内の地は、三線道路を以て圍繞せられ、主として内地人の居住する者多く、總督府廳舎の擬然として聳ゆる外、政治・經濟・産業の諸機關は勿論、公園・圖書館・博物館等各種の大建築備此す。榮町・本町・京町は商店街にして百貨店を初め、各種商店立並び、各戸に設けらるゝ亭子間、南國特有のものにして一般の進歩道として用ひらる。明るき町、清潔なる町として、東郡銀座にも比すべし。舊大稻埕はいま大平町・永樂町を中心とする一區にして、本島人居住者その大部を占む。大部分は商業區域に屬し、臺灣に於ける重要輸出品たる米・茶の取引は概ね此地に於て行はる。家は概ね概ね煉瓦造にして、瓦軒を連れて外國商館に伍し、城内とは又著しく異りたる情態を有す。大平町通りは、大稻埕のメインストリートとして近年は軒並の舊式建物逐次改築せられ、著しく面目を一新したり。舊紅橋は、入船町・龍山寺

町・八甲町・新起町を中心とする臺北市最古の市街にして、現在も、昔日の面影は見るべからざるも、商業地として殷賑は極め、殊に新起町・西門町附近は西門市場(食料品小賣市場)を中心とする一區にて、各種飲食店、バー、活動寫眞當設備劇場多く、所謂市の下町にして、歡樂場を現出し、夏夜のプロムナードに適す。西方を淡水河に阻らるゝ本市は、必然的に他の三方に膨脹を餘儀なくせられ、城東方面には臺北帝國大學醫學部・中央研究所・臺北州廳・臺北市役所・守備隊司令部・歩兵聯隊・山砲隊・高等商業學校等所在し、其間に官舎・住宅街發達し、城南方面には、兒玉町に内地人商店街あり、之を中心として、専賣局・植物園あり。東南は所謂新開地にて、主として住宅地なり。高等學校・臺北帝國大學(文政・理農學部)等の建築あり。城北には臺北驛より、是に北接して建成町・御成町・大正町の商業住宅地あり、更に勤使街道を北上すること三軒、基隆河に架せられたる明治橋を渡れば、臺灣神社鎮座す。附近一帯は圓山と稱せられ、大宮町・圓山町を中心とし、臺北市の遊園地として名高く、圓山公園・運動場・動物園等所在す。(産業・交通)本市は島内各地産物の一大集散地たるのみならず、政治・經濟・教育・商工業・金融の中心地なるを以て、勢ひ物資の消費地となり、生産地たるを得ず。従つて産業に於ては商工業

町・八甲町・新起町を中心とする臺北市最古の市街にして、現在も、昔日の面影は見るべからざるも、商業地として殷賑は極め、殊に新起町・西門町附近は西門市場(食料品小賣市場)を中心とする一區にて、各種飲食店、バー、活動寫眞當設備劇場多く、所謂市の下町にして、歡樂場を現出し、夏夜のプロムナードに適す。西方を淡水河に阻らるゝ本市は、必然的に他の三方に膨脹を餘儀なくせられ、城東方面には臺北帝國大學醫學部・中央研究所・臺北州廳・臺北市役所・守備隊司令部・歩兵聯隊・山砲隊・高等商業學校等所在し、其間に官舎・住宅街發達し、城南方面には、兒玉町に内地人商店街あり、之を中心として、専賣局・植物園あり。東南は所謂新開地にて、主として住宅地なり。高等學校・臺北帝國大學(文政・理農學部)等の建築あり。城北には臺北驛より、是に北接して建成町・御成町・大正町の商業住宅地あり、更に勤使街道を北上すること三軒、基隆河に架せられたる明治橋を渡れば、臺灣神社鎮座す。附近一帯は圓山と稱せられ、大宮町・圓山町を中心とし、臺北市の遊園地として名高く、圓山公園・運動場・動物園等所在す。(産業・交通)本市は島内各地産物の一大集散地たるのみならず、政治・經濟・教育・商工業・金融の中心地なるを以て、勢ひ物資の消費地となり、生産地たるを得ず。従つて産業に於ては商工業

を除けば、特に他に勝るもの少し。僅に是を摘記すれば、農業・畜産業等なり。農業に於ては、本市區域内に於ける耕地は市街地の發展に伴ひ、工場敷地または住宅地に侵蝕せられて、年々減少しつつあり。主要産物は米・蔬菜・果實・甘藷・香花等にして約一四〇萬圓なり。畜産は牛・豚・家禽を主とし、一時は豚の需要著しく増加せるを以て、是が倒産獎勵を關りしが到底市の需要に應ずる能はず。いま年々數萬圓の移入を受くる状態あり。工業は本市諸産業中最優位を占むるものにして、其種類多岐に互れども、其主なるものは製茶・粗糖・精米・製糖・木製品・製材・ビール等にして一ヶ年生産總額一億六千萬圓に達す。殊に茶はその首位を占め、海外に輸出せらるゝもの多し。商業は甚だ殷賑を極め、近く基隆・淡水の二港を控へ、又其他、鐵道・自動車等、各種運輸機關は概ね本市を中心として發達するを以て、島内各地よりの物産の取引甚だ盛なり。舊城内(榮町・本町・京町)・舊大稻埕(永樂町・大平町)には大小店舗を始め、島内外輸出入商業合し、近時頗る活況を呈す。市の交通は主として、臺北市經營にかゝる市營聯合自動車を以てなされ、現在十四線、百數十臺の車を配設す。其他、人力車は安價輕便なる補助機關として交通を助く。總督府鐵道購買課は本市を東西に貫き、市内に臺北(明治二十九年設置)・萬華(明治

三十四年設置)・松山(明治三十一年設置)の三縣を有し、前者は淡水線の起點をなし、市に大正町・雙連・圓山・宮ノ下(圓山は明治三十四年、他の三者は大正四年設置)の四縣を設く。又後者よりは私線を出し萬華・新店間を運轉す。又昭和十一年一月よりは商業航空路開設せられ、日本航空輸送株式會社の手により、一週三往復の内地—臺灣間(福岡—臺北)の定期航空路開始せらるゝに及び、同十一年八月よりは、臺北—花蓮港、臺北—高雄間の定期航空開始せられたり。かくて臺北は海、陸、空交通の中心地となり、益々島都たるの實績を備ふるに至り。然るに内定定期航空に於ては、是を利用する者甚だ増加せしを以て、昭和十三年一月よりは、一日一往復制を採用し、福州—東京間は即日連絡を行ふに至り。【沿革】市の沿革を按ずるに、往昔臺北盆地は、平埔番ケタガラン族の蹤跡逐處せし地にして、領臺前市を大加納堡と稱せしは、同蕃族の地名タカラアに宛てし近音譯字なりと言ふ。一にケタガランとは、平地に住む人を意味すと云ふ。漢人の來住ありしは、遠く明萬曆年間ありしもの如く、降りて、十七世紀初期の西班牙人の占居時代、次に和蘭人の占居時代、鄭氏占居時代は、其經營は専ら南部臺灣に力を注ぎし結果、鄭氏に代りて清朝の臺灣を占領布政するに至る迄は、全く荒蕪に任ぜ、土蕃の逐鹿に任ぜられ

居りたるもの如し。然るに康熙四十七年泉州人陳賴章なる者、官に請ひて此地の開墾に着手せし以來、漸く臺北盆地開拓はその緒に就き、泉州人の渡來する者は特に多く、酒肉・布片を土蕃に與へて彼蕃と土地の開墾を約し、之が拓殖に努めたり。乾隆二十四年(皇紀二四一九)、さきに八里坌(現淡水郡八里庄)に建てられし、北路營部司を紅橋に移し、また同三十二年(皇紀二四二七)には、巡檢を新庄(新莊郡新莊街)に移されし以來、文武の政治機關は、臺北盆地の中央に聚り、加ふるに當時淡水河流域は内港(淡水港に對し)と稱して、巨舟大船を遠く新庄の埠頭に輻輳せしめ、對岸との通販を行ひたる結果、著しく臺北盆地の發展を促し、新庄は當時臺北の集會の姿を形成せり。この間、泉州人にならひて、漳州人の渡來する者漸く多く、林成祖は淡水河以西を開拓し、郭元汾なる者は新店溪一帯の地を拓くに到り。嘉慶十四年(皇紀二四六九)、縣丞は新庄より紅橋に移住せられ、淡水同知は、半ばは竹塹(新竹)に至り、新庄は沿岸の遊漢と共に、紅橋は新庄に代りて船舶の集中地となりたり。當時紅橋は沿岸水深深くして帆船林立し、臺灣三大港の一として數へられ、一府(臺灣府の臺江)・二鹿(鹿港)・三紅(紅橋)の稱ありき。また蕃蕃市と稱せられしは、且て此地サマタリなる蕃社の所

在地にして、雍正初年一事件を形成し、僅かに蕃票を販賣せしを以てかく呼ばれしなり。其後市街の發達し人口の増加したる後近音譯字を宛て、歡應市とも記せり。かゝる中に、先住の泉州人と後來の漳州人との間には屢々分割械闘を生じ居りしも、咸豐三年には大抗爭の後、泉州人敗退して新に居る北方の原野に求め、一部落を建設し、實に大稻埕街の起源を作せり。大稻埕の地は原と生母車(ケエアワクク)と稱する平埔蕃部落の所在地にして、今なほ土名城隍廟街(永樂町)の遺跡を存す。臺灣府志には、奇武幸莊の名見ゆ。之より先、康熙末年此地に移住せし漢人の手により水田拓かれたり。かくて咸豐年間街を建つるに際しては、是を街名として用ふるに到り。これより大稻埕は臺北北方の集會地をなし、泉州人の來住益々、商業の中心地となり、同治年間臺灣北部に茶葉の興るに及び、其集會地として、其名頗る擧りたり。光緒十三年巡撫劉銘傳、臺北を商業地として工を興し、市街を擴張するに及んで一層面目を改めしが、他方紅橋の沿岸、上流より流さるゝ砂の爲浮起し、大船の泊する能はざるに到りしかば、自然其處は、紅橋の地を離れて、大稻埕に移り、外國人の來住する者も増加し、米・狗の領事館相隣りて設けられ、巨商富戶密聚するに到り。また大稻埕の北方には大陸間の市街形成せられたり。大陸間の地は、

ケタガラン族大漢軍のトアロツゴン社のありし地にして、彼ケエアワクク社に合せられしを以て、漢人は大漢軍と生母車とを合稱して生家(ケエゴン)と呼べり。街肆の形成を見たるは、嘉慶七年にして、大漢軍に近音譯字を宛て、大陸間と書せり。いま大龍廟町の文字を併用せり。一方政府に於ては咸豐年間臺灣道夏獻綸に依り、一直隸州を臺北に設くべきを講せられ、同治十三年(皇紀二五三四)に到りて、臺北府の分立せらるゝや、府治の位置は、上記四街の略中央部に卜定せられ、此處に初めて臺北の名稱出現せり。光緒元年欽差大臣沈葆楨の建議により新に臺北府の増設を見るや、同四年臺北知府陳星聚は、築城の計畫を建て、官紳士民の捐金を募りて臺北城の建設に着手し、八年三月遂に府城の竣工を見たり。かくて城内には、官衙・廟宇を造營し、市街を區劃して民衆を招致せしかば一律街を現出するに至り。光緒十一年(明治十八年)臺灣を一省とし、臺灣巡撫として劉銘傳來臺するや、當時城内人煙の稀疎なるを見て、是が繁榮策を計り、上海・浙江・蘇州の富紳を勧誘して興市公司を設立し、新に街衢を設け、電

地を占む、市の発展に努めたり。十八年... 省城の地を臺中より此地に移すに及んで、清賦局・機器局・電報總局等を城内に建て、大に面目を一新せり。明治二十八年本島の我帝國の版圖に歸するや、臺灣總督府、臺北縣を此地に置き、漸次内地人の來住する者を増加せり。されど當時は街路狹隘、上下水の設備なく、又城内處處には水田を、不潔なる状態甚しかりしを以て、翌年には、先づ下水道を設け、三十二年には、市區改正の計畫を建て、街路及び下水道の敷設延長、淡水河護岸々々を完成して、市より水網を免れしめ、臺北城の東・南・北及び小南門の四門を築いて城壁を撤去し、其の跡に三線道路を開けり。然るに明治四十四年未曾有の颱風により、在來本島人家屋の大半破壊し去られたるを以て、當局は理想的大臺北市建設の計畫を爲し、其後漸々計畫實現して、今日の宏壯、明瞭なる市街を建設したり。大正九年十月地方自治制度の實施せらるるや、城内、大稻埕、板橋及び隣接の諸部落を併合して、臺北市となし、新たに市制を布くと共に従来の街名を廢止して内地風の町名を以てこれに替へたり。其後、昭和七年人口六十萬を目標とする大臺北市建設の都市計畫の下に、着々市は發展し、昭和十三年四月一日には、七星松山庄の地を臺北市に編入する事となれり。〔臺灣神社〕大宮町に鎮座す。臺灣の總鎮護の神な

り。祭神は二座にして、大國魂命・大己貴命・少彦名命の三柱を一座とし、北白川宮能久親王を一座とす。能久親王は、臺灣征討の宮として、臺灣各地に御轉戦ありしが、不幸瘴毒の犯すところとなり、遂に臺南に於て薨去あらせらる。よりに親王を臺南に祀り、親王は南方鎮護の神として此地に永へに鎮まります。毎年十月二十八日を以て祭日とす。〔建功神社〕南門町植物園内に鎮座す。改竄以來本島に於て公務のため戦死・殉職せし勤王者の英靈一萬六千八百餘柱を合祀せらる。昭和三年七月鎮座祭を舉行す。〔北白川宮能久親王殿下御駐營之址〕指定史蹟。大和町に在り。指定の場所は曾つて總督府陸軍部總舎として使用せし、清領時代の布政使衙門の一部なり。明治二十八年六月十一日、能久親王は臺北城北門より御入城あらせられ、本建築を師團司令部として、七月二十八日まで御駐營あらせらる。〔石器時代遺蹟〕圓山町に在り。圓山公園一帶の地に亘り、史蹟に指定さる。具塚は主として一種の大形甕により形成せられ、是と共に蛤・牡蠣・鹽吹貝等の海産物を糝に混す。其他各種石器・土器・獸骨等を包含し、近く原住民が石器製作に使用せしと思惟せる大礫石が石器〔臺北城門〕指定史蹟。我が明治七年牡丹社討伐の結果、清國政府は、二十萬兩の資を投じて、築城の計畫を立て、光緒六年(明治十三年)工を起し、八年三月臺

北城竣工せり。築城の材料には總て堅緻なる石材を用ひ、城壁は方形にして、東西四一丈二尺、南壁三四二丈、北壁三四〇丈、厚さ一丈二尺、高さ二丈、上部に凸凹形の障壁を設け、東西南北の四門と、南門の西に小南門を置き、之に樓門を建て、城外に濠を繞らし水を通せり。東門を景福(照正)、西門を寶成、南門を隆正、北門を承恩、小南門を重熙と稱せり。城内には、布政使衙門・撫臺衙門・臺北府署・淡水縣署・考棚・文武廟・城隍廟等宏壯なる建物ありしが、今は全く是を取毀ち、或は他に移轉して殆ど臺北城を記念すべきものなく、たゞ右の四門を存するのみとなれり。〔孔子廟〕大龍峒町に在り。もと文武町第一師範學校・第一高等女學校・法院敷地附近一帯を占め居りたるも、建築後久しかりし故、腐朽甚しく、且つ市區改正に際し崩壊取拂はれ、其神位は第一師範學校構内に小祠を設けて之を安置したるも、大正十四年、市の有力者相謀り、工費二十萬圓の寄附を募り市内現在の地を選びて新廟建立に着手し、現在既にその大半を竣工す。〔霞海城隍廟〕永樂町に在り。本城隍廟は清國時代の城隍にして、毎年五月十三日を祭日とし、當日は市内近郊は勿論、遠く全島より參詣する者多し、信者數萬よりなる行列あり。〔龍山寺〕龍山寺町に在り。觀音佛祖を本尊とし、多數の佛像を安置す。信徒五萬と稱せられ本島有数の

寺廟なり。乾隆五年の建立なるも、爾來幾度か改修を施さる。大正九年臺北在住の有志より募金を得、同十五年竣工す。其丹青の美、輪肉の壯なる又東洋美術の粹を兼ね得たるものと云ふべし。〔西萊古廟〕龍山寺町に在り。北管音樂の神西萊王爺を祀る。同治十三年の建立なり。配祀は國都元帥、武安王(水滸王)、公子爺・西萊王夫人なり。技藝の上達、辟香の嚆矢、戲珠の和協、財源の増進を祈る者多し。〔清水祖師廟〕新起町に在り。福建省泉州府安溪縣湖內鄉なる清水祖師本山とす。主神たる清水祖師は七體にして、内一體を蓬萊大祖と稱し、其靈驗の特長に據り、鼻落祖とも稱す。鼻落祖とは、天災地變、其他人事の重大事ある場合、其神像の鼻落ちて、其前兆を示すによりて其名出たりと云ふ。清佛戰爭の際、陸軍總司令孫開華之に祈りて佛軍を擊退し、後朝廷に奏上して勳賞を賜りし事あり。〔保安宮〕大龍峒町に在り。保生大帝を主神とし、從祀として三十六軍將の從者を祀る。祭典は、三月十四・十五日に執行せられ、病氣治癒に靈驗ありとし信仰する者甚だ多し。嘉慶三年の創建にかゝる。〔青山王廟〕入船町に在り。青山王を祀る。青山王は靈安尊王と稱し、泉州府惠安縣青山に本祀を有す。武德の神、惡疫防止の神として信奉する者多し。成豐六年の創建に係り、毎年十一月二十二日を中心とし、前後三日間に

わたり盛大なる祭典を舉行す。〔臺北公園〕文武町に位置す。俗に新公園と稱せられ市内唯一のものなり。園内老樹多く花卉の新を求め、噴水・博物館・協和會館を初め、臺北放送局・音樂堂・兒童遊園場・天滿宮等あり、市民の散策地として著名なり。〔植物園〕南門町に在り。中央研究所林業試験所にして、俗に苗圃と稱す。園内には臺灣森林の有用樹・熱帯有用樹・植物を栽培し、其種類の多きこと東洋一と稱せらる。〔圓山公園〕圓山町に在り。樹木繁茂し滿山綠滴るが如く、動物園・遊園地等設けられ、また先住民の遺跡地として知らる。〔動物園〕圓山公園内に在り。臺北市役所の經營にして、東京・大阪・京都・京城を加へたる五大動物園の一にして、世界各地の珍獣鳥を聚む。〔臺北鐵道〕社線。臺灣北部にあり。臺北市新宮町の總督府鐵道監理線の萬華驛より臺北州の文山郡新店庄郡役所前驛に至る一〇・七軒。軌間一・〇六七軒、總督府鐵道と連帶運轉せず。〔臺北實業〕淡水線の一線(大正十二年設置)にして、炭貫線と接続す。臺灣臺北市にあり。

方的小金鐘山(二〇一四米)との中間鞍部を乘越す。昔は今の峰よりやや北方の約一九八〇米の高さのところに峠ありて物々交換の荷渡小屋ありしが風強く草木も生ぜず、冬季は往々凍死者を出せしかば、明治九年今の峰に移す。大菩薩嶺へは北西方約二軒。いま多摩川上流より甲府に出づるにはこの峰を越らして大菩薩嶺の北方より四方の裾を迂回す。〔大菩薩嶺〕關東山地大菩薩連嶺の一。大菩薩嶺(一八九七米)の北西約二軒に峙つ。山梨縣北都留郡丹波山村と東山梨郡神倉村との境上に跨る。標高二〇五七米。嶺の北面なる泉水谷・小室川谷等は多摩川の上流となり、東京市上水道の水源の一部をなす。山頂三角點のある部は密林にして展望はきかず、されど東部よりは雲取山(二〇一八米)・大洞山(二〇六九米)・牛王院山(二〇七〇米)等の秩父連嶺を望み、南面には雙子峰(二〇九六米、三ツ峰等を隔てて富士を望み、西南方に赤石岳(三二二〇米)・隱見岳(三〇四七米)等の南アルプスの連嶺を望む。三角點より約八〇〇米行けば妙高峯(一九八〇米)に至る。ここは昔、妙見菩薩安置されしに因ると云ふ。それより約七〇〇米下れば大菩薩嶺に至る。登山は西方鹽山方面よりするか、或は東麓小菅村より行ふ。

タイマ 大庭 大庭村 島根縣石見郡那賀郡の西部。廣田町の西南約一〇軒。西北一帯は海に面す。東南境には三百乃至五百米の山岳連なり、それ等の山脚何れも西に走りて海に迫り海岸をなすところ多し。隨つて村内の大部は山地にして沿岸及び山間諸處に耕地拓くるのみ。米・藪等の農産及び相當の林産あり。海岸線は長きとその多くは海崖をなし、また岩礁沿岸近く蟻窟して良港なく、水産業は盛んならず。山陰本線西部海岸に沿ひて走り折居驛(大正十三年設置)を置き、また國道山陰道これに沿ふ。此地古くは和名抄、那賀郡周布郷に屬せるもの如し。〔大庭山〕當麻山とも書く。島根縣那賀郡井野村と大庭村との境上に在り。標高五七四米。山麓花崗岩より成る。山中大庭山神社鎮座す。西麓は日本海の波浪に洗はる。↓井野村

より北西方金剛山地をすてて大庭平野に出で、社線、大阪鐵道東部を走る。和名抄に葛下郡當麻郷と云ふは本村及び磐城村・五位堂村邊に當る。古くは當麻連の居邑たり。戰連は角力の祖といはるる人。力強くして人に誇る。兼仁天皇命じて出雲の人野見宿禰これと力をくらべて戰連の腰を斬りて勝つ。帝、戰連の地を奪ひて宿禰に賜ふ。と日本書紀に見ゆ。いま五位堂村大字良福寺の裏折田はその舊蹟なりと。地に名利當麻寺あり。〔葛木二上神社〕大字榮野に鎮座。郷社。祭神、豊布那靈神・大國魂神。創立年代未詳なるも式内の大社たり。もと二上嶽坐敷布都靈神社・權現の社ともいひ、二上山の頂上にありき。例祭三月二十三日。〔當麻寺〕大字當麻にあり。古義眞言宗及び淨土宗。用明天皇の皇子藤子王(聖德太子御弟)の開創に係り、寺地は役小角の宅地なりと傳ふ。本尊に十一面觀音を安置し觀音・淨土の兩徒これを守る。古來諸武將の崇敬厚く江戸時代には寺領三百石を有せり。いま塔頭十一箇寺あり。寺域内の榮野寺(石光寺)は中將坂の傳説を以て著る。堂宇中、東塔・西塔・本堂・金堂・講堂及び寺寶中彌勒菩薩坐像一軀・木造阿彌陀如來坐像一軀・木造四天王立像四軀、他十一點は何れも國寶たり。うち當麻茶室は特に著名なり。なほ塔頭中ノ坊の書院は江戸時代初期の瀟灑なる書院造にして國寶たり。〔高雄寺〕大字

新在家にあり。眞宗本願寺派。役小角の草創と傳ふ。もと高野派に屬せしが、維新後現宗に轉ず。藥師堂本尊木造藥師如來坐像一軀・觀音堂本尊同聖觀音立像一軀は共に弘仁期の作に係り現に國寶たり。

タイマンジ 大満寺山

吉野(隱岐國島後)にある山。一に摩尼山と稱す。鳥佐の東端、西郷町の北に聳え標高六〇七・七米、鳥佐第一の高峰なり。海岸に峙立せるため西郷洞入港船舶の好日標たり。東南斜面の中腹に大満寺あり、古來阿闍梨の新任ごとに當大満寺に參詣し風波安穩を祈願するが例なりといふ。

タイモツ 大物浦

鎌倉時代頃の淀川河口に位置する要津にして西國往來の船の發着點たり。文治元年十一月、源義經、九州に赴かんと欲し、叔父行家と共に此處に乘船せしも、疾風俄に起りて舟離散して果さず。また藤原師長、土佐國へ左遷の途、大物浦に至り琵琶の秘曲を源惟守に傳授せし由、源平盛衰記に見ゆ。太平記には良親王の家臣泰武、御

息所に供奉し土佐へ下らんとして此所に至り賊難に罹りし事を記す。

タイモン 大門

【大門村】 埼玉縣武蔵國北足立郡の東南部に。浦和市の東方約六軒。綾瀬川の西南岸にあり。面積七・三六平方軒。全村平地にて綾瀬川沿岸及び西郷附近には水田あり。他は畑地をなす。農業主にて米・麥を産す。縣道は浦和市及び南方川口市(約七軒)東方南埼玉郡越ヶ谷町(約五軒)に通じ、何れもバスの便あり。また社線武州鐵道(村の中央を南走して、武州大門驛(昭和三年設置)・下大門・行衛(共に昭和十一年設置)の三驛を設く。この地は近世、足立郡三沼領及び南郷領に屬し、大字大門は大門宿と稱し日光御成道の驛亭の一たり。

【大門町】 富山縣越中郡射水郡の中部。庄川の右岸。高岡市の東方約四軒の地。面積一方軒。射水川の支分會社に當り土地平坦富山平野を占む。附近町村への一中心をなし、高岡市の東木戸に當る。製薬盛にして製薬の行商に出づるもの多し。北陸道及び省線北陸本線に沿ひ越中大門

驛に隣村大島村にあり。新潟町・中田町等へも縣道通じ、高岡市へはバスの便あり。古くは和名抄、射水郡三島郷の内に屬したり。明治十一年明治天皇北陸東海御遊幸の御に此地にて御小休遊ばさる。

タイモンジ 大文字山

【大門山】 白山火山帯の一峯。石川縣石川郡犀川村・富山縣西礪波郡太美山村・東礪波郡上平村の境上に位置。標高一五七二米。山麓石英粗面岩より成る。北斜面より犀川の一上源倉谷川發して北西流す。

【大門村】 長野縣信濃國小縣郡の南部。千曲川の支流依田川上流一帯を占め、長久保新町の南に隣る。東は北佐久郡に、南は大門峠を隔て、諏訪郡に界す。面積六九・一七方軒。全村山地にし中央を依田川北流し、谷沿ひに多少の集落あり、僅少の田畑を拓く外は概ね森林原野なり。米・麥の産ある外、原野を利用して牧畜行はる。北端にて中山道より分岐し谷沿ひに南走する縣道は大門峠を越え諏訪平に通じ、省線中央本線茅野驛(諏訪郡水明村)・丸子町間のバス通す。

【大門峠(嶺)】 長野縣諏訪郡北山村と小縣郡大門村との境上に跨り、海拔一四四二米。大門街道に當り、千曲川支流依田川の上流に沿ひ北降すれば中山道なる小縣郡長久保新町に至り、南降すれば諏訪郡北山村湯川に達す。この峠蘆田記には行者峠、三河物語には役ノ行者峠と見ゆ。天文十一年武田晴信、小笠原・村上とこ

こに三度戦ひ四度日に戦信、勝を得たり。【大門】 廣島縣深安郡大波野村の大字。山陽本線の大門驛(明治三十年設置)を設く。

タイヤ 大野面

朝鮮全羅北道沃溝郡の東南部。北部地境里の北方に五〇一〇〇米の丘陵起伏し東北部竹山里附近に五〇米程度の小丘を見る外は、城内傾る低平にして西名の示すが如き沃野拓け農耕盛に行はる。南の金堤郡との境に萬頃江流れ西南部に於て幅二軒の喇叭狀河口を開き、東方の羅橋湖(益山郡内)より灌溉用水路を通じ、また益沃水利組合の灌漑地域に屬するを以て灌溉水利の便甚だよし。萬頃江河口は泥堆積く速り舟運の便乏しく、その一部は開拓事業被成して美田と化せり。内地人經營の大農場二あり、その他内地人の營農者多く、農業の盛なること郡中第一にして、米・麥の産多し。北部を總督府鐵道蔚山線通じて地境驛(明治四十五年設置)あり、蔚山港へは鐵道僅に二軒。西邑地境を中心

タイヤ 大也島

↓荷衣面(朝鮮) 日光白根山の東谷川に發し、湯湖・戰場を原を経て中禪寺湖に注ぐ。その湖源近くは湯澤・龍頭瀧あり。中禪寺湖の湖脚を出でて急に落下して龍潭となり、峽

谷をなして含瀧ヶ瀧の名所を含み、日光の神橋下を過ぎて谷を出て今市町に向ひて扇狀地を作り、東流して鬼怒川に入る。流域約二七軒。湯湖より中禪寺湖に至る間は紅梅の釣場にして、華嚴遊園より下流に於て分水して水力發電に利用さる。全流域は風景に富み湯湖畔には奥日光の中心湯元温泉あり。戰場ヶ原は林相に特異性あり、中禪寺湖畔・華嚴遊園附近・日光廟附近の景はよく人口に膾炙さる。

タイユーサン 大雄山鐵道

社線。神奈川県下足柄野小田原町の東海道本線小田原驛より足柄上郡南足柄村の大雄山驛に至る。全長九・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸。

タイユド 大楡洞

↓東倉面(朝鮮平安北道) 朝鮮慶尙南道陝川郡の南部。北は洛東江の支流黃江によりて陝川面と分たれ、面積五六方軒餘。南境東部に國士驛あり、東境に太白山・御月峰・清溪山南北に連り、南西の境上にも山嶺つづき、以上いづれも高の中部に傾き、南部・東部よりの水は相集りて北流し、北部の正陽池に注ぎ更に從れて黃江に入る。これら諸水の谷とその傾斜地に耕地ありて米・麥・大豆等を産す。南方晉州より三嘉を経て北陝川に至る三等道路中部を南北に貫くも交通未だ便ならず。

タイヨ 大密灣

關東州東部

岸の中部にある。金州地境部の東を東南に突出する大孤山半島と細頸子半島によりて囲まれ、瀾口約二軒、瀾入約四軒、瀾奥は小孤山會の東南岸なり。

タイラ 多比良町

長崎縣門前國高島郡の北部。雲仙岳の北麓を占め北は海に面す。村は狭長にして南北約一〇軒、東西最長一・二軒なり。村の大部は美事な傾斜地を占め、概ね山林地をなすも沿岸には小低地ありて耕地拓く。主生業は農にして米・麥・蕎麥を産す。社線島原鐵道北部沿界を走りて多比良町驛(大正二年設置)を設き、縣道またこれに沿ふ。古くは和名抄、高島郡神代郷の内

タイラ 平

福島縣西郡の中部。縣の東南部。常磐炭田の中央に位置す。東北郡一般に丘陵起伏し、東北側に石森山(二二五米)聳立せるも、西南部に散して平坦にして第四紀層の沖積土に屬し地味肥沃なり。夏井川は西北方よりほぼ西端に沿ひて來り舊市街の北部にて西方より來る好田川を合せ、市内を横切りて東方流す。業務はこれ等二川の以南即ち舊城址の南に形成さる。而して城址の西なる一帯の臺地は官衙・學校・住宅區となり、その東南の低地は商業區、更にその東部及び南端部は工業地區として發展しつゝあり。最も古くより商業街として榮えしは、一丁目より五丁目に至る所謂東町通りにして、昔の市場の名残を留むる正月二日市の最も賑ふ地域なり。その南端に接續して西に紺野町・研町・長橋町、東に立町を経て

タイラ 多以良村

長崎縣肥前國西彼杵郡の西海岸。瀬戸町の北隣。全村丘陵起伏し東境に藤ノ平山あり、中部には狭長な低地ありて小河北流し七釜村にて海に注ぐ。西岸は稍屈曲せる岩石海岸にして山地海に迫り低地に透しく西南海上

川以北は人家密集せず諸處に點在し、其間には概ね水田なり。而して人口密度を推せば如何にも當市は常磐炭田の核都市たるのを觀を呈し、事實日用品の供給、學校及び地方文化の上より中心たるの位置にあるも、石炭の生産なくまた集積地にてもなく、單に心安い石炭の一消費都市に過ぎず。産業中その首位を占むるものは工業にして、蠶絲類(約七十九萬圓)・陶磁品(約三十八萬圓)・木工品(約二十九萬圓)等あり。農産は新市域平野の地

タイラ 大谷川

栃木縣中部の川。日光白根山の東谷川に發し、湯湖・戰場を原を経て中禪寺湖に注ぐ。その湖源近くは湯澤・龍頭瀧あり。中禪寺湖の湖脚を出でて急に落下して龍潭となり、峽

タイラ 大野面

朝鮮全羅北道沃溝郡の東南部。北部地境里の北方に五〇一〇〇米の丘陵起伏し東北部竹山里附近に五〇米程度の小丘を見る外は、城内傾る低平にして西名の示すが如き沃野拓け農耕盛に行はる。南の金堤郡との境に萬頃江流れ西南部に於て幅二軒の喇叭狀河口を開き、東方の羅橋湖(益山郡内)より灌溉用水路を通じ、また益沃水利組合の灌漑地域に屬するを以て灌溉水利の便甚だよし。萬頃江河口は泥堆積く速り舟運の便乏しく、その一部は開拓事業被成して美田と化せり。内地人經營の大農場二あり、その他内地人の營農者多く、農業の盛なること郡中第一にして、米・麥の産多し。北部を總督府鐵道蔚山線通じて地境驛(明治四十五年設置)あり、蔚山港へは鐵道僅に二軒。西邑地境を中心

タイラ 大也島

↓荷衣面(朝鮮) 日光白根山の東谷川に發し、湯湖・戰場を原を経て中禪寺湖に注ぐ。その湖源近くは湯澤・龍頭瀧あり。中禪寺湖の湖脚を出でて急に落下して龍潭となり、峽

間以後警備を支配すといふ。島居氏これに代るに及び初めて平城を築く。これより内藤氏・井上氏等と懸絶ありて安藤氏の時より明治維新に至る。明治二年平民政局取締所を設けられ、同年更に平野藩と改稱、同四年警備縣を設けられ、同九年福島縣に合併さる。本市はもと磐城平と稱せし地、明治二十二年自治制發布と同時に町制を施行し平町と稱す。而して明治三年同三十九年の二度の大震災によりて街區建物等全く面目を新にす。大正六年起工の上水道完成し市民は頓に活氣を帯び、昭和八年都市計畫法適用區域に指定せられ、同九年主要街路舗築工事了り、次で市街地建築物法適用區域に編入せられ、同十二年市制を施行し街衢整然市況殷賑を極め、今や縣内屈指の都市として内外外觀共に具備するに至る。市の西端に公園松ヶ岡あり。明治四十年約四ヘタールの地を開きて創設し、園内に丘陵・池沼・噴水・料亭等ありて諸國の樹木、数千種の鳥獸等自ら遠近に知られ、涼風に浴して松籟を聞くを得、四季訪客を絶たず、殊に春の花は遊覧客誘致の力に富む。臺地に老中安藤對馬守の銅像並に殉國の英靈を祀る忠魂碑あり。當市は關東より東北への漸移地帯に當り、炭鐵の開發と共に東北としては稀有の文化を持つものとす。然しそこにも古き傳統の民俗を多分に含み、殊に今同併合せられし平野村にその傾向強し。その一つは、シヤ

シヤカラ念佛なり。諸天上人の教へし念佛の一種なりと傳ふるも、田舎は盆の十四日、當市は十五日の晩に新盆の家へ、十四五名の念佛團各村より入り込む。三四人の太鼓を持ち踊り手を開き、他の者は鉦を打つて周圍を廻るも、モウホイ、ハワハの響子にて哀調を帯びたる喧騒は市の隅々まで流る。また島小屋は舊正月十四日の夜より翌夜にかけて九尺四方位の小屋を作り、一隅に神棚、中央に爐を設け、十五六歳以下の男の子を中心となり、夜を徹して鳥追を行ふ事なり。七小屋参りといひ若き男女は夕刻より連立ちて廻り歩きしもの、如きも、今は参詣に来た人々に御札を配り神酒を飲ませ、おでん・田樂の類を賣り最も文化的に若者等をかけて人を呼ぶ等に變化す。この小屋は十五日未明に焼き掃ふ。また各地に行はれる焚火は當市に於ける一偉觀たりき、盆の十三・十四・十五の三日間、夕刻の中央にラブ高く根松を積み上げ火をつけ、全町火の海と化す壯觀さをもちし、昭和九年アスファルトに鋪裝せられしより、この大行事は新興都市の蔭に消え、昭和十年これに代るべき七夕の行事を仙臺より移入せり。未だ移入後の日は浅きも、早や仙臺の名物を凌ぐ觀を呈するに至る。是等の古き民俗を遺存し、而も一方に於て新興都市として、古き民俗を棄てこれに代るべき新行事を容易に受け入れるところに平市の

面積九四・一九方軒。東南端・西北端の山脈はいづれも一千米を越え、村内略中央を西南より東北に貫通する庄川の谷へ急傾斜をなす。庄川は下流東小見村なる小牧・村内山脈の南端に依り、東洋に跨る二大ダム湖を現出し、小牧・山間、山・下梨間に舟楫の便あり。沿岸には山間發電所及び大牧・祖山の兩温泉あり。祖山より上流の各部落は冬季積雪に備ふる爲、三階・四階の高き家構へをなし村民は概ね養蠶・製炭等に出精し、冬季數ヶ月は冬籠りの生活なり。大字下梨より細尾峠を越え城端町に出づる驛道は上流飛騨百川村に入る街道の一部にして、城端町へは自動車も通す。本村は附近諸村と共に五箇山と稱せられ平家の發達の居住せし地として著名なり。大字上松尾の高原山脈に天柱石といふ巨岩あり。即ち斜に柱狀をなして屹立すること約四五米、周圍約七二米、その狀恰も大魚の天に沖せんとして牛身を顯はすに似たり。
【大牧温泉】 庄川河岸、削立てる断崖下の磯に湧出。泉質、弱鹽類泉。附近に芦倉瀧・無道瀧・大牧の大瀧あり、上流二軒の地點に加賀驛跡の發頭人火棍傳藏最後の地なる祖山温泉(炭酸泉)あり。
【平村】 長野縣信濃國北安曇郡の西部。大町の西南に連り、西より西北にかけては北アルプス主脈を境に富山縣越中郡下新川・上新川二郡に、西南は槍ヶ嶽連峰により岐阜縣飛騨國吉城郡に、南は燕岳・

大天井嶽の諸峰を境に南安曇郡に接す。面積三五・七五方軒の大村。西北より西南にかけては五龍岳(二八・四米)以南は槍ヶ嶽(二八・〇米)に連る日本アルプスの峻峰を負ひ、東南端は大天井嶽・燕嶽等の支脈により、南部に高瀬川、北部に鹿島川、中部に瀧川を源流し、いづれも東北に安曇平に乗りて更に南流す。また東北には大地帯の一部分なる層層湖、木野・中瀬・青木(仁科三湖)を擁し、土地頗る廣大・高嶺なり。南部は殊に山嶽重疊し、峰岩の露出、温泉の湧出多し。高瀬川國有林あり。また瀧川・鹿島川上流いづれも國有林をなす。平地は仁科三湖の水を築めたる農具用沿岸より三河合流の部分を閉じ、高瀬川の沖積により松本平に續く。平地には米・麥を作り、仁科三湖は養魚盛なり。省線大糸南線及び糸魚川街道は東北郡層層山下、湖の東岸に沿ひて北走し、村内に信濃木時・海ノ口・薬場の三驛(何れも昭和四年設置)を設く。湖畔は夏季登山客に賑ふ。また大町より高瀬川谷に沿ひては沿岸發電所を結ぶ會社用馬車軌道の便あり。また瀧川に沿ひ針ノ木峠より富山縣に至る山道は北アルプス横斷の難コースなり。本村は中部山岳國立公園の内に於て、往時大町と共に仁科氏の領地たり。駒澤は奥徳氏の子孫を祖とせし駒澤氏の出でし所。村内に菅温泉及び信濃川水素の高瀬川を利用せる高瀬川發電所(出力二三四〇キロワット)及び不調瀧(高き五〇米、巾五米)指定天然記念物なる平村噴湯丘及び球狀石灰石等あり。(葛温泉)高瀬川上流の兩端にあり。明礬を含みし透明なる硫黄泉にして胃腸病・リウマチ・皮膚病等に効果ありと。日本北アルプス登山口の一。(平村噴湯丘及球狀石灰石)指定天然記念物。炭酸石灰を含有する湯泉湧出して噴出の周圍に沈澱物堆積し噴湯丘を作る。球狀石灰石は温泉の沈澱物にて本邦には既知のもの甚だ少しとなす。(大澤寺)曹洞宗、神龍山と號す。延暦年中大澤田村磨の開創に係ると傳ふ。附近に醍醐天皇の皇子正信親王の御墓と稱するものあり。
【平村】 愛媛縣喜多郡にありし村。明治四十一年外一村と廢し、大洲村を置く。同村は昭和九年大州町・久米町と共に廢し新に大州町を置く。
【平村】 長崎縣肥前國北松浦郡に属する五島列島北端宇久島の北大半を占め神浦村の東北部・西北部を圍む。面積一九・八四方軒。全村山地起伏して海岸は屈曲多く東方に長崎突出し北部に倉ノ鼻・牧崎・對馬瀬・乙女ノ鼻あり西部に五島崎・鴨瀬・大焚崎あり西南に冠神崎突出す。西南海上には寺島浮ぶ。米・麥・甘藷・栗を産し水産行はる。東南岸に位置する主邑平村より村道北方・西方・西南方兼落へ通じ、神浦(四瀨)及び佐世保市(三五瀨東方)へ定期汽船の便あり。此地も

タイラ 太良 (下ノ庄) 秋田縣

と五島氏の領下にして、唐津從後長縣に入る。
【平島】 鹿兒島縣川邊十島の一。また寶七島の一。大島郡十島村に属す。周圍約五軒。島頂約二五〇米。
タイラ 太良 (下ノ庄) 秋田縣
【平館村】 青森縣陸奥國東津輕郡の北部。青森市北方約四〇軒。北は津輕海峽に、東は平館海峽に面し、南は蟹田町に接す。津輕半島の東北端を占め、那須火山脈の通過地にして、八甲田山より西北に延びる一小山脈が脊梁をなす。西境には安山岩及び玄武岩よりなる島岳・丸屋形岳・鳴川岳・船岳等連り。海岸には僅かに第三紀層があり、船岡附近には温泉湧出す。川はこの東斜面を流れ海に注ぎ平地は少く、産業も海洋に僅かに米を産し、他は漁業盛にして、鱒・鱒・火魚の漁獲あり。交通路には南より海岸沿ひに松前街道通じ、兼落は從つて街村をなせり。石崎の南には平館燈臺があり、燈質は燭光白色。晴天光線距離一四哩。今この地より南館に海底電線通せり。鐵道の便は悪く、南隣蟹田には森林鐵道通せり。
【平館海峽】 青森縣陸奥國西津輕郡の西北端との相接近する所に南北に通ず。陸奥灣の出入口にて、海軍要港大湊への軍艦及び青函連絡船の往來繁く、平館村石崎の南には燈臺を設け航行の安全を圖る。

タイラ — タイラ

【平福村】 岩手縣陸中郡岩手郡の北部。岩手山の北東麓に位す。西北部は御月山(鳥帽子森九五四米)の斜面に當り、中央を北上川の一支出川は南流し来る小流を合して東南に流れ、沿岸に沖積地をつくる。米作を主とする農業行はれ馬鈴薯の栽培も多くまた木炭を出す。縣道津軽街道は中央部に直角的に曲折して通じ、省線花輪線またこれに沿うて走り平福驛(大正十一年設置)を置く。この地に天正年間、一戸兵部大輔政通の弟、一戸信州、平福家を繼ぎ、千石を領知せり。また大字堀切には往古蝦夷の據りしと傳ふる館址あり。(八幡宮)郷社、磐神、磐田別尊。康平年間源義家、石清水八幡を勧請建立せり。

【大蘭芝島】 朝鮮忠清南道西北岸の島。瑞山半島の基部北岸なる徳岩浦の口に横はる諸島の最大島にして、唐津郡石門面に屬す。東側に鬱鳥一も悉く干出す。島頂は堂観と云ひ標高一二三米、西方常盤路より顯著なる目標となる。島の中央に蘭芝島里の聚落あり。
【大里】 宜蘭縣の一鎮(大正九年設置)。臺灣臺北州宜蘭郡頭庄大里簡にあり。

【大里】 福岡縣企救郡にありし町。明治四十一年柳ヶ浦村を廢して大里町と改稱し、大正十三年門司市に編入す。いま市の西南部の町名に存し、鹿兒島本館の大里(明治二十四年設置)の所在地にあり。

たり。大里は内裏の轉訛せるものにして安徳天皇の行宮のありしより起りしものといふ。もと下關に渡る旅客は多く此處より船出せり。今も鐵道省の關門海峡の貨車軌道は此處を發着點とす。

【大寮庄】 臺灣高雄州鳳山郡の東部。鳳山街の東に隣る。西境に小丘陵あるのみにて管内概ね平地をなし、地勢西部に高く、北・東部低し。河川は東、東港郡との境をなす下淡水溪及び其支流たる細流二三條流るのみ。面積・人口共に郡下の首位を占む。本庄は純然たる農村部落の集合にして、往時水害を蒙りし下淡水溪岸の地域も近年治水工事の完成と、昭和六年より二十五萬圓の經費を以て實施中の大寮別荘既に完成の域に到達したるを以て、該溪畔の地は有望なる耕作地として、今後益々其生産を増加すべく、昭和十一年度に於ける農産總額は數十萬圓に達せり。主産物は米・甘蔗・甘藷・蔬菜等にして、就中西瓜は本庄下の特産物として聲價高し。畜産は農家に於て副業的に牛・豚・家禽の飼育をなすを主とし、牛は主として農耕勞役に使役せらる。年畜産額十數萬圓あり。其他丘陵地よりは若干の林産物を出す。工業は製糖・鳳梨罐詰業・精米・煉瓦等にして、製糖最盛なり。交通は製糖會社の營業線鳳山街より出で、本庄を通りて林園庄に到るものあり。又道路も相當完備せるを以て、管内貨客の運搬に不便を感ずる事少し。本庄の開拓は清の乾隆年間であり、漢人の移住増加すると共に、附近の地は、小竹橋莊と稱せしが、道光年間改めて小竹里なる行政區劃を設けられ、光緒十四年更に改めて之を上下二里に分轄せらる。明治二十八年我領臺灣後、三十年には鳳山縣設置せられ、本庄の地たる小竹上下里は其下に屬せしが、大正九年十月根本的府制改正に際して、小竹上里中の三庄(現大字)、下里中の三庄(現大字)の地は別かれて大寮庄の名稱下に一括せられ、高雄州鳳山郡の管下に屬する事となりて現在に至る。

【大良化】 朝鮮咸鏡北道東岸の港。七寶山地の北東麓に當り、明川邑の東約二〇軒。大良化灣の灣頭に位し、灣内やや廣く且つ深水にして舞水端と鏡湖灣の南角なる漁船端との間の唯一の良港をなす。沿海航路の寄港地。密西(明川郡)。

【大林庄】 臺灣臺南州嘉義郡の東北端。北港溪上流の二支流たる三疊溪・石龜溪に依りて南北を限られ、この兩溪の合流處(庄の西端)を頂點とし、東境を底邊とする三角状の地形をなす。東端の小部分即ち大埔尾・中坑の二大字は阿里山系山地の山脚に當り低き丘陵を爲すも、之を除けば總て平坦なる沃野を展開す。河川は南北境の二條の外、中央部には更に小分流の平野を流ふあり。住民中農業者壓制的多数にして、鹽所に農

【大嶺鎮山】 朝鮮咸鏡南道にある鎮山。道の南端、安邊郡龜城面にあり。地皆府城遺蹟京元嶺の高山群に近く、交通不便ならず。鎮山は金・銀・鉛を産し、昭和十年中の産額、金一二七七、銀一四二二、金銀鐵一〇七七、計四三萬圓。使用人員一三〇一。

【大連】 關東州第一の重要港市。大連民政署管下。州の西南部、東方に突出する半島に位し北は大連灣に、南は黄海に面す。北緯三八度五六分、東經一二一度三六分、門司を距る六二〇哩、上海へは五五〇哩、芝罘へは八七哩、青島四五・五八五平方軒、人口二七三、一五三(昭和十一年九月末現在)。(地勢) 南部に遼五せる一帯の丘陵は北方大連灣岸に傾斜し、市の中部部は稍隆起す。もと地際濼少ながらざりしも、市街建設以來連年土工を加へて平坦なる現在の街面を見るに至る。大部分は黃褐色を呈し薄く割げ易き粘板岩、南部の南山一帯は粘岩より成る。(氣象) 大陸性氣候の特性たる夏季の雨季節風に支配せられ、乾期と雨季とに分る、も東西に黄海を控へ滿洲内陸に比すれば寒暑共に緩和せらるること多し。更に地理的關係より見れば年を過

【大連】 關東州第一の重要港市。大連民政署管下。州の西南部、東方に突出する半島に位し北は大連灣に、南は黄海に面す。北緯三八度五六分、東經一二一度三六分、門司を距る六二〇哩、上海へは五五〇哩、芝罘へは八七哩、青島四五・五八五平方軒、人口二七三、一五三(昭和十一年九月末現在)。(地勢) 南部に遼五せる一帯の丘陵は北方大連灣岸に傾斜し、市の中部部は稍隆起す。もと地際濼少ながらざりしも、市街建設以來連年土工を加へて平坦なる現在の街面を見るに至る。大部分は黃褐色を呈し薄く割げ易き粘板岩、南部の南山一帯は粘岩より成る。(氣象) 大陸性氣候の特性たる夏季の雨季節風に支配せられ、乾期と雨季とに分る、も東西に黄海を控へ滿洲内陸に比すれば寒暑共に緩和せらるること多し。更に地理的關係より見れば年を過

便を感ずる事少し。本庄の開拓は清の乾隆年間であり、漢人の移住増加すると共に、附近の地は、小竹橋莊と稱せしが、道光年間改めて小竹里なる行政區劃を設けられ、光緒十四年更に改めて之を上下二里に分轄せらる。明治二十八年我領臺灣後、三十年には鳳山縣設置せられ、本庄の地たる小竹上下里は其下に屬せしが、大正九年十月根本的府制改正に際して、小竹上里中の三庄(現大字)、下里中の三庄(現大字)の地は別かれて大寮庄の名稱下に一括せられ、高雄州鳳山郡の管下に屬する事となりて現在に至る。

【大連】 關東州第一の重要港市。大連民政署管下。州の西南部、東方に突出する半島に位し北は大連灣に、南は黄海に面す。北緯三八度五六分、東經一二一度三六分、門司を距る六二〇哩、上海へは五五〇哩、芝罘へは八七哩、青島四五・五八五平方軒、人口二七三、一五三(昭和十一年九月末現在)。(地勢) 南部に遼五せる一帯の丘陵は北方大連灣岸に傾斜し、市の中部部は稍隆起す。もと地際濼少ながらざりしも、市街建設以來連年土工を加へて平坦なる現在の街面を見るに至る。大部分は黃褐色を呈し薄く割げ易き粘板岩、南部の南山一帯は粘岩より成る。(氣象) 大陸性氣候の特性たる夏季の雨季節風に支配せられ、乾期と雨季とに分る、も東西に黄海を控へ滿洲内陸に比すれば寒暑共に緩和せらるること多し。更に地理的關係より見れば年を過

【大連】 關東州第一の重要港市。大連民政署管下。州の西南部、東方に突出する半島に位し北は大連灣に、南は黄海に面す。北緯三八度五六分、東經一二一度三六分、門司を距る六二〇哩、上海へは五五〇哩、芝罘へは八七哩、青島四五・五八五平方軒、人口二七三、一五三(昭和十一年九月末現在)。(地勢) 南部に遼五せる一帯の丘陵は北方大連灣岸に傾斜し、市の中部部は稍隆起す。もと地際濼少ながらざりしも、市街建設以來連年土工を加へて平坦なる現在の街面を見るに至る。大部分は黃褐色を呈し薄く割げ易き粘板岩、南部の南山一帯は粘岩より成る。(氣象) 大陸性氣候の特性たる夏季の雨季節風に支配せられ、乾期と雨季とに分る、も東西に黄海を控へ滿洲内陸に比すれば寒暑共に緩和せらるること多し。更に地理的關係より見れば年を過

【大連】 關東州第一の重要港市。大連民政署管下。州の西南部、東方に突出する半島に位し北は大連灣に、南は黄海に面す。北緯三八度五六分、東經一二一度三六分、門司を距る六二〇哩、上海へは五五〇哩、芝罘へは八七哩、青島四五・五八五平方軒、人口二七三、一五三(昭和十一年九月末現在)。(地勢) 南部に遼五せる一帯の丘陵は北方大連灣岸に傾斜し、市の中部部は稍隆起す。もと地際濼少ながらざりしも、市街建設以來連年土工を加へて平坦なる現在の街面を見るに至る。大部分は黃褐色を呈し薄く割げ易き粘板岩、南部の南山一帯は粘岩より成る。(氣象) 大陸性氣候の特性たる夏季の雨季節風に支配せられ、乾期と雨季とに分る、も東西に黄海を控へ滿洲内陸に比すれば寒暑共に緩和せらるること多し。更に地理的關係より見れば年を過

【大連】 關東州第一の重要港市。大連民政署管下。州の西南部、東方に突出する半島に位し北は大連灣に、南は黄海に面す。北緯三八度五六分、東經一二一度三六分、門司を距る六二〇哩、上海へは五五〇哩、芝罘へは八七哩、青島四五・五八五平方軒、人口二七三、一五三(昭和十一年九月末現在)。(地勢) 南部に遼五せる一帯の丘陵は北方大連灣岸に傾斜し、市の中部部は稍隆起す。もと地際濼少ながらざりしも、市街建設以來連年土工を加へて平坦なる現在の街面を見るに至る。大部分は黃褐色を呈し薄く割げ易き粘板岩、南部の南山一帯は粘岩より成る。(氣象) 大陸性氣候の特性たる夏季の雨季節風に支配せられ、乾期と雨季とに分る、も東西に黄海を控へ滿洲内陸に比すれば寒暑共に緩和せらるること多し。更に地理的關係より見れば年を過

連港の施設完備、滿鐵の創業等により情勢一變し、殊に大豆・豆粕・豆油等の特産物が日本内地及び歐米に輸出せらるるに至り輸出貿易は増進の趨勢を示し、明治四十一年の貿易額四千八百萬圓なりしが、昭和十年には八億九千餘萬圓に達し、東洋屈指の大商港たるの位置を確立するに至り、いま輸出輸入額の趨勢を表すに別表の如し。

大連港輸出入貿易額(單位千圓)

Table with 3 columns: Year (年次), Output (輸出), Input (輸入), Total (計). Rows include years from 1911 to 1928.

輸出貨物は天然資源の豊富なる滿蒙の生産物たる大豆・高粱・玉蜀黍等の農産品、石炭・鐵等の礦産品を主とし、豆粕・豆油等の加工品に次ぐ。これを仕向地別に見れば日滿貿易最も盛んにして、特に滿洲事變以來對支貿易の沈寂したるに反し、一層増進し昭和十年に於ては大連輸出總額六〇六九、六九四噸の七割強、即ち四二五四、六五八噸を算するの優勢を示し、これに對しては歐米の二割強、支那の五分、アメリカの二分其他なり。

更にこれを仕向港別に區別すれば、日本にては大阪を主とする阪神諸港(川崎(石炭)・横浜・清水の各港を最多とし、次に八幡(石炭)・門司及び臺灣(豆粕)の順位なり。歐洲にては獨逸のハンブルグ斷然優位を占め、歐洲向大豆三九三五二噸の約五割を占む。即ち獨逸に於ける製油工業の原料に滿洲大豆が使用せらるるためなり。次いでポルトサイド・ロフテルダム・ロンドン・マルセイユ等の順位にて、主なる貨物は大豆を第一とし、落花生・豆油・蕎麥・麻實なり。亞米利加に於てはロスアンゼルス・ニューヨーク・シカゴ・サンフランシスコ・ボストン・サンフランシスコの順位にして麻實・豆粕・落花生及び其他の油類食品・家畜飼料等なり。支那に對しては非常なる衰退を示し、上海の如きは其の輸出は昭和六年度の六分の一にも充たざる三萬七千噸に過ぎず、たゞ北支各港は比較的優勢を示し、天津は前年度より五千噸減少したるも六萬九千噸に達し、特に秦皇島は前年度の百十八噸に對し百十倍の一萬三千噸に達したり。その品目は砂糖・人絹等の再輸出品なり。輸入貨物は主として滿洲に送らるるものにして從來金物・麥粉・木材・砂糖・紙類・綿織布・麻袋・身用品及び滿洲に産せざる農産物等に限られし、滿洲國建設以來、鐵道網・道路網の充實、都市計畫の進歩、建築の勃興に伴ひ所要貨物の増し輸入を相率し、遂に昭和

九年には開港以來の最高記録を作り、輸出大連に正に輸入港大連の觀を呈したりしが、其後奥地に於ける鐵道網の充實、哈爾濱に於ける製粉業の勃興、昭和製鋼所の鉄鋼一貫作業の實現、滿洲石油會社の本格的操業、各種建築工作の一段落とセメント工場の新設等によりて今日一部物資の輸入減少を見るに至り、輸入貨物を國別にすれば、日本は總輸入額の七割四分即ち二二五萬圓を占めて益々日滿貿易の隆盛を物語り、その仕出港は大坂を首位とし、横濱・神戸・門司・八幡(専ら軌條・名古屋等を最多とし、品目は鐵道車輛・鐵及鋼製品・麥粉・紙・砂糖・綿織布・掛橋類・藥品その他なり。亞米利加はサンフランシスコ・ロスアンゼルス・シカゴ・ボストン等の順位にして主に亜油・木材・石油等。歐洲はアントワープ・ロフテルダム・ハンブルグを主なる仕出港とし鐵及鋼製品を主とし、滿鐵は獨逸より木材、カルクタより紙、麻袋、シドニー・メルボルンより多量の麥粉、印度より米は昭和十年度に七萬五千噸を突破し、同品總輸入の七割五分、前年度の十四倍に達したることば特異の現象なり。支那より輸入感數前年度より減退したる特種品、即ち天津に於ける安平・石炭・鐵類、上海に於ける紙類・生果類・米・綿織、青島より茶葉類、香港より麻袋等は相當に輸入せらる。更に大連に於ける一般商工業の方面

より概観すれば、日本人の商業は明治三十七年五月我軍の大連占領に基きて軍隊關係の酒保商人等が、軍隊必需の日用品を納入したるに始まり、平和克復後、關東都府府廳として民政時代となると共に自由通航と一般企業は勃興して茲に純然たる日本の都市建設せられ、在住邦人の生活必需品を供給すべき所謂共喰ひ的商業となり一方これ等の中小商業と共に滿洲生産品の内地及び海外への輸出、滿洲奥地に對する需要品の輸入等の貿易も發達し、更に滿洲生産の原料に加工する工業の勃興となりて、大連市の商工業を現出せしめ在住支那人も均しくこの狀勢に順應して有利なる土着の立場に依り漸次地盤を築き來れり。近來内地人の居住者激増すると相俟つて滿洲人も大連を安住地帯として各地より移住するもの益々その數を増し、商工業發展の前途を大に期待せらるるものあり。商業機關は關東局に屬するものと、滿鐵會社の各種構及公共團體等に屬するものとに區別せらる。關東局に屬するものは大連民政署地方課の商工業課取引所にして、滿鐵にては産業部の商工業課なり。通信關係の通信局並に郵便局、港灣關係の海務局内度量衡取締の權度所も其部類に屬するものと見るべく、滿洲國の大連海關は關稅上最も重要な商業機關なり。更に大連市役所の産業課も商業發展のための一助成機關にて、大連商工會議所は専ら商工業

の發達に資賦寄與する唯一の機關たるは首を快たす。(産業)工業 交通運輸の五便、原料蒐集上の便宜、販路の廣大、動力・燃料・用水の豊富、勞働の低廉並に特惠關稅の取扱など、各種の好條件を具へて工業都市として發展し、加ふるに日滿經濟プロダクトの結成によりて工業の前途洋々たるものあり。油房工業・機械工業・化學工業を始め各種の工業行はる。油房業、即ち豆油及び豆粕の製造は最も盛んにして、市内の油房工場は邦人六、滿人五二を數へ、邦人經營の代表的なるものに滿洲大豆工業・日清製油・大連油脂工業・三泰油房・豐年油房の諸會社あり、豆油は石鹼其他の原料として主に歐米へ輸出せられ、豆粕は主として日本へ肥料等として輸出せらる。但し内地農村の不振と滿洲事變後に於ける支那本部の販路閉鎖等により現在は操業状態に見るべきものなし。機械工業は右に次ぎ盛んにして、滿洲國の各種工業及び土木用其他に使用する機械器具類等を製造し、滿鐵沙河工場・大連機械製作所ほか諸工場あり、特に沙河工場は敷地一六〇ヘクタール餘を占めて規模最も大きく、車輛の製作・修繕及び附屬品等の製作に従事す。化學工業其他の輕工業は近年著しく發展し、甘水子に滿洲化學工業會社(昭和八年創立)の硫安工場・濃硫酸工場等ありて硫安の日産六五〇噸の能力を有するを始めとし、滿洲會社(昭和十一年

年設立、生産能力曾進日産百噸)によりて曾進工業勃興し、大連ドロマイト・小野田セメント・南滿ドロマイト・南滿鐵業・滿洲製粉・大同マイト・金剛ドロマイト等の各社工場ありてセメント・石灰工業頗る盛に、昌光硝子(板硝子製造能力五十萬圓)・南滿硝子等の工場より板硝子・曹達硝子其他特殊硝子を生産すること多し。食品工業は醬油・清酒の醸造を第一とし後者の醸造高一萬三千餘石、其他調味料・清涼飲料水・菓子等も何れも大規模生産行はる。機械工業は紡績のほか製麻業も盛に、滿洲産の麻を原料として麻袋・帆布・網等を製造し、其他耐火煉瓦・アルコール・皮革等の産物からず。電氣事業は滿洲電業股份有限公司によりて統制せられ、天ノ川・甘水子トアンペアを示し、瓦斯は南滿瓦斯會社によりて工業用・家庭用燃料に供給し何れも滿洲に於ける重要工業の一を占む。而して此等諸工業の指導獎勵に當る機關に滿鐵中央試験所・工業博物館・滿洲電氣協會・滿洲發明協會・滿洲技術協會・滿洲土木建築業協會・大連工業會・大豆工業研究會・油房聯合會等あり。水産業關東州漁業の中心にして、鰻・鮎等の水揚げ多く、昭和十二年建設に着手せる入船町漁港の完成と相俟つて益々盛ならんとし、鹽干鮭(四〇萬圓)・鹽干太刀魚(二〇萬圓)・蒲鉾(二〇萬圓)・乾えい・貝柱

等の水産製成も盛なり。漁業機關として市に設けられしものに水産試験場(老虎灣)・關東州水産會・關東州機械造船業組合及び日滿漁業、滿洲水産販賣等の各會社あり。(市街)舊大連と新大連(西部大連)の二部に大別せられ、更に南方へは老虎灣市街が伸張し、西方廣原方面へも次第に發展しつつあり。今や都市計畫の進展に伴ひて大連新停車場を中心として幹線道路敷設され、連續商店街地區一帶が市中の繁華街たらんとすると共に、關東州廳舎の新築に依りて西部大連方面の情勢を一變し、赤十字病院附近が商店街となり娯樂機關も設備せられんとし、沙河方面の繁華をこの一帯に集中せんとする如く、尙ほ關東州廳の計畫せる馬欄河埋立事業完成の際には西部大連地方もまた新興都市の實現を見るに至るべきか。大連港灣は大連灣の西半部約四四九・五方軒の水域を有し、放浪區・柳樹電區・大連區に分たる。就中大連區はその主要部分をなし、北東に向ひ長さ約四軒の防波堤を繞らし、その内部の水域約二九七ヘクタールは大連内港をなす。對岸の甘水子は補助港として石炭その他の重貨物の積出しのために滿鐵會社の築港せしものに係る。官公署の主なるものは民政署・市役所・通信局・海務局・地方法院・警察署(四)軍警機關・郵便局(一〇)・中央電話局・觀測所・水産試験場・商業會議所・取引所・滿鐵本社・地

區調査所・中央試験所・衛生研究所・家庭研究所等にして、學校に南滿洲工業專門學校を始め中學校(官立二、市立一)、商業及實業學校(三)、高等女學校(五)、小學校(一七)、公學堂(六)及び大連圖書館・高等商業學校等あり、其他大連圖書館・滿蒙資源館・工業博物館・大連醫院等あり、外國機關に英・米・獨・露各國領事館等、報遺機關には滿洲日報・大連新聞・遼東タイムス・マンチユリヤデーリ・ニュース等各本社あり。また當營橋より鞍山に亘り自然林を利用せる中央公園(約二〇ヘクタール、忠靈塔あり)、市街中央伏見臺に電氣遊園、北大山通に北公園等あり。(沿革)もと青泥窪と呼ばる、漁業の農村僻邑に過ぎざりし一八九八年北京に於て開墾したる露清間の關東州租借に關する條約即ちハルビン條約に依りて露國の租借地となりたるを以て、茲に新市街を建設しこれをタリニトと名付くるに至り、始めて新都市として發生したり。勿論それ以前に於てもタリエンなる名稱が文獻に見ゆ。一八七五年(光緒五年)北洋通商大臣李鴻章の發議により渤海の要衝たる旅順口及大連灣一帯に運港及び砲臺等を建設することに決し、先づ旅順口の防備に着手し、更に光緒十三年より大連灣方面は柳樹屯その他に砲臺を築造したり。これ實に清廷が大連灣一帯に多少の施設を講ぜし嚆矢とす。次で明治二十七八年の日清戰役に際

し、大連に我軍に占領せられ、二十八年三月占領地總督府組織せられ、地方一帯の守備と治安は支持せられし、大連には都市的建設を見るに至らず却て御嶺電が兵站基地としてそこに小市街を出現したり。然るに三洲干渉の結果清國に返還し、のち歸國新たに之を譲渡するや一八九九年より大連港及び大連市の建設に着手したり。その第一期工事の完成せざる時に日露交渉決裂し遂に兩國の交戦となり、明治三十七年五月三十日我軍の占領に歸し、軍政の下に市街の秩序治安は支持され日本商民の渡航者と、支那人の在住者は漸次に増加し、明治三十八年二月十一日紀元の佳節を以て遼東守備軍司令官はタリニを大連と改稱することを令達し、故に大連市命名の基礎確定するも共に、軍政の下に關東州民政設置せられて都市的建設に向ひ漸々と其歩を進められたり。次で平和克復となりボーリマス條約・日清條約に依りて關東州の租借を日本帝國繼承し、明治三十九年九月一日より其統治機關たる關東都督府の開設となりて大連の都市的建設は更に堅實性を加へ、滿蒙大陳の臨門として政治的にも又經濟的にも一大發展の途に上りたり。大連市の發達は日本の大陳經營の臨門として施設經營せられしことに基因するも、他には滿鐵會社の大連港中心主義の營業政策が最も重要な契機といふを得。かくして大正七—八年日露好況時代

に方りて一躍して市街の發展となり住民の増加となり家屋の増築となり大連港を如實に出現し商工業の勃興を見し、忽然と變遷したる境界の恐慌より金銀は極むるに方り、支那本部の起えざる擾亂のため其富を擁したる軍閥官僚等の亡命者陸續として大連に來りて跋扈するに及び一時は日本人の實際勢力の侵襲せらるることを危ぶまれるに至れり。これ等の事態は甚しく大連市況を憂鬱せしめしむ、この時滿洲事變勃發し滿洲國の建國とともに少なからぬ影響を招來し、非常なる發達を促進せしめて躍進大連を出現し以て今日に至る。特別市制實施當時に於ける市の區域は舊大連市、小崗子及び寺兒溝一團に過ぎざりし、その後の發展著しきものありて、その住居は隣接地區にも及びしを以て大正十三年沙河河口の沙河河口・河東屯・台山村、西山屯會及び嶺前屯會の諸屯を、次に嶺前屯會の嶺前屯を編入し更に昭和三年には西山會の台山村・黑龍屯及び老虎灘の寺兒溝屯を市區域に編入す。これがなれば大連市區域は非常に擴張せられ、舊大連市に隣接したる地區は悉く大連市に編入せられて大連建設の基礎確立せられたり。

【大連港】關東州東南部中部にある海灣。金州地峽の南面にある大溝入にして、遼日東西約一二軒、溝入は一四軒に達し、東北部に御嶺屯、西北部に海龍屯の二半島を分斷し立止しめて外海と内海を所成せり。【大和江】朝鮮慶尙道海道の河。道の東北端、蔚山郡の北邊、高嶺山(二〇三三米)の東斜面に發して南流し、國秀峰の南に於て右南嶺東麓に發し東流する一文を合せ、國秀峰・文殊山間に狹長の平地をつくりつゝ東流し、蔚山邑の東に於て北方慶尙北道慶州郡より南下し來る東川の一長支を併せて、廣く河口を成して蔚山灣に注ぐ。流域約四二軒。下流蔚山邑を中心して沃野開く。沿岸の聚落は彦陽・蔚山・兵營の各邑を主たるものとす。

突出して溝内を三支溝に分つ。その西南支溝の南岸に大港市大連あり。大連港に燈臺六あり、東港日南燈臺(明治四十五年設置)は明暗自光、明三秒暗三秒にて光達一四秒、霧信燈を裝備し霧信は一八秒を隔て四秒吹鳴す。東港日北燈臺(大正二年設置)は明暗紅光にて、明三秒、暗三秒、光達一四秒。北港日東・同西の兩燈臺は共に大正七年設置、不動紅光、光達一三秒。西港日北・同南の兩燈臺は何れも大正四年設置、光達一〇秒にして、前者は不動紅光、後者は不動自光。以上六燈臺とも滿鐵の設立に係る。(埠頭)大連港埠頭の規模と設備とは東洋第一を以て稱せられ、海上設備としては四軒餘の防波堤を築らせる中に三條の埠頭を設けその對岸の延長四三三二米、緊密區數三七區、即ち三子噸級船隻を一時に三十七隻繫船し得。陸上設備としては倉庫及び上屋七九棟(收貯能力約四〇萬噸)、野積保管場二三ヶヶト餘(收貯能力約三〇萬噸)を有す。倉庫にては大豆・豆粕・小麥の混合保管制度、石灰積込設備として船積能力一時間九百噸のカトガンヤ一式石炭積込機及び一時間二百噸の給炭機等類九などは本港の一異彩にして、又船客待合所は五千人の收貯能力を有し大規模なること世界有數なり。汽船貿易は専らこゝにて行はれ、なほ或克貿易の爲に露西亞街に大埠頭設けられその輸出入噸二十餘萬噸に及ぶ。

タイロ—大老鹿島

朝鮮全羅南道の西北部。羅州群島の最北部に位し、東の在道島と快水道を以て相對す。南に近く小老鹿島あり。前記水道は深水無碍にして大船の通航に適す。島の南東端に大老鹿島燈臺(明治四十三年設置)あり、燈質四自光にして毎三秒一閃光を發し、光達一五秒。

タイワ—大和

【大和島】小相模灣(朝鮮平安北道)朝鮮全羅南道の西北部。羅州群島の最北部に位し、東の在道島と快水道を以て相對す。南に近く小老鹿島あり。前記水道は深水無碍にして大船の通航に適す。島の南東端に大老鹿島燈臺(明治四十三年設置)あり、燈質四自光にして毎三秒一閃光を發し、光達一五秒。

タイワ—臺灣

【臺灣】臺灣は帝國の西南端に位し、委任統治領たる南洋群島を除けば、我國の最南端に位し、臺灣本島、澎湖列島及びその他行政上それに附屬せしめらるる十の島の諸島を有し、澎湖島は六十四島の島を附屬す。東經一一九度一八分より一二二度六分、北緯二一度四五分より二度三三分の間に在り。その最北端は基隆沖合なる彭佳嶼(基隆市管内)の北端にして、最南端は本島の南端曾母巖燈臺より南約一四軒の海に位置する七風岩燈臺より緯度の地帯は基隆市に屬する松花嶼の東端にして、緯西は澎湖群島の花嶼の西端に當る。北は海上六四一哩にして九州の南端鹿兒島に達し、西は臺灣海峡を隔て近く支那大陸に相接し、東は清洋たる太平洋に臨み、南方はパシー海峡を越えて近く比律賓群島に對す。其面積は、三五

九六一・二方軒、周圍一五六六・三軒にして、帝國の總面積の約五・三%強に當り、九州より稍小、樺太と併せし、朝鮮の六分の一に當る。本島の南北に最も長きところは、三八三軒、最も廣きところは、一四二軒にして、海岸線の長さは、凡そ一四〇軒なり。其形狀恰も薩摩手の如し。

【地勢】管内には所謂臺灣山脈(香寮山脈、中央山脈)は北部東海岸に突出する島岩角より起り、三千乃至五千八百米の高峰を築りて南に走り、恒春地方に至りて終る。其西方に新高山脈、阿里山脈等を有す。又東部海岸には、海岸山脈(臺東海岸山脈、臺東山脈)あり、北端に近く大屯火山堂ありて、秀麗なる山容を保つ。かくて本島總面積の三分の二は山嶽と稱するを得べし。其山脈間には三〇三〇米以上の高山を四十八處起す。從つて本島に於ては、立體的に熱、温、寒の三帶を経験し得られ、諸種自然現象に於て特異なる存在多し。高山の主なるものを列記するに、先づ新高山の三九五〇米を筆頭に、三五〇〇米以上のものに、次高山(別名シルピヤ山)、秀姑巒山、マゴラ山、南湖大山、中央尖山、關山、大雪山、奇萊主山北峰、東部大山、大雪山、大霸尖山、雪山、奇萊主山あり、三三〇〇米以上に、東部大山、合歡山、北合歡山、東合歡山、南玉山、桃山、シンカン山、翠巒山、丹大山、白姑大山、香

和六年開業)、東北部の大房身屯に大房身線(明治三十八年開業)を敷き、交通便利なり。

【大和島】小相模灣(朝鮮平安北道)朝鮮全羅南道の西北部。羅州群島の最北部に位し、東の在道島と快水道を以て相對す。南に近く小老鹿島あり。前記水道は深水無碍にして大船の通航に適す。島の南東端に大老鹿島燈臺(明治四十三年設置)あり、燈質四自光にして毎三秒一閃光を發し、光達一五秒。

【臺灣】臺灣は帝國の西南端に位し、委任統治領たる南洋群島を除けば、我國の最南端に位し、臺灣本島、澎湖列島及びその他行政上それに附屬せしめらるる十の島の諸島を有し、澎湖島は六十四島の島を附屬す。東經一一九度一八分より一二二度六分、北緯二一度四五分より二度三三分の間に在り。その最北端は基隆沖合なる彭佳嶼(基隆市管内)の北端にして、最南端は本島の南端曾母巖燈臺より南約一四軒の海に位置する七風岩燈臺より緯度の地帯は基隆市に屬する松花嶼の東端にして、緯西は澎湖群島の花嶼の西端に當る。北は海上六四一哩にして九州の南端鹿兒島に達し、西は臺灣海峡を隔て近く支那大陸に相接し、東は清洋たる太平洋に臨み、南方はパシー海峡を越えて近く比律賓群島に對す。其面積は、三五

【地勢】管内には所謂臺灣山脈(香寮山脈、中央山脈)は北部東海岸に突出する島岩角より起り、三千乃至五千八百米の高峰を築りて南に走り、恒春地方に至りて終る。其西方に新高山脈、阿里山脈等を有す。又東部海岸には、海岸山脈(臺東海岸山脈、臺東山脈)あり、北端に近く大屯火山堂ありて、秀麗なる山容を保つ。かくて本島總面積の三分の二は山嶽と稱するを得べし。其山脈間には三〇三〇米以上の高山を四十八處起す。從つて本島に於ては、立體的に熱、温、寒の三帶を経験し得られ、諸種自然現象に於て特異なる存在多し。高山の主なるものを列記するに、先づ新高山の三九五〇米を筆頭に、三五〇〇米以上のものに、次高山(別名シルピヤ山)、秀姑巒山、マゴラ山、南湖大山、中央尖山、關山、大雪山、奇萊主山北峰、東部大山、大雪山、大霸尖山、雪山、奇萊主山あり、三三〇〇米以上に、東部大山、合歡山、北合歡山、東合歡山、南玉山、桃山、シンカン山、翠巒山、丹大山、白姑大山、香

本溪(一五五・九軒)、曾文溪(八一三・三軒)、淡水河(一三〇軒)、大甲溪(一一七・八軒)、烏溪(一一・三軒)、八溪溪(一一・一軒)、秀姑巒溪(八八・八軒)、卑南溪(八四・四軒)、大安溪(八〇・五軒)等なり。河川は高峻なる山嶺地帯より直に平野に流下する故、下流は亂流して海に注ぐを普通とす。この中臺東海岸山脈を横断する秀姑巒溪、及び上流(基隆川)と下流部と全く相反する方向にある淡水河とはその流路の異状なる點に於て注目せざる可からず。海岸は山脈海に迫り居る爲め出入少く、特に春臺山脈の突端なる東北部海岸と臺東の南方海岸には物産が豊富に迫る。之等諸海岸には段丘の發達は認め難きも、臺東の北方には稀に見る鮮やかなる段丘の海蝕段丘發達す。一方反對に東北部の蘇澳附近には沈降地形存在し地質時代の隆起と沈降の兩運動を物語る。西岸は隆起海岸平野廣く發達し特に中南部には砂洲湖沼相連續し東海岸とは著しき對照をなす。臺灣を構成する地層は大部分は水成岩より成り、火成岩と變成岩よりなる部分は極めて少し。時代的に大別すれば、時代未詳の變質岩層、第三紀層及び第四紀層となる。之等の配列状態は頗る簡單にして島の長軸に適ひて大體南北に走り、而して西より東するに従ひて古き地層となる。時代未詳の變成岩層は結晶片岩類、結晶石灰岩類、片麻岩類より成り、奇巒山脈

の東斜面の小區域に分布す。第三紀層は島の大部分を占め、これは粘板岩層(始新世)、海山層(中新世)、苗栗層(鮮新世)觸口山層(上部鮮新世)とに細別せらる。粘板岩層は春臺山脈及其の西麓地帯を構成す。海山層は粘板岩層に西隣する中山地帯及臺東海岸山脈に分布し、石油・石炭を含み礦業上重要なもの。苗栗層は觸口山層と共に大體丘陵地帯を形成す。第四紀層は洪積層と沖積層とに大別するも高城市附近の壽山、大同山、牛屏山、恒春半島南端の臺地を作る隆起珊瑚礁石灰岩や礫土を伴ひて廣く分布する臺地礫層は前者に屬し、臺北盆地、嘉南平野は沖積層より成るもの。火成岩の發達は甚だ貧弱にして北部の大屯火山帯は唯一の火山にしてこれは安山岩より成る。安山岩に次ぐ火成岩は玄武岩にて島内諸所に小露出する外、澎湖諸島を構成す。〔氣候〕北回歸線本島の中央を横斷し、熱帯に跨れる爲め、内地に比し夏季長く冬季短きも、其の最高気温は内地より特に甚だしく高からず。冬季は頗る温暖にして高山に非ざれば降雪なく、個々霜を見ることあるも極めて稀有のことにして、結氷は改竄以來僅かに二回に過ぎず。これ亦中部以北のことにして南下するに従ひ気温益々高く、南端の恒春地方にては冬の最中と雖も、其の名の如く恒に春の如き好氣候なり。一年の平均雨量は全島を通じて二五〇〇mmにして島の南北に依り降雨期を異にす。北部の降雨は十月より翌年三月迄にしてこの冬季六箇月間は北東の季節風の影響を被り、恰かも内地に於ける梅雨の如き陰鬱なる天候を現出し、雨量は基隆附近を最多とす。これ同量の約七割はこの期間の降雨にして同地附近の火燒寮にては一年實に六六〇〇mmの降雨あり、全島第一と稱せらる。然るに南部の降雨は五月より九月迄の五箇月にして降雨の性質亦北部の罪々たる細雨と異り、雷雨又は暴風を伴ふもの多し短時間に驚くべき多量を降す。阿里山にては曾て一箇月に二八〇〇mm、唯の一日に一〇三〇mmを降せしことあり、斯くの如きは世界にても珍らしきことなり。南部の此の期間に於ける雨量は全年の約八割を占め、大武山麓の中腹タワラスに於ける年量五二八一mmを最多とし、淡水營の五一七七mm、阿里山の三九〇一mmに次ぐ。而かも其の狀は熱帯として益々覆へしたるが如く、隨つて降雨時間の短きは到底北部冬季の比に非ず、降雨後直ちに晴天に復するを常とす。全島中に最も降雨の少き地方は新竹、臺中、臺南の各州に於ける海濱及び澎湖島にして、就中澎湖列島の漁翁島の如きは一年僅かに九一六mmに過ぎず。以上の如く冬季と夏季とは地の南北に依りて天候上著しき相違を有し、即ち北部の冬季は季節風に依り強ばれ來れる多量の水蒸気が、先づ

度に於て、私鐵は營業線、專用線を合し二四四一・二軒に達せり。鐵道補助機關として島内交通上重要な役割をなすものに、交通局鐵道部管理の官設乘合自動車あり、昭和八年の創設にして、現在基隆—新竹間、臺北—淡水間、豐原—二水間、大甲—南王田間、苑裡—大甲間、嘉義—高橋間を運轉す。臺灣に於ける商業航空路の開設は、昭和十一年一月、日本航空檢査株式會社をして、福岡—臺北間、一週三往復の定期航空を開始したるを其濫觴とす。其後内臺航空開始の結果島内定期航空實施の機運が熟し、同年八月より、同會社の手に依り臺北—宜蘭—花蓮港間の東線と、臺北—臺中—臺南間の西線の營業を開始す。其後昭和十三年四月より、時勢の進展と、輿論の要望とにより、内臺間毎日往復を實施するに至り、使用機も、デグラムD C 二型の優秀機を使用し、又島内線に於ては、フォッカー式ストリーパーニオンサル機、フォッカー式下七型(三M機)機を使用せしむる事となれり。海上交通は改竄以後本島の航海權、英商ダグラス汽船會社、是を獨占し、淡水、安平を起點として、南支那間の航海に、當り來りしが、始政後總督府は、直ちに、大阪商船、日本郵船の二會社に、毎年一定の補助金を與へ、内地と支那方面に、定期航海を命ぜしを以て、彼の外國船も、遂に廢航の已むな

その山嶺に隔れ連日の降雨となり、漸次南下するに従ひ水蒸氣の温度を減じ、臺中以南に至りては北部と反對に却つて乾燥期たるの實を現出す。此の期間に雨の基隆より汽車にて南下するに、沙止に至れば頗る雨量を減じ、僅か四〇軒に滿たざる臺北にては間々快晴のことあり。假令臺北が雨天の場合にても、新竹、苗栗を過ぎ、臺中線の最高地點たる海拔三七〇米の三叉を越れば、やがて後山は晴雲候々たるに、前程は一帯晴雲試みか如きを見るべし。即ち沙止は第一の天氣分界地點なり。季節風の強き時、海は荒れ東海岸の花蓮港、臺東等船舶の往來寄港困難となり、海上より市街を望みつゝ、空しく通過すること多しからず。但し北東部方面の天候と雖も例外あり、個々支那朝鮮等の方面を低氣壓が通過する場合、季節風は全く消えて基隆一帶の地方にても内地の春の如き天候となることあり。四月より九月迄の夏季半年間は暴風雨の襲來なき限り、北部、南部共に天候極めて平穩にして、盛夏に於ける南西の季節風は、冬季に於ける北東の夫れの如く強烈ならず。颱風と稱する熱帯暴風の通過に當る本島は概ね毎年その襲來を受け、往々にして非常なる大損害を蒙ることあり。その襲來の月別割合は八月の二六%を最高とし、七月の二八%、九月の二一%之に次ぐ。其の進行の方向より見るに一は比律賓島呂宋の北東若しくは其の東

部の洋上に起り北西に進んで本島を横斷し、又は南端より北端を掃めて通過し支那大陸に入るものにして、其の回数最も多く其の勢力最も猛烈なり。此の外東部海上を北進するもの、西支那海より來るもの等もあるも、何れも前者に比し、回数少く勢力亦弱し。

〔交通〕道路は本島古來の習慣として、官廳は、哈ど之に關與せず、富豪等の篤志經營に委ねべきものと看做されたり。従つて其維持方法につきても、何等考慮せらるゝところなく、我領臺灣時の運輸交通の困難は名狀すべからざるものありき。依つて明治二十八年中に、我が工兵隊の手に依り、南北縱貫の單道を開闢せしむる手始めとし、三十三年には、道路設備準則を定め、地方廳管内の住民に調達の特別賦課に依りて、延長約一萬二千軒の道路を改修し得るに至れり。されど其大部分は、匆配急なるのみならず、橋梁等もなき應急的のものに過ぎざりしを以て明治三十八年重要道路約二千七百軒を指定して改修を施し、爾來銳意は改修を爲せし結果、現今、指定道路は三三五・二・四軒に達す。現在主なる道路は臺北—屏東間の縱貫道路を始め、桃園(新竹州)—宜蘭(臺北州)道、蘇澳(臺北州)—花蓮(花蓮州)道、新化—玉井(臺南州)道、屏東(高雄州)—臺東道、楓港(高雄州)—呂家溪

〔臺東線〕道、新庄(臺北州)道を含む。殊に縱貫道路中臺北—基隆間は、混雑士及びアスファルトを以て鋪裝せらる。鐵道は領臺當時に於ては、鐵道として舉ぐべきもの僅に基隆—新竹間に過ぎず、而も、其施設は甚だ不完全にして、且つ事故多く、用を感さざる状態たり。故に改竄後我政府は、直に鐵道政策を樹立し、我意交通網の完成に向ひて、着々其業を進めし結果、縱貫線を始め、幾多の分岐線、並に東海岸鐵道の開通成り、今日の盛況を見るに至る。然して現在縱貫線(基隆—高雄間四〇五・九軒)、臺中線(竹南—王田間九一・四軒)、淡水線(臺北—淡水間二二軒)、潮州線(高雄—淡州間四七軒)、宜蘭線(基隆—蘇澳間九八・八軒)、臺東線(花蓮港—臺東間一七三軒)、集々線(二水—外車現間二九・七軒)平溪線(三貂嶺—菁桐坑間)の外、營林所々管に屬する、阿里山鐵道(嘉義—阿里山間)、羅東森林鐵道(羅東—土場間)、八仙山鐵道(土牛—佳保寮間)あり。是等は何れも、營林所にて生産する木材を搬出する爲に建設せられ、運材を主とするも、其後地方民衆助長の趣旨に依り、各線の或部分を一般貨客の輸送に開放するに至れり。其他官鐵と相俟つて、産業開發に貢献するものに、私設鐵道あり、主として、製糖會社の甘蔗輸送用として、施設せられたるものにして、糖業の發展と共に幾多の營業線を生じ、昭和十一年

〔港灣〕臺灣は其面積に比し海岸の出入少く従つて港灣と稱するもの少し。僅に是を舉ぐれば、基隆、高雄、蘇澳等あれども、領臺前に在りては、港内に岩礁等ありて、一千噸以上の船舶の泊する事困難なりき。依つて、總督府は、領臺後直に、其缺を補はんが爲、基隆、高雄、花蓮港、蘇澳、馬公、新港、海口等の築港に、順次着手し、各々完成し、或は完成の域に到達せり。其他西海岸に於ては、淡水、鹿港、大安、安平、舊港、後龍、東石等の諸港あるも、何れも海底は砂泥にして、干潮時には、船舶坐洲して其の港灣の用をなさず。近年は橋樑港の築港計畫あり。

他を占む。生産物は島の需要を充てて...

竹藪・紅藪・納藪等以前在産にして、品質良好ならず、甲當収量少く、含糖分亦...

原料に供せらる。近來無水酒精原料として益々重要さを加へ、作付面積及び生産...

此れ栽培不振にして、明治三十三年の作付六千八百餘甲、収量三萬六千二百餘石...

島場に於て調査研究の結果、特種法の確實性が認めらるゝに至り、爾來積極的に...

月の短期間となす點に於て著しく異なる。全島栽培面積二萬二千五百甲、收穫總額...

度牛・洋牛・雜種牛あり、其だ少數なり。馬匹は從來に於ては見るべきものな...

要點が本島には全然見らざること、穀類子種皆無なること、生産費低廉なること...

タイワ—タイワ

五、資本總額二億九千五百二十二萬圓に増加し、其後、會社の整理合同等に依り、昭和十一年期以後は資本金二億三千三百五十二萬圓に減じたるも、能力に於ては工場の新設擴張行はれ、却つて増加を示せり。全島產糖總額は明治三十五年期には九千九百五十噸、昭和四年期には一億三千三百一十噸、昭和七年期には一億四千八百四十一噸、昭和七年期には十六億四千八百四十一萬餘斤の新記録を作り、其後二年間は過剩糖産分の爲め産糖高減少したるも、昭和十一年期には再び十六億九千四百二十二萬餘斤と増進せり。昭和十二年(自十一年十一月至十二年十月)に於て作業せる工場數は新式製糖場四七、改良糖場九、舊式糖場七五なり。(林業) 林野面積二百四十九萬甲にして、全島の七割に相當する廣大なる地域を占め、水平的には熱帯と亞熱帯とに跨り、中央を南北に縱走する脊梁山脈には海拔三千米を越ゆる高山峻嶺起伏重疊するため、垂直的に見れば土地の高きに從ひ、熱帯より暖・温・寒各帯の森林植物帯に互り、從つて其の包蔵する樹木の種類亦極めて多種多様にして、有用林木のみにても三百種を越え、而かも多量なる降雨と豐裕なる光熱の天恵に依り、林木の生長の旺盛なること、到底他に比類を見ず。西部海岸地方には海岸性林木の叢林帯が爲し、之に續く平地並に山間地方の闊葉樹地一帯は、相

思樹林又は部落を圍繞する萌竹林を除けば殆んど農耕地となり、次に山間の低地より漸次山腹に及びては人工造林に依る相思樹林・桂竹林又は野火の跡地に自生する山黄麻・楓樹等の熱帯林あり、山腹以上は樟・檫木・椎類・楠類・烏心石・樟等暖帯の常綠闊葉樹となり、更に進みて温帯林に入れば本島特有の官楠・紅楠・亞杉となり、次いで扁柏・檜の森林を現出し、最後に杉・石楠・柏類等の寒帯林に達す。而して今日に於ける自然林中最大なるものは、(一)北部に鹿場大山・宜蘭清水溪流域・桂蘭山の針葉樹林、油羅山・阿玉山の闊葉樹林、(二)中部には西阿里山より新高山の西北面に連る針葉樹の大森林、之に對する糖・大山の森林、又八仙山の森林と對する大雪山の森林、(三)東部に丹大山より龍高山に至る中央山脈の東方、即ち馬太溪・マニバシ溪・ヤカシ溪、木瓜溪流域の大森林、(四)南部に大武山より恒春半島の脊梁をなす中央山脈一帯の闊葉樹林等なり。然れども本島は氣候・地形・地質等の關係より林野を完備に導くこと甚だしく、加ふるに過去三百年來大舉渡來せる支那移民の濫伐濫墾と高山番人の放火と、更に領土擴張に於ける各種産業の勃興に伴ふ林産物需要の激増が尠からず森林を減少し、之が爲め治山・治砂・土壌保安並に林産保護上に及ぼす影響極めて重大なるものあり、之に對し適切な施設を講

ずるは林政上最も重要なを以て、夙に種々の林務機關を設置して林野の保護取締を嚴にすると共に、保安林を指定し、造林を實施し來れり。保安林の種類は飛砂防止林・土砂防止林・水源地養林・風致林・防風林・潮害防備林・水害防備林及び其他にして、昭和十一年末に合計四百三十三箇所、二十六萬九千六百六甲あり。造林に於ては、保安並に經濟兩方面より明治三十三年以來官行造林を實施する一方民行造林を奨励し來れり。大規模なる新伐事業は官營にして、阿里山・八仙山・太平山の三事業地に於て行はれ、殊に阿里山は老火木を以て著る。木材の種類は扁柏・紅楠を主とし、他に亞杉・檜・榎子松・香杉(檜大杉)等あり、此等の内、一部は製材品となし、大部分は丸太の儘處分す。用途は各種建築・土木・車輛・家具・船舶用材として何れも可ならざるはなく、殊に長大なるものは、内地に於て船體若くは宏壯大なる神社佛閣用材として費用せらる。全出材量の八〇%は島内に於て消費し、殘餘は内地及び對岸支那に輸出せらる。(水産) 沿岸は魚類頗る豊富にして北部海面には、かつま・まぐろ・かちき・ふか・ちだひ・ぐち・えそ及びかんごを産し、東部海岸には、かちき・かつかつを、まぐろ・そうだかつか・ふか・かつか、西部海岸には、かちき・まぐろ・ふか・かつかを、ちだひ・た

ひ等を産す。就中、北部及び南部のかつか・かちき・まぐろ・ふか及び東支那海臺灣海峡を漁場とするちだひ・ぐち・えそ等は本島漁撈生産の尤なるものなり。近時發達船漁業の振興に依り異常なる發達を遂げ、漁獲高激増し來れり。基隆・高雄・蘇澳の三箇所を根據地となし、發達船漁業に依る各種の漁業は殆んどこの三港に集中せしが、東海岸に於ては昭和七年に新港漁港の修築、同十三年に花蓮港築港成し、更に一般の漁業を見る。漁業の發展に伴ひ、水産製造業の發達亦著しく、就中かつまを節ば生産量に於て十年前に半減せりと雖も、品質の改善に依り内外に聲價を漲るゝに至り、養殖業は古くよりよく發達し、淡鹹兩方面あり。養殖場面積二萬三千餘甲に達し昭和十一年水産額漁獲高は一四、九三四、四〇五圓、製造高二、五〇〇、二九八圓、養殖收穫高四、二〇七、一七八圓、計二一、六四一、八八一圓なり。(鑛業) 本島に於ける既知の有用鑛物は、金銀鑛・銅鑛・錫鑛・鉛鑛・鐵鑛・砂鐵・方鉛鑛・閃亜鉛鑛・硫化鐵鑛・石炭・亞炭・石油・硫黃・磷・砂金・水銀鑛の十五種にして、就中臺灣鑛業規則に基き鑛業を許可したるものは、金・銀・銅・鐵・錫・砂金・石油・水銀・硫黃・磷・鐵・銅・砂金・砂鐵・石油・硫黃・磷鑛の十三種なり。有用鑛物の分布を見るに、金屬鑛物は極北部より東部に限られ、石炭は北部と中央に、

三七五

石油は殆んど全島に亘り、特に中南部に其の兆候著し。されば極北より東部は金屬鑛物の産地帯、北部は煤田地、中南部は油田地に大別せらる。鑛産額は年々著しく増加し、産額歩合を鑛種別に見ると石炭は總産額の三割九分強、金銀銅鐵二割、金一割五分弱、金銀鑛物・金銀鑛之に亞ぎ、以下天然瓦斯・硫磺・銅・砂金・油・原油・カーボンアラック・銅鑛砂金・硫黃・銀・アロヘン瓦斯・鑛鑛の類となる。(工業) 從來製糖・製茶を主とし、其他の工業には見るべきもの稀く、多くは家内工業の域を脱せざりしが、歐洲大戰以來、化學工業・紡織工業・機械器具工業相次いで興り、爾來時に金融・經濟界の影響を蒙り相當の消長を示したるも、全體に於て著しき發達を遂げ、更に日月潭發電所完成に依る電力供給の潤澤化に起因する新工業の勃興と、内地に於ける軍需工業活況に伴ふ物資の需要増加及び一般物價昂騰とに基因して一般工業品の産額激増し、昭和十一年には二億九千七百萬圓に達し、更に臺灣の工業化に伴ひ、諸種の新會社建設計畫續々と發表せられつゝあり、工業臺灣の蒼蒼々たるものといふべし。業種別に觀るに、食料品工業の二億八百六十萬圓は總額の七〇%を占め、次位以下は遙に降つて化學工業三千二百萬圓、其他の工業一千二百九十萬圓、金屬工業一千百四十萬圓、製材及木製品工業一千七十萬圓にして夫々總

額の一〇・二%、四・四%、三・八%、三・六%に相當し、これ等以外は製糖・機械器具工業・印刷製本工業・紡織工業の順位となるも、孰れも總額の一・四%乃至二・八%に過ぎず。食料品工業中主要なるものは砂糖・再製茶・鳳梨罐詰・糖蜜・菓子類・麵類・餡餅及精米の順位となり、化學工業に於ては肥料・アルコールが最も多く、其他硝子・金銀鑛・製材・木製品・セメント・煉瓦及瓦・各種機械器具及原動機・織物等を主要工業生産品とす。(貿易) 本島貿易は、對外國と對内地との二種に區分せられ、前者の爲には、四開港場(基隆・淡水・高雄・安平)と三特別輸入港(後龍・鹿港・東石)設けられ、内地貿易に對する移出入港としては、別段の定なし。然して貿易の内外を問はず現今最盛なるは、基隆・高雄の兩港にして、島内産業の開發、運輸機關の充實、文化の向上に伴ひ、内外貿易共に長足の進歩を遂げし、特に内地貿易に於て著しきを見る。昭和十一年度に於ける外國貿易は、輸出二九〇五三九八〇圓、輸入四八八五四四一九圓にして、輸出品の主なるものは、烏龍茶・包種茶・石炭・砂糖・輪織物・乾魚及鹽魚・酒精・米・樟子・李麻・鮑・セメント・蜜柑・鳳梨罐詰・芭蕉實・紅茶・胡椒等にして、輸入の主なるものは、阿片・米・ガゼン・袋・大豆・木材・硫安・大豆粕・砂糖・

燈油・輪織物・機械類・包圍・銀材・葉煙草・小麥・穀・重油・揮發油・黃麻等なり。又内地貿易に於ては、移出三五八八九四九八圓、移入に於ては、二四三八三一一五二九圓にして、一五〇六三四六九圓の出超を示す。其主なる移出品は米・砂糖・鳳梨罐詰・芭蕉實・鐵・硝子・木材・銅・紙幣・石炭・食鹽・鮮魚介・切乾等にして、移入品としては、小麥・乾魚及鹽魚・輪織物・紙・木材・肥料・機械類・清酒・米・紙幣・煙草・麥酒・硝子・鮑・セメント・ガゼン・袋・自轉車・同部分品及附屬品・石油・毛織物・メリヤス肌衣・製糖原料・鐵道建設材料・自動車・同部分品及附屬品・味の素・履物・絲類・菓子類・罐詰食料品・コンテナ・ストローク・砂糖等とす。(政治) 臺灣の行政機關は、中央官廳と地方官廳に分たれ、中央官廳は、臺北市に總督府を置き、其長官にして、親任官たる總督は、拓務大臣の號稱を受け、諸般の政務を統轄す。總督は、安樂、秩序保持の爲、必要と認むる時は、其管轄區域内に於ける陸海軍の司令官に、兵力の使用を請求し得。總督府内には、總督官房の外、内務・文教・財務・殖産・警務の五局を置き、政府の分掌を行ひ、現業官廳として、交通部・專賣局を附屬す。交通部は、鐵道部・逓信部の二部に分つ。地方官廳には、臺北・新竹・臺中・臺南・高雄に、州を置き、花蓮港・臺東・澎湖

に廳を置き、其最高機關として、州知事、廳に、廳長を置く。州及び廳は郡及び市に分たれ、郡守・市尹は其長とし、更に郡は、街庄の小區域に分たれ、各々長を置く。街庄は、内地に於ける町村に該當す。現在、七市、四五街、二二一庄あり(昭和十三年五月現在)。司法制度は、臺北に最高機關たる高等法院の外、地方法院を置き、新竹・臺中・臺南にも地方法院を有す。其制度内地のものと同異る。(住民) 臺灣の住民はこれを大別して、内地人・本島人・外國人に分け得。本島人はこれを漢族の系統と、高砂族の系統に分け漢族の中にも廣東系と福建系の二に分れ、高砂族は更にこれを山地居住の高砂族、即ち所謂生番と稱せられるものと、平地族の二つに分け得。總人口は昭和十一年末現在五、四五一、八六三人を有し、男二、七八四、四六四、女二、六六七、三九九人にして男女の均衡は女百に付男一〇四・四人に當る。これを種族的に見れば内地人系は二八二、〇五〇人にして朝鮮人系一、六九七人、外國人系五八、八〇九人(内中華民國人系五八、五九二にして大部分を占む)となる。本島人系は五、一〇九、三〇七人、その中漢民族は四、八九八、七四一人、高砂族二一〇、五六六人にして、本島人系は全人口の殆ど大部を占む。歴史的に本島住民を觀察すれば原住民と稱せられるも

タイワ—タイワ

のは高砂族にして、その移住年代は推定するに由なきも、既に古く一般インドネシア諸民族の移動と共にこの島に移り住み、原始的生活を営みて今日に至りしもの。漢民族は遅れて大陸より移住し、漸次高砂族を駆逐してその勢力範囲を擴張せしものにして十六世紀頃には既に相當数の移住ありしこと記録に見らる。内地人の移住は主として領臺後に始まる事は論を俟たず。本島に於ける人口の増加は極めて多く、昭和十一年末人口を前年末の五、三一六、六四二人に比すれば一三六、二二一人の増加にて、人口千に對して二五・六人の増加なり。之れを内地の昭和十一年十月一日現在人口の増加人口千人に對し一四・五人に比すれば甚しく高率なり。これは主として本島人(主として漢民族)の出生死亡の差増による自然増率が、内地に於ては人口千に對し一四・九人なるに對し、本島に於ては二四・七人なる高率なるによる。人口の密度は一平方軒一五・六人に當り、内地の一八三・七人に比して疎なり。民族學的に觀察して本島住民中、最も興味あるものは高砂族なり。高砂族はこれを大別するに、一般に高砂族と稱せらるるもの、即ち生蕃と稱せられしものと、平埔蕃、即ち熟蕃と稱せられしものと、二に分つを得。生蕃は山嶽地帯、或は交通不便の東海岸に居住し、その固有の風習を今日まで保存し來る。平埔蕃はこれに反

して主として平地に居住するを以てその名稱あり、早くより漢文化に同化さるゝの機多く、今日に於ては殆ど舊態を喪失して言語習俗共に漢民族と區別を附すること不可能なる有様に至りしもの多し。生蕃はこれを九つに分類し得。臺北帝國大學土俗學人類學研究室の分類によれば、アタヤル族、アモン族、シャウ族、サイヤット族、パイワン族、ルカイ族、パナパナ族、パンツア族、ヤミ族なり。アタヤル族は攀來タイヤル族と稱せられしものにして、本島北部山嶽地帯に居住し、その分布は臺北州、新竹州、臺中州、花蓮港に跨る。その人口三六、一八八(以下皆昭和十一年末現在)、戸數七、四二二戸を有し、部落數一七九社に及ぶ。海拔五百米乃至千五百米程度の山地の山腹に部落を作り、比較的小集團となして點在すること多し。本族は割墨の風習を有し、男女は口邊より耳にかけての鬚部に、男は鬚部と下顎に鬚を以て鬚部名稱を有す。しかし近年理蕃當局の方針によつて禁止され、年少者の鬚部は既にこれを見ず。生蕃は男は本來狩獵及戰闘を事とし、女子は農耕に従事するを原則とせし近年男も農耕を主とする傾向に至る。該首の風習は高砂族略ど全部を通じての特習なりし近年全くその跡を斷つに至る。高砂族は元來その性頗る淳良素朴にして、この風習は無智より出づるものとす。アタヤル族は本島

蕃族中に於て、最も性慥悍と稱せられしも、開化の状態は頗る速く、一步他族に先んずるものあり。アモン族は、人口一七、九一〇人、戸數一、九九八戸、部落八社を有し、臺中州を主とし、花蓮港、臺東廳・高雄州に亘つて散布す。千末前後の高地に於てを當とし、大集團をなさずして點在す。本族はその家族制度大家族制にして、一家内に多きは五十人餘に及ぶ事あり、歸順の最も遅かりしは本族にして開化状態は比較的遅し。サイヤット族は人口一、四八六戸、戸數二五八戸、部落數一五社の少數にして、比較的低下山嶽地帯に住す。アタヤル族と隣りその服装等はアタヤル族を模せしもの多きも比較的交通便利なる地に住せしため漢族化せし所多し。シャウ族は人口二、一六七人、戸數三五六戸、部落數二一社を有し、主として臺南州及び高雄州北部山地に居住す。集團生活を營み、性慥悍、よく集團的戰闘を好みしもの。ルカイ、パイワン、パナパナンの三族は一般にパイワン族と云はるるものにて、多くの近似點を有せるため一括してパイワン族と稱せらる。三族の人口は四三、九八七人、戸數八、九一九戸、部落數一四八社とす。何れも集團生活を營み、パナパナ族を除く二族は高山地帯にスレート製の家屋を營む。本族は手工藝の技に秀で、彫刻、刺繍等を巧みにする事は、本島蕃族中隨一なり。パンツア族は一般にはアミ

の名を以て呼ばれ、平地に居住す。全人口四八、八九八戸、戸數九、一三九戸を有し、數に於て高砂族中に冠たるものあり。集團生活をなし、大蕃社を形成する場合も多し。農耕は早くより米作を主とし、水田を營む。性温順、積極的な賦首の風は有せず。ヤミ族は臺東の東南方の一島嶼なる紅頭嶼に居住し、その人口一、七二三、戸數四〇〇、部落數七社、島の周圍海岸近くに集團す。農耕及漁獲を主とす。該首の風を全く持たず。この島は小島に孤立し、外敵に隔絶せるため、朝氣に乏しく、進歩も遅る。本島民は臺灣本島より寧ろフィリッピンの一部パタヤン島嶼との交渉深し。また一方平埔蕃を見れば、これ亦五乃至十の種族に分類する事を得。平埔蕃はその數五萬乃至六萬と云はるるも、その混血状態等より見て正確なる數字を指摘すること困難なり。往時の史籍に臺灣の土民として記されたるものは概ねこの平埔蕃なり。元來高砂族は人類學上プロト・マレイ人と稱せらるゝものその主幹をなすものと思はせられ、その言語は一般インドネシア語に屬するもの用ひらる。故に廣くこれを觀察するときは、フィリッピン、ボルネオ、ジャバ、その他のインドネシア地方との密接なる連繫を考慮するを要す。漢民族はこれを二大別して、廣東系と福建系に分つことを得。福建系は人口四、一四一、

六九三人、臺灣全人口の八割を占め、廣東系は七五六、八七四人にて、一割五分に當る。兩系共にその移住故地の相異より相容れずして今日に至りしものにて、各別の部落をなし、また言語習俗にも各々特徴を有せり。古くこの兩族は互にその勢力を争ひ、多くの争闘記録を残す。これを分類機關と稱す。これ等漢民族は元來本島民の主幹をなすものなるも、南支那の民族の特徴をこゝに移せしものに過ぎず。

〔沿革〕 臺灣高砂族祖先の南方より東住せし時期は明ならざるも長期間、數回に亘つて行はれしものと思はる。高貴や山海經の如き古記録は別として、漢書地理志に見ゆる東嶺、三國志・吳志に見ゆる夷洲は臺灣なりとし、或は又臺灣を含める諸島嶼なるべしとも云ふ。臺灣史の精確實性を待つに至りしは隋代以後の事に於て隋にては臺灣を流求と云ひ、以後明初まで流鬼、瓊求、琉球等文字は異なるもリューキューの稱呼を以て呼ばれたり。隋書に煬帝の大業年間(我が推古天皇の御代)流求國を征し數千を虜にして歸るとあり、これ上代に於ける臺灣と支那の接觸の最も著しき例なり。尤も隋書の流求即臺灣説は反對説もあり、流求はあく迄現在の琉球なりとする流求琉球説や、琉求は現在の琉球臺灣を總稱せしものなりとの折衷説が出て、古くより學界の論争點たり。然しその距離、言語、土俗等

の諸點より推して流求即臺灣と見るを相當の説とすべし。唐以後即ち臺灣と支那大陸は交渉なかりしが如きも、元の世祖至元二八年(元中九年)の御代、揚輝の招撫討伐が不成功に終り更に成宗の元貞三年張瑄、張瑄が瓊求に至り生口百三十人を得て歸りし事史籍に見ゆ、更に下つて明代に至れば臺灣の存在は益々明瞭になり、明朝鄭和が東番(臺灣)に寄ると云ふは傳説に過ぎざるも地理上の知識が正確になりし結果現在の琉球を大琉球とし、その傍の臺灣を小琉球と稱するに至れり。小琉球の記事の最古のものには明實錄洪武二十五年(元中九年)にまで遡り得るが、その後には嘉靖十三年(天文三年)の冊封使陳鳳の使琉球録、鄭若曾の琉球圖説、鄭舜功の日本一鑑等は、その好例なるもの。中にも、日本一鑑には小琉球、鶯籠山、硫黃山、花瓶嶼等を一併して畫き小琉球の説明に、小東島即小琉球、彼云々大東國と記せり。大東國とは大崎、大奇(島夷志略、星槎勝覽)と同一語源に基づくものにして、日本人の高砂高山國は塔加沙古の音を寫せしものと思はる。更に明代中葉以後に至れば臺灣はその全部或一部が東番、北港、臺灣、臺員、大灣、大寬、鶯籠、淡水等の名を以て呼ばるゝに至る。この頃ポルトガル人漸く東洋に來り臺灣近海を通過つて美羅島の意を寓しイリヤ・フォルモサと稱す。これ本島の歐名をフォルモサと稱する起原なり。明

末即我室町時代の季には八幡船に搭じ南海に雄飛す所謂倭寇なる者を生じ支那の中南人の海賊林國恩、吳平、曾一本、林道乾、諸良貴、林鳳等、更に下つて李且、鄭芝龍等と共に盛んに南支、南洋を劫掠せしが、同時に彼等の多くは直接、間接に臺灣、澎湖島と密接な關係を有せり。國南の雄志を抱ける豊臣秀吉は文祿年間書を致して高山國を詔諭せんとし、次ぎて慶長十四年有馬晴信は徳川家康の命により家臣千々岩宗女を以て臺灣を探検せしめ、元和元年長崎代官村上等安亦家康に願つて征臺を實行せり。而も暴風により所期の目的は達せられざりき。然しこれがため日本商船の臺灣を指して赴く者漸く多く寛永領綱令實施後日本人勢力の本島より一掃さるる迄に、約三十艘を算す。彼等は臺灣に銅、鐵、藥、雜貨等を賣し、臺灣より生糸、巻物、鹿皮を持歸れり。和蘭東印度會社は日本、支那との通商貿易を許る慶長七年創立されしも、漳泉地方より渡來する支那人と取引を行ふべく元和八年にはライエムセン艦隊は澎湖島を占領し、支那官憲と數次の折衝の結果寛永元年に至つて臺灣本土、現在の安平の地に移る。和蘭人は當時の一親身の地に先づ假城を築きしが、寛永九年には本城を完成してセーラランヂヤ城と稱す。一方水のある地を求めて、寛永二年新港社土人より赤崁の川の近傍の地を布十五反を以て購ひ、此地に

住宅、病院、倉庫等を建て、支那人、日本人を居住せしめて股廠なる町とせんとし、これをプロビデンチヤと命名せり。これ現在の臺南の地に當る。和蘭人は臺灣を統治するに當り、その財政維持策として輸出入貨に一割税を課せんとし、支那人は之に従ひし日本人のみは和蘭人より先來の故を以て之に應ぜざりき。和蘭人は日本に於ける貿易の不利を懼れて特使ノイタを日本に派し協議せしめしが功を奏せず、寛永五年に至つて演習兵衛の乗船が臺灣に來りしを以て武器を始め、積荷を取上げ、船を拘留す。備兵衛等は此の處置を不當とし乗組員十數名と共に長官ノイタに面會を求め、要求のきかれざるに及びノイタに迫り若し敵對すればノイタを刺さんと脅せしを以て和蘭人は容易に手を下し得ず遂に要求を入れて和解す。この事件は後、長崎に至つて日蘭の大問題となり、平戸の貿易は停止され、蘭船は拘留され、遂には當の責任者ノイタの日本引渡となり、彼は平戸に留置されしも、寛永十三年に至り東印度會社が日光廟造營に銅燈籠一基を獻じ辛うじて釋放さるるに至れり。一方臺灣にては内地の統治に力を注ぎ、寛永十二年先づ麻豆、蕭壠等諸社を討ちしが、續いて南北諸社の降順する者多く翌年末には和蘭治下に入れる蕃社數五十七に達し、後慶安三年には二百七十餘、殆ど全島海岸一帯に亘る。支那人の臺灣在住數は此頃

和蘭人なりし和蘭人は彼等の移住を奨励せしを以て既に寛永年間には約一萬、萬治三年の頃には二萬五千に達するに至れり。和蘭人は此等支那人の労働力を利用して産業の開発を行ひ、砂糖、其他農産物の栽培奨励を行ひ、砂糖の如きはこれを日本・波斯の市場に送るに任されり。其他農産物の獲得の爲に互つて東海岸、大屯山、北投の硫黄、基隆の石炭等も種少ながらもこれを採取せり。和蘭人は又原住民を教化して産業戦線に参りんとし、基督教による教育を施して品性の陶冶に努む。よつて中南部各地方には教會・學校が出来、生徒は識字、教理を教へられ、大人の信者も多数に上り定着の農業も教へらるゝに至れり。その教化區域は北は臺中附近、南は恒春邊迄に及び、蘭人撤退後所謂番語文書として殘存し後世に影響を與ふ。蘭人が南部にあつて臺灣を統治せし時北部はスペイン人これに占據せり。彼等は寛永三年アントニオ・バルデス指揮の下に基隆に來り港をトリニダード、港口にある一小島をサン・サルバドルと名付け、これに築城して據り、又島の山頂にも各堡壘を設く。續いて寛永五年には淡水を占め、サントドミンゴ城を築き、總にはその勢力圏は北部海岸一帯に及び。然し、スペイン人統治の政績は他日詳細に判明

せず。イスパニヤ人の統治は和蘭軍の來襲により終りを告げ、蘭人は全臺灣を統治する事になり、貿易の利を壟斷するに成功せしが、東印度會社は出費を惜み、兵備を固くせざりしを以て、臺灣を襲へる鄭成功軍の爲にその軍門に降るの止むなきに至れり。鄭氏襲來の際プロビアンチャ城は閉鎖しなく陥落せしが、セイランヤ城にては長官コイネット以下よく防禦して九月の間に維持し遂に力盡きて翌年二月一日開城す。かくて蘭人の臺灣統治は三十八年間を以て終末を告げたり。鄭成功は臺灣を東都と改めセーランヤ城を安平鎮とし、プロビアンチャ城に水天府を置き、南北二路に天興、萬年二縣を置いて行政區劃とす。彼は間もなく病歿せしが、子經の代に入つて東都は東寧、二縣は二州に改められたり。經は陳永華を擧げて國事に當らしめ、前代成功が屯田制による農業奨励をなしたるに對し、更に五穀を栽培し、蔗作奨励、製鹽、煉瓦燒等を行ひ、また社學を設け科擧の制を定め聖堂明倫堂を建て、文教を振興せんとし、一方又英國東印度會社と結んで貿易の利を擧げて財庫を豊かにせんとし、經營見るべきものありき。然し經の死後一族間に内訌生じて人心離反し、康熙二十二年(天和三年)施琅の率る清兵に降り鄭氏三代二十三年の治世は終を告ぐ。清朝にては臺灣を一府とし、現今の臺南を府治の地とし福建省に屬せしめ

臺灣、鳳山、諸羅(林爽文亂の後嘉義と改名)の三縣を置きしが後、雍正以後彰化、淡水、澎湖、噶瑪蘭の諸縣が増設さる。清朝の政治は官吏の私曲を恐れて任期を三年と限りし爲大人物の任命ありしにも拘はらず劉銘傳の任命迄匪械闘を繰返せり。元來臺灣の民は支那よりの流民にして概して優秀な分子ならず、加之婦女子の渡航制限より家族を持つ者少く、所謂羅漢脚と云はる無頼の遊民にして常に亂を好み、成功すれば招撫されて官吏となり、失敗するとも深山中に逃れ得るを以て官吏の稅政人民の愚昧は相俟て多くの匪亂を惹起し、三年小叛、五年大亂の語をなすに至る。その反亂は約四十件を算す。之等反亂に對する爲政者の政策は主として保甲制度の勵行、團練制度の組織、土牛線設定による民番の劃界、政治の革新等が數へらる。然しその處置は常に因循姑息にして大なる効果を擧ぐる事能はざりき。更に又、臺灣に渡來せる漢民族は漳・泉二州を基とする福建族(閩、福老)と後來の廣東族(粵、客入)とより成るが、この兩族は同じ漢民族なるも言語を異にし、風俗習慣、氣質等差異なり幾細なる感情問題、及び諸種の經濟問題より屢々紛争を生じ、互に黨を立てて争へり。これを分類械闘と云ふ。これは會に關し、粵間のみならず漳の如き對鄭貫の争、引いては異姓間の争に迄進展す。この械闘が轉じて反亂となりし例も

また少からず。政府はこれに對しての方策に腐心し、所謂諭民勸和策、機先策、共存策等をとつて防止せんとせしが徹底的の功を擧ぐる事能はざりき。十八世紀の末迄臺灣は對外關係の語る何物をも持たざりしが我が明和八年波蘭の貴族ベニヨフスキーの東海岸探検ありて、歐人を以て臺灣を再認識せしめたり。其後清朝末期、資本主義發展をとげた諸國の支那進出激化に伴ひ臺灣も亦世界史的の舞臺に上り、陸續として歐人の來る者増加せり、即阿片戰爭の際英人は基隆を占ひ、道光二十二年(文政五年)には英船ホムテラ、アン二艘の擄奪、乗組員擄殺等の事件あり、咸豐四年(安政元年)には米國ペーリ艦隊の基隆岬田調查あり、續いて天津條約の結果臺灣府(安平)を、基隆、打狗四港の開港となれり。南部澎湖地方にては咸豐十年(萬延元年)プロンヤの運送船エルベ號が客入より擄奪され、同治五年(慶應二年)には英艦ドーブ號亦擄奪さる。翌六年には米船ローバール號が海峽にて擄奪し船長以下上陸せしがケララ社客入に擄殺さる。米國は開港の節を出せしが功なく、僅に大頭目と會見し、將來の擄殺船處置に關して條約を結び局を結べり。同治八年には樟腦專賣、基督教徒被害に端を發して英人の安平占領となる。同治十年(明治四年)には神農島古の漁民五十四名が擄殺して社伴社に被害され、次いで又嶺中小田原

の民四名が東部に漂著して客入の擄奪にあひしに端を發して、明治七年の西郷從道率る征臺軍の派遣となり、軍は牡丹、高土佛等諸社を討伐し、一方支那政府に對し征臺師の正當を認めしめ賠償金五十萬兩を得て局を結ぶ。續いて光緒十年(明治十七年)には清佛戰爭起り、佛海軍の臺灣、澎湖兩支沿岸封鎖、基隆、淡水の攻撃となりしが佛軍は惡役の爲病殺する者多く、本國に於ける國論不統一によつて間もなく講和となる。清佛戰後、清朝にては臺灣の防備の一日も閑にすべからざるを見て、翌十一年、臺灣を獨立の一省とし劉銘傳を巡撫に補す。彼は進歩的爲政家にして、先づ郡縣の制を改め臺北、臺灣、臺南の三府とし、その下に三廳十一縣を分設し、別に臺東に直隸州を置き、又各國より銃砲を輸入し、砲臺を修築し軍艦を造り、電報總局、郵政總局を設け、鐵道を布設し商務局を設けて對岸、南洋との航路を開き臺北、宜蘭間の橋樑道路を完成せり。殖産方面には樟腦專賣、茶葉奨励、礦物採掘等に力を注ぎ、一方又教育に意を拂ひ、歐米文明輸入を目的とせる西學堂、番童教育の爲の番學堂を設け、撫臺總局を設け理番の事に當らしむ。其他積極政策による政費膨張の爲め財政整理を行ひ、清賦局を設けて檢地を行ひ又稅率を改正して増收を期し通貨を統制して私錢の使用を禁す。其他保甲制度の確立、市街の建設、通信打破

等臺政刷新に盡せしが、餘りに急進的にして住民の負擔過重の爲島民の反感を買ひ、光緒十七年、病と稱して經綸の中途にて辭任するに至る。後任の邵友濂は民力の休養を計ると稱して總てに消極策をとリ、前代の施設を多く中止す。光緒二十年(明治廿七年)唐景崧が巡撫に補されし時に既に日清の和平破れて鮮滿の地は砲網の巻とされるを以て彼は臺灣の防備にのみ努む。翌年下關條約の結果、臺灣は日本の領有となりしが、野心満々たる彼は劉永福等と謀り、臺灣民主國を假設し、自ら大總統となりて王師に抗せり。既に北白川官軍劉永福の率る給へる近衛師團は旅順、大連を發して臺灣に來り、明治二十八年五月末澳底に上陸し、賊徒を討つて六月七日臺北に至り、更に南進して桃園、新竹、苗栗、彰化を討ち、見官貞愛親王の率る給へる第二師團、伏魔を加へて南進軍を編成し、臺南州布袋嘴、高雄州枋寮、南進近衛軍の三方より臺南を征む。一方、有地中將麾下の艦隊は海上より臺南を封鎖せしを以て守將劉永福は逃走し、かくして全臺灣は平定を見たり。これより先、比志島大佐の率る混成支隊は澎湖島を占領す。臺灣征討中長多き事は能久親王の薨去なり。親王は金枝玉葉の御身を以て朝敵を征討の爲め艱難辛苦を嘗めさせられ、病を力めて船上より自軍し給ひ遂に十月二十八日

臺南に於て薨じ給ふ。島民感徳を感んで遺蹟地の傍に臺灣神社を建立し親王を奉祀す。臺灣は明治二十八年六月二日を以て清國との授受手續を了せしを以て總督府は臺北に施政を開始す。領臺當初は猶未だ兵燹止まざる際として政務施行には軍隊の力を藉り軍政を施さしが、翌二十九年四月地方官々制公布せられ、臺北、臺中、臺南の三縣、及び澎湖島を置き民政を施す。是より先、初代樺山總督は先づ二十八年六月二日を以て諭示を發して、人民は從順に業務に従事すべき事を諭し、續いて租稅を免じて愛民の誠を示し、西班牙と協議して臺灣、比島間の境界線を明にし、諸外國に臺灣領有を宣言す。翌年には帝國刑法を本島にも適用す。この他阿片吸飲の漸禁を圖り、度量衡を改め、裁判制度を確立し、内臺鐵路を開始して英のドゲラス會社と競争せしめ、病院、學校等の文化施設をも設く。次いで、乃木副總督は住民に安堵すべき事を論じ、又乃木總督は臺灣紳章を制定して學識、徳望を有する士を表彰す。第四代兒玉總督は後藤新平を長官とし官制改革を施して民政の確立を期し、屢々土匪を靖定し、臺灣神社を創建して能久親王の宏業を島民に銘記せしめ、養老典、揚文會を開いて敬老崇文の實を示す。又財政の確立を期し臺灣銀行を設立し、殖産を盛んにすべく糖業政策を樹立し、樟腦、食鹽、煙草の專賣を開始し、其他土地調

査、戶口調査を行ひ、内地人教育に當るに注ぎ投資鐵道、航路擴張を設くる等交通運輸に盡す所も多し、施政見るべきもの極めて多く、次の佐久間總督は基隆、打狗の築港、總督府廳舎の起工、阿里山森林の經營、研究所設立、彩票の發行、移民村の開墾等を行ひし而就中力を注ぎしは生番の討伐なり。先づ番界諸所に警備官、隘勇を配し、隘勇線の前進を計り、明治三十九年より四十三年に亘り各地の隘勇線を前進して兇番の壓迫、蕃地獲得に成功せり。次で皇化に浴せざる蕃社を討伐するに決し、四十三年より五十年計畫を以てマニコロン、キナジョー、ガオガシ、シヤカウ、サラマオ諸蕃を討ち、最後に花蓮港臺下タロコ蕃の大討伐を終つて大正三年八月臺北に凱旋す。かくて理蕃政策は討伐時代を去つて總撫時代に入り、官憲は彼等に投資、教化、醫療、交易、觀光等の事を行つて啓蒙に努め、爾後總督事件(昭和五年十月)の如き不祥事はありしも大體に於て善治は平穩に歸するに至れり。第六代安東總督は力を八仙山、濁水溪森林經營に致し、又南支南洋諸島、南洋航路開發をなし、對岸の領事を會して南進策を樹立せんとし、次の明石總督は司法制度を革新して司法官を優遇し、教育令を制定し、又中部海岸線を設け蕃地道路を開墾して交通を便にし日月潭水力電氣を起さんと試む。以上總督は何れも武官なりしが大正八年田健治郎

始めて文官として總督に就任し、自治制
施行の前提として地方制度に革命の改
革を企て、西部十廳を廢して五州とし、
州を分けて市・郡とし、従来の中央集權
主義を地方分權主義に改め各州に協議會
を設け大正九年九月より之が實施を見たり。更に又永く統治上の障礙たる所謂六
三問題を解決し、同化無差別、内地延長
主義を期す爲、内臺人共婚、内臺人
共學を認め、後年民族運動消滅の根柢を
なす。田總督に次いで内田嘉吉・伊藤多
喜男・上山滿之進・川村竹治・石塚英藏・
太田政弘・爾弘・中川健蔵の歴代總督を
迎へ、諸般の事業は躍進に躍進を續け、
即ち地方自治制施行となり、農・林・畜・
工・水産・鐵業等の産業は發達し、築港
行はれ各港の貿易額は増加し、嘉南大
判、日月潭電力の工事完成を見、教育に於
ては大學を始め諸種専門學校の設立を
見、衛生状態は著しく良好となり、交通
は鐵道・汽船の他に、島内外の旅客飛行
實施を見、通信には放送無線・内臺無線
電話開始され眞に劃期的な飛躍たり。か
くて領臺四十年の官民の努力は臺灣をし
て文字通りの美麗島たらしめしが昭和十
二年には四十周年博覽會を開きて臺灣
の姿を如實に内外に示せり。文官總督
は時に政變の爲、任讓して去り統治の
圓滑に行はれざる事あり、島民之を憾と
せしが第十七代には海軍大將小林清造任
命せられ、且て今日に及べり。

【臺灣總督府鐵道】臺灣にある鐵道。總
督府交通局鐵道部の所管にして縱貫線・
臺中線・宜蘭線・淡水線・臺東線・平溪
線・集集線・潮州線を含む。

【臺灣製糖會社】臺灣臺南州・高雄州
にあり。總督府鐵道部鐵道部善化糖廠(臺
南州善化郡善化庄)より同庄大字曾文の
神社前驛に至る三・八軒、高雄州鳳山郡
大樹庄の潮州驛九角堂驛より旗山郡美濃
庄の竹頭角驛に至る三九・四軒、鳳山郡
鳳山街の潮州驛鳳山驛より同小港庄の工
場驛に至る七・八軒、屏東郡潮州驛屏
東驛より屏東郡里港庄の里港驛場に至
る一五・八軒の各線を含む。

【臺灣海峽】臺灣島と中華民國の福建・
廣東兩省とに夾まれたる海峡。南北約四
〇〇軒、南に廣く北に狭く、最狭部
は僅かに一五〇軒に過ぎず。臺灣島寄り
に澎湖列島(總數六三島)群在し、兩者の
間け別に澎湖水道と呼ばれる。一般に淺き
大開の部分にして深度一〇〇米以上に
及ぶは東南部の狭小なる部分に限られ、
澎湖列島の西南に近き臺灣地 Benue

原川の谷との分水嶺をなし、西北隅に三
國岳(八五五米)、其南に千ヶ峰(一〇〇六
米)、西境中央に笠形山(九三九米)を起し
東境には約五七〇米の山嶺連り西光寺
山(七一三米)聳立し郡内山地多く、其南
端にて杉原川が古川に合し加東郡に入
る。佐治川の東部は老坂山脈の西端を占
め、東方白雲山より延びる數列の山脈は
東北より東南に走る數條の斷層により切
られ西方へ傾斜し、東境に西光寺山を起
す。山地は侵蝕よく行はれて隆起準平原
の平頂峰少く從順山形をなし、殊に西部
の東西を隔る山地は山嶺鋭く、川に沿
ふ谷は深く且つ扇形して埋積され(沖積
平地)所謂壯年期地形の過程にあり。低
地は田畑よく拓け良質なる播州米を産し
又稗麥・小麦を多く産す。山地は糖菜を
供給し又牧牛も行はる。郡内は中町・西
船町の二町外七箇村を含み谷に沿ひ樹枝
狀に人口分布し平均一方軒の密度は一六
四人なり。道路は縱横に延び西南方加西
郡北條町を過ぎ經路市方面に至るもの、
南方高砂町・二見町・明石町方面へ走る
もの、東南方神戸市と結ぶもの、北方米
上郡佐治町へ通ずるもの、東北同郡柏原
町方面へ至るもの等あり。社線播丹鐵道
は加古川に沿ひて東部を買き米上郡に入
り谷川驛にて省線福知山線に連絡し、其
支線觀治屋線は南部野村驛より分れ杉原
川に沿ひて北上し觀治屋に至る。本郡は
延喜式に郡名見え、和名抄は荒田・賀美・

【多可】 兵庫縣播磨國の東北部。中國
山脈東部を占め加古川中流に跨り、西南
は加西郡、南は加東郡、東は丹波國多紀
郡・水上郡に界し西北部は神崎・米上二
郡の間に突入し其西北端は但馬國朝來郡
に接す。面積二八三・四九方軒。西北境
に中國山脈の山嶺南北に走り約一千米
の高さを呈し、中央加古川の谷と西方杉

分に屬する爲、面積狭小なる農耕過地
多く、また郡下に於て最も水利の便に恵ま
れ純然たる農村を形成し、農業戸數は總
戸數の八〇%に當り、農産物は面積の割
合に收量多し。價額四十五萬圓の米を農
産の大宗とし、年生産十八萬餘圓の甘藷
と合せて農産總額の大部分を占め、其他
甘蔗十萬圓、蔬菜四萬圓、黃麻三萬圓、
バナナ・柑橘等の果物四萬圓、落花生
等を主要農産物とし、農業に依る年生産
額約九十萬圓に上る。畜産の内、最も重
要なるは養豚にして、飼料たる甘藷の産
出に恵まれ、飼育頭數二千を越え、都會
地へ搬出せらるゝもの多く、鶏一萬八千
六百餘羽、鰻一千九百餘羽、鴨二千餘
羽と共に總ての家庭に主要副業として普
く飼育せられ、且つ改良地肥養豚の普及
と共に一面採掘上の利益と相俟つて農家
經濟の有力なる一支柱をなす。青年は大
部分牛牛にして六百四十餘頭を算し、専
ら農耕等に使役せられ、黄牛甚だ少し。
縱貫道路は中央部を南北に貫通し、北は
具林街、南は北斗街との間に乘合自動車
の便あり。該道路に沿ひ臺中經鐵道社經
營の軌道(手押電車)を通ず。鹽水港製糖
經營の社線は東南田中庄の田中驛(縱貫
線)より東に、東南部を過ぎて二階北斗
街に入り、管内に備平・田尾の二驛を設
置す。管内はもと東線東條(備平驛・田
尾・海豐驛・打鷹)武西線(會原驛・平
平・小紅毛驛)東線西條(流子驛)の三條

に分類し、最初は平地蕃族ゴアオヤア
部族のオオバライ即ちタンレエ(東部)社
及びアイトン部族のマイグエタ(大武
郡)社の所在地にして、清領後漢人の移
住者散居し、康熙の末頃より開拓の緒に
就き、乾隆年間に至りて一帯の開墾完成
を告げ、漸次部落の建設を見、今日の基
礎を造れり。

タオ

【多鴨面】 朝鮮全羅南道
光陽郡の東北端。鎭津江下流右岸。小白
山脈中に位置し、西南境は山岳重疊し、
殊に白雲山(二二六米)最も著はれ北東
に向つて漸次高度を減ずるも、鎭津江岸
に達し殆んど平地なく、耕地は緩斜面に
より僅かに開墾せるに過ぎず。産物の主
なるものは大麥・粟・馬鈴薯・蕪菜等に
して一般に生活程度低し。僻遠山間に位
置するを以て道路の發達最も遅しく交通
極めて不便なり。

タカ

【田河】 壹岐國(長崎縣)の古地名。
和名抄、壹岐郡の條に田河郡の名見え。
今の壹岐郡田河村は其地ならん。

タカ

【多可】 兵庫縣播磨國の東北部。中國
山脈東部を占め加古川中流に跨り、西南
は加西郡、南は加東郡、東は丹波國多紀
郡・水上郡に界し西北部は神崎・米上二
郡の間に突入し其西北端は但馬國朝來郡
に接す。面積二八三・四九方軒。西北境
に中國山脈の山嶺南北に走り約一千米
の高さを呈し、中央加古川の谷と西方杉

郡河・資母・墨田・墨田の六郡を管く。
風土記に託託郡に作る。

【多可】 ↓高村(廣島縣比婆郡)

【タカ】 山城國(京都府)の古地名。
和名抄に櫻喜郡多河郡あり。其の地は今
の多賀村・井手町の邊に當る。

タカ

【高山】 ↓土湯村(福島縣信夫郡)
【高村】 廣島縣備後國比婆郡の南部。庄
原町の東北に隣る。東境に大黒目山(八
〇二米)、西境に大仙山(四五九米)あり
て、その尾根何れもほぼ西北に走りて村
境を隔る。それ等の山脚は中央に向ひて
傾斜し東北より西南に走る從谷を形成
す。西城川は從谷を買き部落はその沿岸
に散在す。低地は僅小なるも地味肥沃な
るを以て水田廣く開けて米を多産し、丘
陵地には桑畑拓く。西城川に沿ひて縣道
通じ、東北隣西城町及び庄原町にパスの
便あり。古くは多可郡に作る。和名抄に
三上郡多可郡と見え。

タカ

【高松】 ↓阿蘇山
【多可】 陸奥國(福島縣、磐城國)の古地
名。和名抄に行方郡多河郡あり、その地
今の相馬郡原町・高平村・石神村の邊に
當るか。

タカ

【多河・多賀】 成務天皇の朝東國に置き
建御依日命を以て國造と定め給ひし國。
國造本紀に高に作る。孝德天皇白雉四年
分けて多河・石城二郡とし、石城郡を陸

特に多河郡多河郷と見ゆ。古く高國造の居りし地にしてのち郡家の所在地たり。故に中世、大多河郷(または大高郷)といふ。今の多賀郡松岡町・高萩町の地に當る。

【多賀】 静岡縣田方郡にありし村。昭和十二年熱海市と共に廢し新たに熱海市を建つ。

【多賀村】 滋賀縣近江國大上郡の中部。彦根市の南、高宮町の南東に接す。東半は山地にて東端藤畑村との境上にウナハ山(六八七米)、其南に高畑山、南部に青徳山の突起あり、其他丘陵起伏し古生層又は新第三層より成る。西部は湖東平野に屬し其間を南に大上川、其北に二ノ井川・森川等が西に流れ人工の湖池、高宮池・大門池・原田池等と共に灌溉を授く。米を産し養蠶・養鶏行はれたる山地よりは糠耳・スナヅキを出し、大字多賀には多賀神社に因る土産物・糸切餅等あり。縣道大瀨彦根線・久徳彦根線共に本村を過ぎ彦根に至り、多賀八日市線は八日市に達す。社線近江鐵道は高宮より分岐して本村に達し、土田・多賀の兩驛(共に大正三年設置)を設く。定期バスは彦根口驛より來り、別に多賀驛より多賀神社に至るものあり。本村は上古の田可郷の地にして高即ち高地の義なり。中世には犬上荘の中に入る。室町時代以後京極氏の一族多賀氏に多賀城を築きて據る。江戸時代には彦根藩領となる。幕末幕王

の志士平戸宗功(贈從五位)は本村の人なり。(多賀神社) 官幣大社。大字多賀に鎮座。延喜式に多河神社二座とあるものに當り初は犬上縣主の祖神とせられしが實は伊弉諾尊・伊弉冉尊を祀る。古來、伊勢へ參らばお多賀へ參れ、お伊勢お多賀の子でござる」と語られ歴朝の尊信厚く延命の神として一般に信仰せられ講を結成して汎く全國より參拜者多く集まる。境内に壽命石と稱するものあり、昔僧重源が東大寺再建に當り笈を此石上に下し延命を祈願し奇蹟に遭ひたりと傳ふ。奉の大火は四月二十二日、此日古式による馬頭人の渡御あり。當社の奥書院庭園は名勝に指定せらる。(胡宮神社) 大字敏満寺にあり。縣社。祭神、伊弉諾尊・伊弉冉尊。鎌倉時代に隆盛を極めたる敏満寺の領守たり、數回の兵火に遭ひて廢れしを寛永十五年再建し現在に及ぶ。例祭四月二十一日。社費の銅製五輪塔は舊敏満寺本堂に屬し佛舍利を納めたるものにして建久九年の銘あり、之に添へる同年の僧重源の寄進狀と共に國寶たり。また社務所庭園は舊福壽院書院の庭園なりと傳へられいま指定名勝たり。(眞如寺) 大字多賀にあり。淨土宗知恩院末。天正年間僧宗樂の開創に係る。本堂木造阿彌陀如来坐像はもと多賀神社の本地佛と傳へられ幕府時代の優作にして國寶たり。

【多賀村】 兵庫縣淡路國津名郡の中央西部。郡家町の東南に隣り、西の一部は海に面す。地は五十米乃至百二十米の丘陵地帯なるも、湖池に依る灌溉の便よろしきをを得て耕地よく拓け、米の産多し。副業としての鶏卵・蠶製品等相當見べきものあり。海岸線は殆んど直線的な砂浜にして良港なく隨つて漁業盛んならず。縣道郡家町より來り東南方志筑町方面に走りバスの便あり。村内に一宮寶鏡高等女學校あり。神代より夙く開墾されし地方にして、日本書紀神代卷に伊弉諾尊大八洲を生ませ給ひたる後、幽宮を淡路洲に擲へ寂然として長隠すところ、今の伊弉諾神社即ち夫れなり。大字川合に崇道天皇の御陵の舊蹟あり、俗に高島御陵と稱す。(高島御陵) 圓丘に古松生ひ繁り、牛頭天王を祭れるが、世に之を高島の御陵と稱し早良親王の御陵の遺址なりといふ。親王は桓武天皇の皇弟にて皇太

子たり。中納言藤原種と稱し。時に賊ありて種を殺す、捕へて之を訊すに、事、皇太子に連りしかば、天皇已むなく皇太子を廢して乙訓寺に押籠め給ふ。皇太子食を絶て死せんとし給ひしに未だ果さるる中に、天皇、皇太子を淡路に流し給ふ。皇太子、山崎に至りて絶えさせ給ひぬ。御體を淡路に送りて葬り奉る。然るに太子の祟りありしかば、延暦九年勅して太子を改葬せしめ守家一畑を置かせ給ひ、同十七年皇太子の遺骨を大和の八島陵(奈良縣添上郡東市村大字八島)に改葬し、同十九年、勅して崇道天皇と稱し、墓を山崎と稱せしめ、猶ほ津名郡に於て農民二畑を分けて山崎を守らしめ、同二十二年、又々勅して、崇道天皇のために寺を淡路に建てしめ給ふといふ。(伊弉諾神社) 官幣大社。祭神、伊弉諾尊、伊弉冉尊、命(相殿)。神代の昔、伊弉諾尊淡路島及び諸神を生み神功既に畢る時、幽宮を淡路島之洲に擲りて長くそこに御まり給へる當社創建なりとす。延喜式には、淡路伊佐岐神社と見ゆ。式内名神大社。大同元年神封十三日、淡路國の一宮。例祭、四月二十二日。

【多賀村】 愛媛縣伊豫國周桑郡の東北部。壬生川町の東南に接し、蓬海に臨む。面積五・三二方軒。高麗半島頭部の東岸、壬生川下流の沖積平野を占め、全村平坦にして耕地よく拓けて米・麥・蕎麥等の産

多し。近年は機械を使用して大量に栽培し且つ集約的農法の研究などよく行はれて産額著しく増加す。省線彦根本線は西境を通り西北隅に壬生川驛(大正十二年設置)を設けて北走す、その東方を縣道とほりて壬生川町と南方米見町を連絡す。古くは北條といふ。村内の臨濟宗長福寺は蒙古役の戦死者追福のために河野通有の創建に係る。大字北條に豊田別天皇外二神を祀れる鴨岡八幡宮あり、源頼義伊豫守に任ぜられて此國に來りし時、相州鶴岡八幡宮を勧請創祀せしものと傳ふ。例祭、十月十日。

タカイ 高井

【高井村】 茨城縣下總國北相馬郡の中部。守谷町の東隣にして、小貝川の南岸に位置す。面積五・四九平方軒の小村。大部分は低き丘陵地をなし、西北の一部は丘陵間に沼田あり。又、小貝川沿岸には稍高地ありて水田をなす。米を主産し、他に麥を産す。縣道は南部を横斷して守谷町及び東方相馬町方面に通じ、社線常陸鐵道また南境附近を西走し、南隣相馬村に相馬驛を置く。此地古くは和名抄、相馬郡相馬郷の内に屬したり。當道軍記に高井十郎が小文間城を攻むる由載す。或は此の地に居して名を負へるものか。(高源寺) 臨濟宗妙心寺派。菩薩山と號し、永仁二年の創建に係り正覺國師を開山とす。のち寛政せしを相馬七左衛門これを再興す。境内に大師堂あり。

【高井村】 長野縣信濃國上高井郡の東部。須坂町の東隣。信濃川の支流松川の左岸にあり。東南は三國山脈の一部なる横手山・黒湯山・御飯嶽等の諸峰を境に群馬縣吾妻郡に接す。面積六一・七二方軒。東部南部に山脈を負ひ、西北に傾斜す。略中央に紫雲山聳立し、その東山麓を松川の一支出北流す。松川は北境に沿ひ西北部に扇狀地を展開して西流す。山地は概ね森林・原野、西北部神樂地には耕地拓けり。農業・養蠶を主とし、次いで林業盛なり、良苗の産を以て名高く、他に牧畜・工業等も多少行はる。東北部松川に沿ひ温泉の湧出あり浴客多し。小布施村より谷沿ひに縣道通じ、須坂町へも縣道通じ何れもバスの便あり。この地は和名抄、高井郡日野郷の地。村内に福島城址・福井城址・高井牧址・七味温泉・八瀨等の名稱あり。郷社高井神社は大字高井にあり健甕名方命・高毛利神を祀り十月十六日例祭を行ふ。また大字水中に文永年中の創建に係る淨教寺(淨土宗)あり。(福島城) 大字高井字堀之内にあり、元和元年、安藝廣島の城主、福島正則、罪を幕府に獲て、封五十萬石を奪はれ信濃に移され、食邑四萬五千石、高井野に築き置居す。始め回字形を爲し、東西一七七米、南北七二米あり、寛永元年正則薨し家臣之を葬るに幕府の檢使を請はざりし爲め再び罪を得て、家名を除かる。天明年中、高井寺を此地に建つに

【高井】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年本村ほか五村を廢し高安賀村を置き、のち大和村となる。【高井(郡)】 信濃國(長野縣)の舊郡名。三代實録貞觀九年紀に郡名見え、和名抄は太賀爲と訓じ、穂科・小内・稻内・日野の四郷及び神戶一を管く。明治十三年之を上高井・下高井の二郡に分ち以て今日に至る。【高井】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年本村ほか五村を廢し高安賀村を置き、のち大和村となる。【高井】 阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に阿波郡高井郷あり。高山寺本には多加爲と訓す。凡そ今の阿波郡柿島村・土成村の地に當る。【高井】 高井神島 高井野(愛媛縣) 高井池町 和歌山縣紀伊國東牟婁郡の南部。古座町及び其西の西向町を隔て太平洋に近し。北境に戸次倉山・モウベ山、西境に鳥屋森山、東境に高峰等あり、全村山岳重疊したる西南部

を東流し平野にて東南傾する古座川沿ひに僅に田畑拓け、米・蕎麥を産し山地に産あり。又水産・畜産・蠶産・工業もあり。古座川左岸に縣道走り之に沿ひ南端に主部落高井池あり、街村型をなして古座町の繁華に接す。古座町に通ずるバスあれど概して交通不便なり。古座川の兩岸、三尾川村大字截止より、高井池宇津木に至る間は世に古座峽と稱せらるる名勝なり。天柱石・過水壘・一枚岩・玉笥峰・巨人岩・牡丹岩・明月岩・小女峯等あり、男性的景観に富む。町は明治三十三年に町制を施行せらる。(高井池ノ島噴岩) 大字高井池にあり。指定天然記念物。古座川の下流地方に分布せる一種の石英粗面岩が、風化風蝕のため岩面に奇怪なる噴氣を生じたるものにして、其の形状によりこの名あり。この地方の石英粗面岩に特有なる露出面の代表的なるものなり。

【高井】 高石村 高知縣土佐國高四郡の東南部。仁淀川下流右岸に位置し、宇佐町の北、高岡町の南に接す。面積は七・二方軒。東部吾川郡境の仁淀川流域及び北部高岡町界に小平地存するも他は山地に占めらる。南部に横瀬山麓を東北に傾斜す。平地に水田ひらけ山地に潤葉樹の森林繁茂す。南方宇佐町より高岡町に通る縣道と、高岡町・須崎町を結ぶ縣道はいづれもバス通す。米・麥・蕎麥・野菜・和紙・蜜柑・西瓜等を産す。此地

タカイ

古くは和名抄、高島郡高島郷の内に属す。明治二十二年町村制施行の際、用石村、塚地村及び吾川郡中島村を合して本村を建つ。(天満天神宮)大字用石に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。創建年代不詳なるも古來當村の惣領守にして天満宮と稱せりといふ。例祭、六月十五日、十一月七日。

タカイタ

高井田 大阪府中河内郡にありし村。昭和八年布施町と合し新に布施町を置く。布施町は昭和十二年市制を布く。

タカイチ

高市

【高市郡】奈良縣大和國の西部。龍門山脈の北斜面に位し西は北葛城郡・南葛城郡に接し東は磯城郡に隣り南は吉野郡に界す。面積八〇・一三平方。南境には高取山を中心し龍門山脈東西に連りて東南隅には多武峯山脈。山麓は数列の丘陵となりて中部へ延び其北端に大和三山の一として著名な臥佛山あり。丘陵の間には北部へ續く谷をつくり北部は奈良盆地南端の沖積低地を占む。南境に發する数條の河川北流して東部に飛鳥川、西部に曾我川、西境には葛城川等ありて北方約一〇軒にて大和川に合す。低地は田畑よく折付米・麥を産し又西瓜の産もあり外に綿織物も出ず。山地は木材・薪炭あり。この地は古の飛鳥地方の故地を占め古く發達せし爲に歴然たるものあり、北部に西方高市町より東方櫻井町方面へ走る

三六四

道路直線形に通じ八木町にて之と交叉して北方奈良市より南下する中街道は臥佛山を過ぎ阪合村にて西南折して宇智郡五條町方面に至り高取町西北隅にて之と分れて東南へ向ひ龍門山脈を越え吉野郡に入り、其他道路は四通八達し、之等道路に沿ふ八木町・今井町等の聚落は歴然たる街をなす。省標櫻井線北部を横斷す。本郡は古の勢余の地にて後高市縣と稱す。欽明天皇の朝、新來の歸化人のために本郡の南部より吉野郡の北部を以て今來郡を置き、後これを改めて高市郡と稱せりといはる。天武十一年紀に高市郡名見ゆ。高市は高處にある市邑の義といふ。和名抄は多介知と註し、巨勢・波多・遊部・檜前・久米・雲梯・實美の七郷を置く。後世々々チ・タカイチ兩條に訓みしが、今チカイチに從ふ。然してその郡城には古來大變化なきも南境の一部は何れの頃か吉野郡に入る。いま八木・今井・臥佛山・高取の四町の外十箇村を含む。多勢余・今來

より飛鳥村・阪合村及び多武峯村へ道路走る。又南境等々時をこえて吉野川谷の上市町へ至る村道あれど交通は概して便ならず。この地の後の古都たりし飛鳥の内にして頗る史蹟に富む。飛鳥は耳成山以南、臥佛山以東飛鳥川の流域地方の汎稱にして、推古天皇より文武天皇に至る約百餘年間帝都たりし處。皇極天皇の皇居飛鳥板蓋宮は大字岡・鳥莊の邊、齊明天皇の飛鳥川原宮は大字川原の川原寺の地と云ひ軒明・齊明天皇の飛鳥岡本宮は大字岡にありしものならんと云はる。天武天皇の飛鳥淨見原宮は大字上居の地か。草壁皇太子の鳥宮(岡宮)も板蓋宮と同所か。古くより歸化漢人の居住せる地にて文化風く傳はり、また我國に於ける佛教發祥の地なり。大字坂田の坂田原は佛法最初の渡來地なり、繼體天皇の十六年二月、漢人司馬達等なるもの始めて佛像を携へ來りて草壁を結ぶ處、推古天皇の十四年達等の孫鳥の建てたる南園の坂田寺は此草壁の地に營めたるものなりと。南園は今の坂田・南園邊の汎稱とす。一に南園に作り南園は轉訛ならん。和歌に名高き南園山あり、夫木・二十に「秋なればいなふら山のきりきりすこまよわり行くくれそかなしき」と見ゆ。この山に續きて細川山あり。中大兄皇子・中區鎌足の學びし南園先生の住居も、嘗つては此處に存す。いま神明塚といふはその墓ならんといふ。和名抄に高市郡實美郡

と云ふは本村及び飛鳥村の邊に當る、蓋しこの地高市郡の上方にあたるより出でたる名稱なるべし。村名は明治二十二年町村制施行の際に郡名に因みて命名せるもの。飛鳥京(檜隈大内院) 大字野口にあり。天武天皇・持統天皇合葬の御陵。御陵形圓丘。天武天皇は朱鳥元年九月九日崩御。殯宮に御座すること二年餘にして持統天皇二年十一月歿葬し奉る。持統天皇は大寶二年十二月二十二日崩御。二十九日西殿に殯し翌年十二月十七日飛鳥岡に火葬し、二十六日天武天皇陵に合せ葬り奉る。これ天皇を火化に附し奉る初めなり。御陵は日本書紀に大内院または大内山院に作る。明治八年五條野の丸山を假に陵所と定められしが、更に十四年阿不羅乃山院記に基づきて現陵に改定し大いに修飾を加へらる。(鳥宮)天武天皇の別宮。大字鳥ノ庄の地とす。天武天皇即位前天皇の皇位を讓らんとし給へるを辭して吉野へ至り給ふ時此宮に入られ、その後屢この宮に行幸し給ふ。白鳳十年周防國より赤龜を貢せし時、これをこの宮の池に放ち給ふ。飛鳥川上坐宇須多岐比賣命神社)大字南園に鎮座。祭神、宇須多岐比賣命。式内社。御山を本殿とす。例祭十月一日。(岡寺) 大字岡にあり。新義實言宗聖山院。東光山と號し西國三十三所第七番札所たり。天智天皇朝二年岡本宮を稱合となして眞蹟に傳ひしが、のち變換これを

タカイ

タカエ

貴冑家の遺蹟となす。當時歴朝の輪廻所として寺勢隆盛たりしが、その後漸次衰頹、江戸時代に至りて豊山の法住これを中興す。近世寺領五十石を有せり。寺寶に國寶として優秀なる左の五點を有す。一、本尊如意輪觀音坐像、高さ約一丈五尺、坐像の巨像にして後補の部分存するも奈良時代の作。一、佛涅槃像、木造、高さ約五尺六寸、藤原時代の作にして涅槃像として甚だ珍奇なる遺品。一、如意輪觀音坐像、銅像、高さ一尺六寸、傳説文首作、本尊如意輪觀音坐像の胎内にありしもの。一、義濟正坐像、木造、天平期の雄勁なる寫實的技巧を示せる我國彫像彫刻中の雄なるもの。一、天人浮刻碑、純白土にて固め高さ一尺三寸、圓縁編妙なる白鳳期の作。(岡本寺) 大字岡にあり。新義實言宗聖山院。俗に峯堂と稱す。始格符抄に寶龜二年五十戸、白壁天皇因幡五十戸云々とあれば、創立の久しく、當時の盛大を知る。本尊如意輪觀音は弘法大師の作と傳ふ。(川原寺(弘福寺)址) 指定史蹟。大字川原、弘福寺境内及びその前面一帯にあり。孝徳天皇白雉四年に既に存在せし有名なる寺にして、飛鳥京に於いて三大寺の一に數へられ、藤原京に於ける五大寺の一、平城京の十大寺の一たりき。本寺の礎石古來より白瑪瑙の礎石として傳せらるるも、事實は岩質大理石(變質石灰岩)にて、現今表面風化して黧灰色に變じ且つ火災の

ため傾倒し給るも、七中に埋もるる部分は純白色にして方形を呈し伽藍創立當時の美觀を想見するを得。現境内本堂前面に最も多數にありて二十四箇を算し、何れも方形の座上に圓柱座の彫出しあり、寺址發見の巴瓦(礎瓦)は同案手法圓蓋し、中房に十五箇の房子を有し、八箇の復脚連華紋の周圍に珠紋を配し、或は鋸齒狀を配したるもの等あり。花瓦は重藤唐草の小形なるもの及び中心に結びを有せる唐草を中央に配せるもの等あり。本寺創建に就きては或は齊明天皇元年の勅建といひ、或は敏達天皇十三年蘇我大臣始造といひて詳ならず。のち寶龜し今は一字を存するのみ。寺寶中本造持國天皇に多聞天の二立像は藤原時代の作に傳り現に國寶たり。新義實言宗聖山院に屬す。(坂田寺) 大字坂田にあり。日本佛法源流の地。一に金剛寺、または小懸田坂田尼寺ともいふ。日本紀によれば、用明天皇不豫の時司馬達等の子多須奈奏請して天皇の爲めに出家し、丈六佛像を造りて寺を造る。これ本寺の源流なり。推古天皇十四年多須奈の子正利元興の八佛に際して大功あり、大仁の位に授けし、近江國坂田郡の水田二十町を賜ふ。正利乃ちこの田を以て天皇のために金剛寺を營む。これ南園坂田尼寺なり。その後次第に衰滅に歸したるものゝ如きも、現在故地に一小庵あり、磐玉山藥田院金剛寺と號し、淨土宗西派知恩院末に屬す。近

時、この下方の地に礎石發見せらる。(橋寺) 大字橋にあり。天智宗。佛頂山上宮院と號し、一に橋邊寺または善提寺と稱す。聖德太子の御創建に係る七寺の一にして、地はもと用明天皇の別宮の地にして、また太子御誕生の靈地たり。創建當時七堂伽藍坊等並を並べ寺運隆昌たりしも、のち類聚、元治年中に至りて再興せらる。本尊の木造聖德太子坐像は室町時代の優作にて國寶たり。他の寺寶中國寶に指定せらるるもの左の如し。一、木造如意輪觀音坐像、藤原時代の作に係り室生・甲山(神咒寺)と合せて日本三如意輪の一と稱さる。一、木造地藏菩薩立像平安初期作。一、墨太鼓、木造にして鎌倉初期の優作。一、太子繪傳、傳土佐光信筆にして室町時代の作。一、木造日蓮立像、平安初期の作。(酒船石) 指定史蹟。大字岡より飛鳥村への途中の丘上にある石造物にして、扁平なる花崗岩の表面に略々圓形の凹み大小數箇と、これを連接せる數條の溝を彫るものにて、總長約五米、幅二米中、厚さ約一米、今その兩側を缺き全形を知ること能はざるも、上代に酒の醸造に使用せられしものと傳ふ。(石舞臺古墳) 指定史蹟。高市小學校東南方の田圃中に存す。極めて巨大なる花崗岩塊を用ひたる石舞臺の、封土を失ひ露出したるものにして、漢道部は地下に埋れ、唯入口の石材のみ露はれ居るも、玄室は長さ約八米、幅約三米、下底

は土に埋もれて現在約三米の高さあり。地は鳥の止の地なれば鳥の大匠飛鳥子孫原義ならんといふ説あり。(鬼、團、鬼、祖) 大字野口にあり。團と稱するものは路面より低く南側にあり、祖と呼ぶものは北側の一段高所に存し居るも、前者は横に口を有する石棺の蓋にて、後者はその身の部分たりしも、蓋の部分下方に陥落したるものなり。今此地欽明天皇御陵原附地となれり。(龍福寺) 指定史蹟にあり。淨土宗。明暦二年寂譽上人の開基に係り本尊阿彌陀如來を安置す。境内に古石塔婆一基あり。二位竹朝臣墓、天平勝平三年、歲次辛卯四月三日葬于朝風南云々の文字を銘す。

【高井田】 高井田 もと東京府豊多摩郡の町なりしも昭和七年東京市に入り移並區の町名となる。往時は甲州街道の宿驛あり、その位置は今、下高井戸一丁目の邊に當る。明治天皇敷度この地に行幸御小休あらせらる。

【タカイフジ】 高井富士 高井田(長野縣)の別名。

【タカイワ】 高岩 小海線の一驛(大正八年設置)。長野縣南佐久郡穂積村にあり。

【タカエ】 高江 北海道日高支廳新冠郡にありし村。大正十二年新冠村と改稱、高江は今その大字となり日高線の高江驛(大正十五年設置)を置く。

三六五

なるを以て金属埋蔵は僅少なるべきも州下各所に可燃性天然瓦斯の噴出多きに...

の開拓は二層行溪以南及び富州地方は南部會議區に屬し下淡水溪下流地方、恒春地方は一の小行政区をなし、又岡山郡...

期に多く荷役繁忙期たる十月より四月迄には少し。主要貿易品は農産物なるを以て...

役所、警察署、港務部、築港出張所、税關、檢驗所、植物・米穀検査所、燈臺、海洋觀測所、水産試驗所、中學校、女學校、商業學校其他各種銀行會社あり。...

後開しなく風山縣の大竹橋社、興隆五に屬し、打狗仔較後には水師把總一員兵一百名を置かれたり。道光年間改めて大竹里、興隆里とされ、同治二年高雄開港の後、外商等の共同設計により哨船頭の山...

内の渡港、昇陸、上屋倉庫、荷役機設置、港口障礙物岩礁の除去、港外一部淺瀬の浚渫等を行ひ一萬噸級汽船を昇陸其他に...

輸入は肥料、ガンニイ袋、大豆、揮發油等なり。内地貿易は概ね順調に伸展し、主要移出品は砂糖、米、鳳梨罐詰、芭蕉實、酒精等、移入品は肥料、鐵、木材、小麦粉、...

縣海部北俣村と東平田村との境界に跨る。標高三五二米。西方には最上川の河口及び、その右岸に位する酒田市を俯瞰す。...

五箇村を合し高丘村となす。大字草間には村上持扶の後と稱する草間氏の起りし地にて、甲陽軍鑑に信州先方衆、くさま備前守十二騎とあるは之なり、大字安源寺の安源寺城は此の草間氏の居城址なり。

タカオカ

【高岡村】 茨城縣常陸國多賀郡の西北。高岡町・松岡町の西に隣り、西は久慈郡と隣す。面積一三五・四八平方軒の大村。阿武隈山中の一部を占め、全村山地にて西境は約八〇〇米、東境より南境にかけては六五〇米前後となりて次第に東南に傾斜す。大北川及び花貫川は何れも村内に發源して東流し、山地一帯は森林及び草地多く、南部には牧場もあり、川沿ひの狭き土地に耕地ありて米を主産す。村の南部を縣道横断して東は高萩町、西は久慈郡に入る。此地古くは和名抄、那珂郡高野郷の内に屬せしもの如し。産業事項に據れば大能牧(大字大能造一帯の地)は延寶六年に水戸藩の開きしものにして、初め馬四十二頭を放牧したるに、後には牧馬四百頭多きに至る。然るに歲月を経るに隨ひ牧政廢弛し天明八年遂に廢す。天保年間に至り再び

これを興せしが、偶々國內多端の際に當り、これを擴張するの暇なく且つ牛馬往々病死するものありたるを以て明治二年また廢牧に歸せしが、同十五年舊藩主徳川昭武、復牧を請ひ更に種畜を放飼するに至るといふ。

【高岡村】 千葉縣下總國香取郡の西北。神崎町の西隣。西は滑河町、北は利根川を隔て、茨城縣稻敷郡と相對す。面積七・五五平方軒。南半は丘陵地にて森林あり。北半は低地をなして利根川堤防の内側は水田をなし一部に沼田あり。米を主産し、他に麥・蕎麥を産し、養蠶も行はる。縣道は滑河町より來り、丘陵の麓を東走し、神崎町を経て佐原町方面に通ず。省線成田線また之に沿ふも村内に疎なく、縣境に近き西隣滑河町内に滑河驛を置く。この地は和名抄、香取郡健田郷の地なるべく、明治二十二年高岡・大和田・高・小浮野・馬込・小野の六大字を合し、首たる大字によりて高岡村と名づく。明治三十二年千葉・茨城縣界變更により稻敷郡金江津村大字平川の内下利根以南を本村に編入す。(高岡陣屋址)大字高岡水羽ヶ塚にあり。寛永十七年、井上筑後守重隆の時に封を此地に受け陣屋を置きしが明治五年之を廢す。いま山林及び耕地あり。(大和田野址)大字大和田字要害にあり、傳によれば、千葉氏の族、大和田内膳の居城なりと、或は大和田村長の野址なりといふ。(熊安寺)

大字大和田にあり。曹洞宗。群雲山と號す。天正元年寒暄の草創、開基を領主大和田内膳とす。天正十九年徳川家康寺田二十一石餘を附す。本尊阿彌陀如來像は惠心僧都作といふ。(眞城院)大字高岡字西の内にあり。天台宗。高岡山と號し應永三年の創建に係り開山を證尊法印とす。本尊阿彌陀如來。

【高岡市】 富山縣二市の一。縣の西北。富山平野の西端に位し、東は射水郡能町村・野村・二塚村に、南は佐野村に、北は伏木町・守山村に、西は西礪波郡國吉村・東五位村・福田村に夫々隣接す。北部に二上山(二五九米)の小突起あるも南に急斜し、市の大部は沖積層の平地をなす。小矢部川西境を北流し二上山の西南麓にて東折し、市の中央を北流せる千保川を合せ東境を東北流す。市街は稍々東南部に偏して形成せられ、西部小矢部川流域には水田・畑地廣く拓く。富市の生業は深く越中各地の農村に依存し、市内の閑屋多き街には農作物を取扱ふ店、農村に配給する物品、就中穀物・藥種・砂糖・文具具・石油・金具・農具・肥料等の問屋多し。殊に高岡米穀取引所は米産國たる越中の米の公定價格を決定するところとして本縣農民の運命のパロメーターなり。またこれ等と關聯して京阪、中京及び北海道方面との取引は殊に盛なり。然し生産總額中その第一位を占むるものは工業にて年額約一千九百萬圓

に及ぶ。これに次ぐものは農産なれども僅に約七十萬圓に過ぎず。工業中主なるものは鋼製品・綿織物・製糖にして鋼製品最も多し。鋼器は漆器と共に藩政時代より藩の保護の下に持續し來れるものにして、開市以來愈々その特色を發揮して逐年産額を増大し來れり。今前三者を比較すれば左表の如し(昭和十年)。

Table with 4 columns: 種別 (鋼製品, 綿織物, 製糖), 産額(圓), 戸数, 職工数

右表に依つても市内第一を誇る鋼器製造もなほ家内工業的な技術と組織の下に置かるゝ事が察知せらる。此他近年、和傘・綿紡績・製糖・塗染・木工品・護國製品の諸工業も起りて益々産業發展の趨勢を示し、尙ほ富市家庭副業たる毛織物の如きは全國第一位の産額を稱ふるに至れり。交通は北陸本線南都をばり東西に走り、高岡驛(大正五年設置)を置き省線中越線と接続し、日本海鐵路の要衝たる伏木港を門港とし、鐵道の利便に加ふるに千保・小矢部の水路を以てし、物資の集散上、自然に優秀なる地位を占む。殊に伏木港改修に伴ひ對岸の北鮮・滿洲國及び露領と直接取引を開きつゝあり。市内には稅務署・區裁判所等の官衙、高岡高等商業學校を始め、多くの中等學

校・女子校等あり。慶長十四年前田利長の築城以前の本市に就ては文献の遺すべきもの殆どなきも、沼澤あり、林藪ある茫たる原野にして人烟極めて稀少なりしものならん。而して古くは和名抄、射水郡寒口郷の地に當り、中古には關野または關野ヶ原・志賀野等と稱し二上庄の一部たり。加賀藩主二世前田利長、關野は即ち守山負郭の地利に通ずるを察し、慶長十四年築城の工を起し九月落成、その月十三日藩主入城により茲に始めて高岡と名付たり。此時富山・守山・木舟の三城下より家臣四百三十餘戸、工商六百三十餘戸移住して移り來り、東隣の街衢に倣ひて定められたる町割により各居住せしを以て、關野は忽ち變じて陸然たる一市街を形成し、商工都市たる本市の基は實に茲に固められたり。利長、慶長十九年五月高岡城に於て薨去し、其後幾何もなく城また廢せられしも、商工業は第三世藩主利常の先代の遺業經營の下に益々保護せられしを以て爾來本市の進歩發達の基礎はいよゝゝ鞏固となれり。藩政時代のには町奉行をおきしが、明治四年廢藩のち金澤縣、七尾縣、新川縣、石川縣などの管轄となり、同十六年富山縣の管轄に入る。同二十二年市制を施行し、大正六年掛開發村を、同十四年下關村を、昭和三年には横田・西條兩村を、同七年には射水郡佐野村の一部(清水町)、同八年には二上村を編入し以て今日に及ぶ。

明治十一年、明治天皇北陸東海御巡幸の賜、富市の育英小學校にて御小休遊ばさる。また幕末の勤王豪傑又一新(團從五位)は此地の人なり。又一は風に勤王の志篤かりしも元治元年の京變に投獄せられ、のち赦されて町制改革・教育普及等に盡力したり。(高岡城址) 俗に古城と稱し、加賀藩主前田利長の高山南坊に築きしものにして、當時天下無雙の堅城たり。慶長十四年の九月利長、魚津城より移城、在城五年當城に薨去す。その後本城廢毀となりしも漸次は依然として今に存し、慶長の昔を感ぜしむ。(標馬場公園) 慶長の昔馬場の遺蹟たり。道の兩側の長堤に櫻樹を移植せしを以てこの名あり。延寶年間枯槁するもの多かりし爲吉野の櫻を植ふしめしと傳ふ。花期の美觀言語に絶し觀客雜沓す。(高岡公園) 明治八年高岡城址を公園としたるもの。老松古杉の鬱々たる間に、春季は櫻花、夏季は燕子花・蓮花、秋季は霜風の點綴せるが如き、また近年深池の一角に學界の珍たる鬼蓮を發見せしむる等孰れも一段の美觀を添ふ。(射水神社) 定塚町本丸に鎮座。國幣中社。祭神、二上神。延喜の制大社に列せらる。中世以降地方有数の社として社家社僧等頗る多かりしが、天正年中兵火に罹りて灰燼に歸す。のち江戸時代に入りて藩主前田氏社殿の造營をなして社領を附し、且つ國內に命じて舊の如く初穂を獻納せしむ。明

治八年二上山より現社地を高岡城址に遷座す。例祭、四月二十三日。(高岡關野神社) 堀上町に鎮座。祭神、伊弉冉尊・事解明命・稻荷大神・前田利長。本社は慶長十五年前田利長高岡在城中領内百餘尊神所の爲め鎮座せられし高岡神社と元暦二年射水郡水戸村熊野山より遷座せられし關野神社とを合祀し、大正八年高岡關野神社と改稱せられしものなり。前田氏歴代の崇敬社たり。例祭、五月一日。(有願神社) 横田町に鎮座。祭神、應神天皇・仁德天皇、外四神。社傳に文政元年社説有願神社と稱する事を許さる。と記す。例祭、五月十四日。(瑞龍寺) 關野にあり。曹洞宗。高岡山と號す。慶長中藩主前田利常の開基にして開山を横山惣陽とす。初め利常の兄利長高岡城側に法圓寺を創し織田信長夫妻並に信忠廟を建立せしが、其歿後、利常對を繼ぐや利長菩提遺願の爲めに新に伽藍を營み、法圓寺を併せて瑞龍寺と號す。一山支那臨安府徑山萬壽寺に倣ひて七堂伽藍を具ふ。爾來今に至るも前田家累代の菩提所たり。堂宇中、佛殿・法堂・總門等は何れも國寶たり。佛殿は萬治二年の建立に係り、明代禪宗建築直接の影響を受けつゝ一面和様建築の手法を折衷して成るものにして、從來の禪宗建築に見ざる幾多の注目すべき特徴を具し、我國建築史上著名の遺構なり。寺寶中紙本墨書後陽成天皇宸翰御消息一は幅

國寶たり。附近に前田利長廟あり。(熊安寺) 下關にあり。曹洞宗。仙壽山と號す。永祿五年龍舟突撃の開山に係る。初め飯久保村にあり飯久寺と號す。慶長中利長薨するや、利常その廟を現寺地に營み正保中改めて寺となす。次で飯久寺をこゝに移して現寺號に改む。(極樂寺) 樽町町にあり。淨土宗。もと時宗。安樂山と號し、後醍醐天皇皇子越中宮明心法親王の開創と傳ふ。元中四年茲に入寂せらるゝや、供奉の士四人遺跡を守りて當寺を起し越中一國の禪頭たりき。(超龍寺) 片原町にあり。眞宗大谷派。飛龍山と號す。嘉祿元年親賢門侶二十四輩中の第一飯沼徹信の開創に係る。初め西礪波郡岩坪の地にありしが、慶長中更に現地に移る。(専稱寺) 風呂屋町にあり。眞宗本願寺派。楠木左衛門正支の甥正慶、覺如上人に歸依して延徳二年本寺を創建す。初め射水郡鎌谷にありしが、のち領主前田利長より寺地を賜はりて現地に移る。(聖安寺) 利屋町にあり。眞宗大谷派。村上天皇の朝、菅原道眞の孫惠燈上人の開創に係る。上人社にして惠心僧都の弟子となり本寺を創建、數世の後、惠教法師に至り眞大僧の弟子となり現宗に轉す。

タカオ

かに傾斜し、鳥居川の支流を出し、村内を東流せり。中腹には湿地及び温泉あり。...

【高岡村】三重縣伊勢國一志郡の北部。伊勢平野の西縁に位し雲出川に跨る。...

【高岡町】宮崎縣日向國東諸郡の南部。大淀川中流に跨り、東隅は宮崎郡生目村に接し、...

【高岡】高岡郡の古地名。風土記神前郡の條に「高岡里(神前山、奈良佐山)土中々、右云高岡里、此里有高岡故城云々」とあり。...

【高岡町】高岡郡の古地名。和名抄に三木郡高岡郷ありて、多加乎加と訓す。...

タカオ

中に眞如法親王の塔なりと傳ふるものあり。親王は平城天皇の皇子にして聖海十弟子の一人と成り給ひ、...

【高岡町】宮崎縣日向國東諸郡の南部。大淀川中流に跨り、東隅は宮崎郡生目村に接し、...

【高岡】高岡郡の古地名。和名抄に三木郡高岡郷ありて、多加乎加と訓す。...

【高岡町】高岡郡の古地名。和名抄に三木郡高岡郷ありて、多加乎加と訓す。...

百名を此地に移住せしめしに初まるといふ。當町及び阿久根町・米ノ津町・三笠村・野田村の地に互りては鶴の渡來多きいま指定天然記念物なり。(常尾神社) 大字唐笠木村に鎮座。祭神、瓊々杵尊・彥火・出見尊・鶴草尊不合尊。藤原那鶴田村の常尾神社と共に國史所載社に充てらる。俗に湯島権現と稱し藤原氏氏の崇敬社なり。例祭十一月十五日。

タカオマタ 高雄股(たかおまた) 原須村(御木郷)

タカガミ 高神 千葉縣海上郡にありし村。昭和十二年鎮子市に編入さる。タカガミネ 鷹峰・鷹ヶ峰 京都府上京區の地名。いま町名に鷹峰の二字を冠する地域をいふ。もと京都府愛宕郡の一村にして鷹ヶ峰村と云ひしが、昭和六年京都市に編入せるもの。本阿彌光悦の居りし大處庵あり、光悦寺と稱す。

タカガワ 高川(たかがわ) 【高川村】 福島縣岩代國安達郡の西南隅。南は五百川を隔てて安積郡に相對し、西は耶麻郡月輪村を隔てて猪苗代郡に對す。面積一〇六・四四軒にて郡内第一の大村とす。北境に安達太良山(一七〇〇米)聳立し山脚は東南に延びて和尙山・守屋山を起し、西南部に大瀧山・天狗角力取山等聳立し、保成峠(九七三米)に發する。石建川は東南に流れ南境を東流する阿武隈川の一支出五百川に合す。村内殆ど山地にして石建川沿岸に僅に低地あり大字石

建は盆地狀をなす。河川沿岸低地には田畑開け米麥を産し林産も多し。なほ大字高玉には金銀鑛を産する高玉鑛山あり。南部五百川沿岸に越後街道及び省線勢越西線通じ後者に岩代熱海・中山宿の二驛(共に明治三十一年設置)を設く。人口は大正九年五三三四人、昭和十年には六八一七人と増加せるも人口密度は六四人にて全國平均の一八一人の約三分の一にすぎず。而し山地多く居住に適せざる所多きを以て石建川沿岸に集りここに人口は人口稀薄ならず。本村は高玉・玉川の二村を合して成れるもの。天正十七年六月、伊達政宗、會津を攻めんとし此地に住せし高田間太郎右衛門に使者を遣はし降を勧めしも従はず、遂に一萬餘騎を以て高田間の小城を圍み男女六十餘人皆死せりと。(熱海温泉) 別荘類泉。五百川に臨む。文龜二年郡の殿上人疫癘に罹りしが靈夢に感じて此地に來り入浴して全治、この神恩に感じ終生を此地に送りて天壽を全うす、後人これを温泉の祖として祀る、これ長津氣神社なりと稱す。附近に安積山スキー場あり。(高玉温泉) 大字高玉にあり。鹽泉。四方山に圍まれ、五百川の支流を挾みて盛合あり。岩代熱海線下車。(高玉鑛山) 大字高玉にあり。岩代熱海線の東北約四軒のところに、鑛區約二百一萬六千坪に亘る金銀鑛山。鑛床は第三紀層の頁岩及び凝灰岩中に露出せる石英脈にして昭和十年には金銀鑛

二九〇二五五、金銀約五四七五冠を出す。但し鑛鑛は日立鑛山に輸送して行はる。日神の傳ふる處によれば往昔蒲生氏地が當地方を領せし頃始めて採掘せらるると云へども同氏の轉封と共に廢山となるといふ。明治十九年長崎縣人松浦建二なるもの其の優秀なるを認め再び採掘をなす、爾來盛衰ありしが、近來發展の一途を辿り昭和十年六月末には鑛夫八八三人を使用し、本邦重要鑛山の二たり、現在日本鑛業會社の經營に係る。(常圓寺) 大字高玉にあり。曹洞宗。天文二十年高玉太郎左衛門常圓の創建。開山を菅原高成和尙とす。本尊は福滿虚空藏菩薩にして徳一大師の作に係る。

【高川村】 愛媛縣伊豫國東守郡の東南隅。南は北守郡に、東は高知縣高岡郡に界す。四國山脈に屬する急峻なる山地を占め村内山岳重疊して平地殆んどなし。ただ河谷を利用して耕作を行ひ米・麥を産するもその額大ならず、地産に乏しき村なり。西方土居村に縣道通じバス便あり。村名は明治二十二年高野子・川津雨の二村を合して本村を建てるの際、各々その一字を取りて高川村と稱せしもの。

【高木村】 熊本縣肥後國上益城郡の西部。熊本市の東南約四軒。中部に五〇米程度の平坦な臺地あり東南隅は稍高く一〇〇米程度の高度を有す。北部及び西南部は無本平野の平坦なる沖積地の一部にて低平なり。農業盛にして米・麥を産し副業には養蠶行はれて繭を出し、馬の飼育行はる。御船町と北方木山町方面とを結ぶ縣道中央を南北に走り西境に接して社線福延鐵道走り其小坂村驛へは西南約一軒なり。高野村・甘木村を合併

するの際高木村と稱す。甘木は古く味と書く、元亨釋書に味木縣定源郷と見ゆ、この人は味水元曆の比の在住にして饒順源氏護邊黨ならん。また本朝高名傳に味木は甲斐源氏安田三郎義定の後風なり、義定の嫡孫安田三郎義治、肥後國に下りて益城郡を領し味水莊に住して味木氏を稱す。味木次郎四郎久成は、鹿苑院義滿將軍の供奉を勤め夫より上方に居住して公方家譜代衆三十六人の内、左の上座なりといふ。

タカキ 高城

【高城山】 奈良縣吉野郡金峰神社の北の山。また鉢伏山ともいふ。元弘二年大塔宮護良親王此處に隱居城を築き給へるより城山ともいふ。【高城村】 鳥根縣石見國美濃郡の西南部。高津川・匹見川の合流地域に跨る。地勢概ね山地なれども、高津川村心を北に貫流し、東境より流れ入りたる匹見川と北部に於て合流する地敷及び兩河川流域に平地展開し、耕地多し。米・蕎麥・酒・木炭・醤油を産す。高津川沿ひに南北に貫通せる省線山口線は石見横田驛(大正十二年設置)を設く。明治二十二年、神田・向横田・隅・白岩・薄原の部落を合併して町村制施行の際、村社高城神社の社名に因み高城村と名付く。(八幡宮) 大字隅村に鎮座。祭神、神功皇后外二神。社記に三浦某の勳請とあり、その年次を傳へず。天正十三年豊田式部少

タカキ——タカキ

輔藤原安宗及び村上朝左衛門再興すと傳ふ。例祭、九月二十一日。【高城(郡)】 薩摩國(鹿児島縣)の古郡名。名稱の起源は城内に瓊々杵尊の陵あり。城は即ち奥城にして高城は即ち高陵の意ならんといふ。延喜式に郡名見え、和名抄は太加支と訓じ合志・他田・宇土・託萬・壽木・新田の六郷を置く。近世私に東境に伊佐郡を建てまた中部は薩摩郡に入り郡域大いに縮少す。郡名考タキと訓じ以後之に従ふ。明治三十年薩摩郡に編入し郡號を失ふ。

【高城村】 鹿児島縣薩摩國薩摩郡の西北端。海に臨み東南部は川内町に接す。北は出水郡阿久根町に隣り。全村山地起伏して東北部に高く、川内川支流高城川東南部を南流して沿岸には低地開け西岸は平地乏しく單調なり。低地は田畑よく拓け農産類多く米・蕎麥・麥を産し山地は林産多く其他畜産・工業・水産あり。西岸を鹿兒島街道南定し、之と交錯して省線鹿兒島本線走り北部に西方驛(大正十一年設置)あり。此地古くは和名抄、高城郡郡木郷の内に屬し、延喜式省式に高來驛馬五疋とあるも蓋しこの地とす。而して往古國府の所在地にして、大字龍の屋形原は其址なりと。薩摩日地理學考にも屋形原は方三四町平坦にして今陸田なり。此地古への薩摩國府にて國分寺の址も是より東北四五町水引郷大小路村(いまの川内町大字大小路)に現存すと見

【高木村】 千葉縣下總國東葛飾郡の中部。小金町の西に隣る。大部分丘陵地にて畑地をなし柿を交ふ。西の一部は馬橋村に續く沼田の一部をなす。米・麥を産し、

タカキ——タカキ

タカキ

變遷も行はる。縣道は村の南を西走して松戸町に通じ、陸前濱街道に合す。省線常磐線は村の西方を東北に走り、馬橋村に馬橋驛、小金町に北小金驛あり。また社線武蔵線は村の東端を掠めて北走し、村内に六貫驛(大正十二設置)を置く。高木とは、千葉氏の家臣、高城越前守が小金城主となり、此地を領せしことあるにより、村名となす。此地に六貫驛あり、村名となす。此地に六貫驛あり、村名となす。此地に六貫驛あり、村名となす。

タカキ 高城

【高城村】 福島縣磐城國東白川郡の西南隅。郡倉町の南約四・五軒、西南は茨城縣に界す。面積九三・六七方軒の大村。八溝山脈の主峰八溝山(一〇二二米)は西端に聳立し、山麓北境に延びて大笹山となり、東南境には高笹山あり。村内これ等の山岳重疊し、八溝山に發する八溝川は東南に流れ南部にて東境を南流する久慈川に合す。低地は僅に久慈川沿岸にありて水田拓げ米・蕎麥等・煙草を出しまた木炭の産多し。街道は久慈川沿ひに通ずるも交通便ならず。この地は和名抄、白河郡高野郷の内にして、大字伊香(一)に伊香に作る(油前地あり、高野の古驛もこの伊香の地なるべしといふ。大字關の南郷)太郎杉は日通り八・三米の巨樹にして今指定天然記念物なり。大字内川の八登山は奇巒怪石重疊して久慈川の清流に臨み奇勝の地なり。傍に矢祭神社あり、源義家、奥州征伐の爲め下向の時、勸請せし善社なりといふ。矢祭とは義家が血祭りの矢を神靈とし奉納せしに因む【高城村】 和歌山縣紀伊國日高郡の南部間に上南郷村を隔て、南部町の北方に位す。東北境には三里峠、西北境には行者山(四二二米)あり、山麓近辺は山岳重疊す。東南部には南郷川が本村北側に發して南下する支流を合せて蜿蜒と西南方へ流れ南郷町にて海に注ぐ。米・蕎麥を産し柑柿の産もあり、山地は用材、薪炭を出し

タカキ

外に工業もあり。南部町より南郷川に沿ひて東北方日高川流域に出る街道通ずれど交通便して不便なり。【高城】 鳥根縣那賀郡にありし村。大正十一年本村及び長安村を廢し安城村を置く。【タカキ】 高儀 省線中越線驛(明治三十二年設置)富山縣東礪波郡野尻村にあり。【タカキ】 高樹庄 臺灣高雄州屏東郡の略中央部。屏東市の東北約二十七軒。管内は概ね所謂阿緬平野に屬する平地なるも東部善地に接する邊は、丘陵南北に走り、西方に向つて漸次低下し、豊沃なる平地を現出す。主なる河川は老濃溪・武洛溪にして何れも東部中央山脈に發源し西流して下淡水溪に合流す。本庄は即此兩溪に挟まる、地域を占む。本庄は純然たる農村にして、農家は戸數の約八割を占め、庄民の主生業をなす。主なる農産は米・甘蔗・芋・甘藷等なり。生産額約百三十萬圓。畜産業は、農業に亞ぐ重要なものにして、牛・豚・家禽の飼育盛なれども、就中養豚生産は、七萬圓に達せんとす。管内には、鐵道の施設なきも、道路發達し自動車運賃宜しきを以て、管内貨客の搬出入に不便を感ずる事少し。本庄の地に漢民族の足跡及びしは、清の康熙年代にして、其以前は平埔蕃族マカッサオ部族の踞居せし地なりと云ふ。康熙末年には此地方清朝治下の行

タカキ

政區劃内に入り、此地は其淡水港西里に屬せしが、道光年間改めて淡水の二字を省き、港西里とせられしも、光緒十四年更に港西里を上中下の三里に分ちし時、本庄の地は港西上里に屬せしめられたり。後明治二十八年我領臺となるや、翌二十九年には民政部が、港西里なる名稱は、引續き其行政區劃の一として用ひられしが、大正九年十月、全面的地方制度改正に際し、港西上里中の七庄(現大字)の地域を以つて一庄とし高樹庄と稱す。

タカキ 喬木村

【高木村】 福岡縣筑前國朝倉郡の中央東端。甘木町の東方約七軒。西北境に程嶽(六九四米)ありて東へ山嶺を連ね、更に南方に向ひて北嶺及び東嶺を繞り、南部より中部にかけては數列の山地間に谷を狭みつゝ東南より西北へ延び、その中、東部山地の北端に鳥屋山を起し南境には米山あり。これ等山地と北嶺及東嶺山地との間に狭長な谷をつくり筑後川支流佐田川西流して三奈木村に入る。山林面積廣き爲林産物に富む。谷に沿ひて村道四方に走り周圍町村と連絡すれど交通便して不便を感ずる。和名抄、上座郡野田郷とあるは本村の地なるべく、大字作田その遺稱とす。

タカキ

て喬木村と改稱せり。大字阿島は伊奈三人衆の一人、知久氏二千七百石を領して此地に住し、波合の關所を預り、伊奈衆の第一として三年に一度幕府に御目見えせりと。(眞淨寺)曹洞宗。本堂聖觀音。大梅山と號す。中世衰廢し、天文二年余慶堂字を再建、泉胤院五世龍邦を請じ中興開山とす。享保五年火災に罹り、同七年復建これを再建す。(西淨寺)大字阿島にあり。曹洞宗。本堂釋迦牟尼佛。一宗山と號す。越前大木山永平寺末。文政十年の創建、開基は徳川氏の臣知久國書介頼福、開山は徳宗元綱和尚。

タカキセ 高木瀬村

佐賀縣肥前國佐賀郡の中部。佐賀市の北方約三軒。全村低地をなし西境に沿ひて高瀬川支流の小河北流す。耕地よく拓げ米の産多く其他麥・蕎麥を出す。春日村より佐賀市へ通ずる縣道中央を貫き數條の村道之より流出す。南方には省線長崎線通じ佐賀驛は約一軒餘を隔て、社線佐賀電軌の高木瀬驛あり。古くは和名抄、佐賀郡深瀬郷の内には屬せしものなるべし。明治二十二年町村制施行の際高木・東高木・長瀬を合し高木瀬村と稱す。中世菊池氏の族大字高木に居して高木氏を稱す。當時當國に於ける名家にしてその族黨門閥肥前國に繁衍し秋中、草野・龍造寺の二流最も著はる。

タカキニシ 高城(西郡)

↓上石津(郡)

タカキ

タカキ

タカキヤ 高臺橋

大阪の橋名。現今西區瀬川川に架せる橋、瀬江橋と繁榮橋との中間に在り、北瀬江通三丁目と、南瀬江通三丁目とを通過す。雙橋と曲輪日記・二「中入までの勝負附、かちまけの勝負附々々々、重責多き賣聲も、高臺橋の南詰、今日七日日の大相撲、品風々々の玉の汗、羽織はいと堀江中、佛浮き出る阿彌陀池、人の浮氣はさぞあらん」

タカク 高久

【高久村】 福島縣磐城國石城郡の東部。平市の東南約三軒。東は太平洋に臨む。西南部には百米餘の臺地起伏し開折よく進めて若き谷は臺地をよく刻み、高久川は北部を東流す。海岸には砂堆發達し松の疎林をなすも東北部は低地にして水田開く。産物は米・蕎麥を主としまた此地方は常磐炭田地域に近きを以て労働力を供給す。街道は臺地に沿うて通じ高久川沿ひに平市に至る街道を分ち平市にパスを通過す。この地は和名抄、磐城郡磐城郷の内にして、村内に岩城の小館と稱する一城あり、古の國造、磐城臣以來的古城なるべし。【高久】 ↓神指村(福島縣北會津郡)【高久】 ↓岩船村(茨城縣東茨城郡)【タカク】 高來 【高來】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に信太郎高來郷あり。常陸風土記に見え高來里とあるも同地とす。凡そ今の稻

タカキ

歌郡朝日村に當るが。【高來】 豐前國(福岡縣)の古地名。和名抄に京都郡高來郷あり。また外記日記長保元年の條に京都郡高來郷平井寺、宇佐大領には豐前國新庄高來別府と見ゆ。いま京都郡椿市村に大字高來存す。蓋し椿市村・延永村の地に當る。【高來(郡)】 更前國(長崎縣)の古郡名。書記景行天皇御西征の條に高來縣とあるは大體その境域と見るべく、三代實錄貞觀八年の條に高來郡の名初めて見ゆ。和名抄は多加久と訓じ山田・新居・神代・野島の四郷を置く。中世一に高木にも書したり。明治十三年之を南高來・北高來の二郡に分ち以て今日に至る。

タカクサ 高草

【高草山】 靜岡縣志太郡岡部町と東益津村との境界に跨る。標高五〇一米。この山嶺は北方に延び宇津ノ谷峠となる。南方は低夷し、駿河灣に没す。山頂の平坦なる所を谷に權現平と云ふ。近時まで小社ありし如くなれど、今は臺石のみ残る古の飽波山にあらずやとの説あり。【高草(郡)】 因幡國(鳥取縣)の古郡名。續紀實錄二年の條に因幡高草の名稱見え續後紀天長六年の條に初めて郡名見ゆ、和名抄は多加久と訓じ神戶・委文・味野・古海・能美・布勢・野坂・刑部の八郷を置く。明治二十九年西方の氣多郡と合併して氣高郡を建つ。

タカクシ 高串

省線宇和島線の一

タカカマ 高隈

【高隈村】 鹿児島縣大隅國肝屬郡の北部。高隈山脈の東斜面に位し、山嶺を隔てて西は垂水町にして、南は鹿屋町に接す。西境には高隈山脈連りて大隈驛(一・二三七米)七岳等を起して山岳重疊し其東南部は南方の鹿屋町・串良町へ續く火山灰より成る笠野原の廣き平原の北部をなし、西北部より東北部にかけて高隈山脈の東麓の臺地狀の丘陵嶺を、中央に西北境に源流する高隈川東南流して沿岸に沖積低地開く。低地には田畑よく拓げて米を産し麥・蕎麥の産もあり。山地廣ければ用材・薪炭を出し其他工産・畜産あり。北隣百引村方面と鹿屋町街衢を結ぶ縣道中央を貫貫し北部にて之より一遺分れて西走し垂水町海岸に出づ。此地古くは和名抄、給那野野郷の内には屬せしものか。此地もと鹿屋院に屬せしを豊区秀吉文祿檢地の時高隈三千餘石を割き細川藤孝入道購買の別邑とす。慶長四年島津義弘に復封せしめこれより高隈郷と稱すとす。【中津神社】 大字上高隈に鎮座。郷社。祭神、中津少童神。肝屬氏の崇敬する所なりといふ。例祭、二月中旬日。【高隈山】 櫻島の東方、大隅半島の西部に隆起する山塊。連山尖管狀をなして並び、鹿兒島縣肝屬郡高隈村・鹿屋町・新城村・垂水町に跨る。七岳(八八一米)を

最北端とし、その南に主峯大尾崎岳(一
二三七米)・御岳(一八二米)と並び、御
岳より西方に横岳(一〇二米)と白山の
二峯峙つ。東麓は南西流する高隈川に洗
はる。山は古生層より成り、大部分は森
林にて蔽はれ、その林相美、その鳥類の
多きこと等誠に興趣深き山なれども未だ
一般的には登山されず。古来里人はこの
山を畏敬し、三月の候この山に登拜する
風習あり。登山路は鹿兒島市より汽船に
て鹿兒島灣を渡り、垂水町垂水に着し、
それよりバスにて北東方垂水町七つ谷に
至り、更に林中の小徑を南方に辿れば七
つ谷に達し、それより尾根傳ひにて南方
諸峯に登拜す。

タカサ

【高倉山】 西山村(岩手縣)
【高倉村】 宮城縣陸前國志田郡の西部。
三本木町の西北に隣り、西は加美郡に界
す。仙北平野の南端に位し南境を鳴瀬川、
北部を多田川流れ、これ等の沖積平地より
なり、全村耕地ならざる所なくその殆ど
は水田となり、副産物として蕎麦・藁工品
を出す。街道は中部を南北に通じ三本木
町にバスを通ず。村内に古蹟二あり共に
大崎家の家臣の居りし所にして、東の要
害は遠藤掃部、西の要害は上野要屋居せ
り。大字新沼に豊玉姫命を祀る豊玉早御
玉神社あり。陰曆四月十五日・九月十九
日例祭を行ふ。

久慈川の支流山田川の上流に沿ふ。阿武
隈山地中の一部を占め、東境には北に朝
足山(五二四米)ありて、これより山地
南に連り、又西北境には高崎山(五九六
米)・白木山(六一五米)・男體山(六五四
米)あり。これ等の諸山何れも村内に傾
斜して森林多く、根合を山田川南流す。
川沿ひに狭き平地ありて農業行はれ、全
戸数の九割はこれに従事し、米・大豆・
蕎麦・高麗・蕎麦を主産す。特産物には
高麗を原料とする凍菓あり。陸海軍の需
要に應じ有名なり。太田町より來れる縣
道は川に沿ひて北走し、北隣生瀬村にて
西折し、袋田村に入りて久慈川流域に出
づ(約八軒)。袋田村に省線水郡線袋田驛
を置く。此地古くは和名抄、久慈郡山田
郷の内に屬す。明治二十九年天下野村の
うち上高倉・下高倉の二大字を分割して
新たに高倉村と稱す。

【高倉(郡)】 高座郡(神奈川縣)
【高倉】 石川縣津浦郡にありし村。明治
四十年小水村と合併して新たに小水村を
建つ。小水村は大正十年町制を布く。
【高倉山】 長野縣下高井郡埴村と新湯
中魚沼郡秋成村に跨る山。標高三三二六
米。南東方は北流する千曲川支流中津川
を以て苗場山塊に對峙す。西麓は北流
して千曲川に落つる志久見川に流はる。
休火山にして山頂に馬蹄形火口開く。山
體輝石富士岩等より成る。
【高倉山】 三重縣宇治山田市豊受大神宮

の南にある山。古くは高座山とも書く。
南山の一支が北に延びしもの、老樹鬱葱
と生繁り、今は全山外宮の神苑内に入る。
中腹に豊受大神の荒神魂を祀れる多賀宮
あり、百餘歳の石階が設けられ、山麓の
石階の東方には風宮あり、西方には地主
神を祀る土宮鎮座す。和歌の名所。夫木、
三三「君が代ににこりもあらし高倉やふ
もとにすめるおしほ井の水 仲彦」
【高倉小路】 平安京左京の畿の大略の一。
幅四丈。東洞院大路と萬里小路との間に
位す。凡そ今京都市の高倉通に當る。
【高倉山】 西山村(兵庫縣)
【高倉山】 高見山
【高倉村】 岡山縣備中國川上郡の東北部。
高梁川の右岸。北は阿智郡に境し、西北
より東南に狭長なり。割断されし中国
山脈の南斜面の一部を占め高麗三三四
米の山地よりなりて西北より東南に傾斜
し、高梁川北境より東南境にそびつと曲
流し、谷間に氾濫原をひらきて田畑を拓
く。米・蕎麦・蕎麦を産しまた柿・高麗等の
特産あり。清酒醸造行はれ山地からは木
炭を産す。又牧場廣く發達して良牛を出
す。高梁町より米子市に至る縣道は北境
右岸にそびて通じ、省線備前本線は東南
から北境にかけて高梁川と縣道と交錯し
て通過す。對岸に備前川中流・方谷二驛を
置く。此地古くは和名抄、下道郡近似郷
の内なり。秋葉山に城址あり、土人田井
信高の故墟と傳ふも確かならず、信高は

太平記に見え、元弘三年福山城に義兵を
擧げたる人なり。

【高倉村】 岡山縣美作國宮田郡の東南部
津山市の東北約六軒の地點、津山盆地の
東北部にあり。北に高さ五百米餘の山地
ありて南部に急に傾斜し、その麓に平野
を開く。東境及び西境にも山地連りて中
央及び南部に傾斜す。従つて南部及び東
部山地は耕地よく拓けて米・蕎麦・蕎麦の産
多く、また柿を産す。山地は牧畜行はれ
て牛を飼育しまた林産物を出す。南隣高
野村には省線因美線通過しその高野驛へ
は約三軒あり。この地崎村高田村と共に
和名抄、古東郡高倉郷の地なるべし。中
世は高倉莊と云ひ、常壽院領たり。大字
大藤に貞觀五年授位(三代實録)の大佐
々神社あり。

タカサ

【高倉山】 高座 相模國(神奈川縣)
の古地名。和名抄に高座郡高座郷あり、
多加次良と訓す。その地今詳かならざる
も高座郡高倉村の邊に當るか、一に有馬
村の邊なりともいふ。
【タカコシ】 高越 ↓三山村(徳島縣
麻植郡)
【タカサエ】 高道祖村(茨城縣常
陸國筑波郡の西北隅。筑波山の西方にて、
小貝川の東岸にあり。北より西は眞壁郡
に南は結城郡に隣る。東部は低き臺地を
なすも大部分は小貝川流域の低地にて水
田多し。米を主産し他に蕎麦を産す。縣道
村の中央を横斷し、東は筑波町(約七軒)

北條町(約六軒)に通じ、西は眞壁郡下
妻町(約四軒)に通じ、バスの便あり。
此地古くは和名抄、筑波郡清原郡の内に
屬せしが、中世に至りて田中庄に入る。
のち更に眞壁郡下妻庄に屬したり。文祿
檢地以後舊に準じて本郡に屬せられ爾來
變遷なし。昔時高道祖備後守ありてこゝ
に築城せしことありと傳ふるも詳かなら
ず。のち小田氏全盛の頃白井全副この地
を領したりと。元治元年水戸の脱走兵、
筑波山に據り幕府及び諸藩兵の來攻にあ
たり此地に合戦す。(常願寺)新義貞
首宗登山談。文龜二年の創建。開山は義
純上人、中興を永藤上人とす。元治元年
水戸天狗黨の兵火に罹り現堂宇は其後の
建立に係る。

タカサ

【高倉村】 埼玉縣武蔵國比企郡の南部。
松山町の南方にて、間に野本村を挟む。
西半は關東山地の支脈に續く低き山地の
東端を占め、西境に物見山(一三六米)
あり。東半は平野にて南境を越邊川東流
し、川に近き部分には水田多く、北部は畑
地をなす。米を主産し、蕎麦も出す。縣
道は坂戸町より來り村の中央を北走して
松山町に通じ、葉落もこれに沿ひて發達
す。社線東武鐵道東上線又これに沿ひ村
内中央に高坂驛(大正十二年設)あり。
この地は和名抄、比企郡都家郷の地なる
べく、近世高坂郷龜井庄に屬し松山領の
内。江戸時代は幕領・米地入り交りし地。

タカサ

【正法寺】 大字岩殿にあり。新義貞首宗
智山派。巖殿山と號し坂東三十三所第十
番の札所。寺傳に義老年中の創建と傳へ、
正治二年源頼朝の再興、のち徳川氏より
朱印二十五石を寄せたる。詠歌「詣て來
る淨世の人を渡らさじと誓の綱をひきの
岩殿」
【高坂村】 廣島縣安藝國豊田郡の東部。
本郷町の北。東は御調郡に隣る。面積二
五・三三方軒。東隅の大峯山(六一〇米)
を以て、五百米餘の連峯東南境に聳立
し、北部も三百米以上の山岳蜂起して地
勢一般に險し。南隅に僅少の低地ありて
農耕行はれ、米・蕎麦を産す。近年は煙草
を栽培しまた椎茸を産出す。山地からは
林産物を出す外最近石炭層の發見あり、
試掘中なるも將來は有望なり。省線山陽
本線本郷驛(本郷町)までは約八軒、交通
便ならず。中世は小早川氏の所領にして
累代の居城高山城址あり。その創建の年
代不詳なるも、土肥實平の子孫小早川茂
平始めて安藝に來りてこの地に築くとい
ふ。その裔繁平首するに及び、毛利元就
の三男隆景入りて小早川を繼ぎ、のち封
を筑前に移さるるまで居城す。三級遺は
高さ一〇九米、幅五米。(佛通寺)大字
許山にあり。臨濟宗佛通寺派大本山。應
永四年國主小早川春平の創建。原中周及
を開山とす。のち變遷あり明治以後大本
山妙心寺より別立し末寺四十九箇寺を統
轄す。

タカサ

【高坂】 土佐國(高知縣)の古地名。和名
抄に土佐郡高坂郷あり。その地は今の高
知市及び其附近を稱せしもの如し。
【高坂】 豊後國(大分縣)の古地名。延喜
兵部省式に、高坂驛馬五疋と見ゆ。往昔
豊後國府より玖珠郡を経て大宰府に赴く
官道に置かれしもの。その地は今の大分
郡西庄内村大字高岡の邊ならん。

タカサ

【高坂村】 山形縣羽前國北村山郡の東南
部。最上川の一支流亂川流域の農村。西
は東根町との間に東郷村を挟み、東は宮
城縣と界す。東境を奥羽脊梁山脈走り白
梁山(二八四米)・寒風山(一一七米)
・面白山(二六四米)あり、寒風山と面白
山の鞍部には關山峠(五九四米)あり。村
内は之等の山脚延び、北部に野川、南部
關山峠より發する亂川に共に西に流れ西
部の山形盆地に出づる所に扇狀地をつく
る。亂川は大字關山を頂點とし半徑約一
二軒の所謂亂川扇狀地を形成し、流路は
扇狀の山麓を西流す。上流には近代に於
ける奥羽山脈の隆起に伴ひて形成せられ
たる比高五〇米に達する二二三段の河岸
段丘あり。第一の段丘上は關山街道の通
路、第二の段丘上は煙草・桑・林檎の栽
培地にて石器・土器類も見出され、第三
の段丘上は水田なり。外に木炭の産も少
からず。柱時仙臺・山形間の交通路たり
し關山街道は略々亂川の第一の段丘を通
り、關山峠を経て廣瀬川流域に至り、大

の雄姿を眺め、遙に兩山の中央に清水峠の連峰を遠望す。西南は土地高燥にて一帯の丘陵をなし、遠く妙義の峻峰を仰ぐ。鳥川の本流は市街地の西北部に於て、碓氷川と合し市の中央南部を貫通す。市街は鳥川の左岸に沿ひて形成され、東北部には田畑拓く。前橋市に懸崖設けらしよりその盛を奪はれし歟あるも、往時は頗る殷盛を極めたり。舊中山道第一の郡邑にして關東より信越への要路を扼し、物資はすべてこの地に集散され、元禄三年には既に當地に織物市場設置せられ、附近農村にて織られたる絹・太織は高崎絹の名を以て關東・京阪・東北方面に廣く賣り出されたり。而し交通文明の發達に伴ひ信越と東京を直接に連絡せしむるに至るや、商業都市としての高崎は、ここに衰へ、今や工業都市として更生の途に向ひつつあり。工業中その生産額より見て最も大なるは製粉(約八百萬圓)にして、製糖(約二四〇萬圓)・これに次ぎ、その他製材(約七三萬圓)・製紙(約六九萬圓)・織材料及び機械器具(約七〇萬圓)等なり。農産は米(約四五萬圓)最も多く、蕎麥(約二六萬圓)・蕎麥(約一六萬圓)等これに次ぐ。屠殺は豚・牛・馬の順序にて、その總額は年約一五萬圓にのぼる(以上何れも昭和十一年度調査に據る)。交通は省線高崎線・東北本線の大宮驛に起り、本市には高崎驛(明治十七年設置)を置き、省線信越本線これに接して市内に北高崎驛(明治十八

年設置)を置き、碓氷峠方面に向ひ、また高崎驛より省線土越線、兩毛線分岐して前者は清水隈道方面に、後者は栃木方面に向ふ。而して上信電氣鐵道・東武鐵道等の社線も此處より分岐す。道路は國道中山道を始め、縣道里道四通し、本市を起點として前橋市・伊勢崎町・澁川町・箕輪町・藤岡町・富岡町・安中町・室田町・箕輪町・本宿町等にバスを通過す。かく交通の主要都市をなせるは全國稀に見るところとす。當市は中古以來關東に於ける都市として中山道重要の驛路たるを以て其名風に著はれたるにも拘はらず、上古の事蹟に至りては記述の詳にせるものなし。然し王朝時代には赤坂庄と稱し藤原氏の庄園たり。源平時代には豪族あり源氏に屬し居城を赤坂城と號せしも幾何もなく廢城となる。鎌倉時代に至り和田義盛の六子義信遺れて群馬郡白川郷に盤居す。子正信實元年中此地に移住す。孫信高の時和田信吉と改稱し信高新田氏に屬して王事に勤む。正信六世の孫を義信といひ鎌倉父祖に超え勢次第に隆昌となり、正長元年赤坂城址により築城し和田城と稱す。子孫相繼ぎ城主たりしが天正十八年小田原落城の時上杉氏の爲に攻略せられ和田氏亡ぶ。徳川氏の關東を領するに及び、箕輪の城主井伊直政を和野に移し新に和野の城址により築かしむ。直政規模を大にし慶長三年入城し、和野を改め高崎と稱し、十二萬石を食み中山道の重

鎮たり。爾來幾變遷ありて明治に至る。明治二年大河内輝隆高崎知藩事に任ぜられ、同十月群馬縣と改められ、これに屬す。同六年六月更に廢せられて熊谷縣支廳を置かれ、九年八月再び群馬縣となり、假に廳舎を前橋に置き、各區に戸長役場を置く。明治十一年郡區町村編成法發布せられ従来の區制を廢し、群馬郡役所の置かるるや其治下に屬し、高崎驛を高崎町と改む。町制時代は町役場を一は本町に一は宮元町の二箇所とせしが、明治二十二年町村制施行するに及び、翌年四月南北役場を廢し更に高崎町役場を宮元町(いまの市廳舎はその跡に新築せるもの)に置き、ここに始めて統一せり。かくして町勢日に發展し殊に東京高崎間の鐵路成りてより交通運輸の便を加へ、後更に各地に通ずる鐵道の敷かるるや商工業次第に勃興して戸口日に加はり、明治廿三年遂に市制を施行す。爾來各種の事業中公園の設備・水道の布設及び道路の擴張改修等相次ぎて完成し、昭和二年群馬郡塚本村・片岡村を編入し、同年より更に都市計畫施行地に指定され、高崎市建設へ邁進しつつあり。(高崎城)現在歩兵第十五聯隊の兵營地とす。西に鳥川、碓氷川と合して流れ、他の三面は街巷に連り居るも、漆、壘を存し、大手門・乾門・巽門等の址に、その徳の名を傳へて十五聯隊の營門設けらる。和野義盛の子孫と稱するもの居居たりき。永禄二年

に上杉謙信に攻められ天正中、和田兵衛大夫は武田氏又は北條氏などに屬せしむ。天正十八年小田原役に没落す。徳川氏の時井伊直政に十二萬石を與へ、箕輪城に居りて和野を兼有せしむ。慶長三年直政、箕輪より和野に移りて、漆壘を修築し、高崎城と改稱せしが、同六年に江州彦根に轉じ、同九年酒井左衛門尉家次五萬石を領して碓氷城より轉す。元和二年大阪陣の功に依り食邑を倍加せられて越後高田に移りしより、同五年に安藤對馬守重信、常陸神崎城より來りしが、元禄八年重博の時備中松山へ轉す。その後松平輝直來城せしが、實永七年越後村上に移り、間部氏と入替り、爾來相繼ぎて之に居城し、八萬二千石を領して明治維新に至る。(高崎公園)宮元町にあり。鳥川に臨み觀音山に相對し、廣袤二四・六ヘクタール。明治九年廢寺となれる大樂寺地城を擴張し園内に動物・鳥類等を飼育す。園内老樹多く花期觀櫻者雲集す。(高崎公園の白木蓮)指定天然記念物。高崎公園内にあり。本樹は元和五、六年頃、高崎城主安藤對馬守重信がこの地に建立せる良善寺境内に植ふるものと傳へられ、樹齡約三百年と推定せらるる名木にして、今猶ほ花季見事なる開花をなす。(明治天皇高崎行在所)指定史蹟。善合町中島伊平氏邸内。明治廿六年十月近衛師團小機勳演習天覽の爲、群馬縣下行幸の際、同月廿二日御駐泊あらせられ

たる處にして、主要部分はよく舊觀を存す。(明治天皇行在所跡)連雀町郡農會内。今同所に左記の如き標石を建立す。「明治天皇北陸東海兩道御巡幸途次置行在所於高崎區善所明治十一年九月三日御小休四日御休泊此地即其址也」(觀音山)大字石原にあり。市の西南に崛起し鳥川を隔て舊市街を俯瞰し、上毛の三山雄名・妙義・赤城の秀嶺指呼の間にあり、淺間の噴煙を遠望す。歩兵第十五聯隊の忠烈なる勇士百柱を祀れる忠靈塔あり、頂上に五れば坂上田村磨圓創の清水寺あり。金山樹多し、また四時それぞれ趣を有し市民の行樂地たり。山頂の松林中に世界第一と稱せらるる鐵筋コンクリート造りの大觀音像あり、また觀音參道の右手に乃木將軍銅像あり。(館の河鹿と貝石)大字寺尾にあり。觀音山の背後にある館の清流は絶壁の底を流れ昔より河鹿の館の名所として名高し。此の溪谷一帯の斷崖の岩壁中に帆立貝・赤貝・蛤等の化石を包含し、古代此地の入海なりし事の證とせらる。(寺尾古戰場)大字寺尾にあり。天文十八年九月三日武田・上杉交戦の古跡、石原小觀神社前方の如中に千人塚と稱する塚あり、近時之を發掘せし際多數の白骨、刀劍類等を出す。(先住民居住居址)大字乗附にあり。大手附近は數千年以前の民族居住居址多く、山林中の開墾中に石器類及び石器時代の土器破片の散布する物多く、尙ほ此地方は古墳

の存する事數多く往昔民族の大聚落地たるを想はしむ。(三島塚)大字石原東南部縣道西に在る高さ約六米の圓墳にして頂上に三島神社を祀る。赤坂武王の御陵墓と傳へらる。(美濃殿)宮元町にあり。高崎公園の西北に當る。高崎縣監菅下なりし群馬・埼玉・長野三縣下の、西南役以來の戦政者を合祀す。明治四十三年齋院建立せらる。(高崎神社)赤坂町に當る。縣社。祭神、伊弉冉命外十九神。舊稱、能野社。慶長年間井伊直政入部の時、和野城を改めて高崎城となし、城内なる本社を現地に移して高崎の總領守となす。のち歴代の藩主及び庶衆の尊信篤かりき。例祭、十月十九日。(小説神社)地社。祭神、少彦名神外數神。式内社。神位、元慶四年正五位上。國內神名帳「從一位小觀大明神」、上野國の七宮。例祭、四月十九日。(安國寺)通町にあり。淨土宗。慈光山常照院と號し京都知恩寺末。開山二年の創建。開山は光譽上人。一説に足利氏各國に一字宛創建せし安國寺の一なりともいふ。本尊阿彌陀如来を安す。(惠徳寺)赤坂町にあり。曹洞宗。松隆山と號す。天正年間井伊直政其伯母惠徳院宗貞尼のために創建。開山は龍潭和尚。(延慶寺)新町にあり。眞言宗高野派。寛永十一年建立。開基は高野山二百三十三世實度阿闍梨なり。境内に大師堂あり。弘法大師像を安置す。(玉田寺)中紺屋町にあり。新義眞言宗豐山

派。眞珠山妙徳院と號す。永正元年創建。開基を和信僧、開山を智鏡法印とす。舊寺領十二石餘ありき。(向雲寺)下長元年酒井左衛門尉家次の開基なりといふ。又開基を飯塚但馬守なりとする説もありて詳ならず。開山は傳洲和尚にして、本尊釋迦如来を安す。(興禪寺)下横町にあり。曹洞宗。白龍山東谷院と號し、開山は一山禪師にして、初め臨濟宗たりしが、のち城主和野右兵衛大夫信輝再興して善提所となし、瑠璃文相和尚を中興開山とし、以來現宗に屬す。(光明寺)若松町にあり。眞言宗高野派。日宮山安樂院と號す。至徳二年清海行者、湯殿山・月山の兩權現を茲に勧請し、一字を創して安樂院通照坊と號す。當寺の愛染明王は靈驗ありて名高し。(清水寺)大字石原(觀音山)にあり。新義眞言宗豐山派。本尊延寶沙門作千手觀音。華藏山・大悲院と號す。大同三年坂上田村圓の草創、開山は祐海法印たり。山麓に茶亭及び芭蕉の碑あり。堂宇の構造は京都の清水寺に模したるもの、世にこれを清水觀音と稱す。(正法寺)九藏町にあり。日蓮宗。廣布山と號し身延山久遠寺の末寺たり。開山は本龍院日敬上人にして、文祿二年箕輪長中山妙福寺より此處に移るといふ。(善念寺)元紺屋町にあり。淨土宗。法道山弘眞院と號す。天文九年和野右兵衛大夫信樂の開基。開山は

信樂の弟正成和尚なり。本尊は聖徳太子作阿彌陀如来。(大雲寺)九藏町にあり。曹洞宗。青龍山洞珠院と號し、弘治年中松室和尚の開創なり。(大信寺)通町にあり。淨土宗。眞行山巖峯院に創建。元龜元年總警願上人、保波田村と號したるを、慶長三年井伊直政城を高崎に移すに及び本寺亦從ひて移る。徳川氏の善提所にして境内に數は世に忠長の記念樹と稱せらる。(法輪寺)羅漢町にあり。天台宗。羅漢山正覺院と號す。慶長年中創建。開基を酒井宮内丞とし、開山を藤和和尚とす。本堂に弘法大師作阿彌陀如来を安じ、羅漢堂に三百六體の羅漢を安置す。(法華寺)九藏町にあり。日蓮宗。西郷山本行院と號す。慶長年間の創立。開山は日儀上人。もと箕輪にありて法華堂と稱したるを、のち井伊直政の家臣西郷左衛門、直政に請ひて此地に移し現寺號に改む。(龍廣寺)若松町にあり。曹洞宗。高崎山と號す。天正年中箕輪城主井伊直政の開基。白鹿秀鳳和尚を開山とす。舊寺領十三石を有す。寺内に陀机尼天の堂あり。里人豊川稻荷と呼び、賽者甚だ多し。(高崎線)省線東北線の一。埼玉縣北足立郡大宮町の東北本線大宮驛より西北方の熊谷市を経て群馬縣に入り、高崎市の高崎驛に至る七四・七軒。熊谷驛にて社線秩父鐵道に、群馬縣群馬郡倉賀野町の倉

タカサ——タカサ

賀野驛にて省線八高線・社線岩鼻驛便に接續し、高崎驛にて省線越後線・兩毛線・信越本線・社線上信電氣・東武鐵道と連絡して新潟・秋田・金沢等の諸都市に通ず。東京市下谷區上野山下町の東北本線上野驛より直通急行列車を運轉し上野・高崎間約一時間四十分行して達す。

【高崎】 下野井町(千葉縣安房郡)

【高崎村】 宮崎縣日向國北諸郡の北部。大淀川左岸に沿ひ東は高崎町に接し南境は郡城市の北境との間約一二軒を隔つ。全村山岳多し長尾山(四二七米)を中心として東南より西北に續く山嶺は西境を隔り、其東麓に高崎川東南流し、其東には北境の約三五〇米の山地より東南へ延びる山嶺次第に高さを減じ東南部に臺地狀を呈し此山地中央部に鑄り、東北部には約四〇〇米以下の山地起伏す。東境には北流する大淀川あり東南境にて高崎川を合せ、又東北隅にて東北境に沿ひて東流する岩瀬川の水をいれ東折し宮崎市方面へ流る。高崎川の流域に稍低地開け南部に稍廣し。農産類最も多く工業之に次ぎ畜産・林産あり。南方郡城市方面と西北方四諸郡小林町とを結ぶ街道高崎川の谷を走り、村道數多之と連絡し又此谷に省線吉野線通じ高崎新田驛(大正二年設置)あり。もと四諸郡の領城なりしが近時分割し北諸郡に入る。村内に大淀川第一發電所あり、大正十四年の設立に係り當時出力七四五〇キロワット

タカサキシンデン 高崎新田

省線吉野線の一群(大正二年設置)、宮崎縣北諸郡高崎村にあり。

タカサコ 高迫

備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に安那郡高迫あり。今の深安郡道上村・湯田村の邊ならんと云ふも詳ならず。

タカサコ 高砂

【高砂村】 宮崎縣陸奥國宮城郡の東部。仙臺市の東に隣り、東は太平洋に面す。仙臺野の北部にありて、全村平坦なる沃野をなし、七北田川は村の中央を東流して太平洋に注ぐ。海岸に沿ひて貞山堀南北に通ず。全村に亘りて水田拓げ多く米・麥を産し、また水産物あり。道路は七北田川に沿ひて東西に通じ、西方の仙臺市に至る。西北に社線宮城電鐵通じ、陸奥高砂驛・福田川驛(共に大正十四年設置)あり。この地は和名抄、宮城郡大村郷の内なりと稱せらるるも詳かならず。戊辰の役には戦亂の巷となりし地。また夫木・二三「あまたたが君が心を見ちのくの多湖の浦鳥うちみてぞふる」とあるは大字田子の地なりといふ。

【高砂町】 兵庫縣播磨國加古郡の西部。加古川河口の三角洲上にあり、播磨灘に面す。全村三角洲上に位置する爲め低地に於て、東境に加古川南流し、幾多の分流をつくる。南方海岸に燈臺(不動紅光、光達距離一・五哩)あり。水田多く良質なる播州米を産す。中央に高砂町乗落點然たる街衢をなす。道路四通八達し、社線播磨鐵道高砂浦驛は、南部海岸より延びて加古川町にて省線山陽本線に連絡し、播磨鐵道は更に加古川の谷に沿ひて東北方へ走り、高砂浦・高砂(共に大正三年設置)・高砂北口(昭和五年設置)の三驛、及び山陽電氣鐵道の電線高砂驛(大正十二年設置)あり。港は改修せられて船車の連絡行はれ、四國の多度津へ毎日汽船の便あり。町内に鐵道高砂工場・三菱製紙工場・野田製油園西工場等の工場多し。高砂は近世觀音講高砂を以て著はれ、また古來名所として知らる。上古は伊南川即ち加古川を其分流洗川に由りて作らし鳥狀のアルキにして、萬葉集に伊南郡麻と云ふは之を指せしものならん。中世は御厨と稱す、即ち時の朝廷の魚味調達の邑なり。扶桑略記に「後三條天皇、延久二年、停廢高砂御厨魚、令供養精進物」とあり、延喜式に「播磨國御厨、年魚二擔四匁」と云ふもの蓋しこれなり。播磨風土記にも加古川の年魚の事見ゆれば、由來久し御厨と云ふべし。中世以降は船の寄泊多かりしと見

え、その名諸書に見ゆ。散木集に「高砂にまかり、船より下りて、濱になぐさめけるに」と記せるは當時泊所なりしを物語るもの。高倉院殿鳥御車記にも高砂の泊のこと見え、平家物語に高砂の遊女のことあり、蓋し當時宗津江口に對比せる水際たりしものならん。天正の頃は別所長治の將親原平三兵衛景行高砂城を築きて之に居り海上運漕のことを司りしが天正八年三木の藩城と共に陷る。慶長五年船路藩主池田輝政、播・備・淡三國を領するに及び、廢城を修め、家臣中村主殿介を置き目代とし、また大船多數を造らしむ。元和年中本多忠政船路藩主となるに及び之を破却して牛頭天王、即ち高砂神社を再建せり。江戸時代を通じ船路藩の所領に屬し、同藩船運を主とせる所にして、同藩の米廩あり。また古來有爲の航海者出で、寛水の頃は天然德兵衛なる者、呂宋・暹羅の邊まで航行せる事あり、その開書なるもの殊に名高し。天明、寛政の頃は工業松右衛門(贈從五位)なる船手あり、帆木綿の組織を改良し、本邦布帆の制これより一變すといひ、文化五年、高砂の船運を築造し、碇泊の便を加へたりといふ。海岸はもと高砂浦・高砂岸等と呼ばれ松樹多し、白砂青松の好風景にて同澤に入るもの多く、かの古今集の序に「高砂すみみのえの松も相おひのやうにおほえ」との相おひは相連の義、即ち播州住吉と風光角區の意ならん。然るに

後年その松林を開きて民家となすに及び大いに風致を失ひ、僅に高砂神社境内の松林に往時を偲ぶのみ、今は却つて加古川東岸の尾上村に松樹多し、誰をか知る人にせむ高砂の松もむかしの友ならんくに「藤原興風」の浦かけて月すむ夜半は高砂の尾上の鹿やこころわくらん 平兼盛「打よする浪と尾の上の松風と聲高砂やいつれなるらん 源順」等秀歌詠ふるに過なし。なほ前記高砂の尾上の解釋に數説あり。高砂は砂瀆平夷にて尾の上といふべき丘陵なし、加古川東岸は尾上村にて尾上松あり高砂と共に松の名所、名所國會は昔の高砂は川東にて尾上に接續せりとなし、されば「高砂の尾の上」と云へるものなりといふ、然るにこの尾上村も丘陵と稱すべき地なし従つて有名な大江區房の「高砂の尾の上の櫻咲にけり外山の霞たすもあらなむ」の歌も「ひが心得」と伴信友は見て、高砂は地名にあらず、高砂の尾の上は砂の高く積りたる丘陵の意に過ぎずといふ(比古裝衣)。諸説の當否は暫く措き、いづれにしても高砂は和歌に名高き名所、高砂神社の境内の高砂松は、その精が樹と號の老夫婦に化せりといふ芽出度き説話を持つ名所に於て、諸曲高砂の所謂高砂松なり。その一節は観音小講としてよく用ひらる。高砂「……高砂や此浦船に帆を揚げて、月滿共に出潮の波のあは路の鳥霞や、遠くなる尾の神過ぎて、ばや住の江に若き

タカシ——タカシ

にけり、云々」(高砂神社) 大字東宮に鎮座。神社、素戔嗚命・奇稻田彥命・大己貴命。境内に有名な相生の靈松あり。地方の古社にして諸曲「高砂」の著名なると共に人口に膾炙せらる。例祭、十月十一日。(高砂松) 高砂神社境内社殿の東にあり、この松は四代目にて、初代は枯朽し、二代は天正の役毛利氏の將兒玉某伐りて葬とす、三代は元禄年中中野路城主本多忠政が、伊南郡福井村の山中より移植せるものといひ、相生なるも、尾上松とは異なり、黒松が主幹、赤松が枝、幹と根との境界は地上約四二割、境界線の周囲凡三米半、枝の基部の周囲約一米三、枝の派出部の直上に於ける主幹の周囲約三米三、其より約九〇割にて天然記念物に指定されしが、昭和十三年枯死し指定を解除さる。其南に現在の相生松あるも樹齡未だ若し。(十輪寺) 淨土宗西山派。寶藏山と號す。弘仁六年弘法大師の開創、もと眞言宗たりしが、建永二年圓光大師中興して現宗に改む。境内に文藏中朝鮮征伐凱旋の途次、藤風に遭ひて溺死せし人々の靈を慰むる爲に建しものといふ石塔九十九餘基、及びその中央に寶塔あり。寺寶絹本彩色五佛尊像は支那元時代の作に係れる珍稀なる佛畫にして現に國寶たり。

タカシ 高士村

新潟縣越後國中頸城郡の東部。高田市の東方約十軒。東は

タカシ 高石町

大阪府和泉國泉北郡の西海岸。濱寺町の南に接し、大津町の北に隣り、東北部は風町に界し東は取石村に接す。大阪平野沖積地の一部を占め地形低平にして北部に蘆田川、南部に子川共に西北流して大阪灣に注ぐ。西王海岸一帯は白砂青松をなし夏季海水浴に適す。農産・畜産・水産あり外に工業頗多し。紀州街道は西岸近くを南北に走り、また大字に高津の名残り、村名高士も高津の轉訛ならん。村内の丘陵上に岩鼻葡萄園あり。面積約二千アール、その數三百五十種七萬餘株に及び高田名物葡萄酒醸造せらる。

タカシ 高志村

徳島縣阿波國名西郡の北端。吉野川下流左岸に位し一條町の東に當り、徳島市の西北約一二軒にあり。吉野川地溝帯の一部を占め地勢全く平坦なるも概れ砂礫層にて耕地乏し吉野川南岸を屈曲東流し沿岸に堤防を設く。河原發達す。縣道にバス通じ各地間との連絡便なり。藍・煙草等を産し、桑畑あり養蠶行はる。古くは和名抄名西郡高足郷の地とし大字高瀬また高瀬あり。月輪禪定堂寶公を祀る月輪神社あり公の墳墓と傳へし地に創せしものとす。

タカシ 高岸

出雲國(鳥根縣)の古地名。和名抄に神門郡高岸郷あり、その地今の廣川郡高松村の邊に當る。

タカシ 高師・高足・高脚

上野國(群馬縣)の古地名。和名

タカシ

名抄に鞍野郡高足郷あり。今其地詳かならざるも或は多野郡小野村の邊を稱せしものか。

【高階】 愛知縣深美郡にありし村。明治三十九年岡田村・磯邊村・野依村・植田村・大崎村と共に廢し新に高階村を置きしが、昭和七年豊橋市に編入され、高階町・野依町として其名残る。而して高階町・野依町の地は和名抄深美郡高足郷に當り、神風抄に三河國高足御厨、内宮十石とあるも此地にして、源光行の海邊記に見ゆる高志山(高師山といふ)も亦此地の岡嶺とす。秋月のよわたる月の高師山ふもとの浪の音ぞ更けぬ。寂蓮

タカシ

【高階】 陸奥國(福島縣、磐城國)の古地名。和名抄に宇都郡高階郷あり、その地の相馬郡駒ヶ嶺村の邊に當る。【高階村】 埼玉縣武蔵國入間郡の東部。川越市の南隣にあり。面積五・九一平方の村。全村平地にて殆ど畑地をなし、北の一部のみ水田あり。米・麥・蕎麥を産し、機織り行はる。川越市に縣道を通じ、社線東武鐵道東上線もこれに沿ひて北走し、村内に新河岸驛(大正三年設置)を置く。この地は天文六年、北條氏綱、上杉朝定と戦ひ、同十五年北條氏康、上杉謙政と戦ひ、兵馬の馳驅する所となり、兵火の爲めに人家荒廢に歸せるもの少からざりし

タカシ

といふ。天正十八年北條氏亡び徳川氏江戸に入るや、酒井重忠この地及び川越城の近傍を整理せしことあり、明治維新以來は川越藩となり、明治四年入間縣、同十七年砂野田郡合戸長役場を設け、村内七村を合したりしが、同二十二年高階村と稱し一村の組織となれり。大字高階村は松平伊豆守信綱川越城主たりし時、内川即ち新河岸川の水路を修め、ここを舟著として江戸との間の舟行を便にす。【高階】 武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄、入間郡に高階郷あり、太加之奈と訓す。今その地詳ならずも所澤町・山口村の邊郷名を缺くを以て或は此の邊か。一に毛呂村・川角村の邊なりといふ。【高階村】 石川縣能登國鹿島郡の中部。七尾町の西方約六軒。和倉町の南。層上山脈の東部に於て、村内概ね丘陵起伏し、中央を北流する細流ありて沿岸に平野開拓さる。この平野は却つて上流の方に廣く、南方邑地帯に連る。山麓に葉落散在し、耕作に従ふ。米を主産とす。七尾町・徳田村・鳥屋村より各々縣道通じ、村内に集合して高階村、和倉町に通ず。省線七尾線田鶴濱驛へ四軒、南方面田驛へ六軒の道程なり。向和倉町へ六軒の便あり。この地古くは三階庄と稱せらる。温井氏は此地の舊士なり。天正中温井備中守景隆あり。織田信長の凶變に乗じ、三宅某と謀り石動山山來徒と共に一役し、佐久間盛政に謀せらる。大字西三階の郷

社藤原比古神社は天兒屋根命を祭り、例祭七月十五日。【高階】 埼玉縣武蔵國秩父郡の中部。秩父町の東北隣。關東山地中の一部を占め全村山地にて北境・東境・南境共に七五〇米前後の山ありて、三方より村内に傾斜し、西境附近はその裾の狭き低地にて荒川の支流北流す。この附近に中新統、秩父盆地の新第三系に屬する高階層群發達す。山地には森林多く低地には桑畑あり、養蠶行はれて繭を主産し他に麥米を産す。川に沿ひて縣道南走し、秩父町に通ず。この地は桓武天皇の皇子、一品式部卿葛原親王の御子、恒親王が武蔵國に左遷され、武蔵權守に補せられ此處に住せしよりこの邊を恒親庄と稱せりといふ。江戸時代は忍藩の領地となり、のち忍・入間・熊谷の諸縣を経て明治九年埼玉縣の管轄となる。【高階村】 香川縣讚岐國仲多度郡の中部。琴平町の北方約二軒。面積僅に五・四九平方。東北には丘陵なるも、中央は平坦なる丸龜平野の南の一部を占めて田畑よく開け、中央を土器川貫流して灌漑の便よし。特産物として無花果を産す。また農家の副業としては吹・麥稈製田等の製造も行はる。社線琴平電氣鐵道の羽間驛(昭和三年設置)あり。古は和名抄、那珂郡高階郷の地にして、村名は蓋しそ

【高階】 北海道的志支高島郡の嶺。小樽港と余市港との間にある小島島の北端。半島は丘陵性に於て險崖を以て繞らされ、殊に赤岩山(三七一)の北側は顯著なる赤岩崖にして、小樽港に入るものの好目標を提供するも、附近には亂岩多きを以て岬嶺に日和山燈臺を設け、燈質は不動白光、光達距離は一五海里なり。【高島】 省線網走本線の一驛(明治四十四三年設置)。北海道十勝國中川郡池田町にあり。【高島村】 群馬縣上野國邑樂郡の西北隅。小泉町の東北に隣る。面積六・二九平方の村。全村平地にて浪良瀬川の支流矢場川東境を流れ又その支流浪良村内を東流し、水田多く東部の小畑地をな

タカシ

【高島町】 北海道後志支高島郡の東北。後志支廳管下。高島郡全部より成る。小樽市の北に接し、小樽港の西部に突出せる高島岬の半島北部を占む。東及び北は海に面し西南は忍路郡に隣る。面積八・二四平方。人口八五〇二。郡内概ね山地にして、中央に赤岩山(三七一)聳ゆ。東海岸は出入多く、大字祝津・高島の葉落發達す。高島岬に日和山燈臺設けられ、北岸は焙岩屋をなし、赤岩温泉の湧出あり。鮭・鱈・昆布・鱈の漁獲多く、米・馬鈴薯・大豆の産あり。【高島郡】 ↓高島町(北海道)

【高島】 北海道的志支高島郡の嶺。小樽港と余市港との間にある小島島の北端。半島は丘陵性に於て險崖を以て繞らされ、殊に赤岩山(三七一)の北側は顯著なる赤岩崖にして、小樽港に入るものの好目標を提供するも、附近には亂岩多きを以て岬嶺に日和山燈臺を設け、燈質は不動白光、光達距離は一五海里なり。【高島】 省線網走本線の一驛(明治四十四三年設置)。北海道十勝國中川郡池田町にあり。【高島村】 群馬縣上野國邑樂郡の西北隅。小泉町の東北に隣る。面積六・二九平方の村。全村平地にて浪良瀬川の支流矢場川東境を流れ又その支流浪良村内を東流し、水田多く東部の小畑地をな

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

タカシ

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

【高島】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に高島郡高島郷あり、太加之末と訓す。地は今の安曇村・本庄村・青柳村に當る。古へは郡家のありし處にて、安曇村大字田中には郡家の址と傳ふるものあり。中世は安倍氏族佐々木氏の裔の地に高島氏を稱す。今の高島村は三尾郷にて高島郷の地にあらず。【高島村】 岡山縣備前國上道郡の西北部。旭川の左岸にあり。岡山市の東に隣る。面積六・九一平方。北には高き五〇一〇〇米の小山地連立して緩かな傾斜をなしその南麓には廣き平坦肥沃なる岡山平野を開く。灌漑の便しよろしき爲農業よく行はれ耕地多し。米・麥・蕎麥・蕪等

軒に香爐島、北方約三軒餘に伊王島を望む。面積僅に〇・九九方軒。全村丘陵起伏す。甘藷を作り海岸は水産あり。又高島炭礦の一部を占む。交通は水上交通による。東方町村と共に要塞地帯の一部をなす。江戸時代には鍋島氏の采邑にして、明治四年度藩置縣の際長崎縣の管下に屬す。(高島炭礦) 當村及び高嶺村に跨り、面積七百二萬餘坪、本邦重要嶺山の一たり。嶺區附近の地質は第三紀夾層層にして砂岩・頁岩・玄武岩の互層より成り、時に火山岩・玄武岩共在す。高島・中島・鍋島によりて圍まる、海底は恐らく悉く炭層にて、この炭田は非常に廣大なるものと想像する向もあれど、果して然りとすも、どの程度に採取し得るかや疑問に屬す。昭和十年には塊炭六萬餘噸・粉炭約三十四萬二千噸・粗炭三萬七千餘噸・瀝石四萬五千餘噸を産し、この總價額五百五十三萬餘圓とす。坑には高島坑・鍋島坑・二子坑などあるが、高島坑の如きは實水の頃、平戸の住民五平太なるもの、對岸の深瀬村より渡來して採取し持ち歸りて鹽田用に供すと傳へらる。明治元年藩主鍋島周俊が松林源藏及び英人グラハムトナして洋式により鑿坑を開鑿せしむるに及び非常に大規模のものとなるに至る。現在には三菱鑛業會社の經營、昭和十年現在にて礦夫一九八四人を使用す。

松浦郡の北方海上に横はる慶島を占む。島は伊萬里洞を扼し、東は日比瀨戸を隔て、佐賀縣東松浦郡入野村に對し、西は青島瀨戸を隔て、星鹿村を望む。面積一七・五二方軒。全村山地をなし山地海に迫りて岩石海岸をなし、屈曲多く、東部に干上鼻の突出あり、西北方に黒島浮岩嶺島北部との間に小島嶼數多散在す。甘藷・粟をつくり海岸は水産行はる。中央に村道東北より西南に走りて各村落を連絡すれど概して陸上交通不便にして汽船の便のみ。此地は弘安四年蒙古の寇船襲殺の地として著名なり。また村内三里餘宇中川原に中川多々良ノ谷と呼ぶ地あり。此地城は八幡愚童記に「敵數千餘人殘りしが平に降を乞ひけるがさのみいけても無益なり」として中川の端にて首を斬る」とある地にして即ち殘賊を捕へて斬首したるところなり。

高泉 出羽國(秋田縣羽後國)の古地名。和名抄に秋田郡高泉郷あり、其地今の南秋田郡寺内町・土崎町・飯島村・外旭川村等の邊に當る。タカシメス 高清水町 宮城縣陸前國原郡の南端。陸前平野の略々西北部をなす臺山丘陵の上にあつて土地や、高し。河川は町の西北より東に流れ、東方高泉沼に注ぐ。未産最も多く、次で高泉等の産あり。道路は町の中央を南北に通じ北方釜館町、南方田尻町に至る。またこれより西南に分岐して古川町に達するもの、西方に分岐して東北本線瀨原驛に達するものあり。瀨原驛へは約六軒バスの便あり。この地は和名抄、新田郡仲村郷の内にして、舊仙臺藩老石母田氏の采邑たり。村内の高泉城に居る。

高茶屋村 三重縣伊勢郡一志郡の東北端。伊勢平野の一部を占め、津市南境より約三軒南方にあり。久居町の東に隣り、地形平坦にして地味よし。農産多く、米・麥を産し、蠶の産もまた多く、鵜飼其他の畜産もあり、工業も幾分發達す。參宮街道東部を通過し其の東に省報參宮線走り高茶屋驛(明治二十六年設置)あり。もと陸前平野の里と稱し鹽を産せり。神風抄には焼出御厨鹽九斗と見ゆ。大字小産に大塚と呼ぶ古墳あり、石棺を出せりといふ。

高城山 三隅町(鳥取縣) 省線日豊本線の一驛(大正三年設置)。大分縣大分郡桃岡村にあり。【高城町】 宮崎縣日向國北諸郡の東北端。郡城市の東北約一〇軒。東北郡は東諸郡に、北は西諸郡に接す。村内は三―四百米の山岳起伏して散れ山地を成し、西南部に低平なる沃野開く。大淀川は南方より來り西北端に沿ひて東流す。産物中農産最も多く、林産・畜産等これに次ぐ。郡城市より宮崎市に至る國道は城内を南北に走りバス通す。村名は大字大井手の日和城より出でしものなりとす。

昭和八年(改定)を設き、また社務官城電氣鐵道は多賀城驛(大正十四年設置)・下馬驛(昭和七年設置)を設く。和名抄に宮城郡多賀郷とあるは、蓋し本村及び鹽瀨町・七ヶ濱村の邊を指すもの。村内に多賀城址・附屬寺院址及び多賀城碑ありを以て通く世に知らる。もと市川村といひしを多賀城村と更めし、これに依る。思ふに此地は古は征夷策上の要地たりしもの、如く、多賀城は即ち陸奥の國府とす。中古には専ら多賀國府(また高國府にも作る)と呼ばれ、永祿の頃迄は一方の都會たりし、留守氏(高森氏)の運邑後全く荒墟となる。いま多賀城址及び附屬寺院址は多賀城附屬寺院として史蹟に指定せらる。(舊)【多賀城】 陸奥の國府。大字市川にあり。その建設の年時期かならず。養老六年八月諸國司をして國府一千人を簡點し、陸奥國所に配すとあるものを以て之に當つる説あり、是は恐らく名取國府の事なるべし。一説に舒明天皇九年上毛野形名蝦夷の爲に破られ、走りて處に入るとある處を之に擬せんとするもある、當時夷地の經營未だ此の地方に及びたりと思はれず。更に古く日本武尊の蝦夷を征し給ふに當り、蝦夷の賊首島津神・國津神等、竹水門に屯して之を拒ぐとある竹水門を以て之に擬せんとする説あり。而も當時の形勢また固より此の地方に及びたりと思はれず、隨つて所謂竹水門は、むしろ之を當

陸奥郡地方に求むべきに似たり。然れども此の役に於ては日高見國より遼東、西南南南陸を経て甲斐國に到るとある日本紀の文によれば、該書編纂當時の史家の見所、謂ゆる日高見國を以て北上川即ち日高見川下流地方と解したるもの、如く、地理は、後の多賀城の地方に相當る。和名抄陸奥國宮城郡多賀郷あり。奈良朝末、こゝに多賀郡を置置し、延暦四年陸奥國府となす。以て當時その征夷策上の要地たりしを知るべし。此の多賀郷後廢せられて宮城郡に合す。其の年代詳ならざるも、間もなく夷地の經營進捗して、もはや其の必要を見ざるに至りし爲なるべし。多賀郷の名稱、天平九年に初見す。陸奥持節大使藤原麻呂・領守將軍大野東人と共に平章し、兵一千人を發して山海兩道を開かしめ、勇健百九十六人を東人に委し、四百五十九人を玉造等五種に分配し、麻呂は餘す所三百四十五人を率ゐて多賀郷に鎮す所あり。多賀城碑によれば、此の城神龜元年大野東人の説く所とあれども、此の碑偽作信すべからざるものなれば、以て據となしがたし。神龜五年丹波取軍を改めて玉造國となす。征夷軍前衛地の前進なり。多賀郷の設置或は此の頃にあるか。寶龜十一年以降の文常に之を多賀城と記す。當初は權置の備案なりしも、後に永久的の城鎮に改築せしものならん。其の後城鎮には數次の補修増築等もありしなるべく、現存城壁中に

少からず火災に罹れる廢瓦の包含せらるるあり。城壁は現在なほ斷續して其の大部分を存し、東門址の附近及び西南隅には之を二重に繞らし置見ゆ。其の延長東西約六百間、西南約三百九十間、南面約四百五十間、北面約四百五十間。中央に國府廳の地あり。東西約五十四間、南北約八十四間のほゞ長方形敷地をなし、廳舎の礎石なほ存す。案するに、陸奥國府はもと名取郡岩沼町にありしもの、如く、舊名を武隈と稱し、武隈の館の前に植ゑしといふ松の事多く歌に詠まる。延暦四年鎮守將軍大伴家持の奏言に、名取より以南一十四郡、歸して山海にあり、案を去る懸遠、徵發あるに屬して機急に會せず、是によりて權りに多賀階上の二郡を設き、百姓を募集して人兵を國府に足し、防禦を東西に設く。誠には是れ強め不虞に備へて、餘を萬里に推す者なり」と云ひ。更に其の前五年なる寶龜十一年に、多賀城は久年國司の治所、兵器兵糧勝つて計るべからず」とあるによれば、國府が多賀城に進出せしは恐らく天平の頃にあらんか。蓋し當初國府の武隈にありし際にして、征夷の策源地として先づこゝに多賀郷が設けられ、鎮守將軍の衛戍地たりしが、やがて夷地經營の進捗と共に、國府亦こゝに進出して、國府・鎮守府同所に共存することとなり、弘仁二年鹽澤城を築きて鎮守府こゝに遷るに及び多賀に専ら國府として遺されしものなる

べし。其の後多賀國府は久しく廢損し、前九年役の際に於ける國守源朝義の治所に勿論、源朝義於一統の際、多賀國府の廳に遷移して治政の方針を示せること東鑑に見え、降つて義良親王陸奥太守として奥州に下向し給へる際に於て、亦多賀國府を復興してこゝを治所と定めたりしもの、如し。されば其の荒廢は、恐らく南北割拠の後にありと謂ふべきに似たり。城址の南郭内に多賀城碑あり。久しく土中に埋没せしが、萬治・寛文の際に發掘せられて、始めて世に知らるるに至れりといふ。當初之を造るの碑と稱し、古歌に鹽の石文と詠めるものを以て之に擬せしことあるも、固より從ふべからず。其の文

多賀城 去東一千五百里 去蝦夷國界一百廿里 去常陸國界四百廿二里 去下野國界二百七十四里 去越前國界三千里 此城神龜元年歲次甲子按察使兼鎮守將軍從四位上勳四等大野朝臣東人之所置也天平寶字六年歲次壬寅參議東海東山節度使從四位上仁部省卿兼按察使鎮守將軍藤原惠美朝臣朝臣置也 天平寶字六年十二月一日

福馬町三千里と見えたり、此碑文の中に史に遺ひたる事見え、又地理の趣いかにしてあひまきく聞ゆるところのあるが上に、はた疑はしき説も聞ゆれば、かたがた採らずと云へり。其の「地理の趣いかにしてあひまきく聞ゆ」とは、常陸國界を去る四百二十里とあるを指せるなるべし。常陸國界を以て勿來關にありとすれば、多賀城まで約五十餘里にして、當時の里程にて約三百二十里となるべく、其の四百二十里といふとは甚しき相違あり。然れども、延喜式の驛路は海道に由らず、常陸國府(石岡)より北行山間を経て、徳山峠を越えて奥州に通じたるものにして、而も現時常陸久慈郡に属する依上郷は、和名抄に陸奥白河郡とありて、當時の陸奥常陸の國界は、東山道に由る白河關より西に東山道にありき。然らば下野國界を去る二百七十餘里に對して、其の四百二十里といふものは、此の街道によるものとして適當なりとすべしとの辯護説もあり。依て案するに、陸奥國は其の南部地方に於て地勢海道山道の二部に分れ、關東地方との交渉も自然常陸と下野との兩方より行はれて、こゝに勿來と白河との兩關ありて其の交通を監視せしが、奥地の經營次第に進捗して、今の福島縣地方は夙に内地化し下り、隨つて海道方面との交渉其の必要を減じて、中央政府との交通は専ら白河經由の東山道による事となりしかば、弘仁二年

に至りて海道の驛路を廢するに至れり。而も尙時に機急を告ぐるの必要あるに鑑みて、新に白河關以北に於て東山道に會する山間の驛路を開くこととなる。延喜式に見ゆるところ即ち是なり。而して多賀城碑言ふ所正に是に合ふ。果して然らば是は弘仁二年以後の實際を示せるものにして、碑の云ふ如き天平寶字の事實にあらず。蓋し日本後紀久しく世に失はれて、然るべき學者といへども弘仁の驛路變更の史實を知らず、爲に經卒にも延喜式の記載を古へに及ぼし、更に之を和名抄に求めて陸奥常陸國境變更の事實に考へ、遂に右の如き國境の里程を算出して、謂りて天平寶字を撰する碑に記するに至りしものならん。然るに後に日本後紀の殘本発見せられて、弘仁の驛路變更の事實の明白となり、遂に其の馬關を踏はずに至る。尙此の碑に就きては他に點點少からざるが如し、事には此の點のみよりしても其偽作なる事は到底蔽ひ難きものなりとす。(高須) (多賀城附屬寺院地) 多賀城の東南約一軒にありて、十社社の直前に塔址あり心礎を中心として十七箇の礎石整然として並び、その西方島居の傍にまた土壇を存し十數箇の礎石あり、更にその北方に土壇及び礎石殘存す。その塔壇の配置は所謂飛鳥時代様式の一變形と認めらるるものにて、遺存せる古瓦の紋樣等は全く多賀城址出土のものと同じなり。同種礎石より推

して恐らく多賀城經營に際して同種礎石のために營まれし附屬寺院の廢址と認むべきのみならず、東北地方に於ける奈良朝寺院の廢址として最もよく當初の規模を殘せる遺跡とす。(八幡神社) 大字八幡に遷座。郷社。祭神豐田別尊外二神。社傳に坂上田村麻呂の創建といふ。例祭陰曆三月十七日・八月十七日。

タガシ—タカス

宮城郡多賀城村にあり。

タカシロ 高城村

鳥取縣伯耆國東伯郡の中部。大山の東麓の地に當り西部は高さ約五〇〇米の地點を占め東に至るに従つて次第にゆるやかに傾斜し五〇—一〇〇米に下る。この東部の裾野は耕作行はれて米その他の農作物少からず、また藁を出す。山麓は好牧場をなし牛馬の牧畜盛なり。山地よりは木材その他の林産物を出す。東部斜面を南北に縣道通り又東方倉吉町へはバスを通ず。(大日寺) 大字樓にあり。天台宗。胎金山と號し、惠心僧都の開基。元祿二年秀榮法師の中興。往古は高野を獲したる大伽藍にして、上院・中院・安樂院の三院あり、三百餘の坊舎を有せしが、今は一字の小寺となれり。寺寶中米造阿彌陀如來坐像一軀は室町時代の作に係り現に國寶たり。

タカス 高祖

↓土村(福岡縣) (高須村) 茨城縣下總國北相馬郡の東部。

くて、この卑濕地も漸次開拓工事が行はれ、多くの新田聚落が見受けらる。濃尾平野の一部を構成する低地は水田地域にして、桑園も多し。交通は昔は川島のため概ね不便にて渡船を以て行はれしが最近に架橋せられしもの多く、バスも開通し、鐵道は對岸養老線駒野驛に近し。此地は和名抄、石津郡物部郷の地に於て、大字馬目は物部の轉訛せしものならん。中世高須は郡戸庄と呼ばれし事もあり。高須の地名は稻荷社の舊地が稍々高ければ土人之を高洲と呼べり起るといふ。初め大永二年大橋源左衛門重一城を築き同七年より和泉守信重居城し次いで大橋源兵衛重長は天文三年夏まで居住す。是尾州津島の四家七苗字の一黨なり。大永年中尾州清須城主織田信友と四家七苗字の黨と領地の境論によりて合戦あり世に大橋亂と云ふに之なり。更に高津支藩直幸、天文三年夏より弘治二年夏迄守り、平野右京進長治、恒川久次郎信景・繁巢大膳大夫光康・秋山伯耆守信純・林市介長正・稻葉佐渡守正成・日根野彌十郎信勝・加藤傳左衛門を経て高木十郎左衛門盛隆に至る。盛隆は文祿元年より慶長五年迄居し一萬石を食む。慶長五年には關ヶ原役起り石田三成に與したれば福島正則の攻むる所となり城を明渡す。役後松ノ木より徳永式部御法印壽昌此地に轉封し五萬八千石を食み城を修築せり。其子昌重は大坂城重修の役を課せられ息俊

タカス—タカス

の罪を以て除封。爲に稻葉丹後守正勝入城せしが數年にして相模小田原に移り寛永十七年小笠原正信下野下總國關宿より入部二萬三千石を食む。元祿四年小笠原氏は越前國山に移り城主中絶せり。元祿十三年、尾張大納言光友公の二男松平橋守義行の食邑となり封土三萬石たり。城郭修理ならず唯館舎を筑ぐのみにて累代四位少將を稱官とし子孫相繼ぎて明治初年に至れり。本町はもと郡役所のありし地にして、いま警察署・高等女學校等あり。

タカス—タカス

の罪を以て除封。爲に稻葉丹後守正勝入城せしが數年にして相模小田原に移り寛永十七年小笠原正信下野下總國關宿より入部二萬三千石を食む。元祿四年小笠原氏は越前國山に移り城主中絶せり。元祿十三年、尾張大納言光友公の二男松平橋守義行の食邑となり封土三萬石たり。城郭修理ならず唯館舎を筑ぐのみにて累代四位少將を稱官とし子孫相繼ぎて明治初年に至れり。本町はもと郡役所のありし地にして、いま警察署・高等女學校等あり。

タカス—タカス

と流る。この川の流域には水田多く分布し、また黄蓮の栽培も行はれ、木材よりは挽物を作る。交通線としては上保川の各より鉾ヶ野を経て庄川の谷に出づる飛騨街道通す。此地一帯は和名抄の郡上都栗柄郷の地にして、中世は鷺見郷と呼ばれ、江戸時代は郡上藩に屬す。鉾ヶ野方面は相當開墾され、西折新立新田・鷺見田代新田等の新田聚落あり、又新開地の地名も見ゆ。大字向鷺見には古城址あり。この山城は藤原頼保以後十二代三百九十一年間郡上鷺見氏の居城にして今藤原土壘の址殘る。鷺見氏とは美濃の山間に大鷲の棲む事天聽に達し、頼保命を奉じて當國郡上都雲ヶ岳(今の鷺ヶ岳)にてその大鷲を生捕り天覽に供せしにより、御賞として家名を鷺見と賜り、美濃國芥見庄鷺見郷を下賜せらる。後保重は文明の頃土岐氏の部將となり各地に轉戦し、山縣郡北野に所領を得、終に鷺見城を出でて北野に居城するに至る。向鷺見城は保重を経て光保に至り、天正三年金森長近、織田信長の命により越前攻撃の折、の城も終に陥落せり。

タカス—タカス

相馬町の東南隣にて、小貝川の downstream にあり。面積六・九六平方軒の小村。小貝川は北流を東南に流れて村の東部に入り、更に南西に曲流して南境を過ぎ、南方約一・五軒の地點にて利根川に合す。全村その流域平地を占め東境・西境には細長き沼あり。水田多く農業主にて米を主産し他に麥を産す。又黄蓮の栽培も行はれ副業として養蠶をなす。村の東北部を横斷する縣道は西北隣相馬町、東方稻敷郡龍ヶ崎町(約三軒)に通じ、相馬町には省垣常磐線代驛あり。古くは和名抄、相馬郡相馬郷の内にして、中世は相馬御厨と稱せらる。村名の高須は蓋し高洲の義とす。

タカス—タカス

相馬町の東南隣にて、小貝川の downstream にあり。面積六・九六平方軒の小村。小貝川は北流を東南に流れて村の東部に入り、更に南西に曲流して南境を過ぎ、南方約一・五軒の地點にて利根川に合す。全村その流域平地を占め東境・西境には細長き沼あり。水田多く農業主にて米を主産し他に麥を産す。又黄蓮の栽培も行はれ副業として養蠶をなす。村の東北部を横斷する縣道は西北隣相馬町、東方稻敷郡龍ヶ崎町(約三軒)に通じ、相馬町には省垣常磐線代驛あり。古くは和名抄、相馬郡相馬郷の内にして、中世は相馬御厨と稱せらる。村名の高須は蓋し高洲の義とす。

タカス

文藝低地中に突出すれども、西南部は一帯に低地よく展けて耕作盛んなり。オサ...

タカス 鷹巣村

郡の南端。南は丹生郡と境し、西北は日本海に臨む。全村悉く山地にして大川な...

タカス 高須賀沼

傳ふる鷹巣城址あり、如時能は南朝の忠臣にして、高師治等の大軍をこゝにて破...

タカス 高杉村

津輕郡の東北部。弘前市の北約二軒。東部は北津輕郡板柳町に接し西部は岩木山...

タカス 高勢

鳥取縣東伯郡にありし村。明治四十年本村及び賀茂村・竹田村を廢し、その地域を以て旭村を建つ。

タカセ 高瀬

山形縣羽前郡東村山の東部。西は山形市との間に鈴川村を挟み、南は南村山郡に、東は宮城縣に境す。東境に...

タカセ

口が峠の下にて出會ひしによりて起りし名なり。高野口と形形口とは何れが古き入口かは明らかならず、山形より近き利便有るも、頂上迄の距離は形形よりの一、四軒に比して二、四軒もあり、且つ馬形口より二百米も高くして惠まれし交通路には非ざりしも明和の古文書には此の方が本通と見ゆ。二日街道は明治八年頃迄...

高瀬村

山形縣羽前郡東村山の東部。酒田市の北方約一、二軒、東は日本海に臨む。庄内平野の北縁、島海火山西麓を占むる農村。海岸には幅約一、五軒の砂丘南北に連り島海火山麓との間に積層平地あり。吹浦川は北部を西流し、之と日向川を結ぶ分流は砂丘の内側を南北に貫流し、南部を流れる高瀬川を容る。中央低地には水田開け米・蕎麥を主産し外に大豆・野菜・桑を栽培し、薪炭・楡木・芫等を産す。縣道秋田街道は砂丘の内側を南北に走り酒田市にバスを過じ、省線羽越本線は中部を貫通す。此地は和名抄館海部屋代郷の内。字升川は古く島海山西麓を横断し羽後國山形郡へ通する間道桑の森(觀音森)越の起點なり。大字北日は、水久二年の文書に見ゆる古き聚落にて、古く附近を島海原と稱し、和名抄にて...

高瀬川

河内國(大阪府)の古地名。和名抄に美田郡高瀬郷あり。其地は今の北河内郡守口町・三郷町に當る。續後撰集「こもまゝ高瀬の流にさすさすてのさてや懸路にしはればてなん 家長」

高瀬

讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に三野郡高瀬郷あり。その地は今の三豊郡上高瀬村・下高瀬村・大見村等の地に當る。

高瀬町

熊本縣肥後國玉名郡の中部南偏。菊池川西岸にあり。面積僅に〇・九三方軒の小域。全村地形低平にて米・粟等の産あり、又工業發達しビートル・乾菓等を出す。本町の街衢廣く發達し、こゝに各種官衙・學校・會社等あり。道路は放射狀に四方に走り、また省線鹿兒島本線は南部を東西に通過して西方約一軒彌高村に高瀬驛(明治二十四年設置)あり交通極めて至便なり。古くは和名抄、玉名郡日置郷の内に屬せしものか。往昔は唐船來泊し、入唐の人また多く此地より出發せりといふ。この地は近世加藤清正の新しき經營により都市的價値を高めしを以て城下町同様に重んぜられ五ヶ町の一に加へらる。故に玉名郡にありながら玉名郡代の支配を受けず別に奉行制度を布かれたり。而して城下町同様に藩士に準じて優遇され鹿鹿・桑・差下駄を許され土分同様に取扱はれ、また寛永十五

タカセ

見ゆる島海原は、この地方なりとの説あり。北日嶺は新留守家の末業と稱する菅原氏の居住せる所にして、戦國頃武藏藤氏の墓下に屬す。北日嶺は寛永十一年菅原大右衛門・石川作右衛門の開發に係りし聚落なり。下宮新田は寛永七年の開發に係り、また中山・櫛川の二聚落は寛文二年以後開發せられし聚落なり。西方の海岸砂丘一帯はもと烈風に依る飛砂の害甚だかりしかば、酒田の住人屋敷六藏之を愷き、安永九年以來苦心に苦心を重ね植樹せし所なり。享保二年に至り竣工するに及び移りて住む者八戸あり。これ菅野部落の創始なり。もこの地に吹浦なる地名あり。吹浦川を取って菅野城ありしも、河道の變遷と、風砂の爲に埋没せられしなり。城主を板垣重富と云ひ永祿七年没落す。

【高瀬村】 福島縣磐城國田村郡の西部。郡山市の東南に隣る。阿武隈川の右岸に位し東南部は臺地をなすも西部は平坦なり。大瀧根川は北部を西流し、谷田川は東部を北流して共に阿武隈川に合す。阿武隈川は西境を流しつづ北流し沿岸に耕地開け、米・蕎麥・粟・粟草を産す。道路は村の略々中部を南北に通じ、南方須賀川町に至る。又北部を東南より西北に通ずる道路は西北方郡山市に達し、バス便あり。この地は和名抄、安積郡小川郷の内なるべく、大字小川は其遺稱ならん。

【高瀬村】 群馬縣上野國北甘樂郡の東部。富岡町の南に隣接す。面積僅かに五・八〇平方軒。村の大部分は北境を東流する鑛川流域の狭き平地を占め、南境附近は關東山地一支脈の山裾の一部にて高度約一〇〇米。桑畑多く一部水田をなす米・麥を主産す。縣道二條ありて富岡町に通じ、同町に上信電氣鐵道州富岡驛(明治三十年設置)あり。この地は和名抄、甘樂郡上野の内なるべし。

【高瀬村】 富山縣越中國東礪波郡の中部。井波町の西に接す。面積六・二八平方軒。礪波平野の一部を占め、土地肥沃、灌溉網よく開け米の産多し。社線加越線は村の北部をかすめ、高瀬村驛(大正四年設置)を置く。福野・福光・城端・井波の各町へは縣道通じ、井波・出町間にはバスの便あり。夜宇多院御領日録に越中國高瀬庄と見ゆるは蓋し此地か。村名は蓋し村内の高瀬神社に因るもの。(高瀬神社) 國幣小社。祭神、高瀬神。式内社。越中國の一宮たり。古來射水神社と相並び上下一般の尊崇篤し。例祭、九月十三日。

年以降は町内の地子(租税)さへ免ぜらる。高瀬町奉行所は保田末城跡にありて、

【高瀬川】 菊池川(萬本瀬)の別稱。【高瀬川】 山國川(大分縣)の別稱。【高瀬村】 大分縣豊後國日田郡の中部。

【高瀬川】 菊池川(萬本瀬)の別稱。【高瀬川】 山國川(大分縣)の別稱。【高瀬村】 大分縣豊後國日田郡の中部。

【高瀬川】 菊池川(萬本瀬)の別稱。【高瀬川】 山國川(大分縣)の別稱。【高瀬村】 大分縣豊後國日田郡の中部。

部の霞ヶ浦沿岸には稍低地ありて水田をなし、西境附近も霞ヶ浦に近く沼田の一部をなす。米を主産し、他に蕎麦を産す。

【高瀬川】 菊池川(萬本瀬)の別稱。【高瀬川】 山國川(大分縣)の別稱。【高瀬村】 大分縣豊後國日田郡の中部。

【高瀬川】 菊池川(萬本瀬)の別稱。【高瀬川】 山國川(大分縣)の別稱。【高瀬村】 大分縣豊後國日田郡の中部。

【高瀬川】 菊池川(萬本瀬)の別稱。【高瀬川】 山國川(大分縣)の別稱。【高瀬村】 大分縣豊後國日田郡の中部。

タカタ——タカタ

【高田】 東京府北豊島郡の町なりしも昭

す。その地今の城崎郡府村の邊なるべし。中世は高田・氣多の二郷に分る。

【高田村】和歌山縣紀伊國東牟婁郡の東部。熊野川下流の西岸に在り新宮市の西に接す。大雲取山・那智山の東斜面一帯を占めて西北境に大雲取山の一角白見山(九二六米)あり、西南境には那智山の山峯、烏帽子山(九〇九米)・光ヶ峯(六八六米)等聳え東部に低し。熊野川の一支流村内諸水を集めて東流し東境に沿ひて東南流する熊野川に入る。全村山地をなすため用材・薪炭の産多く、川に沿ふ地に耕作行はれて米・藁を産し柑柿もあり。熊野川右岸に沿ひて縣道通し新宮市に至り北隔にて之より分れ中央を南下し鹽見峠(四九二米)をこえて新宮市の西部に入る村道及び大統峠をこえて那智町北部に至る村道等あれど交通不便を免れず。

【高田】石見國(島根縣)の古地名。和名抄に安濃郡高田郷あり。その地今詳かならざるも、石見郷名考によれば、池田村の八幡宮を高田八幡宮と稱せりと、池田はいま佐比賣村の大字に其名遺る。されば郷城は佐比賣村の邊ならん。

【高田村】岡山縣美作國英田郡の東南部。津山市の北方、加茂町の南に隣る。西北より東南に稍々長方形をなし南は津山盆地の北部平野の地を占め土地平坦にして耕作行はる。中央部より北にかけては高さ六〇〇米餘の連峯村境に聳立して急傾斜をなし、地勢甚だ峻し。南部の平野に

は田畑よく開け米・麥・藁等の農産物ありまた柿を産す。山地は木炭その他用材の産あり。その他清酒の産出もあり。村内里道よく發達し南方津山市とはバスを通す。大字大森に郷社大佐々神社あり、月讀命・高靈命を祀り、十月十七日に例祭を執行す。

【高田】美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡高田郷あり。中世は高田莊に作る。地は今の眞庭郡野山町なるべし。

【高田郡】廣島縣(安藝國)十六郡の一。西は山縣・安佐二郡、東は賀茂・豊田兩郡、東北は雙三郡に接し、西北は島根縣に界す。本郡は中國山脈中に在りして山嶺連立し、東部の大山山(八〇〇米)より安佐郡界に至る一帯の山脈は、日本海と瀬戸内海との分水界をなす。東南境に大土山・雲ノ里山(九二二米)・安田山・高鉢山、西南境に白木山・備前坊山・堂床山、北部に大伏山等聳立す。大部分の水は江川の上支なる可愛川となりて雙三郡との境界を流出し、南部の水は三田川となりて安佐郡に入り太田川に合す。郡内は概れ山地にして各河沿沿岸に僅に低地あり、谷底には水田、傾斜面には畑地開け米・麥を始め大豆・粟・甘藷・午麥・藁を産し、外に和紙・林産を出す。省線鐵道は可愛川・三田川の沿岸を通じ、縣道またこれに沿うて走る。延喜式に郡名見え、和名抄は太加太と訓じ三田・雙鳥・風連・麻原・川立・船木・栗原の七郷を

置き、中世、和名抄高宮郡を合せて吉田郡と稱し郡城善に併し、寛文年間これを改め高田郡と稱し、爾後變化なく今日に至る。

【高田村】廣島縣安藝國佐伯郡の南方海上に横たはる西能美島の東北岸を占む。面積四・三方軒。東岸津久茂瀬戸に面せる所は南北海岸に沿うて砂濱連なり平坦なる地をなし西及び南は山地をなして竹林多し。平地は耕地拓け農業を行ひ米・麥等の産あり。又漁業行はれ網・船等の漁獲少からず。江田島の津久茂より渡船の便あり、江田島海軍兵學校と相對し海上備に三津、廣島市へ十三哩にして一時間毎に發動機船の便あり。また字品町に一時間半にして毎時往復す。

【高田】伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に風早郡高田郷あり。その地は詳かならざるも、温泉郡北條町・正岡村等の地に當る。

【高田町】大分縣豊後國四國郡の西隅。國東半島頸部の北岸に在り、桂川河口を占む。東部は兩子山の西麓端を占め臺地狀の緩傾斜の山地をなし東隅にて一五五米程度の高度を有し、南部は南方に聳えたる華ヶ岳山(五九三米)の北麓山地にてここに應利山(二九八米)を起し、其他の大部分は低平なる沖積低地開け、東方兩子山に源流する桂川は東部を西流し中部にて西北流し西北隅にて周防灘に注ぐ、桂川河口にて僅に海に接す。河川浦流して

田畑よく拓け米・麥の産多し。西方津市方面に縣道通じ、其東は桂川南岸に沿ひて河内村に至る。社線宇佐參宮鐵道は本町の豊後高田驛(大正五年設置)を起點として西南方位に在り、途中宇佐驛(西南方位二軒)にて省線日豊本線に連絡す。此地古くは和名抄、岡崎郡來繩郷の内に屬したり。大友能直時代には、其臣高田村助重定の封ぜられし地にして、爾來此地を高田といふ。一説に其姓の淵源地名と相同じなるを以て封ぜらるるといふ。以來竹中氏・松平氏の城下たりしが正保二年以後廢城となる。寛文九年肥前島原城主松平主殿頭之支領に屬し、高田城址に支廳を設け名付けて豊州陣屋と稱し那奉行を派遣し代官・目附・手代等の吏を置き以て此地を統治す。明治維新後、大小區の制を設けらるるに際し、舊陣屋を以て大區廳に充て國東郡一劃を管治す。當時より文化の一中心を爲せしこと窺はる。その後一時郡役所の所在地となりしも、其廢止後は政治的要素を失ひしし、猶ほ地理上の好位置を占むる關係上南方の幹線と共に牛島の大門戸をなす。【高田城】大字玉津に其址あり。建久七年大友能直任國の時、其臣高田重定此邑を賜ひ城を築き、のち正孝に至りて亡ぶ。文祿二年豊臣秀吉本城を竹中重隆に賜ひし、重隆廢許ならずして府内に移る。寛永六年松平重直之を僱めて入りし、其子重親水村に移され城址に廢す。

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

【高田村】大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川下流の左岸に沿ひ、乙津川との間に接され、鶴崎町の南に接す。面積僅に三・七九平方軒。全村低地開け、東西兩境に河川北流するたみ瀬川の便よく田畑拓け米麥を産す。南方戸次村にて日向街道より分れ、鶴崎町に至る縣道乙津川に沿ひて西部を北上し鶴崎町・戸次村にバスの便あり、又水路舟楫の便よく、鶴崎町には省線日豊本線東西に走りて鶴崎驛(北方約三軒)あり。此地或は和名抄、大分郡武藏郷の内に屬せしものか。近世は附近諸村と共に高田郷四十四村と稱せられ細川家領たり。セイト教徒は太友氏滅亡の後までも豊後所々に猶ほありしも

維の養存存す。

【高田町】福島縣岩代國大沼郡の東北部。若松市の西南方約八・五軒。合津盆地の西南部に位し、東南境を宮川東北に流れ、その扇状地の先端にあり。土地西南部に稍々高し。全村概ね耕地をなし、水田桑園等少からず。米・蕎麦を産し米は合津米の名あり。若松市へはバスの便あり、また合津線の合津高田驛(大正十五年設置)を置く。この地は和名抄、合津郡屋代郷の地にして、舊郡役所のありし所、明治二十九年町制を布き、昭和二年田川村を編入す。西方に高田城址あり、口碑によれば高田氏の居城にて、堂名盛高これを減せりと云ふ。(伊佐須美神社) 國幣中社。祭神大毘古命・健甕河別命。俗に陸奥國二ノ宮と稱し、式内名神大社。例祭九月十五日。古來御田植祭は日本三田植祭の一として著名なり。(龍興寺) 天台宗。遺樹山と號す。嘉祥年間圓仁の開基に係り再興を惠雲とす。天文十五年上野寛永寺開山天海十一歳にして當寺に來り、佛華に就て藍染せり。寺寶中、紙本墨畫妙法蓮華經は國寶たり。

【高田村】群馬縣上野國北甘樂郡の北部。妙眞山より東に嶺く山地の一部を占め、北境・南境共に高度約二〇〇米にて村内に傾斜し、掘合を備川の支流東流す。川に沿ひて帯狀の低地あり田地・畑地をなす。農業行はれて米・蕎麦を産す。鐵道は川に沿ひて村を横斷し一ノ宮町及び妙眞市の西郊の丘陵金谷山は高田市のスキー場として賑ふ。高田は我國に於けるスキー發祥地(金谷山)として歴史的意義あるのみならず、現代も好スキー場として昔く世に知らる。即ち雪量の豊富にして而も各種の雪質の味はれること、地形の變化に富み且つ危険の虞なきこと、スキー場として整理せられ、眺望も銀盤の如き頭城平野を眼下にして、廣潤なること、加ふるにスキー製作加工にこの地の至便なること等がその主なる原因なり。尚ほ上水道は大正十三年の計畫に係り、舊城址附近の地下水を水源とし二箇所の掘井を設け、電動力に依りて市中に供給するものなり。工事は大正十三年四月着工、同十五年八月竣工したり。總工費七十二萬四千六百四十五圓を要したり。また瓦斯は大正七年高田瓦斯株式會社を買収市營とせるもの。當時供給戸數僅かに三百餘戸に過ぎず、尙ほ歐洲大戦後鐵材並びに石炭價格の騰貴のために頗る打撃を受け其經營困難に陥り、會社解散の危機に迫りしを以て、市は公益上の見地より七萬圓を投じてこれを買収することに決定し、其一切の事業を繼承經營することとなれり。現在供給戸數九九五、一日平均供給量八七五立方未なり。暮末の需者にして藩論二派に別れし際よくこれを勤王の議に統一せしめし倉石與太(贈正五位)及び終生水利事業に盡力せし塚田五郎右衛門(贈從五位)はともに此地の

町に通じバスの便あり。此地或は和名抄甘樂郡那非郷の内に屬せしものか。鎌倉大草紙の上野一揆の交名に高田越前守とあり。蓋し此地より出でしものならん。【高田】 武藏國(神奈川縣)の古地名。和名抄、横樹郡に高田郷あり、多加太と調す。いま那珂宮郡管内の新田村に當り、大字高田はその遺稱なるべし。【高田市】 新潟縣四市の一。縣の西南部。荒川の左岸に位し頸城平野の中心をなすのみならず、上越地方の中心都市たり。東は中頸城郡新造村・三郷村に、南は和田村に、西は金谷村に、北は春日村に夫々隣接す。面積七・九一平方軒、人口三一、二八四(昭和十年)。地は即ち平積層の頸城平野の西端を占むるを以て平坦にして、荒川東境を北流し、其の支流青田川・儀間川市内を北流し市の北境に於て荒川に合す。従つて市街はこの二川に跨りて形成され、四圍には水田・畑地ひろく開く。當市は杜の町、雪の都とも稱せられ冬季積雪多く市中の街路は雪の置場となり雁木と稱する庇の下を往來す。氣温は最高三三・八度、最低零下二〇度、平均気温は七・七度、降水量は二九四四・五托なり。本市は表日本と裏日本を横斷貫通せる信越線が、日本海近くを辿りて見る裏日本最初の都市にして交通・運輸上重要な地位を占め、將來は産業都市として其眞價を發揚すべき充分なる素質を有し、着々これが向上發達の道程に

人上す。【高田城】 市の東部にある舊城址。もと國ノ庄にありしを以て一ノ國城ともいふ。その他餘ヶ城・蟻城・高田城等の別名あり。初め上杉氏の領たりし時春日山上を城となしあたりしが、慶長三年豊勝陣會津に轉じ、のち堀秀政越前北ノ庄より移るに及び、幕府命じて山城を修めしため、日本海濱たる福島に築かれて松平忠輝入城するに及びて海濱を離れ、同十九年高田城を築きてこれに移る。忠輝は家康の大男たりしを以て、家康は恰もその子義直の名古屋城に於けるが如く重臣十三家に命じてその工を助けしむ。元和二年七月忠輝事を以て所領を没せられ、十月酒井家次上野高崎より移り、五年正月子忠輝信濃川中島に轉じ松平忠昌下總結城より移る。寛永元年忠昌北ノ庄に轉じ、同族松平光長北ノ庄より移る。然るに光長天和元年六月事により所領を没せられ、貞享二年稻葉正迪相模小田原より轉じ、同十四年正迪下總佐倉に移り、戸田忠貞同處より來る。寶永七年忠貞宇都宮に轉じ、松平定重伊勢桑名より來り、寛保元年十一月定重に至り陸奥白河に轉じ、同年陸奥城主榊原政永轉じ來り、これより歴世相傳へて明治維新に至る。(高田事件) 自由黨志士の一事。本市の一青年赤井景龍、明治十五年十一月天誅盟約書なる一書を草し政府顯腹、大官暗殺の計畫案を樹てあたりし

あり。産業中工業最も盛んにして其産額は年五百萬圓に及びその現住一戸當りは約九百三十圓なり。之に次ぐは農産・畜産・水産の順序を以てす。工産中その主なるものは菓子(約六十萬圓)・チープ類(約四十六萬圓)・生絲(約二十八萬圓)・絹織物(約十二萬圓)等なり。其他、農産は米、畜産は屠畜(豚・牛・馬)、水産は蒲鉾等を主とす。この他名産として笹餅・栗船等の節類、米菓(魚にしき・櫻餅等)スキー煎餅・海羊羹・シヤンペン(西洋茸)・パテン・毛拔・スキー人形・深雪人形・木彫品等あり。交通は信越本線市内を南北に走り高田驛(明治十九年設置)を置き、國道これに沿ふ。この外縣道・里道四通す。古くは關ノ庄、善提ヶ原と稱せられ、天正の頃より巴に村落を成し、慶長十九年松平忠輝(徳川家康の六男、石高七十五萬石)高田築城と共に城下町として急激に進展し北國屈指の都市を形成す。忠輝を世に越後少將といふ。元和二年忠輝國政不行の故を以て没收せられ、こゝに於て酒井左衛門尉家次將を以て來り鎮す。而も國內の郡邑は諸侯に分與せられ公料また之に交る。元和九年越前家松平光長が高田二十六萬石を賜ふ。光長叙爵して越後守となる。世に越後家といふ。天和元年子弟相争ひ臣隷不服の故を以て没收せらる。蓋し高田は藩政の名あるも實の副都と云ふべくなく、後

が、箕山縣高田町に開かれし北條自由黨員大會の際このこと發覺し、八木原繁地等當時の名士拘禁せらる。赤井は捕へられ石川島監獄に服役せしが、のち脱獄し途上人を斬り、静岡にて捕へられ、明治十八年七月處刑せらる。(神社) 岡島町に鎮座。祭神、禰原康政・禰原忠次。明治九年藩主禰原氏の祖康政を祀り、のち忠次を增祀す。(日枝神社) 寺町三丁目に鎮座。祭神大山作命・宇賀御魂命外三神。仁壽元年の創立に係り、高田城内の鎮座神として稻葉・戸田・松平・禰原氏等歴代藩主の崇敬篤かりし社。寛政九年正一位を授けらる。(笠原別院) 下寺町にあり。眞宗大谷派。笠原山本誓寺と稱す。弘法大師の創建。もと下總相馬郡布川にあり眞宗寺と稱せしが宗祖上人の常陸稻田に行化するや住持之れに歸し、改宗しこの現地に轉す。(當院寺) 中寺町にあり。眞宗大谷派。中戸山西光院と號す。覺信尼の息唯善の開基に係る。唯善、覺如と大谷本廟留守職を争ひて成らず、遂に延慶二年親覺の眞影並に遺骨を奉じて鎌倉に下り常盤の地に安置す。のち下總屬宿に堂宇を建立し阿彌陀本願寺と號し、阿彌陀堂・眞影堂の二字、四十八院を有し寺運隆盛たり。花園天皇勅額を賜ひ、幕府亦寺領數箇所を寄す。而して唯善の京都より供奉する眞影はのち本願寺にかへる。現に大谷派本願寺に藏する眞影の眞影はなり。四世喜樂

用されしもの。(性宗寺)寺町にあり。
徳宗佛光寺。和名御坊と稱し佛光寺
所たり。寺寶として親鸞上人自畫二十五
歳影像あり。(善導寺)中寺町にあり。
淨土宗。終南山と號す。文明五年當國淨
土宗の中興の師たる蓮海上人の開創に係
る巨刹。境内に小栗美作の墓あり。(天
崇寺)中寺町にあり。淨土宗。法久山と
號す。天正年中上杉家の創立に係り、開
山を源譽上人とす。境内に高松宮御初代
好仁親王紀子御方及びその生母天崇院
(將軍秀忠の女越後中將の生母にして高
田郷と稱す)の墓あり。

【高田村】新潟縣越後國刈羽郡の西部。
鶴川の中流に跨り、柏崎町の南に接す。
東部・西部は低き丘陵にして中央を鶴川
北流し田畑開く。農業を主産業とし米の
産多し。柏崎町へ鐵道を通じバスの便あり。
省線信越本線柏崎線へ約四軒。此地
古く或は和名抄、三島郡三島郷の内に屬
せしか。近世は附近諸村と共に上條谷と
稱せらる。(鶴川神社の大佛)指定天然
記念物。一棟、日通幹圓十一米、禰の巨
樹として有数のものなり。(黒龍城)大
字黒龍に其址あり。一に上條城といふ。
二の丸・三の丸の址を留むるも多くは廢
れ田圃となる。上杉氏の居城にして府中
上杉に對し世に上條上杉といふ。永正六
年三月長尾爲景、府中の上杉房能を討せ
したため、宇佐美定行は上條上杉の定實を
屋形とし爲景を討たんとせしが、大永元

年爲景と和し、定實の弟爲義を黒龍城主
とせしが、上杉登龍の時に至り、城遂に
廢す。

【高田町】岐阜縣美濃國美老郡の中部。
東は僅に大垣市に接し、西は美老村に隣
る。美老斷崖下に位し、西濃平野の西
縁部たり。北境には牧田川、天井川をな
して流れ、南部にもその支流や河跡あり
て卑濕地をなす。町は五米より十米の等
高線内にあり、東部は五米以下の低地た
り。西濃平野に共通の水害に見舞はる、
事度々にして水害預防組合たる輪中形成
せられ、東部は杭瀬川と牧田川の合流部
にあたり鳥江輪中と呼ばるる矩形の小輪
中にて、西部は大宇高田を含む多輪中
なり。低地には米・菜種を産し町は西南
美濃の地方的中心をなせり。交通には社
線美老電線が大字鳥江より西へ高田に至
り更に西南に走り、鳥江(大正四年設置)、
美濃高田(大正二年設置)の二驛を設く。
道路は美濃の中道が關ヶ原より南下し、
放射狀に分岐し交通上の要衝を占む。此
地は和名抄多郡物部郷の地にて、鳥江
は美濃諸家系譜に「應永二年二月十八日
丁未登氏土岐光賢をして、伯父頼貞の讀
狀に任せ、美濃國多郡内支吉田地頭
職を領せしむ」とありて、この支江は鳥
江の事なり。具原益軒の岐阜路の記には
唐本と記し、濃濃志略には鳥江石津庄、
南北三町許、東西一町許、治、美、居、
南百、日三百六十」と見ゆ。大字高田は

もと鳥田村と稱せしが、明治二十二年七
月高田町と改稱し、大字押越はもと美老
村の一部なりしが、同三十年四月高田町
に合し、同三十三年四月鳥江も合せり。
大字高田には高田城址あり、これ加藤左
馬助の陣城にて、のち土岐の一族高田藤
摩守住し今小字名に城前・城の深・浦の
門・橋等残り、橋橋には郷土居住せりと
傳ふ。大字押越は押越城ありし地。本町
はもと美老郡の郡役所ありし地にて、
いま警察署・牧田川改修事務所・大垣區
裁判所高田出張所等を置く。

【高田町】奈良縣大和國北葛城郡の東南
部。高市郡八木町の西方約三軒。面積三、
六二方軒。奈良盆地西南部の平地地を占
め東境には曾我川、中央には葛城川共に
北流し北方約八軒にして大和川に合す。
田畑よく拓け米を産し大和西風の産もあ
り又綿工業の中心をなす。西南部には
整然たる街衢發達し道路四通八達、南方
御所町、東方八木町、北方箸尾町、西北
方王寺町、西方金剛山をこえて古市町
方面へ連絡するもの等あり。省線櫻井線
西南部を走り高田驛(明治二十四年設置)
を置き、南方へ省線和歌山線分岐す。日
本書紀、武烈天皇の條に百濟の意多郎を
高田正上に葬るとあり、大和志によれば
葛下郡岡村村(今の北葛城郡西村)に當
るといふ。當時は陵西村の邊をも高田と
汎稱せしものか、のち十家當麻氏の所領
たり。江戸時代に至り當麻氏の領地たり

しが、のち幕領となり明治維新に及ぶ。
維新後は郡役所の所在地たり。明治二十
二年高田・山内の二村を合せ高田町と稱
し、同三十四年浮孔村の一部を分割して
本町に編入し、昭和二年土庫・松塚の二
村を合併し以て今日に至る。(専立寺)
大字高田にあり。眞宗本願寺派。如意山
と號す。慶長五年西本願寺十二世准如こ
れを開基し、弟子宗誓をして院主となし
近隣百餘箇寺を統轄せしむ。明治初年ま
て高田御坊と稱す。(不動院)大字高田
にあり。古義眞言宗高野末。本堂は室町
時代の建築に係り國寶たり。

【高田川】岡山縣旭川上流の別稱。名稱
は旭川沿岸の眞庭郡勝山町をもと高田と
いひしに因む。
【高田郡】廣島縣(安藝國)五市十六郡の
一。東は斐三郡に、南は賀茂・安佐・豊田の
三郡に西は山縣郡に界し、北は島根縣邑
智郡に隣す。高田約四百五十米の平原性の
山地よりなり處々に五百米以上の山岳あ
り。南は東北より西南の方向に走る數條
の山脈並走し其間に峽谷あり。南境に雲
巢山(九二二米)・安田山(七三五米)・高
鉢山(七〇六米)の諸山聳立し、西麓を西
南流する三徳川、東北流する可愛川支流
あり、可愛川は南部に發して北東流し東
北隅にて西北に曲折し、その流域は何れ
も肥沃な耕地を拓き、米・麥・蕎麥の栽
培盛に行はれ、又養蠶も盛にて生絲の産
あり。山地は良好な牧場をなし良牛を産

す。産表・花唐・香得眞田等の工産あり。
東北隅三次町と西南方廣島市をつなぐ省
線鐵道は東南の谷を通り、鐵道に平行
交錯して縣道通じバスの便あり。又可愛
川上流に沿ふ縣道あり三次町と可部町を
つなぐ。延喜式に郡名見え、和名抄は太
加太と訓じ三田・豊島・風速・麻原・川
立・船木・栗屋の七郷を數く。中世、和
名抄の高宮郡を併せて郡城郭に併す。爾
後大變化なく以て今日に至る。

【高田村】福岡縣筑後國三池郡の北部。
筑紫平野の南部に位し、矢部川河口の左
岸。東部に二〇〇米程度の山地ある外は
平坦なる沖積低地廣く開け、矢部川は西
境を西南流し有明海に注ぐ。矢部川流域
の地は一瞬水田にして筑後米の産多し。
縣道は西部より北方久留米市、西北方佐
賀市、南方三池町方面へ走り各々バスの
便あり。省線鹿兒島本線は村の中部を南
北に貫きて渡瀬驛(明治二十四年設置)あ
り。交通至便なり。大字田尻は田尻氏發
祥の地たり。北肥戦志に田尻三郎種重あ
り。田尻氏初め大友氏に屬せしが、のち
龍造寺氏に歸し其邑を失ふ。昭和六年岩
田村・二川村・江浦村を廢しその區域を
以て本村を建つ。(光滿寺)眞宗大谷
派。本郡屈指の巨刹。大永三年の草創に
して開山を慶願上人とす。本堂阿彌陀如
來を安す。慈廣院と稱す支院一字あり。
【高田炭礦】福岡縣糟屋郡桂葉町及び勢
門・大川・多々良・久原・山田の五箇村

タカタキ

【高瀬村】千葉縣上總國市
原郡の南部。妻老川の上流に跨る。北は
牛久町東は鶴舞町西は君津郡と隣す。全
村丘陵地にて西境は約一八〇米、東境は
約一五〇米にて何れも村内に傾斜し掘合
を妻老川北流す。川に沿ひて狭き低地あ
りて水田をなす。米を主産し他に蕎麥・麥
を産し、養蠶も行はる。川沿ひに縣道あり。
社線小橋鐵道またこれに沿ひ、村内
北部に上總久保驛(大正八年設置)、南部
には高瀬驛(大正十四年設置)あり。この
地は和名抄、海上郡大野郷の地なるべく
近世は高瀬郷・幸田郷に屬す。延喜式の
上總國大野牧とあるは此邊なるべし。大
字久保は維新前に廣本山本氏の采邑にし
て、房總志料の著者鶴岡安宅の生地たり。
大字山口の音信山は一に三重山とも稱し
歌枕の名所たり。夫木二〇〇時鳥尋ね來

タカタテ

【高館村】宮城縣陸前國名
取郡の略々中部。仙臺市の南に隣り、西
は柴田郡に接す。面積二八・七七方軒。
奥羽山脈の東斜面に屬し、西部に大森山
(二三六米)あり、東方に傾斜し、東部は
仙臺平野の一部をなす。名取川は北境を
東流し、沿岸に耕地拓く。米・麥・蕎麥を
産す。道路は南部を東西に通じ、西方柴
田郡村田町に、東方増田町に至る。東北
本線村田驛及び中驛へは各約三・五軒
あり。この地は和名抄、名取郡井上郷の
地なるべく、高橋城(一に羽黒城ともい
ふ)は觀閣志によれば藤原秀衡の古壘な
りと。伊達世次考によれば天文年中、福
田支番この城主たりしと。大字熊野堂に
名取熊野新宮あり。大字川上にあるを本
宮と稱し、大字吉田にあるを那智山に擬

タカタマ

【高橋村】山形縣羽前國東
村山郡の中部。山形市の北約四軒、天童
町の西南に隣接す。山形盆地の中央に位
し、南境を西流する須川の一支出川の扇
狀地を占む。全面積のすべては耕地なら
ざる所なき純農村にして縣下有数の富裕
村たり。東部の扇頂に近き所は桑園、西
部大半は水田廣く大體その境を國道南北
に走る。産物は米(約三三萬圓)・蕎麥(約一
三萬圓)を主とし、外に果菜類(約一萬圓)
草履表(約八千圓)あり。省線奥羽本線は
東部を南北に通じ、これに沿うて國道羽
州街道走り山形市・天童町にバスを通す。
此地は和名抄、最上郡芳賀郷の内にして、
主邑なる高橋は村山盆地中にも規模の
大なる方形の城下町なり。高橋館は往古

山形城主新波義頼の三男義直居住の跡なり、文明七年天童親基天童横山の城を守護の爲築きし所にて、のち天正・慶長の頃には齋藤伊豆守・宮崎内藤系の居住せし所なり。城址の西北に在る顯正壇は蓮如上人の高弟顯正法師が文明年中、師に従ひて遷化の途次この地に草庵を結びて農民を化益せし所なり。往古廣大なりしも今は廢れその一部を留むるのみ。顯正法師は後この地に顯行寺、山形に專稱寺を創建せり。大字清池に在る惣社八幡神社は源義家、及び鎌倉権五郎景政の靈を祀る社にして又清池八幡とも稱す。社の近傍に四箇の古塚あり。中の一箇を明治十二年國道修繕の際に發掘したるに、中より古代の甲冑・劍及び頭蓋骨・齒骨の類・瓦器數十箇を發掘せり。高橋には市神ありて舊盆に市が立ち、殊に清池の顯正法師の納骨堂の祭には大なる盆市開かる。

タカチ 高千村

新潟縣佐渡國佐渡郡の北海岸。外海府の一部。東南に山脈あり。面積八三・四九方軒。東南に大佐渡山脈を負ひ、南隅に主峯金山(七一七三米)聳え、東北部に櫻特山(七九〇米)・道入山(九三二米)・夏雪山(七九〇米)等の群山あり、東境の主脈より出する山脈は何れも北西に延び山勢險しく、海岸に迫り、見るべき平地なし。数條の河川何れも北西に流行して海に入り流谷をなす。海岸に複雑なる岩石海岸にして、

奇岩奇松、怒濤巖に激する壯觀あり。聚落は概れ海岸にありて漁業を生業とする外、米・麥・甘藷等を栽培し、傾斜地の草原はそのままた然牧場となり牛の放牧盛なり、また入川上流高千嶺山は金の採掘地、また佐渡嶺山の嶺區の一部をなし、嶺山用馬車軌道沿ひに通ず。海岸に沿ふ一條の鐵道は南方相川町を始め、佐渡海岸の諸村を連絡し、國中平野にも通ずる主要路。また二條の山道により、兩津海岸の兩津港にも通ず。北佐渡殿の墓下に石花精靈といへる者ありて外海府の領主たりと傳ふ、或は大石石花に住せしものか。本村は指定名勝佐渡海岸の一部分を占む。櫻特山は金山北山及び金山(加茂村)と共に三山と稱せられ、この三山に登るを「三山かけ」と云ひ昔の修験道場たり。山中飛瀑多く一瀑毎に佛像を安置すといひ、其水を梵字水と稱す。また山中に清水寺あり弘法大師の開山と傳ふ。※海府海岸(高千嶺山) 本邦重要嶺山の一にて鐵道は金山・嶺。附近の地質は大體礫石山岩なるも時に凝灰岩・凝灰頁岩・第四紀層等も共在し鐵床は製煉充塲にて立島・入川を主要鐵脈とす。嶺區は本村内に二百八十萬餘坪を占め、現在三菱鐵業會社の經營に係り昭和十年六月末現在にて使用鐵床二百あり、同年金銀數十萬餘兩を産出す。鐵石は佐渡嶺山及び直島製鐵所に送られて合併製鐵をなす。本嶺山は古く弘化三年頃入川嶺山

タカチ 高千村

の名を以て創始せらるる傳ふ。なほ本村には眞崎嶺山と稱する金山あり、嶺區約四十一萬坪なれども現在重視せられず(三菱鐵業會社所有)。

タカチ 高近村

愛媛縣伊豫國北宇和郡の西海岸。若松町の北隣。宇和山地の西端海に沈む所にあり。東及び北は高約約三百米餘の山嶺連立して聳え西南に向つて傾斜し、南嶺若松町との間には岩松川西流して河口に沖積地を有す。西南部には低地所々に開けて、耕地を拓き米・麥・藁等の産あり。西南は海に面し海岸は砂濱地をなす。又若松町より出で北上する縣道は中央低地を縱走し北嶺山地の松尾峠を経て宇和島市に達し、海岸沿ひに岩松町に至る縣道を分つ。縣道にはバスの便あり。西國寺氏の此地を治むる時、十五ヶ城を築き一城一將を配し守護せしめしより本村内には城址多く、いま六ヶ城址あり。村名は高田・近家の二村を合して本村を建つる際各々その一字を取りて名付けしもの。

タカチ 高千帆町

山口縣長門國厚狭郡の南部。厚狭町の東南に隣り、南は周防灘に臨む。北中は一般に丘陵性臺地を成すも、南半は地味肥沃なる平野間く。丘陵地には大小の池ありて灌漑に便し耕地よく拓けて米産頗る多く、海苔の養殖行はる、また工業感心にして陶磁器の産出も多く、煉瓦・瓦等また少なからず。由緒本村内を西北より東南に走りて小

タカチ 高千嶺

野田(明治三十三年設置)を置き、これより社線小野田鐵道を分岐す。縣道は小野田町及び船木町へ通じて、バスの便あり。また海運の便がらけて貨物の集散自由なり。此地は横新前は毛利家の所領にして東高泊に庄屋を置く。明治二十二年町村制施行の際、東高泊・千崎・有帆・西高泊・高畑の部落を合併して村を建つ。村名は五大字名の各一字を採りて命名せるもの。昭和十三年四月町制を布く。(高泊神社) 大字西高泊に鎮座。縣社。祭神、大船津見命・市杵島姫命・稻倉魂命。舊藩主毛利家の建立にて、もと二柱神社と稱せり。寛文八年に至りて安藝縣島分靈を合祀す。例祭、十月十一日。

タカチ 高千嶺

あり、神日本記には、山嶺の黃なり」と稱し、肥後の阿蘇亦一嶺なるべく、阿蘇の地にも亦古く高千嶺の稱はありしなり。霧島山は源平盛衰記に「日本最初の嶺」とあれども、其の天孫降臨の靈蹟なることを謂はず。却つて山頂なる天孫降臨の事を以て、太古伊弉諾伊弉册の二神天の浮輪に立たして、天瓊矛を以て清海を掃り給ひし時に、其の矛の垂滴凝りて瓊敷島となれりといふ古傳説に附會し、所謂天孫降臨のものは、二神の天瓊矛を遙かに衝き立てたるものなりとの説さへあるなり。然れども、所謂靈蹟なるものは、其の實決して神を遙に衝き立てたるものにあらず。今存する所のものは實は銅製の鋒の柄にして、もとは其の上に三枚の鋒先の並び立てるものなりしが、何時の頃にか折り取られて其の柄今も明かに見るべく、而して其鋒先は都城安永村明観寺寶藏現の神鏡となれりと文政十一年記述の天孫降臨と題する書に見えたり。然らば是は恐らく修驗の輩が靈山として此の山頂に樹てたる一種の銅製三叉鋒なりしなるべく、たまたま此の峯が日本最初の峯なりといふ事より、天瓊矛の一名を神皇正統記に天の瓊矛とも、又天の瓊矛ともいふとあるに思ひ合せて、其の鋒先の折損して失はれし現狀を遙に衝き立てたるものと誤認し、遂にかる説を生ぜしものなるべし。而も其の説は此の山が日本最初の峯

の便あれど山頂の町にて懸崖多く散して交通不便なり。古くは和名抄、白杵郡智保郷の地とす。此地は天孫降臨の靈蹟なりとの説あり。それに就ては高千嶺峯の條に詳述せり。中世は高知尾庄と稱し阿蘇文書、文中三年の條に、日向國高知尾庄上村を野栗三所また正平四年の條に、向州高知尾庄一跡者、上村を野栗三所、等と見ゆ。中世、豊後緒方惟基の長子政夫大字三田井に居して三田井氏を稱しまた高千嶺太郎と稱す。其子孫高千嶺を領し嶺の土持氏と並び立ち日向の豪族たり。永祿年中の領主を三田井惟政といひ、伊東義前が敵を退ける十三族の一なり。天正十五年高橋種統を頼に封ぜし時、高千嶺迄を合せ封ぜしが、時の高千嶺領主三田井親武(越前守)はこれを怒りて合戦數度に及びしが、親武終に戦死して三田井氏滅亡す。大正九年町制を布く。町内には名勝史蹟頗る多し。即ち天孫御宮居の址なりと稱する高天原、天孫以下數神を祀れる總稱神社、全山賢木に蔽はる、天香久山、神代以来飲料水となれる清泉天眞名井、四皇子御誕生地と稱する四皇子峯等の史蹟、及び祈の瀧瀧乳洞、五ヶ瀬川峽谷(高千嶺峯)等の名勝あり。※五ヶ瀬川峽谷。(祈の瀧瀧乳洞) 指定天然記念物。大字向山にあり。祈の瀧丘陵をなせる石灰岩中にありて大小八箇を算し、小孔によりて互に相通せるものゝ如し。最も大なるは最下位なる第八號窟にして

入口に近く進めば、その水は洞日の下方十數米の地點より銀鏡水と名付けける泉となりて湧出す。洞内には石鐘乳・石筍・石柱等多く、嘗て洞底に堆積したる礫層の上に石筍・石柱を載せたるもまた下部を水蝕され、恰も棚を架けたる如く殘存せるものあり。これ地下水の流路の變遷を示せるものとして、學術上貴重なる資料とす。(御鑿井) 高千嶺神社より約六五〇米にあり。斷崖天を穿つ所に數十の飛泉懸る。これ御鑿井の奇蹟なり。更に五ヶ瀬川の流に沿ひて、セツヶ池・段成三田井に鎮座。縣社。(總稱神社) 大字三田井に鎮座。縣社。祭神、天津日子香通々杵命外四神。皇孫通々杵命、日向の高千嶺の總稱の峯に降臨あらせられし靈蹟にして著名なり。本社は阿蘇に高知保皇神とす。仁明天皇承和十年從五位下に、清和天皇天安二年從四位下に叙せらる。古來高千嶺の南方なる霧島岳に鎮座せる霧島神社と共に尊を奉祀せる神社として重んぜらる。

【高千嶺峯】 天孫降臨の靈地。詳しくは筑紫日向の高千嶺の總稱の峯、或は日向の靈の高千嶺の峯、日向の總稱の高千嶺の峯、日向の靈の高千嶺の峯の二上の峯、日向の靈の高千嶺の峯の二上の峯、日向の靈の高千嶺の峯の二上の峯とあり。天孫瓊杵尊高天原より此の峯に降臨し給ひ、國を覽めて吾國の繁榮時に至りまして、そこに留り給ふと傳へらる。高千嶺峯の所在に就いては古來種々

たる事の真書とこそなれ、天孫降臨の高千穂集たること何等の證據を與ふるものにあらず、却つて其の反證とも見るべきものたるべきなり。又宇佐託宣集には、神武天皇御年十四歳の時、帝釋宮に昇りて印鑑を受執り、日州幸國城、蘇於峯に還り來る、蘇於峯は霧島山の別名なり」とありて、神武天皇の天より降り給へる所なりと云ふも、是れ亦天孫降臨の靈蹟なりとの事に就いては、何等言及する所なきなり。尙ほ延喜式内に霧島神社あり、而も別に高智保皇神あり。天安二年霧島神社從四位下高智保神に從四位上を授け奉ると見ゆ。是れ亦以て霧島の高千穂ならざる反證となすに足らん。要するに所謂霧島山高千穂説は比較的新しく唱へ出されたるものにして、其の根據頗る薄弱なりと謂はざるべからず。然るに一方白杵郡高千穂説は、既に奈良朝の古風土記に見え、其の由來する所頗る古し。和名抄に白杵郡高智保あり、釋日本紀所引日向風土記の逸文に之を解して曰く、天孫降臨の際天降雲にして物色分ち難し。こゝに七蜘蛛あり奏して曰く、稻千穂を抜きて觀となし、四方に投げ散らば必ず開明を得んと。天孫之に従ひ、千穂の稻を抜きて觀となして投げ散らせば、天即ち開け曉れて、日月照り光き。因りて高千穂の二上峯と曰ふ。後人改めて智神と號すと。其の謂ふ所固より一の地名傳説として、よし

や史實として信すべからずとするも、此の地が古く天孫降臨の高千穂の地として語られたりし事に於ては疑を容れざるべきなり。其の之を「智神」と書けるは、地名を二字に定むるの必要に由るものにして、智神蓋し高千穂の略稱なり。而も所謂高千穂の城はひとり此の白杵郡内に限れるにあらず。西隣肥後阿蘇郡にも亦同じ名の細保郷あり。蓋しも白杵・阿蘇二郡に涉りて高千穂の稱ありて、後に國界を定むるに當り兩國に分割せられしものなるべし。阿蘇郡草郡村に草郡吉見神社あり、古く之を高千穂大明神と稱す。又同郡南郷谷より上益城郡に涉りて高千穂野の名を存す。以て古への所謂高千穂の地が、日向より肥後に涉れるものなりし事を知るべし。更に豊後直入郡にも古く高智尾庄の名あり。又宇佐託宣集には、豊後・日向・肥後三國の中に廣太なる野あり、云々、伴の地等を野郷・北野・高智保と號すとあり。又日向西白杵郡と豊後直入郡との境上なる祖母山を豊後にてはもと嶺が嶽と云ひ、こゝに嶺が嶽明神あり、平家物語に之を高智尾明神とす。果して然らば、所謂高千穂とは、もと日向・肥後・豊後の三國に涉れる地域の汎稱なりものなるべし。而して後の天孫降臨地を云ふも、天に近き高山に之を求めて或は高千穂と云ひ、或は肥後又或は日向と云ひ、前者を祖母山に、後者を九重山に擬せしものなるべ

し。祖母山の西麓田原村大字五箇所に高利山神社あり。是れ祖母山が古くソホリ山と呼ばれしことを示せるもの。ソホリ山とソホリの略稱なり。而して之に當つるに「祖母」の二字を以てせるより轉じて嶺が嶽となり、其の嶺が嶽明神を古く高智尾明神と稱したる事は、此の山が嘗て所謂高千穂の添峯として擬定せられたりし事を語るものなりと謂はざるべからず。次に其の北方豊後・肥後の境上に聳ゆる九重山の名は、其の實クソフにして、徳嶋または徳日(或は徳生)の稱を留むるものなるべく、是れまた高千穂地域の一隅にありて、嘗ては高千穂の總嶺峯、また高千穂の總目峯として擬定せられたりしものならんか。斯くて其の傳説地が兩所の高山に擬定せらるゝに及んで、遂に高千穂の二上峯の名も起るに至りしものなるべし。要するに天孫降臨の高千穂の古傳説は、日向・肥後・豊後の三國に涉りて、必ずしも狭く今の日向西白杵郡高千穂町とのみ限るべからず。而も高千穂町にはたゞ天孫降臨の神蹟を言ふに止らず、更に高天原に於ける數多の地名より、降つては神武天皇の降臨地までをこゝに網羅す。却つて心證を損するものなきにあらざり。因に云。朝鮮にて今も京城をソワルといふ。都の義にして、古へ新羅の都城なる慶州を徐羅伐又徐伐と云ひ、百濟の都城泗沘を所夫里と云へるも同義なり。而して我が高千穂の名蓋し是

も同語なるべく、其の實神都を意味するものか。また加羅國王の祖先は天より龜背に降るとあり。龜背は即ちタツにし、タツアルの名は龜背に當るもの、如し。果して然らば添峯或は總嶺峯の名は、嶺土に於ても亦古く語られたりしものなるべし。【高千穂峯】 ↓五ヶ瀬川 【高千穂峯】 ↓大和田町(千葉縣) 【高津馬牧】 ↓大和田町(千葉縣) 【高津】 神奈川縣橋本町にありし町。昭和十二年川崎市に編入さる。 【高津】 越後國(新潟縣)の古地名。和名抄頸城郡の條に高津郷ありて多加郡と訓す。居多社應永の文書に頸城郡高津郷の内宮川の新保と見え、また同永享十一年文書に高津郷の内飯田と見え。今の中頸城郡高土村・津有村等の地に當るもの、如し。 【高津】 ↓大阪市(一〇三四頁) 【高津川】 高角川ともいふ。鳥根縣の西南部を流る川。中國山脈中の小五郎山の西南麓に發し上流を吉賀川といひ、北流して鹿足・美濃の二郡を灌溉し高津町を過ぎ日本海に注ぐ。流域約一〇〇軒。 【高津町】 鳥根縣石見國美濃郡の北部海岸。日本海に面し、東方吉賀町を隔て、釜田町と對す。高津川下流平野上に位置し、東南隅及び西端に小山地存するも沃野に富む。西南より東北に貫流する高津川の川口は吉賀町に出づるも、村内流域

低地には養魚發達す。米・酒・醬油・蠶表・蠶・鯛・鱈・鰻魚を産す。國道山陰道は高津川に沿つて走りバスの便あり。省線山口線また並行に通じ、近海は發動機船の便を有す。この地は縣社本神社の所在地として著る。人跡稀薄の地と傳ふ鴨山は神社の境内高津山なりと云ひ、その麓藤原氏の作れる歌「今日今日と香か待つ君は石川の具に交りて在りといはすやも」(萬葉・二)の石川は高津川なりと云はる。また指定天然記念物高津運理の松・吹上松原等著名なり。町は大正十一年町制を布けるもの。なほ町の西部に位する鶴龍湖は砂丘に圍まれたる潟湖にして周圍約四野、その水頗る清潔なり。湖は中央に一堤を築き大鶴龍湖・小鶴龍湖の二部に分たれ、噴葉を設け堤防を築きてその水を大字高津の水田に導き灌溉に便せり。この工事は寶永の昔、庄官唯心居士(姓名不詳)といへる者、この地の用水に乏しきを慨き、津和野侯に請ひ、その命を奉じて開墾せし所なりといひ、里人、庵を建てて唯心寺と稱せしが、今は荒廢して僅にその遺徳碑を傳ふるのみ。(妙本神社) 大字高津に鎮座。縣社。祭神、柿本人麿。創建年代を詳かにせざるも、天和元年國主龜井茲親現地に移轉造營せしものといふ。人麿は千古の歌聖にして、また石見産紙の祖神として國內の景仰を蒙む。歴朝の崇敬亦厚く、明治天皇は萬葉集古義一部三巻を下賜あ

タカツ—タカツ

らせられ、大正天皇は幣帛料金百圓並に明治天皇御集一部を下賜あらせらる。將軍家及び國主に於てもその崇敬渾く、社殿の造營等開墾する所なかりき。(高津運理の松) 指定天然記念物。松時八幡宮境内にあり。海邊の砂丘に立てる一株の黒松の枝が地上約四米の高きに於て他株の黒松の幹に殆んど水平に合着したるものにして完全なる連理を遂げたる點、學術上有益なるものなり。 【高津】 愛媛縣新居郡にありし村。昭和十二年金子村と共に新居市に入る。 【タカツカ】 高塚 靜岡縣濱名郡可美村の大字。東海道本線の一驛(昭和四年設置)。 【タカツカサ】 鷹司小路 平安京に於ける横の小路の一。幅員四丈。土御門大路と近衛大路との間にあり。大内裡によりて二分さる。今の京都市上京區の下長者町通は凡そ鷹司小路の中に當る。五攝家の鷹司邸は此小路にありき。 【タカツキ】 高月 滋賀縣伊香郡南宮村の大字。省線北陸本線の高月驛(明治十五年設置)を發く。 【高月村】 岡山縣備前國赤磐郡の西南部に旭川の左岸、岡山市の東北方にあり。中央部に高さ三十四百米の山脈南北に連互して東西に傾斜し西は旭川流域に至りて僅少の沖積平地を開き、東は緩斜して東部に稍々廣き平野を有し、東境を細波南

下して水無川をなす。この流域は田畑よく開けて農業極めて盛にして米・麥・蕎麥を産し楠・樟樹その他果樹の栽培亦常に盛なり。又酒類の産あり。山地よりは林産物を出だす。中央を東北より西南に縣道通りて牧石村玉柏驛をへて岡山市に至りまた東南方に縣道出で瀬戸驛に至り、何れもバスの便あり。古くより宿驛として著はれ、延喜式に高月驛馬二十疋あり、いま大字に馬屋の名を存す。なほ馬屋には備前國分寺社あり。和名抄に赤坂郡高月郷と見え、中世は高月莊に作る。近世は東高月・西高月の二村に分れしが、明治三十五年東高月は外二村と合し高陽村となり、大正十五年には西高月は高月村と改稱し以て今日に至る。(南宮山古墳) 指定史蹟。大字藤崎宇兩宮にあり。雄大なる前方後圓墳にして南西に環状及びその外側を廻る土壘を遺存す。長軸の長さ約二〇〇米、中央くびれ部に遺出しを有す。尙ほこの北方に茶臼山、東方に岡山・森山の諸墳あり。(牟佐大塚古墳) 指定史蹟。大字牟佐にあり。丘陵の麓に築かれし圓墳にして、石槨封土の中央より北に偏りて存在し、南方に口を開き羨道比較的長く、玄室内部に剣技の家形石棺安置せらる。(高藏神社) 大字牟佐に鎮座。祭神、天香山命・天火明命。例祭、十月二十一日・二十二日。(備前國分寺址) 大字馬屋にあり。宇樂師田に金堂址の礎石存し、附近に古瓦多く地積せ

る場所あり。岡尾寺址は縣道を隔て、備前の穂特仁王堂にありて礎石及び遺瓦を今に存す。 【タカツキ】 高槻町 大阪府藤井郡三島郡の東部。大阪平野北部に位し淀川右岸に沿ふ。北部は低き山地起伏し北境にギン(山六七九米)・釋迦嶽あり。南半は大阪平野北部の淀川沖積低地の一部を占めて地形平坦、北端山地の間を南流する東部の楯尾川、西端の芥川等數條の水を集めて淀川に南流し沿ひ西南へ向ふ。北方大部分は森林地帯にして大部分赤松繁茂し松茸の産地として名高く其季節には都會より採取のため遊覽客多く、爲めに汽車・電車は臨時發着をなすを常とせり。春季は攝津農場に咲きみづる桃花を初め芥川堤其他至る處に爛漫として咲き競ふ櫻花のため日夜遊覽客の往來絶るが如し。南方一帯は耕地にして播津米の産多く麥もあり。牛乳・鶏卵の畜産もあり、又工業よく發達し絹織紡織・電池附屬品・蓄電池・乾電池・寒天・工業用藥品・木製品等の産多く、本町は京都・大阪兩大都市の中間に化し各種の産業・經濟は殆ど兩都市と連繫を保ち將來兩市の中間田園都市として發展せん。西國街道山麓下を西に走り一道は殿山町の北を通ずる京街道に連絡し西南に向ふものは富田町に出づ。省線東海道本線南都を西南へ走り、高槻驛(明治九年設置)あり。其南に社線新大阪電車通す。町内に京都

帝國大學化學研究所・同農場・大阪高等醫學專門學校・工兵第四大隊等あり。本町は明治三十一年町制を施行、昭和六年高槻町・大冠村・清水村・芥川町・勢手村を廢してその地域を以て新に高槻町を置き、昭和九年如是村を合併して以て今日に至る。高槻は和名抄、鳥上郡濃見郷の地なり。古くは高月に作る。高槻城は近藤忠範の築くところ、戦國の時、高山右近これに居る。大阪夏の陣、東軍の石川忠總これを守る。徳川氏の時、松平家信・岡部宣勝・松平康信の諸氏を経て慶安二年永井直高の治所となり三萬六千石を領し子孫相繼ぎて明治維新に至る。芥川は古くは芥河とも書く。この地は京都より山崎を経て中国に赴く街道に當り、高槻町の西北部を控め芥川に治ふ。建武三年五月細川定頼、足利球氏に應じ西國・中国の兵を率ゐて播磨に入り更に進みて攝津に至る。赤松範資京師より逃げ來りて此地に會し共に京師に向ふ。新田義貞の軍部を能はず、大波を捨てて退く。正平年中、芥川氏ありて官軍に屬す。永正年間三好長光は此地に赤芥川氏を稱し芥川城に居る。天文年中三好長慶の者に歸す。永祿元年、長慶は細川晴元を此地に幽す。同六年長慶の子義興(初め義長)此地に據す。同十一年織田信長攝津に入り三好長義を芥川城に攻めて破る。のち和田惟政の居城たりしも、天正元年信長、粟木村首をして攻めしめ村重の將中川清

秀、惟政を斬る。勢手は岩手にも作り、もと岩手の森あり、和歌の名所なり。古く今、三三三にしも秋をならせぬ津の國のいはての森の我身ともかな。馬内侍、大宇安満はもと勢手村の大字にて、三角無款式石鐵及び石庵丁を出土せり。古部も同じく、もと勢手村の大字なり。この地曾つて平安朝の岡野歌人伊勢の隱棲せし古蹟と傳へ、伊勢寺を存す。また古曾入道(能因法師)幽棲の地と稱せられ、その開闢に成るといふ陶器、古曾部、を産す。(神原神社)大字東部に鎮座。神社。祭神、日命・麻呂宿禰。尤若天皇御宇に服部連の創建に係ると云ふ。此地は服部連の住地にして、祭神はその祖神なり。式内社。例祭、五月八日。「野身神社」大字上田部に鎮座。神社。祭神、野見宿禰・武日原命外一神。式内社。當地は野見宿禰の墳墓の所として知らる。例祭、二月二十五日。「伊勢寺」大字古曾部にあり。曹洞宗。王朝女流歌人伊勢女(藤原良歌女)の隱棲の舊址と傳へ草庵ありしが、その後改めて寺刹となし伊勢寺と號す。慶安年中、高槻城主永井直信古蹟を修補して碑を建立し、林羅山の撰文を刻す。尙ほ本寺の北山に能因法師の墳墓と傳ふるもの存す。(金龜寺)大字成合にあり。天台宗。磐手山と號し、延暦九年參詣阿闍世尊の草創に係り初め安福寺と稱せしが、金龜池より出づる瑞祥ありしを以て現寺號に改む。天正

中兵火に罹りしも、慶長中豊臣秀吉大阪城東門の鎮とし講堂を造營せしむ。元祿中天台宗と成る。又坊内に繁雲塔ありて秀吉の分骨を納む。(神原山寺)舊清水村原にあり。天台宗。根本山寶塔院と號す。文武天皇御宇役小角の開創に係るといふ。寶龜五年開成皇子彌勒寺より入山し給ひて中興の祖となる。備來歷朝の崇信厚く、豊臣氏・徳川氏等亦崇敬を寄せ寺領若干を附す。寺寶中相本青色佛涅槃圖一幅・木造阿彌陀如來坐像一軀・木造聖觀音立像二軀は前二者は鎌倉末期の作、後二者は藤原末期の作にて何れも國寶たり。(本山寺)舊清水村原にあり。天台宗。北山靈雲院と號す。文武天皇御宇役小角の開創と傳ふ。天正中兵火に燒盡し、慶長年中に五りて豊臣秀頼の再興あり、元祿中徳川綱吉生母桂昌院の修補ありて今日に及ぶ。本尊毘沙門天立像は開闢に後補に係るも、頭部は藤原時代の作、寺寶の木造聖觀音立像も藤原時代の作にて兩者とも國寶なり。(年足神社)石川年足(慈惠)國寶。舊清水村原上の年足神社に所藏せられ、銅製鎮金、長さ九寸八分餘、幅三寸四分あり、表面に左の銘文あり。「武内宿禰命子宗我石川宿禰十世孫從三位行左大臣石川石足朝臣長子御史大夫正三位兼行神祇伯年足朝臣常平成宮御宇。天皇之世天平安寶字六年歲次壬寅九月丙子朔乙巳奉秋七十有五靈于京宅以十二月乙巳御子申御子孫津國島上郡白髮鄉

酒香山靈應也。信形百代冠蓋千夜露。靈松約谷樹鳴呼哀哉。尙ほ葛誌は文政三年の出土にて、葛誌の下に木製箱形銅骨器あり、その内部に火葬骨を収めし朱塗の納骨器存せしといふ。(攝津郡高槻)隣の北約四軒、芥川の淡谷凡二軒間の景勝をいひ、雄瀨・白瀨・綠瀨・池川の瀨・鳥帽子岩・八巻岩等あり。(化學研究所)大字古曾部にあり。京都帝國大學の附屬にして、昭和五年五月開所式施行、化學に關する特殊事項の學理及び應用の研究を掌する所にて、約十箇の研究室を設け、講義室及び學術報告を出版し、數多の特許權を得。

タカツ

村の現在の場所に改定せらる。タカツ又、高角山、石見國の山名。萬葉・二石見のや高角山の木のまより我が振る袖を妹見つらむか、入麻呂と見ゆ。その位置、美濃郡の高津町の小丘、また那賀郡野津町の小丘とし、何れとも定め難し。

タカツノ

高角山、高見山、高寺村、福島縣岩代國河沼郡の略中部。面積五・七一方軒。東北境に高角山(四〇二米)あり、西方に傾斜し、西境に只見川北流す。沿岸は峡谷をなし耕地少し。藪・葉煙草等を産す。道路は南部を略東西に通するもの、これより分岐して中央部を北に向ふものあり前者は東南方省線會津線の塔寺驛、西方野澤町に至る。後者は北方省線磐梯野澤町に至る。村内に高寺地あり、新編會津風土記によれば、高寺は欽明天皇元年の草創にして、その後、堂宇子院次第に繁榮し、三十餘に及びしが、寶龜六年兵火に罹り燒亡し、大同三年、田村將軍がその遺址に再修して惠隆寺と稱せしが、今なし。高寺の村名蓋しこれに因りしもの。此寺より移りしといふ古佛講處にあり。いま片門村・東松村と共に組合町村をなし本村に役場を置く。

タカト

高戸村、福本縣肥後國天草郡天草上島の東南岸。北は高戸村に接し、西は大冠村に隣接し、東及び西は八代海に面して東南部僅か海水を隔てて種島に對

タカツ——タカト

す。面積六・二五方軒。西境に能ヶ岳(四七〇米)ありて東方に傾斜し沿岸僅かに低地あり。東南部に和田ノ鼻突出し其南に鶴島浮び、西南隅には松ヶ鼻の突出あり。海岸は水産盛なり。村道海岸に沿ひて通じバスの便あり東落之に沿ひて點在す。八代海を隔てて東北方八代町及南方水俣村へ便船あり。いま鶴島村と組合村をなし本村に役場を置く。(龍ヶ岳)指定名跡。天草上島の南端に聳立せる標高四六九米の一高峯にして下島の六郎次山と共に天草に於ける一大展望臺の一と稱せらる。山は堅硬にして裂理に乏しき第三紀の礫岩砂岩より成り山上に互巖突出して樹木の展望を遮るものなし。脚下の海面には東に福島の島、南に御所の浦の二島群相點綴して近景をなし、前方天草上下兩島の峯巒及び獅子島・長島等の島嶼相連りて中景をなし以て瀬戸内海式風景を展開するのみならず、不知火海の彼方には肥前隆の連山起伏重疊して遠景をなせるあり、霧島・阿蘇・雲仙等の名峯亦悉く眸裡に入る、山海展望の佳觀蓋し罕に觀る所なり。

タカト

高遠町、長野縣信濃國上伊那郡の東部。伊那町の東方約九軒、三峰川と藤澤川との合流點に位置し、南は三峰川を隔てて河南村に、西方は新持渡によりて美濃村に隣る。面積一・九五方軒。北部・東部に山地を負ひ三峰川・藤澤川の溪谷地域を背景としてその

谷日に發達せる聚落にして、往時は内藤氏の城下町として榮えしも、其の位置交通の大系に遠ざかれるを以て明治維新後は振はず、特に西方天龍川畔の伊那町(舊名坂下)の新興し、此處に郡役所の置かるに及んで、郡の中心たる位置を失ひ唯に三峰川入・藤澤川入の諸村を顧客とする地方都邑となる。伊那町との間に縣道通じ、西は伊那町、東は藤澤村を経て諏訪方面へバスの便あり。一に高任にも作り高遠藩の城下町にして高遠町・東高遠町の舊二箇町を併せしめる。城址は三峰川に臨み、その東高遠は土族町、西高遠は町人町なりしが、土族町は漸次荒廢し西高遠のみ商業街をなせり。(高遠城)一に胃城といひ胃山(土俗根小屋山といふ)にある舊城址。城は南に三峰川の數十丈の斷崖を控へ西に藤澤川を要害としたる堅城にて、山本勘助の總監といはる。城はもと笠原村にあり、治承中高遠平五頼直といふもの、これに居り笠原氏を稱す。のち木曾義仲の高遠義親これを守り、弘治中武田晴信に併せられ、その將秋山晴近をしてこれを守らしむ。永祿五年現在の地に修築して子爵領を置く。天正九年仁科五郎信盛これに據し、天正十年織田信長の軍に抗して戦死し勇名を揚ぐ。既にして信長の信濃略するや、毛利秀頼をしてこれを領せしむ。ついで信長の死するや、秀頼城を棄てて上洛し、この年保科正直徳川氏に屬して富城を守

り、子正光の時天正十八年下總多胡に轉ぜしが、慶長五年高遠の勢傾に復し、徳川秀忠の子正之を養子とす。寛永十三年出羽山形に轉ずるに及び、鳥居忠春來り治し、次いで元祿四年内膳將政來り治し、三萬三千石を食み、子孫相傳へて明治維新に至る。(新持神社)大字西高遠に鎮座。神社。祭神、天津彦彦火瓊瓊杵尊、外二神。安和二年、信濃守海軍三神を伊那郡笠原莊に勧請創建し、もと若宮社と稱せしが、文治年中地中より一の神餅を發掘して之を神體とせしを以て現稱を附するに至る。例祭、五月十四日。(建福寺)大字西高遠にあり。臨濟宗妙心寺派。建長五年大覺禪師の開創、中興は東谷禪師にして郡内古名刹の一。寺寶中、紙本書中觀音左右龍虎圓三福は狩野興以の筆に係り國寶たり。(樹林寺)新義眞言宗智山派。稻荷山眞言院と號し、慶長六年の創建。開基は高遠城主保科正忠正直にて、勧修法印を請じて開山となし寺田若千を附して其新願所とする。のち諸將の勧修を受けてその新願所となる。(坂本孫八)高遠藩士。名は俊俊。天山と號す。英俊の子。文武を兼修し銃術に達す。後大坂に遊び新撰流砲術を修め兼つて海外の火技を究め兵術書を著す。寛政の頃京攝の間を経て長崎に至り外國語を學ぶ。平戸藩主松浦侯爵を厚くし子弟數十人を選み就いて學ばしむ。後世其銃術を稱して天山流といふ。後嗣に繼り

タカト 高取

KOK

長崎に移り柄を売ひしが遂に没す。年五十九。時は享和三年二月なり。大正四年従五位を贈らる。(中村元恒・元恒)元恒は高取町の人、淡香の子、婿を業とす。文政の初、儒術を以て出仕し、弘化二年六十八、柄を以て退隱、留米育英を専業とす。嘗て藩士のため開塾耕牧の議を勤め、逆署建白の事、開らず果を爲し、嘉永二年、罪を得て誠録院に、且つ黒河内の僻地に禁錮せられ、令して其學を禁ぜしむ。四年九月三日、病めて講所に歿す。年七十四。贈従五位。元恒は元恒の長子、通稱忠誠、黒水と號す。高取藩儒に任ず、日夕君徳を輔導し、別に私塾を開き、徒を集め教授に勉む、その藩學復興に盡す、明治四年筑摩縣に出仕し、主として教育の普及を圖り、新に學制を創立し、致々育英のため盡瘁す、他日長野縣教育の大に振興せる、亦元恒に負ふ所多しと稱せらる。明治十七年四月三十日病歿す、年六十五。贈従五位。

時川本流四軒、杉野川二軒餘、此兩川の沿岸に細長き溪谷あり殊に合流點以南に稍廣き平野開け村内の主要聚落ここに發達す。農林業を主要業とし高取川の結核特産とす。交通路は里道杉野道が杉野村より來り川合を経て本之木に至る。舟明神道は北宮水村より來り舟明神橋・古橋を経て川合に終る。川東道は馬上より來り石道に達し前者に合す。上古の餘領地の地にして大字古橋に在る式内社與志滿神社は其名殘を留む。次で大字大見・川合は中ノ森に、大字石道・小山・古橋・高野は富永莊に屬し兩者延壽寺領たり。鎌倉時代以後京極氏の所領となり戰國時代に淺井氏之に代り次で織田信長・豊臣秀吉江北一帯を平定し、江戸時代に五里彦根藩大字川合・石道等を領し他は代官領となり明治維新に及ぶ。十八年古橋村外五ヶ村聯合戸長役場の管轄とし、二十二年町村制實施と共に現制の如く大字古橋を村治の中心とし外に大見・川合・石道・小山・高野の六大字あり。地社與志滿神社は古橋に在る式内社にて素戔鳴命を祀る。外に村社にて式内社なるもの川合の佐波加刀神社(日子座王外七柱)、古橋の伊波太岐神社(伊波諸尊)、石道の神前神社(素戔鳴尊)、高野の高野神社(大山命)等あり。佐波加刀神社の祭神八柱の木造坐像は何れも國寶。大見の村社大見神社は應神天皇外御神を祀り、社寶中素戔鳴命に女神坐像三軀は鎌倉初期の作に

タカトキ 高取

して國寶なり。醫王等は大見に在り新義尊皇崇山派、永仁年中宮村出身の事蹟の關基、事蹟は龜山天皇の御宇弘長二年入宋して眞言宗の奥義を究む曆來の唐本一切經を菅山寺に納めしが當寺にも旅行費用の金貲庫部兩面法曼卷羅現存す。十一百觀世音は作者未詳なるも國寶に指定さる。外に高野の聖師堂の傳教大師自作像、古橋の鶴足寺の十一百觀音、古橋の聖師堂の氏佛聖師如來、慶阿香佛も國寶に列せらる。

タカトク 高取

丹波國(京都府)の古地名。和名抄に何鹿郡高取郷あり。その地今詳かならざるも上林谷地方をいふか。

タカドマリ 鷹泊

北海道石狩國南鷹泊多度志村の大字。省縣經加内線の鷹泊驛(大正十五年設置)あり。

タカトミ 高富

岐阜縣美濃國山縣郡の南部。岐阜市の北約五軒。此地は美濃山地の南部地域に屬し、西北部は如來ヶ嶽(二七六米)の斜面を占む、南部は雁太嶽(二二八米)の北斜面を占む。この古生層山地を鳥羽川が切つて南流し蟹の名所として名高し。此町は鳥羽川に沿ひ山地の間に狭まりこの谷及び谷合方面への溪口に發達せしもの、溪口東落なり。米・麥の産多く、町内には材木居多く特産物に練

タカトヨ 高豊村

愛知縣三河國瀨美郡の東南部。北は豊橋市に隣り、南は海に面す。村内は概れ六〇米内外の丘陵性臺地をなすも灌漑の便よろしきを以て水田よく開く。養蠶頗る盛んにして繭を多産し、副産的な養蠶具また見るべきも

タカトシ 高梨

秋田縣羽後國仙仙北郡の南部。秋田市の東南四〇軒。六郷町の北、大曲町の東に接す。此地は出羽丘陵と奥羽山脈との間の横手盆地の第四紀層地にあり、村の中央には駒子川が東西に流れ北より北宮川が流れ、西境にて兩川は合流す。此の盆地面は耕地整理よく行はれ、盡く水田と化し、絶然たる農村なり、農家戸數六九六中自作は二〇に過ぎず。農業生産物中米をその大宗となしその價額は卅九萬圓に及び、一萬六千石を産す。馬鈴薯・里芋・大根類の如き野菜栽培も盛行はれ大曲町に出荷せらる。日本梨、梅の栽培行はれ、近來桃の栽培も行はれるに至れり。馬の飼育盛に行はるも幼駒の生産は少なく、主として馬鞍・勞役に利用せらる。北部には川口川・矢鳥川が駒子川に合流し何れも灌漑に便せり、この駒子川の北、大字柿田には貫山(六五米)の分離丘陵あり。交通は角館街道に近く、鐵道は花館村にある奥羽本線大曲驛に近し。(柿田橋址)指定史蹟。本村大字柿田及び東岡千屋村大字本堂城廻に跨る四四ヶヶの地域に存し、貫山及び長森の二丘陵を繞りて不規則なる略々楕圓形の平面を描き楕圓の殘根地

の多く、村民の一部は漁業に従事す。豊橋市に接するを以て交通は便なり。本村は明治三十九年高根村と豊南村とを合して置けるもの。村名は兩村の頭文字をとる。(御厨神社)大字七根に鎮座。地社。祭神、宇迦御魂神。古來伊勢内宮の神役を勤めたりと云へば、蓋し大神宮領たりし因みによりて勤請せられしものならん。例祭、十月十四・十五日。

タカトリ 高取

愛知縣津島郡にありし村。明治三十九年本村は一町一村を廢し高取町を置く。

奈良縣大和國高市郡の南部。龍門山脈の北斜面に位し武傍町の南方にありて間に阪合村を挟む。龍門山脈の連嶺南境に走り東南部を高取山(五八四米)あり。山地は北隣阪合村へ山麓をのびす。山地多きも米・麥を産し山地は用村、薪炭を出す。北方八木町・武傍町方面より南下する縣道は本村を貫き大字壺坂を過ぎて南境山嶺をこえ、吉野川河谷を走る伊勢街道に連絡す。之に沿ひて西北部に大字土佐の聚落形式的な街村をなす。西北隅にて之と分れる一遣は西南方五條町方面に至る。交通概して不便なり。も高取藩植村氏二萬五千石の城下町。壺坂寺は古來淨瑠璃の壺坂靈驗記を以て名高し。また此地の寶藏は始め藩の名醫が參製交代の折に治病藥を製藥持參せしに始り、廢藩後それが町人に移り遂に今日

タカト 高取

KOK

の降臺を見るに在りしものと云ふ。(高取城址)高取山の頂上にあり、天然の要塞たり。吉野時代、土家越智氏これに居り王事に勤む。天正年中越智氏豊臣秀長に歸伏す。のち越智氏經久、増田長政、郡山に治するに及びその屬城となる。慶長五年、徳川氏の城を本多因幡守俊政に給す、俊政善城を修補し寛永十七年植村出羽守家政これに代り城主となり二萬五千石を食み子孫世襲して明治維新に及ぶ。文久三年八月、天誅組の徒この城を襲ひしも城主既に防戦の準備あり遂に擊つて之を破る。現在の遺址は主として植村氏所築のものに屬し、本丸その他の石疊がよく遺存す。(子鳥神社)大字下子鳥に鎮座。地社。祭神、天押雲根命・天兒屋根命・武妻徳命・經津主命・比咩大神。元慶五年正六位上より從五位下に陞せらる。俗に春日明神と稱す。例祭、九月九日。(壺坂寺)大字壺坂に在り。新義尊皇崇山派。本稱を壺坂山南法華寺と稱し、西國三十三所第六番の札所。創立に就きて諸説あれど、寺傳に大寶三年僧新基の開創といふ。のち元正天皇の宸信を蒙り勅額を賜りて勸願所となる。備來皇室・貴顯・庶民の歸依を受けること甚だ篤かりしが、永觀年中眞言宗僧眞興これの中興し、子鳥流即ち壺坂流の一門を開きしよりその名愈々著る。然るに嘉保・承元の兩度災禍に遭ひて寺勢一時衰頹せしが、その後高取城主相繼いで諸堂を修

葺あり。岐阜より高富街道が北上し、武儀郡美濃町街道はこゝに分岐す。また社額名古屋鐵道は長良より高富驛を過す。本町は和名抄の山縣郡三田郷の地にして申世は明かならざるも江戸時代は高富村と天王町及び佐賀村とより成り。高富を今天王と呼ぶは昔の名稱にて、本庄侯一萬石の陣屋ありし地たり。本庄氏は丹後宮津侯の連枝にして本庄道章寶永二年春、山縣・方縣兩郡の内六千石を加賜せられ下野國四千石と合せて一萬石を領し松平姓を賜ふ。同六年岩籠村陣屋を高富宇石如に移し、後文化三年同村佐賀野に新館を營み六年に至りて成る。高富藩は初代道章より十代道美に至り、明治元年錦旗東征するや、玉事に勤め、後版籍奉還し、高富藩知事に任ぜらる。同四年七月十日廢藩に至り本官を免ぜられ高富藩を置きしが、十一月更に之を廢して岐阜縣に合併せり。此地はもと山縣郡の郡役所ありし地にして、いま警察署・種畜分場等ありて地方的中心をなす。

タカナ

中に植み入れし僅にて発見せらる。欄柱は地下約二〇釐の部位に並列し、長さ一米に及ぶあり、欄柱は長さ三・三釐餘に及ぶ。欄の四方に設けられし四箇の欄門の遺址発見せらる。長森丘陵の北部に接近して東北より西北に至る間に、水田の地下に三重若くは四重の欄柱並列するもの延長約六〇〇米、中央に門址存す。長森北端に泉址あり、附近より「官」、「厨」等の文字を墨書せし齋堂・土師器の皿・碗の類多数に出土し、なほ古瓦・石帯・曲物容器・木箸等あり、件補遺取云々と墨書せし木簡出土す。欄柱及び出土の遺物類は掃田字館前に在る藤井東一氏宅に保存せらる。遺址は昭和五年學術的發掘を經たるものにして、大曲盆地の平野に獨立せる低丘を圍繞して造られし城欄にして、山形、藤本稻村の城欄欄柱と同じく軍事的屯營防備の遺構なるは明らかなり。その遺構時期は城欄欄より稍々遅れ恐らく延暦末年陸中志波城築成の頃ならんと想像せらる。

タカナ

【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。
【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。
【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。

タカナ

場として遺す。農産・織産・畜産・水産あり又工業品生産高多し。日向街道は西北部を南下し中部にて東岸に出で之に沿ひて南走す。省線日豊本線また海岸に沿うて通じ高鍋驛(大正九年設置)を置く。富町及び宮崎郡佐土原町邊に發達する新第三紀層を高鍋層群といふ。即ち日置層・先香寺層・佐土原層に分たる。古くは和名抄、那珂郡於都郡の内に屬せしもの如し。寛文以前は財部と稱せしが延寶元年高鍋と改む。豊臣秀吉九州征伐の際秋月種實勤功によりて筑前よりこの地に封ぜられ三萬石を食む。爾來城下町として發達す。明治初年高鍋縣置かれ、次いで一時美々津縣の治下たりしも同六年宮崎縣の置かるや之に屬ししも本郡の治所となる。明治三十四年町制を布く。(高鍋城)大字高鍋に地あり。高阜に因りてこれを築き、文徳天皇齊衡の頃より土持氏累世の居城なり。康正二年、土持氏これに居ること六百餘年にて都が都領主伊東祐兵衛に奪はる。天正六年鹿兒島領主島津氏これを管し、同十五年秋月種實新納及び種間に封ぜられしより種實之に守將を置きしが、慶長九年種實の男長長間より此地に移り、以來累世此地に居る。延寶元年佐渡守種信に至り、更にこれを改築し城制を整へしが、明治四年縣治となりて廢城す。(八坂神社)大字高鍋町に鎮座。祭神、素戔鳴尊・櫛稻田尾命。慶長十三年の勅請に係る。例祭六月十四日。

タカナ

【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。
【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。
【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。

タカナ

【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。
【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。
【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。

タカナ

【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。
【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。
【高根】新潟縣三島郡片貝村の大字。省線魚沼線の高根驛(明治四十四年設置)あり。

タカナ

【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。

タカナ

【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。

タカナ

【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。

タカナ

【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。

タカナ

【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。
【高根村】新潟縣越後國岩船郡の中部。

タカナ

タカナ

タカナ

タカナ

タカナ

タカナ

タカナ

タカナ

タカナ

タカナ

を隔て、太平洋に近く、南は一宮町との間に八積村を挟む。面積九・〇二平方町。九十九里濱沿岸平地の一部を占め砂丘、沼多し。中央部は水田、他は畑地をなし米・麥を産し、養蠶・養馬も盛なり。また味・蘆の特産あり。縣道は南方一宮町及び西方茂原町(約三・五町)に通じ、また省線房総東線八積驛に近し。この地は維新前、旗本松下氏・飯田氏及び水野氏・稲葉氏の采地入り交り。

タカノ 多加野村

兵馬縣播磨國加西郡の東北部。加東郡津野町の西隣。面積二一・五八方町。中國山脈東南端の山麓を占め全村丘陵・臺地起伏し、南部に開析されし沖積低地開けて播磨平野の北隅を占め村内處々に盆地あり。米・麥の産多く臺地は牧牛行はれ山地は用材・薪炭を供給す。西南方北條町と多可郡方面とを結ぶ街道西北部を通過し、中央には之より分れて東隣津野町に至る村道あり。中世は多可荘といふ。大字和泉の邊は播磨風土記に見ゆる雲洞里なりと(其項参照)。大字池上の郷社日吉神社は大山作命を奉祀し、大字油谷の八王子神社は國護地命・伊弉諾命・伊弉冉命外三神を祀る。また天台宗普光寺あり神龜五年藤原房前の本願により徳道の創建するところにて貞和五年再建す。

タカノ 竹野(郡)

筑後國(福岡縣)の古郡名。三代實録貞觀八年の條に郡名初めて見え、和名抄は多加乃と訓じ築刈・又は高野莊の名稱を以て呼ばれ、小瀬谷の出口の要所に當り、初は小倉氏所領の一部にて其築く所の高野城址が村の西端に在り、のち東大寺領となりしが室町時代以後水源寺領に入り江戸時代には彦根藩に屬す。明治六年、愛知郡が十二區に分たれし時第一區となり、十八年聯合戸長役場制の下には高野村外七ヶ村の中心となり、二十二年町村制實施と共に東小瀬村の一大字に編入せられ更に二十五年分離して高野村となる。(水源寺)臨濟宗永源寺派大本山。瑞石山と號し、一に飯高山上寺と稱す。正中十五年近江國守護佐々木氏領これを開創し、翌十六年、寂室元光禪師(圓應國師)を請じて開山とす。時に後光嚴院の跡依厚く、足利義滿赤寺領を加へて一門の新願所と定む。爾來其高弟相次で住し水源寺一流を形成す。明應元年兵火に罹りて焼亡す。同四年再建の工成るや勅に依りて寺格鎌倉開覺寺の上に班し、後奈良天皇御宇、建永兵火に罹りしが元龜二十年一統文守當寺八十世を繼ぐに及び中興の業全く成る。時に後水尾上皇の御歸依後からず、唐製釋迦三尊佛並に宸筆名號を賜ひ、寛文六年開山三百回忌に方り唐本大藏經を納進し給ふ。東福門院亦歸依厚く其舊殿を移して方丈を再建し、馬場輝親世音を納め、且つ其徳旨に依りて彦根城主井伊氏を以て當寺の外護に充つ。同十三年永

タカノ——タカノ

二田・竹野・長瀬・船越・川會の六郷を置く。また筑後文書弘安二年鎌倉政所の下文に筑後國竹野庄云々、源平盛衰記に筑後國高野本庄等見ゆれば中世は庄名に呼ばれしもの。筑後志には竹野郡、村九十一を管し、租額一萬二千三百九十七石とあり。後世或はタカノとも訓す。明治二十九年生業郡の大部分と合併して津野郡を建つ。

タカノ 高野

高野村 福島縣磐城國田村郡の北西部。三春町の西北約四町。北は安達郡に隣接す。面積八・四四平方町。阿武隈山地の西斜面に屬し、概れ高原状をなす。西北隅を阿武隈川の一支西南に流れ、邊隈村にて阿武隈川に合す。藪・藜・藜草・馬等の産あり。道路は村の中央を西北より東南に通じ西北方本宮町、東南方三春町へは各バスの便あり。東北本線本宮驛へは約七・五町。(鹿島大神宮)大字丹伊田に鎮座。郷社。祭神、健甕尊之命。社傳に天應元年常陸國鹿島神社より勧請すといふ。天和元年火災に遭ひ、同三年再建ふる。爾來代々領主の尊崇深からざりしといふ。例祭、八月十八日。
【高野村】 福島縣磐城國東白川郡の西部。北東は柳川町、南より西は茨城縣久慈郡及び栃木縣那須郡に隣接す。面積七・一四〇方町。八溝山脈に屬し、西南境には八溝山(二〇二米)聳え、南・西・西北の三方は山地をなす。久慈川はこれ等三

方の山地より出づる水を集めて東北に流れ、東北境に於て南に流路を變ず。沿岸に耕地拓く。米・馬・木炭等を産す。道路は川に沿ひて通じ西北側倉町に至り、省線水郡線と社線白根鐵道の連絡點たる磐城朝倉驛への便あり。この地は近世高野莊と稱せらる。

【高野】 陸奥國(磐城、福島縣)の古地名。和名抄に白河郡高野郷あり、その地今の東白川郡高城村・豊里村・石井村の邊なるべく、延喜兵部省式に高野驛馬二疋とあるは高城村の地なるべし。
【高野】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に多珂郡高野郷あり。また正平十年の古文書に高野庄と見ゆ。蓋し同地とす。凡そ今の多賀郡高岡村・華川村等の地に當る。

【高野村】 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の西北部。松戸町の西北隅にて古利根川の東岸にあり。面積四・三三平方町の小村。全村平地にて中部には水田多く、他は畑地をなす。米・藪等を産す。陸羽街道及び社線東武鐵道日光線村の中央を北走し、杉戸驛(南隣百間村)・幸手驛(幸手町)にバスの便あり。この地は近世、葛飾郡幸手領に屬す。維新前は前島・天野・青沼・鈴木・大久保・三宅氏等の所領入り交りし地。水稲寺は俗に施餓鬼寺と稱し高野の施餓鬼を以て近郷に著る。
【高野村】 富山縣越中國中新川郡の西部。五百石町の東に隣る。面積五・四方町。

常願寺川の扇狀地を占め、土地平坦肥沃、灌漑により水田拓かれ、米を主産とす。社線富山電鐵五百石驛に近く、縣道により富山市・上市町等へも通じ、交通便なり。近世附近六十餘村を總べて高野郷と稱したり。村名は蓋しその遺稱とす。
【高野】 越中國(富山縣)の古地名。和名抄磐前郡の條に高野郷の名見え、多加乃と訓す。姓氏錄に高野氏は紀直と同祖にして大名革命の後裔なりと。蓋し高野は高野氏の居せし地にや。或は今の磐前郡大長谷村・仁歩村等の地ならん。
【高野】 長野縣下高井郡にありし村。明治二十五年瑞穂村と改稱。

【高野村】 滋賀縣近江國愛知郡の南東部。鈴鹿山脈に屬する日本コバ山(九三四米)の北東に聳え其餘脈連し大部は三〇〇米以上の山地なり、平地は南西部愛知川の風曲部に開くのみにて故に主要なる聚落の發達を見る。愛知川は南境を西流し村内に於ける流程約五町。附近は所謂越谷として淡谷美に名顯ふる。産業は農林業を主とし米・麥・茶・藪・木炭の外に藪・粘の特産あり。縣道山街道が八日市方面より本村に入り大體愛知川河谷を上り東小瀬村を経て八風峠に向ふを以て古くより八風街道の別名あり、江勢間の主要交通路たり。定期バス線としては越谷バスが稻枝驛起點愛知川町百濟寺を経て、永源寺バスは八日市驛起點岡崎・山上を経て何れも高野に來し。古くより高野

津山市の東にあり。面積七・八二方町。東南境を加茂川流れて廣き沖積平野をひろき全村殆んど平坦なり、東北及び西境に高さ五〇—一〇〇米の山地あるも何れも耕作行はれ、農業頗る盛なり。米・麥・甘藷・藪等を産し生粉の特産あり。省線因幡線は西南より東北方に通じ高野驛(昭和三年設置)を設く、又縣道通す。古くは高野郷に作り、和名抄に宮東郡高野郷と見ゆ。大字高野本郷に郷社高野神社あり、譽田別命を奉祀、十月二十五日例祭を行ふ。
【高野】 阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に板野郡高野郷ありて、多加乃と訓す。その地今詳かならざるも或は板野郡板東町・堀江村等の地ならん。
【高野】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に三野郡高野郷あり。その地は今の三豊郡上高野村・桑山村・笠田村等の地に當る。

タカノ 鹿島

鹿島町 秋田縣羽後國北秋田郡の西部に位し、秋田市を去る東北約六〇町にあり。此地は出羽丘陵を切り横谷をなす米代川流域の一盆地たる鹿島盆地の中心に位し、南境には米代川が西流す。地形上耕地よくひろげ、その産米は古來遠く移出せられたり。即ち幕政時代は主として能代港より、汽車開通後は汽車により移出せらる。農産價格の大部分は米によつて占めらる。馬鈴薯・大根・甘藷・茄子等の日用蔬菜類の産もまた多し。果實は各種のもの栽培せらるるも他を凌ぐ程のもの無し。本町はその位置的關係により農村・山村・嶺山地域を發する爲にその中心市場として商業的に發展せる地方的都市なり。市日設定せられ道路上に於ける原始的取引を今に有す。その商品に附近農山村使用の各種物品を含み、その出店數百に達する盛況を現出す。此町は古くより盆地の中心聚落をなし、阿仁街道は南より當町を経て北隣にて羽州街道に連絡す。今奥羽本線はこの盆地を過り、北部に鹿島驛(明治三十三年設置)あり。明

を西流し、坪井川支流高橋川は北部を西流す。水田よく拓けて肥後米の産多し。北部には熊本外港の百貫石より熊本市へ通ずる街道走りバスの便あり。之に沿ひて高橋町街衢發達す。また社稷熊本電氣鐵道は之と並走す。此地はもと高橋村と稱せしが、その町となりしは寛永十五年六月の事なり。町となりしに就ては興味ある挿話あり。寛永十四年島原ノ亂起り肥後藩主細川忠利は幕命により總大将心得として西國の諸侯を督し出陣するに當り、藩兵はこの地より乗船海路島原へと向ひしが、此時、高橋の構工百二十六人は水先案内として従軍し、大いに戦功を樹てたり。爾してその凱旋後、藩主はこの地の構工の戦功を嘉賞し、この地の市税を免除して五ヶ町の一に列せしめたり。のち町會所を現在の小学校附近に置き、司市(町奉行)がこれに駐在して町政を統轄し、其下に廻役二名、別當二名、別當廻頭を従えて町の事務を分掌せしめて明治維新に及べり。

タカハシ 高梁

【高梁川】 岡山縣の西部を南流する川。一に河部川・川部川・備中の大川等ともいふ。源を鳥取縣境二子山・花見山附近に發し、新見町を過ぎて左岸に小坂部川を合す。この附近は所謂中國標準平原の地形よく發達し、五〇〇米内外の高原上には葉落散帖し牧牛行はる。川は三〇〇米内外の峽を穿ち、蛇行しつつ南流す。

高梁町を過ぎて廣島縣神地方より流出する成羽川を右岸に合流す。奉村附近にて山地を出で、川邊村に至り小田川を合せ下流は二股に分れ、東及び西高梁川となりて水島灘に注ぐ。延長約八〇軒。古くより多く歌に詠まる。大嘗會歌集「千とせへてひとたがびするかばへ河君が出でますしるしなりけり 爲政」

【高梁町】 岡山縣備中國上房郡の西南部に高梁川の左岸にあり。東は吉備郡に南は川を隔てて川上郡に界す。創設されて平原化せし中國山脈の南斜面にありて城内は高さ約三—四百米の山地より成り、南境に懸尾山(五六六米)あり緩傾斜をなして聳立す。西及び南境を高梁川曲流して南下し谷間の氾濫原には水田拓かれ米・麥・果實・薄荷・蘭等を産す。山地は好牧場となり良牛を産し、高梁町は附近の牛の集散地なり。また喜多野田・檀紙等の工産物ありて山間の一大中心地となす。市街は川に沿ひ左岸の地に開かれ北に狭長なる形をなし、岡山市より山陰南末子市に至る縣道(一)を通過し、西南隅にて岐西方面成羽町に至る縣道あり、何れもバスの便あり。町には高梁伯備線は高梁川に沿つて北上し備中高梁・備中廣瀬の二駅(共に大正十五年設置)を設く。この地古くは和名抄、貫夜郡瓦勢郷の内なり。天廣の亂、橘經氏、鏡女を討ちて功あり、備中・河内兩國を賜ひ其地高橋兵衛中守長平、因州島取より領り

城主を更へ江戸時代は板倉氏の城下町として賑ふ。明治二年備前松山を高梁と改稱。維新後は郡役所の所在地たり。昭和四年本町及び松山村を廢し、その地城を以て新に高梁町を設く。(松山城址)町の北部なる臥牛山上にあり、故に一に臥牛山城ともいふ。四條天皇の仁治元年秋庭三郎重信なるもの初めて城を築き世に居る。後醍醐天皇の元弘元年に至るに及び、備後の三好氏の一族に高橋九郎左衛門宗康なる者あり、六波羅の探題北條仲時の旨を奉じて來たり、擧げて城を奪ひ之に居る。正平十年高橋氏戰死して繼嗣なく、その跡を継つて至り、高橋後守備秀來り代つて城主たり。備秀は高師直の孫にして備泰の子なり。時に備秀はじめて六歳たり。秋庭三郎重信之を輔けて政を行ふ。備秀性暗愚、長じて曲事多し、信盛これを憂ひ屢々諷むれども聞かず却つて信盛を害せんとす。信盛終に兵を擧げ備秀を備前虎倉城に逐ひ自ら城主となる。重繼・重明・重直・重次・元明・元重相續して累代に居る。天文二年莊爲資代つて城主となり其子高資に至り三村家に併合され、幾ばくもなく宇喜多氏の有に歸す。宇喜多氏の亡ぶより更に小早川氏に歸す。小早川氏亡び徳川氏の直轄となる。此時に於ては小堀一政及び同族一の父子相繼いで代官たり。元和三年に至り高橋中守長平、因州島取より領り

正徳國師自讃書像一編、小堀政一自筆の創札等あり、境内に「厩塚第二十二年沙彌西念」の銘ある石燈籠を存す。(松蓮寺)大字松山にあり。眞言宗御室派。東向山金剛院と號す。本尊大日如來を安置す。當國三十三所第三番の札所たり。

タカハタ 高畑

【高畑町】 山形縣羽前國東置賜郡の東部。米澤市の東北約八軒。東南の一部は宮城縣刈田郡及び福島縣伊達郡に界す。東南境には山ヶ岳(九九四米)聳立し、吉野川の支流屋代川は二井宿より西流し、山地を出づる所に扇状地をつくり米澤盆地に横く。扇状地の扇頂及び扇端部には水田多きも、扇尖部は桑畑多し。屋代川の沿岸大字安久津より第三紀の砂岩を採取し、高晶石として知らる。陸野日村の省線奥羽本線線ノ目驛より分岐する社線高島鐵道は屋代川沿ひに通じ、高島驛(大正十一設置)・安久津驛・駄子町驛(共に大正十三年設置)を設き、また宮城縣に至る鐵道通じ交通便なり。この地は和名抄置賜郡屋代郷の地にして、のち屋代庄と稱せられし地なりとす。東置賜郡の文化の中心地にして、明治二十八年町制を布

き、郡役所の所在地たり。古くはタカハタケと稱す。明治十四年、明治天皇が山形・秋田及び北海道行幸の際、此地に御立寄あらせられ、いま明治天皇高島行在所として史蹟に指定さる。大字高島は屋代川扇状地の扇端に在り、高島城のありし所に於て赤湯・米澤より二井宿・七ヶ宿を経て宮城縣に至る道路に當り、城下町として發達し今も附近農村の買物町たり。また此の地は上杉氏時代に地方行政の一部と整備を擔當せる御役屋敷士の置かれし場所なり、元祿二年屋代郷の領地土地の結果陸野目に移され、元治元年再び屋代郷交付せらるるに及び慶應三年再度高島に轉じ、居ること五年、明治二年又陸野目に立戻りしなり。屋代川を距つる北目山には岩窟あり。一千年以前に於ける貴顯の墳墓なりと稱せられ、中に菅玉・勾玉・刀剣・矢根石・金銀環等多く發掘せられたり。大字安久津には屋代八幡あり、社領五十石を有し境内に千年松と呼ぶる老樹あり。町の東に當る大字小部山の麓は略方形を爲せる人為的聚落にして、小部時代の置賜郡衙の所在地と考證せらる。又その村外れに東西二四米、南北二〇九米に達する環狀石籬存す。古くより蛇塚と呼ばれ、口碑に依れば、頸に噴少敷されし高安の大蛇の骸をここに持ち運び、埋葬の後祟りを恐れ地を築きて祀れりと云ふ。高安には高安犬と呼ぶる日本犬残存す。(高島城)また鐵

城ともいひ、永安年中藤原秀衡の五男高衡の創建といふも未詳。中世は長井氏に領せしが、のち伊達氏之を滅ぼし、應永の頃伊達正宗(備前)これに居り屋代城と稱す。慶長以後上杉氏の有となりしが寛文四年幕府となる。明和四年織田信邦上州小幡城より轉じ、舊城を修め二萬石を給せられて之に居りしが、その孫信美の時文政十三年天童に移るに及び城廢す。(八幡神社) 大字安久津に鎮座。郷社。祭神、品田別命・伊弉那美命。創立年次詳かならざるも、康平末年源家、賊徒平定後、報賽として陣跡に八幡宮を勧請す。天正中浦生氏郷當社領を沒收せしため一時廢滅に歸せんとせしが、慶長減を免るを得たり。爾來多くの變遷を経しも徳川氏・上杉氏等の尊崇を受け社運を維持す。例祭、九月十五日。

タカハタ 高橋

【高橋町】 社領。山形縣東置賜郡にあり。陸野日村の奥羽本線線ノ目驛より東に向ひ高島町を経て二井宿村の二井宿驛に至る。全長一〇・六軒。大正十三年に全通。軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸。

タカハタ 高橋

武藏國の古地名。和名抄、都筑郡に高橋郷あり、多加波多と訓す、今詳かならざるも神奈川縣都筑郡橋生村の邊か。一に東京府南多摩郡七生村に大字高橋あるにより此の邊なりといふ。

茨城郡の條に見え、同書に「多賀波羅にきよなる浪の沖つ浪寄すともよらじ子等にしよらば」とあり。また字名大橋(いま東大橋)及び大字小井戸は中世地名に呼ばれ、文保三年徳政遺書目録に大橋郷、給主税所左衛門入道、また大橋郷地頭所、小井戸郷地頭等請文と見ゆ。(舟塚山古墳) 指定史蹟。船瀬川の流域、大字北根本に存する丘陵の突端にあり。前方後圓墳にして西面し、中軸一八五米、高さ前方部七米、後圓部八米を有し、二段に築かれ幅三七米の障が東西北三面を繞る。規模雄大にして封土比較的完存し舊墓見るべく、遺物として墳輪の圓筒破片を多量に見出す。その墳形舟に似たるを以て舟塚山古墳と稱す。

【高濱町】新潟縣越後國刈羽郡の北部。日本海に臨む。東北は石地町に、西は海に面す。面積五・八六平方町。後に低き丘陵を負ひ、海岸の北部は岩石多く、南部は砂濱をなす。漁業地にして夏季は海水浴場として賑ふ。石山石油山の一部分を占め石油の産多し。大字宮川は南北街道の一驛。今片海沿の縣道と後方平野に出づる縣道の分岐點にして、省編越後線西山群へ約三軒の道程、バスの便あり。この地或は和名抄、三島郡多敷郷の内に屬せしものか。東鑑文治二年の條に「前賢院御領、越後國宮河庄、預所前治部卿」とあるは此地か。永正七年三月(一に三年とす)長尾爲景任後より大字権谷の地に以て舟塚山古墳と稱す。

に上陸して笠島の上杉邸を攻む。元和二年割直之四千五百石を領し、こゝに陣屋を置く。のち加増して一萬石となり子孫世襲して明治維新に至る。越後鐵道の開通以前は北國の街道筋に當り頗る賑盛なりしも今は寂寥として通行少し。また大字権谷は昔時觀音馬市ありて各國より馬匹を牽き來り群衆來往し數千頭の賣買ありて殷賑繁華を極めしも今は僅に昔時の遺影を留むるのみ。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の御九月十四日この地に御小休遊ばさる、いまその遺蹟は指定史蹟たり。(宮川神社) 大字宮川に鎮座。祭神、天照皇大神。延暦元年の創立と傳ふ。寛元元年焼亡し、淺谷城主能備一泊之を再建す。江戸時代與板藩主松平氏の崇敬を受け、寶曆三年・寛政四年等に改造す。

【高濱町】石川縣能登國羽咋郡の中部海岸。西は海に面し面積二・二一方町。神代川の吐口左岸の沖積地を占め、周圍を低き丘陵に圍繞せられたる小平野に發達せる漁地にしてまた農耕・養蠶も行はる。社・能登鐵道に沿ひ、高濱驛あり。南方羽咋町方面、東方七尾・和倉町方面より各縣道通じ、更に北定して海岸諸村と連絡す。此地或は和名抄、羽咋郡高家郷の地ならんか。(小濱神社) 大字高濱に鎮座。祭神、天照皇大神・豐受尊大神。後光明天皇永應二年の勅請創祀といふ。例祭、四月十六日。

【高濱村】長崎縣能登國羽咋郡の南部。野母半島南部の西岸。全村丘陵起伏して平地に乏し。西岸は比較的屈曲少く山地海に迫る。米・麥・甘藷の産あり。山地は針葉樹林多く炭炭を出す。縣道南北に走り東北方長崎市に通じ、南端野母村及び北端敷地村に定期船の便あり。附近町村と共に要塞地帯の一部をなす。中世深堀氏の所領たりしもの如く、深堀文書元弘三年の條に戸町浦、高濱一分地頭、深堀彌五郎正綱と見ゆ。當村に屬する嶺島・中ノ島の全地域及び海面は高島炭礦の領域にして特に嶺島坑は明治初年舊佐賀藩深堀の領主嶺島氏の創設せしものとす。現在高島炭礦は本郡重要炭山のひとり(高島村参照)。

【高濱村】熊本縣肥後國天草下島の西海岸。全村山岳重疊して東境には十三野山(四五四米)、北境には蟹ノ水山(四一六米)、南境には矢筈山(三八〇米)等ありて山地四面を繞らす。東境に瀕する高濱川は中央を西流し海に注ぐ。沿岸僅かに低地開く。西岸は山地海に迫り單調なる岩石海岸をなし、北部に瀕をつくり其瀕頭に高濱村聚落ありて鎮地をなす。畑地多く麥・粟・甘藷等を造り水田もあり。山地は薪炭を産し、又原野廣く牧牛行はる。高濱村聚落を中心とし村道は北・東・西の三方に放射狀に走り東隣一町田村行のバスあり。(妙見浦) 指定名勝天然記念物。天草西日海岸の代表的風景にして

【高濱町】福井縣若狹國大飯郡の北海岸。若狹海岸に臨み、京都府新舞鶴町より東方約一〇軒。遠敷郡小濱町の西方約一五軒。全村丘陵起伏し、沿岸東部に低地開く。海岸豊島を初め小島嶼散在す。平地は田畑よく拓け海岸は漁業盛にして中央に沿岸聚落發達す。海岸に沿ひて國道東西に走り東部には南に分る一途ありて佐分利村方面に向ふ。北部には省編小濱線通過して若狹高濱驛(大正十年設置)あり。この地古くは和名抄、大飯郡木津郡の内に屬し、若狹國守護次第に明德四年木津庄高濱と見ゆ。また若狹國稅所今宮領主代々次第に「明德四年五月十八日若狹國守護大臣(義隆)丹後九世戸御參詣當國御下向木津庄高濱欠穴御一見云々」とあるを以ても知る如く、將軍家運來遊せしこと明かなり。天正九年以降慶長五年に至る間、高濱城の城下町として榮えたり。嘗ては郡役所の所在地にして、明治四十五年町制を布く。(高濱城) 天王山の傍にあり。天正年間武田義統の臣逸見昌經これに據る。天正九年昌經病死するや、織田信長、此地を丹羽長秀の臣清口秀頼に與ふ。のち豊臣秀吉、堀尾吉晴、山内一豊、淺野久三郎等を以て交々守らしむ。文祿二年木下利房もこゝにありて二萬石を領せしが、關ヶ原の役西軍に屬して封を削かれ、城亦廢す。(佐伎治神社) 大字高濱に鎮座。祭神、大己貴命・素戔嗚命・稻田命。延喜式神名帳、大

飯郡七座の一。例祭、十月十三日。【高濱町】愛知縣三河國豊海郡の西部。牛田市の東北方の約五軒。新川町に南接し、西部は衣ヶ浦灣に臨む。町の大部は洪積層臺地より成り、三河灣の支溝衣ヶ浦灣を距て、知多半島に對し龜崎町と僅か一軒を距つるのみ。町の北には明治用水が排水し、全臺地の水田化せるはこの用水に負ふ所少しとせす。此地は魚利も多く、沿海の水田を利用して養魚場となし鯉・鯰・鮎の養魚盛なり。本町には魚市場ありて、天保十一年の創業たり。又本地方には到る處陶土を産出し、之を利用して燧燻・鍋・釜を製造する事は遠く天保年間開始より、製瓦も盛にして、其の餘業として燧燻・焙烙を製し、土管・土鍋・土瓶も作られ益々陶業盛となり、すべて高濱土器と稱せらる。交通路には大濱街道は海岸線を南下し、社縣三河鐵道は之に沿ひ、吉濱・三河高濱・高濱池(前後者は大正三年、中者は同七年設置)の三驛を設けり。本町は和名抄の轉寫大川郷の地に當るもの如く、中世は志貴莊に屬せり。高濱とは此地が海岸を上ると直に高き斷崖なれば斯く名付けたるか、大字吉濱は海邊に覆多く生じたればこの名を得たり。高濱に玉江と稱する浦あり、往古持統天皇が三河に行幸の御龍船この浦に着御せられしと傳ふ。また御龍坂と云ふ所あり。大字高濱は古くは鷹取・鷹島・高島と書し近世高濱とせり。

那須野原の北端部を占め、廣茫たる原野展開す。那須川は村の北部に發源し、數條の支流を合して東南に流る。山地一帯森林多く杉・檜あり、薪炭も産す。那須野原には森林あれど、明治年間より次第に開拓され農産行はれ、米(水稻・陸稻)、大麥・小麥・稗・粟・蕎麥等を産す。又農家は各戸、馬を飼養し、年二百頭内外を産す。黒磯町・東那須野村へ縣道を通じ、兩者共に省線東北本線に沿ひ、黒磯驛・東那須野驛(前者は明治十九年、後者は明治三十一年各設置)あり。此地は明治戊辰の役官軍東軍の戰場となれり。(三斗小屋温泉) 大字板室の三斗小屋にあり。那須岳の西腹、海拔約一四〇五米の地に位し那須温泉中最高のもの。泉質鹽類泉。地名三斗小屋はこの地土地高峻、牛の背によるも米三斗以上は運び得ずといふに起ると。(板室温泉) 那須連嶺の西に位し、古來那須七湯の一とす。泉質單純泉。

【高濱町】大字高取にあり。舊大字高取。もと天台宗にして智恵大師直弟智教法師專修寺建立の礎、大師授與の聖德太子自作像を安す。のち住僧願祐、親覺上人に歸依し、上人より六字名號を賜ひ、且つ聖人入滅後その分骨を受く。聖如上人亦當國化導中興々當寺に來住す。

【高濱】↓島本村(大阪府三島郡)

【高濱】兵東縣飾磨郡廣村の舊稱。もと高濱村と云ひしが明治二十九年廣村と改稱。

【高濱】兵東縣飾磨郡にありし村。昭和十一年飾磨町に編入す。

【高濱村】鳥根縣出雲國城川郡の中西部。北部は鼻高山(五三六米)を始め逆巻嶺として聳え、急傾斜をなして南下し、南部一帯は斐伊川によりてつくられし肥沃なる飯川平野の一部を占めて、耕地よく拓け農産物多し。主産物は米にして次に蕎麥及び蜀黍を出し、また養蠶業を營む。平野の中央部を東西に縣道通じ同郡大社町と連絡す。この地は和名抄、出雲郡伊勢郷の内なり。大字平野の東山光福寺(臨濟宗妙心寺派)は本尊に安阿彌佛の阿彌陀如来を安置す。

【高濱】↓三津濱町(愛媛縣温泉郡)

【高濱】福岡縣筑上郡にありし村。明治二十九年本村字小説の内、山國川支流以東は大分縣下毛郡中津町へ編入し、小説の殘部及び大字小犬丸を東吉高村に合併す。中津町は昭和四年市制を布く。

タカハ——タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

タカハ

温泉の南方に聳立する豊原火山と輝石火山との雙子式消火山の總稱。豊原火山は粉水縣鹽谷郡豊原町に屬す。截頭圓錐形の成層火山にして第三紀層を貫き、噴出し、噴出物は輝石火山岩の集塊質泥流、紫蘇輝石火山岩及び熔岩流とす。この山頂部には卵形の噴火口あり。東西兩側には開新せられたる火口あり。前黒岳(前山とも云ひ、一六七八米)・入道山・明神山はその火口壁に附す。火口内に二箇の爆裂火口あり。一は崩山と云ひ、角閃石輝石・石英火山岩の熔岩丘にして、他の一は前者の南西方に接して起り、紫蘇輝石火山岩熔岩より成る。但し爆發に因り原形を留めず。北麓等川上流に沿ひ豊原温泉湧く。この山の活動は豊原附近を形成する上部第三紀層の堆積物或は堆積中に移りしものにして、その後にこの山の南側に輝石火山岩形成せられたり。輝石火山は鹽谷郡豊原町・玉生村・泉村・豊原町に跨り、主峰輝石火山は標高一七九五米、概輝石・輝石火山岩より成る成層火山にして山頂に火口あり。西に輝石山(一七六六米)、南に西平岳聳立す。輝石山の頂には輝石神社あり。輝石山と輝石岳の間に御岳山あり。東麓を南流する善川、西南麓を限る鬼怒川とに圍まれたる山脈はその開新を以て、廣き火口原面をなし、草地發達せるを以て、牧場として利用せられ、特に東針原山村地内にし

陸軍軍馬補充部出張所あり。山腹の溪谷には温泉發達し寺山の湯・赤山の湯・鳥羽の湯等湧く。又北部噴氣孔に水を導きて温泉となし、それを旅館に引く新湯温泉あり。高原山への登山は北麓豊原温泉よりと川治温泉よりと行はる。

【高原川】 岐阜縣吉城郡にある川。日本北アルプス地帯の西南麓に發源し、平ノ湯・福地等の温泉地を経て、穂高岳の西側を南流せる蒲田川を合し、これより山間集落を西側に發達せしめ西に流れて船津町に至る。この間本郷・教河・野首附近に於て二段の段丘を作り、この上に水田・桑畑を形成せしむ。これより北流し神岡嶺山を過ぎ八〇〇米内外の急谷壁を作り、蟹寺に於て宮川を合して神通川となり、富山灣に注ぐ。流域約八〇軒に及ぶ。

【高尾村】 京都府丹波國船井郡の中部。丹波高地の主脈佐々木山脈の一部を占め須知町の北に隣り岡部町より北へ約五軒。東は河原郷村に北は上和知村に西は賀美村・楢山村に界す。四圍山地を圍らし之等山地は三百米乃至五百米程度の高さを呈し侵蝕されし低山性の山地にして準平原をなす山地もあり。中央には稍廣闊なる開折低地開折山良川支流高尾川數條の支流を併せて北流す。米・蕎麥を産し、其他薪炭、工業あり。特産松茸の産多し。山陰道西南部を通過し、省線山陰本線北部を走り下山(大正十四年

説)あり。(九手神社) 大字實勢に鎮座。村社。祭神、大山咋命。京都松尾神社の分社にして、長享二年九月創建。本殿は明應七年の再建にして、三間社流造、屋根檜皮葺、細部の彫刻等すべて室町時代の特色を發揮し現に國寶たり。(大願光寺) 大字下山にあり。古義眞言宗仁和寺末。一に巖の毘沙門と稱す。崇徳の開基と傳ふ。のち一時寺運衰微せしが、嘉暦年間足利氏本願となり再興、徳川初期奉上し古記録焼失治承の明を缺くも、維新前まで將軍家及び領主の祈願所たりといふ。堂宇中本堂及び多寶塔は室町初期の建築に屬し國寶に指定せらる。寺寶の紙本墨書方丈記一巻また國寶たり。

【高尾村】 徳島縣阿波國名西郡の西北部。徳島市を距る四方約一二軒。面積四・四平方軒。北界より半軒にして吉野川右岸に達す。吉野川池溝部に屬し地勢平坦なるも砂礫多く水田乏し。米・蕎麥の産あり。此地古くは和名抄、名西郡土師郷の地なるべし。(新宮・本宮兩神社) 大字中島に鎮座。祭神、伊弉諾命・速玉男命。社傳に成務天皇朝の創祀なりといふ。例祭、十月九日。

【高尾村】 徳島縣阿波國名西郡の西北部。徳島市を距る四方約一二軒。面積四・四平方軒。北界より半軒にして吉野川右岸に達す。吉野川池溝部に屬し地勢平坦なるも砂礫多く水田乏し。米・蕎麥の産あり。此地古くは和名抄、名西郡土師郷の地なるべし。(新宮・本宮兩神社) 大字中島に鎮座。祭神、伊弉諾命・速玉男命。社傳に成務天皇朝の創祀なりといふ。例祭、十月九日。

【高尾村】 京都府丹波國船井郡の中部。丹波高地の主脈佐々木山脈の一部を占め須知町の北に隣り岡部町より北へ約五軒。東は河原郷村に北は上和知村に西は賀美村・楢山村に界す。四圍山地を圍らし之等山地は三百米乃至五百米程度の高さを呈し侵蝕されし低山性の山地にして準平原をなす山地もあり。中央には稍廣闊なる開折低地開折山良川支流高尾川數條の支流を併せて北流す。米・蕎麥を産し、其他薪炭、工業あり。特産松茸の産多し。山陰道西南部を通過し、省線山陰本線北部を走り下山(大正十四年

【高尾村】 徳島縣阿波國名西郡の西北部。徳島市を距る四方約一二軒。面積四・四平方軒。北界より半軒にして吉野川右岸に達す。吉野川池溝部に屬し地勢平坦なるも砂礫多く水田乏し。米・蕎麥の産あり。此地古くは和名抄、名西郡土師郷の地なるべし。(新宮・本宮兩神社) 大字中島に鎮座。祭神、伊弉諾命・速玉男命。社傳に成務天皇朝の創祀なりといふ。例祭、十月九日。

【高尾村】 徳島縣阿波國名西郡の西北部。徳島市を距る四方約一二軒。面積四・四平方軒。北界より半軒にして吉野川右岸に達す。吉野川池溝部に屬し地勢平坦なるも砂礫多く水田乏し。米・蕎麥の産あり。此地古くは和名抄、名西郡土師郷の地なるべし。(新宮・本宮兩神社) 大字中島に鎮座。祭神、伊弉諾命・速玉男命。社傳に成務天皇朝の創祀なりといふ。例祭、十月九日。

【高尾村】 徳島縣阿波國名西郡の西北部。徳島市を距る四方約一二軒。面積四・四平方軒。北界より半軒にして吉野川右岸に達す。吉野川池溝部に屬し地勢平坦なるも砂礫多く水田乏し。米・蕎麥の産あり。此地古くは和名抄、名西郡土師郷の地なるべし。(新宮・本宮兩神社) 大字中島に鎮座。祭神、伊弉諾命・速玉男命。社傳に成務天皇朝の創祀なりといふ。例祭、十月九日。

タカハル

【高尾村】 京都府丹波國船井郡の中部。丹波高地の主脈佐々木山脈の一部を占め須知町の北に隣り岡部町より北へ約五軒。東は河原郷村に北は上和知村に西は賀美村・楢山村に界す。四圍山地を圍らし之等山地は三百米乃至五百米程度の高さを呈し侵蝕されし低山性の山地にして準平原をなす山地もあり。中央には稍廣闊なる開折低地開折山良川支流高尾川數條の支流を併せて北流す。米・蕎麥を産し、其他薪炭、工業あり。特産松茸の産多し。山陰道西南部を通過し、省線山陰本線北部を走り下山(大正十四年

【高尾村】 京都府丹波國船井郡の中部。丹波高地の主脈佐々木山脈の一部を占め須知町の北に隣り岡部町より北へ約五軒。東は河原郷村に北は上和知村に西は賀美村・楢山村に界す。四圍山地を圍らし之等山地は三百米乃至五百米程度の高さを呈し侵蝕されし低山性の山地にして準平原をなす山地もあり。中央には稍廣闊なる開折低地開折山良川支流高尾川數條の支流を併せて北流す。米・蕎麥を産し、其他薪炭、工業あり。特産松茸の産多し。山陰道西南部を通過し、省線山陰本線北部を走り下山(大正十四年

タカハ

【高尾村】 京都府丹波國船井郡の中部。丹波高地の主脈佐々木山脈の一部を占め須知町の北に隣り岡部町より北へ約五軒。東は河原郷村に北は上和知村に西は賀美村・楢山村に界す。四圍山地を圍らし之等山地は三百米乃至五百米程度の高さを呈し侵蝕されし低山性の山地にして準平原をなす山地もあり。中央には稍廣闊なる開折低地開折山良川支流高尾川數條の支流を併せて北流す。米・蕎麥を産し、其他薪炭、工業あり。特産松茸の産多し。山陰道西南部を通過し、省線山陰本線北部を走り下山(大正十四年

【高尾村】 京都府丹波國船井郡の中部。丹波高地の主脈佐々木山脈の一部を占め須知町の北に隣り岡部町より北へ約五軒。東は河原郷村に北は上和知村に西は賀美村・楢山村に界す。四圍山地を圍らし之等山地は三百米乃至五百米程度の高さを呈し侵蝕されし低山性の山地にして準平原をなす山地もあり。中央には稍廣闊なる開折低地開折山良川支流高尾川數條の支流を併せて北流す。米・蕎麥を産し、其他薪炭、工業あり。特産松茸の産多し。山陰道西南部を通過し、省線山陰本線北部を走り下山(大正十四年

【高尾村】 京都府丹波國船井郡の中部。丹波高地の主脈佐々木山脈の一部を占め須知町の北に隣り岡部町より北へ約五軒。東は河原郷村に北は上和知村に西は賀美村・楢山村に界す。四圍山地を圍らし之等山地は三百米乃至五百米程度の高さを呈し侵蝕されし低山性の山地にして準平原をなす山地もあり。中央には稍廣闊なる開折低地開折山良川支流高尾川數條の支流を併せて北流す。米・蕎麥を産し、其他薪炭、工業あり。特産松茸の産多し。山陰道西南部を通過し、省線山陰本線北部を走り下山(大正十四年

タカフ——タカホ

タカフタ 高蓋村 廣島縣備後國神石郡の西南部。地形南北に細長く、高約五六百米の山地より成りて一般に高蓋状をなし、南方に稍々平地ありて耕作行はる。米・黍・蕎麥等を栽培し、蕎麥・花菜・麥稈田などの工業あり。山地は良牛の牧畜をなし又林産物を出す。南方新市町、北方西城町に通ずる縣道あり西南隅を走る。古くは和名抄、神石郡神石郷に屬す。舊幕時代に杉原義隆守の領となり、のち小島村中野代官所の支配を受く。いま木津和村、父木野村、光末村、光信村と組合村をなし本村に役場を置く。

タカフチ 竹淵

【竹淵】 山城國(京都府)の古地名。和名抄に、久世郡竹淵郷あり、多加不知と訓す。今の久世郡八幡町に當るか。

【竹淵】 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に、滋川郡竹淵郷あり、多加不知と訓す。中河内郡龍華町の邊にて同町の大字に竹淵の名を存す。拾遺集に竹川の淵を詠ざるは此地なるべし。拾遺・一七「もみちばの流るる時は竹川の淵のみどりも色かはらむ 凡河内朝恒」

タカフミ 高文

【高文】 上總國(千葉)縣の古地名。和名抄、山邊郡に高文郷あり、今の山武郡大瀨町・山邊村の邊に當り、山邊村大字金谷には高文の古名あり、高海寺あり、蓋し高海は高文と訓相近し、これ地の遺稱なるべし。

タカヘ 高部村

郡の西南部。南は巴川を隔てて清水市に對し靜岡市の東北に隣る。面積九・八六方軒。西北部に丘陵を負ひ、東南部は巴川の沖積地に屬す。傾斜面に蜜柑畑、北部は茶畑をなし平地には水田開かる。農業を主生業とし、大いで製茶等の工業も盛なり。清水市・靜岡市へ縣道通じバスの便あり、省線東海道本線草薙驛へ約五軒の道程なり。此地古くは和名抄、蘆原郡西奈郷の内に屬せしもの如し。新風土記に元祿年中の記録に高部庄の名見ゆと。蓋し中世は庄名にも呼ばれしものにて神風抄に當國高部郡とあるも此地とす。大字大内の龍泉寺に梶原景時墓と稱するものあり。正治二年正月廿日夜、梶原景時上京の途を土蒙のために追撃せられ、狐ヶ崎より返し戦ひしも一族三十三人終にここに討死す。東隣飯田村高部寺に梶原一黨の墓と傳ふるもの存す。大字梅谷大字大澤に古墳あり。明治四十二年これを發掘せしに勾玉・管玉・切子玉・瑠璃玉・六鈴銅・銅筒・刀劍・土器等數十點を出せり。また大字柏尾の向山より異形石鎧を出せり、これ我國にては他に未だ發見せざる石器なり。【靈山寺】 大字大内にあり。古義賢言家。靈山と號す。天平九年僧行基の開創に係る。慶長七年徳川家康領十二石餘、山林十町歩を寄す。現に高野末に屬し、駿河國札所十一番、駿豆兩國札所三十三番結願の靈場として衰者多し。堂宇中仁王門は國

寶たり。【保聖寺】 大内にあり。曹洞宗。慶長十二年、設樂四郎左衛門の開基に係り、入道長老を開山とす。本堂靈師如來は行基菩薩の作なりといふ。

タカヘ 高家

【高家】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄、足上郡に高家郷あり、その地いま評かならざるも足柄上郡松田町の邊に當るか。

【高家】 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に羽茂郡高家郷ありて多加倍と訓じ、高山寺本は多加倍と訓す。いまの佐渡郡高野村の地に當る。

タカヘヤ 高部屋村

【高部屋村】 神奈川縣相模國中部の北部。大山の東斜面を占め、伊勢原町の西北隅にあり。西北隅に大山(南降山一五三三米)聳立す。村の大部分は其東斜面を占めて森林あり。東南部はその麓にて盆地状の臺地をなし、東端附近は丘陵地をなす。農業行はれ、米・黍・粟・大豆・甘藷・蕎麥・粟等を産し他に蕎・牛乳の産もあり。伊勢原町より縣道來り、村の東南部を横斷して南隣大山町に通じ、バスの便あり。伊勢原町に社線小田原急行鐵道の伊勢原驛あり。この地は近世、大住郡精原庄に屬し、蘆原北家、良方流、この地に住し精原氏を稱せり。大字上粕原を往時高部屋郷と稱せしことあれば村名これに因るか。上粕原には上杉修理大夫定正の館蹟及び太田道灌の墓あり。道徳文明六年論に遺つて當

所の上杉定正の館に誅せられ、當地の御昌院に葬りしなり。大字西宮園には實壽原の古戰場あり、長享二年、山内顯定・室原の軍一千餘騎と上杉定正の兵二百餘騎と戦ひし所。(日向樂師) 大字日向にあり。本稱を寶城坊といふ。眞言宗高野派。往昔より日向山靈山寺の名を以て知らるる古刹なり。鎌倉時代に至りて幕府の御役厚く北條氏・徳川氏等の崇敬亦厚かりき。本尊靈師如來・兩脇侍像(木造)は共に平安時代の作に傳り、現に國寶たり。その他寺寶中銅鐘一箇も國寶。

タカホ 高甫村

【高甫村】 長野縣信濃國上高井郡の中部。須坂町の南に隣り、結川に沿ふ。南隅に明徳山(二九四米)聳え、北部は米子川による扇狀地西北に開け、結川は略ぼ村の中央を山麓に沿ひて西北に貫流し、善光寺平に出づ。耕地は右岸一帶の扇狀地に開け、桑園多し。養蠶・農業を主生業とし蕎の産最も多く、大いで米を産す。牧畜も行はれ牛の産あり。須坂町より群馬縣吾妻郡澁川の上流なる大笹に出づる大笹街道は村の東北部を掠め、結川に沿ふ山道は東隣仁禮村、西隣井上村を結び、社線長野野電鐵の井上驛へ約三軒。須坂町へバス通す。この地は和名抄、高井郡高甫郷の内なるべく、近世は須原庄に屬す。明治二十二年八町・野邊を以て本村を置く。村内に大鉄城址。大野邊原古戰場・龜松等の名所あり。大鉄城址は大字八町にあり、井上の家臣大

タカホ 鷹架沼

【鷹架沼】 青森縣下北半島東部に延び海抜〇米、湖岸二〇・二五軒、面積六・二四平方軒、深度七米。牧草地の大部分は丘陵を以て開かれ、東に牧草地及び砂丘あり。注入河は西より入る室久保川・板道川にして、東は長さ二軒の溝にて太平洋に注ぐ。當沼に土地の沈降と砂丘の發達に依り生ぜしもの。水色は黄褐色にて透明度は二三米。鹽分は入口にて二一%、奥は五%程度なり。水温は夏二八度。冬は一度にて結氷し、その厚さは五〇釐に及ぶ。反應は弱アルカリ性にて溶解性酸素は十分に底まであり。沼の東部は海水の影響を受けてカキ・オイノリ等を産し、西部には淡水性のものもあり。また魚類も汽水性にてニシン類上し、プランクトンも汽水性なり。この湖は富榮堂型に屬す。

タカホコ 高棟村

【高棟村】 福井縣越前國坂井郡の中央以東。丸岡町の南に隣る。東部山地をなすのみにて他は殆んど地味肥沃なる低地なり。産物としては米・黍・粟・蕎麥・雑草・穀物等極めて多し。道路は四通八達し社線永平寺電線は村内を走り、米政・新丸岡・西風屋・油の四驛を置き社線丸岡鐵道は丸岡町より本村に入り本丸岡・一本田・舟寄の三驛を置く。この地は丸岡町と共に和名抄、坂井郡高向郷内に於て、近世は村の大半は丸岡領に屬し、

タカホコ 高天山

【高天山】 奈良縣葛城山の一の部の稱。南葛城郡葛城村大字高天に屬す。和歌の名所。夫木・二〇「よそののみきさかなやまん時鳥たかまのやまの峯の遠かた 定家」

タカマ 高間

【高間】 愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年本村外三村を廢し守山町を置く。

タカマタ 高俣村

【高俣村】 山日縣長門國阿武郡の東部に在る農山村。土地高蓋を占め、周囲には五・六百米の山嶺を繞らし、南部には高さ六四九米に達する滑山の如き高峰ありて概し山麓をなす。山間諸處に低地ありて、米等の一般農作物を出す。交通上には須佐・森等に通ずる縣道、南北に通ず。明治二十二年高佐上・高佐下・片俣の三村を合し、その各々一字を取りて高俣村と名づく。(上城と下城) 大字高佐上、字大俣にあり。上城は赤塚山又は要害嶽といひ、下城を陣前山と稱す。共に大内道頼の城址なりと傳へらる。(川平の遺) 大字片俣にあり。附近に老松ありて雪蓋に住し、之を川平の一本松と呼ぶ。(柏木穴居の跡) 大字片俣にあり。穴中炊煙の痕跡を留め古代の土器の散在せるものありといふ。

タカマチ 高町油田

【高町油田】 新潟縣刈羽郡にある油田。刈羽村大字高町・割町の沖積地及び砂丘地にあり。始め高町に發見せられしより高町油田の名あり。越後油田の一。西山油田の南端より南約三軒、柏崎町より北約一二軒。大正十四年この地に試みられし試掘井により強烈な瓦斯層を發見し、一時有熱な瓦斯田なりしも昭和三年瓦斯層の下方に掘進し豊富なる油層を發見し現在にても本邦有数の油田なり。油質はパラフィン系を主とし比重〇・八二五一。油層は越後山地の西南面

タカホ——タカマ

【高鉢村】 徳島縣阿波國勝浦郡の西部。剣山脈東部山中の山村。勝浦川上流に位し、小松島海岸を距る約二〇軒の西南に位置す。名東・名西二郡との界を成す北嶺の高鉢山(一〇二〇米)の南斜面に屬し、全村山地に占めらる。南部森林中を勝浦川の上流河谷を割んで東流す。林業・養蠶業行はれ、又所々に牧場あり。正木部落は石炭の産地なり。米・黍・蕎麥を産す。大字正木に灌頂瀧あり。高さ約百五十米、幅約三米、一に御

に横がる丘陵地帯に属し大嶮南々西より北々東に延長す。地質は主として第三紀後半の水成岩より成る。この油田は沖積地及び砂丘地帯に開拓されしを以て地表の地質調査は不可能なるも油井の経過により按ずるに、地表より二〇〇米迄は沖積層・洪積層及び第三系頁岩、二〇〇米—八〇〇米は推察層、以下寺泊層と推定さる。油層・瓦斯層共に寺泊層の上部に存在する砂岩中にあり、油井の深度は九〇〇米—一三〇〇米。最強烈なる瓦斯層の深度は九〇〇米。

タカマツ 高松

【高松岳】 那須火山帯に属する一嶽。秋田縣鹿角郡皆瀬村・秋ノ宮村・須川村の境上に跨る。標高一三九九米。山麓火山岩より成る。山中より硫黄を出す。この山の四周には温泉多し。

【高松村】 山形縣羽前郡西村山郡の中部。最上川の一支出、寒河江川の南岸に沿ひ、左澤町の北、白岩町の南に接す。南部には稲澤山・平野山等の丘陵は東東に達り北部の寒河江川沿岸の低地は寒河江川扇状地の扇頂部に當り米を多産し、麥穀も行ふ。大正八年に大正十一年省編左澤縣が開設しその羽前高松縣を置き、同十五年社縣三山電氣鐵道の敷設を以てその分岐點となり、三山電氣は新田驛を置き夏季は三山登山客に賑ふ。また白岩町・左澤町・寒河江町に至る街道走り各バスを道す。平野山は起伏緩かにして冬季好

キ工場をなし近時その名著はる。

【高松村】 茨城縣常陸國鹿島郡の中部。鹿島町の南隣にて、北浦の東岸にあり、東は鹿島灘に臨む。村の中部より北部にかけては低き丘陵地あり。他は平地にて東中は畑地多し林を交へ、西半は水田多し一部沼田をなす。米・麥を産し、特産物に西瓜あり。また副業として藍の製造をなす。海岸は鹿島浦の一部にて單調なる砂浜をなし漁業行はれて漁村あり。鹿島町・息柄村に隣接を道す。此地古くは和名抄、鹿島郡高松濱と蓋し此地とす。鹿島社總進部使に木曾氏あり。大字木曾に居して名を負へるものならん。また桓武平氏大塚氏の族大字栗生に居りて栗生氏を稱す。

【高松町】 石川縣加賀國河北部の北部。日本海に臨む。東部には賣連山脈の山脈及び、西部一帯は海岸砂丘連なり、平地は中央部に僅にあり。東部は概ね原野・山林をなし、中部には田畑拓かる。米・蕪の農産物ある外近時機業地として繁榮し、輸出羽二重の産九〇萬圓に及ぶ。その他瓦の特産もあり。粟落は海岸砂丘上にあり漁業地として榮えし所。夏季は海水浴も行はる。藤道及び省編七尾縣中央低地を南北に貫き、高松驛・横山驛（共に明治三十一年開設）あり。北方賣連驛へはバスを通す。同國鐵記に「仕入のたのむ木曾やそれならんけふりにくる、高

松の里」とあるは此地にて詠めしもの。明治四十年高松・金津谷の二村を合して高松村と稱し、大正十一年町制を布く。海濱は海水浴場として知られ、夏季雜香す。〔買及神社〕 大字横山に鎮座。神社・春禊、別雷公禊。延喜式内社。例祭四月二十六日。

【高松】 愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年本村ほか八箇村を廢し作手村を設く。

【高松】 愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年本村ほか赤羽根村・若戸村を廢し、新に赤羽根村を設く。

【高松村】 鳥根縣出雲國飯沼郡の中部。今市町の西約二町。平坦肥沃な飯沼平野の中西部を占め南境を神戸川、北部をその支流何れも東西に流れて耕作を助く。未作を第一とし蕪・鵜羽を産し又養蠶行はる。今市町より来る省編大社線は北部河川に沿うて通過し、これに並行して藤道とほり今市町・大社町にバスを通す。古くは和名抄、神門郡高岸郷の地なり。〔朝山八幡宮〕 大字松崎下に鎮座。神社。祭神、品陀和氣天皇外十二柱。地方の古社にして、當國八社八幡の一たり。古米毛利・松平等領主の崇敬篤く、黒印領四拾八石五十九升八合を有す。

【高松町】 山形縣備前中郡の東南部。岡山市の西北約七町。東は御津郡、南は郡界部に界す。北端は大崎山、東境には龍玉山（稻荷山）・文田山・鼓山・吉備中山あり、頂上には岩岩起伏し、お題目石が所供きまで立つ。頂上よりは山下に高松古戦場を見下し、遠く兒島の連峯を隔て、瀬戸内海を望み、眺望開闊且つ雄大なり。

山等の二百米内外の丘陵性山地連る。中部及び西部は土地低湿、北・東部の山地より流出する小流は、濃乾排水の便を興へ、西隣生石村にて東南流する足守川に合す。土地低湿なることはすでに清水宗治が、此地に高松城を築きし時この沼地多きを利用せしによりても明らかにして今も沼田多し畑地は丘陵の麓に拓く。米・麥・蕪・蘭草・柿等の農産多し、清酒・墨衣・花菱等の工業あり。社縣中國鐵道は南部を通じ備中高松驛（明治三十七年設置）を置き、これより大字稻荷に至る支線を分ちて稻荷山驛（明治四十四年設置）を設く。この鐵道に沿うて藤道走りバスを通す。龍玉山上の高松稻荷に山麓より中國稻荷山鋼索鐵道通す。この地は豊区秀吉の水攻めを以て名高き高松城のありし處。いま城址及び水攻築城址は指定の史蹟なり。また高松稻荷は日本三大稻荷の一と稱さる。大正四年町制施行。〔高松城址〕 指定史蹟。大字高松にあり。毛利氏の屬將清水宗治の居城址にて、もと本丸・二の丸・三の丸の三に傳屋敷を備へ大沼を以て自然の城濠とせる平城たり。當時繁榮と稱せられしが、天正十年村松秀吉水攻にして之を陥る。これ所謂高松城水攻にして史上その名たかし。これよりさき、秀吉は織田信長の將として中國經營の任に當り、著々諸國を従へ兵を備中に進め毛利方の高松城を開く。城將詩本宗清討く守りて崩す。城は三方道

も、石の積積の約四百萬圓に達し、石が所供きまで立つ。頂上よりは山下に高松古戦場を見下し、遠く兒島の連峯を隔て、瀬戸内海を望み、眺望開闊且つ雄大なり。

【高松市】 香川縣二市の一。縣の北部に位し、北は瀬戸内海に面し、東の一部は木田郡に、他は香川郡に接す。西南部は石清尾山（七五七米）・稻荷山（五二二米）の諸峯ある外は、低平、高松平野の中心地なり。西境を香川川、東境を稲田川及び其支流御坊川何れも北流し、また稻鉢谷川西偏を西北流す。御坊川、稲鉢谷川の沿岸には水田拓け、西北部及び東北部海岸に鹽田發達しまた新築港の他、東には舊港東濱港、西に漁港西濱港あり。これに臨みて玉藻城址あり、その南に香川縣廳設かれ、これより南は商業地域にてメイン・ストリートをなす。市の東部は工業地帯にして、紡績工場・鐵工場があり、城址の東、東濱町の海岸たる東濱港及び橋場川に於て貨物の揚卸を行ふ。市の南都中野町附近には古くより製紙業行はる。近年市は西方に發展し石清尾山との間に住宅地域を決定し、こゝに高松高等商業・師範・中學・商業・工藝・高等女學校の學校、赤十字病院・縣立圖書館等あり。産業は工業（約千五百萬圓）は最も多く、水産（約六十四萬圓）・畜産（約四十二萬圓）・農産（二十七萬圓）等の順位なり。工業中、その最高位を占むる

繞りし、一方の切取は僅に細冠を遺すのみにて、攻むるに容易ならず。秀吉これを見て時は漸く梅雨期に入れるより近傍を流る足守川の水を引きて水攻の作戦に出づ。即ち城の南方に二十餘町の長堤を築く。十二日間にして即ち成り更に長野川の水をも堰き入れたれば、折柄たちまち全城を浸すに至る。これよりさき、毛利輝元は小早川隆景・吉川元春と共に大軍を率ゐて東り投けしが形勢如何ともする能はず。たま／＼六月二日日本能寺の變起る。秀吉報を得て大いに驚き、これを嚴密に附して對策を講ず。即ち安國寺惠瓊をして備中・備後・美作・因幡・伯耆の五箇國の割讓を條件として和を講し更に宗治を諭して自殺せしむ。宗治部下の生命を救ふを條件としてこれを快諾しこゝに愈々六月四日高松城の開城の約成り、宗治は主従七人小舟に乗つて秀吉の本陣越ヶ鼻の前へ漕ぎ出で、秀吉贈るところの酒肴等により最後の酒宴を開き宴中にして宗治立つて管絃寺の曲を舞ひ、見月清入道及び本近等の侍臣これに和し、宗治は「浮世をば今こそ渡れ武士の名を高松の若に残して」の辭世を詠じ一同自刃せり。こゝに於て惠瓊は毛利氏の陣に赴き開城のことを告ぐ。輝元等この意外なるに驚きしも宗治の忠死を空しくせざらんが爲め和議を締結す。いま漆地は一段低く田圃となり、うちに本丸址あり、水田中稍々小高く松林をなし、

石疊を残存し中に天守閣址と傳ふる場所あり、中央にいま宗治の首塚と稱する五輪塔を建て、側に明治六年建てたる記念碑あり、二の丸址は本丸址の南に續き今は水田と化し、三の丸址はよく舊規を存す。〔水攻築城址〕 指定史蹟。もと城の南に於て東西二十餘町に亘りて築かれし所にて、いまは東端の高松町字越ヶ鼻及び西端の生石村字稻鉢の兩ヶ所に遺址を存す。東端の越ヶ鼻の築城の残部は長二二米、基底に於て幅一三米、高さ四米を有し、西端の稲鉢に於ては築城の址を存し長さ三〇米、幅五米、高さ二米あり、本城跡はすでに鐵道線路の下に没し、副堤の北端は更に鐵路を越えて北方に痕跡を留め、その側方より枕の設立せるを見。〔妙經寺（高松稻荷）〕 日蓮宗。龍玉山（稻荷山）の麓にあり。慶長六年日圓上人の開基。本堂に本尊の一塔兩尊四菩薩及び日蓮上人像を安置す。初め天平勝寶四年報恩大師孝謙天皇の御不獲御平座を祈願し、また桓武天皇の御御平座をも祀祀尼天に祈願せりと云ひ、俗に稻荷を祀り、天正中、高松城水攻の折島有に歸せるを日圓上人が再興せるものにして、伏見及び豊川と並びて三大稻荷と稱せらる。舊曆二月初午の歳日及十二月十五日より二日間の火焚祭には大いに雜香を極む。老杉零々たる間に幾多の堂宇を建て、本堂裏には龍玉山上の奥の院へ登る参道あり。奥の院へは別に銅索鐵道の便

あり、頂上には岩岩起伏し、お題目石が所供きまで立つ。頂上よりは山下に高松古戦場を見下し、遠く兒島の連峯を隔て、瀬戸内海を望み、眺望開闊且つ雄大なり。

【高松市】 香川縣二市の一。縣の北部に位し、北は瀬戸内海に面し、東の一部は木田郡に、他は香川郡に接す。西南部は石清尾山（七五七米）・稻荷山（五二二米）の諸峯ある外は、低平、高松平野の中心地なり。西境を香川川、東境を稲田川及び其支流御坊川何れも北流し、また稻鉢谷川西偏を西北流す。御坊川、稲鉢谷川の沿岸には水田拓け、西北部及び東北部海岸に鹽田發達しまた新築港の他、東には舊港東濱港、西に漁港西濱港あり。これに臨みて玉藻城址あり、その南に香川縣廳設かれ、これより南は商業地域にてメイン・ストリートをなす。市の東部は工業地帯にして、紡績工場・鐵工場があり、城址の東、東濱町の海岸たる東濱港及び橋場川に於て貨物の揚卸を行ふ。市の南都中野町附近には古くより製紙業行はる。近年市は西方に發展し石清尾山との間に住宅地域を決定し、こゝに高松高等商業・師範・中學・商業・工藝・高等女學校の學校、赤十字病院・縣立圖書館等あり。産業は工業（約千五百萬圓）は最も多く、水産（約六十四萬圓）・畜産（約四十二萬圓）・農産（二十七萬圓）等の順位なり。工業中、その最高位を占むる

もの積積の約四百萬圓に達し、石が所供きまで立つ。頂上よりは山下に高松古戦場を見下し、遠く兒島の連峯を隔て、瀬戸内海を望み、眺望開闊且つ雄大なり。

【高松市】 香川縣二市の一。縣の北部に位し、北は瀬戸内海に面し、東の一部は木田郡に、他は香川郡に接す。西南部は石清尾山（七五七米）・稻荷山（五二二米）の諸峯ある外は、低平、高松平野の中心地なり。西境を香川川、東境を稲田川及び其支流御坊川何れも北流し、また稻鉢谷川西偏を西北流す。御坊川、稲鉢谷川の沿岸には水田拓け、西北部及び東北部海岸に鹽田發達しまた新築港の他、東には舊港東濱港、西に漁港西濱港あり。これに臨みて玉藻城址あり、その南に香川縣廳設かれ、これより南は商業地域にてメイン・ストリートをなす。市の東部は工業地帯にして、紡績工場・鐵工場があり、城址の東、東濱町の海岸たる東濱港及び橋場川に於て貨物の揚卸を行ふ。市の南都中野町附近には古くより製紙業行はる。近年市は西方に發展し石清尾山との間に住宅地域を決定し、こゝに高松高等商業・師範・中學・商業・工藝・高等女學校の學校、赤十字病院・縣立圖書館等あり。産業は工業（約千五百萬圓）は最も多く、水産（約六十四萬圓）・畜産（約四十二萬圓）・農産（二十七萬圓）等の順位なり。工業中、その最高位を占むる

タカマ——タカマ

鏡油・津紙・石炭・米等を移入す。平安時代に...

秀吉に攻められ城陥り、同十五年生駒親正全讃岐に封じられ、初め大川郡引田浦に築き、翌年更に富城を築きて移る。

例登、九月十四日・十五日。〔見性寺〕瀧ノ丁にあり。曹洞宗。直指山と號す。

日の作といふ。〔顯善寺〕古馬場町にあり。眞宗大谷派。無漏山須菩提院と號す。

タカマノハラ 高天原

千倍坪の三に分れ、昭和十年に境長十三萬七千餘石...

タカミ 高見

【高見原】 八和田村(埼玉縣) 【高見山】 高倉山・高角山と云ふ。

タカミ 田上

【田上】 加賀國(石川縣)の古地名。和名抄加賀郡の條に田上郷見ゆ。

タカミジマ 高見島村

【高見島村】 香川縣讚岐國仲多度郡の西北海上に横ばる高見島を占む。

安國寺等々、名高し。本村古くは高水六ヶ村の一部にして住時は清ノ尾、樋口、原の三村に分れしが、明治二十二年町村制施行の際、これ等を合して高水村と稱し以て今日に至る。

タカミチ 高道村

熊本縣肥後國玉名郡の南部。島原灣に臨み、東は滑石村を隔てて菊池川西南流して海に入り、東北方約三軒餘には高瀬町あり。面積七・一九方軒。菊池川沖積地一部を占むる爲め地形低平にして、東境に沿ひて小河西南流して海に入る。主産業は農業にして米・麥・蔬菜の産多く、又養蠶行はれて繭を産し、其他に水産漁獲物ありて乾海苔は特産なり。銅材方面と滑石村方面とを結ぶ道路中央を東西に走り大野村には省廳鹿島驛東西に通じて大野下驛は西北方約一・五軒にあり。古くは和名抄、玉名郡日置郷の内に属せしものか。中世は附近諸村と共に、大野庄と稱せられし地。

タカミツ 高光

【高光村】廣島縣備後國石郡の西北部。南部に高瀬約七〇〇米に近き山岳懸崖しその連峰は東北方にのび、西北にも五百米の山地あり、兩山地の間に東北より西南にかけて僅かに低地あり、田畠折けて米・麥を産し、山地は牧牛をなし、又林産物を出す。低地に村道通りて、南方福山市とパスを通ず、古くは和名抄、神石郡高市郷の内なり。いま西北隣古川村と

組合村をなし本村に役場を置く。

【高光村】愛媛縣伊豫國北宇和郡の西部。宇和島市の北隣。東隣に桑ヶ森(七五五米)の山岳峰まりて西に緩斜し、西南部に横ノ山(四三九米)の山地ありて東北に傾斜し、兩山地の間に一條の谷通す。その他村内は高瀬二〇〇米前後の山地起伏して平地殆んどなし。山道傾斜面を開拓して耕地となし、米・麥・繭を産し、又稲穂類を多く出す。宇和島線は村内中央の谷を横貫し、南部に光瀬驛・高車驛(共に大正三年設置)を設けて宇和島市に至る。是に並行して縣道その西側を通り、又西北吉田町に至る縣道、西北部を斜に通じて成妙村に至る縣道等ありて交通は頗る便なり。村名は高車・光瀬の二村を合して本村を建てし際、各々その一字を取りて高光村と稱す。

タカミネ 高峰村

神奈川縣相模國愛甲郡の北部。相模川の西岸にして、相模川の支流中津川に沿ふ。丹澤山塊の東北端を占めて、北境西境は約三〇〇米、南境は約一五〇米にて三方より村内に傾斜し村の中央より東部にかけては平地をなし、東境を相模川東南に流れ、また南の山麓を中津川東流す。山地は森林多く平地は畑地をなして桑畑も多し。麥・甘藷・粟等を産し、又養蠶行はれて繭の産多し。中津川に沿ふ縣道は東南に走りて厚木町に通ず。又これと分れて東北に走り、田名村を経て上清町に通ずるものあり。

タカミネ 高嶺村

沖繩縣琉球國島尻郡の西南部。糸満町の東南に隣り、西は海に面す。村内の大部分は丘陵連なりも沿岸及び山間諸處に低地ありて耕地ひろく。産物中甘蔗最も多く甘蔗はこれに次ぎ、米産は灌漑の便不良なるを以て殆んど見るべきものなし。また製糖行はれて年約五萬圓を産出す。沖繩縣營鐵道は西部海岸線に沿ひて走り高嶺驛(大正十二年設置)を置く。土名はカカンミ、古く大里間切といふ、大字大里に南山城址あり。址は後方に八重瀬岳を負ひ八重瀬・眞壁の諸城を固め、左に國吉城、前方に照壁城、右に大城・豊見城等の防壁を配して前哨となし要害堅固なるのみならず、前面漂着たる海洋を瞰下して警備の地を占む。こゝは源爲朝の大里按司の妹姫を娶りしと傳ふる地にて、群雄割據時代大里按司の居城にして約六百年前一世紀間には山南王と稱し島尻地方を統率し獨立の觀を呈せし、永享元年中山王尙

タカミヤ 高宮

巴志のために滅ぼさる。其後凡そ百年は中山王の都下たる島尻大里按司在城せしも尙舊王の中央集權により首里に引上げたり。

り。大字三増より津久井郡串川村大字根小屋に通ずる坂路を三増峠といふ、永祿十二年八月武田信玄小田原に迫り、近郷に放火す。北條氏、守備を嚴にして出でて戦はず、然れども北條氏邦・氏照等、敵軍の後方連絡を断たんとす。因つて十月、信玄本國に兵を退く。氏康等之を追撃して北條軍に戦ひし、勝頼の兵、迂回して北條軍の後方を襲ふに及び、北條氏敗北す。

【高光村】廣島縣備後國石郡の西北部。南部に高瀬約七〇〇米に近き山岳懸崖しその連峰は東北方にのび、西北にも五百米の山地あり、兩山地の間に東北より西南にかけて僅かに低地あり、田畠折けて米・麥を産し、山地は牧牛をなし、又林産物を出す。低地に村道通りて、南方福山市とパスを通ず、古くは和名抄、神石郡高市郷の内なり。いま西北隣古川村と

タカモリ 高森

山口縣防府國玖珂郡の西部。玖珂町の西、熊毛郡田布庭町の北に接す。東西に短く南北に長し。東西の最も廣き所は約五軒、南北の最も長き所約十四軒、畝形をなす。北半は東北隅の龜山(五七六米)及びそれに連なる山峯廣く繞りて中央に傾斜し流流東南に下る。南半は東・西に南北の方向に山脈通りて中央に傾斜し南北の方向に谷をつくる。南北兩山地の相接する所は一般に低地にて島田川上支流何れもこゝに集まり、それより西に向つて流る。流域は耕地多く折々農業さかんなり。米・麥・繭の産多く又松茸を産す。山地は牧場をなし豚・牛を飼ひ又林産物に薪炭材を産す。其他上記産物に對する加工も熱心に行はれ、従つて工業額も少からず。中央低地を東西に山陽街道通過し、これに沿うて山陽本線走り周防高森驛(昭和九年設置)を置く。東方玖珂町とはパスを通ず。古く玖珂郡政廳の所在地(玖珂郡史)にして、官道山陽道の宿驛を兼ね、郡の中心地として發達す。二井寺・通化寺・相社八幡宮等、奈良平安時代の神社佛閣今に存在するものあり。和名抄に玖珂郡作原郷とあるは本町及び久原村に當る。中世は相社莊と稱し、のち久原莊ともいひ附近一帯の汎稱たり。高森の名は相社八幡宮がその位置丘上に位し巨大の老樹を交へ高地森林の狀

高宮・丹比、調夏の六郷を置く。中世これを廢して東方の高田郡に併せ、のち私に之を吉田郡ともいふ。従つて和名抄に見ゆる高宮郷の地は大凡今の高田郡吉田町以西の邊を稱せしものならん。

【高宮】安藝國(廣島縣)の古郡名。和名抄の安藝郡はその後安北・安南の二郡に分けしが、寛文年間安北郡を改稱して高宮郡名を興せり。明治三十一年四方の沼田郡と合して安佐郡の新稱を建つ。【高宮】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に高宮郡高宮郷あり、その地は今の高田郡可愛村・高田町の邊なるべし。

タカムコ 高向

【高向】越前國(福井縣)の古地名。和名抄、坂井郡の條に高向郷ありて多加無古と訓す。また日本書紀繼體紀にも高向の名見えて越前國の邑名なりと註す。その地は凡そ今の坂井郡高根村・丸岡町の地に當る。【高向】伊勢國(三重縣)の地名。和名抄に度會郡高田郷あり。高田は高向の誤りならん、神風抄に度會郡高向郷あり。地は今の度會郡御園村の邊に當り、同村の大字に高向の名を存す。

タカムリ 高渠

上野國(群馬縣)の古地名。和名抄、片岡郡の條に高渠郷ありて太加無智と訓す。今の碓氷郡枚原町の地ならん。【高室】香川縣讃岐國三豊郡の西海岸。觀音寺町の北に位し、西は

タカムロ 高室

香川縣讃岐國三豊郡の西海岸。觀音寺町の北に位し、西は

タカミ 高野村(大阪府)

【高野】高野村(大阪府)

タカミ 吐田郷村(奈良縣)

【高宮】安藝國(廣島縣)の古郡名。三代實錄貞觀四年紀に郡名始めて見え、和名抄は太加美也と訓じ刈田・内部・竹原・

をなせるより起るといふ。藩政の頃は毛利氏及びその支藩古川氏の所領にて、その境界は大牙の如く錯綜せり。大正十三年町制施行。(遊撃軍陣營遺跡)古刹遺化寺境内にあり。明治維新の策源となりし遊撃軍は文久三年の創立にて明治三年解散す。その間伏見、鳥羽を始とし四境の役等幾多の戦役に参加せり。殊に四境包圍の役、葛州方面より來侵せる幕軍は最も精銳たり。長藩遊撃軍を以て幕軍防備の主力とす。續いて伏見・鳥羽の戦闘に従事し、慶應三年二月高森の陣營に凱旋す。右遊撃軍陣營遺跡は實に維新開天の策源地なり。いま記念碑・碑文・記念館・相模陣營を建設せらる。通化寺には著名なる高僧雪舟の築きたる庭園あり、天然の美景全國に於てその比を見ず。記念館には當時を記念すべき遺物遺品多数陳列さる。(相模八幡宮)大字下久原に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。文明年間鎌倉上杉重實の麾下太田左近大夫時直之を鶴岡八幡宮より勧請、其孫信濃守正康、豊前國宇佐宮より重ねて五柱神を分ち祀り、家名をも相模と改めて崇敬す。のち相模氏長門萩に移るに及び本社次第に衰頽せしが、延寶九年再建、附近三十六ヶ村の總氏神として崇敬せられき。例祭、九月二日—四日。

【高森町】熊本縣鹿耳國阿蘇郡の東南部。阿蘇山南麓谷の首邑にしてその東隅を占む。南境より東境にかけては阿蘇外輪山をなせるより起るといふ。藩政の頃は毛利氏及びその支藩古川氏の所領にて、その境界は大牙の如く錯綜せり。大正十三年町制施行。(遊撃軍陣營遺跡)古刹遺化寺境内にあり。明治維新の策源となりし遊撃軍は文久三年の創立にて明治三年解散す。その間伏見、鳥羽を始とし四境の役等幾多の戦役に参加せり。殊に四境包圍の役、葛州方面より來侵せる幕軍は最も精銳たり。長藩遊撃軍を以て幕軍防備の主力とす。續いて伏見・鳥羽の戦闘に従事し、慶應三年二月高森の陣營に凱旋す。右遊撃軍陣營遺跡は實に維新開天の策源地なり。いま記念碑・碑文・記念館・相模陣營を建設せらる。通化寺には著名なる高僧雪舟の築きたる庭園あり、天然の美景全國に於てその比を見ず。記念館には當時を記念すべき遺物遺品多数陳列さる。(相模八幡宮)大字下久原に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。文明年間鎌倉上杉重實の麾下太田左近大夫時直之を鶴岡八幡宮より勧請、其孫信濃守正康、豊前國宇佐宮より重ねて五柱神を分ち祀り、家名をも相模と改めて崇敬す。のち相模氏長門萩に移るに及び本社次第に衰頽せしが、延寶九年再建、附近三十六ヶ村の總氏神として崇敬せられき。例祭、九月二日—四日。

【高屋町】岡山縣備中國後月郡の西南隅。南境を小田川斷層線通過し大江村との間は狹長な斷層谷を有し、昔田川の支流を流れて灌溉を助く。その他は高き三〇—四〇〇米の山岳重疊して地勢險し。中央部を西北より東南にかけて一條の帶狀に谷とほり僅に耕地を拓く。南部の耕地と共に農業行はれ米・麥・蕎麥及び薄荷・梨等の果實を多く産出す。町は機業盛んにして、備前織の産出を以つて開墾。市街は東南部斷層崖の所にあり、山陽街道は市街の中央を東西に貫通し、これに並行して西方より社報神高嶺道、東方より社報井並嶺道が集まりて、この町にて連絡し、高屋驛(大正十一年設置)を設く。東方岡山市とはバスを通ず。この地古くは和名抄、後月郡出部郷に属せるものか。地に小見山城あり、小見山二郎元忠設置の戦に夜討の軍功ありしこと太平記に見ゆ、また高屋の人藤井能登守廣玄といふ大勇力の士ありしこと後太平記

【高屋】近江國(菟賀縣)の古地名。和名抄に神崎郡高屋郷あり。中世は高屋莊に作る。地は凡そ今の神崎郡御園村山上村に當るが如し。

【高屋】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に賀茂郡高屋郷あり、多加也と訓す。中世は高田保に作る。地は今の賀茂郡東高屋・西高屋の二村に互る。

【高屋】豊前國(福岡縣)の古地名。和名抄に津那郡の條に高屋郷あり。今の凡そ京都郡原川村の地に當る。

【高屋】肥後國(熊本縣)の古地名。延喜兵部省式に高屋驛馬五疋と見ゆ。その地今詳かならざるも、凡そ八代郡吉野村大字大野の邊に當るもの如し。

【高屋】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に草郡の條に高屋郷あり。その地は凡そ上島の中ならんも、詳かならざる。

タカヤ 高家

【高家】越後國(新潟縣)の古地名。和名抄、三島郡の條に高家郷あり、多加也と訓す。姓氏錄に高家首は神代命五世の孫天道根命の後なりと。蓋し其裔の居せし地にや。いまの刈羽郡刈羽村の邊を稱せるものか。

【高家】能登國(石川縣)の古地名。和名抄、羽咋郡の條に高家郷ありて多加也と訓す。或は高家首の居せし地にや。今の羽咋郡志地町・柏野村に當る。

【高家】播磨國(兵庫県)の古地名。播磨風土記に高家郷と見え、和名抄に安栗郡高家郷あり。地は今の安栗郡高津村なるべしといふ。播磨風土記・安栗郡・高家郷、土下中、所々以名曰高家者、天日槍命告云、此村高家。於他村、故曰高家。

【高家】讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に刈田郡高家郷ありて多加也と訓す。その地は今の三豊郡高家郷の地にして、大字高家は其遺稱とす。

【高家】薩摩國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に肝屬郡の條に高家郷あり、今の凡そ肝屬郡内之浦町に當る。

【高家】愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年猪子石村と合併し藤高村を置く。

【高安】河内國の舊郡名。三代實錄元慶三年の條に、河内國高安郡人常澄前關秋雄以下六人、賜姓高安宿禰、秋雄等自言、先祖、後漢光武帝、孝章皇帝之後也、高安郡公陽信、天漢日天皇(孝德)御世、立高安郡ことあり、本郡は往昔歸化人の居住地にて漢の縣名を採つて、郡名とせるものならん。和名抄は多加夜須と訓じ、坂本・三宅・掃守・玉祖の四郷を置く。後世この地に恩智神社あるよりまた恩智郡ともいふ。明治二十九年河内國十六郡を廢して南・北・中の三郡とせる時、本郡は中河内郡に入り郡號を失ふ。

【高安村】大阪府河内國中河内郡の東部。生駒山脈の西側河に位し、大阪市東南境より東方約七軒。八尾町の東に隣る。東

山形宮土に似るを以て高井宮士の別名あり。長野縣下高井郡上木島・料野・夜間瀬の三村に防がる。本體と寄生丘とより成り、本體の高社山(一三五二米)は山頂部に、北方に開く火口址を有する圓錐形火山なり。寄生丘は本體の東麓なる三つ子山(九六九米)・飯盛山(一〇六四米)の餘狀丘、並びに本體の西麓なる藥師堂山(一〇七一米)にして、西向の馬蹄形煙囪火口を有す。北西麓なる田上山(七七七米)とす。

【高社】愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年猪子石村と合併し藤高村を置く。

【高安】河内國の舊郡名。三代實錄元慶三年の條に、河内國高安郡人常澄前關秋雄以下六人、賜姓高安宿禰、秋雄等自言、先祖、後漢光武帝、孝章皇帝之後也、高安郡公陽信、天漢日天皇(孝德)御世、立高安郡ことあり、本郡は往昔歸化人の居住地にて漢の縣名を採つて、郡名とせるものならん。和名抄は多加夜須と訓じ、坂本・三宅・掃守・玉祖の四郷を置く。後世この地に恩智神社あるよりまた恩智郡ともいふ。明治二十九年河内國十六郡を廢して南・北・中の三郡とせる時、本郡は中河内郡に入り郡號を失ふ。

【高安村】大阪府河内國中河内郡の東部。生駒山脈の西側河に位し、大阪市東南境より東方約七軒。八尾町の東に隣る。東

タカヤ 高柳

【高柳】越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に刈田郡高家郷ありて多加也と訓す。その地は今の三豊郡高家郷の地にして、大字高家は其遺稱とす。

【高柳】薩摩國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に肝屬郡の條に高柳郷あり、今の凡そ肝屬郡内之浦町に當る。

タカヤ 高安

【高安】河内國の舊郡名。三代實錄元慶三年の條に、河内國高安郡人常澄前關秋雄以下六人、賜姓高安宿禰、秋雄等自言、先祖、後漢光武帝、孝章皇帝之後也、高安郡公陽信、天漢日天皇(孝德)御世、立高安郡ことあり、本郡は往昔歸化人の居住地にて漢の縣名を採つて、郡名とせるものならん。和名抄は多加夜須と訓じ、坂本・三宅・掃守・玉祖の四郷を置く。後世この地に恩智神社あるよりまた恩智郡ともいふ。明治二十九年河内國十六郡を廢して南・北・中の三郡とせる時、本郡は中河内郡に入り郡號を失ふ。

【高安村】大阪府河内國中河内郡の東部。生駒山脈の西側河に位し、大阪市東南境より東方約七軒。八尾町の東に隣る。東

タカヤ 高柳

【高柳】越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に刈田郡高家郷ありて多加也と訓す。その地は今の三豊郡高家郷の地にして、大字高家は其遺稱とす。

【高柳】薩摩國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に肝屬郡の條に高柳郷あり、今の凡そ肝屬郡内之浦町に當る。

タカヤ 高柳

【高柳】越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に刈田郡高家郷ありて多加也と訓す。その地は今の三豊郡高家郷の地にして、大字高家は其遺稱とす。

【高柳】薩摩國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に肝屬郡の條に高柳郷あり、今の凡そ肝屬郡内之浦町に當る。

タカヤ 高社

【高社】愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年猪子石村と合併し藤高村を置く。

タカヤ 高安

タカヤ 高柳

の産いづれも年額十數萬に及ぶ。谷清及び東方山越に信濃川流域に至る驛道を通じ、大宇野野町よりは省線信越本線安田驛及び東頸城郡松代村へバスを通ず。もと野町といひ高柳は舊郷名なり。野町とは岡ノ庄の市町の義にて此岡とは東鑑文治二年の條に越後國大神庄、前齋院御領とあるに當り大神を岡に置れるものなり。(貞觀圖)指定名勝。大宇野野字大地田宮原にあり。江戸中期の創設にして其後の補作に際し幕府の庭師九段仁右衛門藤井友之進之に參畫せしことありと傳ふ。天保十四年豊澤南城園名を撰し堂を貞觀堂と稱す。堂前に池を穿ち二藩を懸く。東なるを香泉、西なるを看雲澤と名づく。多數の庭石を配し觀瀾亭、四時庵、抱月樓、環翠軒(茶室)等を設く、作庭の手法京都風にして、佐渡の赤玉を多く使用せる如き地方的特色をも有する優秀なる庭園なり。

タカヤ

高山

庄とも稱せり、鎌倉時代、日下部氏、朝倉高清入道、平氏を滅して其次男を此處に置き、子孫八木氏を稱す、山名氏この國を領せし時より其家臣となりて此處に築城し、山名氏衰微の後諸侯の如く、天正年間、豊臣氏この地を征するや八木但馬守豊信、因州に出奔す。大宇野野には延喜神名帳の夜伎村坐山神社あり。

【高山】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄野野郡の餘山山郷とあり、蓋し高山の創設せしものならん。高山御厨・高山庄・高山黨等の名古昔に多く見ゆ。武蔵七黨系圖に兒玉黨、阿佐美右衛門尉高所領の中に上野國高山御庄とあり、太平記・南方紀傳等にも高山庄の名を載す。御厨との同異は詳かならざるも、御厨は神風抄に田二百八十町と載せたるのみならず、攝津親秀譜に上野國高山御厨領家職の事を録す。其地は今詳かならざるも多野郡美九里村の大字に高山あり。或は美九里村・日野村の邊ならん。

【高山】 群馬縣群馬郡にありし村。明治二十九年群馬郡に入る。【高山市】 群馬縣二市の一。群馬高原の中央に位し、四圍は大野郡を以て圍まれ海拔五七三米の高地にある群馬國第一の山岳都市なり。東境には城山・東山の丘陵低く臥して、空町高臺をなし、西は松倉山嶺起し更にその支脈中山の小丘北に走り其間所謂高山盆地を形成、市街はそこに發達す。宮川は市の中央を北流し市街の北部に於て西方より來れる大八貫川を合し、更に西北流し西偏を北流せる吾川と北部に於て合流す。概して北部は一帯に丘陵をなし宮川及び吾川の沿岸には田畑よく發達す。元來政治交通の中心地として發達せしため、市街もまた飛騨街道と木曾街道筋を中軸とするY字狀道路に沿ひて發達したり。今もなほ是等街道

に沿ひて商家軒を並べ、昔ながらに附近農家を圍繞す。最も繁華なる商業地區は市街の中央を略東西に飛騨、木曾兩街道筋を連結する安川通にして行人常に絶えず商況極めて活潑なり。その南古城址を中心とする地域は高山公園にして、その西麓飛騨街道と川上街道の交叉する西側の一角は町の政治區ともいふべきところにして、市廳を始めとして裁判所・警察署・利務所・調候所等の建物立並ぶ。更に市の東部山麓には國中第一の伽藍照應寺を初め、幾多の神社佛閣の散點するありて、町を貫流する宮川の清流と共に街の風致を床しくも濃くもする。産業は生産的に見れば工業(約三百三十萬圓)最も多く、農産の約五十三萬圓、畜産の約十三萬圓、林産の約四萬圓、水産の約七千圓これに次ぐ。工業中生糸第一にしてその年産九十五萬圓に及び、また木製品(約七十萬圓)・酒(約四十萬圓)・製材(約三十萬圓)等あり。殊に春慶堂・一位細工等は特産物として古來著名なり。農産物は米麥の約三十七萬圓及び食用農産物の七萬圓等あるも何れも自給自足には不足を生ずる状態なり。丘陵地を利用して桑園多く隨つて養蠶業盛んにして桑葉約二萬六千圓、繭約五萬四千圓を擧す。また宮川より取れる鮎は著名にして年一千三百圓の鮎漬漬を移出す。省線高山本線市の中央を南北に走り高山驛(昭和九年設置)を置き、また飛騨街道・木曾

街道はこれと並行し、この地方に於ける交通の要衝たり。高山の地名は古く承保の頃より既に記録に現はれ、高山盆地は上古より國府の所在地にして、國分寺伽藍堂塔も構築せられ、上代文化の播種地なりしが、高山そのものの發達は寧ろ室町時代の末正年中に高山外記が天神山(今の高山公園)に城郭を構へしに始まる。天正十三年に豊臣秀吉の宿將、越前大野の城主金森長近が越中より飛騨に入り、國內を平定して此處に對せられ、同十六年此の舊城に再び城を築き城下の市井を營みしを以て街の體裁を備へし始めとす。其都市計畫は總て京都に範を取り、町並、家の構へ方、神社・佛閣の割合に多きこと其の配置の有様に至るまで京都に類似せるを特色とす。金森氏は六代百七十年間在位せしが、元祿五年領時が出羽國上之山に移封を命ぜられ、其の後、徳川幕府直轄の領地として、慶應四年迄百七十七年間は、代官・郡代の治政下に置かれたり。慶應四年に依りて、明治元年五月、飛騨縣の管轄となり、飛騨縣は同年六月、高山縣と改稱せられ、同四年十一月高山縣廢止により筑摩縣所轄となるに至る。明治二十二年町村制施行と共に高山町と稱し、大正十五年津村を合併して市制を施行し高山市と稱するに至り、飛騨全土文化の中心・物資の集散地として、將又、東海・北陸を繋ぐ鐵道高山本線の主

要地として躍進の氣運に向ひつつあり。【高山城】 古は天神山城と號す。永正の頃より高山外記に築いて居城となせしもの、永祿元年、益田郡標田城主三木自綱攻めて之を滅ぼし、その族をして守らしめ、天正十三年越前大野城主金森長近の來り攻むるに及び、大野郡松倉城に自綱を攻めて亡ぼし、天神山の古城を再築し大いに輪郭を修めその居城となし、六代の孫、頼時まで在城すること百七十年なりしが、元祿五年幕府これを出羽上之山に移し、飛騨國を以て直轄地となし、代官の支配となし、城はこれを加賀前田氏に預けらる。然るに同八年前田より幕府に請ひ、城を毀ちこれより古城址と稱するに至る。(八幡神社) 合時に鎮座。縣社。祭神、應神天皇。創立年代不詳なるも、江戸時代縣社日枝神社と共に累代藩主及び代官の崇敬厚く社領の寄進、社參、代參、祈願、寄進等の事あり、殊に祭禮は奉行祭と稱し嚴肅且つ股賑なるものありしと。(飛騨神社) 大字七日町に鎮座。縣社。祭神、水無神・花名神・荒城座。阿多山大神・栗原神他十五神。社傳に、當地は往昔國府の南頭にして朱雀天皇御宇、飛騨郡司國内の官社を當地に勧請して總祭せりと云ふ。例祭、五月五日。(日枝神社) 大字片野に鎮座。縣社。祭神、大山咋大神。創立年代を詳かにせざるも地方の古社にて、慶長年中、藩主金森氏及び累代代官の崇敬篤く、社殿の造營、

社領の寄進、社參、祈願、新嘗等の事あり。また本社の祭禮は金森氏の代より著名にて、高山山王祭と稱して甚だ股賑を極め、當日は代官等は休日とし、神輿の陣屋前に當りて、神代官は正装して表門にこれを迎へ、神酒並に初穂を供するを例とす。例祭、四月十五日。(高山陣屋址) 指定史蹟。大字川西にあり。今の岐阜縣飛騨支廳會にして、往昔飛騨國主金森氏が下屋敷とせし處。元祿五年徳川幕府これを沒收して飛騨代官の治所に當て、慶長四年に至るまで百七十七年間高山陣屋と稱へ政府を行ふ。現在の建物は文化十三年の改築に係り、その後數度の變遷によりて規模大いに縮小せられしも、表門・支廳・奥庭並に都倉等今猶ほ舊觀を存し江戸時代に於ける陣屋の規模を偲ぶに足る。全國にただ一つ残れる代官屋敷なり。(高山公園) 市街の東南にある飛騨國主金森長近の居城址にして、天神山・白雲山・臥牛山・青山等の別名あり、眼下高山市街を一望し滿山老杉・古松並立し楓・楓その間を點綴し、又園内至る處日本アルプスの展望を恣にし風光の壯大眞に天下の名園たるに恥ぢず。二之丸地に軍神廣瀨中佐の銅像あり。中佐の殿父重武氏高山裁判所長たりし時弟妹等と共に少年時代を高山の小學校に學びし緣故に依り當時の學友に依りて建設せられしもの。(國分寺) 大字七日町にあり。古義尊音宗。碧玉山と號す。天平十

三年創建されし國分寺の法に違ひ、境内にその塔婆の巨大なる礎石今も存存し、現に指定史蹟たり。現本堂は室町時代の建築。本堂藥師如來及び聖觀世音菩薩は行基の作と傳へられ、寺寶たる平家の重寶小鳥丸の古刀と共に何れも國寶に指定せらる。又境内に樹齡一千年を經たる天然記念物の大松孫樹あり。(高山別院) 大字七日町にあり。眞宗大谷派。光耀山照蓮寺と號す。寶治五年後鳥羽天皇第十二皇子にして親鸞の御弟子たる嘉念房善後上人の開基と傳へ、天正十六年國主金森氏白川郷中野より茲に移せるもの。俗に御坊様と呼び、構造輪奐の結構を極め飛騨第一の大伽藍たり。【高山線】 省線。岐阜縣と高山縣とを結ぶ鐵道。高山本線と越美南線を含む。(高山本線) 省線高山線の幹線。岐阜市の東海道本線岐阜驛より分岐し飛騨高山地方を経て富山市の北陸本線富山驛に至る二二五・八軒。【高山村】 京都府山城國相樂郡の東南隅。木津町の東方約一三軒にして名張川に踞る。全村山地起伏するも低山性の山地にして約二一三百米の高さを呈す。名張川は東南方より來り中央を北方へ貫流し北地に出で、こゝに村境に沿ひて西流する伊賀川と合し大河原村に入る。低地少きも農産物を産す。村道附近町村へ通ずればバス便なく省線西線の東北方島々原驛、西北方大河原驛へは各々約五軒に

して徒歩による外交通の便なし。
【高山村】岡山縣備前國川上郡の西南部。
西南は後月郡に、西は廣島縣に接す。南
部に彌高山(六五四米)ある外は四周殆ど
四〇〇—五〇〇米の山地を以て圍繞せら
れ中央に盆地状の低地を形成す。主産業
は農にして米・蕎麥・高粱等を主産し、
若干の木炭・生漆等を出す。東方高梁町
方面の諸町村にバスの便あり。古くは和
名抄、下道郡穴田郷にして安奈多と謂す。
いま大字高山市に穴門山神社あり。元弘
の頃は、日野中納言資朝本主にて、代官
には田口又四郎、在役は日野山田山と
て事跡あり。徳治二年、日野家より石碑
を建つ、世に文字石と稱して感賞せり。
享保年中まで凡四百餘年に及びたれど兼
字正しく傳はれり、佐渡國に遷り給ひし
より、建武三年四月、武者所高山民部少
輔貞國の執達書を以て、平川掃部源高
親領家職に任じ、穴門口を(貞國執達
書に穴門と記す)拜領し、江州より備中
に移りて、當城(本村にその地を傳ふ)を
築くと、この高山の城塞は浮田尾子
の争奪の的となれり。(穴門山神社) 大
字高山市に鎮座。郷社。天照大神。
式内社。例祭、十月十六日。

く僅に米・蕎麥を産す。主産業は漁業
にして高山・田之濱は主邑をなして漁村
衆落たり。交通は海上交通によるの外、
陸上は不便なり。
【高山町】鹿兒島縣大隅國肝屬郡の東南
部。肝屬川の右岸に沿ひ、東北は有明海
に臨む。東南境に國見山(八八七米)・市
與志岳(九六八米)等聳え、西南境にも九
〇〇米前後の山嶺連なり、これ等の山嶺
域内を縱横に走りて概ね山地をなし、た
だ西北部肝屬川沿岸に低平の沃野開く。
高山川は南部山地に發源して北流し沿岸
耕地を灌溉しつゝ肝屬川に入る。産物中
米産最も多く蕎麥・木炭・漆の産これに次
ぎ、若干の漁獲物あり。省線古江西線城
内を走りて論地・大隅高山の二驛(共に
大正九年開業)を置く。此地古くは和名
抄、肝屬郡川上郷の内に屬せしもの如
し。本村は肝付氏の舊邑にして其居城址
存す。村内諸處に古墳あり。その山嶺傳
説の據るべきものなきも古來附近の人々
は若しこれを汚せば一家に禍ありとして
手をつけざりしため、太古以來傳はりて
今日に及ぶ。昭和七年町制を布き高山町
と稱す。(高山城) 大字新宮にその址あり。
長元中伴實貞此城に移り肝付氏を稱
す。吉野時代の頃實貞七世の孫兼重義兵
を擧げて官軍に屬し島津氏と争ふ。應永
十一年其孫兼元、島津元久の勢威振ふに
及びこれに屬す。永正中兼元再び自立し
て伊東氏と結び島津氏に抗せしむ、天正

八年兼道に至りまた島津氏に降る。(弓
張城) 大字新宮にあり。觀應の頃楡井頼
仲の居城たり。大隅國經領主頼經清成・
同清種守護方に屬し來攻するに及びこれ
に恐れて當城を去り、其後肝付氏に復し
て高山城の別堡となる。(豐受神社) 大
字新宮に鎮座。郷社。祭神、豐受尾實大
神・天照皇大神、外四神。社傳に永觀
二年大伴大監兼行の勸誘建立(或は再興
なり)といひ肝付氏代々の崇敬厚かり
しといふ。例祭、十月十六日。
【タカヨコスカ】高橋須賀 愛知縣
知多郡にありし村。明治三十九年本村は
か一町三箇村を廢し高橋須賀町を置く。
【タカラ】多良良村 徳島縣阿波國勝
浦郡の東北郡。徳島市の南方約十軒。勝
浦川の下流に位し、東は小松島町を隔て
て紀伊水道に對す。勝浦川東部を北流し
流域平地に灌溉の便を供す。南部・中部
に丘陵性山地・平地を挟み水田と交錯す。
兼葭行はれ米・蕎麥を産す。此地は南隣生
比野村と共に和名抄、勝浦郡託麻郷(多
加良と謂す)に屬す。古くは本庄と稱す。
然し阿波志に本庄は舊名を據座といふと
あれば、それ以前はかく稱へしものなら
ん。中世、紀伊道、此地に據りしが、元暦
二年源義經に攻奪さる。大正四年大字並
野より古墳を發見し多良の墳輪等を出土
したり。よく藪・榎・檜の形跡を留め、
かくよく備はりたるものは縣下に於て最
初の事なりといふ。一に長國造の古墳に

擬す。また丈六寺境内より古墳を發見
す。現存せるものは整穴式にして石を削
り圓き蓋をなし其狀若しく他に異なるもの
とす。(丈六寺) 大字本庄にあり。曹洞
宗。瑞麟山慈雲院と號す。寺傳に白鳳元
年天眞正覺尼の開創に係り初め淨樂寺と
號して當國最初の佛刹なりといふ。永島
年中堂宇を造營して行基作丈六觀音像を
安置し、寺號を丈六寺と改む。その後細
川氏・三好氏等の歸依厚く、次で蜂須賀
家政入國するや本寺を祈願所と定め寺領
を二百二十石とす。普門閣安置の木造聖
觀音坐像一軀は善原初期の作にして現に
國寶たり。(如意輪寺) 大字宮井にあり。
古義眞言宗。俗に中津峯觀音と稱す。同
宗大覺寺末にして、古來阿波三峯の一。
本尊木造如意輪觀音坐像一軀は鎌倉末期
の作にして國寶たり。
【タカラ】 山梨縣甲斐國那須郡の北部。
桂川左岸に沿ふ。東は桂川を境に谷村町
に、北は御坂山脈の一部を境に北都留郡
に接す。東境を除いてはいづれも山脈に
圍繞され、西南隅に三ツ峠山(一七八六
米)聳ゆ。東部には桂川の細長支谷あり、
田地・桑園を見る。他は原野・山林多
し。蕎麥・米の産ある外、水車を利用
せる家内産業により郡内職の産もあり。
谷村町より東の道路は村内を東西に貫通
し、西方御坂新道に合し、之に交錯して
北方甲州街道と、南方富士山麓地方とを

結ぶ山道あり。該嶺富士山麓電鐵の谷村
町驛に近し。この地は和名抄、那須郡多
良郷の内なり。大宮中津峯・金井等は小
山田氏の舊邑にして、御屋敷と傳ふる地
あり。金井井。(寶藏山) 大字大橋にあり。
鐵區約十八萬六千坪に亘る銅・亞鉛・
硫化鐵礦山。附近の地質は第三紀に屬し
大機凝灰質板岩及び石英粗面岩より成
り鐵床は交代作用による黒物鐵床の大型
塊とす。昭和十年には硫化鐵礦四八〇三
七噸(價額約五十一萬四千圓)を出し、同
年六月末現在鐵夫一四七人を使用し、本
邦重要鐵山の二にて三菱鐵業會社の經營
に屬す。なほ本鐵山は明治五年本村の百
姓岩村五箇門なるもの赤銅澤にて一塊
鐵を認めたるが發見の初めなりといふ。
【寶(村)】 愛知縣海部郡にありし村。明
治三十九年本村は二村を廢し七寶村を
置く。
【寶七島】 鹿兒島縣那須郡久島の西南、
大島に至る海上、北北東より南南西の方
向に連なる一列の島嶼をいふ。鹿兒島縣
大島郡十島村に屬す。寶七島とは日ノ島・
中島・諏訪島・平島・臥蛇島・悪石島・
寶島をいひ、この中寶島が人口最も多く
名高きため、これを總稱して寶七島とい
ふ。もと此等の島々は薩摩國の川邊郡の
所管たりしを以て一に川邊七島といひ
たり。孝徳天皇御代入寶せし吐火羅國と
は蓋しこの島々を稱せしものならん。全
島悉く火山岩にして、霧島火山帯に屬し、

留置の小島を併て大小十二島を以て吐火
羅諸島と稱す。
【寶島】 鹿兒島縣大島郡十島村の屬島。
寶七島の一。また吐火羅島にも作る。周
圍約十軒。全島火山岩より成り最高點は
二〇六米。文政七年七月英船の島に來
り民家を燒奪せし事あり、これが翌年二
月の異國船擊擄令の直接動機となる。
【タカラ】 託麻郷(多良良村)
【タカラエ】 寶江村 宮城縣陸前國登
米郡の中央部。陸前平野(仙臺平野)の西
北部に位する追川低地にあり、全村は概
ね低平にして、海潮河大約六米乃至九米
に過ぎず。追川は西境附近を蛇行しつゝ、
南流す。全村に亘りて水田分布し追川沿
岸は沼田をなす・米・蕎麥等の産あり。
道路は中央部を東西に通ずるもの、西部
を南北に通ずるものあり。前者は西隣佐
沼町、東南隣登米町に至り、後者は北隣
佐沼町に至る。社線仙北鐵道佐沼驛へは
約四軒、バスの便あり。此地は和名抄、
登米郡行方郷の内に在り、村内の新井田
邊は往時、千葉掃部郎の居りし所なりと
す。
【タカラガワ】 寶川 下水上村
(群馬縣)
【タカラジ】 寶地 愛知縣海部郡
にありし村。明治三十九年本村は一村
を廢し十四山村を置く。
【カタラズカ】 寶塚 山梨縣
山梨の國明治三十年設置。兵庫縣川邊
郡小沢村にあり。

【タカラ】 愛知縣愛知郡にありし村。明治
三十九年ほか二村と共に小津村を建て、
小津村は大正十年名古屋市に編入さる。
【寶田村】 徳島縣阿波國那須郡の東北郡。
那須川河口アサマの南部四川の下流に存
し、當町の西に隣接す。北には中野島
村、西に長生村、東南に見能村と界す。
面積四・四方軒。四川、村心を東西に貫流
し地勢を南北に二分す。即ち北部は平野
にして耕地拓け、南部は丘陵性山地に占
められ樹林繁茂す。米・柑橘類・木材・
繭の産あり。當町に至る街道は東西に
走りバスを通す。(隆禪寺) 立善寺にあ
り。白鳳年間創建にして、右大將頼朝
の再興なり。數度の兵災火に罹り、三好
氏・蜂須賀氏等再建す。
【タカラタイ】 寶臺 樺太廳鐵道豐眞
線の驛(昭和八年設置)。樺太前岡部清水
村にあり。
【タカラへ】 財部 下野國(栃木縣)の古地名。和名
抄河内郡の餘に財部郷あり。蓋し財部氏
の居せし地とす。いま河内郡田原村の大
字に寶井あり、或は財部の轉訛にしてこ
の邊を稱せしものか。
【財部】 下野國(栃木縣)の古地名。和名
抄に芳賀郡財部郷あり。即ち財部氏の居
せし地なり。いま其地は詳かならず。
【財部】 紀伊國(和歌山縣)の古地名。和
名抄に日高郡財部郷あり。地に今の日高

郡御用村・御坊町・御田村・美田町等に
當るもの如く、尚川村の大字に財部の
大字を存す。
【財部】 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名
抄三根郡の餘に財部郷とあり。蓋し財部
氏の屬せし地にして、宗氏家譜に財部内
郷とあるは此地に出でしものか。その地
は凡そ今の神埼郡城田村・千歲村の地に
當るもの如し。
【財部】 鹿兒島縣大隅國那須郡の北
隅。宮崎縣那須郡の西方約三軒。面積一
一五・四三方軒。西境に高嶺山脈南走し
て高く西北境に龜嶽山(五四三米)、西部
中央に白鹿岳(六〇四米)、西南部に林岡
(四三〇米)等を起し東方へ次第に傾斜し
て村内山岳重疊し東部は郡城盆地の西隅
を占めて平地地開け大淀川支流西南部に
發して東北流す。北部には溝之口川東流
して庄内村に入り大淀川に合す。農業よ
く發達し米産多く蕎麥も出、副業には養
蠶行はれて繭の産多し。畜産・林産も多
く工業もあり。東部低地を中心に縣道四
方に走り東方郡城市、東北庄内町、南方末
吉町に向ふものを初め村道數多通す。省
線日豊本線東南より西北に走りて財部驛
(昭和四年設置)・北俣驛・大隅大川原驛
(以上二驛は昭和六年設置)あり。古くは
和名抄、諸縣郡財部郷の地とす。中世以
後島津氏地頭職として此地に來りて島津
御庄の屬領たり。當時大字下財部は日向

タカワ

領内にして上野郡(大字北俣・南俣)は大淵國の管内なり。近世南諸郡を置かれし時はこれに屬せしが、明治二十九年...

タカワ

高栗(下野國(栃木縣)の古地名。和名抄、那賀郡の條に高栗郷あり。原書は栗に作るもその誤なる事は天...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 山形縣羽前郡田川郡の東部。船岡市の西南方約四軒、東は東田川郡に界す。庄内平野の西南隅に位し、赤川の...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

天高

高穂郡・鞍手郡に接し、東南部は大分縣下毛郡・日田郡(豊後國)に界す。遠賀川支流彦山川流域を占め地形南部に高く北...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

天高

高穂郡・鞍手郡に接し、東南部は大分縣下毛郡・日田郡(豊後國)に界す。遠賀川支流彦山川流域を占め地形南部に高く北...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

タカワ

田川(郡) 出羽國(羽前、山形縣)の舊郡名。畿日本紀、承和六年の條に始めて郡名見ゆるも、建郡の期は和銅五年出...

山脈の西部をなして日本海及び播磨灘... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村...

夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村...

夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村...

夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村...

夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村...

夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村...

夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村...

夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村... 夕キ 瀧... 田儀村...

タキシノ——タキノ

の西方を並行し、津軽街道はその分より分岐し東北端を北上す。また省垣橋場嶺南部を横切り大釜淵(大正十年設置)を設け、盛岡秋田街道その南に並行し交通不便ならず。いま村内に種馬育成所、岩手山高等遊園所、鹿沼毛皮製錬所、一本木原陣屋遺跡、岡分農園、岩田農園等あり。また近く龍澤ゴルフ場の開設を見るに至るべし。村内の岩手山高山遊園等はいま天然記念物に指定さる。この地建武中期の時は北畠親家領司となり、この地建武中期の時は北畠親家領司となり、のち天正年間には南部信直の將、大釜澤左衛門、大釜の自由山に居城し、三千石を食み、慶長二年南部利直、盛岡城を築城し三戸城より移り岩淵の基を開き、留東南部氏の所領となり、厨川組に属し明治維新に至り盛岡藩南岩手郡の管下となりしことあり。〔巖手山神社〕神社、神祇、大名奉還命、宇迦之御魂命、倭建命、社様に延暦十年坂上田村麻呂東夷を征討し民膏を除き、是に三神を勧請し以て國土の豊饒とせしに始るといふ。例祭七月七日。

タキク 瀧田村 千歳通安岡安野郡の中郡。郡古町の東北隅。金村正廣地にて森林多く村の中央はその組合をなし、平久重川南流し流域には水田あり。村の南部は信平池開け耕地あり。米・麥を産し又製糖行はれて製糖の産あり。瀧田川沿ひに南走し郡古町に通ず。また一は岡古村を経て山北町に通じ(約五軒)パスの便あり。
タキネ 瀧根村 福島縣磐城岡田村東部の東部。阿武隈川沿ひに西新田に属し、東端に江北より大瀧根山(一九三三米)萬太郎山、西南端に矢大田山(九六五米)ありて、西方に急斜し夏井川にのぞむ。夏井川はこの山地に發して西部を南流し、沿岸には耕地拓く。米・麥・木炭等を産す。夏井川に沿ひて省垣磐城東端通じ神保町(大正四年設置)あり。本村の大字神保には神保城址あり、神保久四郎の居城なりしと。〔入水瀧乳瀧〕指定天然記念物。昭和二年の発見。結晶石灰岩より成る瀧根カラスト臺地の東側を流るる早瀬川の水が一段下りて通過して臺地のもとに伏流をなし、石灰岩を蝕して窟窟を作りしもの。洞は臺地の西側に開口し、洞水多量に湧き出流をなし、所々に瀑布をなす。また深き石穴あり、幾多の美麗なる鐘乳石・石筍・石柱あり、地形の變化と包帯物の多様多様な點を認めらる。附近の東穴は石灰岩にして、もと製糖の會社の貯りし土と同一とされ、入りより四〇

タキノ——タキノ

米の熟に八五割の大減價あり。
タキノ 宮野 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に安志郡宮野郷あり、多米乃と訓す。地は郡の西側、奥出川上流の山地一帯を指さるものにて、一に多宮谷と云へり。中世は一に宮野御所といふ。今の一志郡大三・大井・川口・八ヶ山・境・家城・竹原・八知・伊勢地・八幡・多氣・下之川・波瀬の諸村に當る。
タキノ 瀧野町 兵庫縣播磨國加東郡の西北隅。加古川中流の右岸に沿ふ。中國山脈東端の一角を占め北部より中央部にかけては臺地狀を呈せる丘陵起伏し、北部に約二六〇米の高さを示し南部に低くなり略五〇米に下りて河合村に續く。東端に加古川南流して流域に沖積低地開け西南部に加古川支流の開ける廣き低地あり。米・麥の産あり。臺地は牧牛行はれ又用材・木炭を出す。社福池丹鐵道は加古川西岸を通過し播磨社・播磨瀧野・瀧野の三驛(何れも大正二年設置)を設く。この地は和名抄、買茂郡龍野の内にして、氏族志によれば國郡の時に播磨少彦、播磨宿禰利明なるものあり、瀧野庄の地名に任す。一統帝の時、播磨利行なるものあり、また總官に補す。其子、龍野の官たるもの龍野と稱して出でて子孫繁す。〔春日神社〕大字上瀧野に鎮座。神社。祭神、建業命武甕槌命、天兒孫命。比喩大御。雄吉天皇二年の創立。例祭十月九日。(天明寺)天

タキノ——タキノ

宗光明寺にあり。古蹟買茂宗、波道領人の開創と傳へ、のち圓仁・仁明天皇の勅によりこれを中興す。現に塔頭醫院を有す。
タキノイリ 瀧ノ入 埼玉縣八潮郡にありし村。明治二十四年山根村と改稱す。
タキノウエ 瀧ノ上 瀧ノ上 〔瀧ノ上村〕 北海道北見國紋別郡の中郡。旭志支庁管下。清治川の上流に依り、西端は天鹽嶺を隔て、天鹽川上川部に、東は清治川を隔て、紋別町に、北は興部村を挟みオホクク海に對す。面積七一四平方軒。北見山脈中の清治岳(一三五四米)天鹽嶺(一五五八米)の北東斜向に存し全村山地に占めらる。西部南部は殊に高峻、北東清治川流域に向ひて漸次に低下するも、西四〇〇米の高度を有す。清治川本流中央を北東流し、オシラキアプ・サケルツ等の支流を合す。サケルツ・シエルト・マツア川は清治川に合流する所に瀧ノ上村あり。その南に瀧ノ上・サケルツ原野存す。流域低地に耕地ひろげ、省垣清治通じ、北見瀧ノ上驛・瀧ノ下驛(共に大正十二年設置)・瀧川驛(大正十三年設置)を設く。瀧ノ上—北見瀧ノ上驛にパスの便あり。米・馬鈴薯・蕪麥・木材等を産す。
〔瀧ノ上〕 北海道石狩國夕張郡夕張町の大字。省垣夕張驛の瀧ノ上驛(明治三十年設置)あり。

タキノカワ

瀧野川區 〔瀧野川區〕 東京市三十五區の一。もと北豊島郡の町なり。しも昭和七年東京市に編入し一町を以て瀧野川區を設つ。瀧野川の名は源平盛衰記にも出て其起源は此地を流るる石神井川の別稱を瀧野川と稱せしに因むといふ。江戸時代には大部分幕領にて、寺領も入り交りし。明治四年に東京府の所管となる。同二十二年町村制施行とるるや瀧野川村・上中里村・中里村・西ヶ原村及び田端村合併し瀧野川村となり、大正二年には町制を施す。本區は都人行業の地たる豊島山に接し、全般的には住宅地にて、一部は工業地として發達す。省垣は區内に田端・尾久・上中里の三驛あり、區界には駒込・王子驛あり、市電・バスは豊島山に至り、王子電車もまた本區を貫通して豊島・王子・荒川の陣區に至り、其他、京北バス・王子環状バス等あり交通便なり。區内に東京露味專門學校・農林省農事試験場・農務調査所等あり。
タキノカンノン 瀧ノ觀音 〔瀧ノ觀音〕 省垣古江西線の驛(大正四年設置)。鹿児島縣那珂郡大崎良村にあり。
タキノサワ 瀧澤 〔瀧澤〕 博多鹿嶋道豊原驛の驛(昭和三年設置)。豊原市にあり。
タキノシタ 瀧ノ下 北海道北見國紋別郡瀧ノ下村の大字。省垣清治驛の瀧ノ下驛(大正十二年設置)あり。

タキノミヤ

瀧宮村 香川県東讃國東讃郡の中郡。西北に標山の山地境なり、東は標山山麓に火山ヶ地の丘陵地をなし、土地一帯に高く洪積頁より成り、綾川山田村より東に村の西部より急に曲り、昭和村大字千正より發する支流を合はせて、洪積地を深く削りて北流し、府中地を利用、溜池を築き、北流して瀧宮池にて、府中村を始め下流地を灌漑す。土地高燥の爲め水田の利用おくれ、江戸時代に入り、久保太郎右衛門(正徳元年歿)の努力により、山田村より水を引き、菅原一帯水田として利用し得るに至り、今や農村として、米を産し、蔬菜等に夏苺の甘露・結球白菜・胡瓜の栽培發達し、近頃は斜面を圃として雑草の栽培も進歩しつゝあり、尙土質上瓦製造も之を觀る。此地は吉原驛に於ける國道が東端より東に、之より北折、國府に通ぜりて修復せらる、綾川の如きも近代の構築を築し、安平電車も之を並びて建設、瀧宮停留所の設けり、交通至便。高松區裁判所出張所・私立主基義學堂・中國銀行出張所・瀧宮信用購買利用組合等の官衙・經濟機關も備はり綾歌郡南部に於ける經濟上の中心となす。此地のまた石室時代の遺跡に當り、和室時代には古墳地として利用せられ、其遺跡甚多く、標山には

タキノヤ

建屋村 兵庫縣但馬國安父郡の東南部。高取五百米餘の山脈東西兩端を並走して各々中央に山脚を伸ばしつゝ傾斜して南北に狭長な谷をひらく。東南隅の峡谷より流水を集めて圓山川の上支この谷を北流し流域に耕地を拓く。米・麥・蕎麥を産し又山地より木炭・木

タキノ

タキノカワ 瀧野川區 〔瀧野川區〕 東京市三十五區の一。もと北豊島郡の町なり。しも昭和七年東京市に編入し一町を以て瀧野川區を設つ。瀧野川の名は源平盛衰記にも出て其起源は此地を流るる石神井川の別稱を瀧野川と稱せしに因むといふ。江戸時代には大部分幕領にて、寺領も入り交りし。明治四年に東京府の所管となる。同二十二年町村制施行とるるや瀧野川村・上中里村・中里村・西ヶ原村及び田端村合併し瀧野川村となり、大正二年には町制を施す。本區は都人行業の地たる豊島山に接し、全般的には住宅地にて、一部は工業地として發達す。省垣は區内に田端・尾久・上中里の三驛あり、區界には駒込・王子驛あり、市電・バスは豊島山に至り、王子電車もまた本區を貫通して豊島・王子・荒川の陣區に至り、其他、京北バス・王子環状バス等あり交通便なり。區内に東京露味專門學校・農林省農事試験場・農務調査所等あり。
タキノカンノン 瀧ノ觀音 〔瀧ノ觀音〕 省垣古江西線の驛(大正四年設置)。鹿児島縣那珂郡大崎良村にあり。
タキノサワ 瀧澤 〔瀧澤〕 博多鹿嶋道豊原驛の驛(昭和三年設置)。豊原市にあり。
タキノシタ 瀧ノ下 北海道北見國紋別郡瀧ノ下村の大字。省垣清治驛の瀧ノ下驛(大正十二年設置)あり。
タキノ 宮野 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に安志郡宮野郷あり、多米乃と訓す。地は郡の西側、奥出川上流の山地一帯を指さるものにて、一に多宮谷と云へり。中世は一に宮野御所といふ。今の一志郡大三・大井・川口・八ヶ山・境・家城・竹原・八知・伊勢地・八幡・多氣・下之川・波瀬の諸村に當る。
タキノ 瀧野町 兵庫縣播磨國加東郡の西北隅。加古川中流の右岸に沿ふ。中國山脈東端の一角を占め北部より中央部にかけては臺地狀を呈せる丘陵起伏し、北部に約二六〇米の高さを示し南部に低くなり略五〇米に下りて河合村に續く。東端に加古川南流して流域に沖積低地開け西南部に加古川支流の開ける廣き低地あり。米・麥の産あり。臺地は牧牛行はれ又用材・木炭を出す。社福池丹鐵道は加古川西岸を通過し播磨社・播磨瀧野・瀧野の三驛(何れも大正二年設置)を設く。この地は和名抄、買茂郡龍野の内にして、氏族志によれば國郡の時に播磨少彦、播磨宿禰利明なるものあり、瀧野庄の地名に任す。一統帝の時、播磨利行なるものあり、また總官に補す。其子、龍野の官たるもの龍野と稱して出でて子孫繁す。〔春日神社〕大字上瀧野に鎮座。神社。祭神、建業命武甕槌命、天兒孫命。比喩大御。雄吉天皇二年の創立。例祭十月九日。(天明寺)天

タキヤ

ありて村内山嶽重疊し南部に高し。南方より来る大内山川は南部を北流し西北境に出で之に沿ひて更に北上し西境にて本流に合して北境に沿ひ東に轉ず。農産最も多く林産之に次ぎ工業第三位を占む。米最も多く、繭之に次ぎ。熊野街道大内山川に沿ひて通過し省線紀勢東線西南部を通過し阿曾驛(昭和三年設置)あり。三瀬谷村に瀧原(大正十五年設置)あり。大宇野尾は熊野札所街道の一驛なり。大神宮本紀に據れば、倭姫命天照大神を奉じて三瀬川より瀬り五十餘宮に赴かれし際、此地に御上陸遊ばされ四年間とまじりたまふといふ。また村名瀧原は此附近の溪水の野後川に落つるところに大小の瀑布四十八あるより出づと。〔瀧原宮〕大宇野後に瀧原。皇大神宮十所別宮の一。祭神、天照坐皇大神御魂。兼仁天皇御宇、皇女倭姫命、皇大神を奉養して巡幸の時、三瀬の流にて眞奈明神、これを迎へ奉り、瀧原の地に禰尊し宮殿二字を設けられたるを本社及び別宮の起原とす。式内大社。例祭、十月二十三日。〔瀧原別宮〕大宇野後に瀧原。皇大神宮十所別宮の一。瀧原宮の西方に並び、同宮城内にあり。天照坐皇大神御魂を祀る。瀧原の起原は瀧原宮に同じ。

タキヤ

【高家村】長野縣信濃南安曇郡の東部。梓川の左岸。松本市の西北方約六軒。豊科町の南隣。梓川の沖積平野を占め、

タキヤ

水田多し。梓川は東北境にて奈良井川を合し犀川となりて北流す。また村の中部を東西に貫通し北方に至る分水路を出せり。農業を主産業とし米の産多く繭・桑表等も産す。省線大糸南線村の西南部を貫通し梓橋驛(大正四年設置)を設く。この地は和名抄、安曇郡高家郷の地にして、いま眞々部村・飯田村・小海渡村・中曾根村・熊倉村の舊五箇村を合し本村を設く。村内に眞々部尾張守の古城址あり。〔金龍寺〕大宇野々にあり。臨濟宗妙心寺派。兼光山と號し、慶安二年法隆寺師之を再興し天柱和尚を請じて中興開山とす。明治の初一時廢絶に歸せしが明治十一年別山和尚再興して今に至る。【高家】飛騨國(岐阜縣)の古地名。和名抄、安曇郡に高家郷あり、加木信と謂するも加は恐らく多の字の誤なるべし。その地今詳かならざるも古城郡坂上村・坂下村の邊なるべし。

タキヤ

【瀧原村】山口縣長門國豊浦郡北西部の農村。高き四一五百米の山地を繞りし中部に平地ありて肥沃なる耕地をなす。北浦街道と省線山陰本線本村を通過し、後者の瀧原驛(大正十四年設置)ありて交通不便ならず。米を主産物とし、多少の林産あり、清酒の産また少なからず。本村は古く和名抄神田郷の一部たりしもの如く、明治維新前にも瀧原村と稱し、明治十八年には東海村と稱し、共に瀧原村田村戸長役場を設け、以

タキヤ

て一戸長の下に統轄せられしが、明治二十二年四月、再び獨立し瀧原村となる。〔瀧原の奉公市〕古來奉公市とよばれる習慣あり。即ち本村の女子は一且他家に奉公したるものならざれば誰れ人も之を娶らざることをし、毎月三回奉公市を開き、近郷の村落より求職者・雇傭者共に集まり、相互の間に意志合致すれば直ちに雇傭契約成立す。毎年五月、六月の農繁期と、十一月の收穫期には此の奉公市特に盛なり。傳へいふ、幕府時代野頭自見といふ高徳の人あり。荒地開墾の業起りしかば、同氏は努力供給の爲めに奉公市を此の地に開始せしに始まる。その賃銀は思ふ若くは恩金と稱せられ、雇傭者より恩施せらるゝものと解し、求職者も純然たる古き道徳思想によつて雇傭に應ず。尙奉公といふも、主として農家に職を求むるものにして、旗亭雇傭の如き風儀の著るゝ恐れあるところの雇傭には應ぜず、斯かる不潔なる奉公に出でし女子は、粗外づしに遇ひ、嫁するを得ざる習慣とす。野頭自見は往年野頭神社に祀らる。〔野頭登道の碑〕天保年代の野頭登道女の碑文は吉田松陰の作にかれど、碑そのものの建立は大正六年に屬し、その舊宅地に設置せらる。登道は幸徳十有二年、天保十二年三月、父・弟・夫及び夫の妹の爲めに讐を報じ、同年及び安政三年の兩度、藩主より表彰せられたり。大正六年迄に此の碑の建立と

タキヤ

なりしものといふ。【高家】肥前國の古地名。多々村(佐賀縣小城郡)の古地名。和名抄に會津郡多具郷あり、その地の今北會津郡神指村・荒井村の邊に當る。【高水】瀧水。佐賀縣中州の南部を西流する大河。その源は中央山脈の能高山・香取山・山崎に發し、途中高水大沢・丹大沢・那大沢を合し、日月潭の南方を多くの段丘を刻みつつ西流し竹山郡の東北境に出で更に南方より北流し来る陳有瀬溪及び清水溪を合し、西部海岸平野を蛇行しつつ流過し、臺中・臺灣兩州境となり、北斗郡大城庄にて臺灣海峡に注ぐ。その延長約一六五軒、臺灣第一の長流なり。山地内部は分崩し易く粘板岩廣く發達し、河川は多量の土砂を流出して河水常に混濁するより名稱出づ。下流沿岸には護岸施設完成し、以前の如き水害を見ず。なほ上流に於ては日月潭水電工事に利用せられ、平野に出でゝは灌溉に利用せらるゝこと多く、流域には農作物の生産多からず。【濁水】臺灣地質府鐵道集集線の一驛(大正十一年設置)にして明治製糖社の採掘點たり。臺中州南投郡名間庄濁水にあり。【田口】新潟縣中頸城郡香山村の大字。信越本

タキヤ

周圍中央にて三米、兩柱の間三米に及ぶ鳥居残存す。大字平清水の東北にある千歳山は石英粗面岩質の鐘狀孤丘にして、全山松樹に覆はれ、山形市近郊の名山なり。北麓に瀧松寺、山中に阿古耶の松、中將姫の墳墓・鐵葉壺石等の名所舊蹟に富めり。大字平清水は千歳山南麓に位置し陶磁器を産する部落なり。口碑に依れば文化年間常陸の住人小野藤治平なる者此の地に來り、當村の又兵衛と岩波の藤十郎とに千歳山の一部分なる丸山の墳土を取りて陶器の製造を傳へしより、次第に此の業を習むもの多くなれりと云ふ。又弘化年中肥前より職工を招き磁器をも作り、代々の山形藩主之を奨励せしも著しき發達なかりしが、近年東部の専門家の指導によりて次第に盛となるに至れり。軸樂と生地とを同じ、場所に産する利點を有し、山形縣全生産の略々九割に當る生産あり。インク瓶・便器等を其の主なるものとす。〔熊野神社〕大字前田に瀧原。祭神、素戔鳴尊。例祭、八月十五日。〔萬松寺〕曹洞宗。千歳山と號す。阿古耶姫の遺跡ありと傳へらるる寺にして慈覺大師圓仁の開創といふ。のち文明十七年金貞齋これの中興して現宗に改め、慶長年間最上義光、阿古耶・藤原實方中將の古墳供養料を附して堂塔を修葺す。境内に阿古耶姫の石碑並に阿古耶松あり。〔石行寺〕天台宗。新福山と號す。和蘭年間行基菩薩東北巡遊の跡

あり、此地の形跡、彼の補陀落山に覺悟たりとて一宗を建立し、地名を岩浪と稱し、山路巖頭を踏み、石上を行くを以て石行寺と稱す。時に下流に一蘆木を得、十一面觀世音を刻して本尊となす。この蘆木を得たる地いま元木(大字)と稱す。のち慈覺大師堂宇を再建す。世人之を御作の堂と呼ぶ。寺に栗生田(青田)にて寫せる吉野時代の寫經を藏す。〔耕澤寺〕大字岩波にあり。曹洞宗。南村山の號す。境内に五百羅漢堂あり。南村山の平野を眼下にし風光明媚の地。寺境に巨大なる枝垂櫻あり、春秋の季文人墨客の杖を曳くもの多し。【瀧山峯】廣島縣山縣郡瀧山川及び其支流大暮川・大佐川流域の峽谷。地域は中野村・熊鷹原村及び戸河内町に互る。今や展塊完成して一大湖水に化せんとし、峽谷美と湖水美の織出す勝景は廣島縣立瀧北公園中新に入目をひきつつあり。【多久】佐賀縣肥前國小城郡の西南部。杵島郡武雄町の東北約七軒。南部は山地起伏し、東南境に約五〇〇米内外の高さを示し、西北部にも二〇〇米以下の山地あり。又東北隅にも僅かに一五〇米程の丘陵ありて、中央部には平坦なる低地間を牛津川西南より東北に貫流す。田畑よく拓け米を産し、桑・麥の産もあり。中央の多久町聚落より縣道四方に通じ北多久村には省線唐津線走りて多久驛に北約一軒

ありて交通至便なり。此地は南多久村と共に古くは和名抄、小城郡高家郷の内にも屬し、延喜兵部省式に高家驛馬五正とあるも恐らくは本村附近の地ならん。後藤氏の族多々氏の居せし所、頼家將軍の頃多久太郎宗直なる者あり、子孫長く勤王事たりし草場康(附從五位)はこの地の人とす。〔多久聖廟〕寶永五年多久邑主多久茂文の創建に係る。茂文は佐賀藩の儒者にして學校を興し、孔子像及び四哲即ち孔子・曾子・思子・孟子の像を祀るために本聖廟を建立し、その建築はすべて我國建築家の意匠になりしものなるも平町細部裝飾等すべて支那様式を倣ひ、頗る支那趣味を發揮せる建築にして、我國に現存するこの種聖廟建築中最も壯麗なる遺構にして現に指定史蹟たると共に國寶たり。【多久】省線唐津線の一驛(明治三十二年設置)。佐賀縣小城郡北多久村にあり。【度島】平戸町(長崎縣北松浦郡)の島。出雲國(島根縣)の歌枕。今に度島に作る。今の八東郡八東村の大字根島ならんといふ。萬葉・七・未通女等が載る機の上を度島もちかかけ樹島の波の間ゆ見ゆし。【高來】豐前國(福岡縣)の古地名。和名抄京都郡の條に高來郷あり。凡そ今の京都郡柿山村・延永村の地に當る。

【高來】肥前國の古地名。多々村(佐賀縣小城郡)の古地名。和名抄に會津郡多具郷あり、その地の今北會津郡神指村・荒井村の邊に當る。【高水】瀧水。佐賀縣中州の南部を西流する大河。その源は中央山脈の能高山・香取山・山崎に發し、途中高水大沢・丹大沢・那大沢を合し、日月潭の南方を多くの段丘を刻みつつ西流し竹山郡の東北境に出で更に南方より北流し来る陳有瀬溪及び清水溪を合し、西部海岸平野を蛇行しつつ流過し、臺中・臺灣兩州境となり、北斗郡大城庄にて臺灣海峡に注ぐ。その延長約一六五軒、臺灣第一の長流なり。山地内部は分崩し易く粘板岩廣く發達し、河川は多量の土砂を流出して河水常に混濁するより名稱出づ。下流沿岸には護岸施設完成し、以前の如き水害を見ず。なほ上流に於ては日月潭水電工事に利用せられ、平野に出でゝは灌溉に利用せらるゝこと多く、流域には農作物の生産多からず。【濁水】臺灣地質府鐵道集集線の一驛(大正十一年設置)にして明治製糖社の採掘點たり。臺中州南投郡名間庄濁水にあり。【田口】新潟縣中頸城郡香山村の大字。信越本

線の田口驛(明治二十一年設置)あり。
 【田口村】長野縣信濃國南佐久郡の東北に對す。北東南に連なる扇形の山脈に圍繞され、田口峠に發源せる南川略中央を溪谷をなして西流し千曲川に會す。西部には平地展開し佐久平の一部をなす。農業・養蠶を主産業とし、蠶・桑の産出多し。馬鈴薯等の外に近時商工業活潑となり、清酒・醤油の醸造、織物・眞綿製造等の工業頗る之に次ぐ。又山野は造林に適し、木材薪炭の産出多し。附近山林は建築用良石材を産する外畜産・水産頗る見べきものあり。西部河沿に省線小海線通じ、大倉良・三反田兩驛(共に大正四年設置)あり。この地古くは和名抄、佐久郡餘戸郷に屬せしものなり。大字田口は大給氏一萬六千名の陣屋を置きし處にして龍岡藩(初め田野日藩)の所在地なり。明治四年大給氏は上表して知藩事を辭し、明の地は中野(のち長野)・伊奈二縣に分屬す。(龍岡城址)指定史蹟。文久三年舊龍岡藩主松平樂謀其の居城として築きし所にして龍岡五穀郷と同じく五角面であり、同年九月工を起し慶應二年十二月竣工せしものなり。明治四年六月竣工と共に廢城となり、建造物は撤せられその一部は小學校々合として使用せらる。盛添破壞せられたるところあるも尚よく舊規を存す。(新海三社神社)大字田口に鎮座。神社、興波神社、雙龍名方合、

事代主命・譽田別命。古來地方の地社として上下の尊崇厚し。境内の寶庫(國寶)は三重塔にして、社傳に嘉祥二年の建立に係るといひ、文明中田口山城主長廣、修理すと傳ふ。室町末期の建造と推せらる。(善松院)大字田口にあり。曹洞宗。大徳山と號す。永祿三年武田晴信寺領六十貫五百文を寄す。のち小諸城主松平康國、父信番道編のため堂宇を再建、寺領を附して善願院とす。慶安年中徳川家光寺領二十五石の朱印を寄す。
 【田口町】愛知縣三河國北設楽郡の南部。岡崎市の東北方約四〇軒。町は花崗岩質よりなる三河山地上にありて、東境には大給山(一〇一・一未)・鹿島山・明神山あり、南部に玉れば高度を減じ八八二米の鞍掛山あり。東北よりは境川流れ、寒狭川と合流し西境をなす。町街は中部にあり、半圓形の街村をなし、高さ四〇〇米位の盆地に位す。また大字小松・鹽津附近には湧泉の湧出を見る。大字和布・鹽津・清崎・田口附近には田圃開け地は耕地に過せず。社廟、田口鐵道の清崎(昭和五年設置)・三河田口(昭和七年設置)の二驛を置く。此地にも北設楽郡の郡役所のありし地、いま警察署等ありて地方的中心をなす。
 【田口鐵道】社廟。愛知縣南設楽郡長藤村の社廟風車寺鐵道の風車寺口驛より北設楽郡田口町の三河田口驛に至る。全長二・六軒、軌間一・〇六七米、首線と

運送運輸。
 【田口村】福岡縣筑後國三浦郡の西南部。筑紫平野の一部に位し西北に接する大川町及西に隣る川口村の西部に筑後川下流南流し、南は昭代村を隔てて有明海に近し。面積五・四〇方軒。筑後川の沖積地を占むる爲地勢極めて低平にして灌漑の便よく水田多し未を産し其他麥・粟・稗等の産多し。西北方佐賀市方面より東南方柳川方面へ通ずる國道の通過地に當りて西南部を西北より東南に走り其他村道四方に通じ、省線佐賀縣西南部を過ぎ筑後大川驛へは西北約二軒、筑後柳河驛へは東南約三軒なり。
 【田口】豊後國(大分縣)の古地名。和名抄大野郡の後に田口郷あり。書紀大化五年紀に田口筑紫と見ゆ、或はこゝより出でしものか、また九州軍記に豊後の人田口支壽とあるは此地の人ならん。風土記傳に田口後世改めて井田とすと見ゆ、弘福圖帳に大野郡井田郷八十町圖領、地頭相模三郎とあり。若し田口を井田とせば見今の大野郡井田村・大洞町・原村等の地に當る。

心なり。山嶽本郷村内を走るも驛を置かず、隣村所在の仁万驛へバスの便あり。古くは託農郷に作る。和名抄に安濃郡託農郷とあり、その郷城は磯竹村を含めるもの如し。延喜式に託農驛馬五疋とあるは本村の地に置かれしもの。
 タクヒ 焼火山 (黒木村(島根縣) 廣島縣備後國御郡の南の海上にある因ノ島の西岸。面積三・五方軒。東及び北には山岳崎居して西に傾き、南には僅少な砂濱地を開く。農耕よく行はれ米・麥を産し、又山地は一面の蜜柑畑にして、因ノ島田圃村の蜜柑として定評あり。全村一致して内外の出荷に當る蜜柑村なり。又水産業行はれ鱒・鯛その他の漁獲少からず、生目島には渡船の便あり。古の院島九ヶ村の内の一にして海賊の領せし處。のち村上氏これを領し、明治維新前は淺野氏の封内たり。
 タクマ 宅方 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に濃高郡宅方郷とあり。蓋し宅方郷の誤とす。今その地は詳かならずるも、越智郡乃方村に大字宅方あり。或はこゝか。
 タクマ 託麻(郡) 肥後國(熊本縣)の古地名。日本書紀に託麻郡と見え、延喜式以後託麻に作る。和名抄は多久高と訓じ桑原・上島・津守・酒井・波良・津島・下井・三宅の八郷を置く。何れの郷に當るも、上島・津守の二郷は東南方

の縣城郡に入る。中世或は諸縣・託麻にも作り近世はまた託麻にも作る。託麻は猛蕪の義にしてその俗傳なりしより郡名となるといふ。明治二十九年龍岡郡と合して龍岡郡を建つ。幸徳託麻。
 タクマ 託萬 薩摩國(鹿児島縣)の古地名。和名抄高城郡の後に託萬郷あり。天文十三年の島津文書に宅間左衛門と見ゆ、蓋し此地より出でしものか。その地は今の薩摩郡高城村・上東郷村・下東郷村の地に當る。
 タクマ 詫間村 香川縣讃岐國三豊郡の北部。仁尾町の北に隣る。西南境に七重山地の三十四百米の丘陵連なりしも沿岸は低平なり。高谷鼻中央より東北方に半出し内に良港を擁す。稻草・除蟲菊の栽培盛にて薯蕷の産も少からず。沿岸には鹽田頗る廣く拓け縣内第三の産額を示す。鹽田本線東部を過ぎりて詫間驛(大正二年設置)を置き、仁尾町・詫間村へバスの便あり。古くは和名抄三野郡詫間郷の内にして、三代實録貞觀七年の條に讚岐國詫間郡を停廢せる由見ゆれば、もと牛島牧場たりしを知るべし。(漁打八幡神社)大字詫間に鎮座。神社、磐神、廣神天皇。古來當村の産土神たり。例祭、十月二日。
 タクマ 田隈村 福岡縣筑前國早良郡の北部。福岡市の西南部に接す。東南隅に油山(五六九米)聳居する外は福岡海禁平野の平坦な沖積地の一部を占め西境

近くに室見川北流す。地勢一般に平坦なれば灌漑の便よく田畑よく拓げ米の産多し。西部は道路よく開け福岡市へ通ずるもの數條あり。又西南方金武村を過ぎて内野村方面へ通ずるものあり。福岡市には省線筑肥線東西に走り北方約三軒に西新町驛あり。
 タクマバル 託磨原 熊本より龍岡縣(熊本縣)の内に互る平坦。古くは天授四年菊池武朝が今貞貞世・大治十年西南ノ役の戦場となる。
 タクミ 宅美 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に赤坂郡宅美郷あり、高山寺本は多久三と訓す。地は凡そ今の赤雲郡五城村・竹枝村・布都美村等に當る。
 タクヲ 田倉 (高座郡(神奈川縣))
 【田倉】 相模山縣海草郡西部の嶺。加太瀬戸口の東角をなし、城ヶ崎と相對して北に加太瀬を抱く。嶺邊は淺水なるを以て四軒以内は航行不可なりといふ。
 タクヲ 宅良村 福井縣越前國南條郡の東部。武生町の南東約二〇軒。北東は今立郡、南東は岐阜縣揖斐郡と界す。面積約六三方軒あるも、濃越山地の西部にて東境には金草山(二二七米)ありその山嶺東北兩境に延びて山地深く、中部を西流する日野川の上支宅良川の谷に幅狭き低地あり聚落點線し道路通じ、米・蕎麥・生糸の産あり、藁竹・宅良紙は特産物に

り。大字橋本保に堤船橋、瀬戸に堤船・石炭炭、小倉谷に鐵礦あり、いはるるもなほ發掘せられず。この地は和名抄教賢郡從者郷の一部にて、古くは田倉・田藏にも作る。源平時代の燒城の戦には平泉寺の善明が池田越をなしてこの地を通過し、吉野朝時代の楠山の戦には兵火を被り、戦國末期には赤座氏の所領となり、幕末には武田新雲齋の通過するなど史蹟少からず。大字瀬戸の伊藤氏の庭園は享保頃の庭園本によりて築造せられしもの。大字宇ヶ平の岩窟は石灰岩の洞窟にて高さ一丈二尺、奥行約一丈二尺、湧如上入山法師に道はれし時の隠れし處なりと傳ふ。「宅良村伊藤氏庭園」指定名勝。伊藤氏七代の祖傳を業とせし助右衛門により享保前後當時流布せし庭園圖本を規として作造せられたるものなり。正面築山を置き泉池を設け池畔石を組み東方一位の瓦御新茂し城・石南・山茶等配植せらるゝあり。築山泉水の小庭として良く保存せられたるものなり。
 タクラン 卓蘭庄 臺灣新竹州大湖郡の南端。南は大安溪を隔て、臺中州に接す。管内は概れ山地なるも、概して東部高く、發善山・大克山等の標高千米以上を有する山々連なり。西部には大安溪訓流して管内を灌漑す。本庄下に於ける主なる産業は、農・畜・工・林の各業にして、農業其首位を占め、農産物類年約二十五萬圓に達す。其主なるものは米・

物として芭蕉・柑橙等は特に數多し、農家の副業として重要なものなり。又、土地の高燥にして温氣少く、温温又適當なれば、近年興業業を行ふ者多く、近き將來に於て重要産業たるの状況にあり。畜産は主として農家に於て豚・牛・家禽等を副業的に飼育するものにして、豚は最も多く、牛は殆ど農耕に使役せらる。工業は何れも小規模のものにして、多種多様なり。其主なるものは製茶・柑橙及び精米・木製品・竹織工等にして年約五萬圓の生産額を有す。又東部高原に廣大なる面積を占むる山林地帯よりは木材・薪炭村・木炭・竹類及び副産物等の林産年約二萬圓を出す。交通は指定道路二線を有し比較的便とす。本庄の地はもとアマヤシ族の住居せし地にして、其開拓は比較的後にして漢人の入墾後山蕃の侵入により大に苦しみと云ひ、我が領臺後、屢々本庄の土匪、大湖郡蕃地のアマヤシ族と共に謀りて我に敵對せり。本庄の地は行政上、清朝の領臺せし當時設けられたる據東上堡に屬し、本堡は我領臺の後も我行政下の一區劃として用ひられしが、大正九年十月、根本的地方制度の改正に際し、本堡中の單蘭・大坪林の二庄(現大字)の地を割きて卓蘭庄と稱す。
 タク 多氣 (多氣) 愛知縣西春日井郡にありし村。明治二十九年本村ほか三村を廢し北里村

【多気郡】三重縣伊勢國の南部。北は飯...

如く折げ米・藁を産し其他畜産・工業あり...

竹藪とも青く。地は凡そ今の上房郡上竹...

て海約群集するを以て、時に漁者の出...

茶等も産す。西隣八幡村には省嶺名松...

を流る、八手使用とを望み風光明媚なる...

細長き低地ありて、松浦川北方へ貫...

宅地等の内なり。宅地は工匠の興にして...

タケオカ

其家亡び、鍋島氏更に龍造寺家信(隆信の第三子)をここに託して一萬石を給し三國老の一とす。子孫世襲して鍋島の氏姓を留す。もと武雄郡と稱せしが二十二年町制施行の際分離して武雄町・武雄村となり、同三十三年更に合して武雄町と稱す。郡の首邑にして嘗ては郡役所の所在地たり。〔武雄温泉〕蓬萊山麓にあり。泉質、無色透明なる単純泉。古來相傳温泉また蓬萊泉ともいひ、神功皇后御太刀の柄を以て岩を衝かれし時、怒り湯氣を吹き湯泉湧き出でたりとの口碑残る。新館と舊館とに分れ、新館の入口丹塗の樓門あり、それを中心として舊の街氣分濃く遊樂的温泉場たり。〔武雄神社〕大字武雄に鎮座。徳社。祭神、仲哀天皇、神功皇后、外三神。例祭、十月二十三日。〔圓應寺〕曹洞宗。普門山と號す。永祿年中、武雄城主後藤伯耆守純明の創建、開山は了然惠超なり。境内に舊武雄城主鍋島家累代の墓あり。〔廣福院〕國師寺。大字宮岡にあり。臨濟宗南無寺派。蓬萊山と號す。仁治三年武雄城主後藤直明、東福寺神圓(聖一國師)を聘して新禪所に定む。のち後宇多天皇勅して護國の二字を賜ふ。本堂安置の佛運慶作木造四天王立像四軀は鎌倉時代の優作にて國寶たり。

タケオカ 竹岡村

千葉縣上總國津波郡の西南端。前賢水道に臨み、海町の南に隣る。南境は鍋山より東に横く丘陵地をなし村内も亦殆どこれに横く丘

タケオカ 竹折

陸地にて中央が小流西北に流れ、その流城にのみ水田畑地ありて米・麥を産し、養蠶も行はる。海岸は磯濱をなす。縣道は湯野より來り、海岸に沿ひて西南に走り、金谷村に入る。省級房産西線又これに沿ひ、竹岡(大正十五年設置)あり。この地は和名抄、天羽郡雨宮郷の内なるべく、近世大貫庄に屬す。維新前代官の支配地たり。大字竹岡は景行天皇東巡の時、磐鹿六鹿命をして鯛を造らしめ松魚を釣り天皇に進む。故に造鯛と名づく、のち造海となす。文明年中里見義成造海城を攻むるの時、城主眞里谷丹波守人をして語らしむるに、君が才文武を兼け、國歌を善くすと、今もし新詠百首を賦して余に示さば即ち降服すべしと、是に於て義成親により百吟立ところになる。吾波辭歌として降る、これに依つて百首村と稱せり。文化三年、松平越中守定信、砲臺を築き陣屋を此處に置き竹岡と名づく、明治三年これにより百首村を竹岡村と改稱。大字誕生は近世、大貫莊造海郷と稱す。〔竹岡村光澤發生地〕指定天然記念物。誕生神天宮内にあり。瀧水面に群集せる細微なる浮游藻類にして日光を反射し黄金色の光輝を發す。故に古來黄金池と呼ぶ。本郷の本邦最初の発見地たるのみならず發生の盛なる點亦著し。

タケオカ 武丘

千葉縣長生郡にありし村。明治二十三年藤岡町と改稱す。

天興

作り較帳を製せりと傳へられる。大字飯初も古昔は西門町庄と云ひ三所に分れ、南を本郷、中を中飯初、北を上飯初と云へり。尾張の妙興寺所藏の貞治六年丁未十二月九日南美作守泰隆の寄進狀に、尾張國中島郡野野内飯初郷云々と見え、昔此地一帯は尾張國に屬せし事明かなり。秀吉の時今の木曾川を境として尾濃の境界とせらる。大字狐穴は元大浦庄と云ひ、船田後記に、明應丙辰夏四月石丸利光之子利高云々次子瀬津石川之際、又瀬次子狐穴竹鼻と見え古き地名とす。昔此地には稻布を製にて染める染物屋多く、俗に狐穴染と云はる。〔竹ヶ鼻城〕本覺寺境内にある城址。應仁年中竹瀬伊豆守の築くところといふ。天正十二年小牧の役に織田信康の家臣不破源六これを守りしが、羽柴秀吉水攻めをなしてこれを陥る。慶長五年關ヶ原役には飯草城主織田信秀の將杉浦五左衛門これに居り東軍に攻め落されその後城址となる。

タケカワ

竹川橋 千葉縣竹川郷にありし村。明治二十三年藤岡町と改稱す。

タケカワ 武川

埼玉縣武藏國大里郡の中郡。荒川の北岸にて深谷町の南方にあり間に藤澤村を挟む。全村平地にて畑地多く殊に桑畑多し。養蠶盛にて蠶を主産し他に麥・米を産す。村の中央を北流する縣道は深谷町に通じ、これと交叉するものは熊谷市(約七町)に通ずるものにて、共に

タケカマ

指定天然記念物。松樹一株、根圍約三・七米・地上約三米の高さより横枝横がり出で傘狀を呈し樹容優美、赤松の名木として有数のものなり。〔武限〕岩沼町(宮城縣)仙那の中央南部。南流する氣仙川下流の左岸に位し東南は高田町に接す。東北境には水上山(八七五米)の山嶺あり沿ひて西に傾斜し山地多くなり氣仙川に沿ひて小平地あり。農を主業とし米・大豆・小麥・大豆・馬鈴薯・野菜等を産し、山地より用材・薪炭材を出す。縣道道野線・省線大船渡線西部を南北に通じ、後者は竹駒(昭和八年設置)を設け、交通不便ならす。此地は和名抄氣仙郡氣仙郷の内に屬す。此處は和名抄氣仙郡の内に屬す。文治五年葛西清重の所領となり、天正年間葛西氏滅亡後、木村時貞・龍生氏郷を経て伊達氏に歸し明治維新に至る。明治初年の縣の改設に伴ひ、相次いで登米縣・一ノ關縣・水澤縣・磐井縣・宮城縣の管轄に入り、同九年六月岩手縣管下に入り、同二十一年水上村との合村を解き翌年獨立し竹駒村となる。

タケサキ

竹崎庄 茨城県南州嘉義郡の北部。嘉義市に東隣す。管内は平地山地半々にして東部高く、獨立山・馬鼻山・天王山・尖峰子山・大湖山等の高山後峰連なり、西部に向ひて沃野を開く。管内を流る、主なる河川は、朴子溪の上流をなすものにして、數條に分れ、一は

タケカ

大字砂城附近に、一は東部なる天子山嶺に、一は大湖山嶺に發源し、大字竹崎に至り合流し、西方に流れ朴子溪の本流をなす。管内平地には農業發達し、主なる農産は米・甘藷・甘藷・黄麻・落花生等にして其他穀類九十萬圓に達す。其外園藝作物として蕃石榴・蓮霧・檳榔・木瓜・柑橘・鳳梨・龍眼・檸檬(マンゴ)、番荔枝・山茶花等十三萬餘圓の産出あり。畜産は主として農家に於て副業的に畜するものにして、水牛・黄牛・豚・家畜の飼育をなす。本庄管内は地勢複雑し、平地と山地との高低差五六千尺に達するを以て、其處に生育する植物・林相も甚だ複雑し、温帯・熱帯の兩相を呈し、木材・薪炭を出す外、交力坪には又一萬甲歩に達する植竹林を有し、桂竹・麻竹・孟宗竹を栽培し、竹材・生簡・乾筒等を出し其額三十萬圓に達す。工業は製糖工業最も盛にしてまた酒精・製粉・煉瓦・金銀細工・製粉及び精米・竹紙等の業あり。管内交通は便利良好にして、嘉義一既月間を運轉する總督府管林所經營の阿里山鐵道は管内西北部を通過し、庄下に西へり洞橋・鹿嶋産・竹崎・横濱寮・交力坪・水原寮・雲起湖の七驛を置き、獨立山に施設せられたる線路は有名たるスパイラル線なり。道路に於ても大字竹崎を中心として、民権・嘉義・小梅・番路に通ずるものあり、自動車の運行自由なり。本庄下の地の開拓は、遠く明治年間より

タケサト

埼玉縣武藏國南埼玉郡の東部。古利根川の西岸にて柏野町の南隣。

天興

タケサ—タケタ

面積七・三四平方町。全村平地にて殆ど水田をなし、西境附近には豊春村より大袋村に續く沼田の一部をなす。米を主産し、他に蕎麥・麥を産す。陸羽街道は村の東部を北走して粕壁町に通じ、社線東武鐵道伊勢崎線又これに沿ひ、村内に武里驛(明治三十二年設置)一ノ割驛(大正十五年設置)を置く。この地は近世、埼玉郡新方領に屬し、江戸時代、幕領、采地入り交りし地たり。

タケサワ

【武里】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【竹澤村】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【武石】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。

タケシ

村内に竹澤驛(昭和九年設置)あり。
【武石】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【武石村】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。

タケシタ

城にして依田二郎、同その子二郎實信、本曾義仲に従ふ。信州依田は他に二流あり。壽永年間、未曾義仲これに據りしとあり。【地山ノ瀧】 高さ二〇米、幅六米。【欄上ノ瀧】 高さ二〇米、幅一〇米。【心住ノ瀧】 高さ二五米、幅九米。

タケシマ

【竹田】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【竹田村】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。

天哭

七九〇米の地に位す。泉質酸性硫酸泉。皮膚病・リウマチス・婦人病に効果ありと云ふ。【大隣寺】 大字成田にあり。曹洞宗。兵部山と號す。寛永四年白河藩主丹羽氏藩祖長秀菩提の爲これを創建し、福井藩持寺全税を請じて住せしむ。爾來丹羽氏代々の歸依を受け、寺領百石を寄せらる。

タケタ

【竹田】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【竹田村】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。

【竹田】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【竹田村】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。

タケタ—タケタ

面積七・三四平方町。全村平地にて殆ど水田をなし、西境附近には豊春村より大袋村に續く沼田の一部をなす。米を主産し、他に蕎麥・麥を産す。陸羽街道は村の東部を北走して粕壁町に通じ、社線東武鐵道伊勢崎線又これに沿ひ、村内に武里驛(明治三十二年設置)一ノ割驛(大正十五年設置)を置く。この地は近世、埼玉郡新方領に屬し、江戸時代、幕領、采地入り交りし地たり。

タケサワ

【武里】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【竹澤村】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【武石】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。

タケシ

城内にして依田二郎、同その子二郎實信、本曾義仲に従ふ。信州依田は他に二流あり。壽永年間、未曾義仲これに據りしとあり。【地山ノ瀧】 高さ二〇米、幅六米。【欄上ノ瀧】 高さ二〇米、幅一〇米。【心住ノ瀧】 高さ二五米、幅九米。

タケシタ

【竹田】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【竹田村】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。

タケタ

【竹田】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【竹田村】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。

天哭

七九〇米の地に位す。泉質酸性硫酸泉。皮膚病・リウマチス・婦人病に効果ありと云ふ。【大隣寺】 大字成田にあり。曹洞宗。兵部山と號す。寛永四年白河藩主丹羽氏藩祖長秀菩提の爲これを創建し、福井藩持寺全税を請じて住せしむ。爾來丹羽氏代々の歸依を受け、寺領百石を寄せらる。

【竹田】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。
【竹田村】 山梨縣北五郡にありし村。昭和八年新方領と合併し武川村を置く。

古くは和名抄、直入郡直入郷の内に属し、近世は附近諸村と共に入田郷と稱せらる。...

諸・蔬菜の外、芭蕉・鳳梨等を生産す。畜産業は農家に於て副業的に養われ、水牛・黄牛・インド改良牛・山羊・家禽等を飼育し、牛類は概ね農耕労働用に使用せらる。...

にて交通なほ便利ならず。津輕信政、新田開發の業を行ひし時各地より移住し來れる人々によりてこの村が形成せられたり。...

武田あり。或は勝田村・川田村がその郷城ならん。【武田】 下總國(千葉縣)の古地名。和名抄、香取郡に健田郷あり、その地今の香取郡米澤村・神崎町・高岡村等の邊に當り、米澤村の大字武田は郷の遺稱なるべし。...

抄、安房郡に健田郷あり、多介大と謂す。その地今詳かならざるも安房郡田邊村の邊に當るか。一に七浦村邊に當るともいふ。...

【武田】 香森縣陸奥國北津輕郡の北西郷。岩木川下流の右岸に沿ひ、南は金木町に接し北は十三湯に達し、西は岩木川の古川を境に西津輕郡に隣る。...

分見て類集するに至る、世上稀に見る現象なり。【神の御杖抄】 指定天然記念物。杉一株、日通幹圍約九米、地上約二米にて一大横枝を出す。杉の巨樹として有数のものなり。...

積約一七八方軒の大村。東は上北郡十和田村、南は秋田縣鹿角郡小坂町に界し、西は破ヶ關村及び蔵館・石川・柏木の三町に、北は町居・尾崎・山形三村に隣る。...

四ヶ町村の一。石垣町(石垣島の西半部を占む)の南西岸を距る約四軒に横はる竹富島をばじめ、西方の小嶺島、西南方の黒島・新城島、それらの西方にある西表島、南方の波照間島、北方の鳩間島等を含む、面積三七二方軒を占む。...

【武田】 安房國(千葉縣)の古地名。和名抄、安房郡に健田郷あり、多介大と謂す。その地今詳かならざるも安房郡田邊村の邊に當るか。一に七浦村邊に當るともいふ。...

【武田】 香森縣陸奥國北津輕郡の北西郷。岩木川下流の右岸に沿ひ、南は金木町に接し北は十三湯に達し、西は岩木川の古川を境に西津輕郡に隣る。...

積約一七八方軒の大村。東は上北郡十和田村、南は秋田縣鹿角郡小坂町に界し、西は破ヶ關村及び蔵館・石川・柏木の三町に、北は町居・尾崎・山形三村に隣る。...

四ヶ町村の一。石垣町(石垣島の西半部を占む)の南西岸を距る約四軒に横はる竹富島をばじめ、西方の小嶺島、西南方の黒島・新城島、それらの西方にある西表島、南方の波照間島、北方の鳩間島等を含む、面積三七二方軒を占む。...

【武田】 安房國(千葉縣)の古地名。和名抄、安房郡に健田郷あり、多介大と謂す。その地今詳かならざるも安房郡田邊村の邊に當るか。一に七浦村邊に當るともいふ。...

【武田】 香森縣陸奥國北津輕郡の北西郷。岩木川下流の右岸に沿ひ、南は金木町に接し北は十三湯に達し、西は岩木川の古川を境に西津輕郡に隣る。...

積約一七八方軒の大村。東は上北郡十和田村、南は秋田縣鹿角郡小坂町に界し、西は破ヶ關村及び蔵館・石川・柏木の三町に、北は町居・尾崎・山形三村に隣る。...

四ヶ町村の一。石垣町(石垣島の西半部を占む)の南西岸を距る約四軒に横はる竹富島をばじめ、西方の小嶺島、西南方の黒島・新城島、それらの西方にある西表島、南方の波照間島、北方の鳩間島等を含む、面積三七二方軒を占む。...

【武田】 安房國(千葉縣)の古地名。和名抄、安房郡に健田郷あり、多介大と謂す。その地今詳かならざるも安房郡田邊村の邊に當るか。一に七浦村邊に當るともいふ。...

【武田】 香森縣陸奥國北津輕郡の北西郷。岩木川下流の右岸に沿ひ、南は金木町に接し北は十三湯に達し、西は岩木川の古川を境に西津輕郡に隣る。...

積約一七八方軒の大村。東は上北郡十和田村、南は秋田縣鹿角郡小坂町に界し、西は破ヶ關村及び蔵館・石川・柏木の三町に、北は町居・尾崎・山形三村に隣る。...

四ヶ町村の一。石垣町(石垣島の西半部を占む)の南西岸を距る約四軒に横はる竹富島をばじめ、西方の小嶺島、西南方の黒島・新城島、それらの西方にある西表島、南方の波照間島、北方の鳩間島等を含む、面積三七二方軒を占む。...

【武田】 安房國(千葉縣)の古地名。和名抄、安房郡に健田郷あり、多介大と謂す。その地今詳かならざるも安房郡田邊村の邊に當るか。一に七浦村邊に當るともいふ。...

【武田】 香森縣陸奥國北津輕郡の北西郷。岩木川下流の右岸に沿ひ、南は金木町に接し北は十三湯に達し、西は岩木川の古川を境に西津輕郡に隣る。...

積約一七八方軒の大村。東は上北郡十和田村、南は秋田縣鹿角郡小坂町に界し、西は破ヶ關村及び蔵館・石川・柏木の三町に、北は町居・尾崎・山形三村に隣る。...

四ヶ町村の一。石垣町(石垣島の西半部を占む)の南西岸を距る約四軒に横はる竹富島をばじめ、西方の小嶺島、西南方の黒島・新城島、それらの西方にある西表島、南方の波照間島、北方の鳩間島等を含む、面積三七二方軒を占む。...

謂ゆる知多木船(酒木船)を産し、手拭地、中形地がまし。町には又製材所・ダ...

タケナカ 竹中村

大分縣豊後國大分郡の東南部。大野川の左岸に沿ひ、大分市の南方約九軒。全村山岳をなし、南部中央に天面山(四〇三米)あり。中部には浅い狭長な谷東西に連る。東境に沿ひて大野川北流し、沿岸僅かに低地開く。山林廣く耕地面積乏しき米・麥を産し山地は薪炭を出す。また牛の飼養も行はる。省編豊後本編東部を貫きて竹中驛(大正五年設置)あり。此地古くは和名抄、大分郡判田郷の内に屬し、中世以降附近諸村と共に戸次庄と稱せらる。

タケナガ 竹永村

三重縣伊勢國三

重郡の北部。伊勢平野の北部を占め四日市市の西北約一軒。面積六・八八方軒。全村地形低平、朝明川西北流して北境を限り東北に入りて東南方へ轉ず。沃野よく開け純農村にして米の産最も多く繭これに次ぎ麥・蔬菜も出す。外に工業もあり。四日市市へは定期バスの便あり。此地古くは和名抄、朝明郡田光郷に屬せるものなるべし。村名は明治二十二年町制施行の際竹成・永井の二部落を合併して命名せるもの。永井はもと長井に作り神風抄に長井御厨四十町など見ゆ。

タケナミ 武並村

岐阜縣美濃國惠那郡の西端。東濃山地の中部を占め、北は木曾川が峡谷をなして西流し、南部には竹折川が西南へ流れ、西都瀬現山は花崗岩山地なり。舊中山道たる上街道は権現山麓を東西に走り、其後不便なるを以て竹折川の谷に移し、南部には宿の地名存す。今之と平行し中央本線通じ大井驛に近し。臺地上には水田分布し、米・麥・野菜・繭等を産す。此地は和名抄の惠奈郡竹折郷の地に於て今大字竹折の地名存す。竹折とは傳説に日本武尊、御東征の御歸途竹を折りて杖とし給ひしに由ると云はれ、また明治天皇及び和宮の御小遊所等あり。明治三十三年村社の名を取り武並村と改稱す。

タケヌキ 竹貫村

福島縣磐城國東白川郡の時東北部。阿武隈山地の西斜面に屬し、入道山(六八七米)は東北に聳え、

タケノ 竹野

【竹野郡】京都府(丹後國)の十七郡の一。北は日本海に臨み、東南は奥羽郡、南は中部、西は熊野郡に界す。丹後半島の北斜面を占め、五百米内外の丘陵性臺地連互し、東南部に金剛童子山(六一四米)あり。竹野川は中部より東に中部を北流して海に入る。この川口より東、經々岬に至る海岸には岩壁散布して舟行極めて危く、西北風の時は逸舟をも撃ぎ滅し。地質は花崗岩とその上に堆積せし第三紀中新世期及びそれ以後の水成岩・火山岩とよりなり、斷層により多数の地塊に分たれ昭和三年三月七日の丹後大地震の際に生ぜし斷層は、震源は地下深所なるも岩床の斷層が動きしものなり。本郡は有名なる丹後繭織の産地にして其産多く羽

二重も出す。農産物は米の外に麥・甘藷・大豆等を出し、鯛・鱈・鰯を主とする漁獲物も多し。街道は各河川低地に沿うて走り自動車便あり。本郡は續紀和銅六年の條に丹波國竹野郡以下五郡を以て丹後國を設くと見え、和名抄は多加乃と訓じ津水・納野(湖野の誤)・鳥取・小野・間人・竹野の六郷を置く。爾後大變北なく今タケノと訓す。昭和三年の丹後の大地震には被害の最も甚だしかりし所なりしも、今は既に復興し舊米以上の繁榮を誇るに至る。

【竹野村】

京都府丹後國竹野郡の北海岸。奥羽半島の北岸に位し、間人町の東に隣る。面積七・三六方軒。全村丘陵をなし西部及び西北岸に低地開く。東北岸には大ヶ岬の突出あり。田畑よく拓げ、農を主要とし米の産多し。また工業・畜産・林産・水産あり。海岸近くを府道東西に走り西部には之より分れて南下し南方岬山方面へ至るものあり。古くは竹野郷に作る。和名抄に竹野郡竹野郷あり。竹野郷の郡名ありし處なるべし。而して調を聞くも、郡名と同じく多加乃と訓みしものならん。郷城は本村及び八木村に互る。式内竹野神社あり。中世は竹野庄といふ。寛治元年の大嘗會には主基方となれり。大嘗會歌集に「我君の千代の數かも五月雨の竹野の村の軒のため水 前中納言民房」とあり。權新前は幕府の直轄地として久美代代官所に屬し舊時の石高千

二百三十二石五斗二升八合なり。(竹野神社)大字宮に鎮座。府社。祭神、天照大神。大縣主山基理の女竹野姫、垂仁天皇に奉仕せしが、老後本國に歸り、天照大神を祀り奉りしに創まるといふ。延喜の制大社に列し國幣に預る。例祭、十月一日。(神明山古墳)指定史蹟。竹野神社の傍にあり。東北より延びたる丘陵の尾の部分に營まれし宏大なる前方後圓墳にして長さ一五〇米、三段に築かれ、中央の狭部に圓形造出を備へ、基石一面にあり。墳輪圓筒は前方部の上端、兩側、後圓部の周圍に埋没す。出土品に石製模造品・土器等あり。

【竹野村】

京都府丹波國船井郡の西部。國郡町の西、須知町の南に隣る山村。四圍山地を繞らし西南境に三國嶽(五〇八米)あり。之等山地は低山性にして山頂準平原面を呈するもの多し。中央は狭き谷をなし高尾川南境に源流して、これを北流す。農を主産とし米・麥を産し山地は用材・薪炭を供給し其他仔牛を出す。山陰道東部を通過し、省線山陰本線國郡驛へは東方約六軒にして達す。

【竹野村】

兵庫縣但馬國城崎郡の北海岸。南は城崎町、北は日本海に臨む。地形東西に細長く、二つにくびれ、東西兩部とも高さ三―四百米の平原性の山地よりなり、兩山地の間は切れて低地をなし、南方より来る溪流は、これを流れて日本海に注ぎ流域に耕地を拓く。海岸は出入に富む

タケノ—タケハ

岩石海岸を形成し急崖をもつて海に臨む所あり。城崎町よりくる縣道は南境中央部より北上し竹野村落より海岸にそうて西走す。省線山陰本線は溪流に沿ひて北上し、村境近くの中竹野村に竹野驛を設けて、海岸線に沿ひて西走す。當村の戸數六二〇(昭和十三年五月末現在)の内、農二五〇、漁一一〇、鐵一〇〇、其他一五〇にして、農産物は米が首位をなし蔬菜・花卉・果實これに次ぐ。漁獲物の主なるものは鱈にして、石材(水成岩)はまた當村の特産物として見逃すべからざるものとす。當村附近は往昔は海なりしが竹野川によつて伸積層をなす。村名は當村の大部分をなす部竹野(いま大字)より取たるもの、此の竹野の名は、かの神積層一帯にもと小竹叢生し居たるを以て竹野の嶺と稱へしに始まるといふ。竹野驛より約一軒にして竹野濱海水浴場あり、濱は白砂にして海水は清し。大字竹野は戸數約四百にしてもと海運盛んなりしが鐵道開通以來漸く衰微し或者は轉業し、或者は北米・フィリッピン等へ移住す。なほ當村には日本海岸の他縣より居留して水産業に従事するもの多し。この地は奥竹野・中竹野の二村と共に和名抄、美含郡竹野郷の地なり。(竹野鐵山)本村及び中竹野村に互る金銀山にして鐵區は三より成る。(一)は竹野・中竹野の兩村に跨り鐵區約三十二萬坪、重要鐵山に指定せられ、(二)は中竹野の地籍にあり鐵區二

萬二千六百坪、(三)は中竹野村の地籍にあり鐵區二萬二千六百八十坪にして、後二者は(一)と合併施業せらる。昭和十年に金銀礦二八一五應を産し、製錬は佐賀縣製錬所にて行ふ。當山には鐵夫五十人を使用し、現在日本鐵業會社の經營に屬す。(但馬鐵山)本村及び日佐津村に跨る金銀山。鐵區八十六萬三千七百坪、本邦重要鐵山の一たり。昭和十年金七二八二八五、銀一四一四一五九〇元、その總價額約三十二萬二千圓を産す。同年六月末現在にて使用鐵夫一四四人、現在但馬金山會社の經營に屬す。

【竹野(郡)】

↓竹野(郡) 【竹野村】 福岡縣筑後國浮羽郡の西南部。久留米市の東方約一二軒。南境に耳納山ありてその山脚北に懸斜し、概且南半は山麓帯をなすも、北半は所謂筑後平野の一部を占めて地低平にして肥沃、耕地廣く拓く。耕地の大部分は水田にして米の産多し。東北隅の田主丸町へパスの便あり。古くは和名抄、竹野郡竹野郷の地に於て、平家物語に筑後竹野本庄とあるも此地ならん。

【竹野島】

竹島とも書く。鹿児島縣大島郡大島村の隔島。所謂川邊十島の一。硫黄島の東約四哩、周圍約一―二軒。島の北東側に馬籠岳(約二二五米)あり、また島の西角は崛起して直立約七五米の一圓錐形を成す。岬角多きも概ね其附近には隠

岩あり、たゞ島の北側に一小洞あるのみ。全島黎明竹にて葎ばれ、竹島の名は蓋しこれより起る。桑葎は島のほゞ中央にあり。文化九年此島へ群鼠海を渡りて來り耕作物を悉く食盡し、島民饑饉に及びしことありといふ。

タケノウチ 竹ノ内越

葛城郡磐城村と大阪府南河内郡山田村との境上、即ち二上山(四七四米)の南縁鞍部を越ゆる山路。最高點二八九米。大和平野の南部より河内方面に出づる竹ノ内街道の一要路とす。

タケノシタ 竹下

↓足柄村(靜岡縣) 【タケノハラ 竹野原】 山梨縣東八代郡にありし村。昭和六年花鳥村と改稱。

タケハナ 竹鼻鐵道

社線。岐阜縣羽島郡笠松町の西笠松驛より竹ヶ鼻町を経て桑原村の大須驛に至る一六・一軒。軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸。

タケハラ 竹原

【竹原村】 茨城縣常陸國東茨城郡の西南隅。新治郡石岡町・高濱町の北に隣る。大部分は低き臺地をなしその間に低地樹枝狀に狹まる。南境を東南に流るる國部川の流域には細き低地ありて畑地及び沼田をなす。米を主産し他に麥を産す。また野菜の促成栽培行はれて胡瓜・茄子を産す。陸前濱街道は石岡町より來り村の中央を北走し、主なる集落は之に沿ひて發達す。石岡町との間にパスの便あり。

又省領常磐線は村の西部を北走して羽鳥驛(明治二十八年設置)を置く。古くは和名抄、茨城郡生田郷(原本国に作るは誤)の地とす。惣社文保三年遺跡目録に竹原郷、地頭、彌七とあり、蓋し生田郷の名に替れるならん。また小川、益戸の一族に高原氏あり、即ち此地の住人とす。東鑑に佐竹義政を大矢橋に誅殺すと見えるは大字大矢の邊なり。章懐の志士にして筑波山の義舉の際、率先これに参加せし島田文右衛門(贈從五位)は此地の人とす。

【竹原村】岐阜縣飛騨郡益田郷の東南部。高山市の南方約四〇軒。飛騨山脈の南部山中を占め主に噴出岩よりなる。北部には寺田小屋山(一五〇五米)・高森山・白草山(一六四〇米)等屹立し、東北境には濃霧信の境をなす三國山(一六一〇米)等、南する程低くなり拜殿山(一四〇二米)、更に南境には野瀬山(八八一米)あり。大體白草山の西南斜面が大部を占め、乗取川は高森山麓より南流し、御所野川は東南端舞臺峰(六九三米)の麓御所野川に發源し南流して合流し、更に西境に輪川を合せ竹原川となる。下流は峡谷をなし、上流にては盆地状低地を作り新田には鑛泉の湧出あり。此等の川の流域には水田あり、其縁途には桑畑多く養蠶行はる。北部の新田の如きは下流より漸次山奥平地へと開墾開拓せる痕跡を示し、飛落は何れも山村のため散村をなす。交通は不便にして益田街道が益

田川(竹原川)の谷に通じ、東南端舞臺峰を越えて南北街道となり、加子母川の谷に出づ。鐵道はこの街道より高山本線下呂驛に至るを便とす。本村は和名抄の益田郡秋野郷の地ならんも不詳。中世は竹原郷と云はれ、江戸時代は高山藩領となり更に幕領となり明治に至る。明治となり三郷村と稱せられ、のち更に竹原村と改稱。村内に枝垂栗自生地あり、野生のものにして著しき時葉を表はし、天然記念物に指定さる。

【竹原】伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に山田郡竹原郷あり。地は今の阿山郡山田村ならんと云はる。
【竹原町】廣島縣備後國賀茂郡の南部。瀬戸内海に臨み、竹原港(内務省指定港)を擁ふ。面積六・九二方軒。賀茂川河口の沖積平地を占め平坦肥沃な耕地を拓き沖積地の干拓されし所には鹽田を設く。東境には高野約一〇〇米の丘陵ありて海に迫り賀茂川に急斜す。農業盛んにして米・麥・葡萄その他の果物を産したる清酒・醬油等の醸造行はる。製鹽及び銅・錫その他の漁獲多く、各種の産業は何れも活況を呈す。有線英線通過し竹原驛(昭和七年設置)を設く。縣道西條町に通じバスの便あり。この地は頼山陽の郷里として有名なり。建久年間源義家の臣後藤實實基來りて宇佐八幡の分靈を勧請し此地方の宰領となりし當時は、一帯淺海にして海濱深く彎曲し浪の浦と稱し民

家務なりしといふ。戰國時代の末小早川隆景の長生寺を建立せし時代より、慶長年間毛利氏の將村上武慶來りて瀬海山に居城せし頃は、下市村と呼び人煙漸く繁し。正保年間浦邊奉行の鈴木重仍氏干湯の生成を利用して瀬川を穿ち竹原鹽田の源を開けり。降つて寛保安永の頃年寄役吉井氏等横山を圍み賀茂川を南流せしむる大業を完成せり。元禄・享保の頃には頼實實基來りて輩出し文教興隆を極めたり。明治に入り二十二年町村制實施の際、下市村を竹原町と改む。(磯宮八幡神社)大字下市に鎮座。郷社。祭神、多岐郡比賣命・多岐理比賣命、外三神。建久五年後藤實實基前國守佐神宮より勧請創祀す。例祭、九月十五日。(郷賢祠)大字竹原小學校内にあり。天保年間磯宮八幡神社境内に建設せられしが、のち現地に移され毎年三月廿二日祭典執行さる。祭神は江戸時代親しき郷黨を指尋誘被せし、竹原一郷の先賢たる唐崎幸齋・唐崎春風・唐崎赤奇・寺本立軒・頼清・頼春風・頼谷道成・吉井正伴・木村好賢・木村政信・笠井貞之・笠井貞直・菅野善・吉井元庸・村上貞之・吉井貞榮・本庄貞居・吉井豊庸・道工彦文・南條問の二十名なりしが、明治時代に至りて更に創設者頼春野、郷社教育者中村三理の二名を合祀す。(頼實實基)土藏造、重層本瓦葺の建物。山陽の祖文守翁の居宅

しをいつの頃にか現地に移ると。良忠法親王の縁起寄附あり。(龍泉寺)曹洞宗。本尊釋迦如來。應安元年名寂靈夢により建立。慶長二十年本多侯の菩提寺となる。境内に御堂あり。家康、秀忠、秀康の木像を安置す。(龍門寺)曹洞宗。釋迦如來を本尊とす。正安元年創立。開山は境岩と云ふ。のち中絶。職田信長の武將之に在居。天正十六年木村常陸介、これを再興す。(引接寺)天台宗眞盛派。宇野町にあり。本尊阿彌陀如來。長享二年圓戒師眞盛上人後土御門天皇の戒師となり御内佛の引攝の勳記と勳額を賜ひ國守朝倉貞景上人に歸依して創設し、引接寺と號す。明治十一年明治天皇の行在所となる。寶物に後土御門天皇宸筆・住生要集九卷・引攝圖陀等あり。本堂・客殿・方丈・庫裡・土藏・鐘樓・地門・觀音堂・石佛堂・普賢堂の外、塔頭十一院あり。(本興寺)本妙法華宗。古くは眞言宗にて興隆寺と稱し、延徳元年日源に至りて現宗に改め本興寺と號す。寶物に日蓮上人宸筆・大圓秀吉遺物。光嚴司の鬼子母神等あり。(陽顯寺)宇野町にあり。眞宗本願寺派。開基善徳は本山壺橋寺門跡なりしが、蓮如上人に歸依し正圓房と號し本郡神山村圓本に一字を建立。三代善海房の時府中城主青木紀伊守の歸依により此地に移る。寺寶に實如上人の文書あり。同派の進枝寺なり。(圓宮寺)眞宗大谷派。郡下第一の寺院。了心なる者

にして、その子春水(山陽の父)・春風・春坪、何れもこの家に生長せし頼家發祥の舊蹟たり。(照應寺)大字上市にあり。眞宗本願寺派。もと禪宗にて定林院と號せしが慶長八年淨喜法師現宗に改む。小早川隆景幼時本寺にて習字せしといふ。蘇を以て朝鮮の喚鐘を寄進していまに存す。高麗朝光宗の統曆四年の銘ありて國寶に列せらる。(四方寺)淨土宗。引接山と號し、もと田中村にありて禪宗なりしが、慶長十五年火災に遭ひ、翌十六年現地に移し淨法法師之を改宗す。境内觀音安置の觀音像は唐作にして小松内府重盛の護身佛たりと傳ふ。

【タケフ】武生町 福井縣越前國南越郡の北端。福井市を去る南方約一九軒。日野川中流域の平坦地に位し、東は今立郡北日野村、西北は丹生郡大虫・吉野二村に隣る。面積僅に三・五五方軒。北陸街道に沿ひ、省線北陸本線武生驛(明治二十九年設置)ありて南越鐵道・福武電鐵と接続し、北陸街道をばじめ、東西に派出する縣道にはバスの便ありて交通の一要衝をなし、打刃物・織物・蚊帳・製紙等の工業業。特に鳥の子紙・墨法染紙は武生の特産として著はれ、織物には平地羽二重・人絹物多く、刃物には鎌・剃刀・鋸・鉈・斧等あり。この地は和名抄、丹生郡同本郷の内。越前の國府をばじめ、國分寺・郷社のありし處。鶴馬榮にも武生の名見ゆ。鎌倉時代より

は府中とよばれ、文明年間には甲斐左京亮の根據地となる。其後變遷を経て江戸時代に入り國守松平氏のお宿本多富正の居館の地となりて明治維新に及ぶ。明治二年府中の稱を廢して鶴馬榮中の武生の名に改め、明治二十二年町制を布く。もと郡役所を置かれし地、いま警察署・區裁判所の外、中學校・女學校等あり。明治十一年十一月明治天皇北陸東海御巡幸に際し御小休あらせられ、いま明治天皇武生行在所として指定史蹟たり。(府中城)文明三年甲斐左京亮府中を根據とし制倉孝景の兵と鶴江・新庄に戰ひて敗死し、孝景の有に歸し、その孫孝景は臣下富田長秀に讓せしむ。元龜三年長秀その主義景に叛きて織田氏に通じ、この地を所領せしが、天正三年一向一揆のために攻滅せざる。同年九月前田利家ここに對せられしが後金澤に移り、堀秀政の屬城となる。慶長二年青木一矩、同五年堀尾吉明相次ぎて治せしむ。翌年結城秀康入部し、老臣本多富正に興へ四萬五千石(後二萬石)を食ましむ。居館の跡は今、武生小學校の敷地となる。藩校立教館は嘉永六年本多富正の時舊御範家の諸遺物を集め諸流演武場を新設し學校を創立して立教館と稱す。初め松原通りにあり。のち館邸の前宇御邸屋に移轉す。文久二年通徳堂と改む。經書科は初等、歴史科は中等、文章科は上等に所課し算術は上中下の三等に分ち、文學とは別に之を課せり。漢士

は七歳にして入學せしめ、二十歳に至るを普通とし、志願者は尙留りて研學するを許す。(龍門寺城址)宇野町にあり。今の正圓寺、蓮向寺の土地なるべし。東西八〇米、南北約九一米、南方に空堀あり。今墓地となる。富田長秀、一揆三宅權之丞、不破河内守等の居城たり。(新善光寺城址)今の正覺寺境内に當る。延元の初足利高經の守護として府中に治せし時この城に據り同三年二月敗北。藤屋義助之に據り興國元年九月十三日足利の將得江天野の爲め攻めらる。(郷社神社)縣社。祭神大己貴神。相殿に天地神靈と五十八社を祀る。聖武天皇天平十一年諸國に勅して各國の郷社に大己貴命を併祀せしめ給ひしに創る。應仁の亂後漸次衰へしが、尙代々の國主等の崇敬絶えざりき。神殿・拜殿・幣屋・倉庫・御水洗・社務所等あり。九月十五日例祭を行ふ。(藤垣神社)郷社。祭神、本多富正。舊藩士民が富正の功を思慕し明治十五年九月創建。寶物に具足二領(富正)・千鳥の屏風等あり。例祭五月十二日。(國分寺)宇野町にあり。天台宗。本尊は藥師如來。天正十一年聖武天皇の勅願により行基の創建。數度の火災に遭ひ寺域を失ひ寶瓶す。本尊は高一尺六寸、行基菩薩の作と云ふ。(帆船寺)宇野町に在り。天台宗。本尊千手觀音。繼體天皇の御草創と傳ふ。しかし同寺文書によれば泰澄大師が夢想により今立郡帆船村に建立せ

しをいつの頃にか現地に移ると。良忠法親王の縁起寄附あり。(龍泉寺)曹洞宗。本尊釋迦如來。應安元年名寂靈夢により建立。慶長二十年本多侯の菩提寺となる。境内に御堂あり。家康、秀忠、秀康の木像を安置す。(龍門寺)曹洞宗。釋迦如來を本尊とす。正安元年創立。開山は境岩と云ふ。のち中絶。職田信長の武將之に在居。天正十六年木村常陸介、これを再興す。(引接寺)天台宗眞盛派。宇野町にあり。本尊阿彌陀如來。長享二年圓戒師眞盛上人後土御門天皇の戒師となり御内佛の引攝の勳記と勳額を賜ひ國守朝倉貞景上人に歸依して創設し、引接寺と號す。明治十一年明治天皇の行在所となる。寶物に後土御門天皇宸筆・住生要集九卷・引攝圖陀等あり。本堂・客殿・方丈・庫裡・土藏・鐘樓・地門・觀音堂・石佛堂・普賢堂の外、塔頭十一院あり。(本興寺)本妙法華宗。古くは眞言宗にて興隆寺と稱し、延徳元年日源に至りて現宗に改め本興寺と號す。寶物に日蓮上人宸筆・大圓秀吉遺物。光嚴司の鬼子母神等あり。(陽顯寺)宇野町にあり。眞宗本願寺派。開基善徳は本山壺橋寺門跡なりしが、蓮如上人に歸依し正圓房と號し本郡神山村圓本に一字を建立。三代善海房の時府中城主青木紀伊守の歸依により此地に移る。寺寶に實如上人の文書あり。同派の進枝寺なり。(圓宮寺)眞宗大谷派。郡下第一の寺院。了心なる者

長元七年本郡大體に一字を削ぐ。其後見了の時蓮如上人に歸依しいつの頃にか府中に移る。豊太閤の本印あり。了心は爾來大體八幡の別當登天台宗の阿闍梨なりしが朝倉始末記等によれば一向一揆時代の一方の大將なりき。(淨秀寺)眞宗大谷派。古くは眞言宗を奉じ正常念寺と號し丹生郡津津にありしが、文明五年三月現宗に改め二代眞賢の時延徳元年八月淨秀寺と改む。元和三年當地に移る。

【タケフ】高生 武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に横見郡高生郷あり、多介布と訓す。その地今の比企郡西吉見村・北吉見村の邊に當り、西吉見村の大字田甲は郷の遺稱なるべし。
【タケフ】武茂 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄那須郡の條に茂武郷とあり、蓋し倒置せしもの。武茂は上調下番にして異例とす。後世これをムモまたばモモと呼びたるは上調を共に音讀したるが故なり。中世或は武毛に作り私稱郡號にも呼ばれたり。其地は今の那須郡馬頭町・武茂村・大内村の邊に當る。
【タケフ】建部 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄多摩郡に建部郷あり、その地今の養老郡牧田村・一之瀬村の邊に當るか。中世建部庄と稱せし地なるべし。
【建部村】滋賀縣近江國神崎郡の中部。八日市町の北に接す。西部に其作山(三七六米)東斜面の山地あるのみにして東

タケヘ——タケヤ

の大部は愛知川沖積平野なり。其作の本村に属する部分...

の建部神社々領、京都の北野神社々領、天龍寺領も之に加はり...

國鐵走り、建部驛(明治三十三年設置)を設く。古くは健部郷に作り、和名抄に津高郡健部郷とあり...

不便なり。タケマツ 竹松村 長崎縣肥前國東彼村郡の西海岸...

タケヤ——タケヤ

嶺山・嶺頭山・五又岩山・鳥松坑山、南嶺に直原山・石塚山、内部に鳳凰山・鞍馬山・鹿野山等...

餘石を産出し、年産價格十七萬圓の甘藷及び年産價格十八萬圓の芭蕉と共に...

等にして、殊に竹細工は副業として隆盛を極め、製品の種類産額多し。交通は山岳重疊するに...

業にして養蚕戸数は總戸数の五割に相當す。主要農産物は...

隣谷庄と共に沙連を形成す。最も早く開拓せられたるは大宇竹園子・竹山として竹山は現行制度以前林地と稱し、小市街を形成す。この一帯は明末鄭氏の時代既にその郡將林地によつて開かれ、即ち彼が部下二百餘名を率ゐ、この地に入りて開屯を企て、先づ竹園子を根據地とし、土着の番人を驅逐して東北なる東埔納（一に東埔納に作り、大宇江西林に屬す）附近に遷く。番人夜に乘じて遊獵し、林地及び部下百餘人悉く殺害せらる。遺族追撃して之を掃蕩し、番人を遠く山麓に遷げ、地を開き町名に因みて林地と名づけたり。市街の内に崇本堂あり、林地の靈位を祀り、題して「開開水沙連右參軍林地公一位神主」といひ、竹園子に林地の墓を存す。又東埔納にある沙東宮は鄭成功を祀り、當時の創建と傳へらる。諸縣志には此地一に二重埔といふともいへり。臺灣府志（續修）には林既埔街と記したれば、以て同書の成りし乾隆二十九年以前既に街市の形づくられたること知らる。この地は往時西方斗六、東北方葉々の兩地中間の要路に當り、彰化縣志に「爲斗六門等處入山路」といひ、雲林縣採訪冊には「爲沙連貿易地」といへり。光緒十二年清國政府は開山撫蕃の發展に伴ひ、雲林縣を新設するや、翌年二月此の地に縣城を建設す。即ち知縣陳世烈は地方紳民の義捐を募り、土垣を築き竹を覆植すること三重にして周圍一

千三百丈、廣さ六尺の城壁となせり。成るに及び、城外に旌義亭を建て、紳士の義心を旌表し、亭内に石を立て標して「前山第一城」といひ、雲林城と名づけたり。蓋し地勢概ね山岳連互し、朝暮には雲霧深く森林を鎖ざるの形勢に基づき雲林の名稱ありしを以てなり。かくして雲林なる稱呼は當時自ら林地埔の代表として用ひられ、同十二年又撫臺局を設かる。然るに毎年夏期に際し、縣城區域の南北に横はれる濁水及び清水の二溪氾濫し、交通を絶つる虞ありしより十九年知縣李銓の時、縣城を斗六（西隣）に移せり。是に於て舊稱を襲用して雲林城といひ、その結果、雲林なる稱呼は轉じて斗六の代表として用ひられたり。

タケヤマ 武山村

神奈川縣相模國三浦郡の西部。相模灣に臨み横須賀市の南隣。全村丘陵地にて森林あり。西部の海岸のみ狭き平地ありて畑地、田地をなす。農業行はれて黍・甘藷・大豆等を主産す。海岸は小田和瀬入し、砂灘をなす。海岸に沿ひて鎮道あり。又これと分れて村の中央を北東に走るものは横須賀市に通ず。この地は和名抄、御前郡安志郷の内なるべし。大字大田和は三浦黨の一旗大和田氏の居りし所。

タケヤマチ 竹屋町

京都の横の通り。名。丸太町通と夷川通との間にありて、東西に通ず。好色一代女・一都は廣く女はつきせざる中にも、是程の御物好

タケケンベ 建部

伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に安濃郡建部郷あり大介無咎と訓す。神風抄に建部御厨あり。地は凡そ津市の中央部及び北部に當るか。
【多胡郡】 上野國（群馬縣）の古地名。敏日本紀和銅六年紀に上野國甘良郡の職・尊・大・家、敏野郡武美、片岡郡山名等の六郷を割きて、多胡郡を置くことあり、また多胡郡に甘良・片岡・敏野三郡の内、三百戸を割きて多胡郡を置くと見えたり。和名抄には「多胡郡、胡音加美」とありて、山字・鏡雲・辛科・大・武美・浮因・八田の七郷を置く。明治二十九年に五里、敏野郡と合せ多野郡

タケノ

多功。西本縣河内郡にありし村。明治二十四年明治村と改稱す。
【谷溝會】 關東州大連民歐署管内の西部。大連市の西隣にて、南は樂家屯會・王家店會、北は周水子會、營城子會に隣接す。北嶺には平塔山・史家旺山、南界には老座山・歪頭山等の高さ二一三〇米の丘陵性山地東西に連貫起伏し、中部東西に中狭き低地あり、道路これに沿ひて通じ、また産物も多くここに發達し、農業行はれ高粱・大豆・野菜等を産す。

令村殆ど丘陵地にて森林あり。東境を東山川南流し、中央部には東山川の支流東南に流れこれ等の流域には低地ありて水田多し。米を主産し黍の産もあり。雙鷲も行はる。社稷成田鐵道は成田町より來りて町の中央を東南に走り、八日市場町に通じ町内に五辻・飯笹・染井・多古の四驛（共に明治四十四年設置）を置く。この地は和名抄、既述郡天城郷の内にして、明治二十二年町制施行の際現在の十一大字を以て一村をなし、その首邑の舊稱により多古村と名づけ、明治二十四年町制を施行す。本町は附近村落の農業經濟の中心地にして、久松松平氏一萬二千餘石の陣屋を置きし所。（多古城址）大字多古字臺にあり、里人城山と呼ぶ。いま概ね耕田となり、分れて二區域と爲る。千葉風宜、その父胤重と共に本郡に奔るや此の營により以て馬加氏を拒ぎ力微せずして城遂に陥る。のち牛尾胤仲なるもの本城を修築し以て居城となし成を近隣に振ひしが、後上總飯城城主山室氏勝の亡ぼす所となる。（志摩營址）大字鳥字埔臺にあり、いま耕田となり本臺・二之臺・三之臺・觀治内・小屋・埔等の字あり、千葉胤直本營に據り以て原氏を拒ぎしといふ。（松平氏陣屋址）大字多古字高野前にあり、天正以後、保科正直・正光及び土井利勝等相次いで此地を領せしを以て陣屋を此處に置き、寛永以後、久松松平氏の領する所となり陣屋を置

くこと故の如く、維新の後之を廢す。天保元年藩主松平將行藩校學問處を此處に建つ。
【多古・多胡・多結】 越中國（富山縣）の古地名。萬葉集にその名見ゆ。いまの水見郡宮田村大字上田子・下田子の地がそれならん。いま布勢湖を去る四軒餘に及ぶも、古くは湖水の邊まで浸せしもの如く、多結浦・多結郷等とも見ゆ。萬葉・一九多結の浦の底さへにほふ藤原をかざして行かむ見ぬ人のため 家持 【多古】 下野國（長野縣）

買奪の内、中世只降仁村に屬す。代官伊奈兵衛門（寛文六年—天和三年）伊字を冠して伊田子村と稱せしより、のち轉じて井田子村とも稱したり。
【田子ノ浦】 一に田浦浦・田見浦にも作る。靜岡縣富士郡・駿東郡に亘る海濱。即ち富士川東岸より東方津市南岸邊に至る一帯の砂灘なり。波靜かに寄せては返す白砂青松の田子ノ浦よりの富士の眺望は、東海第一とも稱すべく實に明麗なり。古來多く詩詠に入るも山部赤人の詠じたる「田子の浦や打出て見れば眞白にぞ富士の高嶺に雪に降りける」の田子ノ浦は今の興津邊なりといふ。東關紀行「田子の浦にうち出でて、ふじの高れを見れば、時わかぬ雪なれども、なべて未だ白妙にはあらず。青うして天によれる姿繪の山よりもこよなう見ゆ」

を置く。多野郡 【多胡村】 群馬縣上野國多野郡の東北部。吉井町の南隣。關東山脈一支脈の東端部を占め村内殆ど山地をなし南境は約七〇〇米にて北方に傾斜し森林多し。東境には牛伏山（四九〇米）あり。鎮川の支流は山地の間を北流し流域には田地畑地少しあり米・黍を産す。川に沿ひて鎮道あり、吉井町に通ず。大字東谷より多胡石を産出す。石は粗粒、淡紅色の砂岩にして第三紀に屬するもの。石質は耐久性に富み建築に用ゐらる。古くは和名抄、多胡郡八田郷の内に屬す。蓋し郡家の地にして村名はこれに出づ。而し大字神保の邊は和名抄多胡郡幸科郷に屬し、神保とはもと神封の郷地に因縁ならん。東鐵に神保氏見ゆ。蓋し此地の因縁あるもの。（幸科神社） 大字神保に鎮座。郷社。祭神、速須之男命・五十猛命・品陀和氣命。菅原道實。和銅四年の創建と傳ふ。即ち歸化の韓人の首領郡司私部羊太夫等本國の風神として須佐之男命・五十猛命を奉齋せる所なりといふ。上野國神名帳に「從二位幸科明神神社」と見え、當郡の地鎮守と崇めらる。江戸時代除地三百五畝を有し、領主地頭の崇敬篤し。例祭、九月九日。（仁叟寺） 大字神保にあり。曹洞宗。應永年間奥平城主奥平昌訓の開基、大永二年奥平昌能之を再建し、寛永十三年將軍家光寺領二十五石を寄せらる。 【多古町】 千葉縣下總國香取郡の南部

タコイー タサイ

より受けしによると。今も世に光澤炭の名あり。
タコイ 塔甲 出羽國(秋田縣、羽後國)の古地名。和名抄に平鹿郡塔甲郷あり。塔甲を平鹿郡に入るとは誤なり。いま高山寺本により山本郡内とする。その地今の仙北郡大曲町・六郷町・金澤町の邊なるべし。

タコリス

田河津村

中国東勢井郡の西北部。水澤町の東南方約一五軒。東境に大鉢森山(六八四米)・高々森山(三二三米)・西南境に東嶺山(五九六米)あり。村内山地廣きも中部を南流する砂鐵川の支流の谷に小平地あり。農業の傍ら木炭・和紙(東山料紙)の製造行はれ、東北郡大字橋津・夏山邊には凝灰岩露出し雲雲石礫の材料となる。縣道水澤・千代線は黒石村より東北郡を経て、田河津村に通じ、前津・長坂橋は西北隣生母村より中部を過ぎて長坂村に出で交通不便ならず。この地は和名抄、磐井部史部郡の内なるべく、里傳によれば母體村(今の生母村の大字)・黒石村(江刺郡の村)・長坂村・松川村・赤生津村(生母村の大字)の各村より分合して本村をなせるものといふ。村名の起原に就ては本村古より紙を多く産せしにより多紙津が田河津となりしものか、村内の宇竹澤堂向に管公夫人の墓と傳ふる碑あり。

タコウラ

田子浦村

大宰府神社は愛媛山西麓に位置し其西の低地に太宰府町街新築建し土産物店多く島原町をなし名物に梅ヶ枝餅あり。一遺其中央を貫きて北は宇美町を、西南は二日市町を、社線九州鐵道(電車)二日市町より太宰府社附近に來り、其終端あり。省線見島本線二日市駅は西南約二軒にあり。古く和名抄、御笠郡御笠郷の内へ屬せしもの如し。大字内山は古書に有智山に作り雨谷ともいふ。こゝに小貳氏の館址存す。古く九國二島を管せる太宰府の置かれしより町名起りしものにして、その郡府の址は隣村水城村にあり。猶ほこの地は菅原道義が大宰權帥として左遷せられしことより著名となり、いま菅公を祀りたる太宰府神社あり、その社前には公の遺愛と傳ふる飛梅あり。また當町より宇美町に互りて指定史蹟大野城址及び四王寺址あり。また寶滿山には寶滿城址・官幣小社龜門神社、其の神宮寺たりし龜山寺址等あり。詳細は龜門山の條に述べたり。赤水城村・龜門山・宇美町(内山館址)大字内山の九重ヶ原にあり。小貳氏代々の居館址にして、堀と土手とが二重に遺存す。源頼朝奥州征伐の際、武蔵小次郎資頼、太宰少貳に任せられ爾來子孫世襲してこゝに居住し少貳を以て氏とす。少貳政資永正中水城に於て討死し、十一代二百二十餘年にして滅亡す。(太宰府神社)太宰府に

タサイー タサワ

土町に、東北は島田村に、東は元吉原村に、西は富士川下流を境に庵原郡に界し南は海に面す。富士川河口に沿ふ駿河海岸平野の一部にして、土地低平、田沼川、洞井川等に灌漑され北部の平地には水田多し。海岸一帯は砂浜をなし、田子ノ浦の名跡を以て知らる。農業を主とし、米・粟を産し、水産業・工業次いで盛なり。吉原町・富士町へは縣道通じ、省線東海道本線餘用線(元吉原村)へはバスの便あり。古くは和名抄、富士郡古家郷の地に當るもの如し。大字川成島はまた河鳴にも作り三河記に據れば水陸十二年六月十七日徳川家康駿河へ攻入りし際、武田信玄此地に陣を取るといふ。また東鑑富士川合戦の條に平家の印東太郎常義といへるもの、駕舟在陣の源氏の手に捕へられ大字鯨島の地に誅せられし由見ゆ。田子ノ浦(福泉寺)大字神島にあり。曹洞宗。海島と號し、開山は命山種長和尚、本尊は藥師如来にして弘法大師女人三尊の罪を救はんと言ひて一千日三害の法を修して刻せしものなり。のち虎女これを深く信仰し殺すに及びて遺言して之を深く収めしむ。

タコエ

田越

神奈川縣三浦郡にありし村。大正二年返子町と改稱す。此地に田越川あり。川は返子町と三浦半島の東岸田浦町を結ぶ地溝に沿うて西流し、返子町の新海岸にて海に注ぐ。此川はまた平糶産の遺子六代御前の最後を告げし所なるより一に御最後川ともいふ。

タコジマ

蛸島村

石川縣能登國珠洲郡の東北岸。飯田町の東方約五軒、その間に直村・正院村を隔て、北と東は三崎村に接し南は海に面す。面積僅に三・〇七方軒の小村。土地概ね平坦にして農耕作はれ、南岸に小崎角ありその前面に小瀬神天鳥居、海上漁利少からず。縣道西方に通じ乗合自動車あり。

タコソ

託社

筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄、怡土郡の條に託社郷あり、高山寺本は託社に作る。いまこれに従ふ。いま糸島郡怡土村に大字高祖あり。蓋し此郷名の轉訛せしものにしてこの邊を稱せしもの。

タコノヨヒサカ

手兒乃欲紙左賀

駿河國(靜岡縣)庵原郡蒲原町の吹上強の附近の七難坂の古名なるべし。萬葉・一四「東路の手兒の呼吸越えかねて山に宿むも岩は無し」同「東道の手兒の呼吸越えて去なば我は懸ひむな後ば逢ひぬ」とも。

タコヤクシドーリ

蛸薬師通

京都市の横の通りの名。今中京區にありて六角通の南、錦小路通の北に並行し、東西に通ず。その東端京極に蛸薬師寺ありより名稱起る。好色二代男・二「鮎(蛸)薬師通り、御守町のあたりは、門に繩籠を掛て、せまき所をよく住なして」

タサイ

多四

【多四村】 東京都武蔵國四多郡の東端の高きに於て昔同約一四米二、最元の川約三六米七なり。また本體裏の傾斜地にあるものは低地點より一米半の高きに於て幹同約一七米にして何れも天然記念物たり。

タサエモン

太左衛門橋

大阪の橋名。南區道頓堀川に架し、相合橋と戎橋との中間に在り、宗右衛門町と西橋町とを通ず。南地の花柳界極要の橋。男色大衆・五・暮やすき冬の日の虹うつるひて太左衛門橋を渡れば、川風心もなぐ吹てしばしば愛に立すくみしが、君も大夫本入せ給へば、せんかたなく其邊りの茶屋にたよりて。

タサキ

田崎

鹿兒島縣肝屬郡鹿屋町の大字。省線古江西線の田崎驛(大正四年設置)を設け。

タサワ

田澤山

【田澤湖】 秋田縣仙北郡中部のカルデラ湖。圓形にして湖岸は低山地に圍まる。排水口は西の湯尻川と東に人工の春山堰との二あるも、排水量は微々たるものなり。海拔二五〇米、湖岸線一九・六軒、面積二五・六五軒。深度は四二五米にて日本第一位(中央より少し南にあり)、且つまた海面下一七五米なることも我國第一位なり。水位の變化少く最高は夏と春、最低は冬とす。静水の週期は三・五及び一・六分にして、水色は藍色ブルーを標準色の二號附近に當り、我國にても美しきもの一つとす。透明度の最大値

天谷

多摩川の西岸にて青梅町の東南約五軒。關東山脈一支脈の東端を占め村の北半は山地にて西境は約二八〇米あり。東部より南部にかけては多摩川及びその小支流の流域平野にて畑地・桑畑あり。米・麥を産し養蠶行はれて繭の産多く製絲も盛なり。その他林産・畜産も多し。此地は近世、多摩郡小宮領に屬し、大字草花は江戸時代、上下の二村に分れ、正保の頃は幕領なりしが後その内を竹田藤右衛門・水野石見守の二人に賜ひ、子孫相繼いで領し、幕領は代官小野田三郎右衛門が支配せり。大字菅生は古より幕領にして大字草花と共に江戸時代小野田三郎右衛門の支配せし地。大字原小宮は古は幕領なりしが、のち田中主計に賜はり子孫相繼いで領せり。

タサイフ

太宰府町

福岡縣筑前國筑紫郡の東北郡。二日市町の東北に接し西は水城村に、東は御笠村に隣り、北は糟屋郡宇美町に界す。東北境に聳立つる寶滿山(龜門山)といふ、約八〇〇米)は西南方へ次第に傾斜して途中東境に愛媛山(四三二米)を起し、山麓は本村南部に廣く臺地狀に瀆より西北境には約三〇〇米程度の山地東北より西南に連り兩山地の間小谷を造り小河西南流し水城村に入り西北折す。流域低地は水城村・二日市町一帯の低地に續く。低地に水田拓げ山麓臺地は桑を栽培し養蠶行はる。有名なとして信用出来得るものは、大正十五年三月調査の三〇米にして、嘗て世界一と稱せられしもの、北海道の摩周湖(四一・一米)及びバイカル湖(四〇・五米)に凌駕せられ今は透明度世界第四位、我國第二位なり。透明なるは冬より春へかけてと夏となるが、夏には二〇米内外にして、我國の湖としては格別透明なる方にあらず。浮游生物は少なく特に異常なるものはならず、種類も少なく、湖の生成は新らしきことを物語る。魚類としてはタニマス・ウケヒ及び近年放棄せしヒメマス等あり。タニマスは以前より棲息せるものにて、平時は深所に在るも冬季及び七月十月には上層へ産卵に來り捕獲せる。風量特に優れざるも、近年觀光客も増加し、また水力貯水池や玉川の毒水(酸性にて硫黄を含む)の沈澱池としての利用も計畫さる。湖には田嶋子姫・南僧坊・八郎の龍神争鬪等の傳説あり、田嶋子姫はこの湖の主といはる。

【田澤村】 秋田縣羽後國仙北郡の北部。秋田市の東約五〇軒。北は鹿角郡に、東は岩手縣二戸郡・岩手郡に、西は北秋田郡に接す。奥羽山脈の西斜面にありて、北境には柴倉嶽・徳山・黒石森、東境には赤嶽・調嶽・船嶽・大深嶽・曲崎山・鳥帽子嶽、西境には狗森・葡萄森・檜森・高森等、三方に千米乃至千五百米内外の山嶽起伏す。南境にはカルデラ湖なる田澤湖あり、玉川・小川瀬川は奥羽山

脈に發し、先達川を合せ南流す。此等の川は蛇行しその洪涌地は水田となり、山地よりは木炭の産多し。また放牧地多きため牧馬行はる。又北部には陸羽硫黄山ありて、那須火山帯の走れるこの山地には硫黄の産多し。玉川の流域に溢黒温泉・湯瀧・新湯・鳩ノ温泉、先達川の上流には本松・大釜・黒湯・孫六湯・蟹湯・鶴ノ湯の温泉ありて温泉郷を呈す。又東北端八幡平にはスキー場あり。交通は湯尻川の谷より田澤湖附近に出づるバスあり、これより山間部への交通不便なり。溢黒温泉よりは重晶石と硫酸鉛即ち天青石と混晶せる溢黒石を産し、いま指定天然記念物たり。

【田澤村】山形縣羽後國飽海郡の東南部。酒田市の東方約一四軒。面積約一二三方畝の大村。出羽丘陵に属する辨慶山(八八七米)・大森山・田代山等東端に連り、それらの山脚西方に延び、村内概れ山地をなす。田澤川は東南部、中野俣川は北部の山地より發して共に西流し、西北部にて會流して相澤川となり、内郷村に於て最上川に入る。この二川の谷に水田ありて米を産し、山地よりは薪炭類を産す。田澤川の支流杉澤川上流の石灰岩層よりは球狀の方解石を産す。標一〇一二〇〇、稜形の結晶球の外を覆ひ灰白色を呈し、地方にては菊面石と稱す。大字田澤の高畑よりは上代の石器・土器の出土あり。田澤館は上杉氏の臣重川普次

の子山の西南麓に位す。東北一帯は兩子山山麓を占め、東南端に田原山(鑛山、五四三米)ありて西南端には筆ヶ岳山(五九三米)ありて兩者山嶺を連ね西北より東南にのびて南境を限り中部には廣濶な平地開け桂川支流西北流す。低地は田畑よく拓け米・麥を多く産し又山地は薪炭を出す。附近町村を結ぶ道路あれど交通概して便ならず。古くは和名抄國郡田染郷の内に屬せしも、其後の沿革は詳ならず。

の坂本日の押へとして居りし處、天正十八年土寇のために陥れらる。大字遊蕩は酒田城主志村伊豆守の郡代家老遊蕩但馬安清の居りし處。

【田澤村】新潟縣越後國中魚沼郡の中部。信濃川の右岸。東境に富岡山(一〇一七米)・高津倉山(一一八一米)の險嶺聳え、西北に傾斜し、西南は清津川の溪谷に沿ふ。概れ山林をなし、平地は信濃川沿岸に開かれ、農作行はる。農業を主生産とし、米・果實の産あり、次いで養蠶行はる。また蕨菜・木炭の副産物なり。南部清津川の谷に小出鑛泉湧出す。西北部山麓に沿ひ縣道及び社線飯山鐵道通じ越後田澤驛(昭和二年設置)あり。十日町へはバスの便もあり。其他山道により各隣村及び魚野川上流へも通す。

【田澤】長野縣東筑摩郡上用手村の大字。省縣界ノ井線の田澤驛(明治三十五年設置)を置く。

【田澤】長野縣東筑摩郡上用手村の大字。省縣界ノ井線の田澤驛(明治三十五年設置)を置く。

【田澤】長野縣東筑摩郡上用手村の大字。省縣界ノ井線の田澤驛(明治三十五年設置)を置く。

形低平にして菊池川支流合志川中央を西流し流域は廣濶な沖積地なり。農業を主生産とし米・麥・粟の産多し茶・檜草・西瓜の特産あり。村道四方に走りて、吉松村を通する社線本鐵道越後豊田驛(西方約三軒)へはバスの便あり。古くは和名抄、山本郡佐野郷の地なるべし。この地は明治十年西南ノ役の古戦場とす。元治・慶應の頃より明治の初期に至る間、我が田島村を發祥の地として大いに社會教化に貢献せしものに俗稱童子草刈歌あり。普通一般には單に草刈歌といふ。歌は平易通俗の語句にて綴りたる散文體の數十枚に及ぶ一大長篇にして、歌の内容は我が國體の尊嚴なることを知らしめ國民道徳を振起せしむることを主眼とせしもの。歌の作者は村内菅原神社の神職伊平田泉なり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

【田島町】福島縣岩代國南會津郡の東南部。南境に帝釋山脈に屬する男鹿嶽(一七七七米)あり、水無川は之より出で中央部を北流し大川に合す。町の東部及び西部は山地をなし水無川に傾斜す。大川は北部をほぼ東流し沿岸は田島盆地のあ名に。北境には那須澤山ありて南方田島盆地に傾斜す。河岸の段丘面には水田、山地には畑地あり、米・粟・麻等を産し、南部の山地には木炭の産あり。道路は大川に沿ひ略東西に通じ、東北方若松市、南方日光町に至る。日光街道の名あり。

タシマ 田島村 熊本縣肥後國菊池郡の西部。合志川に跨り隈府町の西南方約七軒。面積五・三八方軒。北部・西南部に約五〇米程の平坦な臺地ある外は一帯に地

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

【田近】石川縣河北郡にありし村。明治四十年本村外二村と合し花園村を建つ。

【田近】石川縣河北郡にありし村。明治四十年本村外二村と合し花園村を建つ。

【田近】石川縣河北郡にありし村。明治四十年本村外二村と合し花園村を建つ。

【田近】石川縣河北郡にありし村。明治四十年本村外二村と合し花園村を建つ。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

布、諸種の竹細工を産す。總督府鐵道湖南線は面の北部を東西に横斷し西北端に近く古嘉院驛(文坪面)あり、又京城・木浦間一等道路は鐵道と略並走してバスを通じ北中部は便なるも、南中部は道路網比較的疎なり。

これに並行して合津線通じ合津長野・會津田島(共に昭和九年設置)の二驛あり。本町は本郡の中心にして舊郡役所のありし所、いま南會津支廳の所在地たり。明治二十九年町制を布く。この地は文治年間、長沼氏嶋山城を築城し代々名家に屬し、天正年中、遠藤氏居り伊達家に屬し、北上氏の時比羅生家に屬し、小國氏の時北上氏に屬せり。元和以後は廢城となる。(田出字貫神社)大字田島に鎮座。郷社。祭神宇迦御魂命・素戔嗚尊ほか二神。齋明天皇四年の勅諭と傳ふ。例祭九月一日。

【田島】神奈川縣橋本郡にありし村。本村は昭和二年川崎市に編入さる。

【田島村】神奈川縣橋本郡足柄下郡の東部。國府津町の北隣。面積〇・八六平方軒の小村。東半は丘陵地にて東北境に二四六米の山地あり。西半は酒匂川流域平野の一部にて畑地あり。麥・甘藷・蕎麥・大豆等を産し養蠶も行はる。國府津町より縣道來りバスの便あり。本村は近世、足柄下郡田島郷と稱し、壽永二年源頼朝が此の郷を鶴岡八幡の神領に寄附せしことあり、貞享三年に大久保氏の領分となり、正徳年中一旦幕領となり、のち又大久保加賀守忠貞の所領となりし地。村内に國府津航空燈臺あり、燈臺自熱電燈四白光、一二〇萬燭光、先達原驛は晴天の暗夜約五〇軒。

【田島村】廣島縣備後國沼隈郡の南方海

上にある田島をわむ。西は坊地瀬戸を挟みて横島に對し、北は海を隔てて千年村に界す。面積九・二一軒。島の南部の高山(三二九米)を初め全島山岳錯峙して海に急傾斜し、海岸に沿ひ僅に砂瀝地を有す。山腹傾斜を耕作して農業を營み米・麥・蕎麥・果物の産す。また水産業行はる。養蠶・果物の漁獲少からず。千年村内常石とは渡船の便よく、又本島東北の岬より阿伏見の瀬戸を挟みて千年村東部の岬と渡船の便あり、横島とも渡船の便あり。もと多島に作り、一説に古くは羅島或は高島と稱せりと。

【田島村】福島縣筑前國宗像郡の西北部。津屋崎町の東北に接し北は津屋崎町を隔てて玄海灘に近し。東部及び西部は丘陵性の山地あり、中央は低地開けて釣川。こを貫きて西北流し、神湊町にて玄海灘に注ぐ。川の流域は耕地よく拓げ米・麥を産し山地は薪炭も出す。川の左岸に沿ひて道路走り神湊町へバスの便あり。古くは和名抄、宗像郡深田郷の地ならん。大字田島に官幣大社宗像神社の邊津宮ありを以て古來著名なり。因に同社の奥津宮並に中津宮は本郡大島村に鎮座、大島村の條に詳説せり。(興寧寺)大字田島にあり。臨濟宗大徳寺派。一筆一切經にて著名なる色定は本寺の住僧なり。一切經書寫の大願を發し諸州を周遊しのち更に宋地に渡り居ること十有餘年、承元元年に玉り漸く一人一筆にて五千四十八卷

【田島村】廣島縣備後國沼隈郡の南方海

タシマ 田島村 熊本縣肥後國菊池郡の西部。合志川に跨り隈府町の西南方約七軒。面積五・三八方軒。北部・西南部に約五〇米程の平坦な臺地ある外は一帯に地

タシマ——タシマ

書寫の功を擧る。此間實に四十有二年なり。宗像社大宮司宗像氏、色定と雖好あり。宗像社色定堂及び色定一切経藏を建て、延壽す。一切経はその後幾度紛失し、赤元祿十五年の洪水にて浸水する等設損するもの多かりしも、延享三年郡代大森氏の調査にて四千五百巻現存となす。明治六年神佛分離の際宗像社より富寺土蔵に移す。いま四千三百巻を存すといふ。

タシマ 但馬

【但馬】尾張國(愛知縣)にありし古地名。和名抄、智多郡に但馬郡あり、その地、今の知多郡豊濱町・飯崎町・河和町・富貴村の邊なるべし。

【但馬國】山陰道八國の一。中國山陰の北に位する日本海新瀉の國。いま城崎・出石・美方・養父・朝來の五郡に分ち、

タシマ——タシマ

行政上は兵庫縣の管轄に屬す。この國は上世、田道間成は多遲摩と稱す。垂仁天皇の朝、新羅王子天日槍の歸化するや、この國に在り、子孫但馬氏を稱す。神功皇后の御母高麗姫は實にこの一族の出なり。國郡制定の時には但馬と稱し、國府を氣多郡(城崎郡の南の國府村)に置く。奈良時代の初頭、河部安麻呂但馬守に任ぜられ、平安朝時代の終の頃は源頼光但馬守となり當國に居る。また鎌倉時代の初めには日下部氏が養父郡の八木城に在り八木氏を稱す。承久の亂に國人太田昌明なるもの賊軍に與し功を以て當國の守護となり、爾後子孫世襲して元弘の亂に至る。時に北條高時後醍醐天皇の皇孫を當國に幽閉するに及び、勤王の歸國內に起り、太田守延なるもの皇子を奉じて京内に攻め上りしが、遂に戦死し、その國內大いに亂る。正平八年に至り山名時氏は吉野朝廷に歸順して山陰地方を略し、この國を奪ひしが、正平十九年には朝廷に叛きて足利義隆に降り、己は伯耆に在り第五子時義にこの國を與へて出石の此隔山城に治せしむ。その子時照の時足利義隆はその強權を惡み、一族の氏清等に命じてこれを討たしむ。時照は討たれて逃亡し、時照の叔父たる山名氏清にこれに代つて守護となる。これより先、氏清は楠木氏討伐に功あり、丹波・美作・因幡等の守護を得たり。ここに山名氏一族の領する所その數十箇國に及

び世に六分一殿といはれしが、更に但馬の守護を得るに及んで、意驕りて國滿の命に從はず、遂に明徳の役となり、國滿の爲に殺さる。國滿即ち時照の無事を憫み復び但馬の守護を與ふ。時照の子を時豊といふ。赤松氏の亂に功あり、播磨・美作・備前の三國を加封せらる。その後時豊は將軍足利義隆の徳嗣問題に關與して、義隆の皇子義尚を擁け、細川勝元は義隆の後を承くべく約せる義隆の弟義親の管領となりて互に相争ひ、應仁元年遂に前後九年に互に大亂を醸すに至れり。かくて兩雄は京都に戰ふこと七年、文明五年には時豊(入道宗全)歿し孫政豊後を承けしが、その勢は漸く衰はず。後三世時豊に至つては益々衰へ遂に此隔山城を出でて有子山城に治す。天正五年に至りて羽柴秀吉來攻して養父郡の八木城を拔き、朝來・養父二郡を略す。八年秀吉は再び兵を出して出石を攻め、時豊出でて降り山名氏に降る。ここに於て秀吉は弟秀長を出石に置き、宮部繼潤をして豊岡を守らしむ。既にして秀長は大和に轉じ、江戸時代に至り屋敷領主を代へしが、實水の初め仙石政明が出石を領し、豊岡の宮部氏も久しからずして因幡に轉じ、のち屋敷領主交代し、寛文中には京極高成封ぜられ、幕末には出石(仙石氏三萬石)・豊岡(京極氏一萬五千石)の二藩ありしが、明治元年六月村岡藩(山名氏一萬石)置かれて、ここに三藩になる。明治四

地域には富有柿の産も多し。南部第三紀層地帯は桑園多く養蠶も盛なり。當地が山地より粘土質土を産出する爲め鎌倉時代により窯業起り陶磁器の産多し所謂瀬戸物にして、愛知縣に次ぐ本邦第二の産額を以て此の地方より出ず。この美濃地帯の中、此地は特に多治見と別稱する。最近では實用食器を主とし海外に移出す。交通上の要衝に當り、下街道南下して名古屋に至り、加茂郡太田町より多治見街道通じ、鐵道は中央本線の通過地となり、多治見驛(明治三十三年設置)を置き、太多と本町とを結ぶ太多線にはガソリンカー走り、これには新多治見驛を設く。また社經原鐵道はこの地に起り本多治見驛・市ノ倉驛(共に昭和三年設置)あり、また瀬戸・岡崎を繋ぐ省營自動車線もここに發し、文字通り交通上の要地なり。本町は和名抄の土岐郡田原郡の地に於て、新撰氏譜の丹比宿禰の條に「大鷲天皇御皇子奉詔曰。多治比治國別命。乃定。多治比治國爲皇子海津邑(云々)」と見え、諸國に置かれし多治比の邑なるべし。中世よりは多治見と稱せらる。一方、舊豊岡町は池田御厨の地にて、申せば池田八郷の中、長瀬郷・中郷・小名田郷の地たり。中之郷は因果物語にも「寛永十八年十月濃州池田の近所中郷といふ所に文秀といふ僧ありしが女藝をうけ云」と見え、多治見の古城址は多治見氏の住みしところ

なり。多治見の語りは何としても吉野朝の忠臣多治見國長を生みし事にして、國長は四郎次郎と稱し、土岐領家の國族にて共に徳勇を以て稱し、正中の忠臣として名高し。正中元年九月、後醍醐天皇は北條氏の專横を憤らせられ、密かに北條氏の討滅を謀らる。日野資朝・日野俊基等は畫策し、後基は肥前の温泉に詣りて稱して諸國を厭避し、資朝は美濃に來りて豪族土岐領家と結び、更に武人勤王の士多治見國長・船木頼春も之に與す。頼春・國長の二人は密旨を奉じて潛かに京都に上り、頼春は事の顯れん事を恐れ六波羅に至り北條義貞に密告せり、義貞は直ちに山本時綱をして兵一千餘騎を以て頼春を三條堀河に攻め頼春は大いに奮戦し終に自刃し、一方小車範行をして兵二千餘騎を遣し多治見國長を錦小路高倉の邸に攻めしめ、國長奮戦これ努めしが終に從兵と刺し違へて死す。時に三十六。正中元年なり。明治三十八年には明治天皇はその孤忠を稱し給ひ贈正四位の宣下あり、いま多治見神社に祀らる。此地はもと土岐郡の治所にして、商業盛なる爲めその研究機關として陶磁器試験場・獨立工業學校あり。其他多治見高女・多治見裁縫女學校・警察署・稅務署・土木出張所・西ヶ原治療院・東濃バス株式會社等あり。

【タシマ】多治見町。岐阜縣美濃國土岐郡の西部。岐阜市の東南方約三六軒。東濃山地の南部に位し、主として花崗岩及び第三紀層より成り、北部には古生層の淺間山(三七四米)、西北には高根山(二七七米)等あり。土岐川は町の中央を東北より西南へと流れ、第三紀層を以て埋め、町附近は川盆地を形成す。中部土岐川岸には皮溪山(一五九米)あり。多治見盆地には水田が廣く分布し、山麓

大見成家と八幡打氏が河津三郎新妻を討取りしは大字八幡野の地なり。(八幡宮・來宮神社)大字八幡野に鎮座。郷社。祭神、豊田別命・伊波久良和氣命。もと兩社別殿にして、近年再興の際合併すといふ。來宮神社は延喜式内の伊波久良和氣命神社にして、伊豆國神階に「後四位上り」と傳へ、往古は海濱の岩窟に奉養せられたりしを、のち現地に奉遷すといふ。例祭、九月十五日。(八幡野八幡宮來宮神社社叢)指定天然記念物。伊豆東海岸の山地にあり主としてシヒ・カラジロカシ・シロガモ等の常緑闊葉樹より成り、カギカラフ多く樹梢に懸り、イビシンガイ其他半常緑下の群落を成す。關東地方に於ける暖地性社叢として代表的なり。

【タシマ】手染。出雲國(島根縣)の古地名。風土肥島根郡に地名見ゆ。いま島根縣八東郡本庄村にあたり、大字手染は地名の轉訛なり。

【タシマ】多治見町。岐阜縣美濃國土岐郡の西部。岐阜市の東南方約三六軒。東濃山地の南部に位し、主として花崗岩及び第三紀層より成り、北部には古生層の淺間山(三七四米)、西北には高根山(二七七米)等あり。土岐川は町の中央を東北より西南へと流れ、第三紀層を以て埋め、町附近は川盆地を形成す。中部土岐川岸には皮溪山(一五九米)あり。多治見盆地には水田が廣く分布し、山麓

【タシマ】田後。常陸國(茨城縣)の古地名。日本後紀弘仁三年十月に常陸國の安侯以下の六郡を廢して更に田後外二郡を置くと見え。これ濱海道の郡を廢して新に山道に郡次を建設せるものなり。延喜・兵部省式常陸國に田後郡馬二死と見ゆ。その地名明らかならずも、凡そ那珂郡靜村大字玉川の邊なるべし。

【田後】下野國(栃木縣)の古地名。和名抄郡田後郡の條に田後郡あり。その地は凡そ今の上野郡鹿沼町・菊澤村・加藤村・東大渡村・落合村等の地に當る。

【田後】上野國(群馬縣)の古地名。和名抄、那波郡の條に田後郡ありて多之利と調す。その地は今評ならずも或は佐波郡玉村町・芝根村の邊に當るか。

【田後】薩摩國(鹿児島縣)の古地名。延喜兵部省式に田後傳馬五疋、田後傳馬五疋と見え、日本後紀には田尻驛と見ゆ。天孫本紀に田尻物部あり、蓋しその部曲の居せし地にや。その地は今評かならずも或は薩摩郡川内町・永村の地に當るもの如し。

【タシマ】田後村。鳥取縣伯耆國岩美郡の北海岸。浦富町の西。面積僅に一・〇二方軒。東西南の三方は高さ百一十五十

年七月、以上の三藩は何れも縣となりしが、更に十一月には三縣を廢して豊岡縣を置き、但馬・丹後の二國及び丹波の三郡(天田・水上・多紀)をも管す。九年八月に至り、豊岡縣を兵庫縣に併せ、丹後一國及び丹波の天田郡を京都府に移す。爾來但馬は兵庫縣の管轄となれり。その後明治二十九年四月に至り、從來の八郡の中、城崎・氣多・三郡を併せてこれを城崎郡とし、七美・二方の二郡を併せて美方郡とし、以て今日の如く五郡となる。

三六五

【但馬富士】三開山(但馬國)の別稱。【但馬三江】省級宮津縣の驛(昭和四年設置)。兵庫縣城崎郡三三村にあり。【但馬廣山】↓竹野村(兵庫縣)郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【但馬廣山】郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

【タシマ】對馬村。靜岡縣伊豆國田方郡の東南端。相模灘に面す。西境に天城山脈連亘し、遠笠山・矢野山あり。北境には大山山あり。全村これ等に續く山地にて森林多く、海岸に迫りて斷崖をなす所多し。鐵道は海岸近くを南北に走り、熱海市より下田町に通ずる東海自動車東海岸線あり。又この縣道と分れ山地を經て中大見村に通ずるものあり。兼落は此等に沿ひて所々に發達す。本村はもと加茂郡の管轄なりしが明治二十九年田方郡の管下となりしもの。大字赤澤は北條後高敏に豆州東浦赤澤と見ゆの地にて、中世小笠原長經の二子清經伊豆國の守護職となり此地に居して赤澤氏を稱す。また

タシリ―タシロ

米の山岳を繞らして北に砂漠地を有す。東西約三軒、南北一・五軒にすぎぬ小村なり。本村の海邊は風光明媚にして海上に菜園島・黒島・松島等の小島あり、海岸の風光は新日本百景の一に選ばれし程にて因幡の松島との稱あり。いま名勝天然記念物に指定さる。耕地少く米・甘藷・蕎麥等を産す。水産さかんに蟹・鱒・鯛・鰯等の漁獲多し。東南方を走る省線山陰本線の岩美驛へは約四軒、バスを出た。村は天正年間石見岡より漁業のため出稼せし漁民が、そのまま移住して創造せしものと傳ふ。

タシリ 田尻

【田尻町】宮城縣陸前國田郡の北部。栗原郡高清水町の南隣。面積一四・三六方軒。陸前平野(仙北平野)の略々中央部にあり、北部は丘陵をなすも概ね平坦地にして水田多し。米・蕎麥等を産す。道路は東西及び南北に通じ、北方高清水町、南方小田町に至り、西方古川町、東方東北本線田尻驛(東陽田尻)に至る。此地は和名抄長岡郡濱城郷の内。明治三十五年町制を布く。「大崎八幡神社」大字八幡に鎮座。郷社。祭神、惠神天皇。社傳に天喜五年源義家の勳請創祀といふ。爾來源家・伊達氏等の崇敬厚かりき。例祭、八月十五日。

【田尻】東北本線の驛(明治四十一年設置)。宮城縣田尻郡田尻村にあり。

【用尻村】新潟縣越後國刈羽郡の中部。

タシロ

柏崎町の東南に接し、鮎石川に沿ふ。面積一八・〇三方軒。西南部・東北部はいづれも丘陵の末端を占めて稍高く、中央より北へ鮎石川の扇状地開かる。鮎石川は数多の分流により灌溉よく行はれ、水田多し。米の産額最も多く、蕎麥も少しくあり。省線信越本線南北貫通し安田驛(明治三十二年設置)あり。驛道また之に沿ひて通じ、柏崎町・岡野町へバスの便あり。往古の事は詳かならざるも、中世、毛利修理亮元元の子重賢、大字安田の地に居して安田氏を稱すといふ。

【田尻村】大昭和泉國泉南郡の中部西海岸。佐野町の南に隣る。面積僅に二・一〇方軒。大阪灣沖積低地の南部を占め全地形平坦にして南境を櫻井川北流流して海に入る。内海に面し氣候乾燥する爲め池沼を作り灌溉に便して田畑耕作行はる。玉葱の産多し。畜産・水産も行はる。其他この地は大阪市を中心と大阪灣岸に連れる工業地帯の影響をうけて工業盛にして特に綿織・綿織物の産多し。海岸に沿ひて府縣道路・岸和田線走り之に沿ふ吉見は主邑にして之に近く海岸に約一千坪の船入場を築き海陸の交通共に至便なり。社稷南海鐵道通して吉見(里驛(大正四年設置)あり。此地も吉見といふ。明治維新の際、近江三上藩遊藝氏此地に移封せられしも幾何もなく廢藩となす。南方紀傳によれば興國元年、征西宮良良親王吉野行在を出でこの地より發航す。畿富の間に福水懸りて鶴戸ノ澤と稱す。飛水窟の半を懸りて湯の左右には大樹繁茂す。この窟中に鶴戸神社あり。

タシロ 田代

【田代島】宮城縣牡鹿郡の島。牡島半島

して西國に下向し給ふといふ。

【田尻村】大昭和泉國泉南郡の北部。池田町北側より約一〇軒北方。四百三十四百米の山地を繞らし中央に能勢川支流南流して谷をつくる。中央の谷は米・蕎麥等の農産物を産し山地は薪炭を出し又近來栗の産出多く丹波栗を産し遠く米國に輸出す。寒天の産多し工業もあり。周囲隣村には驛道の通するあれど本村には驛道なく交通不便なり。此地古くは和名抄能勢郡能勢郷内に属せしものゝ如し。中世は庄名に呼ばれ能勢(本姓源氏)頼仲用尻庄の地頭職となり田尻氏を稱す。

【田尻村】廣島縣備後國沼隈郡の東南部。瀬戸内海に面する重田川右岸にあり、南は鞆町に界す。面積四・六一方軒、西は瀬川の懸崖(四三八米)をはじめ、西境には南北に山脈走り、東に急斜して海岸に迫り地勢稍峻し。崖下に沿うて砂濱地つらなり道路をびらく、北部は瀬田川口の沖積平地の一部を占めて、農耕作はる。米・蕎麥・蘆草を栽培し蕎麥・花菱を産す。又水産業行はれ鰯・鰯等の漁獲あり。輕便鐵道南北に通じ、田尻村驛(大正二年設置)・金崎驛(昭和二年設置)を設く。福山市・鞆町にバスの便あり。この地の東北の水谷村に近き丘陵は神武天皇御東征の際に御駐馬せられし吉備高島址なりといふ。

タシロ 田代町

【田代町】佐賀縣肥前國三榮郡の北部。筑紫平野の西北隅に位し、東南は島崎町の北部に、西北は福岡縣筑紫郡に接す。西境に九千部山(八四八米)聳え西北境には権現山(六二六米)蟠踞し西部一帯に東方へ斜面を傾け東部は筑紫平野平坦地の西北の一部を占む。低地は田畑と拓けて米の産多し蕎麥・蕎麥の産もあり。省線肥前島本線東隅に通じ、田代驛(明治二十二年設置)は東南約一軒の隣村基里村にあり。古くは和名抄、基里郡山田郷の地なるべし。長崎街道の小群市にして、明治七年佐賀一亂の際に其戰場となる。幕末の勤王家津田愛之助(贈従五位)は此の地の人とす。昭和十一年町制を布き田代町と稱す。(田代太田古墳)指定史蹟。大字田代にあり。臺地の上に作られたる庚申塚と呼ばるゝ別荘にして石室は三室相連なり、奥室正面の壁には赤・緑・白の顔料を以て三角形・同心圓及びその變形紋・八字形・鈎形その他描かる。

タシロ 多仁面

【多仁面】朝鮮慶尙北道義城郡の西北隅。西南は尙州郡中東面に、西北は醴泉郡豊壤面に隣り、北は洛東江によりて同郡知保面と境す。面積約八七方軒。葱頭産多し、東境には日月山脈(高度五〇〇米内外)達真し、中央北部にも

タシロ 田栖川村

【田栖川村】和歌山縣紀伊國有田郡の西海岸。湯淺町の北に接し西部一帯は海に臨む。面積八・〇七方軒。全村山地丘陵起伏し東南隅僅かに開けて低地あり。西方海岸には北より石ノ鼻・切崎・丹崎等の突出ありて其間の海岸測頭に沿ひ二・三の低地あり。西南方海上に毛無島の小島浮ぶ。低地には田畑よく拓けて米を産し日當りよき斜面には柑橘を植ふ蕎麥も行はれ瀾を出し山地は薪炭の供給豊かに海上は水産豊富、又牧畜・工業も行はる。東南部低地には省線紀勢西線走り南方約二軒に湯淺驛(湯淺町)あり。また社稷有田鐵道の吉川驛(大正四年設置)は大字吉川にあり。村名は明治二十二年町制施行の際、田・栖原・吉川の三部落を合併し、各部落名を採りて田栖川村と命ぜるもの。吉川は一名瀧川と云ひ細流なれども熊野街道に近きを以て其の名知られ部落名の起因ともなれ

【田代池】長野縣南安曇郡安曇村にあり。上高地盆地中の梓川の東岸、霞澤驛の北盤湖郷中にある小池。堤傍(堤費高)よりの噴出物が梓川を堰き止めて作りし湖の中、湧泉のありし箇所のみ残りて北となる。面積〇・〇二平方軒、湖岸一・〇軒、深度一・一米にて、海拔一五四〇米に位す。榮養素や腐植質に富み、湖中にイハナを産す。上高地に於ける散策地なり。

【田代】愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年本村ほか一村を廢し、東山村を置き、東山村に大字十年名古屋市に編入さる。

【田代】愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年本村ほか八箇村を廢し作手村を置く。

タシロ―タスカ

【田代】愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年本村ほか八箇村を廢し作手村を置く。

り。村内に名刹無量寺・白上院・幸却婆・白上幸都婆あり。また幕本の親世家裔地孫助(贈正五位)は橋原の人なり。また古歌に白神之磯と云ふは大字橋原の海邊を稱せるものならん。萬葉・九「湯羅の地、瀬干にけらし白神之磯の浦向をあへて梯ぎ踏む」(施無畏寺)大字橋原あり。古義高言宗。寛喜三年海津城・主原原景基の地に一字を削して山城高山寺の明惠上人高辨を屈請し施無畏寺と號すといふ。上人寂後弟子高信自ら師の影像を造り遺品數種と寺に施す。寺寶として右の施大狀現存す。紙本墨書にて末尾に天福元年癸巳九月八日沙門高信の奥書あり。同じく寺寶の寛喜三年四月十七日高辨及湯淺一宮の證明ある置文一卷と共に國寶に指定せられ、共に奈良帝室博物館に出陣中なり。他に藤原景基寄進狀、明惠上人所持の寶劍・五輪等の寶物を存し、また喜海の筆に係る木製車都婆建立の際の銘文章稿の巻物一卷あり。「白上院車都婆」と白上院車都婆。大字橋原海邊にあり。指定史蹟。明惠紀州遺蹟車都婆の一。施無畏寺の背後白上院の西の峯を白上院(西白院)とし、東の峯を白上(東白上)とす。白上前院の車都婆は脚す断尾絶壁をなし、橋原淵口黒島・鹿島・毛無・菊藻の諸島の點在するを望む風光絶佳の地點に建つ。礎石なく高さ約一・五米、幅二六割、厚さ一八割あり、磨石に被られ具風化して讀み難き銘文を刻す。

タスキ 田耕村

山口縣長門國豐前郡の東北郡。日本海濱谷河の南岸を距る約一軒の南に在り。西市町の西北約一〇軒あり。栗野村に南接す。面積約三八方軒。人口密度六二、稀薄なる事郡内殿房村に次ぐ。栗野山脈の西南斜面に屬する山村にして、山嶺四周を囲み白鹿山(五〇〇米)等村内を小岳起伏す。栗野川の上流中部を西北に貫きて流域に耕地をひろく。米・麥・果實及び桑の栽培行はれ藪の産あり。西市町・湯部村へ鐵道を通じバスの便あり。村内栗野川に三味線・白鹿の二瀑布あり、前者は高二〇米、幅一米、後者は高一五米、幅二米。(タスキ) 鶴田村 岡山縣美作國久米郡の西部。瀬田町の北隣。村内三四百米の山地段々起伏して平地少し。東部を南北に一條の低地通りてその階梯に耕作行はる。米・麥・蕎麥及び落花生・生絲等を産する外山地は好牧場をなして牛を飼ふ。又林産物を産す。西南境の旭川に沿うて鐵道通じ落合町と岡山市を連絡し社中鐵道瀬田線へ約八軒あり縣道にはバスを通ず。もと鶴田藩のありし處。(鶴田藩) 慶應三年石見國濱田の城主松平武忠長藩の兵に逐はれこの地に移る。明治二年九月舊藩地の濱田を大森藩に屬し、この地に於て屋敷二萬七千八百石を賜ふ。明治四年七月鶴田藩を改して鶴田縣とせしが十一月更にこれを廢して北條縣に入る。

タズナ 手綱ノ濱

兵庫縣但馬國城崎郡の東部。岡山川の東岸。南は豐岡町に隣る。東部は高取約三〇〇米の連山北・東を圍みて西南に傾斜し山麓下に廣き平坦な低地を開く。こゝを南より岡山川北流し流域に耕地開け米・蕎麥を産し山地は牧場をなして牛を牧畜す。また木炭・木材等を産し北部赤石附近より玄武岩を採掘し碎石として廣く石材に使用さる。省級山崎本線豊岡驛(豊岡町)へは約三軒。此地古くは城崎郡三江郷に屬せるもの如し。大字赤石に玄武岩の名勝あり。(玄武岩) 指定天然記念物。岡山川の右岸にあり。この洞窟名より由来せる玄武岩、五十六角形の柱狀節理をなし、柱材を積重ねたる如く圓る見事なり。自然石の備にて建築石材となるにより、これを採掘せし跡は穴洞として殘る。洞の長さ約七〇米にて三室に分る。奥行は二〇一五〇米。中洞の内側より地下水流出し、右洞の外側にも小瀑あり。本洞の東南一〇〇米餘の地點にも青龍洞と呼ばる、洞窟あり、前者と同様式とす。(タズナ) 田底村 熊本縣鹿耳郡鹿耳本郡の東部南端。山鹿町の東南方約六軒。面積六・一方軒。西南部に約五〇米程

度の臺地ある外は一帶に平地開け沼池川支流合志川東部を北流し北方約二軒にて本流に合す。田畑よく拓け米・蕎麥を産す。國造西部を縱貫し、社福鹿本鐵道は中部を南北に走りて宮原・平島の二驛(共に昭和七年設置)あり。此地、古くは和名抄、山鹿郡鹿入郷の内を屬せしもの如し。もと田底三千町と稱し菊池郡へ歸れる卑底の地の總稱なりしか、のち村名に轉ぜしもの。村内に宮原(泉質含鐵泉)及び平島(泉質含鐵泉)あり。(タズナ) 太多 但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄、但馬郡太多郷あり。地は今の城崎郡西郷村・清瀧村に當る。(タズナ) 多太 出雲國(鳥取縣)の古地名。和名抄に秋鹿郡多太郷あり。地は今の飯川郡秋鹿村及び長江村に當るもの如し。(タズナ) 多田 兵庫縣揖保郡川邊郡の東部。長尾山東麓を占め神崎川支流猪名川の中流に跨り、大阪府豊能郡池田町の西に接す。西南部は長尾山の山麓を占め西隅に鳥島山(四八四米)、南部に大平山(二七二米)あり。東北隅には約四〇〇米の丘陵ありて其西麓の斷層裂縫に沿ひて鐵泉の湧出するところあり。北部には二〇〇米程度の臺地あり。中部は開けたれし稍廣闊な沖積低地開け西北より来る猪老川は長尾山の山麓に沿ひて東南流し池田町に入る。田畑よく拓けて米・蕎麥を産し山

タタ

頃、小山田別當有重ここに所居附近を領し、其子孫に小山田太郎高家あり、その名著る。江戸時代の國學者小山田與清も此地の出身者なり。(タタ) タタオカ 忠岡村 大阪府和泉國泉北郡の西海岸。南方の岸和田市との間に泉南郡春木町を挟み、和泉町の西に隣り北は大津町に接す。積々西北より東南に細長く面積二・八五方軒。大阪平野沖積平原の一部を占めて地形平坦、北境に沿ひ横尾川西北流して大阪灣に注ぐ。農産・水産多く畜産もあり。村内には和泉紡織工場・浪花紡織工場等ありて綿織物・絹織物の産出多し。紀州街道西部を貫きて南北に走りその東に社稷南海鐵道通過して大津驛へは北方約一・五軒、東南部には社稷阪和電氣鐵道通過す。此地古くは和名抄、和泉郡和泉郷の内なり。海濱を與津濱と云ひ、古今集に「君を思ひおきつゆの濱になくたつたつれ来たれば有とたに聞く」とある和歌の名所。(タタ) タタクマ 忠限 福岡縣嘉穂郡穂波村の大字。筑豊本線の貨物驛忠限(明治三十一年設置)を設く。忠限炭礦あり。↓穂波村 (タタ) タタコエ 直越 ↓礼会保村(大阪府) (タタ) タタス 糺ノ森 ↓京都市(二一九二頁) (タタ) タタチ 田立村 長野縣信濃國西流摩郡の西南部。木曾川の右岸。飛騨山脈の

地は新炭・用材を出す。社稷能勢電氣軌道東部を南北に走りて多田驛・平野驛あり。中世は多田荘と云ひ多太神社の社領なり。多太神社は延喜式に見ゆる古社にして太田根子を祀り、大字平野に鎮座す。大字多田院に多田院あり。源満仲の廟にして源家の崇敬最も厚し。満仲この地に住し家號を多田といふ。その裔行綱多田藏人と稱す。多田嶺山あり、村の西を流る猪名川の沙石を採る。多田源氏勃興の頃に起り、豊臣氏の時に至り隆盛を極む。現今なほ多少の産額あり。(多田神社) 大字多田院に鎮座。縣社。祭神源満仲・同額光・同額信・同額義・同額家。開創天皇天祿元年、満仲、此地に多田院を創立してその第三子僧源賢をして寺主たらしむ。これ當社の創建にして長徳三年満仲の遺靈を此處に葬る。明治維新神佛分離の際多田院より當社を分離し額光以下一族の諸靈を合祀す。例祭、十月十一日。(多太神社) 郷社。祭神、日本武尊外三神。式内社。舊稱、平野神社。例祭、十月二十九日。(多田院) 大字多田院にあり。もと豊尾山三昧寺と稱す。天祿元年源満仲創立し其子僧源賢を以て開基とす。満仲卒するや此に葬る。弘安四年僧忍性中興し、西大寺の管轄となり、僧源家の崇敬厚し。延文三年、足利義隆、摩氏の骨を納めてより足利異代の將軍骨を此に納む。寛文中徳川家綱これを修造し頗る宏大作麗を極む。明治維新

タタ——タタチ

の際多田院と多田神社とに區別す。(満願寺) 大字満願寺にあり。古義高言宗。神秀山と號し高野末たり。寺傳に神龜年間草創といふ。これ今の奥の院にて、時に高僧通達當山に來り大伽藍を建立す。開創天皇御宇源満仲居城を此地に構へ、厚く富山に歸依して堂塔を建立し満仲の末子美丈史僧となりて觀山に入り本寺を中興す。爾來源家の新願所として一族の崇敬を蒙る。その後北條氏・足利氏等を始め諸武門の歸依厚く、後醍醐天皇また勤王の論旨を賜ひ官寺に準ず。寺壇四圍三十三所第三番壇場となる。寺壇圍多し。内庭は風に名園の名高し。寺寶頗る多し。(多田村) 愛媛縣伊豫國東宇郡の北部。八幡濱市の東南に隣る。東に大野山(七九七米)麓へ中央に向つて急傾斜をなし西も高野山(百米)の山岳聳居して東に向つて傾き、中央及び西部山地の南麓に狭長なる低地を拓き各々谷の水を集めて宇和川の上支南流す。流域は耕地開けて米・麥・蕎麥を産す。各谷を利用して交通ひらけ北の大洲町、南の宇和島市、西北の八幡濱市に鐵道通じバスの便あり。此地古くは和名抄、宇和郡石野郷に屬せしものなるべし。村内に宇都宮永綱の居城址ありて木下城と名付く。代々岩野郷を領有し東多田院と稱せしが、又正中に亡ぶ。(タタ) 多太 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に河村郡多太郷あり。その地いま

タタ

不詳。一に東伯郡松崎村・東郷村の邊ならんといふ。(タタ) 駄大 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄、羽茂郡の條に駄大郷あり(高山寺本にはなし)。地名は蓋し太田郡氏の居せしに據りて起りしか。その地は今の凡そ佐渡郡松ヶ崎村の邊に當る。(タタ) 直村 石川縣能登國珠洲郡の北部。飯田町の東、南に海に面す。地西北より東南に狭長にして、面積八方軒餘の小村。第三紀層よりなる能登丘陵北東部の南斜面にて西北中部は山林、東南部は概ね平坦にて米・蕎麥の産あり。縣道南岸を通じバスの便あるも地僻遠にて交通なほ便ならず。古くは和名抄、珠洲郡若徳郷の内を屬す。直は中世若山庄内の一郷名にして、のち村名に轉ぜしもの。(タタ) タタール 韃靼海峽 閩宮海峽の別稱。(タタ) タタオ 忠生村 東京府武蔵國南多摩郡の東南部。町田町の西北隣。多摩丘陵の一部を占め殆ど丘陵地にて森林あり。東南部は南境を東南に流る、境川の流域にて稍平地をなす。水田及び桑畑あり米・蕎麥を主産す。府道は町田町、北方北多摩郡府中町、西北方八王子市方面に通ず。此地は近世、多摩郡精木領に屬し、江戸時代は代官の支配地・栄地。本郷湯島靈雲寺領等入り交りし地たり。大字上下小山田はもと小山田庄と稱し、小山田關のありし所なりといふ。承久の

南端を占め、東境に伊勢山(一三三三米)...

タタノ 多田野村

郡部のほぼ中央部。郡山市の西方約一二...

タタノウミ 忠海町

廣島縣安藝國

豊田郡の南海岸。東は時崎町に、南は瀬...

タタノ 只見川

福島縣西部を潤はす川。群馬縣の尾瀬沼に...

タタノ 只持

愛媛縣南設楽郡に...

叶津川・蒲生川・豊澤川等兼合し、大沼...

タタノ 忠見村

福岡縣筑後國八女...

殿く、産業事蹟に據れば大谷休伯は關東...

タタノ 立川町

東京府武蔵...

戰場となりし地とす。弘安四年蒙古襲來...

タタラ——タチカ

の城を譲り備後三原に退く。慶長五年關...

タチ 歌知

【歌知町】 岐阜縣美濃國土岐郡の南部。

タタラ 多多羅

【歌知町】 岐阜縣美濃國土岐郡の南部。

タチ アライ

【歌知町】 岐阜縣美濃國土岐郡の南部。

タチカワ

【歌知町】 岐阜縣美濃國土岐郡の南部。

定國には紫崎村とあり、紫崎村は立川郡と稱し、武藏七黨の西黨の立川二郎宗恒・立川入道恒成等を始めとし、立川氏多くなり、東國にも立川兵衛尉・同三郎兵衛尉基泰等の名あり、蓋し立川氏は日奉宗忠の弟宗弘が此地に居館を構へて立川氏を稱せしに始まり、其孫此地に土着し一大勢力を得るに至りしもの。戦國の頃は小田原北條氏に属し、天正十八年北條氏の滅亡と共に亡び、子孫は常陸に移れり、今の普濟寺は宮内少輔重重の居館址なりといふ。明治十四年村名を立川村と改稱、大正十二年町制を布く。(普濟寺)臨濟宗。文和四年立川宮内宗恒が建長寺第三十世外可什を請じて開かしたる寺にて、寺域は立川氏居館の址にて尙土壘の一部存す。南に多摩川を望む景勝の地にして、境内に有名な石輪あり。六枚の板石を六角の柱形に組み、六角の蓋石の上に立て、上に六角の蓋石が置かる。高さ約一米八、周圍に火焔附の圓光を負ふ四天王及び仁王の浮彫あり。板石一枚に一編づゝ現はしたる立像にて各像の上部に七寶の浮彫あり。尙西方廣目天の右側に「延文六年辛丑七月六日施財性了立、道圓刊」の十六字を刻せり。石輪の造立年紀と共に願主作者の名まで明かなるは珍重すべく、形類別他に類例なきものにして、國寶に指定さる。本堂には開山物外和尚の頭巾を戴き佛子を持ち袈裟の裾及び袖を長く垂れて椅子によれ

る像が安置さる。清瘦なる老僧の品格を備へし寫實的なる像にて、頗るよく個性が現はる。本堂にて原漆を施し、胎内に應安三年十一月の銘あり、和尚示寂の後九年を経て造られたる像にて國寶に指定さる。この外境内の首塚附近より發掘されし鎌倉片岩の板碑數十枚が保存さる。(立河原)本町の多摩川に沿ふ河原を立河原と稱す。享徳四年正月、足利成氏、上杉氏の家臣長尾氏と此處に戦ふ。永正元年、上杉顯定、上杉朝良を河越城に攻めんとす、朝良ことを附き、兵を出して兩軍此處に戦ひ、朝良遂に敗北す。

夕チキ 立木 福島縣伊達郡にありし村。明治二十六年立子山・青木の二村に分る。
夕チハ 立槌 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に久末郡立槌郷あり。その地は今の東伯耆郡東志村・西志村の邊なるべし。

夕チノ 立野 出羽國(羽後、秋田縣)にありし和歌の名所。今の南秋田郡天玉村の邊を稱すといふも詳かならず。古歌「みちのくの秋田の山は秋露の立野の駒も近づきぬらし」
【立野】 武藏國(東京府)の古地名。和名抄に都筑郡立野郷あり。延喜式左馬寮式に立野御牧と見え、拾芥抄には武藏五牧の一に擧ぐ。そのほ地いまの南多摩郡鶴川村・忠生村の邊といふ。またこの地古

來歌枕として知らる。蘆葉ヲ夕霞チヲ野にあらるばなれ駒つなきかたしや春のころは 實超
【立野】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に飯高郡立野郷あり、多千乃と訓ず。地は今の飯高郡松尾村及び大河内村の邊にして、松尾村の大字に立野の名あり。
【立野】 三郷村(奈良縣)
夕チハタ 館畑村 石川縣加賀國石川郡の西北部。松任町・鶴來町の略中間、いづれへも約五軒。面積僅に四・五八方軒。手取川右岸の扇狀地の一部を占め、灌溉の便よく土地肥沃、加賀米を主産物とす。他に絹織物機業盛にして輸出羽二重の産多し。鶴來・松任兩町を結ぶ縣道村内を貫通し、パスの往來繁し。此地古くは和名抄、石川郡井手郷内に屬せしものゝ如し。もと夕チハタと讀みしは今専ら夕チハと稱す。
夕チハナ 桶 **【桶】** 下鏡別村(北海道)
【桶村】 茨城縣常陸國茨城郡の南端。小川町の東隣。大部分は低き臺地にて畑地多し所々林を交ふ。中部及び西部には臺地間に狭き低地ありて沼田をなす。農業主にて米・麥を産し副業として養蠶行はる。縣道は村の南部を横斷し、小川町及び鹿島郡鉢形町(約八軒)に通じパスの便あり。此地古くは和名抄、茨城郡立花郷の内に屬したり。東鐵治承五年の條にも、以當國桶郷令奉寄鹿島社と

あるも蓋し此地を稱せしもの。
【桶村】 千葉縣下總國香取郡の東部。利根川の西南岸にて惟川町の東南隣。東は利根川を隔て、茨城縣鹿島郡若松村と相對す。村内丘陵地多く森林あり、西部及び利根川沿岸には、低地ありて水田をなす。米・麥・蕎麥を産し養蠶も行はる。利根川に沿ひて縣道あり。省縣成田線またこれに沿ひ下總桶郷(昭和八年設置)を設く。利根川の水運の便もあり對岸若松村との間には渡船を通ず。この地は和名抄、海上郡石田郷の内に於て、中古、此の附近の舊三十餘箇村と共に桶庄(一に東庄ともいふ)に屬す。往古、海上郡家のありし地なりといふ。大字羽計に羽計磐地あり、いま掛圖となり周圍は山林をなす。城主許かならず、或は之を以て郡家の址なりともいふ。大字青馬に青馬氏宅址あり、いま墓址を存す。千葉氏の臣青馬主計・小林外記等これに居りしと。附近に古墳多し。大字石出は千葉氏の旗石出氏の居し處。(東大神)大字宮本に靈社。總社。祭神玉依姫皇命。景行天皇五十三年の創立と傳ふ。もと總社東宮・八尾宮又は地社玉子大明神と號す。千葉氏・東氏等の崇敬あり。東庄三十餘の産土神たり。江戸時代に朱印領十石を有す。例祭、陰曆四月八日。
【桶村】 神奈川縣藤澤郡にありし村。昭和十二年本村を廢し其地城を用崎市に編入す。

【桶村】 新潟縣越後國中魚沼郡の北部。信濃川の左岸。千手町の北方約六軒。西中は信濃川・澁海川を分つ山脈の東斜面をなし、東中に平地開かれ、水田桑園あり。農業を主とし、米の産最も多く、天いで蕎麥を産す。山林よりは木炭も出ず。南北に縣道貫通し、十日町へはパスの便あり。會津新風土記に大字仁田に古碑あり、高四尺幅二尺餘、野町石にて上に梵文三字ありて下に正平十四年九月下旬、道阿彌白と彫りつけたりと見ゆ。また准后道興國圖雜記に見える木落は、大字木落とす。

【桶町】 徳島縣阿波國賀郡の東南端。紀伊水道橋頭に位し高岡町の南方約五軒、西は新野町に界す。面積六・六方軒。四國山脈の東端部の沈降によるリヤス式海岸を呈し、同郡唯一の門戸をなし縣下屈指の良港たり。灣口は東に開きその幅約四軒、奥行凡そ五軒、南北兩側に山地を繞らし港内廣く辨天島中央に横はり綿波島・長島・高島・小勝島等の諸島散布して風波を避く。其多島の景観は四國松島の稱あり。且つ熱帯性植物自生地として名高し。市街は地勢の制約を受け灣に沿ひ東西に長き市街を作る。従來地方漁村に過ぎざりしも最近商港としての急激な發達に伴ひ、昭和三年以來の海運埋立工事も完成し市街はこの地域に延びつつあり。本町は農・漁・商盛なるも特に漁業は若はれ、牡蠣・海産物産詰・船舶造

船・魚類加工等の産額多く、また彼葉石を出す。牡蠣の養殖は特に盛にて桶村郷として販賣市場に知らる。徳島市・海部郡の諸地方にパスを通じ省線本線とも昭和十一年間通し河渡橋を設き、海上には旅客船として大阪・徳島・甲浦・桶等定期航路ありて交通上の核心たり。なほ貨物運送には樺太との間に五千噸級汽船の航行あり、その他九州・中國・四國及び阪神地方に運船の便あり。米・砂糖・醬油等を移出し、米・砂糖・清酒・蠶織物・金屬等も移入す。従つて人口は四二九四人にすぎざるも一方軒の密度は六五一人を示し、全國平均一八一一人に比し悉に多く本郡に於ける最稠密地帯とす(昭和十年)。大正元年桶浦村を桶町と改稱す。往古、後基朝臣この地を過り彼葉石に寄せて桶浦の風光を詠す「桶の浦の夕風潮さよばいしまの沖ぞ遠くなりゆく」

【辨天島熱帯性植物群落】 指定天然記念物。桶浦内の辨天島にあり。島は周圍九〇米、高さ一七米餘の砂岩の小島にして、周圍一米餘の榕樹の古株その他うばめがし・まさき・あかめがし・いねび・とばう・くても等が岩壁に生え、うちなでしこ・ききょう・うへ・ひとつばなどがその間に著生し、頂にはやだけが密生す。
【桶村】 愛媛縣伊豫國新居郡の西北海岸。瀬戸内海に北面し、西條町の西南、永見町の北に界す。面積一・四平方軒。南部に丘陵山地存するも大半は海岸平地

に屬し海に向つて展開し、耕地多し。省縣道本線東西に通じ石鏡山嶽(昭和四年設置)を設く。米・蕎麥を産す、和名抄に新居郡花柳あり。花柳は文徳實錄に辨野郷桶里とあるに因れば蓋し立の字を脱せしものなるべく、本村を稱せしものならん。
【桶村】 佐賀縣肥前國杵島郡の中部。武雄町の東に隣る。東部には丘陵ありて東南端に杵島山(三四二米)聳え、又西南隅に虚空蔵山(二八八米)聳居するも一帯に低地開け六角川上流東川登村より來りて西部を北流し北方村に入りて東折す。灌漑の便よきため畑地多く拓け米の産多しまた蕎麥・蕎麥を産す。省線佐世保線の高橋驛は北方約〇・五軒にあり。古くは和名抄、杵島郡見郷の内に屬す。近世鍋島藩の支配下に屬す。
【桶】 下々石灣
夕チバナ 立花 **【立花村】** 岩手縣陸中國和賀郡の中部南端。北上川の左岸に沿ひ西は川を隔てて黒澤尻町・二子村に對し、東は江刺郡福岡村南は同郡福浦村に界す。地は南北に長く面積約一七方軒。東中は北上山地西端部に高さ一〇〇米餘の丘陵性山地、西中は北上川に沿ふ平坦地に於て耕地拓け蕎麥は昔ここに發達す。米の外に野菜・果實等を産す。北上川上には朝日橋ありて黒澤尻より東隣福岡村へ、また河東を北上して北隣更木村への道路はいづれ

もパスを通じ交通不便ならず。立花見沙門天は大字立花にあり佛は慈覺大師の作として知られ崇敬參拜者多し。大字黒岩の正洞寺は諸佛佛光に見ゆる説話を傳へ、和賀氏の祖光、多田親親が、攝津國中山寺を移し造りたりといふも附合の説なるべし。(見沙門堂)大字立花にあり。天台宗寺門派。仁明天皇嘉祥三年同仁の草創と傳ふ。本尊木造沙門天立像一軀及び木造二天王立像二軀は共に藤原時代の作に係り現に國寶たり。
【立花村】 茨城縣常陸國行方郡の北部。霞ヶ浦の東岸にて、玉造町の北隣。大部分低き臺地をなして畑地多し。霞ヶ浦沿岸のみ狭き低地ありて水田をなす。農業主にて米・麥・大豆・蕎麥を主産し他に干柿・栗等を産す。霞ヶ浦より公魚等の水産あり。縣道は小川町より來り霞ヶ浦に沿ひて玉造町に通じ、社線鹿島參宮鐵道又これに沿ひ村内に桃浦・濱(共に大正十三年設置)の二驛を設く。又對岸新治郡安藤村との間には渡船の便あり。此地古くは和名抄、茨城郡立花郷の内に屬す。應安の香取海大注文に「はれうふな津、羽れう知行分」とあるは大字羽生の地とす。(東福寺)大字濱にあり。天台宗。瑞晴光山聖王院と號す。觀應二年東院僧正の創建と傳ふ。本尊藥師如來は聖德太子の作と傳へ古來靈驗顯著なり。境内に孝子園作の墓あるを以て名高し。水戸光圀開作の孝心を深く賞し、召して黄金を

賜はるも蓋し此地を稱せしもの。
【桶村】 千葉縣下總國香取郡の東部。利根川の西南岸にて惟川町の東南隣。東は利根川を隔て、茨城縣鹿島郡若松村と相對す。村内丘陵地多く森林あり、西部及び利根川沿岸には、低地ありて水田をなす。米・麥・蕎麥を産し養蠶も行はる。利根川に沿ひて縣道あり。省縣成田線またこれに沿ひ下總桶郷(昭和八年設置)を設く。利根川の水運の便もあり對岸若松村との間には渡船を通ず。この地は和名抄、海上郡石田郷の内に於て、中古、此の附近の舊三十餘箇村と共に桶庄(一に東庄ともいふ)に屬す。往古、海上郡家のありし地なりといふ。大字羽計に羽計磐地あり、いま掛圖となり周圍は山林をなす。城主許かならず、或は之を以て郡家の址なりともいふ。大字青馬に青馬氏宅址あり、いま墓址を存す。千葉氏の臣青馬主計・小林外記等これに居りしと。附近に古墳多し。大字石出は千葉氏の旗石出氏の居し處。(東大神)大字宮本に靈社。總社。祭神玉依姫皇命。景行天皇五十三年の創立と傳ふ。もと總社東宮・八尾宮又は地社玉子大明神と號す。千葉氏・東氏等の崇敬あり。東庄三十餘の産土神たり。江戸時代に朱印領十石を有す。例祭、陰曆四月八日。
【桶村】 神奈川縣藤澤郡にありし村。昭和十二年本村を廢し其地城を用崎市に編入す。

異へ村吏に命じ厚く保護を加へ、更に其
區中村良直に命じ之が傳を存らしむ。
【立花】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名
抄茨城郡の條に立花郷あり。その地は今
の茨城郡橋本村及び行方郡立花村の地に
當る。

【立花村】 兵庫縣磯川郡の南部。
尾ヶ崎市の北に接す。面積七・四二方軒。
西方武庫川、東方神崎川兩河下流の中間
に位置し肥沃なる沖積低地の一部を占む。
乾燥地なれども灌漑よく行はれて米・麥
の産多し。工業も發達す。西方西宮市と
り北方伊丹町に至る道路西北側を通ぎ、
尾ヶ崎市より伊丹町を通り池田町方面に
走る道路東北側を通ぎ、省線東海道線
南部を走り立花驛(昭和九年改築)あり。
社線阪神急行電車は中央を横斷し塚口驛
あり。

【立花村】 廣島縣備後國御調郡の向島の
南面を占む。北は向島西村に界し他は瀬
戸内海に面す。面積僅に二・四二方軒。
東北隅に高見山(二八九米)聳えて北境に
其連峯をのびし海に响つて急斜す。その
崖下に砂礫地を開ける所ありて耕作を行
ふ。米麥を産し變置を行ふ。南岸岡條・
江之浦の漁港ありて水産業行はれ銅・錫
等の漁獲あり。向島の北方尾道市に釜吉
より渡船の便あり。

【立花村】 愛媛縣伊豫國越智郡の東部。
今治市の南端に位置し、東は窪津に臨む。
面積僅に五・一五方軒。高橋半島東北岸

の平坦な地をしめ番社川下流の沖積平野
よく拓けて肥沃な耕地をなし、農業盛ん
に行はれ米・麥を産す。また藪・柑橘類
の産額も少からず。近年は今治市の綿織
紡績・綿織物等の工業の影響をうけ、村
内に綿工業起り、番社川の水は綿織漂白
に利用されるをもつて綿糸・内地向
オム等をも産す。省線東海道本線は本村を
通過しその東方海岸に沿うて縣道通す。
人口増加は頗る大にして村は頗る活況を
呈す。古くは和名抄、越智郡立花郷の地
にして、大字郷あり。中世以降、今治藩
松平氏の支配下に屬す。

【立花村】 福岡縣筑前國糟屋郡の北部。
福岡市の東北約八軒。全村山地・丘陵起
伏し南境に立花山(三六七米)聳居す。中
央部及び西部に稍低地開く。低地は田畑
よく拓けて米麥を産し山地は潤葉樹林多
く又竹林もあり薪炭を出す。道路青柳村
より中央を南に貫き大川村方面に至る
もの及び西部を西南方へ走り香椎村に
向ふもの等あり。西方には若狭鹿島本
線南北に通じて香椎驛は西南方約三軒に
あり。秀郷流大友貞宗建武中足利氏に
從ひて功あり、因て此地の立花城主とな
り、立花氏を稱す。【立花城】 大字立花
口なる井樓山上に其址あり。永祿十一年
四月城主立花鑑義、大友宗麟に背き、宗
麟即ち其將戸次重定を遣はしてこれを攻
めしむ。城兵潰散して鑑義自殺し西大友
氏絶つ。翌十二年四月毛利氏の軍來りて

なほ郡内第一の産額を有す。大字札には
歩兵第三十六聯隊兵營あり。縣道東西に
通じバスの便あり。この地名抄、丹生郡
朝津郷の内。正保三年松平昌親二萬五千
石を領して吉江(今の大字)に居りしが、
明暦三年宗家を築き上石田にあり。郷
社。祭神は大日靈貴尊。(西光寺) 大字
杉本にあり。眞宗本願寺派。寶徳四年存
如上人の創建。のち蓮如上人の妹、如前
を永存に祀し寺を能がしむ。天正年間職
田信長の兵火に焼かれしが、文祿四年に
五子足羽郡東郷城主長谷川五郎現地に
再興す。因守松平忠昌諸役免除の寺と定
め、次で昌親は表門その他を寄進す。
【タチモリ】 只持 愛知縣南設楽郡に
ありし村。明治三十九年本村はか五箇村
を廢し風車寺村を設けり。

【タチヤザワ】 立谷澤村 山形
縣羽前國東田川郡の東南部。最上川の支
流、立谷澤川の流域にて鶴岡市の東方約
一六方軒。東は最上都に界す。面積一六〇
平方軒の大村。東境は南北に通る虎渡藏
山(二〇九〇米)・板敷山等の出羽丘陵に
より、西境は南端の月山(一九二四米)、
中部の羽黒山(四一九米)等の火山により
て囲まれ、月山北麓に發する立谷澤川中
部の谷を北流し幅狭き平地を造る。主産
物は米・薪炭類。古くは砂金産地として
著れし近年著しく減少す。大字村には
藤原秀衡の妹、德尼が三十六人の従者と

これを圍み攻めせし、元龜元年宗麟ま
た當城を復し、遺雪を置きて毛利氏に備
ふ。天正十四年七月島津氏來り攻めし
道雪の子宗茂屈せず、八月島津氏民家を
焚て退く。同十五年豊臣秀吉當城を小早
川隆景に與ふ。のち隆景これを毀ちて名
島に新築し立花城とに於て居す。【立
花山標原始林】 指定天然記念物。大字立
花口字立花山にあり。標原山頂にはなく
山腹一帯に發生し、日通幹圍三米餘のもの
の多く、三米内外のもの數千本と稱せら
れ、七股標と呼ばれるものは幹圍約一二
米なり。標原始林として著しきのみ
ならず、同樹の分布上北限地帯に當ると
いふ。

【タチバナ】 橋本郡 神奈川縣(武蔵
國)の東北部。神奈川縣十郡の一。多摩
川の南岸にて、東は川崎市、南は都筑郡、
西は東京府南多摩郡、北は同北多摩郡と
隣す。面積四七・四〇平方軒の小郡なり。
大部分は多摩丘陵の一部をなして森林多
し。北境を東流する多摩川流域には低地
ありて水田畑多し。麥・豆類・甘藷・
栗・馬鈴薯等を主産し變置も行はる。社
線小田原急行鐵道は西部を西南に走り、
社線南武鐵道は多摩川の南岸を西走す。
郡内に箱田町の他、宮前・向丘・生田の三
村あるのみなり。郡名の起原は日本武尊
の龍紀橋渡に因りてその御名代なりとい
ふ。郡内橋本大字村母口(はま川崎市内)
に立花神社あり土人相傳へて橋本祖の故

共に戦勝を遂げし草庭を結びし地といは
れ、附近に小石に經文の一字或は梵字を
書きて埋めし經塚あり。また立谷澤(科
澤)城は吉野朝時代のものにて正平二年
北畠顯家庄内に據らんとしてここに至
り、翌三年結城朝朝の軍の來攻せしを破
りし處なりと。大字村西の頭部野新田は
古くは泉野・純野或は泉納ヶ原といひ、
羽黒山の舊靈場にして堂宇の礎石・庭石・
井の跡等今に存す。(月山神社) 大字立
谷澤に龍澤。官幣大社。祭神月讀命。月
山の範圍にあり。出羽神社。湯殿山神社
と併稱して、羽黒山又は羽黒山三所稱
現といふ。式内名神大社。例祭、七月十
五日、出羽神社に於て執行す。

【タツ】 田津 相模國(神奈川縣)の古
地。和名抄、御浦郡に田津郷あり、その
地、今の橋本市市中町・公郷町の邊に
當る。

【タツ】 達川 朝鮮忠清北道の川。漢江
の一支。遼北道界の俗羅山(一〇五七
米)・西麓に發源し諸水を築めて愼恩・清
州・槐山の各部を流れて、槐山より北方に
蛇曲流を續けて忠州郡に入り忠州邑の西
北端に於て漢江に合す。流域約一二〇軒。
舟楫の便なきも灌溉の利よろしく、殊に
槐山・忠州の兩平野は地味肥沃にして良
質の米を産し、麥・棉・柳草の産も多く
して本道の寶庫と稱せらる。水運に近く
法住寺の名刹あり、愼恩は忠州・槐山の
郡邑及び柳草耕作の中心たる米院里等あ

地なりと。和朝の制地名を二字に定めし
時勢の字を加へ橋本とせるものならんと
いふ。萬葉集に橋本郡の名始めて見ゆ。
和名抄は太知波奈と注し高田・橋本・御
宅・縣守の四郷を設く。近年東南部は橋
本市・川崎市に入りて郡域著しく縮小す。

【タチバナウラ】 橋浦 徳島縣那賀郡
にありし村。大正元年橋本町と改稱す。
【タチバナノオド】 橋小門 徳島縣那賀郡
↓橋原・阿波岐原
【タチバナノコジマガサキ】 橋小
島崎 山城國(京都府)の古地名。元暦
元年正月佐々木高綱、梶原景季宇治川先
陣争の時、こころ渡河せしといふ。其
地今詳かならざるも宇治川左岸平等院の
附近なるべし。一説に宇治橋の下流二町
許の地なりと。平家物語「重忠先づ瀬頭
仕らんとして、丹の雲を宗として、五百餘
騎ひし／＼と漣を並ぶる所に、爰に平等
院の長、橋の小島が崎より、武者二騎、
引つかけ／＼出て來たり。一騎は梶原源
太受季、一騎は佐々木の四郎高綱なり」
【丹比】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名
抄に八上郡丹比郷あり。地は凡そ今の八
頭郡丹比村に當る。
【丹比】 安藝國(廣島縣)の古地名。和名
抄に高宮郡丹比郷あり多知比と調す。多
知比と調ざるは後人の改作なるべし。そ
の地今の高田郡丹比村の邊なるべし。
【タチベ】 丹部 丹治郡(岡山縣)

り、槐山郡内の河原には温泉湧出す。
【タツイ】 龍井庄 徳島縣中州大
甲郡の西南隅。大抵溪は北部を流し、西
は瀨田海峽に面す。東端の一小部分大字
新庄子は大肚山脈の低き丘陵をなすも、
之を除けば總て平坦にして沃野展開す。
故に農耕適地廣大にして純然たる農村を
形成す。主要農産物は米・甘藷・甘藷・
蕎麥・柳草・鳳梨・落花生等にして、水
稻の年價格百五十餘圓、除稻一萬四千
圓を筆頭に、甘藷の八萬四千圓、甘藷の
四萬六千圓と合せて農産總額の大部分を
占め、蕎麥一萬餘圓、柳草六千餘圓程度
にして農業に依る年生産額百六十八萬餘
圓にして、農民の生活頗る富裕なり。畜
産として水牛六百餘頭、黄牛三百餘頭は
専ら農耕及び運搬等の勞役にとなり、豚
三千四百餘頭、山羊五百餘頭、鶏一萬二
千餘羽、鰻一萬五千餘羽、鰻六千餘羽は副
業的に農家に於て著く飼育せられ、改良
地肥厚命の普及に伴ひ、一面採肥上の利
益と相俟つて農家經濟の有力なる一支柱
をなす。工業は家内工業たる帽子編製を
第一とし、その他粗摺・精米を除きては
見るべきものなし。鐵貫線(海岸線)は
中央部を南北に貫通し、龍井驛を設く。
指定道路之に沿ひ局管バスを運轉す。他
指定道路より分岐せる重要道路及び産
業道路あり、民營バス及び軌道(手押産
車)の便を有し、鐵道及び局管バスに連
結す。庄の北半はもと大肚中流に、南半

【タチマ】 立間村 愛媛縣伊豫國北宇
和郡の西北隅。吉田町の北に隣る。西北
隅に高森山(六三五米)聳え其南斜面は急
傾斜をなして中央に下り、西は山脚なが
く南に伸びて東に傾斜し、東部は高麗二
〇〇—二五〇米の丘陵性山地連なり兩山
地の間に狭長なる低地あり。低地は田畑
よく拓けて農耕行はれ米・藪・竹を産し
又柑橘類を多く産す。立間霊社として名
高き温州霊社の本場にして村の特産をな
し、南隣吉田港より積出さる。吉田町よ
り縣道通す。此地古くは和名抄、宇和郡
立間郷の内に屬し、村名は蓋し其遺稱と
す。(八幡神社) 地誌。祭神、多紀理見賣
命、外五神。治承年間田原又太郎・藤原
忠綱の創建。明暦三年伊達宗純領主とな
るに及び、當社を以て領内の總鎮守と仰
ぎ殿社を造營敬神の誠を致す。爾來代々
藩主の崇敬厚し。例祭、十月十五日。
【タチマジリ】 立間尻 愛媛縣北宇和
郡にありし村。昭和十三年二月吉田町に
編入。

【タチマチ】 立待村 福井縣越前國丹
生郡の東部。福井市と南方の南條郡武生
町との間に中間に位置し、東は今立郡、北は
足羽郡に界し、面積約七・五方軒。武生
盆地の北部に當り北境に高さ一五〇米内
外の丘陵ある外は土地平坦、日野川南北
に貫流し、水田多し。米を主とし、梨・野
菜等の農産あり、松茸の特産とす。人相
頗る盛にして古來の名産たりし石田餅も

【タチマ】 タツイ

【タチマ】 タツイ

【タチマ】 タツイ

【タチマ】 タツイ

【タチマ】 タツイ

【タチマ】 タツイ

タツイ

は大社下位に属し、漢族の足跡を及ぼせば早く明本郷氏の時代にありたるも、開拓の緒に就きしは遙かに遅れ、清領後乾隆二十年代に水裡港始めて陳姓の國人によりて開かれ、四十年代に張姓の國人は檳榔嶼附近を開き、次いで福頭嶺の部落形成せられ、北邊三塊厝附近は北方格様の市街成ると相前後して開墾せられたり。然れども海濱の一帯は總て沙地にして、水裡港・檳榔嶼等港口附近の部分の他は、嘉慶年間まで多く未墾の荒地に委せられしが、同末年より盛に墾墾を見、其結果漳泉人の分類械闘及び趙・陳異姓の紛争を惹起し、加ふるに道光年間には大風雨の惨害ありて既墾の田圃多くは荒廢に歸し、住民一時四散するに至りしが爾後漸く復するに及び、沖崖地を再墾して海濱に復せり。河口地方の水裡港・檳榔嶼港は相次いで發展し、殊に後者は道光年代以後中部臺灣の開港場として繁盛を極め、之に次いで龍井(制度改正前は茄投と稱す)榮え、近接各地物資集散の中心地となり、領臺前後まで商況活氣を帯びたりしも、大社溪流の變遷に影響せられ、檳榔嶼港衰頹し、龍井の都落亦河身の異動によりて半ばを流失せられ、加ふるに明治四十一年龍井鐵道(今の臺中線)の開通は物資の集散を奪ひ、大正九年にはまた海岸線(現龍井線の一部)の開通に依りて龍井の都落は交通の便及び地の利を失ひ、商勢は東北海岸地

タツイケ

街に移り、檳榔嶼港及び龍井は僅かに餘鳴を保つに過ぎざるに至れり。然れども大社溪の護岸工事は昭和八年以來完成し全く水害の跡を絶ちたるより、農村として繁榮しつつあり。

タツイチ

唇に移り、檳榔嶼港及び龍井は僅かに餘鳴を保つに過ぎざるに至れり。然れども大社溪の護岸工事は昭和八年以來完成し全く水害の跡を絶ちたるより、農村として繁榮しつつあり。

タツエ

唇に移り、檳榔嶼港及び龍井は僅かに餘鳴を保つに過ぎざるに至れり。然れども大社溪の護岸工事は昭和八年以來完成し全く水害の跡を絶ちたるより、農村として繁榮しつつあり。

タツカ

唇に移り、檳榔嶼港及び龍井は僅かに餘鳴を保つに過ぎざるに至れり。然れども大社溪の護岸工事は昭和八年以來完成し全く水害の跡を絶ちたるより、農村として繁榮しつつあり。

沿岸には桑園多し。田の産多く、其の他米・麥を産す。天龍下りの船着場なる對岸龍丘村の時又へ橋により連絡す。谷沿ひの縣道も對岸の遠州街道に結び、一條の縣道を隔り千代村に分岐す。社線伊那電鐵川路群へ二軒餘、バスの便あり。この地は中世、南山庄に屬す。大字今田には江戸時代初期、伊那郷士、井上渡守五千石の陣屋のありし所なりといふ。

御物使用との合流點。南は中五郎郡に、東北は釜無川を境に集時町・鹽崎村に接す。面積僅に四・七五方軒。甲府盆地の西北隅、釜無川と御物使用との複合扇狀地上にあり。土地肥沃、水田・桑園相半する状態にして、米・蕎麥・茶を主産物とす。穀・中・信三國を結ぶ縣道、村内を南北に貫貫す。省線中央本線の重富驛に近し。この地は和名抄、五郎郡檢戸郷の内にして、中世は竹利庄に屬す。(本無等)大字下條東側にあり。本門寺。法水山と號し北山本門寺に屬し小本寺格たり。嘉曆四年日興上人其弟子日願かして高祖日蓮上人教化の遺跡に本寺を創せしむ。依りて日興上人を開山とす。

御物使用との合流點。南は中五郎郡に、東北は釜無川を境に集時町・鹽崎村に接す。面積僅に四・七五方軒。甲府盆地の西北隅、釜無川と御物使用との複合扇狀地上にあり。土地肥沃、水田・桑園相半する状態にして、米・蕎麥・茶を主産物とす。穀・中・信三國を結ぶ縣道、村内を南北に貫貫す。省線中央本線の重富驛に近し。この地は和名抄、五郎郡檢戸郷の内にして、中世は竹利庄に屬す。(本無等)大字下條東側にあり。本門寺。法水山と號し北山本門寺に屬し小本寺格たり。嘉曆四年日興上人其弟子日願かして高祖日蓮上人教化の遺跡に本寺を創せしむ。依りて日興上人を開山とす。

御物使用との合流點。南は中五郎郡に、東北は釜無川を境に集時町・鹽崎村に接す。面積僅に四・七五方軒。甲府盆地の西北隅、釜無川と御物使用との複合扇狀地上にあり。土地肥沃、水田・桑園相半する状態にして、米・蕎麥・茶を主産物とす。穀・中・信三國を結ぶ縣道、村内を南北に貫貫す。省線中央本線の重富驛に近し。この地は和名抄、五郎郡檢戸郷の内にして、中世は竹利庄に屬す。(本無等)大字下條東側にあり。本門寺。法水山と號し北山本門寺に屬し小本寺格たり。嘉曆四年日興上人其弟子日願かして高祖日蓮上人教化の遺跡に本寺を創せしむ。依りて日興上人を開山とす。

御物使用との合流點。南は中五郎郡に、東北は釜無川を境に集時町・鹽崎村に接す。面積僅に四・七五方軒。甲府盆地の西北隅、釜無川と御物使用との複合扇狀地上にあり。土地肥沃、水田・桑園相半する状態にして、米・蕎麥・茶を主産物とす。穀・中・信三國を結ぶ縣道、村内を南北に貫貫す。省線中央本線の重富驛に近し。この地は和名抄、五郎郡檢戸郷の内にして、中世は竹利庄に屬す。(本無等)大字下條東側にあり。本門寺。法水山と號し北山本門寺に屬し小本寺格たり。嘉曆四年日興上人其弟子日願かして高祖日蓮上人教化の遺跡に本寺を創せしむ。依りて日興上人を開山とす。

タツオカ

龍岡村 山梨縣甲斐國北五郎郡の東南部。釜無川右岸に沿ひ

タツカワ

龍川 山梨縣北都賀郡の北部。天龍川と眞田川の合流點に跨る。全村山地にして天龍川本流は略中央の山嶺を林

タツエ

立江町 徳島縣阿波國那賀郡の東北部。徳島市の東南約一三軒。宮岡町の西北約六・五軒。地勢は西南隅より東北隅に對角線を引けばほぼ二分される。即ち西北部は丘陵性山地によりて占められ東南部は平野なり。山地には針葉樹繁茂し、平地には水田よく拓く。省線本岐線は東部を貫通し、阿波赤石・立江の二驛(いづれも大正五年開業)を置く。此地古くは和名抄、那賀郡坂野郷に屬す。明治四十一年町制を布く。町内に立江寺あり。町名は蓋しこれに因みしもの。(八幡神社)大字立江に鎮座。郷社。祭神、帶仲彦命、外二神。豊前守佐八幡宮を分祀せしものなりといふ。慶長十六年源兼幸社殿を再建す。例祭、九月十五日。(立江寺)大字立江にあり。古義爲言宗。橋邊山地院と號す。高野木にして四國八十八所第十九番札所。天平年間僧行基の開創に係り、聖武天皇勅願所に定めらるるといふ。寺寶中、紺布着色釋迦三尊像一幅は國寶たり。詠歌、いつか來て西のすまゐの我がたちへ弘誓の船に乗りて到らん。

タツエ

立江町 徳島縣阿波國那賀郡の東北部。徳島市の東南約一三軒。宮岡町の西北約六・五軒。地勢は西南隅より東北隅に對角線を引けばほぼ二分される。即ち西北部は丘陵性山地によりて占められ東南部は平野なり。山地には針葉樹繁茂し、平地には水田よく拓く。省線本岐線は東部を貫通し、阿波赤石・立江の二驛(いづれも大正五年開業)を置く。此地古くは和名抄、那賀郡坂野郷に屬す。明治四十一年町制を布く。町内に立江寺あり。町名は蓋しこれに因みしもの。(八幡神社)大字立江に鎮座。郷社。祭神、帶仲彦命、外二神。豊前守佐八幡宮を分祀せしものなりといふ。慶長十六年源兼幸社殿を再建す。例祭、九月十五日。(立江寺)大字立江にあり。古義爲言宗。橋邊山地院と號す。高野木にして四國八十八所第十九番札所。天平年間僧行基の開創に係り、聖武天皇勅願所に定めらるるといふ。寺寶中、紺布着色釋迦三尊像一幅は國寶たり。詠歌、いつか來て西のすまゐの我がたちへ弘誓の船に乗りて到らん。

タツエ

立江町 徳島縣阿波國那賀郡の東北部。徳島市の東南約一三軒。宮岡町の西北約六・五軒。地勢は西南隅より東北隅に對角線を引けばほぼ二分される。即ち西北部は丘陵性山地によりて占められ東南部は平野なり。山地には針葉樹繁茂し、平地には水田よく拓く。省線本岐線は東部を貫通し、阿波赤石・立江の二驛(いづれも大正五年開業)を置く。此地古くは和名抄、那賀郡坂野郷に屬す。明治四十一年町制を布く。町内に立江寺あり。町名は蓋しこれに因みしもの。(八幡神社)大字立江に鎮座。郷社。祭神、帶仲彦命、外二神。豊前守佐八幡宮を分祀せしものなりといふ。慶長十六年源兼幸社殿を再建す。例祭、九月十五日。(立江寺)大字立江にあり。古義爲言宗。橋邊山地院と號す。高野木にして四國八十八所第十九番札所。天平年間僧行基の開創に係り、聖武天皇勅願所に定めらるるといふ。寺寶中、紺布着色釋迦三尊像一幅は國寶たり。詠歌、いつか來て西のすまゐの我がたちへ弘誓の船に乗りて到らん。

年刊制實施に際し、原田・金藏寺・木
 三村を併合、龍川村と改稱せり。本
 村が地勢上農村地として早く開けたるこ
 とは、統制制のよく保存されること、
 また高層田圃(智恵大師)を出せし和氣家
 の古く此地に居住せしこと等により之を
 證し得、従つて社寺・史蹟に富み、神社に
 は郷社春日神社、村社木徳新羅神社、同
 金藏寺新羅神社、無格社原田天神社等あ
 り。寺院には寶宗本願寺法本正寺・専念
 寺、天台宗別格本山金倉寺、眞宗眞正寺
 西福寺(文中創立)、寶正寺(永正中創
 立)・國泉院・觀音堂あり。金倉寺は一名
 道善寺と云ひ、四國七十六番の霊場、和
 氣氏の出なる智恵大師が其祖父道善並に
 父宅成善提の爲め建立せしもの、もと大
 字原田に在りしを延長年間、今の地金倉
 郷に移し、金倉寺と改稱せしもの、村社
 新羅神社は同智恵大師の勧請と傳ふ。

タツクシ 龍串 三郷村(高知縣幡
 多郡)
タツコ 田子町 青森縣陸奥國三戸郡
 の西部。三戸町の西方に位し、これと牛川
 村を隔て、西は小國川谷によりて秋田縣
 鹿角郡大湯町に界す。地東西に長く面積
 約九八・八方軒。中央部の南に朝日奈山
 (七二〇米)、北に太黒森(七一九米)あり
 町の大部分は山地にして概ね火山岩・火
 山灰に蔽はる。たゞ東部を略、東北に貫
 流する藤原川(馬淵川の支流)に沿ひて平
 地あり米作行はれ、河の沿岸には段丘よ

く發達せり。町の主産物は謂ゆる三戸木
 炭をはじめ木村・栗・牛馬・藁等なり。
 三戸・毛馬内間の道路は東部平地を通じ
 三戸町へはバスの便あり。明應年中、南
 部信時(二十世)國政を子信義に譲りて三
 戸城より田子の地に館を築きて遷居す。
 明政(二十四世)の時、三戸城地失し一時
 田子館に移りて國政を見たり。明治維新
 後、附近部藩の分合を行ひて田子村とな
 し、昭和三年御大典を記念し十月十日町
 制を施行す。

タツコ 龍郷村 鹿兒島縣大
 陸國大島郡大島本島の北部。名瀬町の東
 部に隣り北及び南に海に面す。村内は概ね
 山地にして沿海部處に低地あり。一述西
 南部に發源し東北流して海に入る。部落
 は其河岸及び海岸に散在す。南海岸は比
 較的屈曲少なきも、北岸は東北に笠利
 湖の西側をなして屈曲多し。米・麥等の
 農産あり外、若干の水産物あり。織物業
 頗る盛にして大島綿の産多し。名瀬町へ
 自動車及び汽船の便あり。明治四十二年
 島嶼町村制と共に龍郷地方・龍郷及び笠
 利方の一郡を合して龍郷村と稱し、大正
 九年普通町村制を布く。この地は西郷南
 洲流寓の地として名高し。即ち南洲は安
 政六年正月病没を命ぜられてこの地に至
 り、文久二年歸葬するまで三年間、ここに
 起居し島民の開發啓蒙に盡したり。今南
 洲を祀る南洲神社があり、その社前に勝
 海舟像の碑文を刻せる記念碑あり。

タツコム 建古武沼 北海道釧路國
 釧路郡釧路村の北部。釧路市の東北方約
 一六軒。川上郡との界に存す。釧路川上
 流左岸に位置し、西北より東南への長さ
 約二軒、幅約一軒の狭長なる沼湖なり。
 釧路川舊流の河道に築かれし河跡湖に
 て現今尚西方に〇・五軒の水路を以て河
 水と通る。附近は釧路平野の北部に屬し
 土地平坦、川の流域には耕地拓け、沼畔
 には湖藁樹林繁茂す。釧路市より北方約
 茶村へバスの通する地方街道の沿の東側
 を過ぐる邊りに、同名の建古武村あり。
 小農業繁盛なり。之より北方七軒に遊路
 あり。

タツコヤマ 立子山村 福島縣岩代
 國伊達郡の西南部。全村概ね丘陵性臺地
 をなし、阿武隈川は西端を先行しつゝ北
 流す。溪流の風光佳なり。村内河川の見
 るべきもなく耕地少し。藁・麥等を産
 す。道路は中央を西北より東南に通じ、
 西北方福島市、東南方川俣町へはバスの
 便あり。この地はもと立木村の一部なり
 が明治二十六年分村の際大立子山村を
 以て新村をなす。(粘漚渡船場社)指定
 史蹟。宇治川・川前川あり。信夫・伊達兩
 郡を結ぶ交通の要衝にして、古來粘漚の
 名により渡船要所として特に著名とす。
 明治八年中、上流松川川に架橋を見るに
 及びて遂に廢絶せざるも、舊態なほよく存
 す。

仙部の東部。盛川の支流、立根川の流域
 にて、南は盛町に近く、これと猪川村を隔
 つ。北部は筑前山(八八六米)・毛無森山
 (七八六米)、南部は今出山(七五七米)の
 山地。立根川東部に發しこの兩山地の
 裾合を西流して猪川村に出づ。川筋に
 幅狭き平地ありて生産地域をなし米・麥・
 豆・馬鈴薯・野菜等を産し、今出山嶺山
 より金銀鐵を出す。また立根川西岸に
 は松葉石を産し、文部・硯等の用材とな
 る。盛町より越喜來村・吉飯村等への道
 路に當るも交通なほ便利ならず。

タツサキ 龍崎庄 臺灣臺南州新豐
 郡の最東部。東前は高雄州に、北は新化
 郡に隣接す。管内は平地と山地と半々に
 して、東部高く西に向ひて低く沃野展開
 す。主なる河川は何れも管内山地に發源
 する二層行溪の支流にして二條を有す。
 産業の主なるものは農業・畜産業・林業・
 商工業等なれども、何れも生産額僅少に
 して、全體として是を見るに不振なり。
 就中最近なるは農業にして、管内住民の
 大半は新業に従事す、其主産物は米・甘
 藷・豆類・甘蔗・蔬菜・落花生・胡麻等
 なるも、園藝作物としての柑類・橘仔
 (マンゴ)・芭蕉・鳳梨等を見逃す事能
 はず。農産約十萬圓。畜産は豚・水牛・
 黄牛・家禽等にして概ね農家に於て副業
 的に營まる。水牛・黄牛は主として農耕
 用として使役せらる。東部一帯の地は丘
 陵にして、熱帯園藝樹・龍眼樹・樟仔樹・

竹類、其他樹木林の自然産物多く、又近年
 は相思樹の造林行はれ、従つて林産に見
 るべきもの多し。即ち竹材・木材・薪炭
 材の外、楠・羅の副産物を出す。工業に
 於て特に記すべきは、管内に豊富に産す
 る竹を利用する竹細工にして、年約一萬
 五千圓の生産あり。道路の主なるものは
 關廟―旗山道路にして、管内を東西に通
 過す。本庄の地は明末に建てられたる新
 豐里に屬し、清朝の光緒十四年に内・外
 の二里に分てり。大字香社の地は往時平
 埔蕃族に屬するチアカム即ち新港社の一
 部が臺南地方より移住し、のち漢人に追
 はれて退去せし地なり。内新豐里は我領
 臺後も引續き其行政區劃として採用せら
 れしが、大正九年十月、根本的地方制度
 改正に際し、内新豐里下の四庄(現大字)
 の地は割かれて、龍崎庄と稱す。

東は鹿山・清道の二郡に、西は星州・高
 麗の二郡に、南は慶尙南道に各隣接す。
 面積七四四方軒。地勢、北部及び東南部
 は高く山地を成し、中央及び西境に平野
 横はる。即ち北境に八公山(一九二米)
 あり、餘慶北部地域に亘りて即華・環城山
 等を起し、南境に孤臺山(一〇八四米)、
 東南には大徳山等屹立す。河川は東より
 琴湖江流れて門岩川・外川・新川等の各
 支流を容れて洛東江に合流し、中央部に
 流注し便なる琴湖江平野(大邱平野)を拓
 き、西境には洛東江の本流大きく蛇曲し
 て南流し、灌溉並に水運の便よく、地味ま
 た頗る肥沃なり。住民は農を主産業とし
 耕地は田や卓越し、米(一〇萬石)・麥
 (二四萬石)・大豆・棉(八〇萬斤)の産地
 として重要な位置を占め、また大麻・
 莞草・柰柳の産も少からず。果樹は大邱
 苹果・桃・葡萄を産し、特に苹果は解州
 苹果村をその中心とし、同業組合により
 て共同販賣せられ、大邱苹果として鮮内
 は勿論、關門・阪神地方に移出する額少
 からず。また大邱府の大消費都市を擁す
 るを以て蔬菜栽培も亦盛にして、その中
 心は同じく東村なり。副業には養蠶・牧
 畜(牛馬)・養鶏並に蠟燭製造に従事する
 もの多く、また近年は庶子学校をなすも
 の多く、此等の副業収入は多大なり。而
 して郡内の産物は大部分、大邱の西門市
 場その他に搬出して取引せらる。交通、

鐵道京釜本線、郡の北部を貫き、その大邱
 驛(大邱府)よりは東海中郡驛を分ちて東
 村驛設けらる。道路は大邱府を中心とし
 て京釜街道・慶州街道・支街街道等の一、
 二等道路走り、何れもバスの往來繁く、
 また洛東江には舟楫の便あり。東南部の
 山岳地方を除くの外は交通便なり、行政
 上、壽城面は十五面に分ち、郡廳は大
 邱府東城町に設く。郡邑は西南部の支風
 の外著しきものなきも、中央に朝鮮四大
 都市の一、大邱府を擁せると、平野部の
 産業拓けたるを以て人口稠密にて、一平
 方軒當り二三五人を算す。本郡は大正三
 年府郡廢合の際に新設せられたるものに
 て、元大邱府より現在の大部分を分離す
 ると共に、西南に隣接せし支風郡を併せ
 て今の境域をなすに至れるもの。建城の
 名は大邱府の建城公園が往昔建城の遺
 蹟なるより起る。*大邱府

を經て天安へ、三は南部を西南に通じて
 高靈・陝川より晉州へ向ひ、いづれもバ
 スを通じ交通便利なり。東北部に慶尙北
 道農事試験場・同林業試験場・大邱府屠
 場及び大邱競馬場等あり。

タツサン 達山面 朝鮮慶尙北道盈
 徳郡の南西部。東北は盈徳面に隣接し、
 南は迎日郡に、西南と西は青松郡に界す。
 大白山脈の地にて西境上には高度八〇
 〇米を超え、東方に傾斜す。西南山地に
 出づる五十川の支流は東部の谷を北流し
 中部の谷を東北流する溪水と合す。谷地
 に多少の耕地ありて米・麥・大豆等の農
 産あり、また盈徳・西唐・文明等の鐵山あ
 りて金銀鐵を出す。交通なほ便ならず。
タツジョ 達城郡 朝鮮慶
 尙北道の南部。道管内一府二十二郡一島
 の一。北は水川・軍威・法峯の三郡に、

東は慶山・清道の二郡に、西は星州・高
 麗の二郡に、南は慶尙南道に各隣接す。
 面積七四四方軒。地勢、北部及び東南部
 は高く山地を成し、中央及び西境に平野
 横はる。即ち北境に八公山(一九二米)
 あり、餘慶北部地域に亘りて即華・環城山
 等を起し、南境に孤臺山(一〇八四米)、
 東南には大徳山等屹立す。河川は東より
 琴湖江流れて門岩川・外川・新川等の各
 支流を容れて洛東江に合流し、中央部に
 流注し便なる琴湖江平野(大邱平野)を拓
 き、西境には洛東江の本流大きく蛇曲し
 て南流し、灌溉並に水運の便よく、地味ま
 た頗る肥沃なり。住民は農を主産業とし
 耕地は田や卓越し、米(一〇萬石)・麥
 (二四萬石)・大豆・棉(八〇萬斤)の産地
 として重要な位置を占め、また大麻・
 莞草・柰柳の産も少からず。果樹は大邱
 苹果・桃・葡萄を産し、特に苹果は解州
 苹果村をその中心とし、同業組合により
 て共同販賣せられ、大邱苹果として鮮内
 は勿論、關門・阪神地方に移出する額少
 からず。また大邱府の大消費都市を擁す
 るを以て蔬菜栽培も亦盛にして、その中
 心は同じく東村なり。副業には養蠶・牧
 畜(牛馬)・養鶏並に蠟燭製造に従事する
 もの多く、また近年は庶子学校をなすも
 の多く、此等の副業収入は多大なり。而
 して郡内の産物は大部分、大邱の西門市
 場その他に搬出して取引せらる。交通、

鐵道京釜本線、郡の北部を貫き、その大邱
 驛(大邱府)よりは東海中郡驛を分ちて東
 村驛設けらる。道路は大邱府を中心とし
 て京釜街道・慶州街道・支街街道等の一、
 二等道路走り、何れもバスの往來繁く、
 また洛東江には舟楫の便あり。東南部の
 山岳地方を除くの外は交通便なり、行政
 上、壽城面は十五面に分ち、郡廳は大
 邱府東城町に設く。郡邑は西南部の支風
 の外著しきものなきも、中央に朝鮮四大
 都市の一、大邱府を擁せると、平野部の
 産業拓けたるを以て人口稠密にて、一平
 方軒當り二三五人を算す。本郡は大正三
 年府郡廢合の際に新設せられたるものに
 て、元大邱府より現在の大部分を分離す
 ると共に、西南に隣接せし支風郡を併せ
 て今の境域をなすに至れるもの。建城の
 名は大邱府の建城公園が往昔建城の遺
 蹟なるより起る。*大邱府

を經て天安へ、三は南部を西南に通じて
 高靈・陝川より晉州へ向ひ、いづれもバ
 スを通じ交通便利なり。東北部に慶尙北
 道農事試験場・同林業試験場・大邱府屠
 場及び大邱競馬場等あり。

達城郡 朝鮮慶
 尙北道の南部。道管内一府二十二郡一島
 の一。北は水川・軍威・法峯の三郡に、

東は慶山・清道の二郡に、西は星州・高
 麗の二郡に、南は慶尙南道に各隣接す。
 面積七四四方軒。地勢、北部及び東南部
 は高く山地を成し、中央及び西境に平野
 横はる。即ち北境に八公山(一九二米)
 あり、餘慶北部地域に亘りて即華・環城山
 等を起し、南境に孤臺山(一〇八四米)、
 東南には大徳山等屹立す。河川は東より
 琴湖江流れて門岩川・外川・新川等の各
 支流を容れて洛東江に合流し、中央部に
 流注し便なる琴湖江平野(大邱平野)を拓
 き、西境には洛東江の本流大きく蛇曲し
 て南流し、灌溉並に水運の便よく、地味ま
 た頗る肥沃なり。住民は農を主産業とし
 耕地は田や卓越し、米(一〇萬石)・麥
 (二四萬石)・大豆・棉(八〇萬斤)の産地
 として重要な位置を占め、また大麻・
 莞草・柰柳の産も少からず。果樹は大邱
 苹果・桃・葡萄を産し、特に苹果は解州
 苹果村をその中心とし、同業組合により
 て共同販賣せられ、大邱苹果として鮮内
 は勿論、關門・阪神地方に移出する額少
 からず。また大邱府の大消費都市を擁す
 るを以て蔬菜栽培も亦盛にして、その中
 心は同じく東村なり。副業には養蠶・牧
 畜(牛馬)・養鶏並に蠟燭製造に従事する
 もの多く、また近年は庶子学校をなすも
 の多く、此等の副業収入は多大なり。而
 して郡内の産物は大部分、大邱の西門市
 場その他に搬出して取引せらる。交通、

鐵道京釜本線、郡の北部を貫き、その大邱
 驛(大邱府)よりは東海中郡驛を分ちて東
 村驛設けらる。道路は大邱府を中心とし
 て京釜街道・慶州街道・支街街道等の一、
 二等道路走り、何れもバスの往來繁く、
 また洛東江には舟楫の便あり。東南部の
 山岳地方を除くの外は交通便なり、行政
 上、壽城面は十五面に分ち、郡廳は大
 邱府東城町に設く。郡邑は西南部の支風
 の外著しきものなきも、中央に朝鮮四大
 都市の一、大邱府を擁せると、平野部の
 産業拓けたるを以て人口稠密にて、一平
 方軒當り二三五人を算す。本郡は大正三
 年府郡廢合の際に新設せられたるものに
 て、元大邱府より現在の大部分を分離す
 ると共に、西南に隣接せし支風郡を併せ
 て今の境域をなすに至れるもの。建城の
 名は大邱府の建城公園が往昔建城の遺
 蹟なるより起る。*大邱府

を經て天安へ、三は南部を西南に通じて
 高靈・陝川より晉州へ向ひ、いづれもバ
 スを通じ交通便利なり。東北部に慶尙北
 道農事試験場・同林業試験場・大邱府屠
 場及び大邱競馬場等あり。

にして寧ろ専断に過ぐるの憾あるも耕地よく拓く。米・粟・麥の産多く、また近時織物業頗る盛となる。交通は社線名古屋鐵道津島驛へ出づるを最も便とす。

【立田村】三重縣伊勢國員辨郡の西北隅。縣の西北隅にあり、鈴鹿山脈の東斜面に位置し、阿下喜町の西北約八軒餘。西境に島帽子嶽(八六五米)・三國嶽(八一五米)等聳え、西北隅に發する員辨川東南流す。東部には愛老山脈西麓臺地あり。その間に傾低地開く。大部分農業に従事すれど耕地面積乏し。米・粟を産す。其他炭燵をなすもの約三割を占む。工業類最も多く、白石工業株式會社の炭燵カミシヤ工場ありてカミシヤを生産す。交通概して不便なれど兩方の社線三岐鐵道の終點西原驛にバスを過す。村名は能立・古田の二部落を合併して町村制施行の際立田村と命名せるもの。

タツタ

【龍田】福島縣磐城國雙葉郡の東南部。東は太平洋に面し、北は宮岡町に隣る。阿武隈山地の東斜面に屬し、西境に萩塚山(七三四米)あり、東方に傾斜す。井出川は西部山地に出で、北東を東流し、次いで東南に流れ太平洋に注ぐ。木戸川は南境を東流し、その西半部は峡谷をなして流るゝも、東半部は沖積平野をなす。海岸は河口を除く外、絶壁をなして海に迫る。西部には森林、東部河川の沿岸には水田・桑園等あり。米・粟・蕎麥・水産物を産す。

を産す。陸前濱街道は東部を南北に通じ北方宮岡町、南方久之濱町に至る。これに並行して省線常磐線南北に通じ龍田驛(明治四十二年設置)あり。この地は和名抄、磐城郡磐城郡の南境に在り。

【龍田村】兵庫縣播磨國揖保郡の東南部。姫路市の西方約三軒。西南部は斑鳩町と接す。面積五・九一平方軒。西北部・中央北部・東部に二〇〇米程度の小丘陵あり。外は平坦な沖積低地開け中部に天津茂川南方へ貫流す。田畑よく發達し米麥の産多く、牧牛も行はれ蕎麥の産あり。南方約三軒に宿禰山陽本線御千原あり。古くは播磨風土記に見ゆる牧方里に當るか。大字佐用町の小字に平方の古存す。大字上大田に福岩城址あり、嘉吉元年赤松貞村功を以て此處に居り子孫稱謂が天正年間に至る。

【龍田川】奈良縣大和國生駒郡にある川。源を生駒町に發し生駒山下を流れ、平群谷を過ぎ龍田町に至りて大和川に入る。上流を生駒川といひ、龍田町に至りて龍田川と稱す。長さ約一六軒。古くより紅葉の名所として知られ、いまその紅葉は五寺驛の北二・三軒、法隆寺驛の西北二・九軒、龍田町大字龍田を流る龍田川の兩岸四軒餘に亘る地に著し。明治二十二年頃には僅三十六株の古木あるに過ぎざりしが、當時奈良縣宇陀郡より六千株の苗木を取寄せて補植せる爲め今は一万株に及び、やまもみぢ及びその同屬類に少

【龍田】立田越とも、また十三越ともいふ。奈良縣生駒郡龍田町より龍田川の西岸を上り、平群村越木塚・高峯より、十三峠を経て、大阪府中河内郡高安村大字神立に至る山路をいふ。

【龍田山】奈良縣大和國生駒郡三郷村大字立野の西なる嶺をいふ。信貴山の南に接し、大和川の北岸に位置し、河内國に跨る。神武天皇御東征の時、草香津に御上陸の後、兵を此に逃めて大和へ入らんとし給ひしが路狭險、人並行するを得ず遂に還り給ひ、また履中天皇の初年、皇弟住吉仲皇子の亂ありし時、天皇慈波より此の山を諭え、大和の石上御神宮に到り給ふ。

【龍田】奈良縣生駒郡三郷村大字立野の西にその地あり。西北の二面は山嶺にして、南に大和川流れ、甚だ快陸の地なり。

タツタ

敷のいたやかへて其他を混じ、葉の大小、形、色、彩の濃淡不同にて、嵐山・高華・雲霞等々に於ける自生種類の紅葉とは景観を異にす。古き時代には、自生せるやまのみぢを主とせるものなるべし。大木は根元の周囲約三米、地上約一・五米の幹圍二米内外、根元より多数の支幹に分かれ居るもの中中には樹幹の全周囲更に大なるものもある概ね奇形なり。而してこの川は歌枕としての龍田川又は立田川にあらざるもの如し。彼の龍田法師の、風吹くみわろの山のみぢ葉は立田の川のにしきなりけり」の歌にもある如く、今日の龍田川にありて、大和川の一部を指させるもの如し。即ち御室山はまた神南山といひ、龍田川が大和川に入る邊に龍田山、さればこの歌の龍田川はそれより下流にて、今の三郷村立野の邊ならんと云はる。立野には官幣大社龍田神社、龍田神社、この邊を龍田川と云ひしものなるべし。

【龍田町】奈良縣大和國生駒郡の南部。北葛城郡王寺町の東北に接し大和川右岸に沿ひて奈良盆地の西隅にあり。北部に約三〇〇米の山地あり、西部には一〇〇米級の臺地ある外は平坦なる地形にして南境に大和川西流し生駒山脈東麓を南下する龍田川が西部を流れて之に注ぐ。田畑よく拓け米・粟の産多し。奈良市より龍田迄又は龍田迄を経て河内に至る道路北部を通過し之に沿ひて東落新村式に並

【龍野町】長野縣上伊那郡伊那郡村の大字。中央本線の辰野驛(明治三十九年設置)を設き、社線伊那電氣鐵道此處より發して伊那谷を下る。

【龍野】長野縣上伊那郡伊那郡村の大字。中央本線の辰野驛(明治三十九年設置)を設き、社線伊那電氣鐵道此處より發して伊那谷を下る。

【龍野町】兵庫縣播磨國揖保郡の中部。揖保川の右岸に位置し姫路市西北境より約十軒西にあり。面積三・四七方軒。西北半は約四〇〇米の山地をなし、東境には揖保川南流し東南部より南部に低地開けそこに街衢發達す。山地は用材・薪炭を出し牧牛も行はる。本町は古來龍野醬油にて著はれ關西に於ける醬油製造の中心地をなし特産として有名な揖保醬油あり。もと郡役所の所在地にて、いま警察署・裁判所・郵便局等置かれ、東南部に人口密集し人口六五六三人(昭和十年)にして全町平均密度一八九一人なり。省線山陽本線龍野驛(明治二十二年設置)は南方約五軒の神郡村にあり。古くは立野に作りしが如し。町の北部、鶴籠山の南腹に

び西北部にて之より分れて北方に走る清瀬街道あり。省線西本線東南部を通過し法隆寺驛(東隣宮郷村)に近くまたバスの便あり。龍田は今の龍田町・三郷村の稱にて、神武紀に「勃、兵歩越龍田」とありて古より河内大和の交通要害の所なり。龍田川・龍田山の紅葉を以て知られ、その美は龍田の織り成すところと稱せられ、佐保が奈良の都より方位上春に配する東に當るために、春の神として佐保が配せられしに對し、龍田は同都の西に當り方位上秋に配せらるるため、秋の神として龍田が想定せらるる。慶長十八年二月、片桐且元は三萬石を領して此處に治す。寛永五年十一月、その子孝利除封せられ、更に弟爲元は一萬石を賜ふ。明暦元年十一月、爲元卒して嗣なく除封せられ、更に其弟且昭に三千石を賜ふ。明治二十四年に町村制施行。大字龍田に精華宮址あり、稱徳天皇の河内弓削宮より遷幸のとき駐頓し給ひし處といふ。

【龍田神社】大字龍田に鎮座。縣社。祭神、龍田比古命・龍田比女神。聖德太子法隆寺を建て給ふ時、その建立の地を神祇に乞ひ祈り給ひて、毎月庚辰宮より立野社(官幣大社龍田神社)に參詣し給ひしが、法隆寺成筑の後、寺の守護神としてこれを勧誘し即ち本社を建てり。(仙光寺)社の稱にして新宮と稱せり。(仙光寺)大字龍田にあり。融通念佛宗。寺寶木造十一面觀音立像一軀は開寶たり。(古田

龍野城址あり。創祭未詳。新田義貞の築城とも、延徳中、赤松政則の築く所ともいふ。のち木下氏の有たり。慶長五年、池田輝政播磨を領し、其區荒尾但馬をして之れを守らしむ。元和三年、本多政朝代り、次で小笠原長知、同部宣勝、京極高知等次々封せられ、萬治元年城となりしも寛文十二年廢城安政封せられ城を修し五萬三千石を食む。子孫相傳へて明治維新に至る。(龍野天照神社)大字山に鎮座。縣社。祭神、天照國魂彥火明命。式内名神大社。推古天皇の勸請なりと云ふ。もと八幡宮とも伊保社とも稱す。例祭、十月十三日。(龍野神社)大字龍野に鎮座。郡社。祭神、建安治主命。例祭、四月十七・十八日。(如來寺)大字龍野にあり。淨土宗西山派。天文二年賢正の開創に傳る。郡内に末寺十箇寺あり、西邊に於ける當宗第一の巨刹たり。(圓光寺)大字龍野にあり。眞宗大谷派。文明三年、龍全の開創に傳る。郡中眞宗第一の巨刹。(出雲宮)町の西北方に在る宿毛塚(一に西南方の狐塚、また布勢村宇土師の難塚とす)の古稱。垂仁朝の人士師野見宿禰の墳墓と傳ふ。

【龍野村】熊本縣肥後國上益城郡の西南部。阿蘇山の西南麓に位置し甲佐町の北に接す。東部大半は山地起伏し東北境は約四〇〇米の高さを有す。西南部は神川沖積低地の一部にして、土地平坦なり。灌漑の利多く地味肥え、農業を主産業とし

米藁を産し、副業に養蚕行はれ山田には...

に築きし堤にして、横川を築入たる堤な...

郡の中部。津市の西方約九軒。布引山脈...

中央を南北に高さ三〇四〇米の山脈連...

タツノクチ

龍口 ↓片浪町(神奈川縣)

タツミ

辰巳里 ↓深川町の異名

タツヤマ

龍山 ↓志段味村(愛知縣)

タテ

立山 ↓立山

【龍飛崎】 ↓三麻村(青森縣)...

【龍山】 静岡縣遠江國磐田郡の北部...

【立山】 愛知縣海部郡にありし...

【立山】 青森縣陸奥國三戸郡の東...

タテ

伊達 ↓伊達町

伊達 ↓伊達町

伊達 ↓伊達町

(大正十二年設置)を置き交通便利なり...

も西南流して海に注ぎ、流域及び海岸に...

【伊達町】 北海道釧路國有珠郡の西南...

て切らる。平野の中央部を西南より東北...

伊達郡と稱せしものなるべし。その時期は詳かならざるも恐らくは延長以前ならん。東鑑文治五年の條に郡名見え後世これに從ふ。明治の初め陸奥を分ちて五國とせし時、岩代國に入る。郡名はもとイダテと調せしが今はイを省略す。

【伊達郡】 ↓大木戸村(福島縣)

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

【伊達】 東北本線の一驛(明治二十八年設置)にして福島電線に接続す。福島縣伊達郡長岡村細谷にあり。

り。道路はよく発達し南沼部町より北角間川町に至る道路を始め交通至便なり。西部雄物川左岸には社線横越線が通じ館合驛(大正八年設置)を置き、雄物川を北部にて渡り大森町方面に至る。本村は薄井・宮田の二部落より成る。薄井は元千五百石と稱し宮田は四百八十石と稱せり。明治十七年行政區劃を變更し薄井・宮田・阿賀の三ヶ村を組合とし戸長役場を薄井に置き、明治廿二年自治制實施せらるゝに當り、阿賀と分離し薄井・宮田を以て館合村と稱し今日に至る。

【立石町】 ↓立石市

【立石村】 福島縣筑前國朝倉郡の中央西偏。筑紫平野の北部を占め甘木町の東に隣る。面積六・八三平方。北部には休山(三・一五米)の山地歸するれど、南大半は筑紫平野北部沖積地の一部を占めて地形低平なり。東部に筑紫川支流佐田川西南流し約五軒先にて本流に合す。灌溉の便よく田畑よく折付米・麥・粟・稲等を産し北部山地は薪炭を供給す。社線朝倉軌道線、中部を西北より東南に通過し甘木町には甘木驛(四方約一・五軒)あり。古くは和名抄、下座郡立石郷の地にして、本村は明治二十二年九月雄城村大字相窪と福田村の一木外五大字を合して建てし村なるも、村名は蓋し郷名を負ひしもの。

【立石村】 福島縣筑後國三井郡の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

筑紫平野の北部を占め、太刀洗村の西北

タテイ

昭和十年六月現在にて使用銀夫一三〇人とす。嶺山名は立石町の字に馬上ありしに因る。いま字を馬上金山といふ。【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

【立石山】 阿蘇火山脈の一峯。別府市の北西方一四軒前後、大分縣遠見郡北山布村と宇佐郡明治村との境上に跨る。標高一〇五九米。山麓石安山岩より成る。山中に石柱林立するを以て山名出づ。

莞海山(一五八〇米)あり。また東境には北より黒岩山・大平山(一五四三米)・丸山並り、西境には三佛山・高畑山・袴山・白身山(一七九六米)並り、西開みな山脈をなす。西根川・湯ノ原川は南境附近に出で、北流し、東部山地より出づる館谷川に合し、西北に流れ大川村に入りて伊南川に合す。東西兩山脈の間には河川の開折によりて形成せられたる略三條の南北に走る山脈あり。何れも壯年期の山容をなす。水田は少く、畑地には蕎麥・粟・稗・玉蜀黍等を産す。また木炭の産あり。道路は館谷川に沿ひて東部より北西部に向ひ北方沿道に合し、東方中山峠を越えて莞海村に通ず。この地は近世立岩郷と稱せし地にして、附近清二十四箇村は従平戸租に屬す。(鹿島神社)大字従平戸に鎮座。神社。祭神。武甕槌命。天永年中尾川宿禰なる者の創建といふ。のち元文元年に至りて再建す。例祭八月二十八日。

【立石町】 大分縣豊後國遠見郡の西北

國東中島の頭部中央に位し西北部の

一點にて西國東郡高田町の南端と接し、

西は宇佐郡に隣る。北郡及び南郡は山地

連り、即ち西南境に御許山雪ヶ嶽(六五

四米)あり、東南に山地延びて雲ヶ嶽をなし

その東は約三六〇米程度の高さを示し、

北境中央には那ヶ岳山(五九三米)あり、

て商業繁々。二日町・五日町・十日町等市

日に關する町名あり、夙く市場たりし事

を示す。農産に米・蕎麥、工業に清酒・木工

品・金工品・織物等あり。本町は和名抄、

出羽國村山郡村山郷の内、明治二十五年

當り西は七里長嶺の砂嶺にて日本海に面す。津輕平野の西部を占め、東部は山田川の灌漑、中部以西は屏風山の砂丘地帯にて最高五五米、松林草地ありてその間に平瀬沼・大瀬沼等の沼地あり。東部平地の未作を主産業とす。十三街道砂丘の東側を南北に通じて主要産物を運搬木造・十三港間に並ぶあり、沿道運道より分岐して西南諸ヶ澤に至る運道ありて交通の便よし。(龜ヶ岡)大字龜ヶ岡に在り。元和八年津輕信政、森内左兵衛・大澤澤右衛門を奉行として築城に着手せしめしが、偶々新城築造禁止の幕令出でしため遂に工事を中止せしが、其の遺址今尚存す。(龜ヶ岡)先住民族の遺址)水田の泥炭層の下より先住民族の土器を出す。この出土品は他所のものに比し一段進歩せる點あり、金屬使用の要を抱かざるものあり。

【立石町】 大分縣豊後國遠見郡の西北

國東中島の頭部中央に位し西北部の

一點にて西國東郡高田町の南端と接し、

西は宇佐郡に隣る。北郡及び南郡は山地

連り、即ち西南境に御許山雪ヶ嶽(六五

四米)あり、東南に山地延びて雲ヶ嶽をなし

その東は約三六〇米程度の高さを示し、

北境中央には那ヶ岳山(五九三米)あり、

て商業繁々。二日町・五日町・十日町等市

日に關する町名あり、夙く市場たりし事

を示す。農産に米・蕎麥、工業に清酒・木工

品・金工品・織物等あり。本町は和名抄、

出羽國村山郡村山郷の内、明治二十五年

タテコ—タテノ

敷に便ならず。

タテコシ 館腰村 宮城縣陸前國名取郡の東南部。南は岩沼町、北は増田町に隣接す。面積一・〇三平方。仙臺平野の南部に位し、西北の一部を海をなす外、概ね平地にして、水田多し。米の産多く、又蕎麥等を産す。陸前街道は西部を南北に通じ、北方仙臺市に、南方岩沼町に至る。この街道に略々並行し東北本線通じ、北方増田駅、南方岩沼駅へ各四軒あり。村内に多田満伸の居りしといふ積松館あり。(館腰神社) 大字積松に鎮座。祭神、倉稻魂神・大宮姫神・猿田彦神。社傳に弘仁二年村民等弘法大師と語りて京都稻荷神社の分靈を勧請すといふ。御米上下庶民の崇敬厚し。例祭陰曆三月十日。(弘誓寺) 積松にあり。新義真言宗智山派。金剛蓮山觀音院と號し、弘仁年中弘法大師の開創に係り、本尊觀世音は同大師の作なりといふ。寛喜の頃大師の法孫慈明房良賢法印之を中興すといふ。寺寶頗多し。

タテシナ 蓼科・立科・蓼品

【蓼科山・立科山・蓼品山】 富士火山帯に屬する一峯。長野縣諏訪郡北山村・北佐久郡津田村・協和村・春日村の境上に峙立す。又北西麓は小縣郡、北東麓は南佐久郡にも延ぶ。標高二五三〇米。山は一大圓錐形の上に小圓錐を戴く。之は舊火山帯の上に更に小火山の噴出せるものにして、外輪山中央火口丘は具備せず。

この小圓錐は諏訪富士と稱され、急傾斜にして山頂近くは三十二度、少し下れば二十八度程なり。山頂部は平かなる岩石の原の如く、石の小祠を祀る。山麓は全部針葉樹に掩はれ東南方は八ヶ岳に連り、北方は裾野を曳きて遠く千曲川畔に及ぶ。大河原峠最高點南東麓に奇勝二子池あり。西麓は八ヶ岳(一八三四米)を経て大門峠最高點(一四四二米)に續く。南西斜面は所謂蓼科高原にして、夏季にはキャンプサイトに好適し、近時都人士の來り遊ぶ者多し。湯湯・澁・湯・新湯等の温泉深間に湧き世産を洗ふに適す。登山は南西方中央本線茅野驛より大河原峠路に沿ふ鐵道の湯まで自動車通じ、それより新湯を経て至る。又南東方八ヶ岳北西端部を兼越す夏澤峠(最高點二九二米)より尾根線走可なり。

タテタ 蓼田 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に葛下郡蓼田郷あり。地は今の北葛城郡下田村に當るか。

タテツ 厩津村 大阪府河内國中河内郡の北部。大阪市の東約六軒。北は髮屋川を隔て、北河内郡に接す。郡中屈指の廣潤なる土地を有し、河内平野の中心地を占め垣たる平野を成し頗る地味肥沃とす。隨つて米産頗る多し、また工業都市大阪を附近に控ふるを以て家内工業發達す。省線片町線村の北部を東西に走りて住道線(明治二十八年設置)、鴻池新田驛(明治四十五年設置)を設く。本村は昭和六年西六郷村・北江村・東六郷村を合併して置けるもの。村名は神武天皇の御上陸地(神津)に因むものならんも、厩津の故地は孔令新村大字下なるべし。孝孔令新村。

タテヌイ 橋庭 出雲國(鳥根縣)の舊郡名。續紀天平十五年紀に郡名始めて見え和名抄は多太比と訓じ、佐香・橋庭・致津・沼田の四郷、神戶・餘戶各一ヶを設く。明治二十九年出雲・神門二郡と共に監川郡となるに及びて郡名廢す。

タテノ 立野 【立野村】 富山縣越前國四萬波郡の東北部。小矢部川の右岸。高岡市の西南方約五軒。北は東五位村に、東南は小勢村に、西南は山王村・福岡町に、西北は小矢部川を隔て赤丸村に接す。面積三・七二平方。土地平坦にして灌漑の便よく、水田拓

け、米を主産とす。北陸道及び省線北陸本線は村内を貫通し、高岡・不動岡パスの便あり。此地古くは和名抄、磯波郡大岡郷の内に屬せしもの、如く、近世は五位庄内たり。明治十一年明治大帝北陸東海御巡幸の程、十月一日本村長久寺にて御小休遊ばさる。今その址は指定史蹟たり。

【立野】 熊本縣菊池郡瀬田村の大字。省線豊肥本線の立野驛(大正五年設置)ありて省線高森線の起點をなす。

タテノ 館野村 千葉縣安房國安房郡の南部。館山北條町の東隣。面積八・九八平方。南半は丘陵地に於て森林あり。北半は平久里川流域の平地にして水田あり。米を主産し他に蕎麥を産し養蠶も行はる。房總街道は館山北條町より東りて中央を東走し九重村に通じ、省線房總西線又これに沿ふも村内に疎なく、館山北條町に安房北條驛、九重村に九重驛を設く。共にバスの便あり。この地は和名抄、安房郡河曲郷の内なるべく、村内に安房國分寺・孝子塚・稻村城址・三名主角護遺跡等の名跡あり。(稻村城址) 大字館にあり。里見義實ここに築き、白旗より移り、子孫相繼ぎ之に居る。徳川氏に至り慶長十九年伯耆倉吉に移され、元和八年嗣子なく絶嗣す。(三名主角護遺跡) 國分寺の北約半軒。松林を通ずる路傍にありて方柱形の碑を建つ。碑面に、三義民殉難之跡」と題し、碑背には、正徳

四十三年、本町に獨立の市場を開設す。(館林城) 沼澤その東南を繞り壘壕を以て堅めとなす。創業年代詳ならず、或は享祿中赤井但馬入道法蓮築となし、或は同元年赤井山守照光の築くところとなす。未詳中上野白井長尾氏の旗、同景長この地に移り上杉謙信に屬せしが、子但馬守政長に至り北條氏に降る。政長子なく同國新田金山城主山長氏の子願長を養ひて嗣となす。天正十八年豊臣秀吉の小田原征伐の際、願長小田原城に入りて家亡ぶ。同年徳川家康關東に移り、榑原重政を以て討じ、孫忠次の時寛永二十年陳奥白河に轉じ、正保元年大給松平乗壽江須松より轉じ、子兼久寛文元年下總佐倉に轉す。將軍家綱の弟綱吉これに移りしも、延寶八年入りて將軍職を襲ぐや、子徳松丸これをつぐ。天和三年徳松丸天進し、寛永四年越智松平清武東り治し、孫武元、享保十三年陳奥羽倉城主太田資清と入り代りて資清東り、ついで大阪城代となるに及び館林は一時香城となる。資清の子、資俊の時また館林に來り延享三年江川掛川に移封し、松平武元再び綱吉より移り、井上正春綱吉より移り弘化二年江須松に移るに及び秋元志朝出羽山形より轉じ、子禮朝を経て明治維新に及び。(菅石地蔵) 字村木町の無格社愛宕神社に營まる、小堂内に安置さる。埴泥片岩の板碑にして、上部を缺損し現存部

の高さ六尺七寸、幅一尺八寸餘にして、もとは僅に七尺を越ゆるものと思はる。上部には左手に寶珠を捧ぐる立像の佛體を彫り、其石材の埴泥片岩にして所謂青石なるを以てこの名あり。佛像の下方には
右志者、爲過去慈父、出離生死、往生極樂、或佛得道、
文永第十年癸酉二月 日
十三年、十二人孝子等白
の銘文を刻す。これは文永十年が慈父の十三年忌に當るを以て遺子十二人が供養のために建てしもの如し。

タテベ 建部 三重縣安濃郡にありし村。明治四十二年津市に編入す。

タテモンベツ 伊達門別 室蘭本線の一驛(大正十四年設置)。北海道虻田郡有珠郡伊達町にあり。

タテヤマ 立山 【立山村】 富山縣越前國中新川郡の南部。立山登山口より立山連峰一帯を含む。東は蘆原(二七九九米)より鹿島槍岳(二八九〇米)に至る北アルプス主脈により長野縣北安曇郡に、南は常願寺川上流を境に、上新川郡大山村に、北は下新川郡黒部峽谷および大日嶽(二六〇六米)等の連山により早月川上流の白萩村に、西は東谷村・栗ヶ岡村に界す。面積二一四・〇八平方。略々中央部北に立山連峰の禿土山(二八七二米)・大汝山(三〇三五米)・別山・剱岳(二九九八米)連りて東部の

元年十一月二十六日、義興三名主、淡村角左衛門、國分村、長次郎、商村、五左衛門大年十四年七月萬石領有志建立」と稱書さる。この三名主は正徳年間屋代氏の臣が萬石領内に過重なる年貢を徴せし結果農民の怨訴せし時、こゝにて所判されしと傳へ、その遺蹟を記念せんために建てられしものなり。(國分寺) 大字國分にあり。新義真言宗智山派。日色山と號す。天平年中諸國に建立せられし國分寺の一。いま衰頹甚しく往時の雄觀を存せず。境内及びその附近より屢々布日瓦發見せらる。

タテノウチ 館ノ内村 福島縣若代國北會津郡の西北部。若松市の西方約五軒、その間に神指村を隔て、西は宮川を隔て大沼郡に隣接す。面積七・四〇平方。會津盆地の南部に位し、東境には大川北流し、西境には宮川北流す。地勢概ね平坦なり。東部は畑地、西部は水田多し。米・蕎麥・蘆菜(南瓜・牛蒡・白菜)等を産す。道路は村の略々中央部を南北に通じ、西北方坂下町に至る。又西北部を東西に通ずる道路は東方福島市に達す。この地は藩政の時に中笠井組に屬し、郡奉行の所在地たり。

タテノコシ 館腰村 新潟縣越後國岩船郡の中部。村上町の東方約四軒。三面川支流長津川流域一帯の地。越後山脈の二支脈に南北を縦されたる長津川流域の地にして東西に細長く、概ね山地にし

て東北境の野ヶ草山(一〇九三米)最も高く、西北の一部は三面川支流の沖積せる平野にして、水田拓く。聚落は概ね谷に沿ひ、山地は林業、平地は農業・養蠶を主産とす。米・蕎麥の産あり。西北平地には縣道通じ、村上町へバスの便あり。谷沿ひの山道は東端大峠を経て山形縣に入り荒川上流に連絡す。大字大湯澤に結川氏の館址ありて其近傍を俗に館腰といひしが、後世傳じて村名となる。

タテノヤ 建屋村 兵庫縣(養父郡) 館林町 群馬縣上野國邑樂郡の中部。面積僅に二・七一平方。全町平地にて東南境に城沼あり。聚落は中央部に發達し東及び西の一部は水田・畑地をなして米・蕎麥を産す。また機業盛にてモスリン工場あり。鹽道は四方に通じ社線東武鐵道伊勢崎線は南方より來りて西北に走り町の西部に館林驛(明治四十年設置)あり、同鐵道の佐野線及び社線上州鐵道の接続點たり。古く或は和名抄、邑樂郡池田郷の内に屬せしものか。日光別路に當り秋元氏六萬石の城下町として發達す。郡の首邑にして嘗ては郡役所の所在地たり。(館林織物) 本地方は往昔より自家收穫の棉花を手紡し綿織物を織出し本町の商人に販賣せしものなりしが、明治に入り機械工業の發達と共に機業場各所に勃興し製品額に増加し世に足利結城と稱し喧傳せらるゝに至る。明治

タテノ タテヤ

黒部川と西部嶺名川の谷を分ち、黒部川は東境諸峰との間を北流し、此下と稱せらるゝ實に千米の峡谷をなす別天地を出現す。嶺名川は略々中央を西に流れ、大字嶺附近にて南流をなす常願寺川に合す。本村は概ね高山地帯にして、殊に黒部川流域一帯は夏季降雪深き北アルプス中継コースの一なり。また立山西山裾にあたる彌陀ヶ原一帯の草原は夏季高山植物の開花期にはお花畑と化し、登山路も整ひて、登山客多し。嶺名川上流に地獄谷温泉、常願寺川上流に立山温泉湧出し、常願寺川に合ひては砂防工事用軌道道七登山客・浴客の便を計れり。河岸に二箇所発電所あり。村民は概ね林業に従事す。富山市より縣營富山線道通じ、岩崎寺・千垣間の敷線を置き、岩崎寺驛へは社線富山電機も連絡す。千垣驛より、彌陀ヶ原登山口嶺名谷附近までは自動車も通ず。大字常願寺は中部山岳国立公園の内にして、地は立山の麓に位置するを以て其登山根拠地となり、村内には立山温泉等ありて登山期には賑わす。(登山神社)立山山に鎮座。縣社。祭神、天手力雄神・伊弉諾命。地山権現または立山権現とも稱せらる。式内社。室町時代より武家の崇敬厚く將軍足利義昭、佐々成政・前田利家等の寄進にかゝる社領多かりき。殿宇中前立社壇は室町時代の建築にかゝり國寶に指定せらる。社寶木造佛龕上八坐像亦國寶たり。(立山温泉)

常願寺川の上流、湯川の左岸に位置して湧出。泉質、炭酸泉。毎年六月一日より十月末まで開湯。開湯見渡す限り絶壁をなし、附近に磐池・多夜原池・刈込池などあり、なほ二・四軒を隔て、新湯あり。この地古來玉滴石・瑤華の産地として風に傳界に知らる。(地獄谷)大字室堂の北方約一軒の深谷にあり、開國凡そ一・五軒に及び、諸日愛宕なる間に大小無數の硫黄孔・噴氣孔等ありて噴煙騰々たるものあり、或は泥流を沸かすもの、熱泉を流らすもの等ありて硫黄自ら鼻を衝き風物悽愴を極め鬼哭喚々たるものあり。(嶺名川)嶺名川の上流、巖崎より約八軒の地にあり、往昔立山温泉より押寄せたる熔岩流の早乙女岳の麓に至り、急流をなせる間に懸る。直下實に四百餘米、上半は三段をなし下半は一枚岩壁の間を直下して直ちに瀧壺に注ぎその壯觀言語に絶す。

【立山】日本北アルプス西北部に聳臨する一大山堂。富山縣中新川郡立山村に屬す。古來富士山・白山と共に日本三名山として数へられ、信仰登山の行はれし山なり。主として片麻花崗岩より成り、南日本内帯に屬する古き褶曲山脈の一部の再び隆起せるものにして、これに火山活動加はりて複雑なる地形となり、又その東側は黒部川水並及びその支谷内蔵の助谷・御神谷・御山谷・中ノ谷等に深く割られ、滋壯年期の極めて雄大な高

山性地貌を呈す。山中に爆發火口・池沼・高原温泉あり、山麓を飾るカールの美観、巖壁の雄大、氷雪の絶妙、地形の複雑に加へ、黒部峡谷の雄大と相俟ち、登攀にスキーに、温泉に、來り集ふ人々年と共に増加する勢なり。立山は雄山(二九九二米)を主峯として、別山(二八八五米)・淨土山(二八七二米)等の立山プロボイを中心に群立せる諸峯を稱し、俗に七十二峯と云ふ。山勢南北に延び、南方はザラ峠(最高點二三五三米)・雙岳(二六二五米)・高山(二六一四米)・越中澤山(二五九一米)を経て、巖崎岳(二九二六米)に達り、北方は銀岳(二九九八米)を経て地平山(二六一七米)・赤谷山(二二六六米)・彌又山(二二七八米)・毛勝山(二四一四米)に至る。東方黒部川の彼方に後立山山脈南北に連亘し、北より南に白馬岳(二九三三米)・鹿島槍岳(二八九〇米)・頭父岳(二六七七米)・針ノ木岳(二八二一米)等と對峙す。又北西方に一脈延びて奥大日岳(二六〇六米)・大日岳(二四九八米)等を起す。西斜面より常願寺川並及びその支流嶺名川發して西流し、西北斜面より早川・湯流して北西流す。立山の火山活動は三箇所に見らる。即ち舊噴火口と見るべきは室堂にして、その周圍に列峙する雄山・淨土山等は火口壁の殘存と考へらる。又南西側を北北東に走る火山ありて立山火山と呼ばれ、常願寺川の水源なる立山温泉・刈込池附

通川流れ、富山湖の波先及びに能登半島の山々を望み、西南に白山の雄姿、東南に樂師・槍・楯高を飾る日本アルプスの巨峰羣を望み、その彼方遙かに麗峯富士、南アルプスの諸山を望み大自然のメノマを見る如き観あり。雄山より北方にその頂稜をたどれば一時間にして大汝峯に至る。雄山より高く、立山嶺峯中の最高點にして雄山頂上宮の假邊宮を登かるも畢ざり。大汝峯より尙ほ一時間岩稜登壇を過れば巖嶽嶺たる富士の折立岩に至る。以上の三峯を立山本峯と稱す。(眞砂岳)更に北東に至れば眞砂岳(二七六〇米)に達す。この山は立山本峯と別山との間の一餘起にして山勢寛緩にして東面に内蔵助の美はしきカールあり。(別山)標高二八八五米。眞砂岳より北方へ約一時間にて至る。東面眞砂澤の源流地には眞砂のカール縮狀に深く刻らるゝを見る。別山より西方に下り岩壁をたどれば劍澤乘越を経て銀岳に達り、西方は室堂乗越を経て大日山塊に至る。「淨土山と龍王山」淨土山は主峯雄山の南西峰にて山勢雄峻なり成り山容雄峻なり。雄山との鞍部を一ノ越と稱す。龍王岳(二八二〇米)は淨土山の南方に聳ち、山上累岩によりて狭く、一のスキー場となる。彌陀ヶ原道はこの高原に沿ひて通じ途中材木坂(材木状の岩石多く積はるにあり云ふ)と稱する柱状節理の玄武岩の露出を見、ブナ坂(附近ブナ林ある故に

かく稱す)を過ぎれば弘法小屋に至る。弘法小屋より見渡せば嶺名川を横切れば嶺名川の壯觀あり。四段よりなる瀑布にして高さ四百餘米なり。弘法小屋より退分小屋(こゝより右折すれば松尾峠)最高點一九七二米)を経て立山温泉(五五五米)に達す。室堂より至る。このあたり室堂と稱する熔岩の高原にして一體に高山植物の繁茂を見る。海拔二四五五米にあり、堂は享保年間建築と稱され、二〇〇人の宿泊可能にて、所謂お山詣りの人々の宿泊に當てられしものなり。附近に氣象觀測所・森林事務所等あり。室堂より雄山山頂へは淨土山との鞍部一ノ越より北登して達す。堂の北方にミヅカカ池あり。池は小火口湖にして周囲約六一七〇米、水面まで急崖をなす。この池より約半軒、西に下れば地獄谷あり熔岩火口の名残を留め、周囲約四軒内外の間隔色の泥土露出し、所々に硫黄洞あり、天に沖する噴煙、鼻を衝く硫黄に接したる感を與ふ。湯路は多く室堂より立山温泉を経て室堂に至る。その他ザラ峠最高點より五色ヶ原を経て下るも、松尾峠を経て新道等あり。信州側大可口登山路は大糸南嶺信濃大町驛より針ノ木峠を越え五色ヶ原・ザラ峠最高點を経て至るものなるも途中二泊を要し絶路なり。此山はまた萬葉集第十七卷に多夜原に作り、立山の賦一首並に短歌、天降る 縣に名懸かす…新河の その

多夜原に 常夏に…同短歌、多夜夜原に降りける雪を常夏に見れども他かず神からならし」と見ゆ。

【タテヤ】橋山村 山形縣朝日町東村山塊の中部南端、山形市の東北約四軒、これと千蔵村・鈴川村を隔つ。面積一〇・四方軒餘。東境に大岡山(四〇一〇)の丘陵南北につづくも、大部分は西流する風川・野呂川等の扇狀地にて山形盆地の一部をなし平坦にして耕地よく拓く。南半部には田地ありて未を産し、北半部は歩み出しながら桑畑多く養蚕行はる。大字青野は野呂川の堤上に立し植木の多産地。村の特産に砥石・葡萄あり。山形より山寺街道南北に通じて乗合自動車の便あり、また省線山形線東西に走り山寺街道との交叉點大字風間に橋山村(昭和八年設置)を置き交通便なり。この地は延元十一年新渡輪類、出羽按察使として入部。のち最上氏の所領となり、天正三年最上義光の時光明寺領となる。大字風間は古くより山寺街道に沿ひ、天童・山形兩城の中間に位置する要害の地にして、天正年間、風間豊後守の在城せし處、今も最上四十八館の一と稱せられたりし館址を存す。

【タテヤ】千蔵安房郡西海岸の轉入。大分郡と洲崎との間の轉入にして、一名を鏡ヶ浦と稱する程東風及び雨風に對して好鎮地なり。灣内に神ノ島あり。灣頭

は砂浜海岸にして、地味潮池道行はれ、北岸の船形は漁港として發展し、南岸の西神村沖合は鮎大謀刺による漁獲多し、また灣内の鮎は鮎釣の餌料として有名なり。海軍航空隊が開設されてより、軍事上にも重要な所となれり。砂浜は海水浴場としてよく利用さる。館山北嶺・那古及び船形の三箇町が沿岸に相並ぶ。

【館山】千蔵縣安房郡にありし町。大正三年館山町及び豊津村を成し其の區域を以て館山町を設き、館山町は昭和八年北條町と共に廢せられ、新に館山北條町を設く。

【タテヤ】館山間村 宮城縣雲城郡伊具郡の略々中央部、角田町の西南に隣り、南は阿武隈川を隔て金山町・丸森町に接す。面積三〇・一二方軒。地勢西部に高く、東部は角田盆地の一部をなして平坦なり。阿武隈川は南境を先行しつゝ、東流して峡谷をなし、角田盆地に出て、南方より内川・雄子尾川等を合し村の西境附近を北流す。東南部・東部の阿武隈川沿岸には桑園分布し、桑園高産間には水田あり。嶺の産物も多く、次で米・林産等あり。道路は東部を南北に通じ、北方角田町、南方丸森町に至る。省營バス、白中本郷本村を通り交通の便よし。此地は和名抄、伊具郡千蔵郡の内にして、村内に大楯城(一に伊具館ともいふ)あり武石氏の居館なりしと。(宗神院)木窟にあり、天台宗寺門派。雲成山清雲寺と

タテヤ タト

鏡す。天平九年聖武天皇の勅を奉じ行基菩薩の草創に係り、無野櫻を勧誘し、清覺寺の勧額を賜ふ。大同二年傳教大師來住、延喜三年良言律師中興して修驗道の第一世となる。八世良信法印代、源頼義の安倍氏征伐の際此地に八幡宮を勧請し、百町の地を寄す。慶長十三年照高院宮内定法親王東北遷化の折宮院に宿らせ給ひ、國中の山伏司として参預不怠の旨命ぜらる。爾後伊達家の歸崇頗る厚く、寺門隆盛たり。古への無野社及び八幡宮は現存し諸氏崇敬の的たり。〔斗藏寺〕小田にあり。新義真言宗智山派。安居山と號し大同二年田村麻呂の草創に係る。安居山の三字は安井門主の親類なりといふ。

タテヤマホーショー 館山北條町

千葉縣安房國安房郡の西南郡。館山灣に臨む。南部は丘陵地にて森林あり。他は北城を西流する平久里川流域の平地を占め水田・畑地多し。米・麥を産し、養蠶も行はる。海岸は館山灣灣入して一に鏡ヶ浦と呼ばれ風景佳なり。海岸は砂濱をなし、海水浴場としても知らる。海岸に沿ひて鐵道あり。省線房總西線はこれに沿ひて南走し、町の中に安居北條驛(大正八年設置)あり。乗降はこの部分に發達す。また東岸千倉町との間に省管自動車北倉本線、南岸白濱町との間に同管房總、西岸村との間に同管西線を通ず。館山港は館山灣の南岸にあり。漁

タタ

港として知られ、また東京灣汽船會社の東京―八丈島間航路の寄港地なり。館山港の西に館山海軍航空隊あり。この地は和名抄、安房郡太田郡の地にして、昭和八年北條町と館山町とを合し本町を建つ。もと安房郡役所のありし所に、いま安房中學校・安房水産學校・安房高等女學校等あり。此地大正十二年九月、關東大震災の爲め、全町盡く倒壊の患に遭はせるも全町民の努力により舊に復せり。〔北條城〕里見義隆の時、安西氏に居り正木時綱攻めて之を取ら。徳川氏の時、寛永十五年、屋代忠正、一萬石を賜ひ、此の地に陣屋を建つ。後享保十年、水野忠定ここに治せしが、尋て上總権津に移る。天保十四年、幕城主松平忠國、海防の任に當り、陣屋を此處に置き、のち岡山城主松平慶政代りて守る。明治十三年十一月、本多正純此處に對せられ、安房國白濱より藩廳を此處に移し、許もなくして廢す。〔館山城〕古く館山上にあり、里見氏累代の支府なり。義頼初めて築き之に居り忠義に承り封せらる。寛政元年、稲葉正明、警所を此處に置き、一萬石を食み、子孫相繼ぎ明治維新に至る。藩校、敬義館(又は立政局ともいへり)は明治二年稲葉正巳の創立せるもの。〔館山の陸起環濠〕安房北條驛の西南三軒、館山の背後を廻る一〇米の濠地は、陸起環濠より成るものに、もとこの邊は海面下八〇米以下の海

タテヤ 龍良山

↓立役村(長崎縣對馬國下縣郡)

タト 田門

安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡田門郷ありて、多土と調す。中世は田門郷に作り、後宇多院安樂寺院領なり。その地今詳かならず。

タト 田後

美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多田郡田後郷ありて、その地は今の養老郡養老村・上多度村の邊なるべく、養老山は古の多度山にして、萬葉・六の、田後河の瀧を清みかいにしへ宮宮仕へけむ多田の野の上に、家持」とあるも養老流の漢流なり。

タト 田渡村

愛媛縣伊予國上浮穴郡の西部。村内高敷百米の山地よりなり地勢一般に高峻にして平地なし。南北に通る中央の谷あり溪谷の水を集めて南下し、田川の土支小田川に注ぐ。山地は森林よく繁茂して林産物を出す。南隅を縣道通りて内子町・大洲町にバスを出す。日神に建武の頃新田義宗、北國に官兵を召集せしも利あらず、四國の官軍に宛を囑して来りしも益々不利にして遂にこの地に逃れて死を終るといふ。

タト 多度

〔多度村〕三重縣伊勢國桑名郡の西北部。養老山脈東南端の南斜面を占め桑名市の西北約一〇軒。西北方より廣く養老山脈東南にのびて北城岐阜縣との間を限り南部に低く東部には長良川流域沖積地地の一部開く。米の産多し、繭・麥を出し工業類最も多く製茶の産もあり、其他林産・鑛産あり。東部に社線參宮急行電線養老線走り多度驛(大正八年設置)あり。此地古くは和名抄、桑名郡尾津郷の内なるべし。〔多度神社〕大字多度に鎮座。國幣大社。祭神、多度神。多度神は天津彦根命といはる。一に多度大神宮とも稱す。式内大社。歴朝の御崇敬篤く、永祿・天正の交、兵火に罹りしが、慶長中桑名城主本多忠勝これを再興す。爾來桑名藩主累代の崇敬篤し。慶應三年宮家を始め諸大名より金品木村の寄進を得て社殿を造營す。社中神宮寺僧並に起並に紙本墨書寶財帳一卷及び古銅鐘三十百は國寶たり。例祭五月五日。〔宇賀神社〕大字柳井に鎮座。郷社。祭神、宇賀御魂神・大山積神外五神。式内社。例祭九月三十日。〔多度(郡)〕讚岐國(香川縣)の古郡名。續日本紀延暦八年の條に郡名初めて見え和名抄は生野・良田・葛原・三井・吉原・弘田・仲村の七郷を説く。名稱は田處の義にして水田多きに因む。明治三十二年郡制の大部分と合して仲多度郡と稱す。

タトク 多徳島

↓英島郡

タドコロ 田所村

鳥根縣石見國邑智郡の南部。川本町の南約六軒。南は廣島縣に接す。四周は殆んど四―八百米の山地を以て圍繞せられ、その山脚村内に延互して殆んど山地を成すも、中央に盆地状の平地ありて、可愛川の上支中部に發源してその間を東流し灌漑に便す。茶産最も多し山地よりは木炭・用材等を出す。縣道南方より東り村の中央を東北走するのみにて交通の便よしからず。

タドコロ 田處

愛媛縣喜多郡にありし村。明治四十二年本村外一村を廢し御津村を置く。

タトシ 多度志村

北海道石狩國南龍郡の東南部。知支廳管下。石狩平野の北部に接し深川町の北に隣る。兩龍川上流の左岸に位置し、東は山地を以て上川支廳に西は兩龍川を界として沼田村に隣接す。面積一八一・九七平方軒。村内概ね天鹽・夕張二山脈の高地起伏し、たゞ西境に兩龍川、南部に多度志川の河谷低地存す。多度志川西南流にて兩龍川に合する所に多度志市街發達し村内交通産業の中心となる。兩龍川流域には數多の農場存し、耕地よく拓く。農産物、高梁・川向・湯内・上多度志等の諸字兩龍川沿ひにあり。省線加内線の多度志(大正十三年設置)・幌成・慶泊(大正十五年設置)の三驛あり。米・馬鈴薯・除蟲菊・蕪等を産す。この地は明治二十九年兵庫縣人

タトク タナ

タトツ 多度津町

香川縣讃岐國仲多度郡の北部。東は丸龜市との間に豊原村を挟み、北は瀬戸内海に臨む。面積一・四五方軒。丸龜平野の西北端に當り土地平坦、西南部に花園岩よりなる丘陵地、本多山・本藪山・城山あり。丸龜市と共に丸龜平野の經濟・産業・交通の中心地として榮え、特に海岸には石を以て渡止場を築き汽船の碇泊に便せしめ、海は深からざるも縣内の要港たり。特に中國方面よりの金尾羅參詣客の上陸地として繁昌す。産業としては國庫製造・製鹽の外に見る可きものなく物資の集散地として著る。即ち多度津港よりは蠶草・内地米・吹及び蠶・鮮魚介・麥・綿・機械類・銅鐵・和酒・帽子・木材等を主とする約六七〇萬圓を移出し、木材・鮮魚介・機械類・肥料・衣類・石炭・樟草・セメント・綿織物等を主とする約九〇〇萬圓を移入し、主に阪神・四國・中國・九州各地方と取引す。省線讚岐本線は南都を東西に走り、多度津驛(大正二年設置)を設け、土讃線に分つ。また社線參宮急行電線は善通寺町より多度津港に通じ多度津橋驛(大正十三年設置)・多度津橋通驛(大正十四年設置)を置く。縣道はこれ等鐵

タト 田殿村

和歌山縣紀伊國有田郡の西北部。長春山脈の南斜面に位置し、有田川に臨む。北境には長春山脈東西に連互して西北境に白倉山あり。山嶺南方へ傾斜して途中高坪山(五四四米)・千葉山(五四二米)等を起し東境には龍ヶ崎(五八九米)あり。西境南麓には岩室山あり。南部は有田川流域の平野開けて山麓に沿ひて有田川西流す。山の斜面は有田栗柑の栽培盛にして産額主位を占め、低地は米・麥を産し、山地は用材・薪炭を供給し其他工業もあり。省線紀勢西線走り紀伊宮原驛は西約三軒、善世驛は西方約三軒にあり。この地は中世田殿荘と呼ばれし處。〔神谷車都婆〕指定史蹟。明惠紀州遺蹟車都婆の一。上部は失し約三分一を存し、銘文は「嘉祿二年云々」とあり。この地は和名抄、郡放部針塚郷の内なるべく、近世、神奈川領及小机領に屬せり。大字田門に神奈川領備前庄に屬し徳川氏の頃岡本玄琳・清水龜庵・坂本也

タナ 田奈村

神奈川縣相模國高座郡の西部。西より北は東京府に接す。多摩丘陵の一部を占め、全村丘陵地にて森林多く、中部には鶴見川東流しその流域のみ狭き低地ありて、水田・畑地をなす。麥・甘藷・粟・大豆等を産し、養蠶も行はる。省線横濱線は村の中部を西走し、村内中央に長津田驛(明治四十一年設置)あり、縣道もこれに沿ひ、また西南に走りて愛甲郡厚木町方面に通ずる大山街道あり。此地は和名抄、郡放部針塚郷の内なるべく、近世、神奈川領及小机領に屬せり。大字田門に神奈川領備前庄に屬し徳川氏の頃岡本玄琳・清水龜庵・坂本也

タナ 田奈村

神奈川縣相模國高座郡の西部。西より北は東京府に接す。多摩丘陵の一部を占め、全村丘陵地にて森林多く、中部には鶴見川東流しその流域のみ狭き低地ありて、水田・畑地をなす。麥・甘藷・粟・大豆等を産し、養蠶も行はる。省線横濱線は村の中部を西走し、村内中央に長津田驛(明治四十一年設置)あり、縣道もこれに沿ひ、また西南に走りて愛甲郡厚木町方面に通ずる大山街道あり。此地は和名抄、郡放部針塚郷の内なるべく、近世、神奈川領及小机領に屬せり。大字田門に神奈川領備前庄に屬し徳川氏の頃岡本玄琳・清水龜庵・坂本也

香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

とす、其兩親を中興開基とす。本尊は馬頭観音。〔藏春院〕大字田京にあり。曹洞宗。長谷山。永享十一年足利左馬頭持氏の開基、大御明宗の開山。慶安二年徳川家光寺領十七石餘を寄す。

タナカ

【田中】 和歌山縣紀伊國那賀郡の中郡。紀ノ川北岸に位し岩出町の東に隣る。中央に小臺地あるも地形概して平坦にて、紀ノ川支流の小河野松村内を灌溉し南境に沿ひ紀ノ川西流す。田畑よく拓け米・蕎麥・粟の産多く外に林産・水産あり。また工業よく行はれて殊に織物の産多し。大和街道中央を東西に走り、また省線和歌山線東西に通じ打田驛(明治三十三年設置)あり。古くは那賀郡那賀郷の内とす。中世は田中庄といふ。大字打出に山王権現あり、古来一庄の領守たり。大字庄に井戸あり。能馬業に「田中の井戸にひかれる田原橋(云々)」と歌はるるものとす。また大字、久留野に邊土に作り其村人は行基菩薩の弟子達の末なりとして由緒を傳へ、淺野侯の時迄は諸役御免なりといふ。大字西井坂に村社芋ノ宮神社あり。また下井坂に古墳あり。(龍藏院)大字竹房にあり。眞言宗山階派。神降山放光寺と號し、明尊上人の開創に係る。(龍藏院)大字高野にあり。眞言

タナカ

【田上山・大神山】 タナカ山・タノカ山とも云ふ。近江雲峰山境の一峯。大津市の南東方約十四軒に聳つ、標高六〇〇米。山體花崗岩より成る。南西方は矢筈岳に對し、北方に琵琶湖を望み、眺望佳なり。山中の大谷と云ふ所より覽望石・綠柱石・輝水晶・輝玉石等を出す。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

タナカ

【田中】 香取藩津守・井戸信八郎の所領及び徳島寺領等入り交りし地。大字奈良は小机領に属し、正保の頃より石丸石見守の所領たり、のち子孫継いで領せし地。大字津田は徳川氏關東入國の後天正十九年同野平兵衛房恒に賜ひ、子孫継いで領せし地なり。

海唯一のものなり。(興善寺)大字谷川にあり。天台宗。鳳山金剛院。仁壽年間文徳天皇の勅願によりて僧園仁の開く所といふ。本意木造大日如来坐像一軀、水造釋迦如来坐像一軀、同慶師如来坐像二軀の四軀は、何れも藤原木彫の作にして固實。

タナクラ

【棚倉町】 福島縣磐城國東白川郡の時西北部。東部及西部に山地あり久慈川は中央部を南流し、平坦なる耕地を拓く。米、蕎麥、蒔、蕪、馬等を産し、附近農産地の中心地をなす。茨城街道は中央部を南北に通じ、古来關東より奥羽に入る一門戸をなし、街道に沿ひて町並あり。省線水郡線は此の道路と並行して南北に通じ、西方の白河町へは社線白棚線道通じ磐城棚倉驛(大正五年設置)あり。この地は和名抄、白河郡入野郷の内、郡の首邑にして、舊郡役所のありし所。いま警察署、警林署、東白川農藝学校、資料高等女学校あり。(棚倉城)寛永元年丹羽長重の新たに築きしもの。同五年に内部修築、寶永六年に太田資晴、享保十三年に松平武元、延享三年に小笠原長恭、文化十四年に井上正市を経て天保七年松平(松平)康勝来り慶應二年に川越に移る。爾來阿部氏の治下になり。奥羽戦争の起るや官軍攻めてこれを降し城を焼く。明治四年康勝の孫、棚倉藩を廢し棚倉縣を置き、十一年一月これを廢し、平縣に併す。藩校

修造館は明治二年創立にして翌年分校を五箇所を設く。(郡々古別神社) 大字棚倉に鎮座。國幣中社。祭神、都々古和氣神。式内名神大社。應永年中足利義滿社殿を造營。側室、長尾輪太刀二口、例祭九月十一日。(蓮生寺) 龍宗大谷派。寶徳山淨願庵院と號す。親鸞門徒二十四輩中の第八蓮性の遺跡。蓮性は高山重忠の二子なり。

【棚倉村】 京都府山城國和樂郡の西北部。木津川の右岸に沿ひ木津町の北方約五軒。東部は山地をなし東南部に三上山(四七三米)あり。西部は木津川流域の低地開けた木津川は西端に沿ひて北流す。低地は田畑よく拓げ農を主業とし山地は用材・薪炭の産多く畜産もあり、工業亦多し。奈良街道西端を走り、其東に省線奈良線通じて棚倉驛(明治二十九年設置)あり。萬葉集卷一九に「たつが弓手にとりもちて朝野に君はたしめ多奈久良の野に」とある多奈久良は、即ち本村なり。また大字平尾に和佐坐天乃夫支實神社ありより、和佐に即ちアキの神社説するものにて崇神紀に見ゆる我君の地ならんといふ。※我君(和佐坐天乃夫支實神社)郷社。祭神、市杵島比咩命外二神。式内大社。山城國新神社十一座の一。例祭、二月十六日。(磐瀨寺) 大字袴田にあり。新義真言宗智山派。僧行基の開創と傳ふ。正徳元年智願院の高範中興す。本尊製造釋迦如来坐像一軀は白風閣

タナサワ

棚澤村 京都府武藏國北多摩郡の東北部。武藏野臺地の一部を占め殆ど平地をなし、蕎麥・蒔・米を産す。青梅街道は東京市より来りて町の中央を西走し、葉落はこれに沿ひて発達す。西武鐵道はまたこれに沿ひ、中央に田無驛(昭和二年設置)あり。この地は近世多摩郡野方領に屬し、正保の頃代官松木左衛門の治所及び田中市郎右衛門・蛸屋原右衛門・坂本次兵衛等の采邑入り交りし地なりしが、のち皆領となす。明治十六年、明治天皇御能行幸の際、此地に御小休あらせらる。

タナシ

田無町 京都府武藏國北多摩郡の東北部。武藏野臺地の一部を占め殆ど平地をなし、蕎麥・蒔・米を産す。青梅街道は東京市より来りて町の中央を西走し、葉落はこれに沿ひて発達す。西武鐵道はまたこれに沿ひ、中央に田無驛(昭和二年設置)あり。この地は近世多摩郡野方領に屬し、正保の頃代官松木左衛門の治所及び田中市郎右衛門・蛸屋原右衛門・坂本次兵衛等の采邑入り交りし地なりしが、のち皆領となす。明治十六年、明治天皇御能行幸の際、此地に御小休あらせらる。

タナスハラ

種苧原村 新潟縣越後國古志郡の南部。長岡市の東南方凡そ十五軒の山村。西部に五百山連峰、南部に北魚沼郡界の山岳重疊し、信濃川小支流の分水界をなす。村は南部に傾斜し、和開川の水脈をなす。村内概ね山林をな

タナノ

近世、埼玉郡時西領の内、山根庄海上郡に編せり。江戸時代、私領・幕領・寺領入り交りし地なり。
【棚野】 福島縣磐城郡にありし村。大正十五年棚瀬町と改稱す。
【田名部町】 青森縣陸奥國下北郡の時中部。下北半島の頸部に當り、西端は大湫町に隣り、南は陸奥國の東北部に臨み、北は津輕海峡に面す。西北より東南に長く面積一六五方軒餘に及ぶ。西北部は恐山火山の東斜面にて火山岩、浮石及び火山灰に被はれ森林をなし、東南部は上北郡の北部に續く臺地の西斜面にして第三紀層より成り林野廣く、中部は田名部川流域の沖積地にて耕地拓く。下北半島のうち農産最も多き所にて米、馬鈴薯・大豆・蔬菜類を出し、林産にヒバ・桐等の用材及び薪炭、水産に柔魚・鱈等少からず。縣道四通し南は野邊地、西は大湫町・川内町を経て脇野澤に、北は大畑より大間佐井に、東は尻屋崎方面に至るべく、大部分はバスの便あり、また省線大湫線は田名部驛(大正十年設置)を設け、下北半島に於ける交通上の樞要をなす。町名の起原は不詳なるも古昔に田名部・田南部に作る。建武年間八戸藩の目代赤尾氏の居館を置きし處、のち九州菊池氏の旗本興へしに據る。江戸時代に入り南部氏は宣文の末年代官所を置き明治に至る。明治二年會津藩主松平容保の子啓大ここに封ぜられ三萬石を食み、地

を牛馬と改めしが間もなく廢藩置縣となり、田名部の舊號に復す。明治三十一年町制を布く。舊郡役所のありし處、いま警察署・警林署等あり。(田名部神社) 大字田名部に鎮座。郷社。祭神、味耜高彥根神。社記に古來南部郡家祭の社にして社領百石を有せしといふ。例祭、七月二十日。(常念寺) もと三戸郡前村桶引にありしを慶長三年本町の地に移さる。開基は良翁龜山和尚。今の堂宇は元禄年中四代良法上人の再建。本尊阿彌陀如来像は應永時代の作にて固實。(宇智山(恐山)地蔵堂) 寺號は開通寺。恐山宇智利洞寺にあり。貞觀元年慈覺大師巡遊して自作の地蔵尊を安置せしに創まり、享保三年田名部町曹洞宗開通寺の開基。宏智覺和尚再建せり。境内に温泉・噴氣孔數多あり。古來地獄・極樂の實現なりと傳へ、血の池・銀の山・畜生道・極樂嶺・八大地獄・三途川等の名を附し、謂はゆる南部の恐山とよばれし霊場。

タナヘ

田邊町 京都府山城國和樂郡の西部。木津川の左岸に位し久世郡宇治町の西南約六軒、西南端に甘南備山(二〇二米)聳え東北部は木津川流域の低地端開けた東北端を木津川西流し西北約一〇軒にて流川に合す。農業を主生業とし米を主として蕎麥も産し、工業頗多し。山地は薪炭を出す。西北方の八幡町方面より東南方の木津町・奈良市方面へ走る街道が西部山

の傑作にして固實。

タナリコ

棚底村 熊本縣肥後國天草郡天草上島の南部。南は八代海に面す中央に南方より突入する深き洞入りあり。東西に分た兩者山岳重疊し西北端に倉ヶ岳(六八二米)其西南に矢筈岳等聳立して東南方へ傾き海岸に僅かに低地をつくり東端には約四〇〇米程度の山地ありて海岸に迫りて岩石海岸をなし西南海上に平瀬島浮びて其西半は宮田村に屬す。灣北部には無數の小島、岩石浮び風景よし。農業を主業とし農業・漁一の割合なり。村邊海岸を走り葉落多ク之に沿ふ。バスの便よく西方橋本村へは汽船通す。天保年中鬼塚重兵衛庄屋として村政を掌りしより其子孫繼續して明治維新に至る。古來年貢の納入方法に絶對支米に限り、若し早穀及び風水害の爲に良米を得ること能はざる時は郡外より購入せり。
【田邊町】 和歌山縣紀伊國西水郡の西部。會津河口に跨り南は田邊灣に臨む。西部は山地をなし一丘南方へ突出して大鼻となる。東部にも丘陵連なり其海濱を御子嶺と言ふ。中央には低地ありて、ここに田邊町市街をつくり會津川中央を南に貫流して田邊灣に注ぐ。海岸は明顯なる扇ヶ濱海水浴場を中心として左右に擴がり頗る奇勝に富む。産物中水産物及び畜産位を占む。米・蒔・柑柿の農産物及び畜産・鱈産等あり。熊野街道の通過地に當り外に田邊市街を中心に街道放射狀に四圍町村へ通じ自動車線は南紀第一にして

タナタレ

種足村 埼玉縣武藏國北埼玉郡の南部。時西町の南に隣る。全村平地にて西南部及び東端附近は水田多く、他は畑地をなす。米・蒔を主産し他に蕎麥の産あり。縣道は時西町・葛原町及び西南方、省線高崎線時西驛に通過す。この地は和名抄、埼玉郡葛原郷の内にして

省線紀勢西線走りて紀伊田邊郡(昭和十一年設置)あり。又大阪商船紀州航路寄

般の信奉を受く。(海蔵寺)大字田邊南新にあり。臨濟宗妙心寺派。慈航山天授院。慶長十年淺野幸長の創建にして其の伯父天叔を開山とす。當派別格寺の一。

【田並村】和歌山縣紀伊國西牟婁郡の東南部。串本町の西方約三軒にあり。有田村を挟みて太平洋に面す。全村山地傾斜し北境に峯ノ山(四八二米)・

大分川東流す。全村田畑よく拓げ米・麥の産あり。山地は雑木林多く薪炭を出し竹材所々にあり。東庄内村方面より狭間村へ出づる道路西部より東北部へ通じ之より歌登の村道南方へ走り川の北岸に沿ひて隣村に省線久大線通過して鬼ヶ瀬驛は中央部北岸に、向原驛は東北部北岸にあり。近世は附近諸村と共に野津原郷と稱す。意を治水に用ひ、大龍堰を築造して稻田敷町歩を潤せし工藤三郎(附從五位)は此地の人とす。(白岳神社)大字

タニウチ 谷内村

宮方面より岩佐を経て武儀川の谷を通じてバス通す。府郡の東端。姫路市東北線より東方約三軒にあり間に谷外村を挟む。天川上流を占む。全村二〇〇米—三〇〇米の丘陵・臺地起伏し中央に東北より西南に連る谷ありて樹林状に谷を横げ東北部に源流する天川が中央を西南流す。全村田畑よく拓げ米・麥の産多く丘陵・臺地は草原をなせるところ多く牧牛發達す。薪炭も出す。姫路市より東北方加東郡邊野町・社町方面へ至る街道が天川の谷を走り北部にて之と分れ北方の加西郡北條町へ至るものあり。其他之より東西に派出する村道數多あり。此地は播磨風土記に見ゆる小川里の内なるべし。※小川

タニガシラ 谷頭

宮崎縣北諸郡郡山田村の大字。省線吉都線の谷頭驛(大正二年設置)あり。

タニカワ 谷川

省線福知山線の一驛(明治三十二年設置)にして播磨鐵道の接續點。兵庫縣水上郡久下村にあり。

タニガワ 谷川岳

越後山脈清水山塊の一峯。清水峠(最高點一四四八米)の南西方約七軒。群馬縣利根郡新潟縣南魚沼郡との境界に跨る。標高一九六三米。全山硬質安山岩より成る。北稜は一ノ倉岳(一九七四米)を経て茂倉岳(一九七八米)に連り、西稜はオザカ澤の谷頭を経て高太郎山(一九五四米)に續く。

タナミ 田並村

和歌山縣紀伊國西牟婁郡の東南部。串本町の西方約三軒にあり。有田村を挟みて太平洋に面す。全村山地傾斜し北境に峯ノ山(四八二米)・

タニ谷

【谷村】島根縣石見國邑智郡の東部。南の一部は廣島縣に境す。村内高さ六〇〇米餘の山岳を有し所々傾斜して峻峻な山地をなし中央部に稍々平地ありて部落散在し耕地はその附近に發達す。産物一般に少く山地より木材・薪炭村を産したる牧牛を畜み、米産も少からず。赤名町より大田に至るバスあり。此地古くは和名抄邑智郡都賀郷に屬す。(八幡宮)大字井戸谷に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后外三神。古老の口碑に、文治元年源範頼山城の男山八幡宮を勧請すといふ。例祭十月十八日。

【谷村】

大分縣豊後國大分郡の中部西偏。大分川の南岸に沿ひ大分市の西南方約七軒。南部は丘陵性の山地起伏し北半は稍平坦なる臺地をなし北境に沿ひて

【谷村】

に順へるものと思はる。この川の流域は地溝状に水田分布し、其他富者柿・串柿の産も多し。交通は此地に西國三十三番最後の札所谷汲山尊嚴寺ある爲、南大野町の黒野驛より谷汲鐵道通じ、結城・谷汲の二驛(共に大正十五年設置)を置く。これと平行に各級街道も通じ、この驛より北へは謂はゆる門前町をなす。毎年開帳の節は參詣客を以て賑ふ。本村は和名抄の大野郡栗田郷の地ならん。中世には大洞(今本村の大字)の名見え、また排斐庄深澤保(今本村の大字)等も見ゆ。(花長上神社)大字名譽に鎮座。郷社。祭神、不詳。社傳に祭神には天聖日女命なりといひ古來鼻長明神或は七社大明神と呼び延喜式の大野郡三座の一なりといふ。例祭、九月七日。(花長下神社)大字名譽に鎮座。郷社。祭神不詳。祭神は一説に赤松伊勢尊保美比古佐和能命なりと云ふも詳かならず。例祭、九月七日。(華嚴寺)大字名譽にあり。天台宗。谷汲山と號し俗に谷汲觀音と稱す。延暦十七年豐原僧正の開基に係る。天慶七年末室天皇の勅願所となる。寺寶中毘沙門天の木立像は國寶に列せらる。西國三十三番札所の靈場なり。

【谷汲鐵道】

社線。岐阜縣掛妻郡大野町の社線名古屋鐵道の黒野驛より同谷汲村の谷汲驛に至る一一・一軒。軌間一・〇

タニジュウゴ 谷住郷村

鳥根縣石見國邑智郡の西北部。江川の右岸。東北より西南の方向に併走する高さ五〇〇米餘の山脈ありて江川河岸に急崖をもつて迫る。各々の河岸に面する所に耕地拓げ部落發達す。用材・薪炭材等の林産物多く、また藪を多産す。江川より北は粘の漁獲あり。對岸を走る三江輪川驛へは約四軒あり。

タニスジ 溪筋村

愛媛縣東宇和郡の西北部。宇和海岸八幡濱市の東方約一六軒の山中に存す。西界に大野山(七九七米)・大列山(七九九米)・羽子木峠(六二八米)等々、東界また五〇〇米以上の山脈連る。村心を宇和川の支流稻生川南流し南界にて本流に合す。地勢中央に低下す。人口少き山村にして密度は本郡中最少なり。藪・米・麥の産あり。宇和町・野村町へバス通す。村内に標高あり、高二五米、幅三米。

タニトリト 谷外村

兵庫縣播磨郡飾磨郡の東部。西は姫路市東北部に接す。北・東及び中部に三〇〇米程度の山地傾斜すれど一帯に平地地多く、西境の姫路市との間に市川南流す。田畑よく拓げ、米・麥を産し山地は多く草原をなして牧羊行はれ薪炭の産もあり。姫路市に接するを以て交通は便なり。此地は播磨風土記に見ゆる小川里の内なるべし。※小川(春日野神社)大字臨時に鎮座。郷社。

タニナ——タニヤ

祭神、天兒屋根命外三神。彼の三條小銀治宗近が稻荷の神狐の相繼にて寶銀を打ちたるは此地にして、その銀いま本社に寶物なりといふ。例祭、十月九日。

タニナイ 谷内村

岩手縣陸奥國和賀郡の東部。特異郡花巻町と上閉伊郡遠野町の略中間にあり、東は上閉伊郡に南は江刺郡に隣りす。面積六二方町餘。東端に砥波山(六七〇米)の山地、中部に金成山(五四一米)の北に延びし山地あり、その間を狭き石川北に流れて幅狭長の谷地をなし、西部は西隣中内村の東部に續く平地をなし、西部平地には米・麥その他の農産あり、山地には粟・稗等の外木炭を出し、東部は石川には鼻曲り結を産す。省線釜石線の土津・晴山(北隣十二端村内)及び岩根橋(東隣宮守村内)の三驛に近く、交通不便ならず。本村は古くは福内にも作り大字田淵に慶長五年の頃に南部家の家人、江刺長作居住して、此邊を守護せしといふ。(丹内山神社) 祭神、多福知古神。創建、應永以前といふ。何時の頃よりか谷内概現とて不動尊を本地佛として大聖寺これを奉ず。例祭、八月一日。

タニハ 丹波

〔丹波〕 陸奥國(福島縣、磐城國)の古地名。和名抄に白河郡丹波郷あり、その地名詳かならざるも西白河郡五箇村の邊なるべし。一に矢吹町・信夫村の邊なりといふ。

タニハマ 谷濱村

〔丹波〕 ↓丹波 新瀉縣越後國中頸郡の西北海岸。直江津町の西方約六軒。北は海に臨む。富士火山帯の北端なる妙高山山群の日本海に斷絶する部分を占め、土地一般に高燥、村の略々中央を桑取川貫流し、海に注ぐ。海岸は一般に單調なれど遊歩にして夏季海水浴場となる。海岸の果物は漁業に従事し、谷濱の部落には農産業行はれ、米産の産あり。海濱には省線北陸本線及北陸道を通じ、谷濱驛(明治四十四年設置)あり、もと長濱といひ、此海岸は親不知と共に難所と稱せられ、昔加賀前田侯の通行のときに、村の壯丁五十人出でて海の濱に立寄り、波の寄せるを防ぐを例とし、其壯丁を杖術と稱せり。いま此海岸は海水浴場として夏季避暑す。明治十一年明治天皇北陸東海御遊幸の御、九月二十五日大字長濱(小松長宅)及び大字茶屋ヶ原(青木彌平宅)に御小休遊ばさる。いま共に史蹟に指定さる。

タニヤマ 谷山町

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡の南部。鹿兒島市の南に接し東は鹿兒島灣に臨む。面積九八・七四方軒の大村。金峯山脈西端に連り西南に鳥帽子嶽(五二二米)、其西北に熊ヶ嶽(五九〇米)等あり。西北端は約二〇〇米程の高度を呈す。東岸線に北部には低地開け、北部に水田川、南部に摩子川等あり。海岸線單調なり。東岸中央北偏に本町の市街地あり。主産業は農業にて海濱地は漁業行はれ市街部は商業發達す。主産物に米、特産物に蜜柑・枇杷・口眞・長太郎焼等あり、又特に錫の産を以て著はる。省線指宿線東部を南走して谷山・五位野(共に昭和五年設置)・平河(昭和九年設置)の三驛あり。和名抄に霧山郡谷上郷とあるも、谷上は谷山の誤にして當町邊を稱せしもの。字波平は橋口氏と稱する錫匠の居せし地とす。其鼻祖を正國といふ。正國は一修天皇の御剣を作りし大和國の人にして當國に來りてこの地に居す。三條小銀治宗近は正國の弟子なり。また御所ヶ原と稱する地あり。土人の傳説に正慶年中後醍醐天皇の皇子世良親王征西將軍に任ぜられ當國に下向ありし際、御所の舊址なりといふ。大正十三年町制を布く。(霧山嶽山) 大字下福元宇崎山にあり。面積四十二萬七千坪、本邦重要嶽山の一。霧山の地質は第三紀層にして凝灰岩中に軟弱無・南谷本編・國分編・元山本編等の諸嶽脈を含む。主産物は酸化錫にして品位百分の五内外とす。昭和十年には錫四一五〇二噸の價額十六萬餘圓を産す。傳ふる所によれば當嶽山は明神元年の發見に係り元祿十四年藩主島津氏により創設せられ速報として明治に至るといふ。本村には外に錫山(普通名河)二箇所あれど、目下どこも重産に値せず。(本城) 一に千ヶ輪城とも號し、往昔谷山郡司谷山氏世々の居城

天穴

〔丹波〕 ↓丹波 鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡の南部。鹿兒島市の南に接し東は鹿兒島灣に臨む。面積九八・七四方軒の大村。金峯山脈西端に連り西南に鳥帽子嶽(五二二米)、其西北に熊ヶ嶽(五九〇米)等あり。西北端は約二〇〇米程の高度を呈す。東岸線に北部には低地開け、北部に水田川、南部に摩子川等あり。海岸線單調なり。東岸中央北偏に本町の市街地あり。主産業は農業にて海濱地は漁業行はれ市街部は商業發達す。主産物に米、特産物に蜜柑・枇杷・口眞・長太郎焼等あり、又特に錫の産を以て著はる。省線指宿線東部を南走して谷山・五位野(共に昭和五年設置)・平河(昭和九年設置)の三驛あり。和名抄に霧山郡谷上郷とあるも、谷上は谷山の誤にして當町邊を稱せしもの。字波平は橋口氏と稱する錫匠の居せし地とす。其鼻祖を正國といふ。正國は一修天皇の御剣を作りし大和國の人にして當國に來りてこの地に居す。三條小銀治宗近は正國の弟子なり。また御所ヶ原と稱する地あり。土人の傳説に正慶年中後醍醐天皇の皇子世良親王征西將軍に任ぜられ當國に下向ありし際、御所の舊址なりといふ。大正十三年町制を布く。(霧山嶽山) 大字下福元宇崎山にあり。面積四十二萬七千坪、本邦重要嶽山の一。霧山の地質は第三紀層にして凝灰岩中に軟弱無・南谷本編・國分編・元山本編等の諸嶽脈を含む。主産物は酸化錫にして品位百分の五内外とす。昭和十年には錫四一五〇二噸の價額十六萬餘圓を産す。傳ふる所によれば當嶽山は明神元年の發見に係り元祿十四年藩主島津氏により創設せられ速報として明治に至るといふ。本村には外に錫山(普通名河)二箇所あれど、目下どこも重産に値せず。(本城) 一に千ヶ輪城とも號し、往昔谷山郡司谷山氏世々の居城たり。應永二十四年に至り伊集院頼久當城に據る。島津久豊親ら軍を率えてこれを落し、其後大永七年島津實久、福庭藩將をして當城を守らしむ。天文八年三月十三日島津實久親將として福庭藩將と鹿兒島藩原に戦ひ大いにこれを破り遂に城を抜く。これに恐れ當邑苦辛城主平田式部宗秀降を乞ひ貴久を城中に迎ふ。貴久城に入り兵を遣して當城を守らしめ、十五日また當邑藩前城を攻む。二十四日城主島津親河忠悟降を乞ひ、開邑服従せり。(海城) 御所原の北端を距ること一〇〇米餘の地にあり。東西約四〇〇米、南北約二〇〇米にして(今は陸田となる) 菊池武光居城の舊址なりといふ。高地にありて御所原との間に大谷あり、後山崩にして南は遙かに海に望み、東西は遠く水田原野を眼下にせる無双の要害地たり。(長太郎嶽) 有山長太郎の創製したるものにして、其窟元は大字上福元水田川下流の海濱にあり。長太郎始め薩摩燒の陶法を學びたるも何新法の結果、一新機軸を出し古機軸致に備かなる獨特の陶器を製出し次第に名譽を博するに至る。製品は花瓶・茶器・賈物等なり。(伊佐智佐神社) 大字和田に鎮座。祭神、伊佐智佐神。外二神。例祭十月九日。〔タニヤマ 霧山(郡) 薩摩國(鹿兒島)〕の古地名。一に谷山・淡山にも作る。福喜式に郡名見え、和名抄は多仁也末と訓じ、谷上(山の誤)・久住の二郷を

タヌシマル 田主丸町

福岡縣筑後國浮羽郡の西北部。筑紫平野東北の平坦部に位置し筑後川南岸に沿ふ。吉井町の西方約五軒。全村平坦なる沖積低地をなし筑後川北流を西流し其南に数條の支流西に流れて最も南に瓦瀬川あり。米の産額多く其他麥・粟・稗を産し又製糖行はる。東方日田町及吉井町より西・南の久留米市へ通ずる縣道南部を東西に走りバスを通じ其南に省線久大本線通じて田主丸驛(昭和三年設置)あり。また筑後川水運も開けて交通至便なり。(法林寺) 大字中町にあり。淨土宗。筑後山稱名院と號し三井郡善導寺本たり。元和元年創建。開山は實証社眞譽崇徳和尚、開基は菊地丹後守にして寺領若干を附して其菩提所となす。

タヌマ 田沼町

栃木縣下野國安蘇郡の中央より南・東端。東は下都賀郡と隣す。北端は足尾山塊一支脈の南端をなし、三〇〇米前後の高きなり。また東端には唐澤山(二九〇米)を中心とする山地連りて、何れも町内に傾斜す。町の中央より南部にかけては平野開け、東の山麓に秋山川、西部に旗川南流す。秋山川流域及び南部には水田ありて他は畑地をなす。農業行はれ麥・米・粟・雑草を主産し、特産物には漆器・木製品(草蓆・下駄)等あり。産物は町の中央に發達して、縣道

タヌシ——タネ

タヌシ 田沼町

はこれより、北は葛生町、南は堀米町を経て佐野町、西は足利市(約一二軒)に通ず。社線東武鐵道佐野線は町の中央を北走し町内南部に吉水驛、中部に田沼驛、北部に多田驛(共に明治二十七年設置)を設く。古くは和名抄安蘇郡麻績郷の内に屬す。大字小見はその遺稱なり。中世秀郷流佐野氏の族此地を領して田沼氏を稱す。佐野系國に戸奈具五郎宗嗣・芝田六郎行綱など見ゆ。蓋し大字戸奈具に居して名を負ひしものならん。江戸時代の勤農家石井包孝(贈正五位)は此地の人にして、いま町内の村社包孝神社に祀らる。(唐澤山神社) 大字栃木に鎮座。別格官幣社。祭神、藤原秀郷。秀郷は朱雀天皇天慶年間平將門を誅したる功臣にして、唐澤山はその子孫の居城の地と傳ふ。例祭、十月二十五日。(稻荷神社) 大字田沼に鎮座。祭神、豊受命・草野姫命外三神。文治年間(當郡佐野城主國田氏の創建と傳ふ。例祭、陰曆二月初午。俗に初午祭と稱し、参拜者は蒸大豆に大根おろしと酒糟を加へ、酢にて煮たる「ムムツカリ」を社前に捧ぐと云ふ。(西林寺) 稻荷堂にあり。曹洞宗。佛國山と號す。建長六年田沼九郎重綱の創建に係り本光寺本たり。(種徳院) 大字戸奈具にあり。曹洞宗。萬年山と號し永享十年の創建、開基は佐野越前守師綱なり。(本光寺) 栃本北山にあり。曹洞宗。大明山と號し文龜二年唐澤城主佐野越前守

タネ 田根村

〔丹波〕 ↓丹波 鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡の南部。鹿兒島市の南に接し東は鹿兒島灣に臨む。面積九八・七四方軒の大村。金峯山脈西端に連り西南に鳥帽子嶽(五二二米)、其西北に熊ヶ嶽(五九〇米)等あり。西北端は約二〇〇米程の高度を呈す。東岸線に北部には低地開け、北部に水田川、南部に摩子川等あり。海岸線單調なり。東岸中央北偏に本町の市街地あり。主産業は農業にて海濱地は漁業行はれ市街部は商業發達す。主産物に米、特産物に蜜柑・枇杷・口眞・長太郎焼等あり、又特に錫の産を以て著はる。省線指宿線東部を南走して谷山・五位野(共に昭和五年設置)・平河(昭和九年設置)の三驛あり。和名抄に霧山郡谷上郷とあるも、谷上は谷山の誤にして當町邊を稱せしもの。字波平は橋口氏と稱する錫匠の居せし地とす。其鼻祖を正國といふ。正國は一修天皇の御剣を作りし大和國の人にして當國に來りてこの地に居す。三條小銀治宗近は正國の弟子なり。また御所ヶ原と稱する地あり。土人の傳説に正慶年中後醍醐天皇の皇子世良親王征西將軍に任ぜられ當國に下向ありし際、御所の舊址なりといふ。大正十三年町制を布く。(霧山嶽山) 大字下福元宇崎山にあり。面積四十二萬七千坪、本邦重要嶽山の一。霧山の地質は第三紀層にして凝灰岩中に軟弱無・南谷本編・國分編・元山本編等の諸嶽脈を含む。主産物は酸化錫にして品位百分の五内外とす。昭和十年には錫四一五〇二噸の價額十六萬餘圓を産す。傳ふる所によれば當嶽山は明神元年の發見に係り元祿十四年藩主島津氏により創設せられ速報として明治に至るといふ。本村には外に錫山(普通名河)二箇所あれど、目下どこも重産に値せず。(本城) 一に千ヶ輪城とも號し、往昔谷山郡司谷山氏世々の居城

タネ 田根村

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡の南部。鹿兒島市の南に接し東は鹿兒島灣に臨む。面積九八・七四方軒の大村。金峯山脈西端に連り西南に鳥帽子嶽(五二二米)、其西北に熊ヶ嶽(五九〇米)等あり。西北端は約二〇〇米程の高度を呈す。東岸線に北部には低地開け、北部に水田川、南部に摩子川等あり。海岸線單調なり。東岸中央北偏に本町の市街地あり。主産業は農業にて海濱地は漁業行はれ市街部は商業發達す。主産物に米、特産物に蜜柑・枇杷・口眞・長太郎焼等あり、又特に錫の産を以て著はる。省線指宿線東部を南走して谷山・五位野(共に昭和五年設置)・平河(昭和九年設置)の三驛あり。和名抄に霧山郡谷上郷とあるも、谷上は谷山の誤にして當町邊を稱せしもの。字波平は橋口氏と稱する錫匠の居せし地とす。其鼻祖を正國といふ。正國は一修天皇の御剣を作りし大和國の人にして當國に來りてこの地に居す。三條小銀治宗近は正國の弟子なり。また御所ヶ原と稱する地あり。土人の傳説に正慶年中後醍醐天皇の皇子世良親王征西將軍に任ぜられ當國に下向ありし際、御所の舊址なりといふ。大正十三年町制を布く。(霧山嶽山) 大字下福元宇崎山にあり。面積四十二萬七千坪、本邦重要嶽山の一。霧山の地質は第三紀層にして凝灰岩中に軟弱無・南谷本編・國分編・元山本編等の諸嶽脈を含む。主産物は酸化錫にして品位百分の五内外とす。昭和十年には錫四一五〇二噸の價額十六萬餘圓を産す。傳ふる所によれば當嶽山は明神元年の發見に係り元祿十四年藩主島津氏により創設せられ速報として明治に至るといふ。本村には外に錫山(普通名河)二箇所あれど、目下どこも重産に値せず。(本城) 一に千ヶ輪城とも號し、往昔谷山郡司谷山氏世々の居城

タネ 多根村

高皇產靈尊・物部守屋。式内社。舊稱、萩野明神・波長明神。例祭、四月三日。(藥師堂) 大字木尾にあり。新義眞言宗豊山派。開寶、本尊木造藥師如來坐像一軀(藤原期の作)。(藥師堂) 大字瓜生にあり。眞宗大谷派。開寶本尊木造藥師如來坐像一軀(藤原期の作)。

タネ 多福園

筑紫の南方海上の古國名。書紀天武紀十年八月に多福島に遊せる使人等多福園を貢すとあり、また續紀和銅二年六月に薩摩・多福園司云々と見ゆ。而して類聚三代格天長元年九月多福島は海中にありて人兵乏弱なるを以て宜しく島を移めて大隅國に歸すべく、その四郡(熊嶽・取波・登教・熊毛)を

面積の概形に切り取る。地上に並べ、天日により乾燥せしめ貯蔵して燃料とする。一種の臭気を發するが故に各戸に置れば臭氣と共に煙霧々と立ちこむるは一種獨特の情景なり。從來より之を糞手町其他に風呂用として多量に供給し多大の利益を収めつゝあり。其類二重岡以上に及ぶ。近時東京へも移出せらるゝといふ。交通は便ならず、鐵道は四方社鐵道鐵道都合縣に至るを便とす。この地は和名抄、平鹿郡山田郷の内にして、戊辰役には激戦のありし地。大字八柏には小野寺氏の居八柏大和守の城址あり。村名は田村、根田谷地・櫻森の舊三箇村合併の際各一字づつを取り田根森村と名づく。

タネヤマ 種山村 熊本縣肥後國八代郡の西北部。宮原町の東に隣る。四周山地を繞らし全村山岳重疊し西南境は約七〇〇餘米の高さを呈し西境は約五五〇米の高さを有し東南境は約五〇〇米、北境は約三〇〇米程度の高さなり。水川は中部を西北流する支流を合せて北部を西流す。流域低地乏し。山林廣く薪炭・用材を産す。川に沿ひて村道通じ附近町村を連絡すれど交通不便なり。本村は大正十二年南嶺山・北嶺山・小浦の三村を合して建てしもの。地は古く和名抄、八代郡肥後郷内に屬せしもの、如し。大字南に郷址あり。相良氏領郡の時、家臣某これを守りち小川城主松浦清隆守久次に屬せしめらる。豊臣秀吉西征の時、久

次襲きて東軍に降りしを以て、當城は薩將新納忠元に攻略せらる。「若宮神社」郷社。祭神、健甕能命・兼御子神。當村の産土神として古來崇敬の社なり。例祭九月十九日。

タノ 田野

【田野村】 熊本縣下野國芳賀郡の南部。前岡町の東方約六軒にて、間に山前村を挟む。八溝山脈の西斜面の一部を占め、東境は約二〇〇米、南境には富谷山(三六五米)あり。西境も約一五〇米の山地にて三方より村内に傾斜し、北部は稍平地をなして小貝川西南に流る。田地・畑地あり。米・麥・蕎麥を産す。鐵道は西部を縱走して北は益子町、南は岩瀬町に通じ、又これと交叉するものは西走して前岡町に通じバスの便あり。村名は古く郷名に呼ばれたり。若島系岡に郷家の女姓は神山山下守御所と稱す。神山氏は大字上山に居して名を負ひしもの。(八幡神社) 大字長堤に鎮座。郷社。祭神、磐田。例祭、陰曆八月十五日。

【田野村】 山梨縣甲斐國東八代郡の東部。北都留郡と東山梨郡に接せられたる幾地。西南方椋子鐵道を隔て、本郡に界す。東北境は大菩薩嶺の山股走り、西方に天目山あり、四周山に圍まれたる山岳地帯にして山林多し。聚落は西南境を流る、日川の上流に沿ひてあり、芝薺・林業に従事す。省線中央本線初野新驛(約三軒、

山道を通す。甲斐國志によれば此地は往時深澤郷と稱せし地にして、又よびの里といへり。村内に田野鐵泉、及び武田勝頼終焉の地たる景徳院あり。(田野鐵泉) 泉質硫酸質。四方に山林を繞らせし山郷の遺蹟にして、附近に武田氏に關する史蹟多し。(景徳院) 曹洞宗。天正十年武田勝頼、妻子臣族奴等と共に敗戦自盡し、のち家康その地に創建す。殉死者等の墓今も在存す。

【田野村】 愛媛縣伊豫國周桑郡の中部。從濱沿岸の海岸平野西南に位し、西條町の西南約一三・五軒にあり。北は丹原町、南は中川村、西北は庄内村、東南は石根村に界す。面積一四・八平方軒。全村概ね平地にて、西北隅に丘陵性山地傾り、末端に愛ノ山(一九九米)分藤丘陵あり、北麓に湖地存す。水田・桑畑多し。米・蕎麥を産す。丹原町へ通ずる鐵道中央を南北に貫きバスの便あり。古くは和名抄周敷郡田野郷の地とす。近世は西條藩に屬す。(後延神社) 大字田野上方に鎮座。郷社。祭神、陽成天皇元慶二年從五位下を授けられし三代實録に見ゆ。例祭、十月五日。(顯成寺) 臨濟宗東福寺派。風風山と號す。延慶元年源行上人の開創に係り、初め天台宗を奉す。文中元年伊豫松葉城主西園寺公俊、之を禪宗に改め護國新願の道場となし、京都東福寺古心和尚を請じて開山となす。(本願寺)

大字長野にあり。臨濟宗東福寺派。常徳山と號し、天慶五年河野景敏守好方の創建に係り寺領白石を附す。

【田野町】 高知縣土佐國安藝郡の中南部海岸。土佐灣東岸に位し安田町の東に接す。東部・南部には奈半利川河口平野拓け積田多し。西北部は湖藁鐵樹林に蔽はれし山地なり。海岸は概ね平滑なるも奈半利川三角口を形成して灣入す。海岸近くを國道東西に通じバスの便あり。米の二毛作、野菜の早期栽培行はれ、また蠶・鮭・鱒等の主要漁獲地なり。此地古くは和名抄、安藝郡奈半郷の内に屬す。藩政時代は郡府の所在地たり。樺新後田野村と稱せしが、大正九年町制を布く。郡の貴族を藩邸に迫りて事を舉げしも、終に捕はれ元治元年奈半利河原に斬られし清岡道之助(曾根四郎)はこの地の人とす。また同じくこれに加はりし吉本培助(曾根五郎)もこの地の人なり。その時斬られし二十三人の遺骸を福田寺に葬り、いま名付けて之を二十三人の墓といふ。(八幡宮) 大字田野に鎮座。祭神、應神天皇外二神。古来の日神に昔時高田の城主、高田法經の勧誘に係るといふ。例祭、七月二十八日。

【田野浦】 ↓門司市

【田野村】 大分縣豐後國大野郡の東北部。北海部郡日野町との間に同郡南津留村を挟む。幸村山崎丘陵起伏し中央西部に稍低地開く。低地は田畑拓けて米・麥

を産するも耕地面積は乏しく山林廣し。村道通ずるのみにて交通は便ならず。而し隣村野波市村よりは西方の大洞町及東北方白杵町へバスの便あり。古くは附近諸村と共に野津庄と稱せらる。

【田野村】 宮崎縣日向國宮崎郡の西南部。朝ノ塚山の東北斜面を占め、東北境は宮崎市の西南隅と約一・五軒を隔つ。面積一〇二・四四平方軒の大村。西南境に朝ノ塚山(一一一九米)聳立し東北方へ傾斜して山嶽重疊し、東境南部に雙手山(六〇三米)あり。中央東北部よりに臺地狀の平坦地開け東南部に源流する清武川東北方へ貫流す。主産業は農業にて米・切干大根・甘藷・蕎麥・菜種・大豆等を出す。副業として養蠶行はれ山地は木村・板・木炭等を出し権界の特産あり。東北方宮崎市方面と西南方高城町を通過する國道に通ずる街道、中央を東西に横斷し、之と交錯しつゝ省線日豊本線走りて田野驛(大正五地設置)あり。此地舊幕府時代には紙肥藩主伊東氏の領たり。また明治十年の役には其戰場となる。

タノ 多野郡 群馬縣上野國の西南隅。群馬縣十一郡の一。北は北甘樂郡・高崎市・群馬郡、東より南は埼玉縣兒玉郡・秩父郡、西は長野縣南佐久郡と隣す。面積五三二・八八平方軒。關東山地の東斜面を占め、西境附近には御座山(一一二〇米)あり。郡内にもこれに續きて、一、〇〇〇米より一、五〇〇米の山嶽重疊し、次第に東方に低下す。山地一帶森林多し。東北部には平野漸く開けて、東北境を鳥川東流し、又、その支流鶴川は西南より來り、支流枯川を合して北流し鳥川に合流す。また神流川は郡内西部に發源し、東流して中流以下は郡の東境を東北に向ひ、平野に出で、より鳥川を合す。平野は、一部に水田あるも、大部分は桑畑をなす。養蠶盛にて製糸業も行はる。聚落はこの平野に發達す。中山道は郡の東北端を西走し、省線高崎線これに沿ふ。また省線八高線は埼玉縣兒玉郡より來り、東北端を北走して高崎線に合す。その他、社線上信電氣鐵道は高崎市より來りて平野の西部に入り、西折して北甘樂郡に通ず。縣道は平野によく發達し、又、神流川に沿ふものは、郡内を西走して、長野縣に通ず。他は村道あるのみにて、山間に交通便ならず。郡内に藤岡・新鬼石・吉井・萬場の五町および十三ヶ村を含む。本郡は明治二十九年、多胡・綠野・南甘樂の三郡を合して建てしもの。

タノウラ 田浦・田野浦

【田野浦】 廣島縣豊田郡にありし村。昭和十一年外敷町村と合併して三原市を建つ。

【田ノ浦浦戸】 長崎縣南松浦郡五島列島の福江島と久賀島との間の瀬戸。西北より東南に開き、其幅は約二軒。

【田浦村】 熊本縣肥後國奈北郡の西北部

九州山脈西端を占め佐賀町の北に接し八代海に面す。東境に五六七米の笠山聳立して西方へ傾斜し西海岸に斷崖をなして臨み中央に沿岸低地僅かに開く。西岸稍熱帯ありて中央に只時突出し其南に小灣を抱き西南隅に井手鼻突出す。海上には戸ノ島・白神岩等の小島散在す。水産類最も多く林産之に次ぎ農産もあり。鹿見島街道中部を東北より西南に走り、この邊は鹿見島街道の驛所にて三太郎越の名世に高く、北境に其一の赤松太郎峠、西南境に佐敷太郎峠あり。省線鹿兒島線西部を南走し、肥後田ノ浦驛(大正十四年設置)あり。堀河右大臣俊房の嫡孫將軍政麻呂、寶龜年間八代郡司として下向、其子孫建久三年東北七浦を領し代々本村猪野山城に居す。田浦助兵衛は政麻呂十六代の孫に當り加藤家に仕へ田浦の總庄屋となり子孫相繼ぎて明治に至る。村内田浦牧に文政の頃より始まり加藤清正領國時代最も盛なりといふ。此牧の馬は初め數百頭に足らざりしも清正朝鮮出征中に自馬生れ、一頭は名馬となりて豊臣秀吉に獻せられ、ために牧の名大いに著はるといふ。また天子宮は景行天皇御駐蹕の跡、御船のともづなな結び給ひし跡なりといふ。(田浦阿蘇神社) 大字田浦に鎮座。郷社。祭神、健甕能命・比咩神・外九神。寛永十八年災上の際書記を失ひ同二十年再建すと。例祭、十一月一日。

【安庭院】 淨土宗。磨法山孝教寺と號す。

タノオカ 田之岡村

田之岡村 山梨縣甲斐國中五條郡の中部。釜無川の西岸。甲府市の西方約七軒。面積三・一方軒。釜無川と御前川との複合扇狀地にあり、水田・桑園開け、蕎麥の産額多く、次いで米を産す。省線中央本線龍王驛へ約四軒。西隣百田村へ出づれば龍崎町へバスの便あり。「長谷寺」新義真言宗智山派。僧行基の天和長谷寺に建てしもので傳へ、寶龜年間、僧道明再興すと。本堂は國寶。「長盛院」 大字徳永にあり。曹洞宗。金徳山と號し、天文年中の創建、金丸筑前守虎義の開基、護国宗益和尙を開山とす。本尊、地藏菩薩。

タノクチ 田ノ口村

高知縣土佐國幡豆郡の中部。土佐灣に東面し、中村町の東に隣接す。海に面したる東部は四方十川河口平野の北部に接續して平坦なるも、西方に高まり西界に石見寺山(四一〇米)聳ゆ。瀬川川西北部山地に發して東南流し海に注ぐ。中流に於て中村町に達する處と交又する所に大字上田ノ口村あり。大字下田ノ口村は下流に、田ノ口村は海岸に存す。海岸に小出入あり、田ノ口・出口の漁村存す。鰻・鮭・鱒・鮪の漁獲物及び米・野菜等の産あり。この地古くは和名抄、幡豆郡入野郷の内に屬す。大字下田ノ口小学校の東方に古墳あり。土佐古墳の一にして昔は圓墳たりし

タハラ—タフ

多原 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に設楽郡田原郷あり、今詳かならざるも、南設楽郡作手村に大字田原あり、或は多原の遺稱か。

タハラ

多原 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に設楽郡田原郷あり、今詳かならざるも、南設楽郡作手村に大字田原あり、或は多原の遺稱か。

タバル 田原

【田原村】 熊本縣肥後國鹿本郡の南部。熊本市西北境の約九軒北方にあり、東南隅は植木町に接す。約西北より東南に細長く面積九・九三万軒。全村低き丘陵、臺地起伏し西北境にて二六〇米餘の高さを呈し、南部及び東南部は約一〇〇—一五〇米程度なり。全戸数の九割までは農業を營み米を産し、兼置行はれ、また蔬菜・烟草・甘蔗等を産す。西方玉名郡高瀬町方面より植木町へ通ずる道路西南部を西北より東南に走り、東北隅には鹿見島街道南走し、其他村道四通し、又社線熊本鐵道東部を南北に走り、又社線熊本鐵道西南境に接して省線鹿見島本線と四方約二軒に木葉峠あり。此地古くは和名抄山本郡本山郷の内に屬せしもの、如し。村の西南に當る田原坂は高瀬街道木葉峠より植木町に通ずる險坂にして、明治十年西南の役、二月二十七日官軍高瀬を取

り三月一日退んで木葉を抜くや薩軍田原坂の險に退きて據る。茲に於て野津少將の第一旅團は田原坂の南面及び界木の嶺谷より其右翼を、三好少將の第二旅團は二俣口より其左翼を奇襲攻撃す。薩軍形勢に據り死力を竭して防戦すること十七日間、官軍猛襲するも其功を奏する能はず。二十日官軍大風雨を以て猛撃し、一隊は敵の中央を突破して直ちに植木を衝き、敵の貯蔵せる彈藥に火を放つに及び田原坂の敵軍遂に潰ゆ。當時坂腹の草木彈丸のために掃るところとなり殆ど寸草もなかりしと。同十三年記念碑を建て官軍苦戦の狀を記す。

【田原町】 宮崎縣日向國西臼杵郡の西北部。九州山脈北部の東斜面に位し南は高千穂町に接す。東より南へ、西北方へ彎曲せる馬蹄型をなす。面積五四・〇七方軒。東北部は東北境の祖母山(一七五八米)より西南方へ傾斜する山地あり、中部及び南部は山嶽重疊し、南境には五箇瀬川上流峡谷をなして東流す。農業を營むもの五百戸、商業は百戸の割合にして主産物に烟草・蕎麥・牛・馬・米等あるほか竹・椎茸の特産あり。東南方高千穂町より西北方阿蘇郡高森町へ通ずる縣道西南部を東西に走りてパスの便あり。大字田原に玄武城址あり。玄武山の嶺に據り四面壁立して要害の地なり。傳ふる所に據れば三田氏の家臣吉村權右衛門權助の居せし所なりと。天正六年戊寅三月大友

氏に攻められ寛永中までは城壁及び僧庵猶ほ存せしが、縣の領主有馬氏肥前島原ノ役より歸陣の際命じて廢毀せしむといふ。村内には龍宮瀧(高さ二・二米、幅一・二米)・觀音瀧(高さ一・八米、幅一・八米)・鳴瀧(高さ三〇米、幅三米)等の瀧あり。(祖母山神社) 大字三ヶ所に鎮座。神社。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命。古來當村の産土神として村民崇敬の社にして、元龜二年三田井越前守親武之を再興せりといふ。例祭日、九月二十九日。

タヒ

【多肥村】 香川縣讃岐國香川郡の東北部。高松市の南方約五・五軒、讃岐平野の東南部に位置す。面積三・九六平方軒。人口二二一六。全村平地にして、耕地多し。各農・傳馬・下所の聚村發達し農業に従ふ。人口に比し耕地面積小なるを以て農業の副業盛なり。米・麥稈・真田・柑橘類・無花果等を産す。和名抄に香川郡多肥郷あり。村名は蓋しその轉訛ならんも、喜元御領日録に既に多肥に作れば其古きことを知る。(櫻木神社) 大字上多肥に鎮座。神社。祭神、應神天皇・神功皇后・玉依姬命。一説に光孝天皇仁和中中興權權督の創立といふ。例祭九月二十三日。

タヒカ

【田光】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に朝明郡田光郷あり、多比加と訓す。地は今の三重郡朝上村・竹木村・保々村に當るものなるべし。

タヒト 田人村

【田人村】 福島縣磐城國石城郡の南西部。面積八一・五〇方軒。河武原山脈の東斜面に屬し、南に大丸山(七〇三米)・佛具山(六七七米)、西北方に朝日山(七九七米)聳ゆ。地勢北部・西部・南部に高く、河は此等山地を出で、中央部を東流して四時川となり東南に流れ、川に含するもの、及びその北部にこれに並行して東南に流れ、鉾川に含するものあり。鉾川は東境を南流す。木炭の産多く、また蕎麥・蕎麥等を産す。道路は西北より東南に通じ、東南方勿來町に至る。常磐線植田驛へは約八軒あり。いま貝泊村・石住村・荷路夫村と共に組合町村をなし役場を本村に設く。

タヒラ

【田平村】 長崎縣肥前北松浦郡の北部。北部は海に面す。全村山地起伏し、北岸は稍屈曲多く中央に長戸崎突出し、西北部に兵時の突出ありて多くは岩石海岸をなし、西北海上には東西に細長く横島あり。甘蔗・栗・蕎麥を出す。縣道中央を東西に走りて御厨村・南田平村を結ぶも交通概して便ならず。省線伊萬里線東西に走り田平驛(昭和十年設置)あり。田平港は内務省指定港にして内地米等を移出し、煤品を移入す。田平は古く多比良にも作る。中世松浦黨の一基に、居して田平氏を稱す。永享八年の松浦黨一味連署に田平弘の名見ゆ。蓋しこの地の人とす。

タフ

【多布】 豊前國(福岡縣)の古地名。和名抄に上毛郡多布郷あり。蓋し今の榮

MAP

部の南西部。面積八一・五〇方軒。河武原山脈の東斜面に屬し、南に大丸山(七〇三米)・佛具山(六七七米)、西北方に朝日山(七九七米)聳ゆ。地勢北部・西部・南部に高く、河は此等山地を出で、中央部を東流して四時川となり東南に流れ、川に含するもの、及びその北部にこれに並行して東南に流れ、鉾川に含するものあり。鉾川は東境を南流す。木炭の産多く、また蕎麥・蕎麥等を産す。道路は西北より東南に通じ、東南方勿來町に至る。常磐線植田驛へは約八軒あり。いま貝泊村・石住村・荷路夫村と共に組合町村をなし役場を本村に設く。

【田平村】 長崎縣肥前北松浦郡の北部。北部は海に面す。全村山地起伏し、北岸は稍屈曲多く中央に長戸崎突出し、西北部に兵時の突出ありて多くは岩石海岸をなし、西北海上には東西に細長く横島あり。甘蔗・栗・蕎麥を出す。縣道中央を東西に走りて御厨村・南田平村を結ぶも交通概して便ならず。省線伊萬里線東西に走り田平驛(昭和十年設置)あり。田平港は内務省指定港にして内地米等を移出し、煤品を移入す。田平は古く多比良にも作る。中世松浦黨の一基に、居して田平氏を稱す。永享八年の松浦黨一味連署に田平弘の名見ゆ。蓋しこの地の人とす。

タフ

【多布】 豊前國(福岡縣)の古地名。和名抄に上毛郡多布郷あり。蓋し今の榮

上郡唐原村は多布の遺稱にして唐原村・友枝村の邊を稱せしもの。

タフサ

【田總村】 廣島縣備後國甲奴郡の西北部。西は雙三郎三良坂町に、北は比婆郡に界す。東北部は高く高瀬五〇〇米以上の山地よりなり、南境中央部に高山(五五六米)聳ゆ。西南部は平原性の山地より成りて稍々低く、西南境を上下川流れ西北部にて高山北麓を西流する支流を流れて西流す。流域には耕地拓けて農業營まる。米・麥・蕎麥を栽培し、蔬菜・花菜・麥稈苗等の工業あり。山地は林産物を出しまた牧牛を行ふ。西北方庄原より南下し來る縣道は中央部を横断して東南方の上下町に至り、パス走りて交通便利なり。本村は明治四十五年下領家・稲草・木屋の三村を廢しその區域を以て置けるもの。村名はこの邊の古稱たる田總郷に因む。田總郷は和名抄に甲斐郡田總郷と見え、郷域は今の領家村邊にも及ぶ。中世は田總郷に作り大江廣元の次男永井重廣の所領なりしと。村内に永井氏の居城たりし川手山城址あり。(意加美神社) 大字稲草に鎮座。神社。祭神、高麗神・吉備津日子命。式内社。長久三年大江朝臣並に伊賀守之社跡を再拜。その後屋次再建のことあり、いまその棟札存す。例祭、八月十四・十五日。

タフセ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

タフサ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

タフサ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

タフセ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

タフサ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

タフサ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

タフセ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

タフサ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

タフセ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

タフサ

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

MAP

【田布施町】 山口縣周防國熊毛郡の東部。平生町の西に隣り、東北は玖珂郡と

る。一に延喜式に見ゆる田部郡は蓋し此地かといふも果して如何にや。

【田部】下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に「田部郡」とあり、その地は今の香取郡栗原村の邊に當り、大字田部は郷の遺稱なり。

【田部】長門國(山口縣)の地名。和名抄に豊浦郡田部郷あり、多倍と訓ず。地は今の豊東村・岡枝村の邊に當り、豊東村の大字に田部の名を存す。

【田部】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に早良郡田部郷ありて多倍と訓ず。その地は今の福岡市の西城、即ちもとの早良郡原村の邊ならん。

タマ 多配 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に香川郡多配郷ありて多倍と訓ず。その地は今の香川郡多配村に當る。多配は蓋し多配の誤訛なり。然し高元御領日録にも已に多配に作ればその久しきを知る。

タマ 多摩 東京府の西南部に在る川。瀧市ノ瀬川は山梨縣東山梨郡神倉村の甲武國境に屹立する笠取山の南斜面に發し、柳澤峠に發する柳澤川と合して丹波川となり東に流る。東京府との縣境を南流する小淵川の合流點より下流を多摩川と呼ぶ。東京府に入り西多摩郡小河内村の峡谷を過ぎ米川村にて日原川を容れ青梅町にて關東平野に流出す。之より流路を關東山地の山麓に沿ひ東南に趨き、東

秋留村にて五日市町より来る秋川を合せ南多摩郡日野町にて淺川を容れてより多摩川北流を流し、神奈川縣境を流下し川崎市をすぎ大森區羽田町の南端にて東京灣に注ぐ。下流は六郷川といふ。古くは調布玉川・玉川ともいひ、和名抄は多摩に作り太婆と訓じ、萬葉集は多摩に、武藏風土記は多摩に作り、今は専ら多摩を用ふ。源流附近はタガ・モミの混交せる原生林やカラマツの人工林が山腹を埋め、帝都市民の水道のものを供給せる大水源林をなし、市ノ瀬川と柳澤川との合流點に近く、鏡子淵・花魁淵等の勝景あり、丹波川沿岸は所謂奥多摩の絶勝地なり。日原川の上流日原には日原の鍾乳洞あり、附近の谿谷もまた風光に恵まれる。水より下流に沿うて乗合自動車の便あり。この關東山地中の産物は殆ど林産して、木炭と木材はその大部分を占む。青梅町附近より下流には數段の段丘地形發達し、その臺上には街道に沿うて街村式の農家散在し、美濃と、家内工業として織物を産す。なほ吉野村(西多摩郡)の梅林は名高く、また八王子附近の段丘上には桑園よく開け、水田もまた發達す。これより下流は謂ゆる多摩丘陵の北邊を流し、河原漸く廣く、大東京の郊外放牧地或は運動場としてよく利用さる。河川は廣く河原を潤流し、兩側の多摩丘陵より數條の支流を合し丸子に五れば石碓は漸く廣く、登戸(神奈川縣橋本郡箱田村)附

近より下流の砂礫層地帯は果樹園として有利に利用さる。即ち箱田・駒毛を中心とし、下流は六郷附近の三角洲地帯まで梨・木密桃・梅・葡萄・無花果等その産物多し。これ等果樹園の春の花は帝都市民の遊歩を誘ひ、夏は河原の結漁(毎年多數若鮎を放流す)各所のプールの水泳或は河原のゴルフ場等にて行樂の人を集む。其ため交通網もよく發達す。なほ多摩川の中流・下流には古くより知られたる渡津場多く、中には日野・瀧瀬寺・一の宮・關戸・是政・丸子・平間・矢口・六郷・羽田等は有名なり。多摩川を挟みての史蹟また少なからず。下立川の立川原の古戰場、分倍河原の新田、北條の古戰場、箱毛三郎の杉形山城址、矢口の渡・平間の渡等は著名なり。多摩川の砂利は謂はゆる多摩川砂利として帝都の道路また大建築材料として大なる役割を演ず。官私の鐵道は例外なしに砂利掘出用の引込線を有し、採取場には大規模の機械を備ふる。萬葉一四(八)の多摩河に歸す手作さらさらは何ぞこの兒の許多愛しき。(玉川上水)江戸時代の初め永年間に玉川庄右衛門・同清右衛門の手にて鑿成せし上水道。東京府西多摩郡の村にて多摩川の水を取入れ、小金井を過ぎ井頭池より出づる神田上水の南にこれと略並行して流れ、高井戸を過ぎ内藤新宿の大木戸に至りこより木橋又は石橋を以て各町に流水し、明治二十年市の上水道の竣工より

で市民の重要な飲料水たり。今もこの水道の底に鐵管を埋めて渡橋にある市の淨水場に水を引く。

設けられ、明治天皇の聖像を奉安せり。

【多摩川】山梨縣甲斐國北其野郡の東部。瀧川の右岸。南北に細長く、面積五・四八平方軒。北部は山(一一一五米)の南斜面を占め、東南部に多少の平地あり。山裾一帯には桑園多く、平地には水田あり。未・暮・露を主産とし、百日柿の副産あり。他に瓦製造も行はる。瀧川に沿ひて縣道通じ、西隣若神子村より甲府市へハスの便あり。この地は往時逸見筋三庄の一たる多摩庄に屬せし地、町村制實施の際に磯足村と組合町村をなせしが大正五年組合を解き、單立村を組織す。

タマ 多摩 武藏國の古郡名。萬葉集・延喜式兵部省式共に多摩に作るも、和名抄はこれを多摩に作り太婆と註し小川・川口・小淵・小野・新田・小島・海田・石津・箱江・勢多の十郷を説く。蓋しバとマとは通音なり。そのマバと稱するは多摩川の上流を丹波川と稱するに因めるものか。後世、多摩に作る。鎌倉時代の初め既に多摩川を以て郡を多東・多西の二郡とせしが、天正年間徳川氏の關東入國によりて舊に復す。明治十三年五月再び分けて東・西・南・北の四郡とし、甲斐に接するを西多摩とし、多摩川の北を北多摩、南を南多摩とす。東多摩郡は明治二十九年南豊島郡と合して豊多摩郡と稱せしが昭和七年東京市に入る。

【多摩川】東京府武藏國北多摩郡の南

倉街道や大山街道はこの丘陵を横斷して交通上・軍事上に重要な地位を占めし、東海道の繁榮と共に忘却され大都市の發達を見ず。然し横濱・川崎市の背後は勿論、社線小田原急行電鐵の開通後は大東京の住宅地の延長となりし所あり、玉川學園都市はその代表的ものなり。

【多摩川】東京府武藏國南多摩郡の東部。多摩川の南岸にして、北多摩郡府中町と相對す。多摩丘陵の一部を占め、中部より南部にかけては森林多く、北部は多摩川流域の低地にて水田・畑地あり。米・麥・蕎麥を産す。府中町より府道來り、社線京王電車軌道線又これに沿ひ村の北部を掠めて西走し村内に聖蹟櫻ヶ丘驛ほか二驛を置く。此地は和名抄、多摩郡小野郷の内にして、近世多摩郡は日野領に屬せり。江戸時代は桑地・知行所入り交れり。大字關戸は中世武藏府中より鎌倉に至る道中にて頗る要害の地たり。古の小山田關の故地なるべく、此處に關所を設けして非常を警戒せしものなるべし。古へ武藏にありし段關はこの小山田關をいひしものなるべしといふ。關戸は關念に作り、關戸河原といふは此地にある河原にして元弘三年五月十四日、新田義貞・北條泰家と戦ひ大いに之を撃破し、またその他屢々戰場となりしことあり。本村は明治天皇・大正天皇の遊獵のため屢々行幸せられし地にして、昭和五年田中光顯等により此に安社なる多摩聖蹟記念館

【多摩川】武藏國の古郡名。萬葉集・延喜式兵部省式共に多摩に作るも、和名抄はこれを多摩に作り太婆と註し小川・川口・小淵・小野・新田・小島・海田・石津・箱江・勢多の十郷を説く。蓋しバとマとは通音なり。そのマバと稱するは多摩川の上流を丹波川と稱するに因めるものか。後世、多摩に作る。鎌倉時代の初め既に多摩川を以て郡を多東・多西の二郡とせしが、天正年間徳川氏の關東入國によりて舊に復す。明治十三年五月再び分けて東・西・南・北の四郡とし、甲斐に接するを西多摩とし、多摩川の北を北多摩、南を南多摩とす。東多摩郡は明治二十九年南豊島郡と合して豊多摩郡と稱せしが昭和七年東京市に入る。

部。府中町の東隣にて、多摩川の北岸。北は小金井町に隣る。武藏野臺地の一部を占め北流の低地にて水田あり。麥類・米・西瓜・梨・甘藷・蔬菜を産し養蠶行はれて繭の産も多し。甲州街道は調布町より來り村の中央を西走して府中町に通じ、社線京王電車軌道また之に沿ひ、多摩川沿線あり。また社線西武鐵道多摩線は中央本線驛より來り村内に多摩驛地前・北多摩・常久・是政の四驛を置く。この地は近世、多摩郡府中領に屬し、江戸時代初期は葛原・桑地入り交りしが、のちすべて代官の支配地となる。大字人見は往時足利氏と新田義貞の戦ひし入原古戰場の地にて、いま東洋一と稱する東京市の多摩驛地あり。(多摩驛地)東京市役所保健局公園課の管理に屬す。本村及び小金井町に亘る。驛地の設定は大正十年、時の市長後藤新平が帝都の急激なる發展に伴ひ、既設驛地は全く使用し得れらんと大東京の發展の前途を考慮の上新設せしものにして、南北にやや長き矩形城をなし、其の面積九九ヘクタール、既設の五驛地よりも更に大きく青山驛地の三・三倍強なり。開設は大正十二年三月にして驛地は二十二區に分たれ、東南隅に正門が設けられ、門内廣場を中心とし各區に通ずる連絡道路が放射狀に設けられ、庭園的の清楚な地割と享々たる赤松の老樹の疎に樹てゐるなど、眞に公園の

【多摩川】武藏國の古郡名。萬葉集・延喜式兵部省式共に多摩に作るも、和名抄はこれを多摩に作り太婆と註し小川・川口・小淵・小野・新田・小島・海田・石津・箱江・勢多の十郷を説く。蓋しバとマとは通音なり。そのマバと稱するは多摩川の上流を丹波川と稱するに因めるものか。後世、多摩に作る。鎌倉時代の初め既に多摩川を以て郡を多東・多西の二郡とせしが、天正年間徳川氏の關東入國によりて舊に復す。明治十三年五月再び分けて東・西・南・北の四郡とし、甲斐に接するを西多摩とし、多摩川の北を北多摩、南を南多摩とす。東多摩郡は明治二十九年南豊島郡と合して豊多摩郡と稱せしが昭和七年東京市に入る。

タマ

タマ

あり、また生保内村・白岩村と神代村の境界附近は柱状節理をなす安山岩を切り抱返りの峡谷をなす。抱返りとは神代村の抱返りより夏瀬温泉(白岩村)をすぎ生保内村の長内河川に至る峡谷の勝景をいふ。峡中奇岩時々瀑布懸り、急流・深淵あり、兩側の山には松・杉・楓・つじ・楓・櫻・藤等が密生し、四季その趣を異にし、特に秋季の紅葉は絶佳とす。

【玉村】茨城縣下總國結城郡の東部。石下町の北隣、鬼怒川の東岸。面積五・九八平方町。全村平地にて西半は畑地多く東部には水田あり。純農村にて米・大豆・小麦を産す。また最近では養蠶盛となり、蠶業發達して登田御名を産す。縣道は石下町より來りて西部を北走し、社線常陸鐵道これに沿ふも、村内に驛なく、石下町に石下驛を設く。この地古くは和名抄、豊田郡岡田郷の内に屬せしもの、如し。もと原宿の名ありて、民戸路を狭み恰も驛次の如き様を呈せり。

【玉村】岐阜縣美濃郡不破郡の西端。大垣市の西方約二〇町。北は掛妻郡春日村に、東より南にかけては關ヶ原町・今須村に、西は滋賀縣坂田郡春風村に相接す。村は略々二等邊三角形をなし、頂點を過り藤古川北西より南東へと流れ、古生層より成る伊吹地盤は此川に切られて狭隘をなし、西北には岩倉山(三三八米)、南部には城山(三〇七米)あり。冬季はこのギヤップより寒流が濃尾平野に襲來す、

伊吹風これなり。この藤古川の谷に沿うて古東關ヶ原より北國嶺往還が分れ、この地を通過し滋賀縣に入る。粟落はこの往還にのみ沿うて發達し申使より玉宿として宿場たり。産粟はあまり見ざるべきも藤古川の流域には米・蕎麥を産し柿・竹材の産も多し。本村は恐らく和名抄の不破郡高家郷の地ならんも不詳、其後、玉倉部と稱せられ、申使は玉村保と呼ばる。享和日録には美濃國玉村保と見え、古事記の倭建命の伊弉諾能之神を取ます條には「故還下坐之到。玉倉部之清水。只息坐之時、御心稱驚、故號其清水、謂之清水也」とあり、かの日本武尊の靈跡たる龍ヶ井の跡の清泉は古跡に非ずして岩倉山の麓の清泉が眞跡なりと本居宣長も云へり。具原益軒は「諸州めぐり」に近江の名所なりと誤傳せり、榮花物語にも其の村の宿の巻と云へるあり。夫木抄にも玉村近江と記し或は一時近江國に屬せしものならん。いま關ヶ原兵器庫あり。

【玉島】肥前國(佐賀縣)の古地名。古事記・書紀には玉島里と見ゆ。神功皇后三輪御遠征の際の御道跡と傳ふ。地は今の東松浦郡玉島村・鏡村の邊を稱す。松浦佐用姫によりて名高き御市坂山も亦この中にあり。新編古今集、松浦山夕々來れば玉島の里のつぎに立つ婿かな【玉井村】埼玉縣武藏國大里郡の東部。

【玉井】大里郡の東部。大字、及び外新化南里中の九村林(現大字)、善化里東里中の口曹里庄(現大字)を合して玉井庄と稱す。(虎頭山)大字玉井の東方約二町に在り。大正四年、鹿吧町事件の際、江定を主將とし、佐清芳副將となり、地方の士民を統率し、富山に據りて鹿吧町支廳を襲撃したりしも、軍隊の増援によりて利あらずして逃れ、のち捕はる。

【玉名郡】玉名郡。宮城縣陸前國名取郡の東南部。東は太平洋に面し、北は岩沼町、南は阿武隈川を隔てて亶理郡に接す。阿武隈川河口北岸の太平洋に沿ふ平坦地にして、海岸に近くこれに平行して貞山嶺南北に通じ、その西方は廣き沃野をなす。米産最も多、次いで蕎麥・麥等の産あり。道路は村の中央を南北に通ずるもの、及び東西に通ずるものあり。前者は北方岩田町に達し、後者は西方岩沼町に達す。東北本線岩沼驛へは約四・五町あり。

【玉江】山陰本線の一驛(大正十四年設置)。山口縣萩市山田にあり。【タマオ】玉緒村。滋賀縣近江國蒲生郡の中央北部。西北は神崎郡八日市町に隣る。南境に二五〇米程度の小丘陵東西に連る外は地形低平なり。田畑よく拓け米産最も多、藪これに次ぎ、また桑葉・茶・菜種・綠肥用作物等を出し、南部丘陵には林産あり。八日市町へハスの

タマイ

タマカ

伊吹風これなり。この藤古川の谷に沿うて古東關ヶ原より北國嶺往還が分れ、この地を通過し滋賀縣に入る。粟落はこの往還にのみ沿うて發達し申使より玉宿として宿場たり。産粟はあまり見ざるべきも藤古川の流域には米・蕎麥を産し柿・竹材の産も多し。本村は恐らく和名抄の不破郡高家郷の地ならんも不詳、其後、玉倉部と稱せられ、申使は玉村保と呼ばる。享和日録には美濃國玉村保と見え、古事記の倭建命の伊弉諾能之神を取ます條には「故還下坐之到。玉倉部之清水。只息坐之時、御心稱驚、故號其清水、謂之清水也」とあり、かの日本武尊の靈跡たる龍ヶ井の跡の清泉は古跡に非ずして岩倉山の麓の清泉が眞跡なりと本居宣長も云へり。具原益軒は「諸州めぐり」に近江の名所なりと誤傳せり、榮花物語にも其の村の宿の巻と云へるあり。夫木抄にも玉村近江と記し或は一時近江國に屬せしものならん。いま關ヶ原兵器庫あり。

【玉島】肥前國(佐賀縣)の古地名。古事記・書紀には玉島里と見ゆ。神功皇后三輪御遠征の際の御道跡と傳ふ。地は今の東松浦郡玉島村・鏡村の邊を稱す。松浦佐用姫によりて名高き御市坂山も亦この中にあり。新編古今集、松浦山夕々來れば玉島の里のつぎに立つ婿かな【玉井村】埼玉縣武藏國大里郡の東部。

【玉井】大里郡の東部。大字、及び外新化南里中の九村林(現大字)、善化里東里中の口曹里庄(現大字)を合して玉井庄と稱す。(虎頭山)大字玉井の東方約二町に在り。大正四年、鹿吧町事件の際、江定を主將とし、佐清芳副將となり、地方の士民を統率し、富山に據りて鹿吧町支廳を襲撃したりしも、軍隊の増援によりて利あらずして逃れ、のち捕はる。

【玉名郡】玉名郡。宮城縣陸前國名取郡の東南部。東は太平洋に面し、北は岩沼町、南は阿武隈川を隔てて亶理郡に接す。阿武隈川河口北岸の太平洋に沿ふ平坦地にして、海岸に近くこれに平行して貞山嶺南北に通じ、その西方は廣き沃野をなす。米産最も多、次いで蕎麥・麥等の産あり。道路は村の中央を南北に通ずるもの、及び東西に通ずるものあり。前者は北方岩田町に達し、後者は西方岩沼町に達す。東北本線岩沼驛へは約四・五町あり。

【玉江】山陰本線の一驛(大正十四年設置)。山口縣萩市山田にあり。【タマオ】玉緒村。滋賀縣近江國蒲生郡の中央北部。西北は神崎郡八日市町に隣る。南境に二五〇米程度の小丘陵東西に連る外は地形低平なり。田畑よく拓け米産最も多、藪これに次ぎ、また桑葉・茶・菜種・綠肥用作物等を出し、南部丘陵には林産あり。八日市町へハスの

【タマカキ】玉垣村。三重縣伊勢國河島郡の北部。神戸町の東南隣にて南は白

伊吹風これなり。この藤古川の谷に沿うて古東關ヶ原より北國嶺往還が分れ、この地を通過し滋賀縣に入る。粟落はこの往還にのみ沿うて發達し申使より玉宿として宿場たり。産粟はあまり見ざるべきも藤古川の流域には米・蕎麥を産し柿・竹材の産も多し。本村は恐らく和名抄の不破郡高家郷の地ならんも不詳、其後、玉倉部と稱せられ、申使は玉村保と呼ばる。享和日録には美濃國玉村保と見え、古事記の倭建命の伊弉諾能之神を取ます條には「故還下坐之到。玉倉部之清水。只息坐之時、御心稱驚、故號其清水、謂之清水也」とあり、かの日本武尊の靈跡たる龍ヶ井の跡の清泉は古跡に非ずして岩倉山の麓の清泉が眞跡なりと本居宣長も云へり。具原益軒は「諸州めぐり」に近江の名所なりと誤傳せり、榮花物語にも其の村の宿の巻と云へるあり。夫木抄にも玉村近江と記し或は一時近江國に屬せしものならん。いま關ヶ原兵器庫あり。

【玉島】肥前國(佐賀縣)の古地名。古事記・書紀には玉島里と見ゆ。神功皇后三輪御遠征の際の御道跡と傳ふ。地は今の東松浦郡玉島村・鏡村の邊を稱す。松浦佐用姫によりて名高き御市坂山も亦この中にあり。新編古今集、松浦山夕々來れば玉島の里のつぎに立つ婿かな【玉井村】埼玉縣武藏國大里郡の東部。

【玉井】大里郡の東部。大字、及び外新化南里中の九村林(現大字)、善化里東里中の口曹里庄(現大字)を合して玉井庄と稱す。(虎頭山)大字玉井の東方約二町に在り。大正四年、鹿吧町事件の際、江定を主將とし、佐清芳副將となり、地方の士民を統率し、富山に據りて鹿吧町支廳を襲撃したりしも、軍隊の増援によりて利あらずして逃れ、のち捕はる。

【玉名郡】玉名郡。宮城縣陸前國名取郡の東南部。東は太平洋に面し、北は岩沼町、南は阿武隈川を隔てて亶理郡に接す。阿武隈川河口北岸の太平洋に沿ふ平坦地にして、海岸に近くこれに平行して貞山嶺南北に通じ、その西方は廣き沃野をなす。米産最も多、次いで蕎麥・麥等の産あり。道路は村の中央を南北に通ずるもの、及び東西に通ずるものあり。前者は北方岩田町に達し、後者は西方岩沼町に達す。東北本線岩沼驛へは約四・五町あり。

【玉江】山陰本線の一驛(大正十四年設置)。山口縣萩市山田にあり。【タマオ】玉緒村。滋賀縣近江國蒲生郡の中央北部。西北は神崎郡八日市町に隣る。南境に二五〇米程度の小丘陵東西に連る外は地形低平なり。田畑よく拓け米産最も多、藪これに次ぎ、また桑葉・茶・菜種・綠肥用作物等を出し、南部丘陵には林産あり。八日市町へハスの

【タマカキ】玉垣村。三重縣伊勢國河島郡の北部。神戸町の東南隣にて南は白

タマイ

タマカ